

狭山市の教育・生涯学習・スポーツに関する
アンケート調査
結果報告書

令和7年3月

狭 山 市

目次

I	調査の概要.....	1
1	調査の目的.....	1
2	調査対象.....	1
3	調査期間.....	1
4	調査方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の表示方法.....	2
II	調査結果.....	3
1	一般市民.....	3
(1)	回答者属性.....	3
(2)	学校教育について.....	6
(3)	家庭教育・地域教育について.....	13
(4)	生涯学習について.....	34
(5)	スポーツについて.....	59
2	児童生徒.....	98
(1)	回答者属性.....	98
(2)	学校について.....	100
(3)	学校での勉強について.....	126
(4)	学校外での過ごし方について.....	130
(5)	スポーツについて.....	134
(6)	地域での様子について.....	152
(7)	回答者自身について.....	154
(8)	将来について.....	157
3	保護者.....	164
(1)	あなたについて.....	164
(2)	学校とのかかわりについて.....	166
(3)	学校教育について.....	176
(4)	家庭教育・地域教育について.....	227
4	教職員.....	239
(1)	回答者属性.....	239
(2)	学習指導などの状況について.....	244
(3)	学校教育について.....	252
(4)	その他について.....	277
5	関係団体.....	279
(1)	団体の活動について.....	279
(2)	学校教育について.....	286

(3) 家庭教育・地域教育について.....	288
6 スポーツ関係団体.....	294
(1) 地域におけるスポーツ活動について.....	294
(2) 狭山市のスポーツ施策について.....	300
(3) 指導について.....	312
(4) 市内のスポーツ施設について.....	317
(5) 今後の取り組みについて.....	320
Ⅲ 調査対象間の比較.....	331

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第4次狭山市教育振興基本計画」の基礎資料として、教育・生涯学習・スポーツに関する意識や実態、要望等の情報を整理・分析し、課題を明らかにするとともに、計画の方向性等の検討に向けた策定の基礎資料とするため実施しました。

2 調査対象

一般市民：16歳以上の市民

児童生徒：小5・中2（クラス選抜）

保護者：児童生徒の保護者

教職員等：校長、教頭、教員、県費事務等

関係団体・

社会教育団体：社会教育課関係団体、青少年育成地域会議、地域防犯ネットワーク、
スポーツ振興課関係団体、図書館関係団体

※スポーツ関係団体：スポーツ推進委員、スポーツ協会加盟団体、レクリエーション協会加盟団体

3 調査期間

令和6年12月16日～令和7年1月20日

4 調査方法

郵送による配布・回収及びWEBによる回答

5 回収状況

	配布数	有効回答数	有効回答率
一般市民	3,000通	925通	30.8%
児童生徒	768通	540通	70.3%
保護者	768通	393通	51.2%
教職員等	581通	396通	68.2%
関係団体	41通	25通	61.0%
スポーツ関係団体	368通	248通	67.4%

6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100％にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100％を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・回答者数が1桁の場合、回答件数による表記としています。また、クロス集計において回答者数が1桁の場合は、コメントを差し控えています。

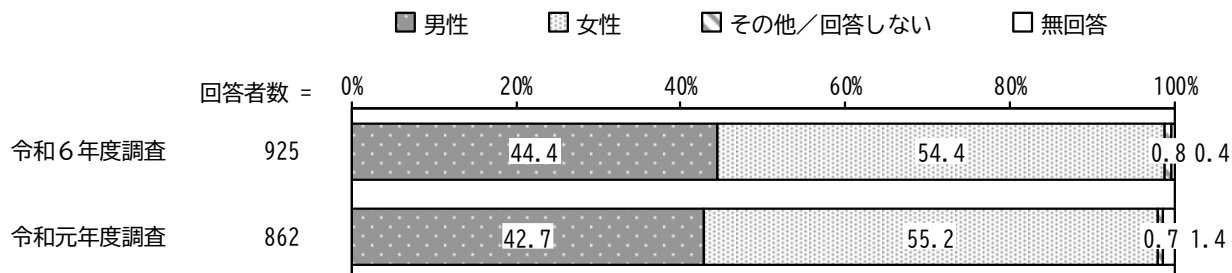
Ⅱ 調査結果

1 一般市民

(1) 回答者属性

問1 あなたの性別を選んでください。

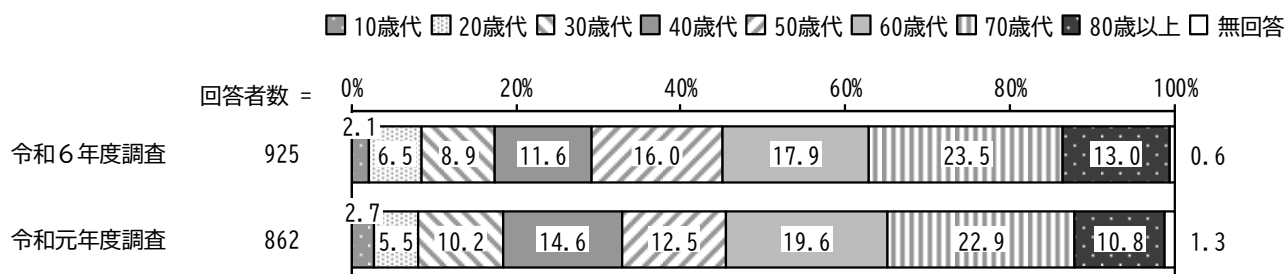
「男性」の割合が44.4%、「女性」の割合が54.4%となっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問2 あなたは何歳ですか。

「70歳代」の割合が23.5%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が17.9%、「50歳代」の割合が16%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

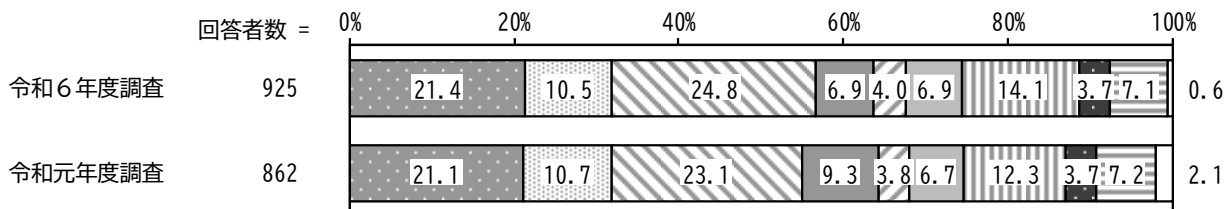


問3 あなたが住んでいる地区はどこですか。

「入曽地区（北入曽、南入曽、水野）」の割合が24.8%と最も高く、次いで「入間川地区（1）（沢、狭山、入間川、入間川1～4丁目、鶴ノ木、稲荷山1・2丁目）」の割合が21.4%、「水富地区（上広瀬、広瀬台1～4丁目、下広瀬、広瀬1～3丁目、広瀬東1～4丁目、つつじ野、根岸、根岸1・2丁目、笹井、笹井1～3丁目）」の割合が14.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

- 入間川地区（1）（沢、狭山、入間川、入間川1～4丁目、鶴ノ木、稲荷山1・2丁目）
- ▨ 入間川地区（2）（祇園、中央1～4丁目、富士見1・2丁目）
- ▩ 入曽地区（北入曽、南入曽、水野）
- 堀兼地区（堀兼、上赤坂、中新田、青柳、加佐志、東三ツ木）
- ▨ 奥富地区（上奥富、下奥富、柏原新田）
- 柏原地区（柏原）
- ▨ 水富地区（上広瀬、広瀬台1～4丁目、下広瀬、広瀬1～3丁目、広瀬東1～4丁目、つつじ野、根岸、根岸1・2丁目、笹井、笹井1～3丁目）
- 新狭山地区（新狭山1～3丁目）
- ▨ 狭山台地区（狭山台1～4丁目）
- 無回答

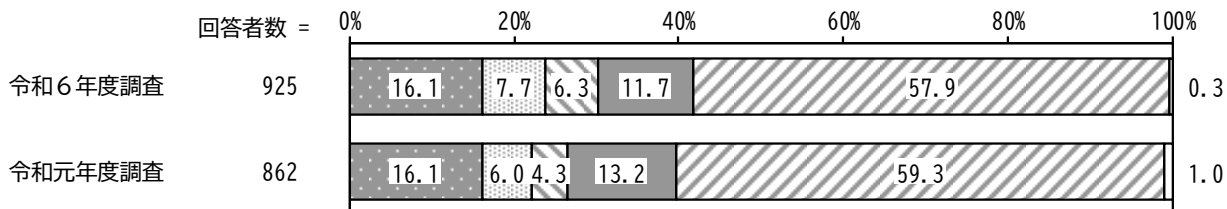


問4 あなたは狭山市に何年住んでいますか。

「20年以上住んでいる」の割合が57.9%と最も高く、次いで「生まれてからずっと住んでいる」の割合が16.1%、「10～19年住んでいる」の割合が11.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

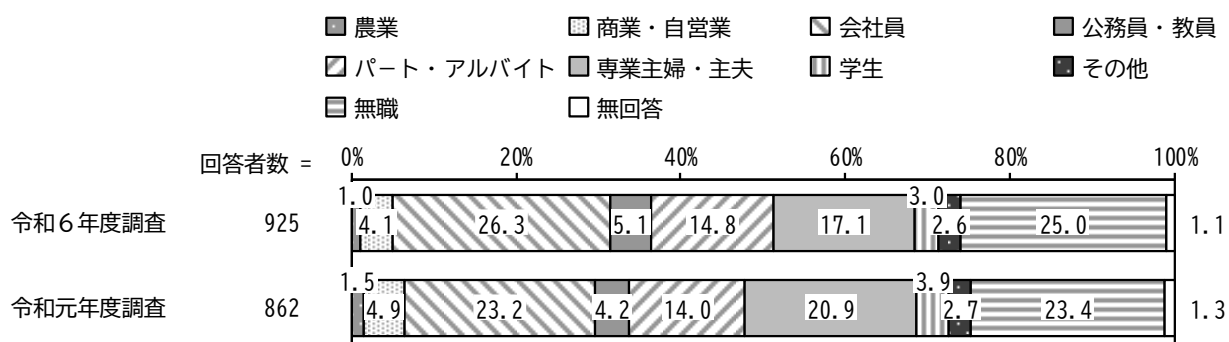
- 生まれてからずっと住んでいる
- ▨ 5年に満たない
- ▩ 5～9年住んでいる
- 10～19年住んでいる
- ▨ 20年以上住んでいる
- 無回答



問5 あなたの職業は次のうちどれですか。(主なもののひとつに○)

「会社員」の割合が26.3%と最も高く、次いで「無職」の割合が25.0%、「専業主婦・主夫」の割合が17.1%となっています。

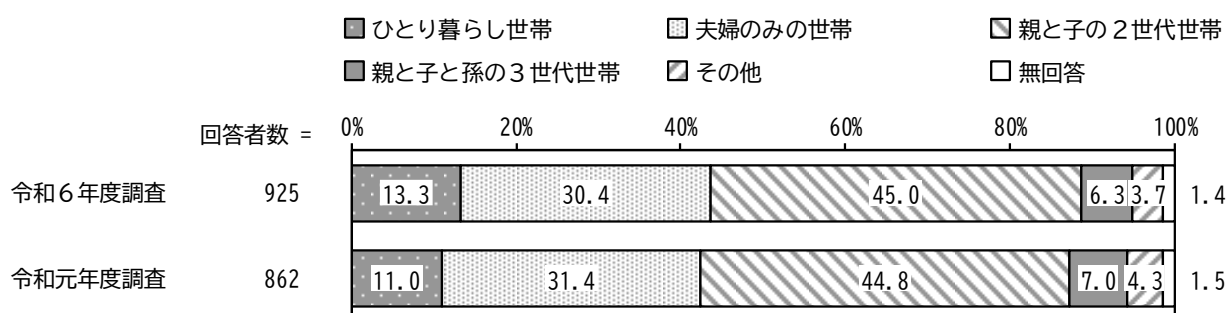
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問6 あなたの家族構成はどのようになっていますか。

「親と子の2世代世帯」の割合が45.0%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」の割合が30.4%、「ひとり暮らし世帯」の割合が13.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

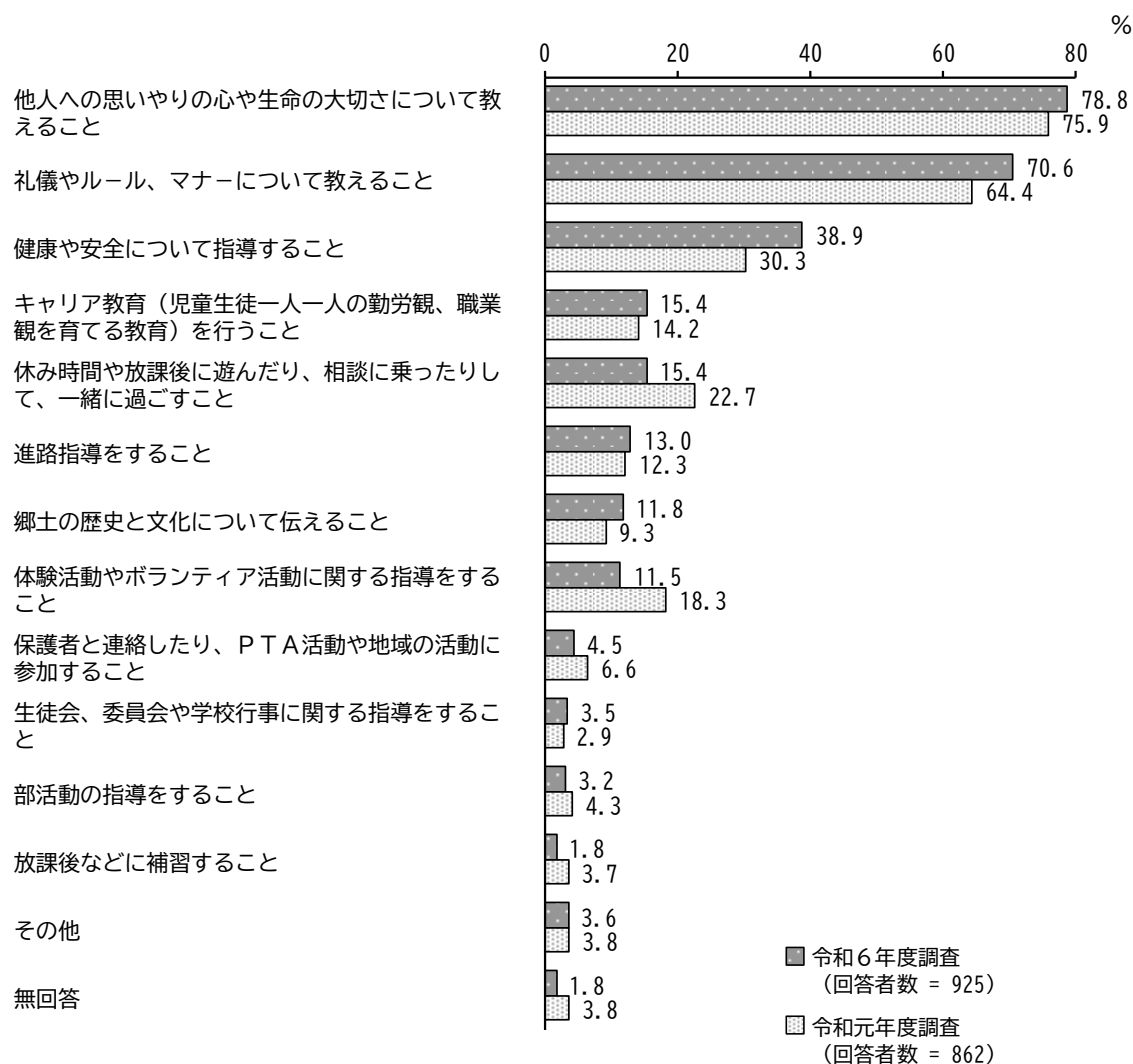


(2) 学校教育について

問7 学校の先生に、教科の授業以外で特に期待することは何ですか。 (主なものを3つまで○)

「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の割合が78.8%と最も高く、次いで「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が70.6%、「健康や安全について指導すること」の割合が38.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「礼儀やルール、マナーについて教えること」「健康や安全について指導すること」の割合が増加しています。一方、「休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと」「体験活動やボランティア活動に関する指導をすること」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、「礼儀やルール、マナーについて教えること」について20歳代で高く、「進路指導をすること」について10歳代で高く、「部活動の指導をすること」について40歳代で高く、「生徒会、委員会や学校行事に関する指導をすること」について30歳代で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	礼儀やルール、マナーについて教えること	他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること	健康や安全について指導すること	キャリア教育(児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育)を行うこと	進路指導をすること	休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと	放課後などに補習すること	部活動の指導をすること	生徒会、委員会や学校行事に関する指導をすること	体験活動やボランティア活動に関する指導をすること	保護者と連絡したり、PTA活動や地域の活動に参加すること	郷土の歴史と文化について伝えること	その他	無回答
全 体	925	70.6	78.8	38.9	15.4	13.0	15.4	1.8	3.2	3.5	11.5	4.5	11.8	3.6	1.8
10歳代	19	78.9	68.4	26.3	15.8	31.6	21.1	5.3	5.3	—	—	10.5	—	—	—
20歳代	60	81.7	70.0	50.0	21.7	13.3	23.3	—	3.3	3.3	—	1.7	10.0	3.3	—
30歳代	82	65.9	79.3	40.2	25.6	19.5	14.6	2.4	2.4	8.5	2.4	6.1	8.5	1.2	2.4
40歳代	107	71.0	73.8	33.6	26.2	21.5	22.4	3.7	5.6	1.9	6.5	4.7	7.5	5.6	—
50歳代	148	68.9	79.1	29.7	14.9	15.5	19.6	3.4	4.7	4.1	7.4	7.4	12.8	4.7	—
60歳代	166	65.7	77.1	38.0	16.9	13.9	9.6	0.6	3.0	1.8	15.1	3.6	10.8	5.4	1.8
70歳代	217	75.1	86.6	43.8	8.3	4.6	13.8	1.4	1.8	2.3	19.8	4.1	12.9	2.3	1.4
80歳以上	120	68.3	78.3	44.2	7.5	9.2	10.0	0.8	2.5	5.8	15.0	2.5	18.3	2.5	5.0

【家族構成別】

家族構成別にみると、「キャリア教育(児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育)を行うこと」について親と子と孫の3世代世帯で低く、「郷土の歴史と文化について伝えること」についてひとり暮らし世帯で高くなっています。

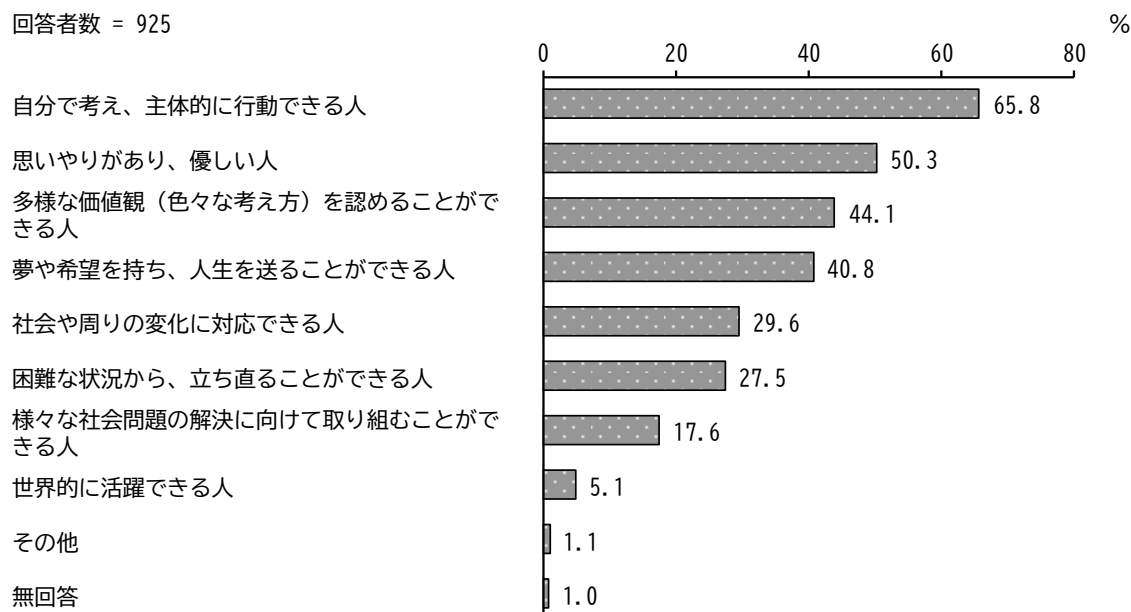
単位：％

区分	回答者数(件)	礼儀やルール、マナーについて教えること	他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること	健康や安全について指導すること	キャリア教育(児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育)を行うこと	進路指導をすること	休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと	放課後などに補習すること	部活動の指導をすること	生徒会、委員会や学校行事に関する指導をすること	体験活動やボランティア活動に関する指導をすること	保護者と連絡したり、PTA活動や地域の活動に参加すること	郷土の歴史と文化について伝えること	その他	無回答
全 体	925	70.6	78.8	38.9	15.4	13.0	15.4	1.8	3.2	3.5	11.5	4.5	11.8	3.6	1.8
ひとり暮らし世帯	123	74.8	74.8	39.8	14.6	12.2	8.9	—	1.6	4.1	12.2	3.3	19.5	1.6	3.3
夫婦のみの世帯	281	69.4	81.1	41.3	13.2	9.6	13.5	2.5	1.8	2.8	16.0	3.6	12.5	4.3	1.8
親と子の2世代世帯	416	69.0	77.9	38.0	18.5	15.6	18.8	2.2	4.8	3.4	9.1	4.3	8.9	3.8	1.0
親と子と孫の3世代世帯	58	79.3	84.5	32.8	6.9	17.2	13.8	1.7	1.7	3.4	8.6	6.9	13.8	1.7	1.7
その他	34	82.4	85.3	41.2	11.8	5.9	14.7	—	5.9	5.9	5.9	8.8	14.7	2.9	—

問8 10年後の狭山市を考えたとき、子どもたちにどのような大人になってほしいですか。
(主なもの3つまで○)

「自分で考え、主体的に行動できる人」の割合が65.8%と最も高く、次いで「思いやりがあり、優しい人」の割合が50.3%、「多様な価値観（色々な考え方）を認めることができる人」の割合が44.1%となっています。

回答者数 = 925



【年齢別】

年齢別にみると、「社会や周りの変化に対応できる人」について80歳以上で高く、「世界的に活躍できる人」について10歳代で高く、「様々な社会問題の解決に向けて取り組むことができる人」について20歳代で高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	夢や希望を持ち、人生を送ることができる人	自分で考え、主体的に行動できる人	社会や周りの変化に対応できる人	多様な価値観（色々な考え方）を認めることができる人	思いやりがあり、優しい人	困難な状況から、立ち直ることができる人	世界的に活躍できる人	様々な社会問題の解決に向けて取り組むことができる人	その他	無回答
全 体	925	40.8	65.8	29.6	44.1	50.3	27.5	5.1	17.6	1.1	1.0
10歳代	19	31.6	63.2	26.3	57.9	47.4	15.8	21.1	15.8	—	—
20歳代	60	40.0	51.7	28.3	51.7	58.3	30.0	5.0	25.0	1.7	—
30歳代	82	42.7	64.6	34.1	40.2	56.1	24.4	6.1	15.9	2.4	—
40歳代	107	41.1	72.9	29.0	44.9	51.4	29.0	5.6	19.6	1.9	—
50歳代	148	45.9	56.8	29.7	33.8	52.0	31.1	4.7	16.2	1.4	—
60歳代	166	41.0	69.9	27.7	48.8	46.4	25.9	3.6	16.9	0.6	1.2
70歳代	217	36.9	76.5	25.8	52.1	48.4	24.4	3.7	18.4	0.5	0.5
80歳以上	120	41.7	55.8	38.3	33.3	49.2	32.5	6.7	15.8	0.8	2.5

【家族構成別】

家族構成別にみると、「困難な状況から、立ち直ることができる人」について親と子と孫の3世代世帯で高く、「様々な社会問題の解決に向けて取り組むことができる人」についてひとり暮らし世帯で高くなっています。

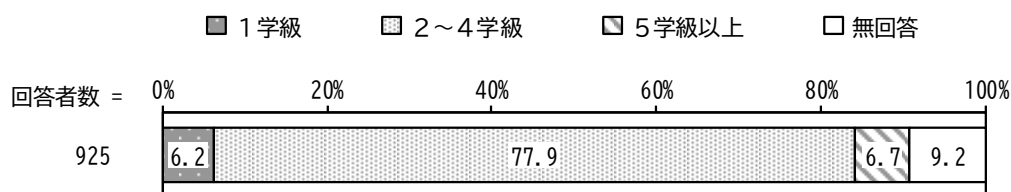
単位：％

区分	回答者数 (件)	夢や希望を持ち、 人生を送ることが できる人	自分で考え、主 体的に行動 できる人	社会や周りの変 化に対応で きる人	多様な価値観 (色々な考え方) を認めること ができる人	思いやりがあり、 優しい人	困難な状況から、 立ち直ること ができる人	世界的に活躍 できる人	様々な社会問 題の解決に向 けて取り組む ことができる人	その他	無回答
全 体	925	40.8	65.8	29.6	44.1	50.3	27.5	5.1	17.6	1.1	1.0
ひとり暮らし世帯	123	36.6	62.6	24.4	43.9	48.8	27.6	4.1	22.8	—	0.8
夫婦のみの世帯	281	39.9	70.1	33.5	44.5	47.0	27.4	2.8	16.7	1.8	1.1
親と子の2世代世帯	416	41.6	64.4	29.6	44.2	53.1	26.4	7.0	17.5	1.0	0.2
親と子と孫の3世代世帯	58	44.8	72.4	22.4	37.9	46.6	37.9	5.2	15.5	—	1.7
その他	34	47.1	58.8	41.2	50.0	55.9	26.5	2.9	14.7	—	—

問9 狭山市では子どもたちのより良い教育環境を目指して、適正な学校規模を小学校は1学年あたり2～4学級の12学級から24学級、中学校は1学年あたり4～6学級の12学級から18学級としています。学校の再編などを行う場合、学級数や定員数はどのくらいが適当だと思いますか。その理由もお答えください。

ア) 小学校1学年あたりの学級数

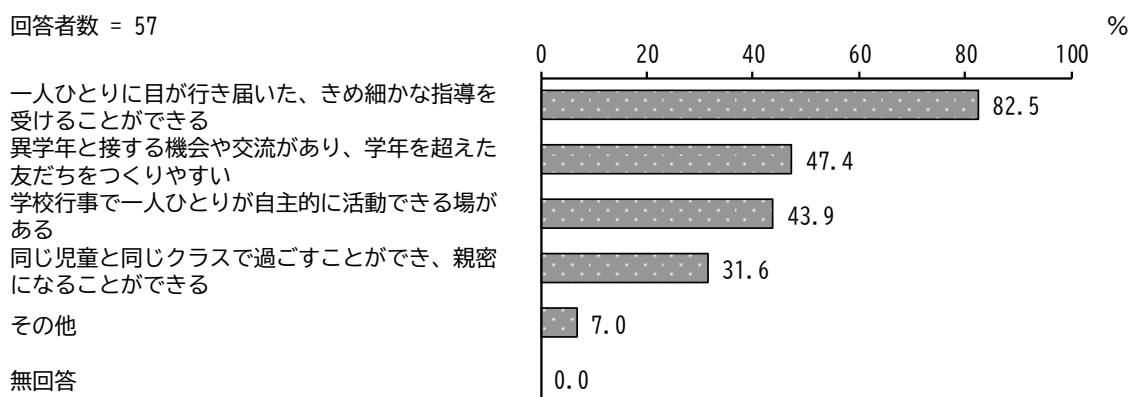
「1学級」の割合が6.2%、「2～4学級」の割合が77.9%、「5学級以上」の割合が6.7%となっています。



ア－１）小学校で１学級が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細かな指導を受けることができる」の割合が８２．５％と最も高く、次いで「異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友だちをつくりやすい」の割合が４７．４％、「学校行事で一人ひとりが自主的に活動できる場がある」の割合が４３．９％となっています。

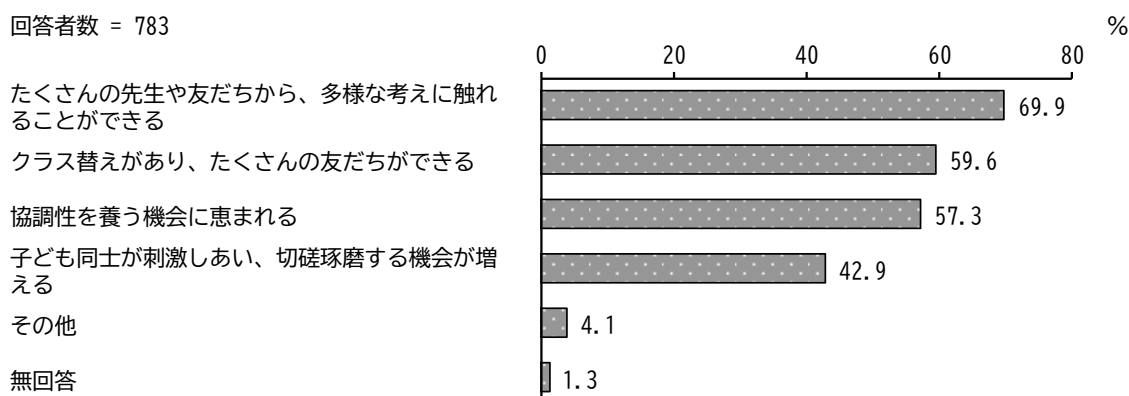
回答者数 = 57



ア－２）小学校で２学級以上が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

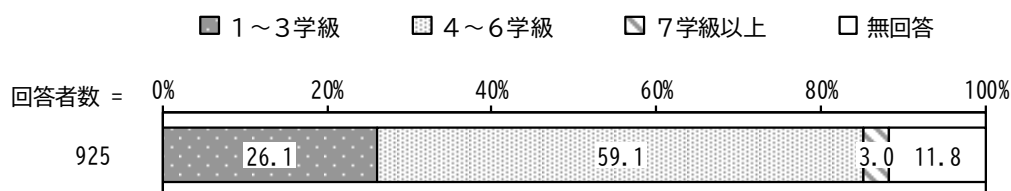
「たくさんの先生や友だちから、多様な考えに触れることができる」の割合が６９．９％と最も高く、次いで「クラス替えがあり、たくさんの友だちができる」の割合が５９．６％、「協調性を養う機会に恵まれる」の割合が５７．３％となっています。

回答者数 = 783



イ）中学校１学年あたりの学級

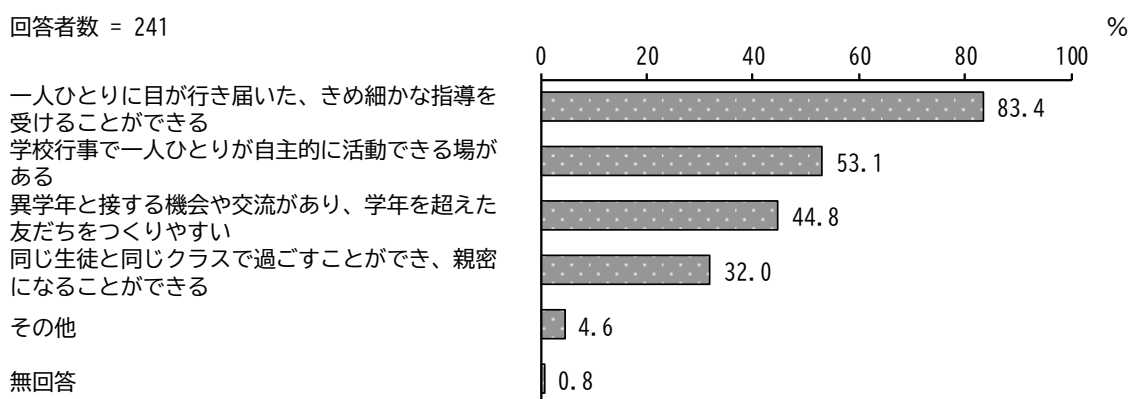
「１～３学級」の割合が２６．１％、「４～６学級」の割合が５９．１％、「７学級以上」の割合が３％となっています。



イ－１）中学校で１～３学級が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細かな指導を受けることができる」の割合が８３．４％と最も高く、次いで「学校行事で一人ひとりが自主的に活動できる場がある」の割合が５３．１％、「異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友だちをつくりやすい」の割合が４４．８％となっています。

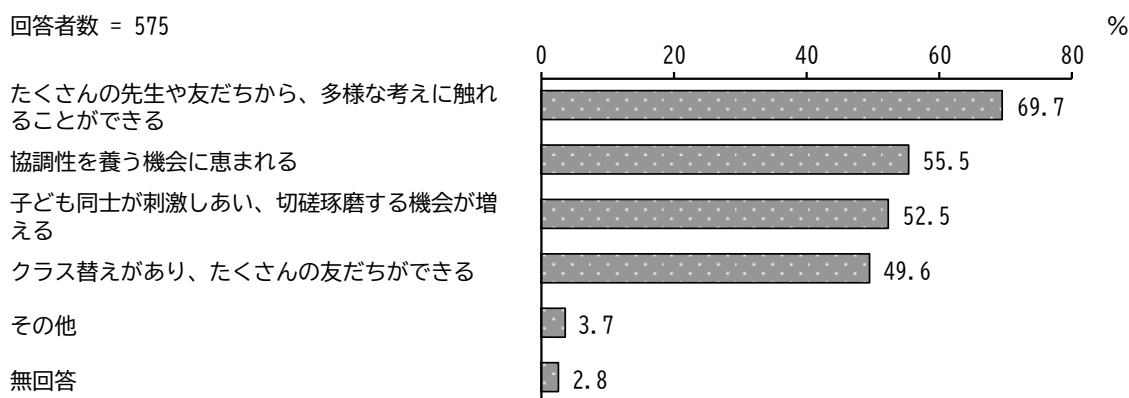
回答者数 = 241



イ－２）中学校で４学級以上が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

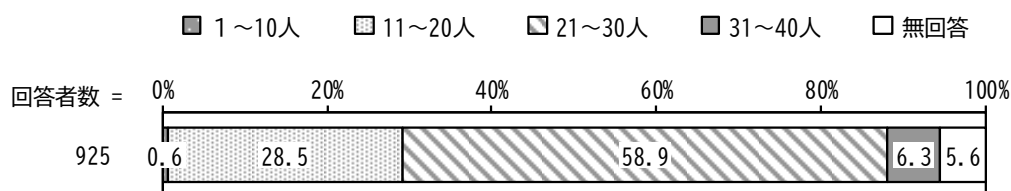
「たくさんの先生や友だちから、多様な考えに触れることができる」の割合が６９．７％と最も高く、次いで「協調性を養う機会に恵まれる」の割合が５５．５％、「子ども同士が刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える」の割合が５２．５％となっています。

回答者数 = 575



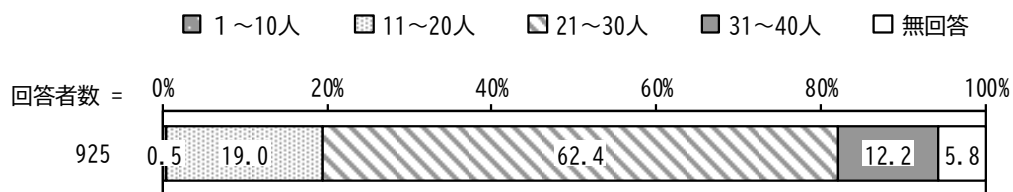
ウ）小学校１学級あたりの理想的な定員数

「２１～３０人」の割合が５８．９％と最も高く、次いで「１１～２０人」の割合が２８．５％、「３１～４０人」の割合が６．３％となっています。



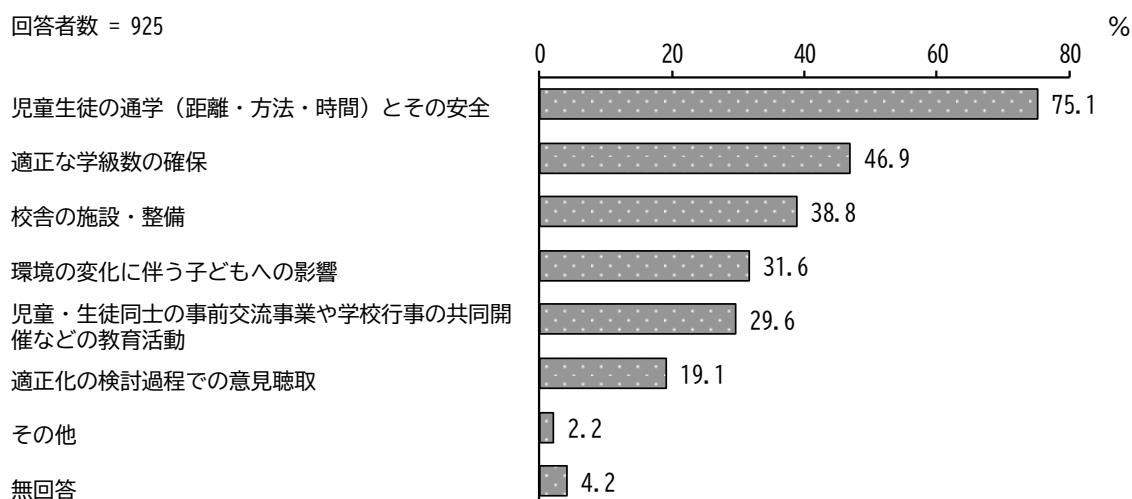
エ) 中学校1学級あたりの理想的な定員数

「21～30人」の割合が62.4%と最も高く、次いで「11～20人」の割合が19.0%、「31～40人」の割合が12.2%となっています。



問10 学校の規模と配置の適正化を進めるうえで、配慮すべきだと思うことは何ですか。
(主なものを3つまで○)

「児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全」の割合が75.1%と最も高く、次いで「適正な学級数の確保」の割合が46.9%、「校舎の施設・整備」の割合が38.8%となっています。

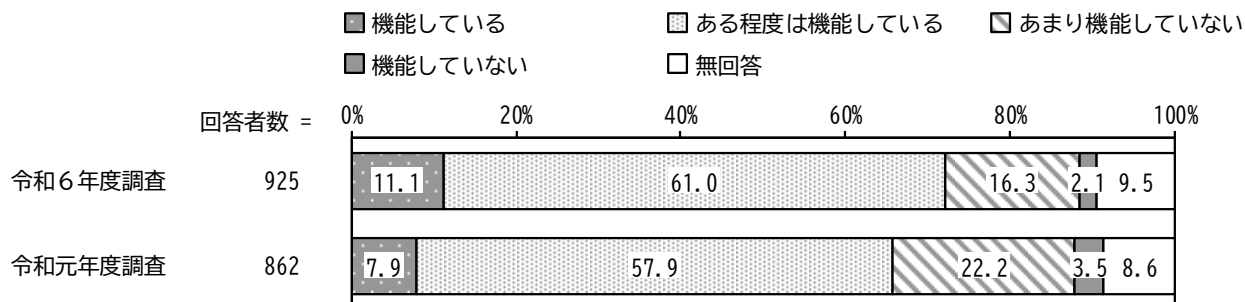


(3) 家庭教育・地域教育について

問11 あなたが住んでいる地域において、家庭の教育力、地域の教育力が機能していると思いますか。(それぞれにひとつずつ〇)

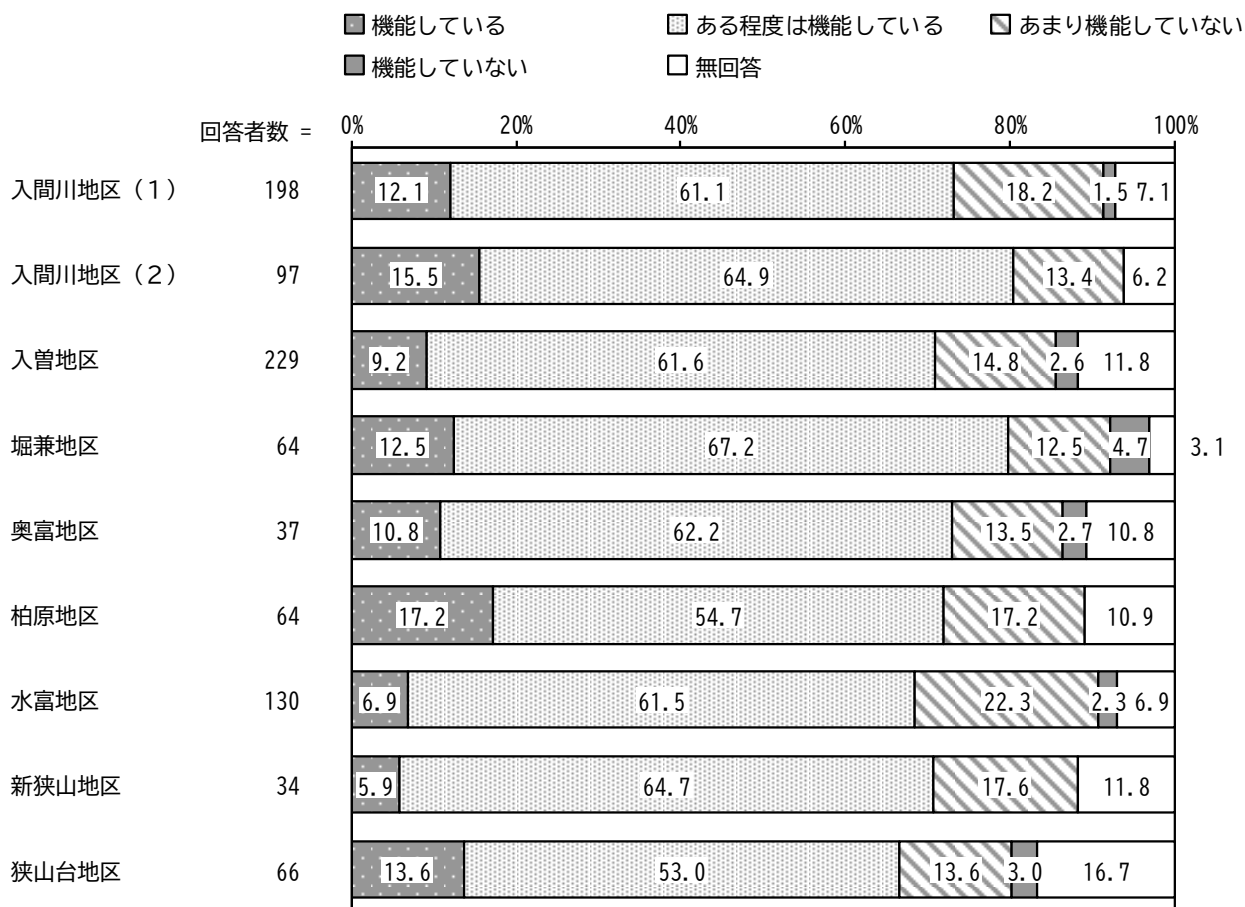
家庭の教育力

「機能している」「ある程度は機能している」を合わせた「機能している」の割合が72.1%、「あまり機能していない」「機能していない」を合わせた「機能していない」の割合が18.4%となっています。令和元年度調査と比較すると、「あまり機能していない」の割合が減少しています。



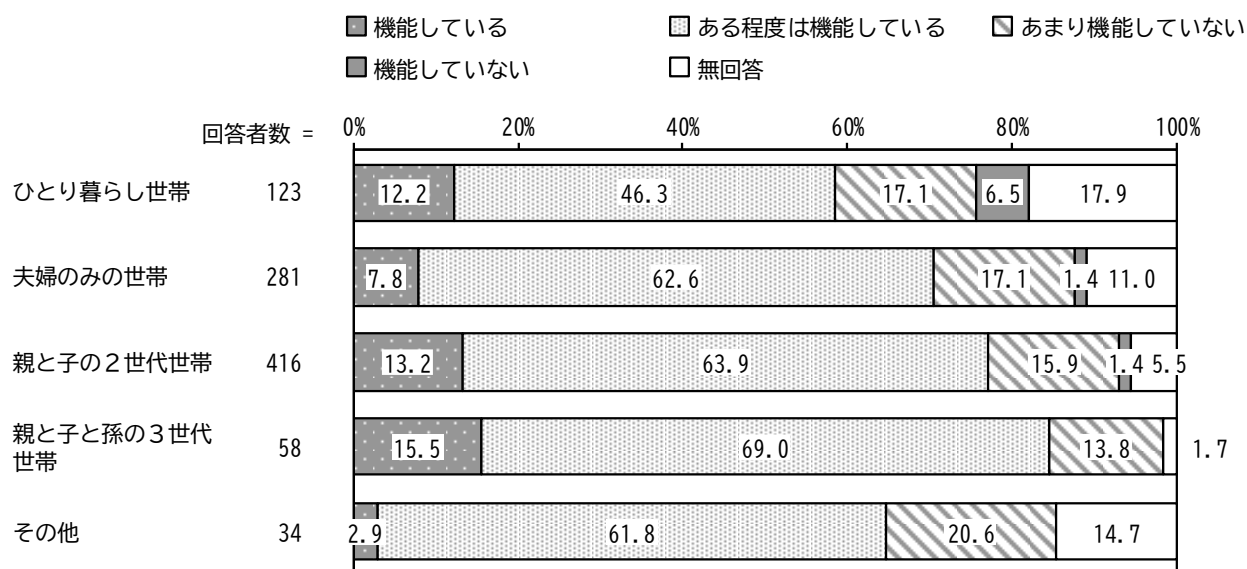
【居住地区別】

居住地区別にみると、「機能している」について柏原地区で高く、「ある程度は機能している」について狭山台地区で低く、「あまり機能していない」について水富地区で高く、「機能していない」について堀兼地区で高くなっています。



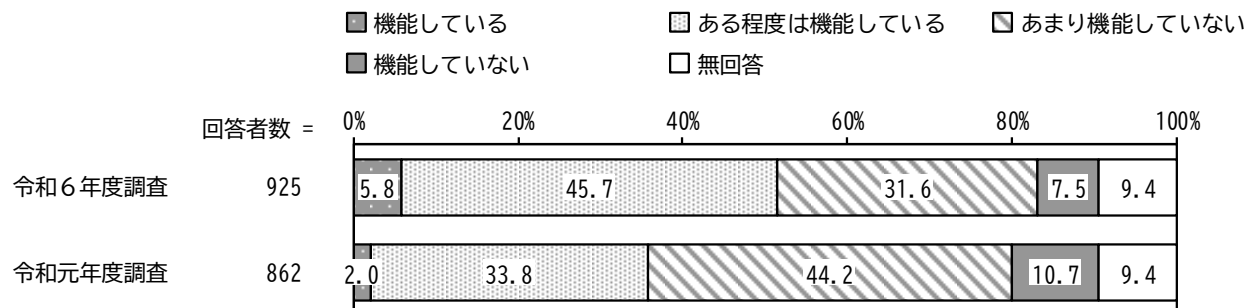
【家族構成別】

家族構成別にみると、「ある程度は機能している」についてひとり暮らし世帯で低くなっています。



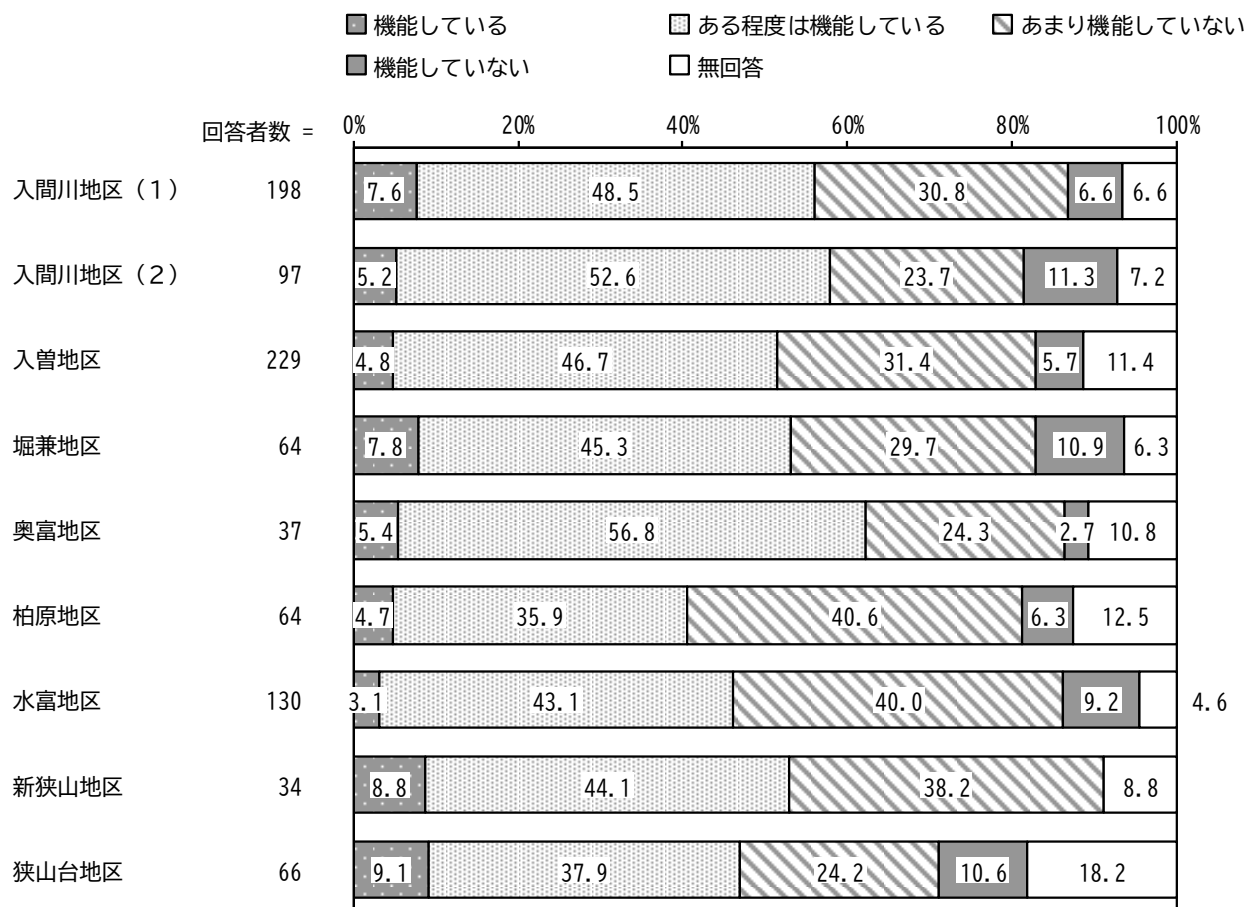
地域の教育力

「機能している」「ある程度は機能している」を合わせた「機能している」の割合が51.5%、「あまり機能していない」「機能していない」を合わせた「機能していない」の割合が39.1%となっています。令和元年度調査と比較すると、「ある程度は機能している」の割合が増加しています。一方、「あまり機能していない」の割合が減少しています。



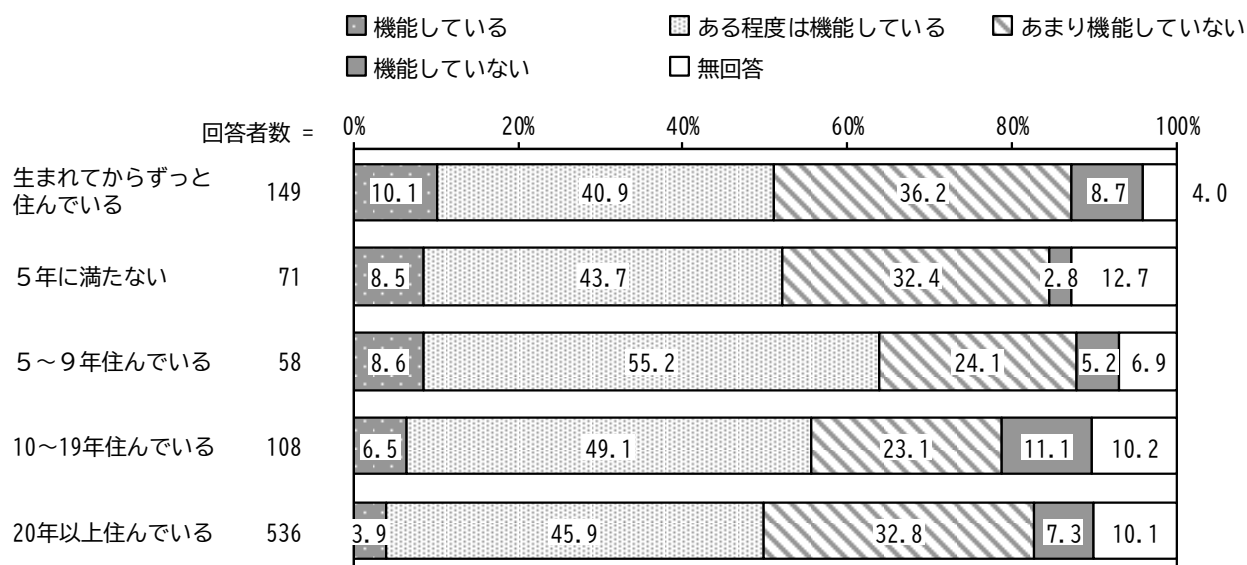
【居住地区別】

居住地区別にみると、「機能している」について狭山台地区で高く、「ある程度は機能している」について奥富地区で高く、「機能していない」について新狭山地区で低くなっています。



【居住年数別】

居住年数別にみると、「機能している」について「生まれてからずっと住んでいる」で高く、「ある程度は機能している」について「５～９年住んでいる」で高くなっています。

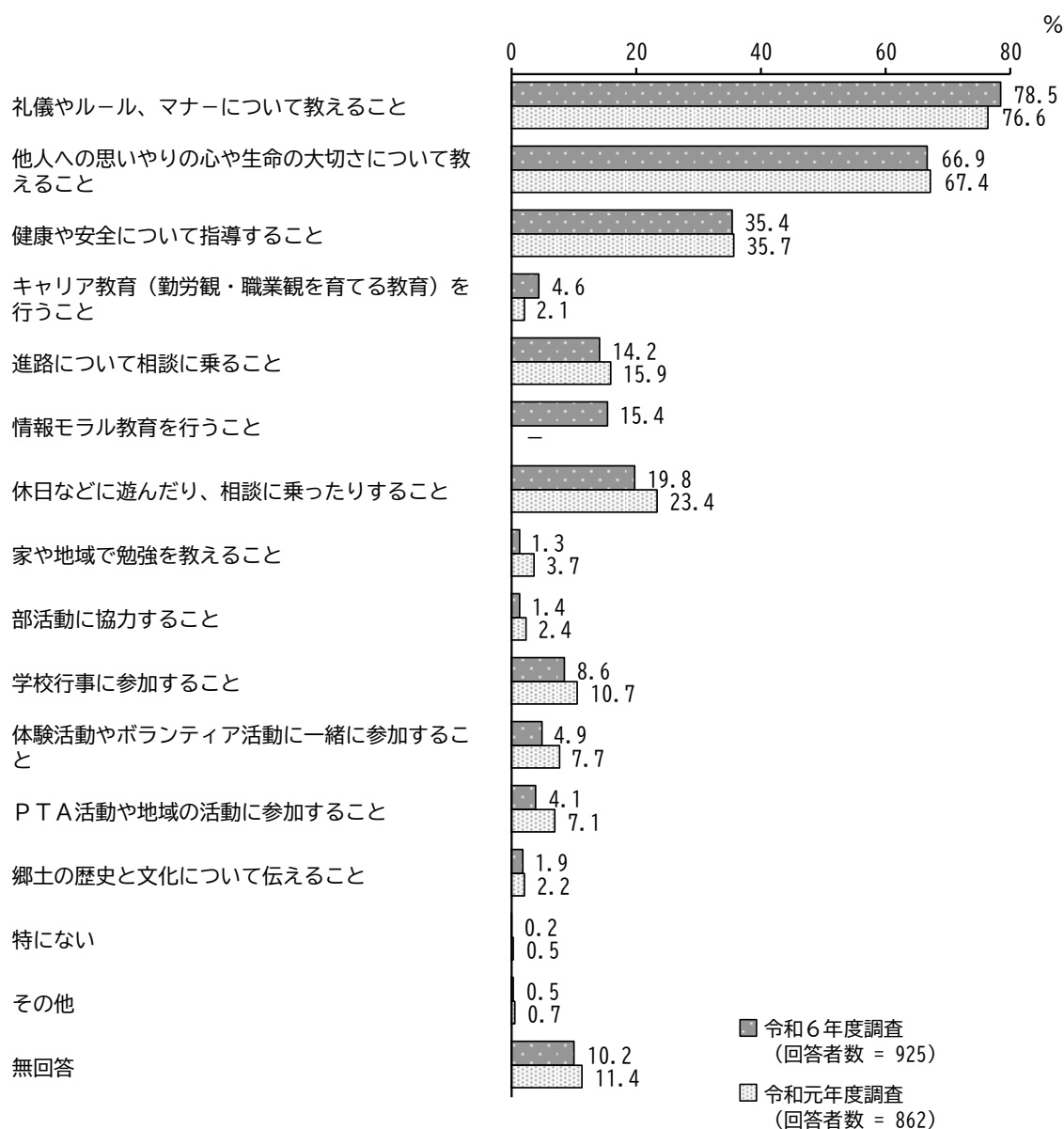


問12 「保護者」と「地域の方」のそれぞれの立場になって考えたときに、それぞれが主体的に行うことだと考えるものを選択してください。

保護者

「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が78.5%と最も高く、次いで「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の割合が66.9%、「健康や安全について指導すること」の割合が35.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※前回調査では「P T A活動や地域の活動に参加すること」が「教職員と連絡したり、P T A活動や地域の活動に参加すること」となっており、「情報モラル教育を行うこと」はありませんでした。

【居住地区別】

居住地区別にみると、「礼儀やルール、マナーについて教えること」について新狭山地区で低く、「健康や安全について指導すること」について奥富地区で低く、「キャリア教育（勤労観・職業観を育てる教育）を行うこと」について狭山台地区で低く、「学校行事に参加すること」について柏原地区で高く、新狭山地区で低く、「郷土の歴史と文化について伝えること」について堀兼地区で高くなっています。

単位：％

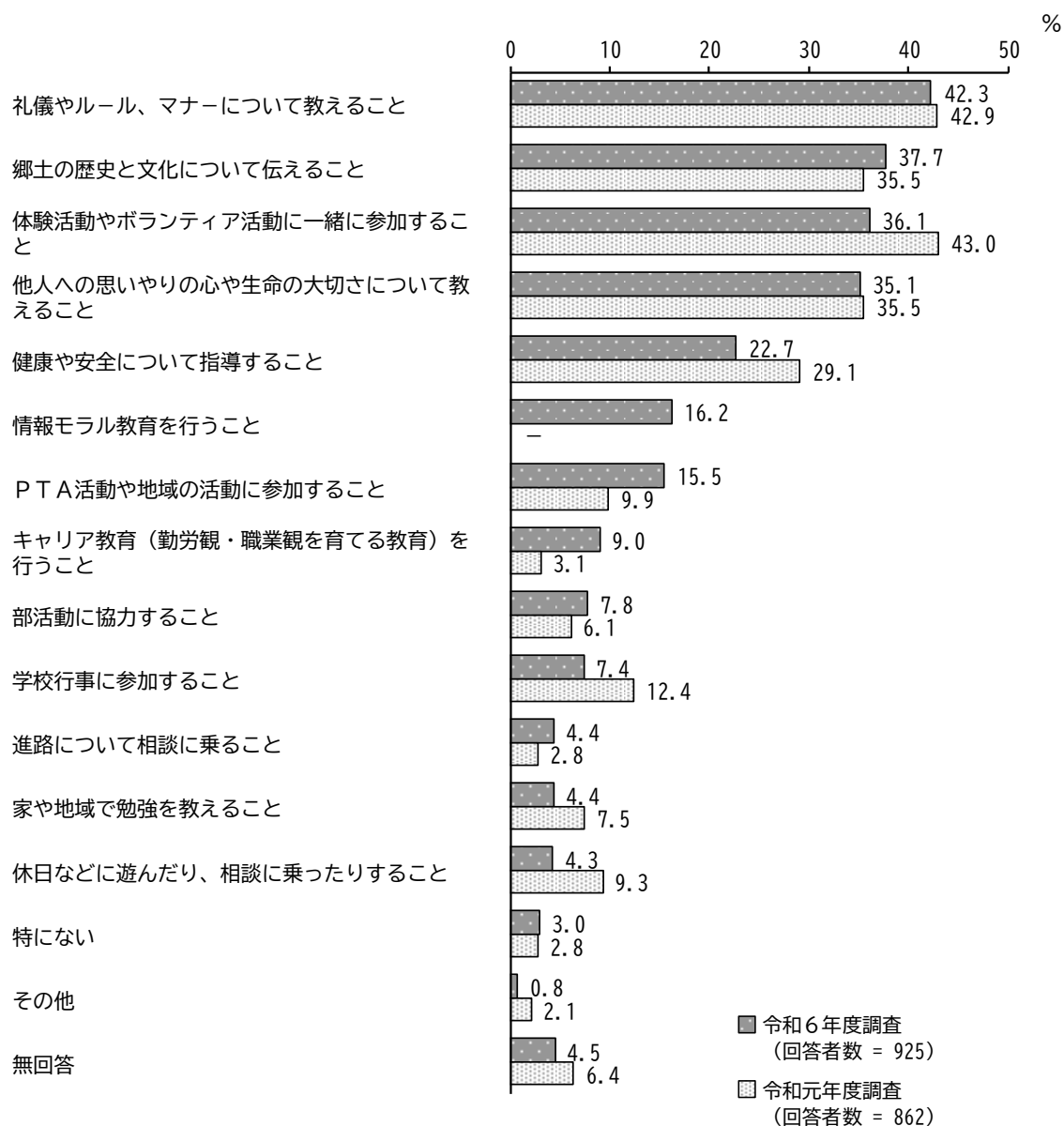
区分	回答者数（件）	礼儀やルール、マナーについて教えること	他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること	健康や安全について指導すること	キャリア教育（勤労観・職業観を育てる教育）を行うこと	進路について相談に乗ること	情報モラル教育を行うこと	休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること	家や地域で勉強を教えること
全 体	925	78.5	66.9	35.4	4.6	14.2	15.4	19.8	1.3
入間川地区（１）	198	81.8	69.7	36.4	5.1	13.6	16.2	21.7	1.0
入間川地区（２）	97	78.4	60.8	38.1	7.2	17.5	23.7	11.3	1.0
入曽地区	229	77.7	66.8	34.9	4.8	13.5	11.4	21.8	1.7
堀兼地区	64	81.3	75.0	45.3	4.7	10.9	9.4	9.4	－
奥富地区	37	81.1	81.1	18.9	5.4	18.9	27.0	18.9	2.7
柏原地区	64	84.4	65.6	31.3	3.1	12.5	17.2	17.2	3.1
水富地区	130	78.5	65.4	39.2	3.8	15.4	11.5	24.6	－
新狭山地区	34	64.7	64.7	29.4	8.8	11.8	17.6	26.5	－
狭山台地区	66	72.7	62.1	30.3	－	13.6	19.7	21.2	3.0

区分	部活動に協力すること	学校行事に参加すること	体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること	PＴＡ活動や地域の活動に参加すること	郷土の歴史と文化について伝えること	特にない	その他	無回答
全 体	1.4	8.6	4.9	4.1	1.9	0.2	0.5	10.2
入間川地区（１）	2.0	8.6	5.6	5.6	2.5	－	－	7.1
入間川地区（２）	2.1	6.2	6.2	3.1	1.0	－	－	10.3
入曽地区	1.3	7.9	5.7	4.4	2.2	0.9	0.9	9.6
堀兼地区	1.6	10.9	3.1	1.6	6.3	－	－	10.9
奥富地区	2.7	8.1	－	5.4	－	－	－	8.1
柏原地区	－	14.1	7.8	6.3	－	－	－	9.4
水富地区	1.5	10.8	1.5	2.3	1.5	－	1.5	10.0
新狭山地区	－	2.9	5.9	5.9	2.9	－	2.9	14.7
狭山台地区	－	6.1	6.1	3.0	－	－	－	15.2

地域の方

「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が42.3%と最も高く、次いで「郷土の歴史と文化について伝えること」の割合が37.7%、「体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること」の割合が36.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「キャリア教育（勤労観・職業観を育てる教育）を行うこと」「PTA活動や地域の活動に参加すること」の割合が増加しています。一方、「健康や安全について指導すること」「休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること」「体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること」の割合が減少しています。



※前回調査では「PTA活動や地域の活動に参加すること」が「教職員と連絡したり、PTA活動や地域の活動に参加すること」となっており、「情報モラル教育を行うこと」はありませんでした。

【居住地区別】

居住地区別にみると、「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」について堀兼地区で高く、「健康や安全について指導すること」について新狭山地区で高く、「キャリア教育（勤労観・職業観を育てる教育）を行うこと」について入間川地区（２）で高く、柏原地区で低く、「学校行事に参加すること」について狭山台地区で高く、「体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること」について奥富地区で高く、「特になし」について水富地区で高くなっています。

単位：％

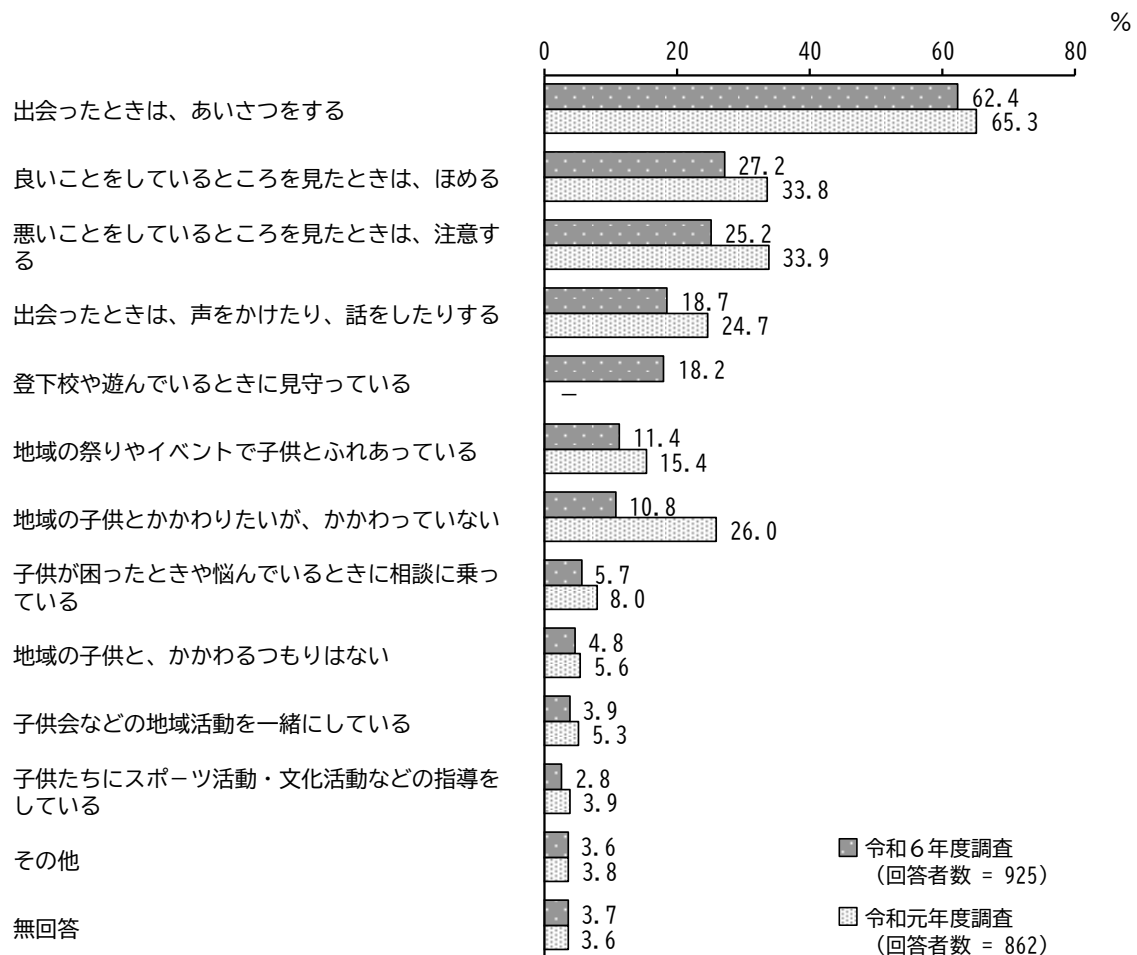
区分	回答者数（件）	礼儀やルール、マナーについて教えること	他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること	健康や安全について指導すること	キャリア教育（勤労観・職業観を育てる教育）を行うこと	進路について相談に乗ること	情報モラル教育を行うこと	休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること	家や地域で勉強を教えること
全 体	925	42.3	35.1	22.7	9.0	4.4	16.2	4.3	4.4
入間川地区（１）	198	40.9	33.3	26.3	7.6	3.0	20.2	5.1	2.5
入間川地区（２）	97	48.5	38.1	17.5	13.4	7.2	18.6	6.2	8.2
入曽地区	229	45.9	36.2	25.8	10.0	4.4	12.7	2.2	4.4
堀兼地区	64	37.5	45.3	25.0	9.4	4.7	15.6	6.3	1.6
奥富地区	37	48.6	32.4	21.6	10.8	—	18.9	—	5.4
柏原地区	64	37.5	26.6	20.3	3.1	3.1	18.8	7.8	7.8
水富地区	130	43.8	33.1	16.2	8.5	4.6	13.1	3.8	4.6
新狭山地区	34	35.3	29.4	32.4	8.8	5.9	17.6	5.9	—
狭山台地区	66	33.3	39.4	18.2	9.1	7.6	16.7	4.5	6.1

区分	部活動に協力すること	学校行事に参加すること	体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること	PＴＡ活動や地域の活動に参加すること	郷土の歴史と文化について伝えること	特になし	その他	無回答
全 体	7.8	7.4	36.1	15.5	37.7	3.0	0.8	4.5
入間川地区（１）	7.1	8.6	33.8	15.7	36.4	4.5	1.0	4.0
入間川地区（２）	12.4	4.1	29.9	17.5	28.9	3.1	1.0	4.1
入曽地区	5.7	6.1	36.7	14.0	40.6	2.2	1.3	3.5
堀兼地区	7.8	10.9	40.6	15.6	35.9	—	—	4.7
奥富地区	5.4	8.1	45.9	18.9	45.9	2.7	—	—
柏原地区	10.9	7.8	43.8	10.9	42.2	1.6	1.6	3.1
水富地区	10.8	4.6	35.4	17.7	37.7	6.2	—	4.6
新狭山地区	8.8	8.8	35.3	17.6	47.1	—	—	5.9
狭山台地区	3.0	12.1	37.9	15.2	34.8	1.5	—	7.6

問13 普段、あなたは地域の子供とどのように接していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「出会ったときは、あいさつをする」の割合が62.4%と最も高く、次いで「良いことをしているところを見たときは、ほめる」の割合が27.2%、「悪いことをしているところを見たときは、注意する」の割合が25.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「出会ったときは、声をかけたり、話をしたりする」「悪いことをしているところを見たときは、注意する」「良いことをしているところを見たときは、ほめる」「地域の子供とかかわりたいが、かかわっていない」の割合が減少しています。



※前回調査では「登下校や遊んでいるときに見守っている」はありませんでした。

【居住地区別】

居住地区別にみると、「良いことをしているところを見たときは、ほめる」について堀兼地区で高く、「子供が困ったときや悩んでいるときに相談に乗っている」について新狭山地区で低く、「地域の祭りやイベントで子供とふれあっている」について奥富地区で高く、「登下校や遊んでいるときに見守っている」について柏原地区で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数(件)	出会ったときは、あいさつをする	出会ったときは、声をかけたり、話をしたりする	悪いことをしているところを見たときは、注意する	良いことをしているところを見たときは、ほめる	子供が困ったときや悩んでいるときに相談に乗っている	子供会などの地域活動を一緒にしている	子供たちにスポーツ活動・文化活動などの指導をしている	地域の祭りやイベントで子供とふれあっている	登下校や遊んでいるときに見守っている	地域の子供とかかわりたいが、かかわっていない	地域の子供と、かかわるつもりはない	その他	無回答
全 体	925	62.4	18.7	25.2	27.2	5.7	3.9	2.8	11.4	18.2	10.8	4.8	3.6	3.7
入間川地区（１）	198	61.6	15.7	18.7	23.2	4.0	5.1	3.0	12.6	20.2	12.6	4.0	3.5	2.0
入間川地区（２）	97	69.1	20.6	27.8	27.8	5.2	6.2	3.1	8.2	16.5	13.4	4.1	4.1	2.1
入曽地区	229	60.7	17.9	27.5	30.1	6.6	5.2	3.9	11.4	18.8	8.3	5.2	4.4	3.9
堀兼地区	64	64.1	26.6	25.0	32.8	9.4	3.1	1.6	7.8	15.6	12.5	4.7	1.6	3.1
奥富地区	37	54.1	27.0	35.1	27.0	8.1	5.4	2.7	18.9	13.5	13.5	2.7	5.4	5.4
柏原地区	64	59.4	17.2	23.4	26.6	6.3	—	1.6	6.3	26.6	10.9	4.7	—	7.8
水富地区	130	63.8	22.3	30.8	26.2	5.4	1.5	1.5	13.8	16.2	10.8	6.2	4.6	1.5
新狭山地区	34	73.5	20.6	14.7	26.5	—	—	2.9	11.8	14.7	8.8	2.9	2.9	2.9
狭山台地区	66	59.1	10.6	22.7	25.8	6.1	3.0	3.0	12.1	15.2	9.1	6.1	3.0	7.6

【家族構成別】

家族構成別にみると、「子供が困ったときや悩んでいるときに相談に乗っている」についてひとり暮らし世帯で高く、「登下校や遊んでいるときに見守っている」について親と子と孫の３世代世帯で高くなっています。

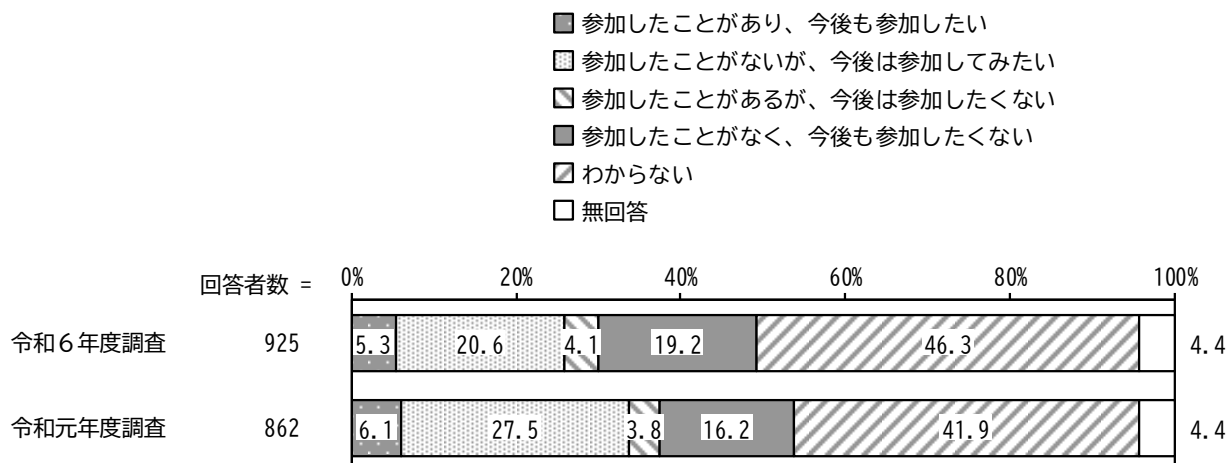
単位：％

区分	回答者数(件)	出会ったときは、あいさつをする	出会ったときは、声をかけたり、話をしたりする	悪いことをしているところを見たときは、注意する	良いことをしているところを見たときは、ほめる	子供が困ったときや悩んでいるときに相談に乗っている	子供会などの地域活動を一緒にしている	子供たちにスポーツ活動・文化活動などの指導をしている	地域の祭りやイベントで子供とふれあっている	登下校や遊んでいるときに見守っている	地域の子供とかかわりたいが、かかわっていない	地域の子供と、かかわるつもりはない	その他	無回答
全 体	925	62.4	18.7	25.2	27.2	5.7	3.9	2.8	11.4	18.2	10.8	4.8	3.6	3.7
ひとり暮らし世帯	123	61.0	16.3	26.0	36.6	10.6	3.3	2.4	8.1	17.1	10.6	4.9	1.6	5.7
夫婦のみの世帯	281	65.1	23.8	27.4	29.5	5.3	2.5	3.2	12.5	17.4	10.3	3.2	4.3	2.5
親と子の２世代世帯	416	60.3	15.6	23.6	22.4	4.8	5.0	2.4	11.5	18.8	11.1	6.3	3.6	3.1
親と子と孫の３世代世帯	58	62.1	19.0	29.3	25.9	3.4	5.2	5.2	15.5	22.4	12.1	3.4	5.2	5.2
その他	34	73.5	23.5	14.7	38.2	5.9	—	—	8.8	17.6	8.8	2.9	2.9	5.9

問 14 狭山市では、地域の教育力を生かした学校への支援を進めています。このような地域の学校支援活動に参加したいと思いますか。

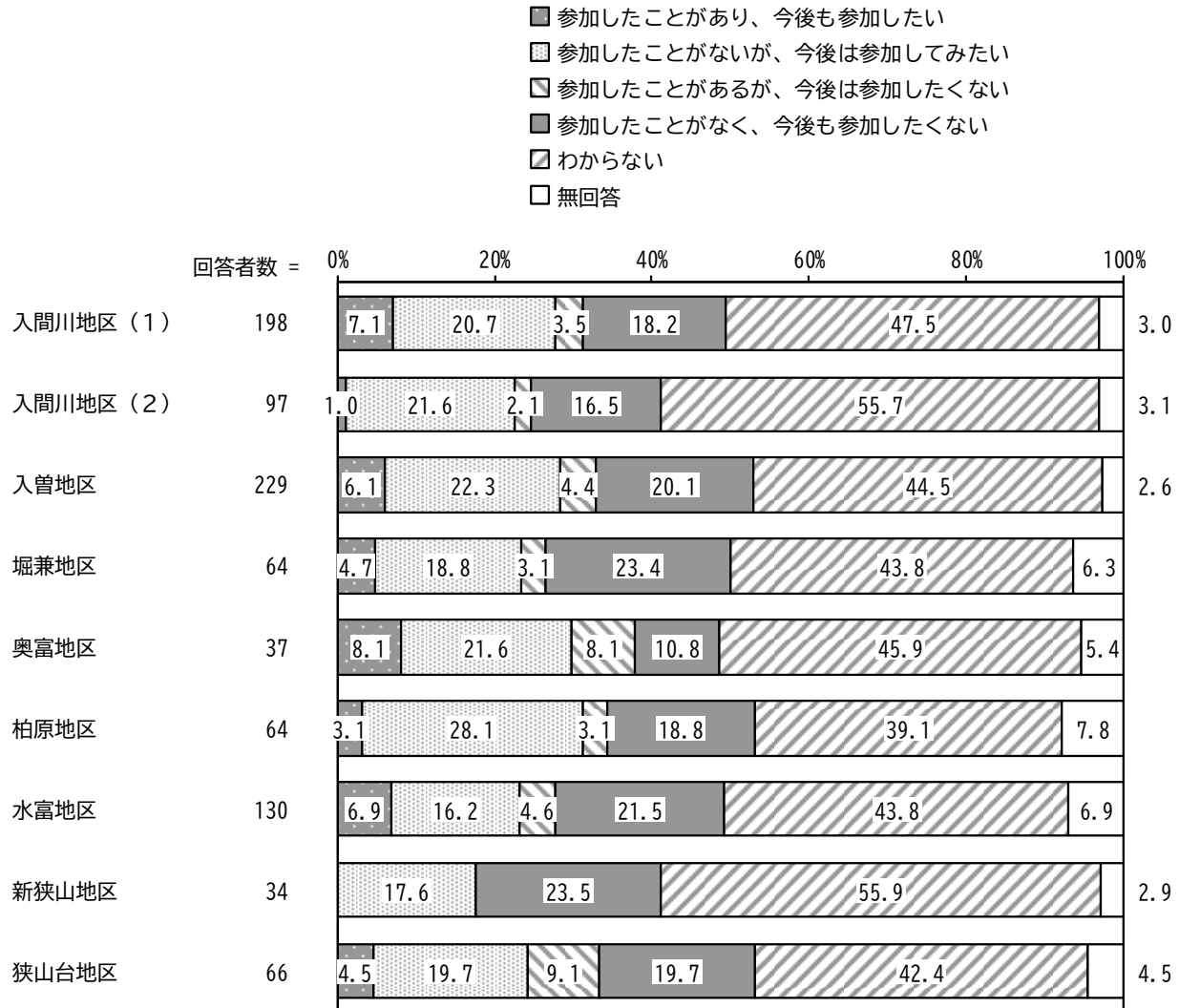
「わからない」の割合が46.3%と最も高く、次いで「参加したことがないが、今後は参加してみたい」の割合が20.6%、「参加したことがなく、今後も参加したくない」の割合が19.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「参加したことがないが、今後は参加してみたい」の割合が減少しています。



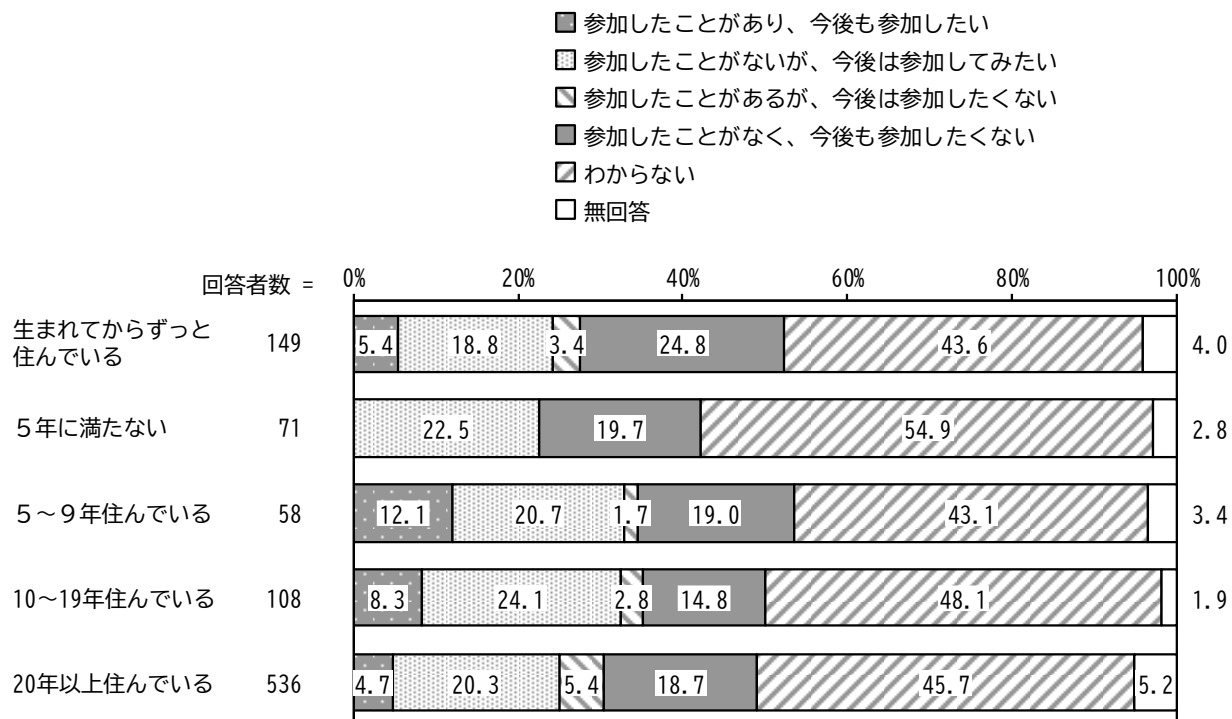
【居住地区別】

居住地区別にみると、「参加したことがあり、今後も参加したい」について新狭山地区で低く、「参加したことがないが、今後は参加してみたい」について柏原地区で高く、「参加したことがあるが、今後は参加したくない」について狭山台地区で高く、「参加したことがなく、今後も参加したくない」について奥富地区で低く、「わからない」について入間川地区（２）、新狭山地区で高くなっています。



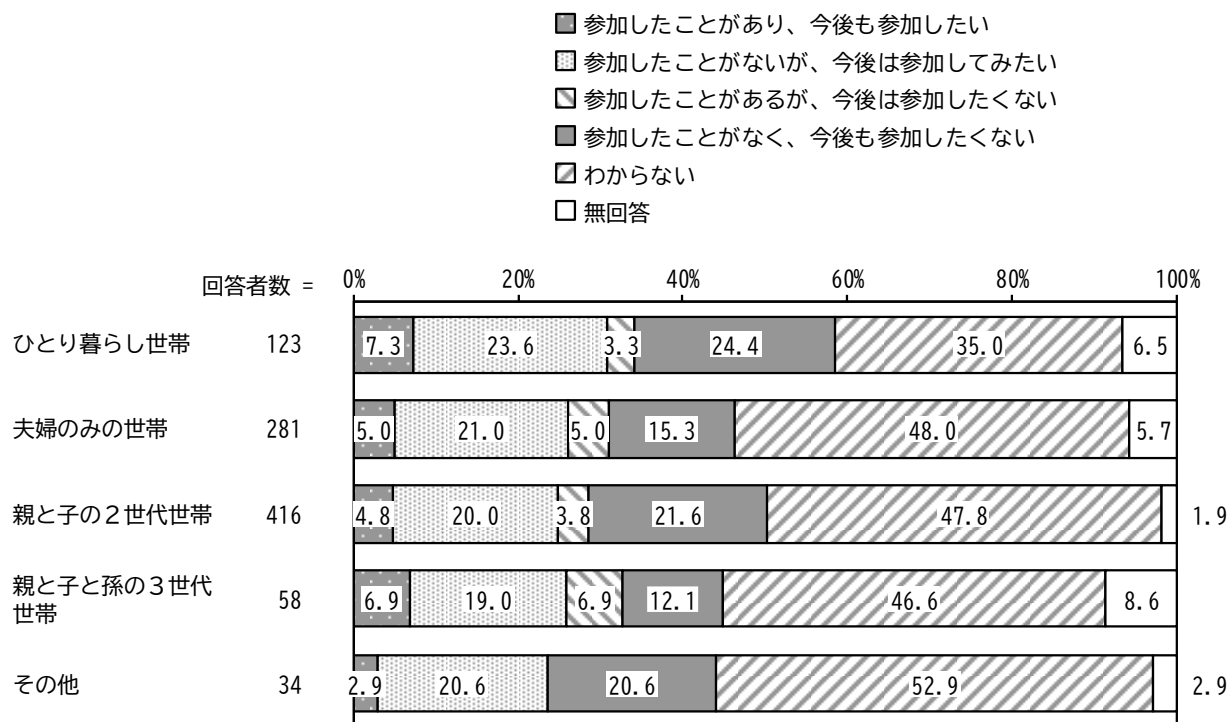
【居住年数別】

居住年数別にみると、「参加したことがあり、今後も参加したい」について「5～9年住んでいる」で高く、「参加したことがないが、今後は参加してみたい」について「10～19年住んでいる」で高く、「参加したことがあるが、今後は参加したくない」について「5年に満たない」で低く、「参加したことがなく、今後も参加したくない」について「生まれてからずっと住んでいる」で高くなっています。



【家族構成別】

家族構成別にみると、「参加したことがないが、今後は参加してみたい」についてひとり暮らし世帯で高くなっています。



問 15 問 14 で 1. 2. 3 のいずれかを回答した方にお聞きします。

参加したことがある活動もしくは参加したいと思う活動を具体的に記入してください。

参加したことがある活動もしくは参加したいと思う活動について、以下の意見が挙げられました。

1. 地域行事やイベントへの参加 (27 件)
自治会のイベント
体育祭、ふれあい東部
文化祭、体育祭、ボランティア活動
つな引
地元のお祭等。
お祭りなど地域の行事。
西中おやじの会で七夕かざりを作成したことがある。
お祭りなど。
地域で何かを催す際、色々準備が必要になることを手伝う。(できることを協力する)
おやじの会
地域での祭り、イベント活動など、機会があれば参加してみたい。
スポーツ活動、地域の祭り。
地域運動会
運動会
運動会、ハイキング
祭りやイベントに参加。
ドッチビー、台小祭り、マルシェ
様々な行事に参加する。
地域のイベント。
地元のお祭り、スポーツ振興。
祭行事や文化行事など。
自治会イベント (夏祭りや体育祭など)
お祭りや子供会
子供会に参加したことがある
子供や大人、健常者、障害者などさまざまな人たちが触れ合うイベント
地域運動会やフリマなど、参加できることは参加したい。
夏祭り等の地域の行事
2. 子どもの見守り活動
民生委員を長い間して、学校と話し合いの機会がありました。下校のみまもりをしています。
登下校の見守り、放課後子ども達と遊ぶ、読みきかせ、勉強のサポート。
小学校低学年の遠足の見守りに参加しましたが、現在の自分の年齢を考えると、今後のボランティア等の責任に不安があります。
子供の下校の時見守りをしています。月、4 回程度です。
良くわからないけど、何かできる事があればと思い②にしました。
下校の見守り
登下校時等の安全確保のボランティア活動。

登下校に参加してみたい。今は、仕事しているので無理。
親、先生だけではなく、子供は地域の皆さんで育ててあげると考えています。核家族などが 増えている今日、皆さんで成長を見守っていけるような、活動や企画があればいいと思います。
子供が小学生の頃地区の子供会の代表。少年野球の指導など約6年間。
登下校の見守り。
登下校のみまもり
圏域会議、児童下校見守り。
P T Aの活動に参加した。子ども会活動に参加した。
通学（朝・夕）の見守り。
登下校の安全見守り。
・放課後クラブへの参加 ・登下校の見守り活動
毎朝、信号のない横断歩道を小学生登校班を渡らせ、自転車の中学生の交通整理をしている。 S S V C （学校支援ボランティアセンター）への参加。 小学校の地域見学授業への協力。
ボーイスカウト
町探検など、子ども達が地域に出ていく活動を見守りたい(安全面を考えると教職員だけの引率では 人手が不足しているとも考えられるから)
3. スポーツ活動の支援（18 件）
スポーツ活動などの補助。
身体を動かす事。
部活動などにおける対外試合などの支援・応援。
バスケットボール、バレーボール
1、部活動と一緒に参加。2、授業の支援。3、郊外活動に同行（e x 山登り、キャンプ、狭山歴史 散歩）
スポーツ活動
スポーツ活動等、オリンピックに向けて新競ギ（フラッグフット）への指導や普及をやってみたい。
スポーツ少年団、P T A
スポーツ関係、ボランティア、防災。
野球チームの応援
スポーツを通して活動。
ソフトボール会
少年野球
スポ少
部活動のコーチングと支援
私はスキーの指導員資格を持っております。また、バックカントリーの経験もありますので、学校で スキー教室を行うような機会があれば、スキー指導にあたったり、スノースポーツの楽しさを伝えたい です。
P T A、スポーツ少年団の参加
運動会
4. ボランティア活動への参加（9 件）
スポーツなどのボランティア。
学校でのボランティア。
どのような活動ができるのか具体的にはわかりませんが、何かのイベントでボランティア等が必要な 時には参加してみたいと思います。（特に手がかかる、小学低学年の児童）
子供と共にボランティア活動。
ボランティア活動

ボランティアがあれば参加してみたい。
子ども達と共にボランティア活動について、どの様なことをしてみたいか？活動にはどのような内容のものがあるか等、話し合ってみたい。
園芸ボランティア
学校でのボランティアなど、募集があれば参加したいです
5. 防災教育や訓練の参加（5件）
防災教育
防災訓練
自治会防災訓練、チャレンジスクール
防災訓練等
防災活動には以前自治会として一緒に活動した事があります みんな楽しく出来た思い出があります
6. 学校行事のサポート（21件）
P T A会長を務めた時期があり。
厳密に言えば、P T Aの活動以外では、その後参加すべく応募しましたが落選したので、その後ももう、参加する意欲はなくなった。という感じです。
P T A活動
小学校でのP T A活動の時、子供（クラス）の子にみおとしがちな、そうじの仕方をおしえた。
小学校の障害福祉体験教育の手伝い。
P T A主催の学校のお祭り（文化祭）でも、もう1番下が中学卒業。もう機かいがないと思う。
運動会
地区運動会
運動会
運動会
運動会、学芸会等の見学とか手伝い。
運動会
3学年との校舎の草むしり、ゲームなど。
1.校庭にて花、苗の育て観賞。2.校舎内の植栽剪定、及び除草作業。
運動会の準備
学校行事の支援活動、学校環境の整備支援活動。
小学校の放課後クラブの協力。小学校の年間行事のお手伝い。
学校の文化祭
中学校において先生の補助を行った。
こどもの小学校時のお父さんの会 学校の掃除 芝生の手入れ バザー
小学校の放課後の過ごし方に協力して子供達と運動をしたり工作物を一緒に作ったり しています。
7. 文化活動や趣味の紹介（8件）
料理教室
ミシンの使い方指導、メなわ作り。
郷土の歴史や文化、産業教育に参加したいと思う。
文化活動
お茶会（中学校と介護施設）。
狭山市の歴史を学ぶ活動
趣味の紹介

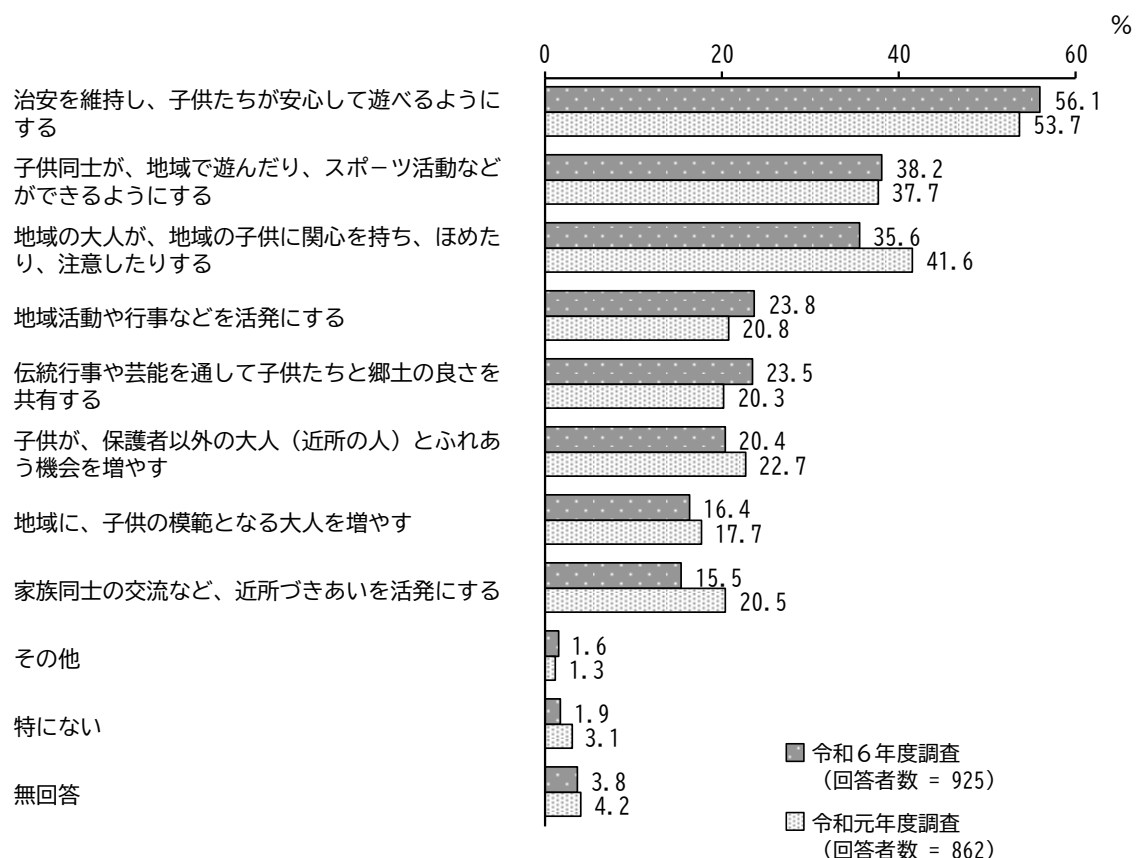
夏休みの体験学習、児童館での絵画・書道・料理教室などの文化活動、サピオの水泳教室に参加。夏休みの七宝焼など、人気のある体験の参加人数を増やしてもらえると嬉しい。
8. 地域の清掃や環境保全活動（8件）
地域のみどりを保全、活用、創造する活動。
清掃活動（ボランティア）
不老川のクリーン作戦。
地域清掃活動に中学生と共に参加できれば協力したい。
1、自然環境を大切に保存、維持する。2、犯罪被害予防の教育。
自然環境維持活動
学校と地域一体となったクリーン作戦 ex. ゴミ拾い 通学路の危険場所マップ作り いろいろな職業の人の話を聞く
学校美化
9. 子どもとのふれあい機会の提供（12件）
公民館活動の中で子供に体験教室を何回か致しました。
こども食堂
子供同士がいろいろな事に興味を持てるような活動。
気持はあるが私自身ひっぱっていけないが読み聞かせのような事。
放課後の遊び場。
学校支援活動に参加することにより、孫とのふれあいを大切にしたいからです。
子どもとふれあう機会がない。「きっかけ」がない人がほとんどなのは・・・保育園（子供園）と通所デイサービス施設のようなものとの統合、併設を検討してみても・・・
本の読み聞かせ。
子どもイベントへの参加、応援
活動内容がわからないが、子供主体のワーキング補助など
絵本の読み聞かせや人形劇など
親子で一緒に学べる機会
10. 教育支援や学習サポート（18件）
・学校に行けない、または行きにくくなってしまった子供たちが学習できる場を設ける等の、フリースクールのようなものに参加してみたい。・地域農家さんとの作物の収穫等も、あれば参加してみたい。
日本の歴史を伴いながら、日本の未来を考えたり、一方的に教えることなく一つ一つの材料をもとにディスカッションしながら、各若者達が未来（将来）の目的を持てるような学びの場ができればと思う。
参加した事ないが地域の教育力支援とは知りたいです。
今はまだ難しいと思いますが、対面式の学校の授業支援が始まれば参加したいと思っています。
教育に従事していたので、経験を生かしたいとは思いますが、学力遅進児への協力。
SNAリテラシーの教育。教育と呼べるか不明だが、武道を通じた礼儀作法、他人への思いやり教育。
・英語の授業（小学生）のアシスタント。イベントの参加などの活動を行った。・中学生の英語授業の学修支援活動に参加した。
読みきかせ
通学時等の支援。
本の読み聞かせや、狭山茶について座学を含め知識を（茶器の取り扱いなど）深めるような活動。
授業のサポート
休み中の宿題などの指導。

読み聞かせ 算数学習補助
学習支援
放課後教室
大学生の立場として周りの人にやりたいことがない人が多いため、現在の専攻・分野の面白さを伝えて子どもが自主的に学びきっかけを与えたいです。
本読み
学校教育科目の理解を深める手助けのようなこと。

問16 「地域の教育力」を高めるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。
(主なもの3つまで○)

「治安を維持し、子供たちが安心して遊べるようにする」の割合が56.1%と最も高く、次いで「子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする」の割合が38.2%、「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」の割合が35.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」の割合が減少しています。



【居住地区別】

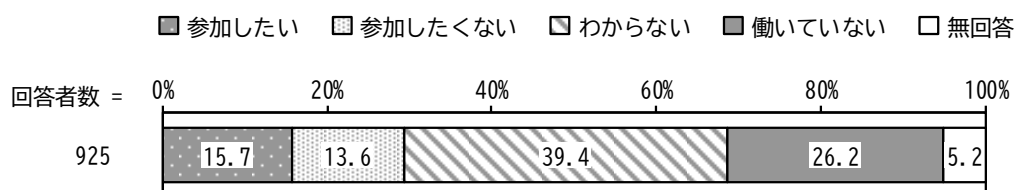
居住地区別にみると、「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」について新狭山地区で低く、「地域活動や行事などを活発にする」について堀兼地区で低く、「伝統行事や芸能を通して子供たちと郷土の良さを共有する」について柏原地区で高く、「特にない」について狭山台地区で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	地域に、子供の模範となる大人を増やす	地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする	子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにする	家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする	地域活動や行事などを活発にする	治安を維持し、子供たちが安心して遊べるようにする	子供が、保護者以外の大人（近所の人）とふれあう機会を増やす	子供が、保護者以外の大人（近所の人）とふれあう機会を増やす	伝統行事や芸能を通して子供たちと郷土の良さを共有する	その他	特にな	無回答
全 体	925	16.4	35.6	38.2	15.5	23.8	56.1	20.4	23.5	1.6	1.9	3.8	
入間川地区（１）	198	14.6	34.3	46.0	17.2	28.3	58.6	20.2	22.2	1.5	1.5	2.5	
入間川地区（２）	97	18.6	41.2	32.0	15.5	23.7	56.7	28.9	24.7	1.0	3.1	4.1	
入曽地区	229	18.3	36.2	36.2	13.1	23.1	54.1	24.0	19.7	1.7	2.6	3.5	
堀兼地区	64	21.9	31.3	48.4	18.8	17.2	54.7	17.2	25.0	1.6	－	4.7	
奥富地区	37	8.1	40.5	37.8	16.2	21.6	40.5	16.2	27.0	5.4	2.7	5.4	
柏原地区	64	14.1	29.7	31.3	15.6	18.8	57.8	9.4	32.8	3.1	－	7.8	
水富地区	130	14.6	36.2	35.4	15.4	23.8	58.5	21.5	25.4	1.5	1.5	1.5	
新狭山地区	34	20.6	41.2	44.1	5.9	29.4	67.6	8.8	26.5	－	－	－	
狭山台地区	66	15.2	34.8	28.8	19.7	24.2	53.0	16.7	21.2	－	4.5	6.1	

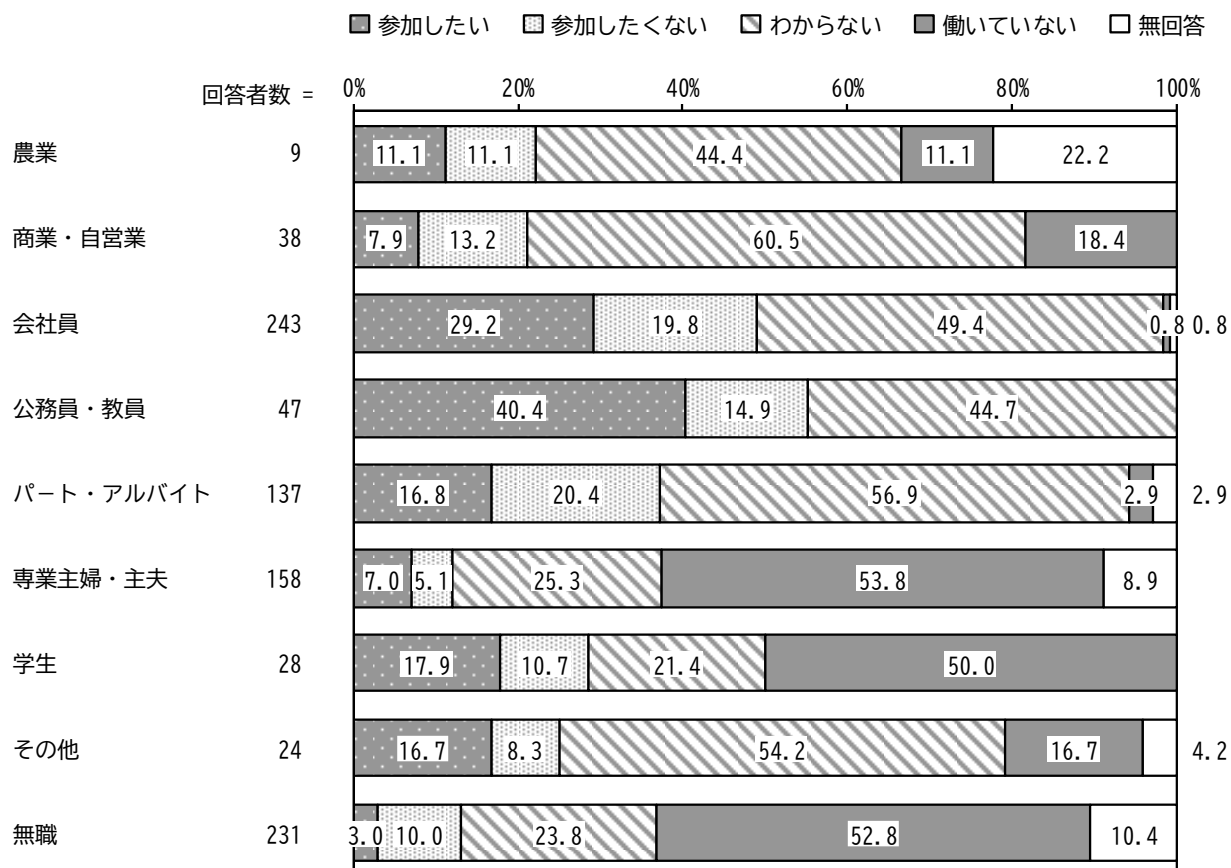
問 17 現在は、学校などで家庭教育の研修等を行っておりますが、職場で家庭教育に関する研修があったら参加してみたいですか。

「わからない」の割合が39.4％と最も高く、次いで「働いていない」の割合が26.2％、「参加したい」の割合が15.7％となっています。



【職業別】

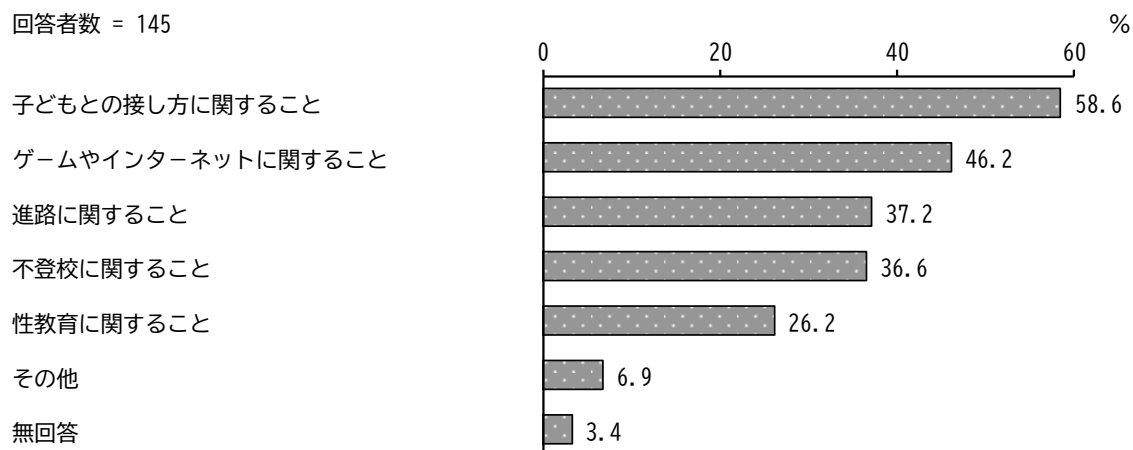
職業別にみると、「参加したい」について公務員・教員で高く、「参加したくない」について専業主婦・主夫で低くなっています。



問 18 問 17 で「1 参加したい」と答えた方にお聞きします。どのような内容だったら研修を受けたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

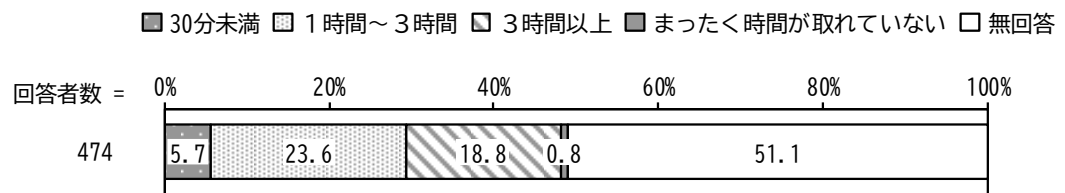
「子どもとの接し方に関すること」の割合が58.6%と最も高く、次いで「ゲームやインターネットに関すること」の割合が46.2%、「進路に関すること」の割合が37.2%となっています。

回答者数 = 145



問 19 （保護者のみ回答してください） 家庭で子どもと一緒に過ごす時間を 1 日平均どれくらいとることが出来ていますか。

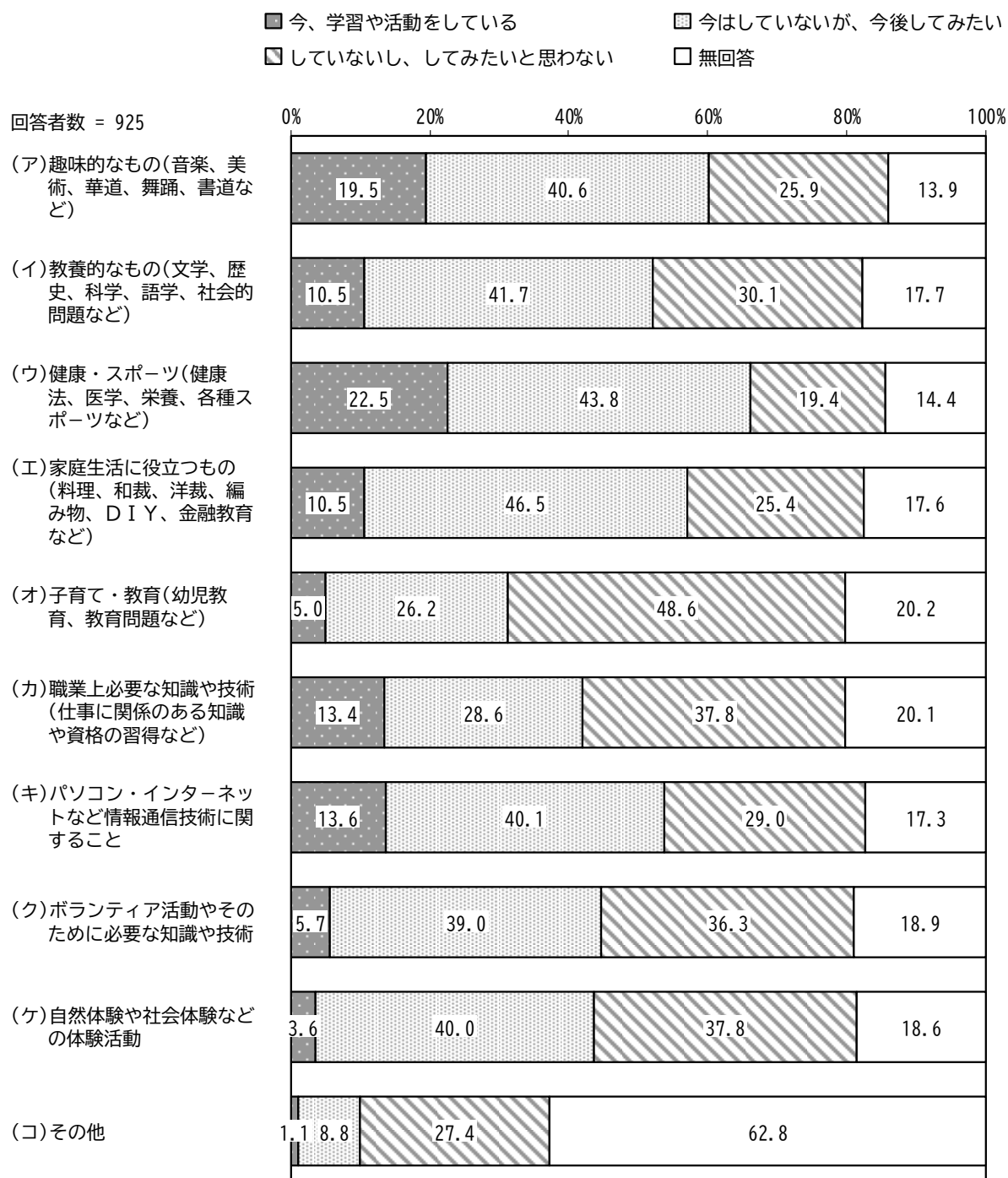
「1 時間～3 時間」の割合が 23.6%と最も高く、次いで「3 時間以上」の割合が 18.8%、「30 分未満」の割合が 5.7%となっています。



(4) 生涯学習について

問 20 現在、学校教育以外の生涯学習としてどのような学習や活動をしていますか。また、今後してみたいと思いますか。次の（ア）～（コ）のそれぞれの項目についてお答えください。

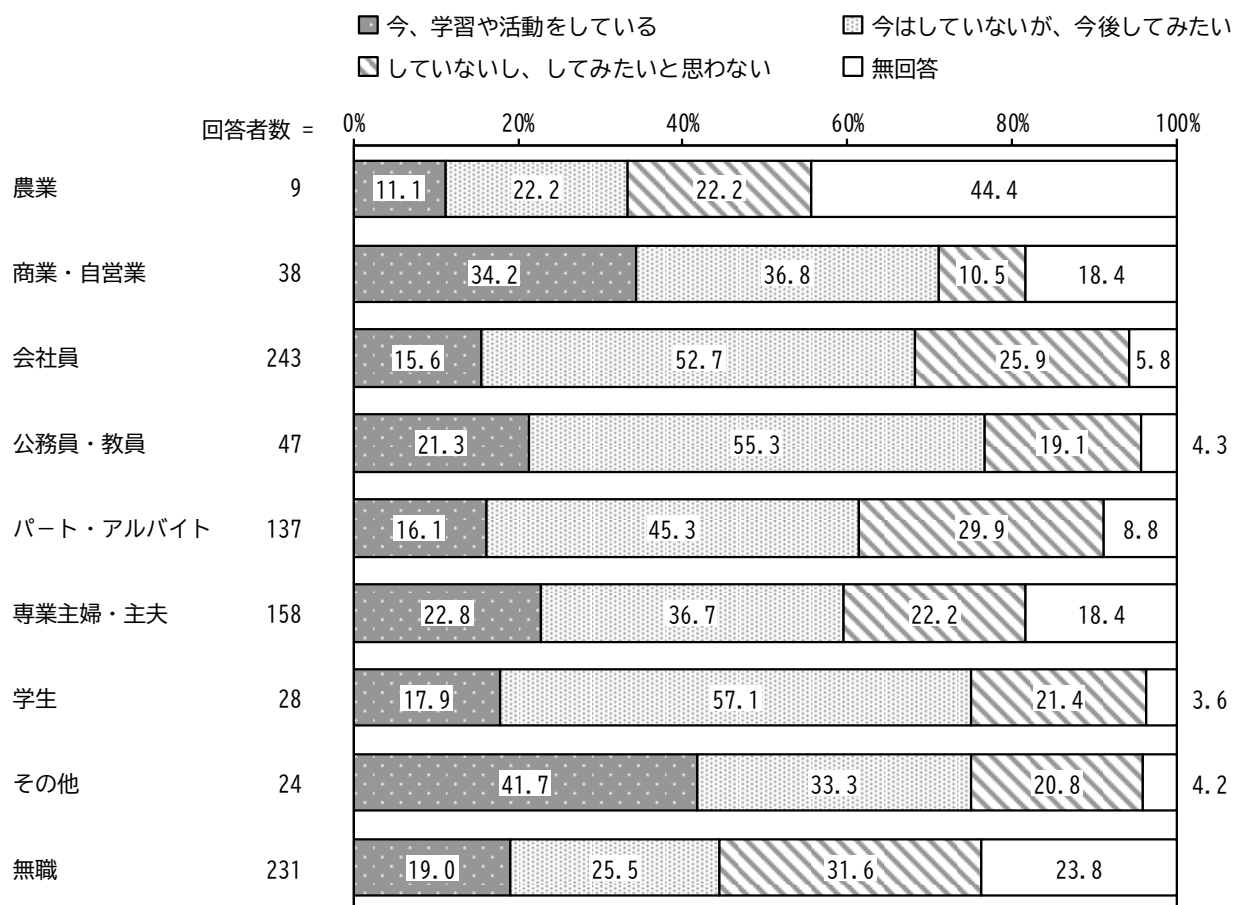
『（ア）趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）』『（ウ）健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、各種スポーツなど）』で「今、学習や活動をしている」の割合が高くなっています。



(ア) 趣味的なもの（音楽、美術、華道、舞踊、書道など）

【職業別】

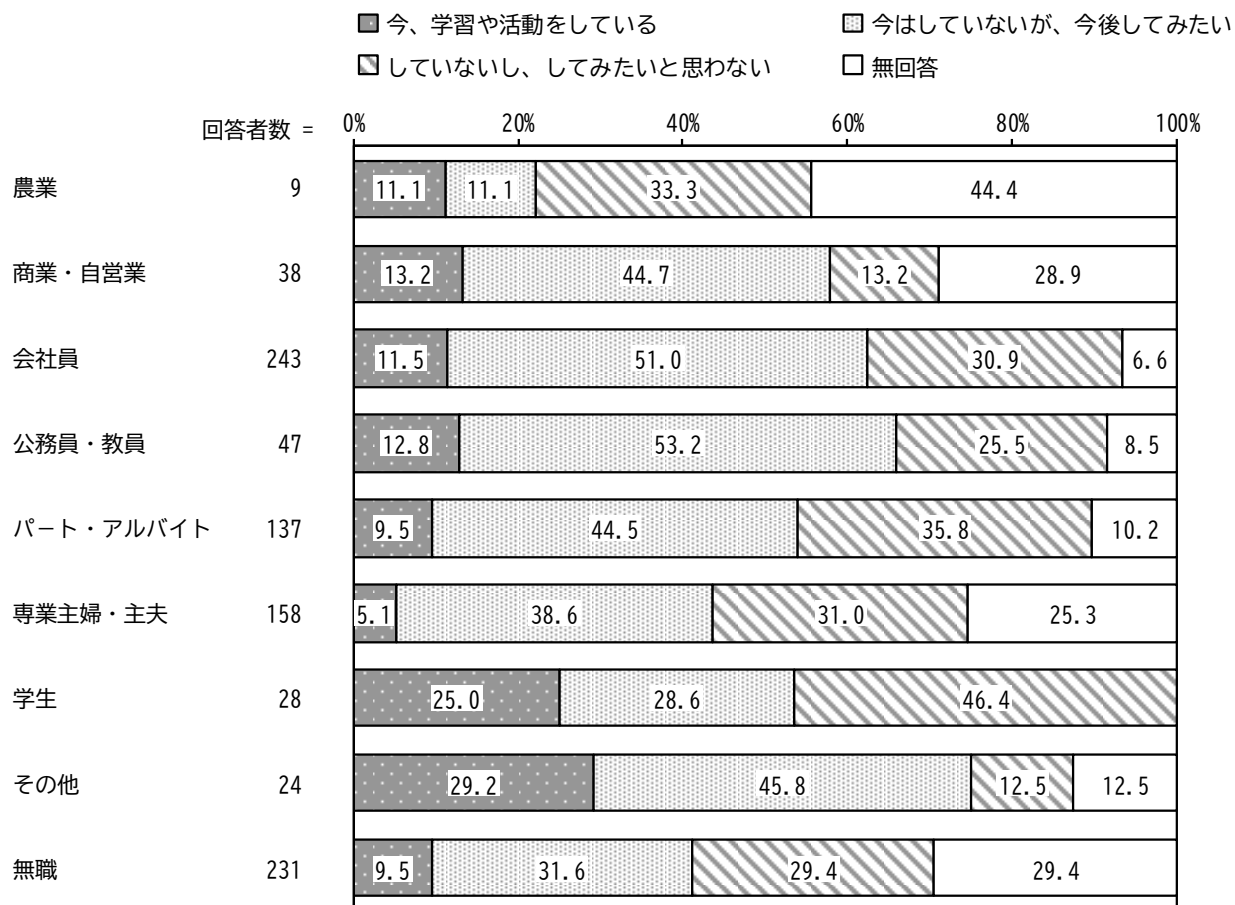
職業別にみると、「していないし、してみたいと思わない」について商業・自営業で低くなっています。



(イ) 教養的なもの(文学、歴史、科学、語学、社会的問題など)

【職業別】

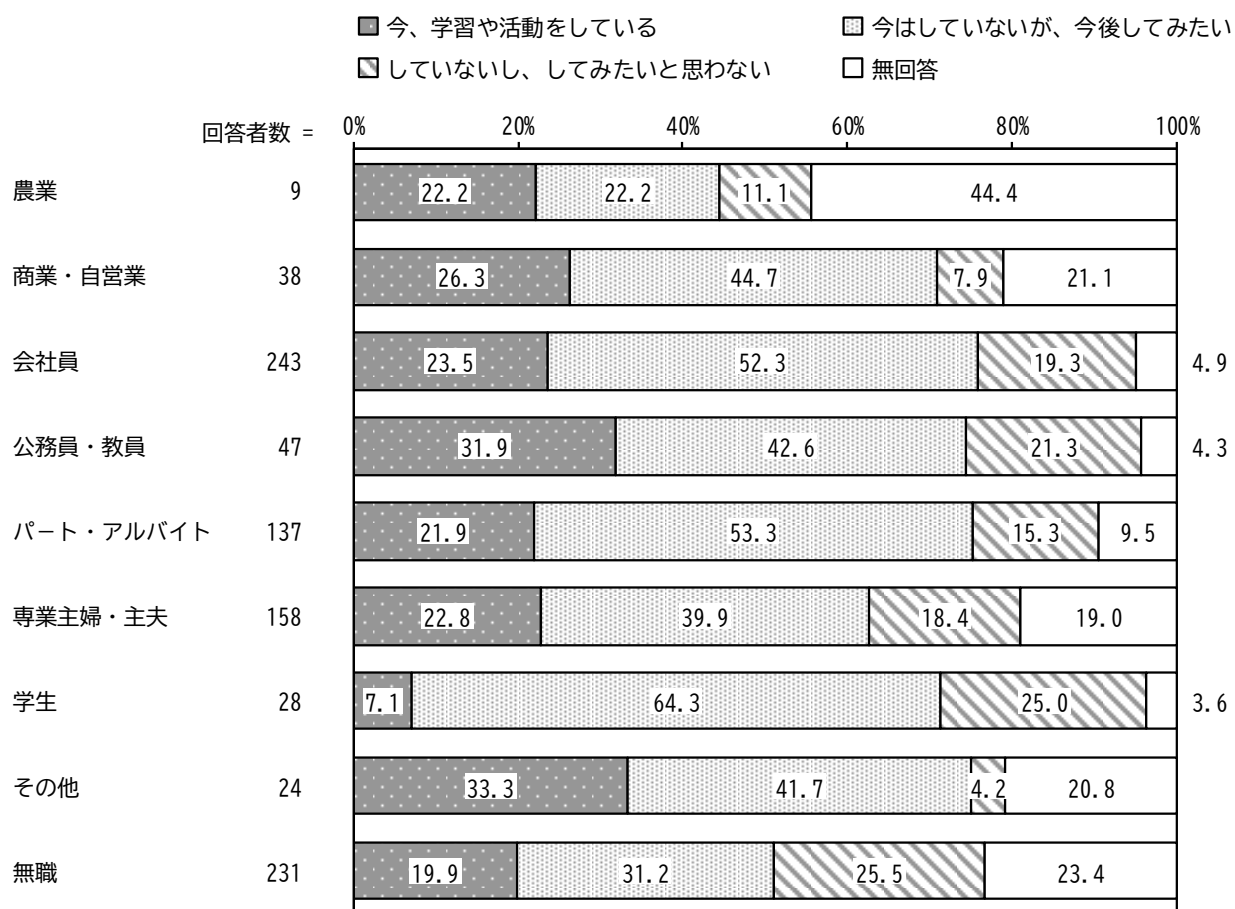
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について学生で高く、「今はしていないが、今後してみたい」について農業で低く、「していないし、してみたいと思わない」について商業・自営業で低くなっています。



(ウ) 健康・スポーツ（健康法、医学、栄養、各種スポーツなど）

【職業別】

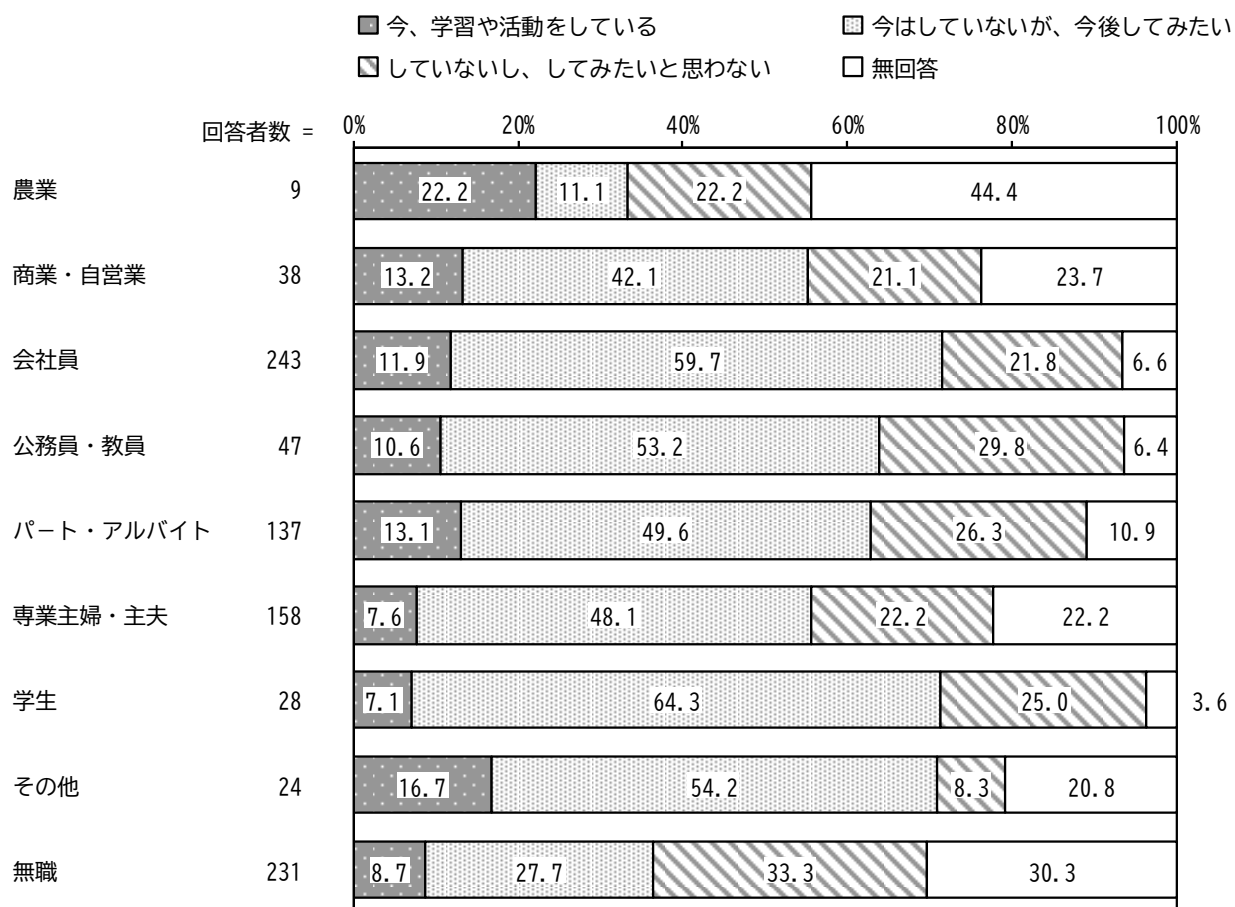
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について学生で低く、「今はしていないが、今後してみたい」について学生で高く、農業で低くなっています。



(エ) 家庭生活に役立つもの（料理、和裁、洋裁、編み物、D I Y、金融教育など）

【職業別】

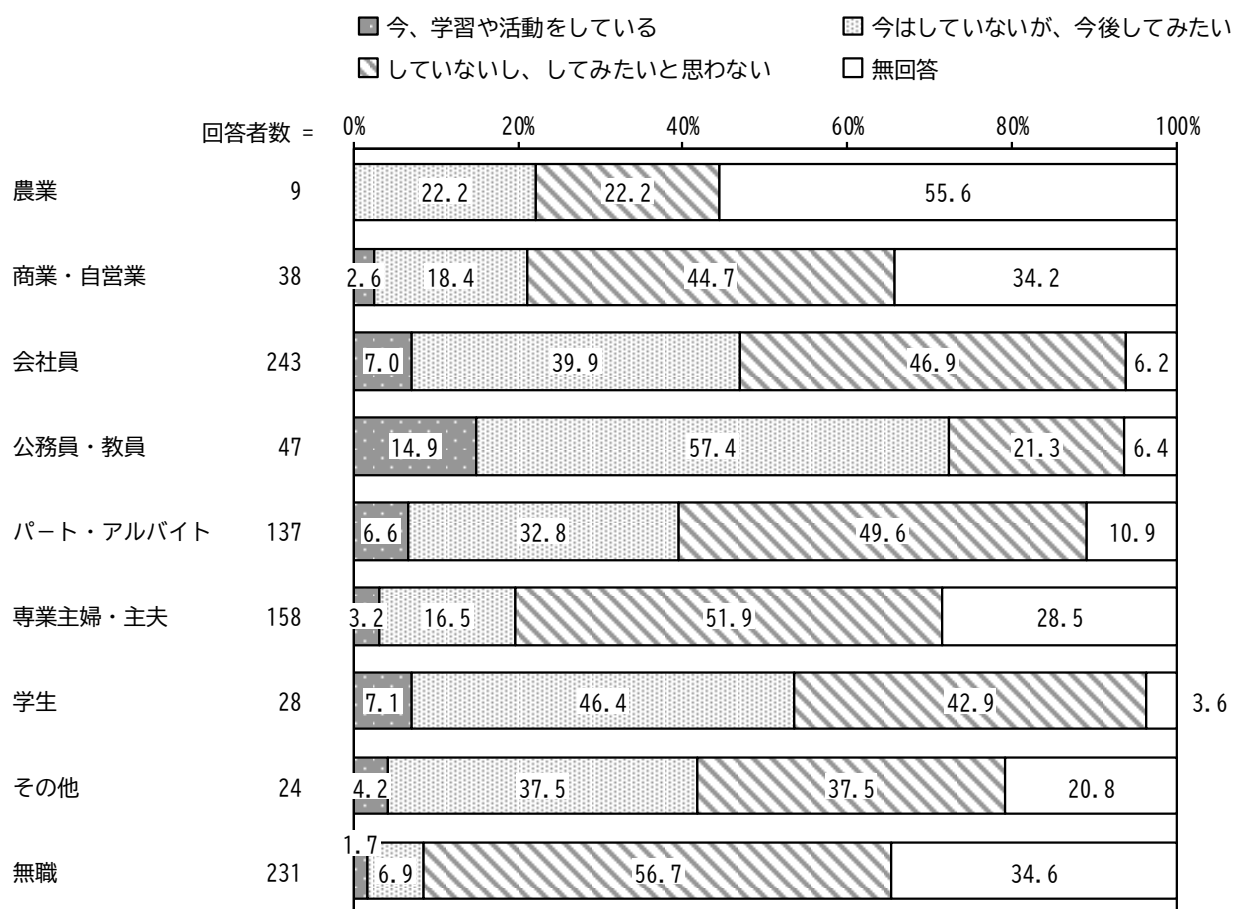
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について農業で高くなっています。



(オ) 子育て・教育（幼児教育、教育問題など）

【職業別】

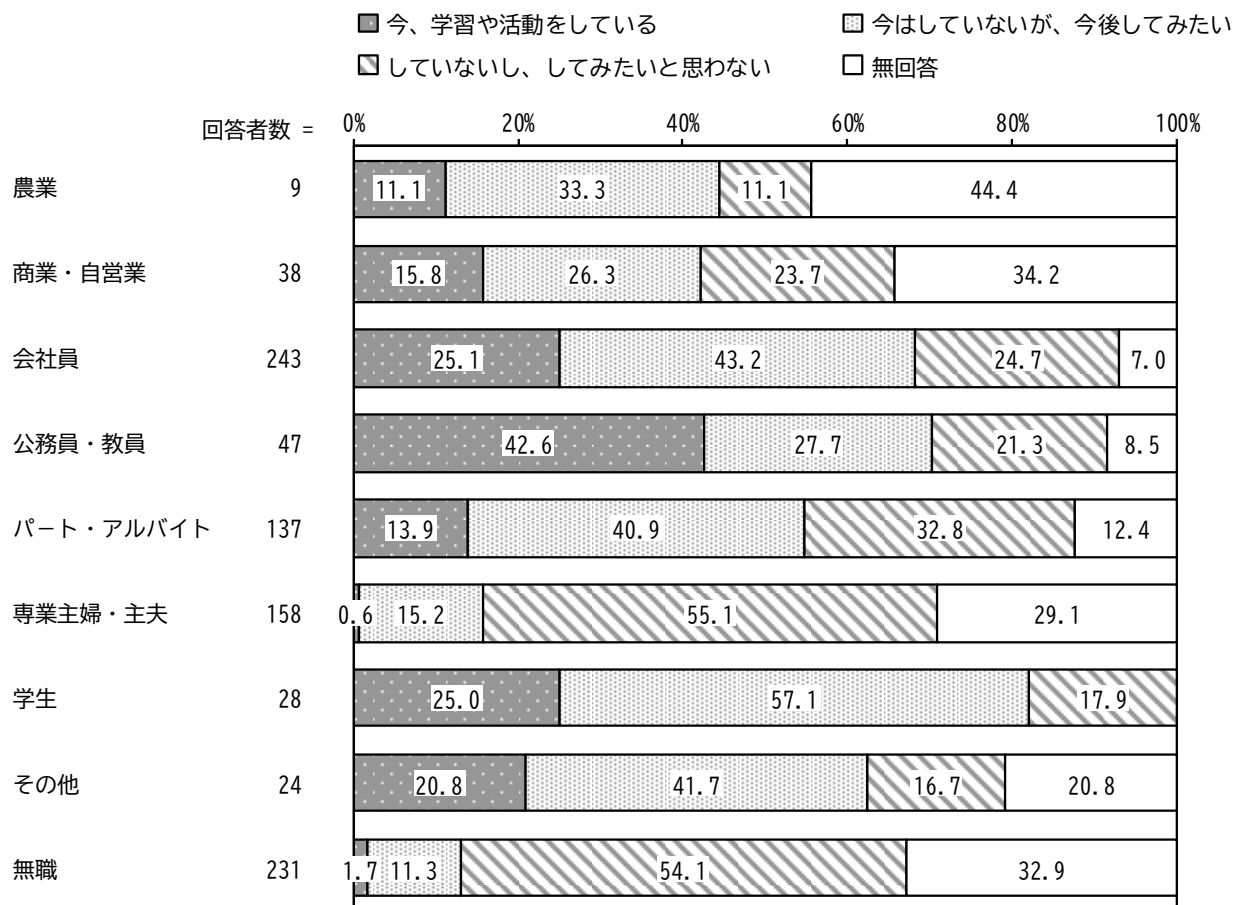
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について公務員・教員で高く、「していないし、してみたいと思わない」について農業、公務員・教員で低くなっています。



(カ) 職業上必要な知識や技術（仕事に関係のある知識や資格の習得など）

【職業別】

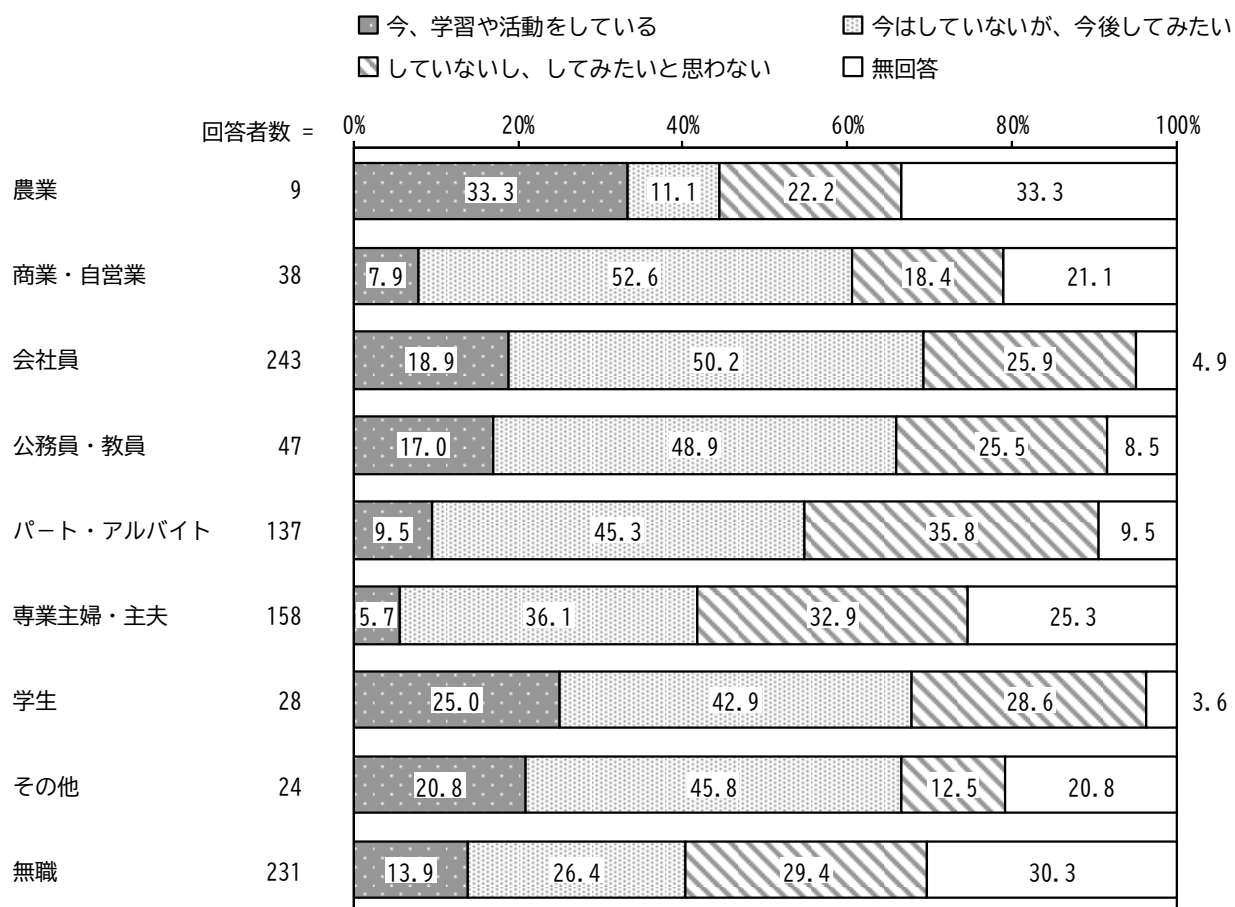
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について公務員・教員で高く、「今はしていないが、今後してみたい」について学生で高く、「していないし、してみたいと思わない」について農業で低くなっています。



(キ) パソコン・インターネットなど情報通信技術に関すること

【職業別】

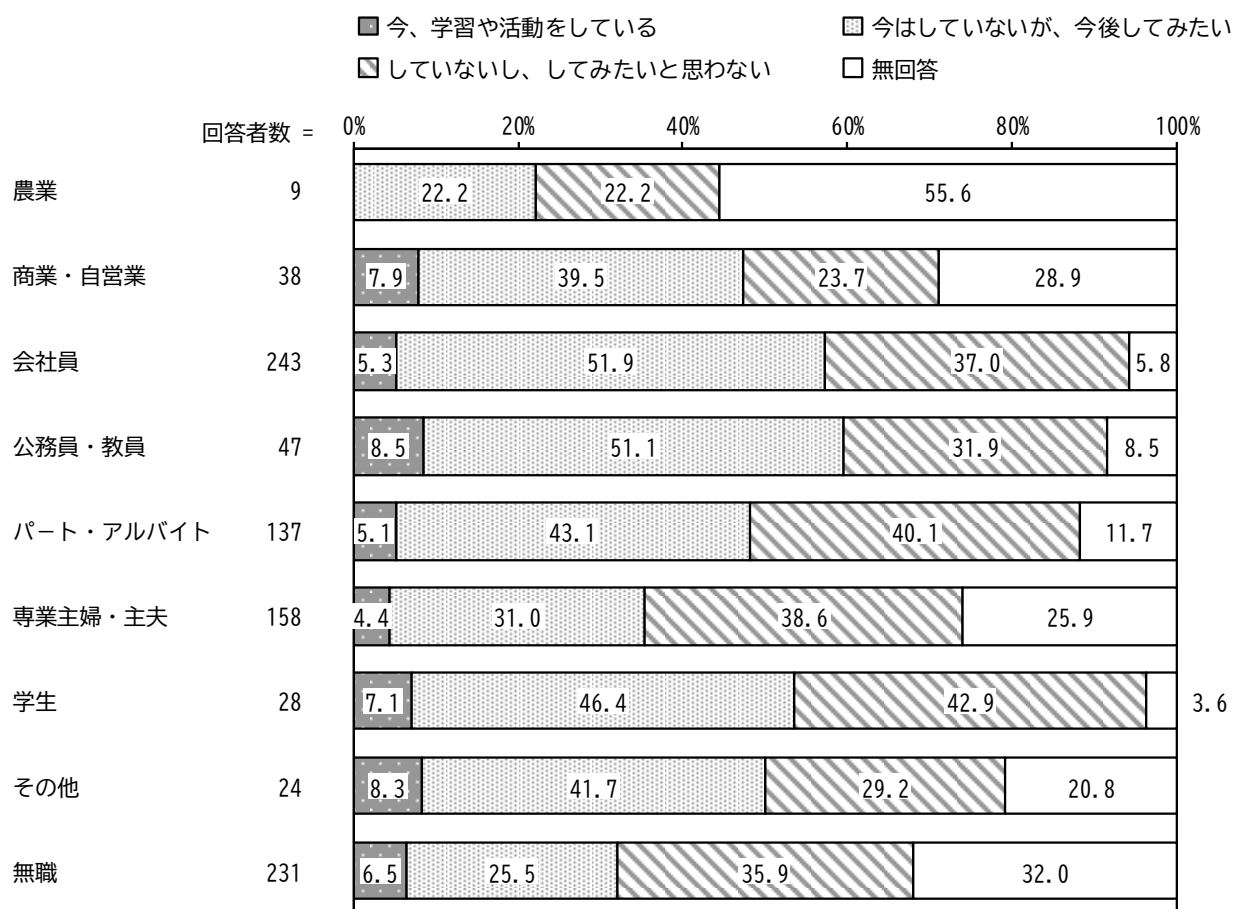
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について農業で高くなっています。



(ク) ボランティア活動やそのために必要な知識や技術

【職業別】

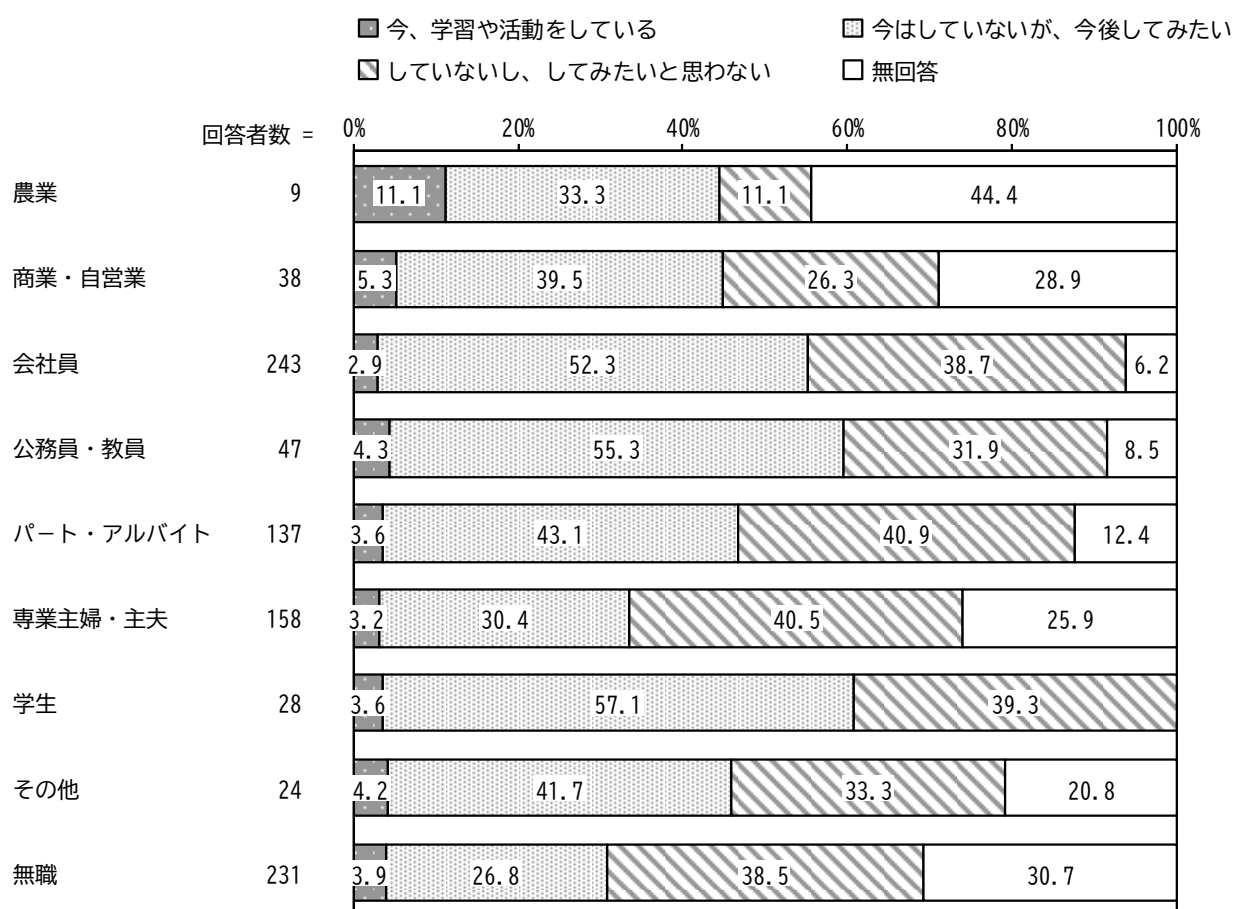
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について農業で低く、「していないし、してみたいと思わない」について商業・自営業で低くなっています。



(ケ) 自然体験や社会体験などの体験活動

【職業別】

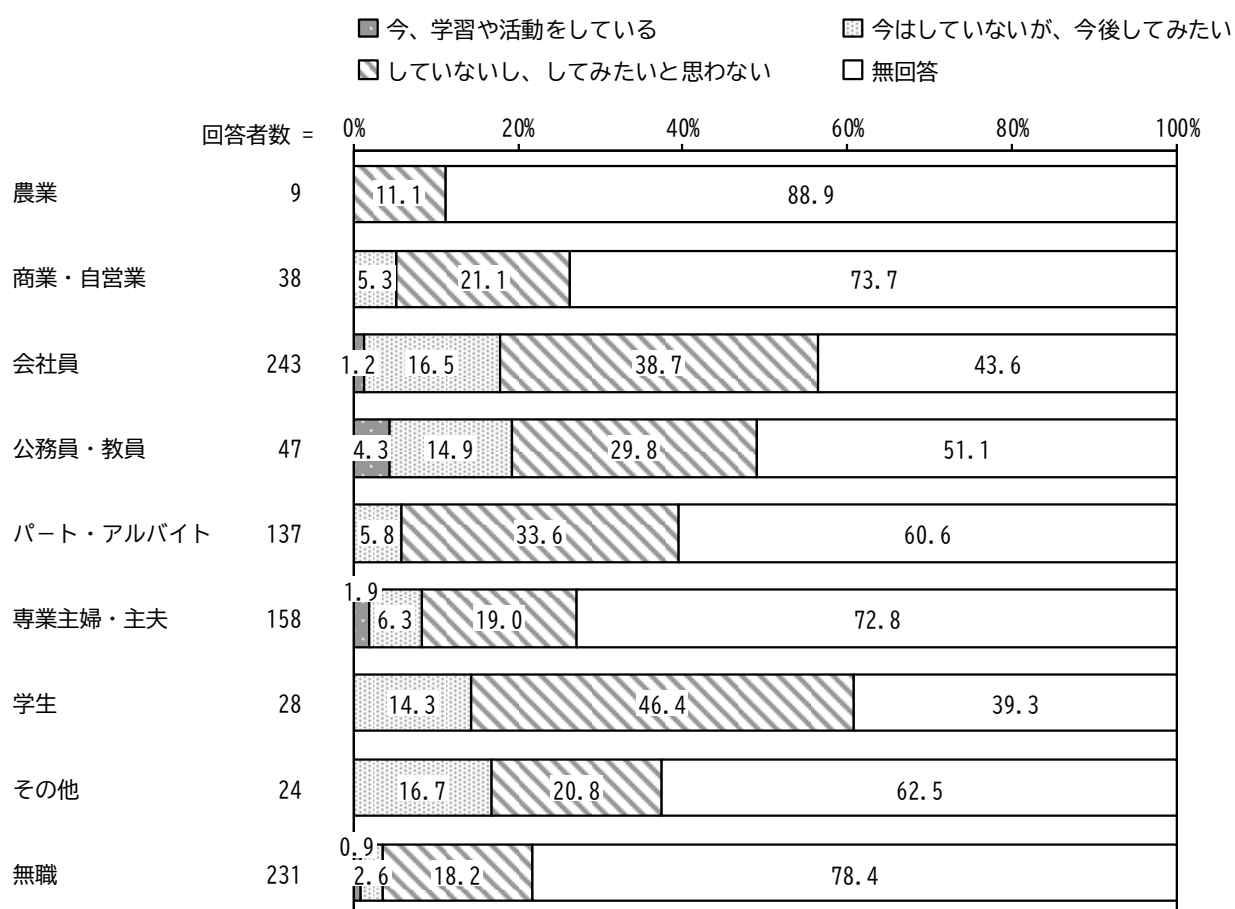
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について農業で高く、「今はしていないが、今後してみたい」について学生で高くなっています。



(コ) その他

【職業別】

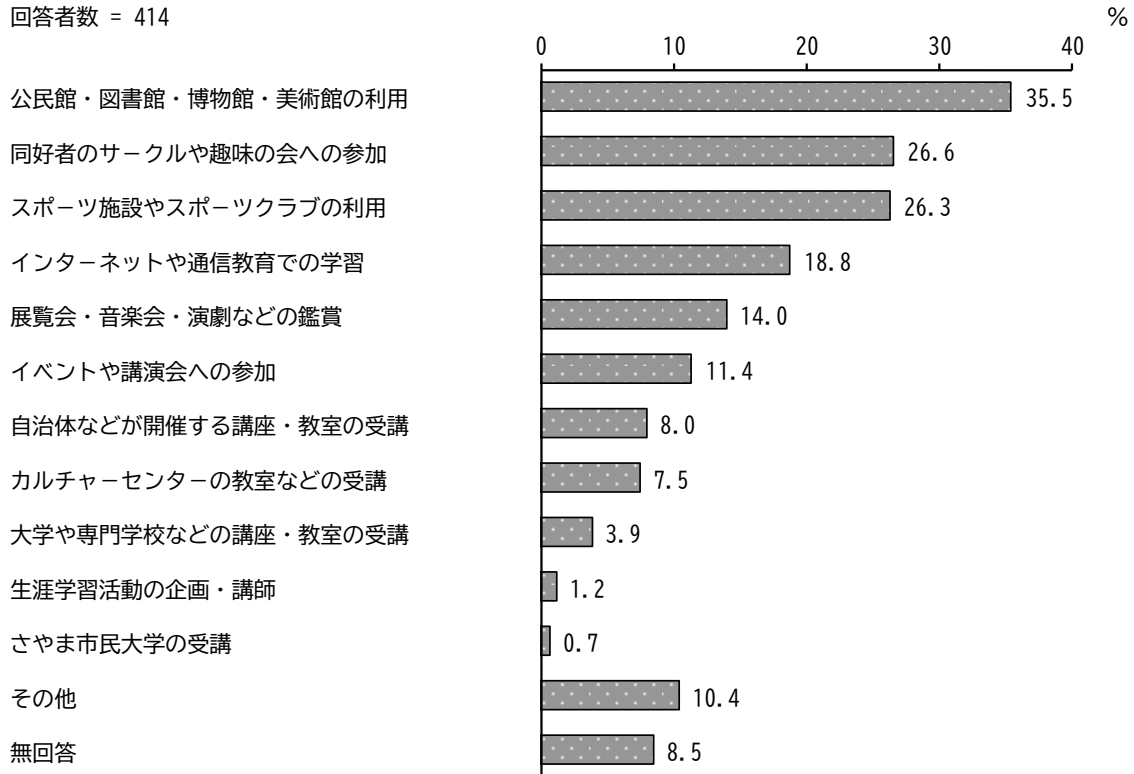
職業別にみると、「今、学習や活動をしている」について公務員・教員で高く、「していないし、してみたいと思わない」について学生で高くなっています。



問 21 問 20 で「今、学習や活動をしている」を選んだ方にお聞きします。生涯学習をどのような場で行っていますか。(主なもの3つまで○)

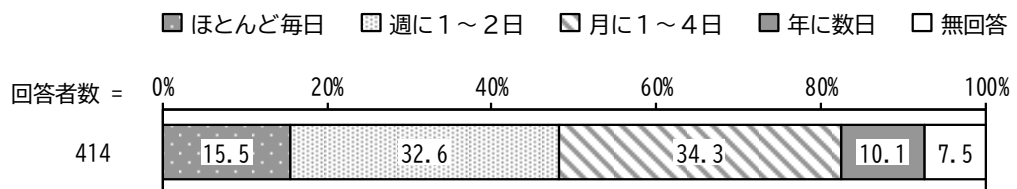
「公民館・図書館・博物館・美術館の利用」の割合が35.5%と最も高く、次いで「同好者のサークルや趣味の会への参加」の割合が26.6%、「スポーツ施設やスポーツクラブの利用」の割合が26.3%となっています。

回答者数 = 414



問 22 問 20 で「今、学習や活動をしている」を選んだ方にお聞きします。どれくらいの頻度で生涯学習を行っていますか。

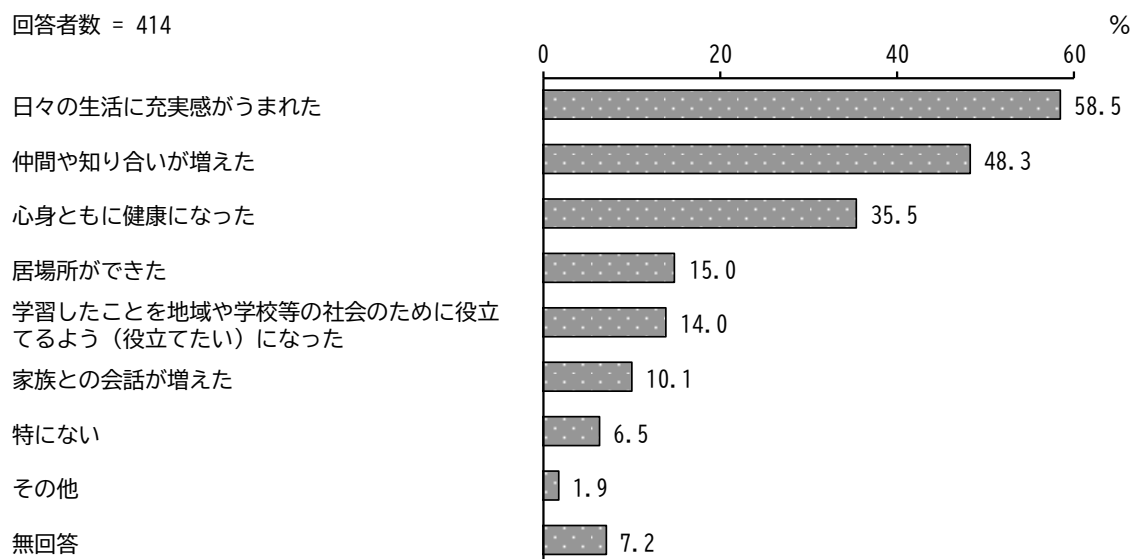
「月に1～4日」の割合が34.3%と最も高く、次いで「週に1～2日」の割合が32.6%、「ほとんど毎日」の割合が15.5%となっています。



問 23 問 20 で「今、学習や活動をしている」を選んだ方にお聞きします。生涯学習を行ったことで、あなたにどのような変化やプラスの効果があったと実感していますか。
(あてはまるものすべてに○)

「日々の生活に充実感がうまれた」の割合が58.5%と最も高く、次いで「仲間や知り合いが増えた」の割合が48.3%、「心身ともに健康になった」の割合が35.5%となっています。

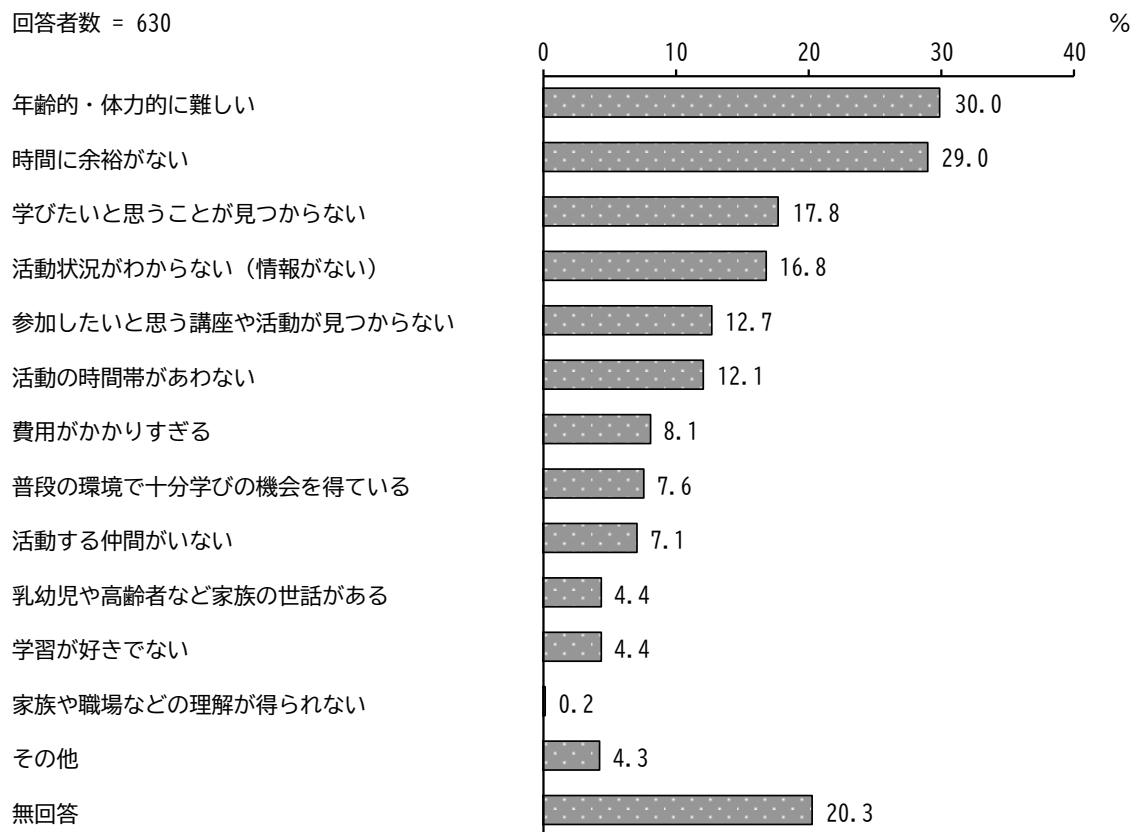
回答者数 = 414



問 24 問 20 で「していないし、してみたいと思わない」を選んだ方にお聞きします。生涯学習をしてみたいと思わない理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

「年齢的・体力的に難しい」の割合が30%と最も高く、次いで「時間に余裕がない」の割合が29%、「学びたいと思うことが見つからない」の割合が17.8%となっています。

回答者数 = 630



【年齢別】

年齢別にみると、「活動の時間帯があわない」について80歳以上で低く、「学びたいと思うことが見つからない」について10歳代で高く、「参加したいと思う講座や活動が見つからない」について40歳代で低く、「乳幼児や高齢者など家族の世話がある」について30歳代で高く、「学習が好きでない」について20歳代で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	時間に 余裕が ない	活動の 時間帯 があわ ない	学びた いと思 うこと が 見つ か ら な い	参加 した い と 思 う 講 座 や 活 動 が 見 つ か ら な い	費用 が か か り す ぎ る	活動 状況 が わ か ら な い (情 報 が な い)	活動 する 仲 間 が い な い	年 齢 的 ・ 体 力 的 に 難 し い	乳 幼 児 や 高 齢 者 な ど 家 族 の 世 話 が あ る	学習 が 好 き で な い	普 段 の 環 境 で 十 分 学 び の 機 会 を 得 て い る	家 族 や 職 場 な ど の 理 解 が 得 ら れ な い	そ の 他	無 回 答
全 体	630	29.0	12.1	17.8	12.7	8.1	16.8	7.1	30.0	4.4	4.4	7.6	0.2	4.3	20.3
10歳代	15	20.0	6.7	46.7	20.0	6.7	26.7	6.7	6.7	6.7	6.7	—	—	6.7	20.0
20歳代	44	34.1	11.4	31.8	22.7	15.9	11.4	9.1	—	2.3	18.2	6.8	—	2.3	20.5
30歳代	64	53.1	18.8	12.5	9.4	14.1	21.9	6.3	4.7	21.9	9.4	—	1.6	3.1	17.2
40歳代	80	55.0	11.3	20.0	—	8.8	11.3	5.0	5.0	2.5	3.8	11.3	—	3.8	21.3
50歳代	110	31.8	13.6	20.0	19.1	9.1	17.3	5.5	17.3	3.6	4.5	9.1	—	8.2	20.9
60歳代	107	29.9	15.9	16.8	15.9	7.5	24.3	8.4	26.2	1.9	2.8	5.6	—	2.8	23.4
70歳代	153	11.1	9.8	13.7	13.7	4.6	15.7	7.8	59.5	1.3	1.3	8.5	—	3.3	19.6
80歳以上	55	5.5	3.6	10.9	3.6	3.6	9.1	9.1	78.2	3.6	—	12.7	—	5.5	14.5

【職業別】

職業別にみると、「学びたいと思うことが見つからない」について学生で高く、「参加したいと思う講座や活動が見つからない」について農業で高く、「活動する仲間がいない」について商業・自営業で高く、「乳幼児や高齢者など家族の世話がある」について公務員・教員で高くなっています。

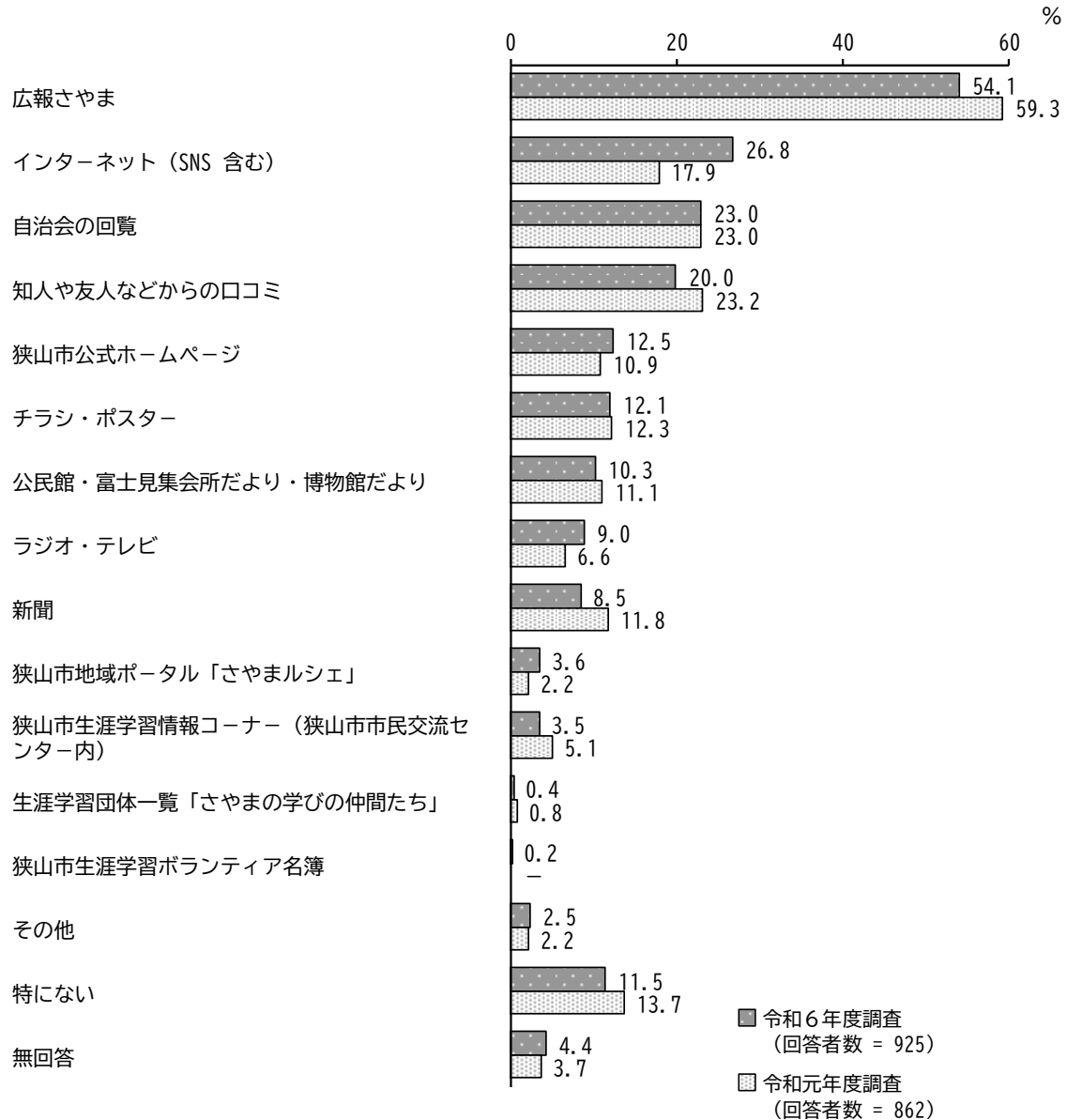
単位：％

区分	回答者数 (件)	時間に 余裕が ない	活動の 時間帯 があわ ない	学びた いと思 うこと が 見つ か ら な い	参加 した い と 思 う 講 座 や 活 動 が 見 つ か ら な い	費用 が か か り す ぎ る	活動 状況 が わ か ら な い (情 報 が な い)	活動 する 仲 間 が い な い	年 齢 的 ・ 体 力 的 に 難 し い	乳 幼 児 や 高 齢 者 な ど 家 族 の 世 話 が あ る	学習 が 好 き で な い	普 段 の 環 境 で 十 分 学 び の 機 会 を 得 て い る	家 族 や 職 場 な ど の 理 解 が 得 ら れ な い	そ の 他	無 回 答
全 体	630	29.0	12.1	17.8	12.7	8.1	16.8	7.1	30.0	4.4	4.4	7.6	0.2	4.3	20.3
農業	3	33.3	33.3	—	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—	33.3
商業・ 自営業	23	17.4	21.7	26.1	8.7	—	13.0	17.4	34.8	—	—	4.3	—	—	21.7
会社員	177	49.2	15.8	19.2	13.6	12.4	18.6	5.1	7.9	4.0	7.3	7.3	0.6	4.0	21.5
公務員・ 教員	31	45.2	9.7	25.8	16.1	6.5	3.2	3.2	3.2	16.1	9.7	3.2	—	3.2	22.6
パート・ アルバイト	101	32.7	16.8	13.9	11.9	8.9	16.8	7.9	22.8	5.0	5.9	9.9	—	5.0	19.8
専業主婦・ 主夫	105	21.0	6.7	12.4	11.4	3.8	11.4	7.6	51.4	7.6	—	4.8	—	4.8	21.0
学生	21	19.0	4.8	42.9	19.0	14.3	14.3	4.8	4.8	4.8	9.5	4.8	—	4.8	23.8
その他	15	6.7	6.7	6.7	13.3	—	20.0	13.3	6.7	—	—	13.3	—	13.3	40.0
無職	148	10.1	7.4	18.2	12.2	7.4	22.3	8.1	56.8	0.7	2.7	9.5	—	3.4	14.9

問 25 生涯学習に関する情報をどのように入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

「広報さやま」の割合が54.1%と最も高く、次いで「インターネット（SNS 含む）」の割合が26.8%、「自治会の回覧」の割合が23.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「インターネット（SNS 含む）」の割合が増加しています。一方、「広報さやま」の割合が減少しています。

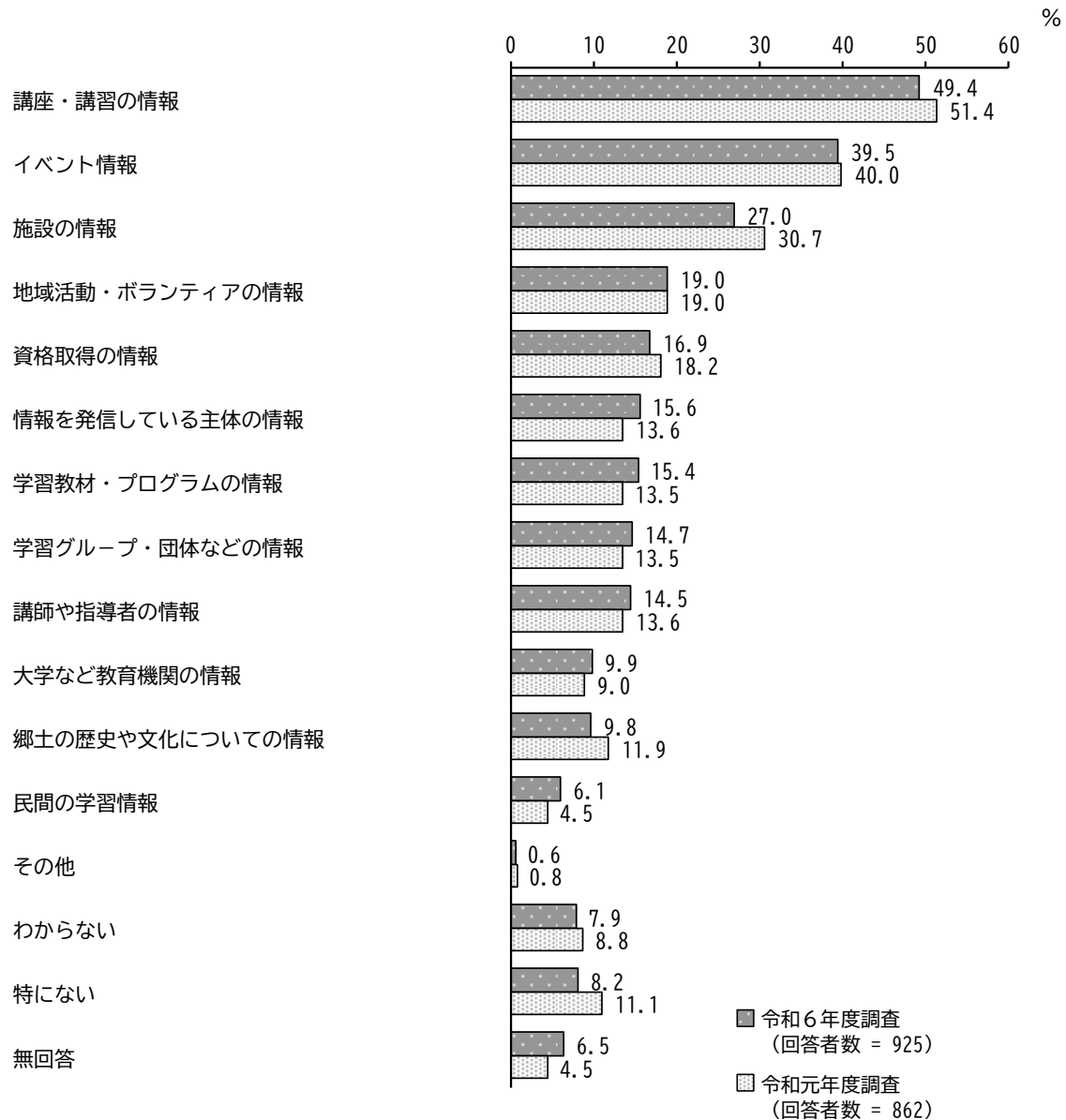


※前回調査では「狭山市生涯学習ボランティア名簿」はありませんでした。

問 26 あなたは、生涯学習に関してどのような情報が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「講座・講習の情報」の割合が49.4%と最も高く、次いで「イベント情報」の割合が39.5%、「施設の情報」の割合が27.0%となっています。

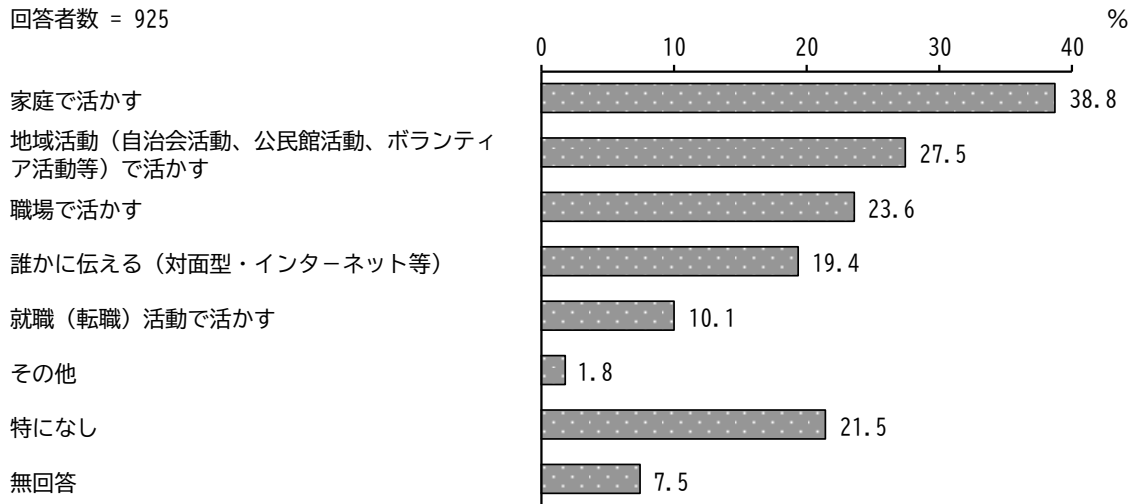
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 27 生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を、どのように活かしていきたいと考えていますか。(あてはまるものすべてに○)

「家庭で活かす」の割合が38.8%と最も高く、次いで「地域活動（自治会活動、公民館活動、ボランティア活動等）で活かす」の割合が27.5%、「職場で活かす」の割合が23.6%となっています。

回答者数 = 925



【職業別】

職業別にみると、「誰かに伝える（対面型・インターネット等）」について農業で高く、「就職（転職）活動で活かす」について学生で高くなっています。

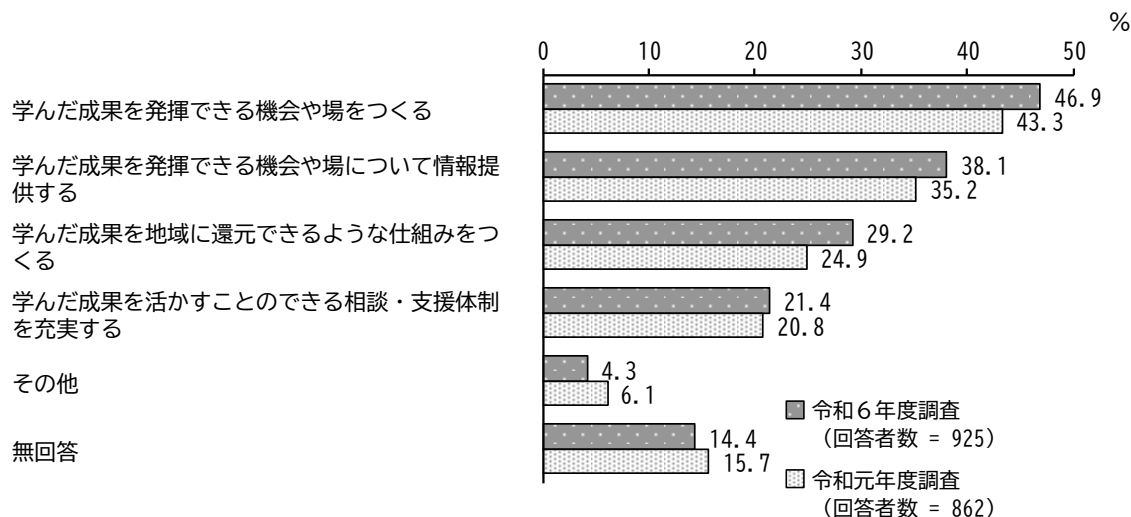
単位：%

区分	回答者数（件）	誰かに伝える（対面型・インターネット等）	職場で活かす	就職（転職）活動で活かす	家庭で活かす	地域活動（自治会活動、公民館活動、ボランティア活動等）で活かす	その他	特になし	無回答
全 体	925	19.4	23.6	10.1	38.8	27.5	1.8	21.5	7.5
農業	9	33.3	11.1	—	55.6	44.4	—	22.2	11.1
商業・自営業	38	15.8	5.3	5.3	26.3	28.9	2.6	26.3	10.5
会社員	243	24.3	48.6	16.5	42.8	26.7	0.8	15.6	2.1
公務員・教員	47	19.1	53.2	12.8	36.2	23.4	—	17.0	2.1
パート・アルバイト	137	18.2	30.7	13.9	48.9	23.4	1.5	23.4	3.6
専業主婦・主夫	158	17.7	1.9	1.9	39.2	31.0	2.5	24.7	8.2
学生	28	28.6	46.4	57.1	42.9	10.7	—	14.3	3.6
その他	24	25.0	20.8	4.2	37.5	29.2	4.2	8.3	—
無職	231	13.4	2.6	2.2	29.4	29.4	3.0	26.8	16.9

問 28 生涯学習を通じて身に付けた知識・技能や経験等を活かすためには何が必要だと思いますか。(主なもの3つまで○)

「学んだ成果を発揮できる機会や場をつくる」の割合が46.9%と最も高く、次いで「学んだ成果を発揮できる機会や場について情報提供する」の割合が38.1%、「学んだ成果を地域に還元できるような仕組みをつくる」の割合が29.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、「学んだ成果を発揮できる機会や場について情報提供する」について20歳代が高く、「学んだ成果を地域に還元できるような仕組みをつくる」について10歳代で低くなっています。

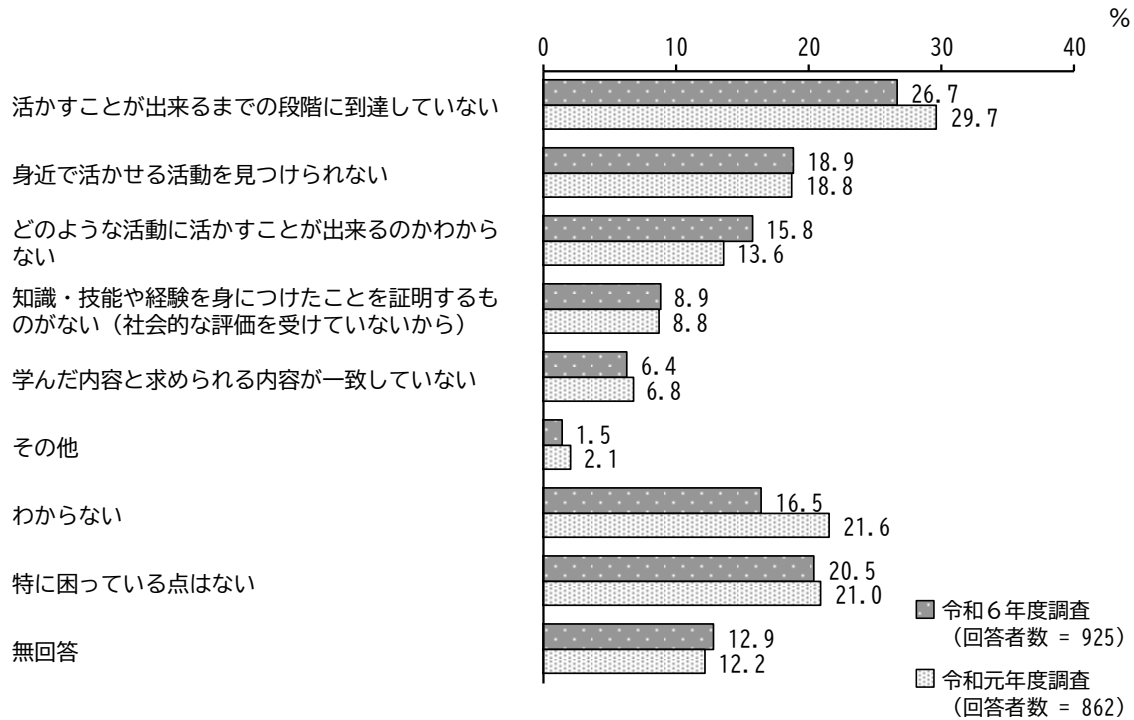
単位：%

区分	回答者数(件)	学んだ成果を発揮できる機会や場について情報提供する	学んだ成果を発揮できる機会や場をつくる	学んだ成果を活かすことのできる相談・支援体制を充実する	学んだ成果を地域に還元できるような仕組みをつくる	その他	無回答
全 体	925	38.1	46.9	21.4	29.2	4.3	14.4
10歳代	19	42.1	68.4	26.3	15.8	—	—
20歳代	60	46.7	56.7	28.3	25.0	3.3	1.7
30歳代	82	45.1	67.1	28.0	28.0	—	2.4
40歳代	107	43.9	59.8	24.3	26.2	3.7	2.8
50歳代	148	39.2	49.3	25.0	35.1	4.1	5.4
60歳代	166	38.0	44.6	22.9	34.3	3.0	13.3
70歳代	217	32.3	36.4	14.7	27.6	6.0	27.2
80歳以上	120	32.5	33.3	16.7	24.2	8.3	30.0

問 29 生涯学習を通じて身につけた知識・技能や経験を、仕事や地域活動に生かすにあたってお困りの点は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

「活かすことが出来るまでの段階に到達していない」の割合が26.7%と最も高く、次いで「特に困っている点はない」の割合が20.5%、「身近で活かせる活動を見つけられない」の割合が18.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「わからない」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、「活かすことが出来るまでの段階に到達していない」について30歳代で高く、「知識・技能や経験を身につけたことを証明するものがない（社会的な評価を受けていないから）」について20歳代で高く、「学んだ内容と求められる内容が一致していない」について10歳代で高く、「どのような活動に活かすことが出来るのかわからない」について80歳以上で低く、「わからない」について50歳代で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	活かすことが出来るまでの段階 に到達していない	知識・技能や経験を身につけたこ とを証明するものがない(社会的 な評価を受けていないから)	学んだ内容と求められる内容が 一致していない	身近で活かせる活動を見つけら れない	どのような活動に活かすことが 出来るのかわからない	その他	わからない	特に困っている点はない	無回答
全 体	925	26.7	8.9	6.4	18.9	15.8	1.5	16.5	20.5	12.9
10歳代	19	26.3	10.5	21.1	15.8	21.1	—	15.8	31.6	—
20歳代	60	23.3	23.3	15.0	28.3	15.0	1.7	13.3	26.7	3.3
30歳代	82	36.6	13.4	8.5	18.3	22.0	1.2	15.9	19.5	2.4
40歳代	107	35.5	10.3	5.6	16.8	21.5	2.8	18.7	21.5	0.9
50歳代	148	27.7	8.8	4.7	22.3	14.9	—	21.6	19.6	6.1
60歳代	166	25.9	7.8	6.6	23.5	22.9	0.6	16.3	14.5	15.1
70歳代	217	23.0	5.5	5.1	15.2	11.5	2.3	15.2	23.0	19.4
80歳以上	120	19.2	5.0	3.3	14.2	5.0	2.5	14.2	21.7	30.0

【職業別】

職業別にみると、「活かすことが出来るまでの段階に到達していない」について会社員で高く、「知識・技能や経験を身につけたことを証明するものがない（社会的な評価を受けていないから）」について商業・自営業で低く、「学んだ内容と求められる内容が一致していない」について学生で高く、「わからない」について農業で低く、「特に困っている点はない」について公務員・教員で高くなっています。

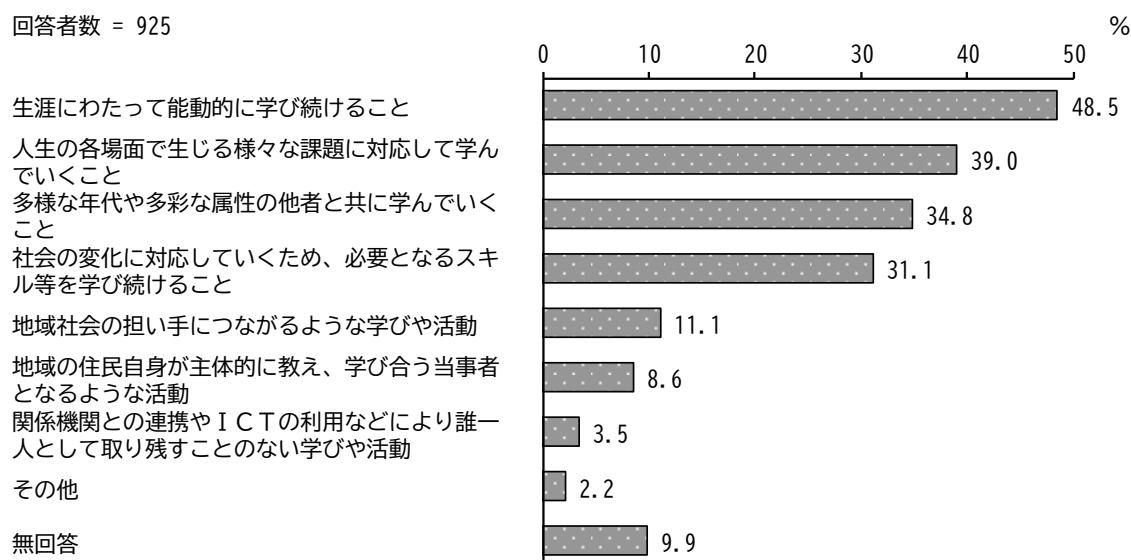
単位：％

区分	回答者数（件）	活かすことが出来るまでの段階に到達していない	知識・技能や経験を身につけたことを証明するものがない（社会的な評価を受けていないから）	学んだ内容と求められる内容が一致していない	身近で活かせる活動を見つけれない	どのような活動に活かすことが出来るのかわからない	その他	わからない	特に困っている点はない	無回答
全 体	925	26.7	8.9	6.4	18.9	15.8	1.5	16.5	20.5	12.9
農業	9	22.2	11.1	—	11.1	22.2	—	11.1	22.2	11.1
商業・自営業	38	26.3	2.6	5.3	15.8	13.2	—	15.8	18.4	15.8
会社員	243	33.3	10.3	7.8	25.9	21.8	1.6	14.4	18.5	4.5
公務員・教員	47	27.7	10.6	8.5	14.9	6.4	—	12.8	40.4	2.1
パート・アルバイト	137	28.5	7.3	2.9	15.3	16.8	0.7	20.4	18.2	10.9
専業主婦・主夫	158	22.8	5.1	3.8	17.1	12.7	3.2	18.4	24.1	16.5
学生	28	28.6	14.3	28.6	32.1	21.4	—	14.3	28.6	—
その他	24	29.2	12.5	4.2	16.7	12.5	—	16.7	25.0	4.2
無職	231	20.8	10.4	6.1	14.7	12.6	1.7	16.9	17.3	23.8

問 30 あなたは、学校教育以外でどのように学び、活動していくことが必要だと思いますか。（主なもの3つまで○）

「生涯にわたって能動的に学び続けること」の割合が48.5％と最も高く、次いで「人生の各場面で生じる様々な課題に対応して学んでいくこと」の割合が39.0％、「多様な年代や多彩な属性の他者と共に学んでいくこと」の割合が34.8％となっています。

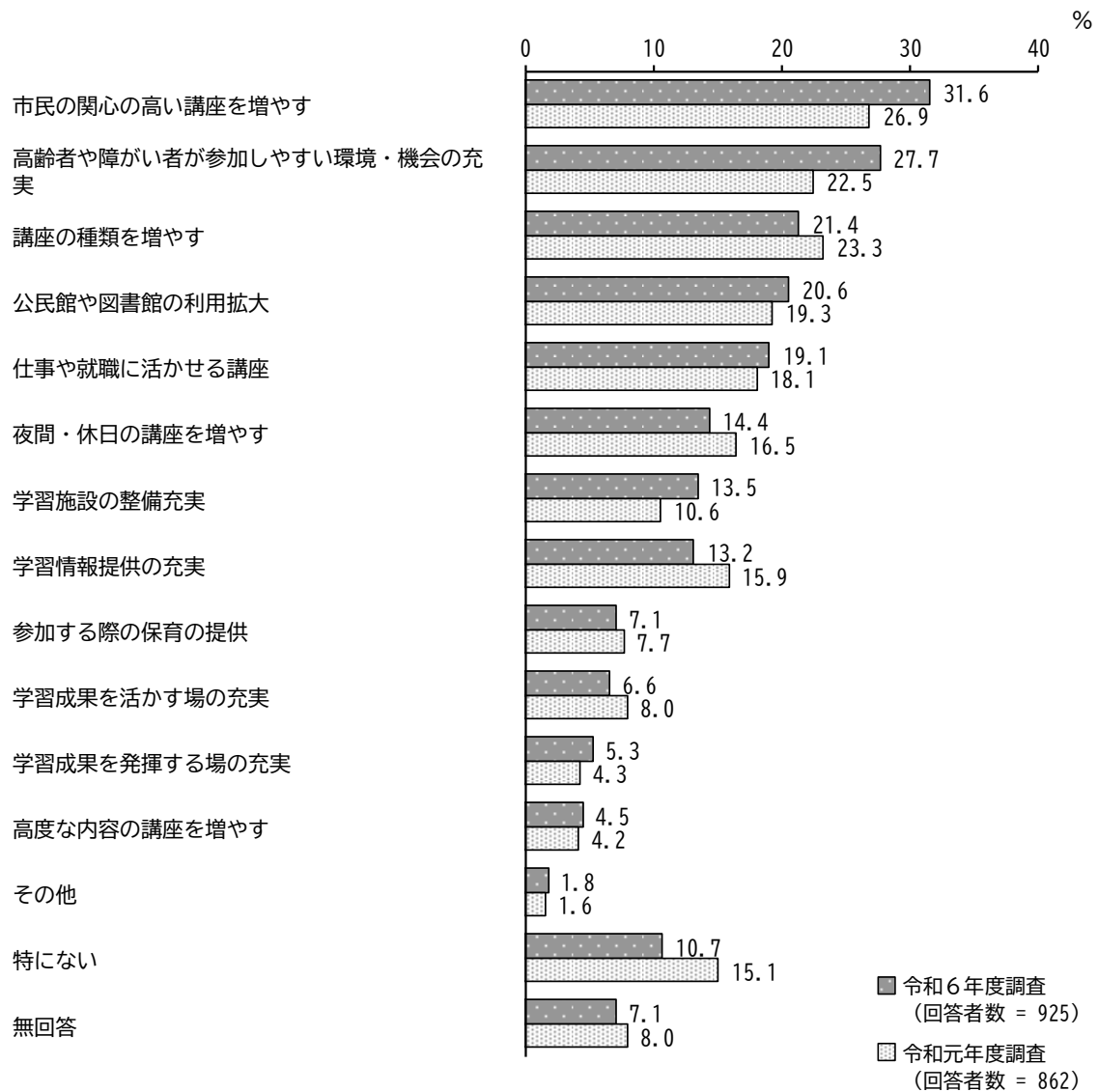
回答者数 = 925



問 31 生涯学習を充実するために、狭山市の行政に、特に力を入れてほしいことは何ですか。（主なもの3つまで○）

「市民の関心の高い講座を増やす」の割合が31.6%と最も高く、次いで「高齢者や障がい者が参加しやすい環境・機会の充実」の割合が27.7%、「講座の種類を増やす」の割合が21.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「高齢者や障がい者が参加しやすい環境・機会の充実」の割合が増加しています。



【年齢別】

年齢別にみると、「仕事や就職に活かせる講座」について20歳代で高く、「学習施設の整備充実」について10歳代で高く、「学習情報提供の充実」について60歳代で高く、「参加する際の保育の提供」について30歳代で高く、「学習成果を活かす場の充実」について40歳代で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	講座の 種類を増やす	夜間・休日の講座を増やす	市民の関心の高い講座を増やす	高度な内容の講座を増やす	仕事や就職に活かせる講座	学習施設の整備充実	公民館や図書館の利用拡大
全 体	925	21.4	14.4	31.6	4.5	19.1	13.5	20.6
10歳代	19	10.5	26.3	47.4	5.3	26.3	31.6	15.8
20歳代	60	20.0	20.0	28.3	6.7	48.3	18.3	11.7
30歳代	82	19.5	35.4	29.3	6.1	31.7	18.3	25.6
40歳代	107	24.3	29.0	39.3	4.7	29.0	16.8	20.6
50歳代	148	28.4	18.2	35.8	6.8	28.4	16.9	14.2
60歳代	166	25.9	10.8	31.3	3.6	13.3	12.0	24.7
70歳代	217	20.3	3.7	29.0	3.7	6.9	8.3	21.2
80歳以上	120	10.8	1.7	25.0	2.5	5.0	9.2	22.5

区分	学習情報提供の充実	参加する際の保育の提供	高齢者や障がい者が参加しやすい環境・機会の充実	学習成果を発揮する場の充実	学習成果を活かす場の充実	その他	特にない	無回答
全 体	13.2	7.1	27.7	5.3	6.6	1.8	10.7	7.1
10歳代	5.3	—	10.5	10.5	5.3	—	10.5	—
20歳代	10.0	10.0	5.0	13.3	5.0	3.3	13.3	3.3
30歳代	8.5	19.5	6.1	4.9	6.1	2.4	11.0	1.2
40歳代	12.1	11.2	8.4	1.9	11.2	2.8	12.1	—
50歳代	15.5	7.4	18.9	8.8	10.8	2.0	8.1	2.0
60歳代	24.1	5.4	31.3	6.0	3.6	2.4	7.8	6.0
70歳代	11.1	5.1	41.0	1.4	5.1	0.9	13.8	12.0
80歳以上	6.7	0.8	54.2	5.8	5.8	0.8	10.0	19.2

【職業別】

職業別にみると、「講座の種類を増やす」について公務員・教員で高く、「夜間・休日の講座を増やす」について会社員で高く、「学習成果を発揮する場の充実」について学生で高く、「学習成果を活かす場の充実」について農業で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	講座の種類を増やす	夜間・休日の講座を増やす	市民の関心の高い講座を増やす	高度な内容の講座を増やす	仕事や就職に活かせる講座	学習施設の整備充実	公民館や図書館の利用拡
全 体	925	21.4	14.4	31.6	4.5	19.1	13.5	20.6
農業	9	22.2	22.2	22.2	－	－	－	11.1
商業・自営業	38	26.3	13.2	36.8	2.6	21.1	13.2	21.1
会社員	243	23.9	29.6	33.7	9.1	30.9	16.0	21.4
公務員・教員	47	29.8	19.1	31.9	2.1	27.7	21.3	21.3
パート・アルバイト	137	24.8	13.1	32.8	5.1	24.1	13.9	17.5
専業主婦・主夫	158	22.2	4.4	28.5	1.9	10.8	10.8	25.3
学生	28	17.9	14.3	39.3	3.6	32.1	21.4	14.3
その他	24	20.8	25.0	37.5	－	12.5	20.8	29.2
無職	231	14.7	3.5	27.7	3.0	6.9	9.5	18.2

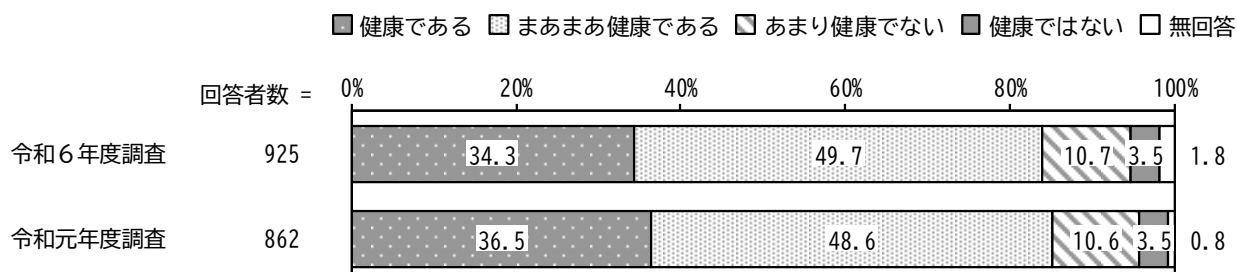
区分	学習情報提供の充実	参加する際の保育の提供	高齢者や障がい者が参加しやすい環境・機会の充実	学習成果を発揮する場の充実	学習成果を活かす場の充実	その他	特にない	無回答
全 体	13.2	7.1	27.7	5.3	6.6	1.8	10.7	7.1
農業	11.1	－	33.3	－	44.4	－	22.2	－
商業・自営業	5.3	5.3	18.4	5.3	10.5	7.9	2.6	7.9
会社員	14.0	10.3	14.8	8.6	9.5	2.1	9.9	0.8
公務員・教員	12.8	4.3	6.4	4.3	10.6	2.1	12.8	2.1
パート・アルバイト	14.6	7.3	25.5	2.2	5.1	2.9	10.2	6.6
専業主婦・主夫	11.4	10.1	41.1	3.8	5.1	－	7.0	10.8
学生	3.6	3.6	14.3	21.4	3.6	－	17.9	－
その他	16.7	8.3	20.8	8.3	8.3	－	12.5	－
無職	15.2	3.5	40.7	3.0	2.2	1.7	14.3	14.7

(5) スポーツについて

問 32 ご自分の健康状態は、いかがですか。

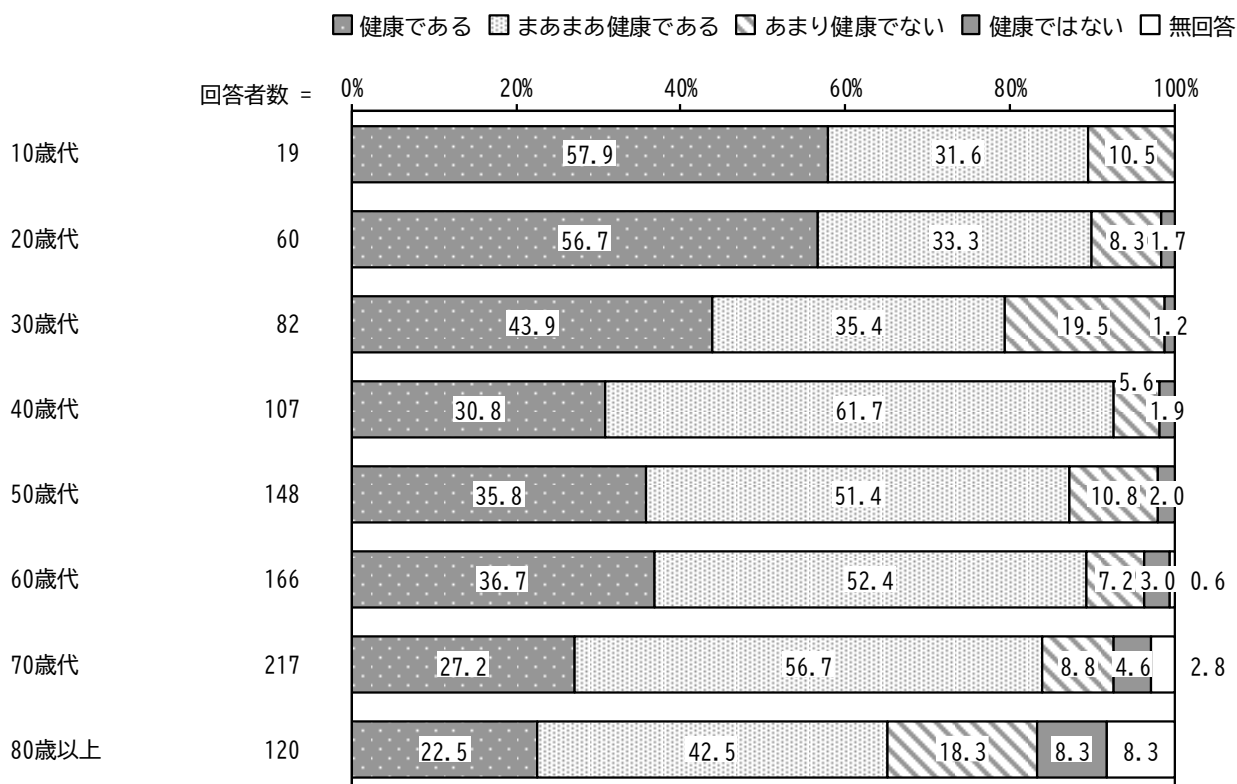
「健康である」「まあまあ健康である」を合わせた「健康である」の割合が84%、「あまり健康でない」「健康ではない」を合わせた「健康ではない」の割合が14.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

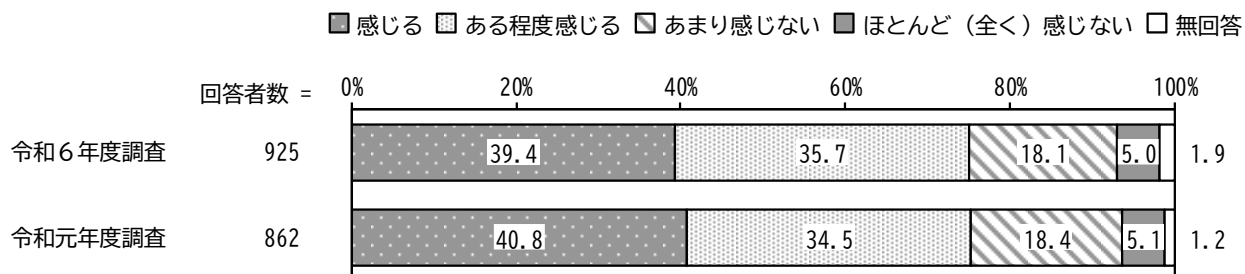
年齢別にみると、「健康である」について10歳代、20歳代で高く、「あまり健康でない」について30歳代で高く、「健康ではない」について80歳以上で高くなっています。



問 33 普段、運動不足を感じますか。

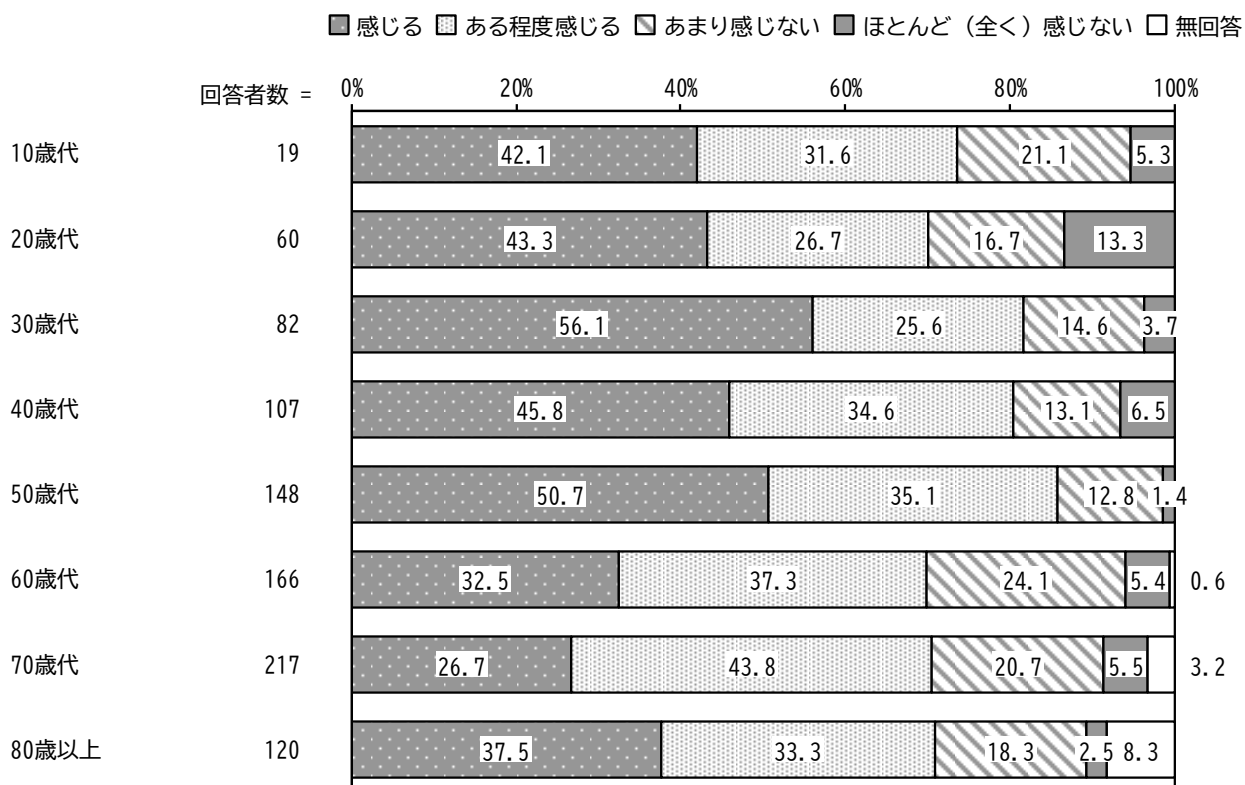
「感じる」「ある程度感じる」を合わせた”感じる”の割合が75.1%、「あまり感じない」「ほとんど（全く）感じない」を合わせた”感じない”の割合が23.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

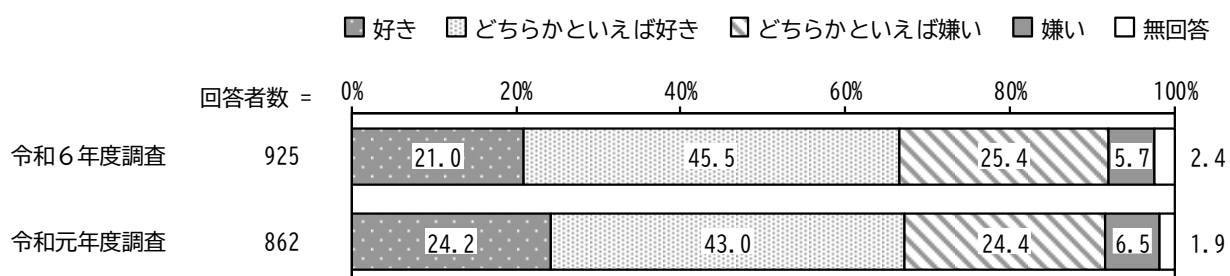
年齢別にみると、「感じる」について30歳代で高く、「ほとんど（全く）感じない」について20歳代で高くなっています。



問 34 日頃から、スポーツをすることが好きですか。

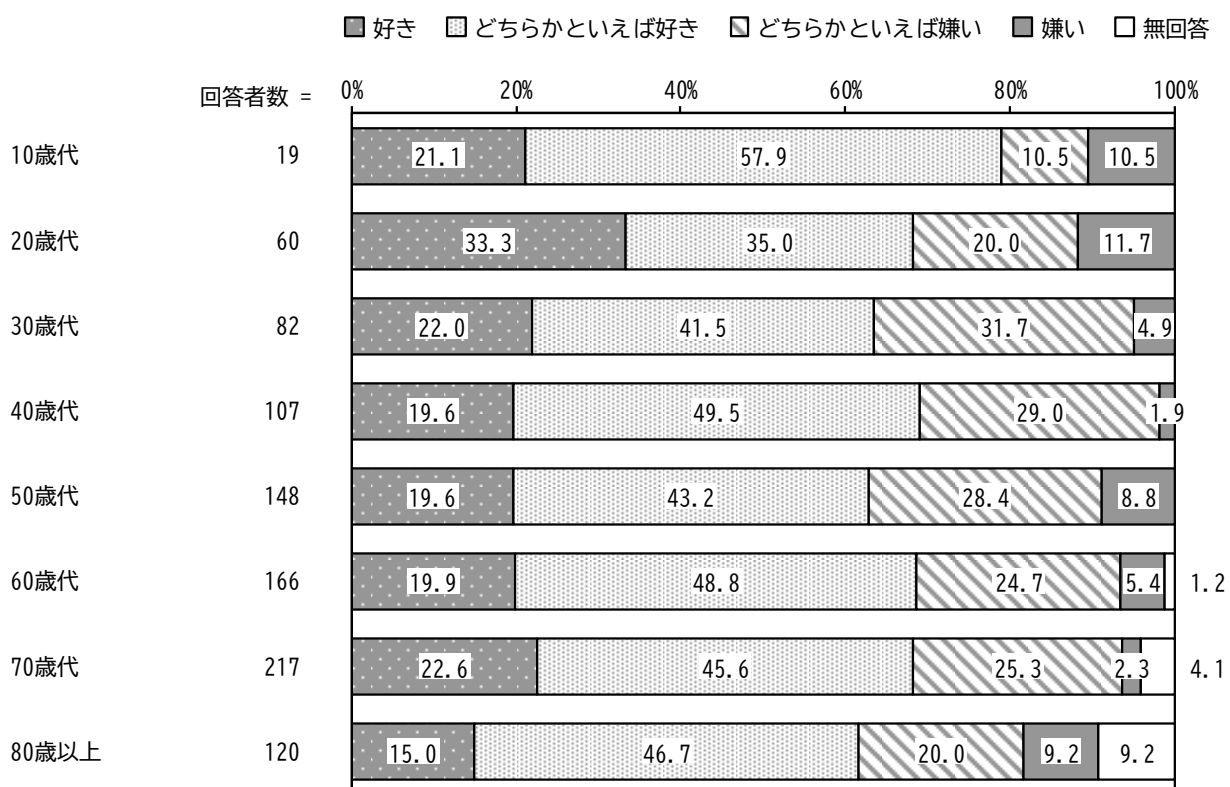
「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた”好き”の割合が66.5%、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を合わせた”嫌い”の割合が31.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

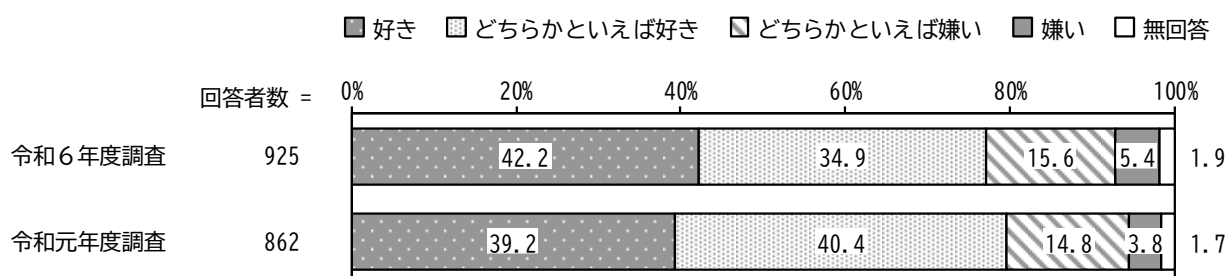
年齢別にみると、「好き」について20歳代で高く、「どちらかといえば嫌い」について10歳代で低くなっています。



問 35 テレビや競技場などでスポーツを見ることが好きですか。

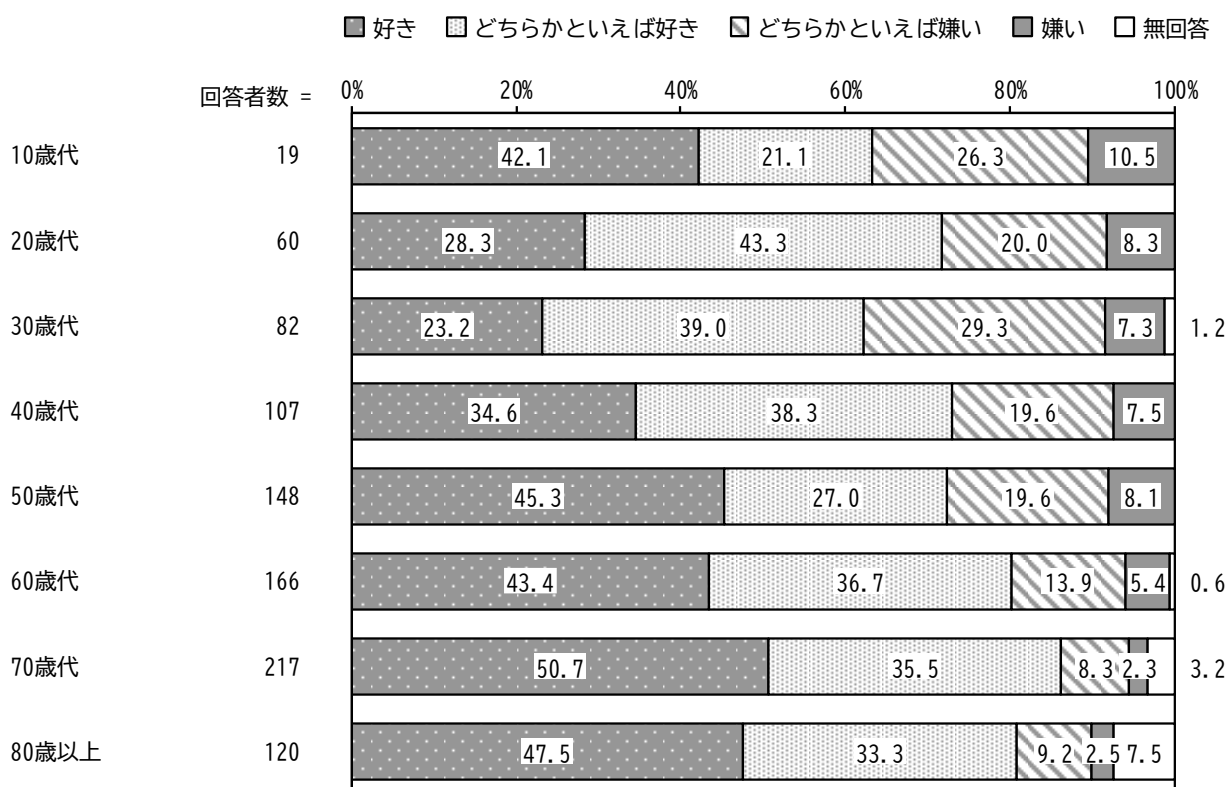
「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた”好き”の割合が77.1%、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を合わせた”嫌い”の割合が21%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえば好き」の割合が減少しています。



【年齢別】

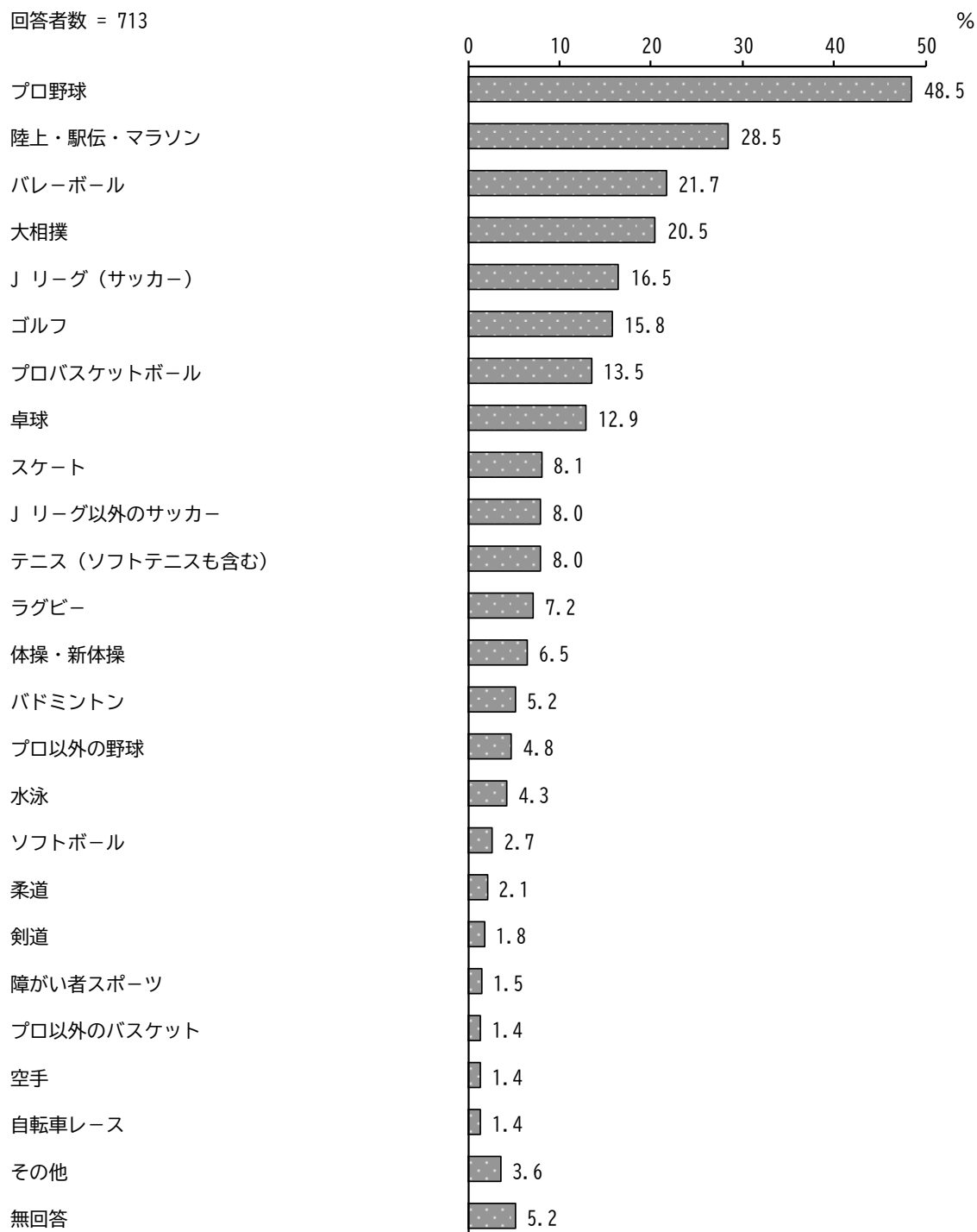
年齢別にみると、「好き」について30歳代で低く、「どちらかといえば好き」について10歳代で低くなっています。



問 36 問 35 で「1 好き」または「2 どちらかといえば好き」と答えた方にお聞きします。テレビや競技場などで観戦したいスポーツは、どんな競技ですか。
(主なもの3つまで○)

「プロ野球」の割合が48.5%と最も高く、次いで「陸上・駅伝・マラソン」の割合が28.5%、「バレーボール」の割合が21.7%となっています。

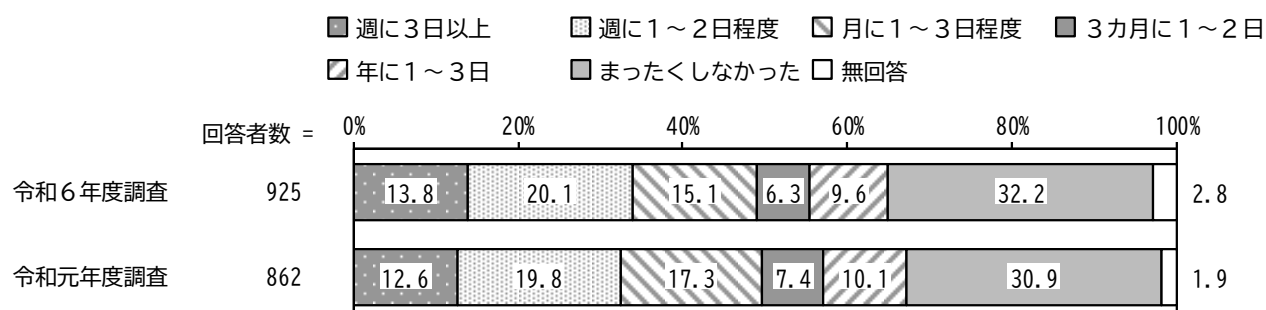
回答者数 = 713



問 37 この１年間に、どのくらいの頻度でスポーツを行っていますか。ただし、学校の授業や職業として行ったものは除きます。

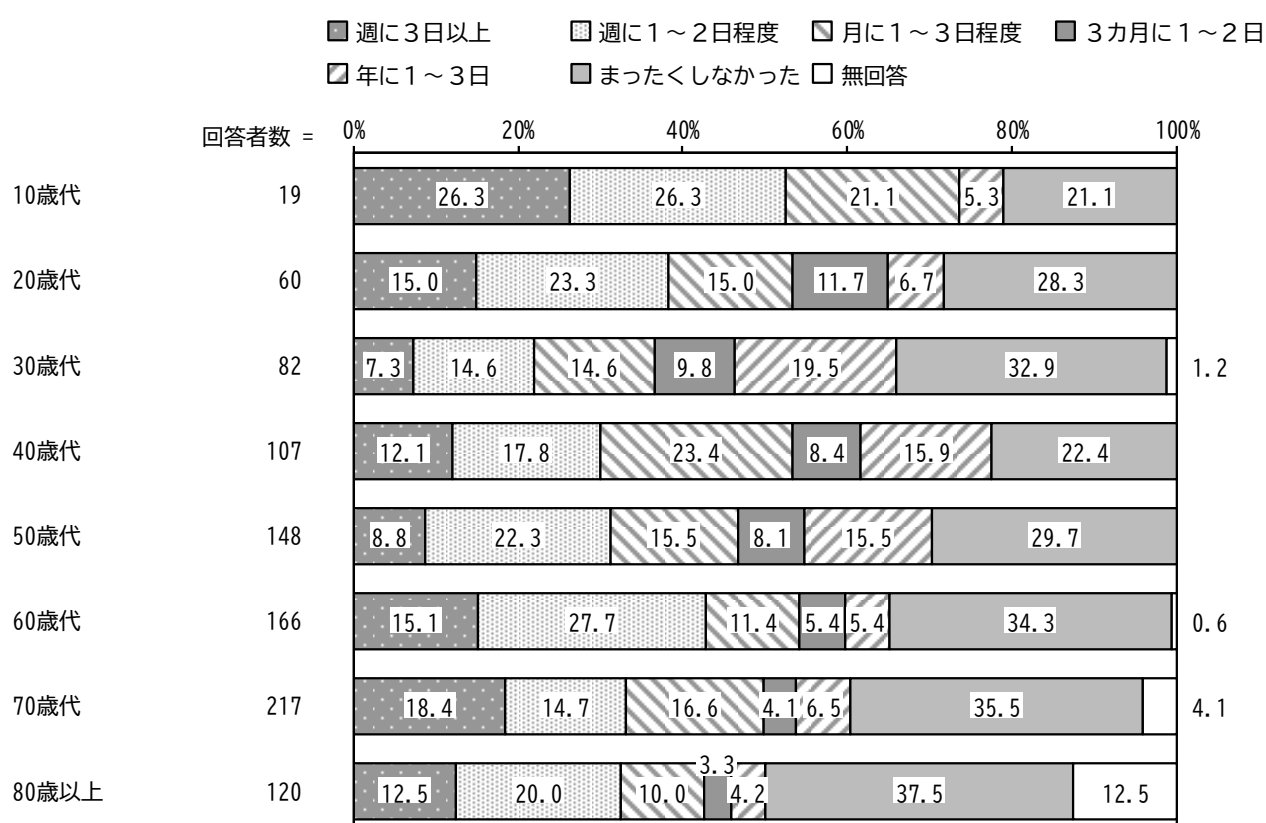
「まったくしなかった」の割合が３２．２％と最も高く、次いで「週に１～２日程度」の割合が２０．１％、「月に１～３日程度」の割合が１５．１％となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



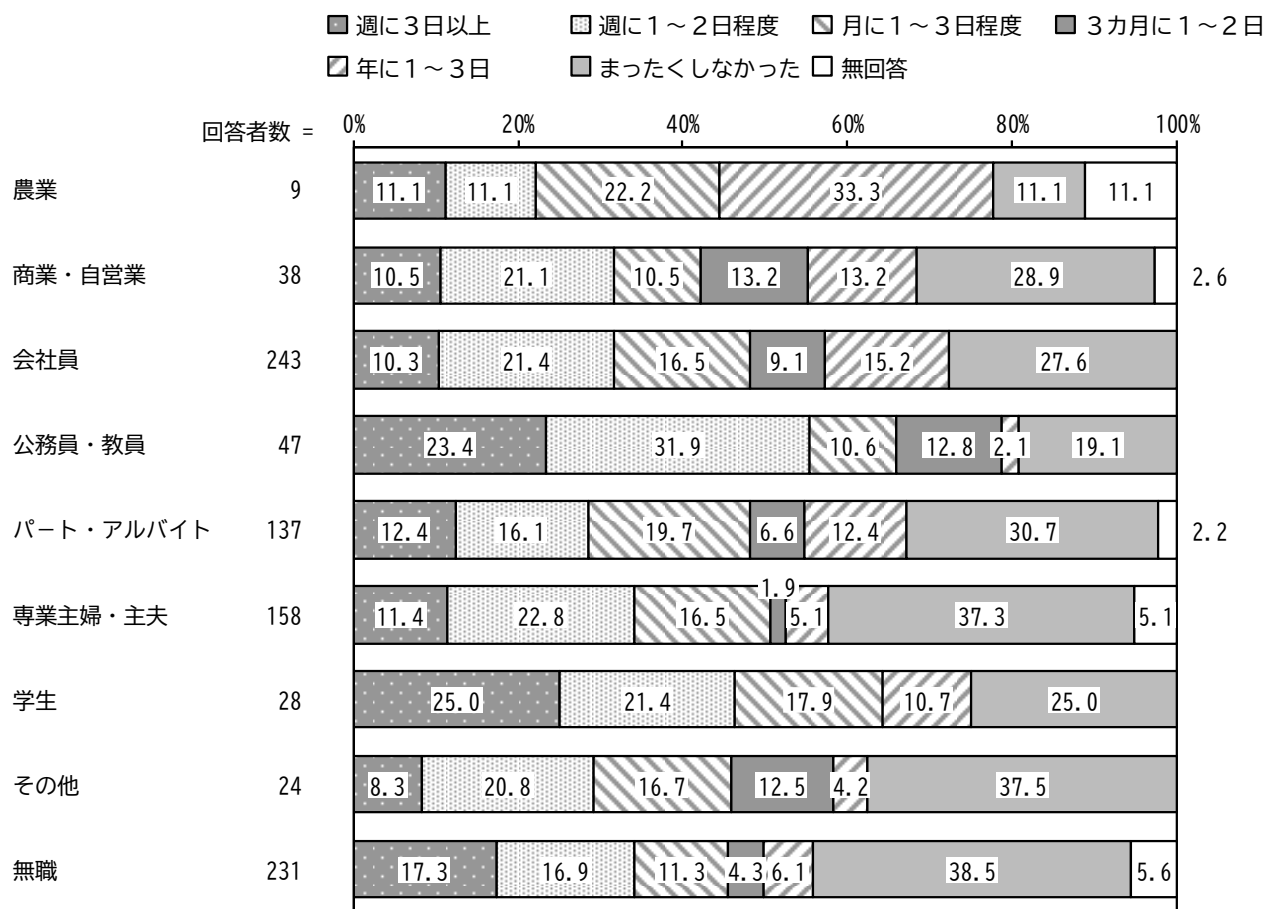
【年齢別】

年齢別にみると、「週に３日以上」について１０歳代で高く、「月に１～３日程度」について４０歳代で高く、「年に１～３日」について３０歳代で高くなっています。



【職業別】

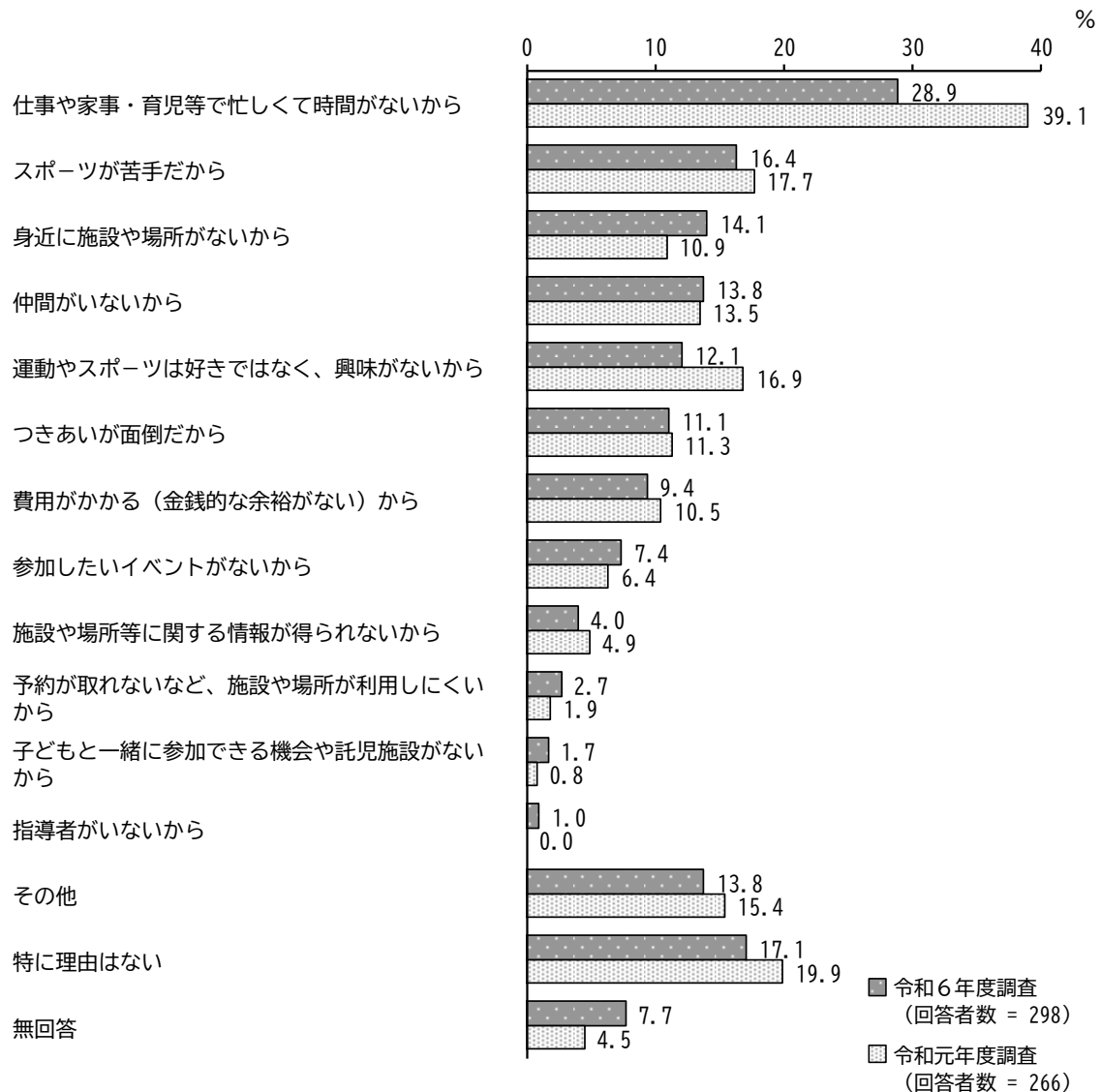
職業別にみると、「年に1～3日」について農業で高くなっています。



問 38 問 37 で「6 まったくしなかった」と答えた方にお聞きします。スポーツを行わなかった理由は何ですか。(主なもの3つまで○)

「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」の割合が28.9%と最も高く、次いで「特に理由はない」の割合が17.1%、「スポーツが苦手だから」の割合が16.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」の割合が減少しています。



【年齢別】

年齢別にみると、「仲間がいないから」について10歳代で高く、「子どもと一緒に参加できる機会や託児施設がないから」について30歳代で高く、「指導者がいないから」について40歳代で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから	費用がかかる（金銭的な余裕がない）から	身近に施設や場所がないから	予約が取れないなど、施設や場所が利用しにくいから	施設や場所等に関する情報が得られないから	仲間がいないから	参加したいイベントがないから
全 体	298	28.9	9.4	14.1	2.7	4.0	13.8	7.4
10歳代	4	25.0	—	25.0	—	—	25.0	—
20歳代	17	64.7	11.8	17.6	5.9	—	11.8	5.9
30歳代	27	81.5	18.5	11.1	7.4	—	14.8	3.7
40歳代	24	70.8	20.8	16.7	4.2	4.2	12.5	8.3
50歳代	44	27.3	11.4	11.4	—	—	15.9	9.1
60歳代	57	21.1	8.8	21.1	3.5	7.0	14.0	10.5
70歳代	77	7.8	6.5	11.7	2.6	5.2	13.0	7.8
80歳以上	45	8.9	2.2	11.1	—	6.7	13.3	4.4

区分	つきあいが面倒だから	スポーツが苦手だから	子どもと一緒に参加できる機会や託児施設がないから	指導者がいないから	運動やスポーツは好きではなく、興味がないから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	11.1	16.4	1.7	1.0	12.1	13.8	17.1	7.7
10歳代	—	75.0	—	—	25.0	—	—	—
20歳代	17.6	41.2	—	—	11.8	—	5.9	—
30歳代	3.7	14.8	18.5	—	11.1	7.4	3.7	3.7
40歳代	25.0	29.2	—	4.2	8.3	4.2	4.2	—
50歳代	15.9	9.1	—	—	22.7	9.1	31.8	—
60歳代	5.3	14.0	—	—	12.3	14.0	17.5	3.5
70歳代	14.3	15.6	—	1.3	10.4	16.9	24.7	9.1
80歳以上	2.2	8.9	—	2.2	4.4	28.9	11.1	26.7

【職業別】

職業別にみると、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」について農業で高く、「予約が取れないなど、施設や場所が利用しにくいから」について学生で高く、「運動やスポーツは好きではなく、興味がないから」について公務員・教員で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから	費用がかかる(金銭的な余裕がない)から	身近に施設や場所がないから	予約が取れないなど、施設や場所が利用しにくいから	施設や場所等に関する情報が得られないから	仲間がいないから	参加したいイベントがないから
全 体	298	28.9	9.4	14.1	2.7	4.0	13.8	7.4
農業	1	100.0	—	—	—	—	—	—
商業・自営業	11	27.3	9.1	9.1	—	9.1	27.3	—
会社員	67	47.8	10.4	13.4	4.5	3.0	14.9	9.0
公務員・教員	9	55.6	11.1	—	—	—	—	11.1
パート・アルバイト	42	57.1	14.3	19.0	2.4	2.4	11.9	4.8
専業主婦・主夫	59	15.3	10.2	15.3	1.7	3.4	11.9	5.1
学生	7	42.9	14.3	42.9	14.3	—	28.6	14.3
その他	9	44.4	22.2	33.3	—	22.2	11.1	—
無職	89	4.5	4.5	10.1	2.2	4.5	14.6	10.1

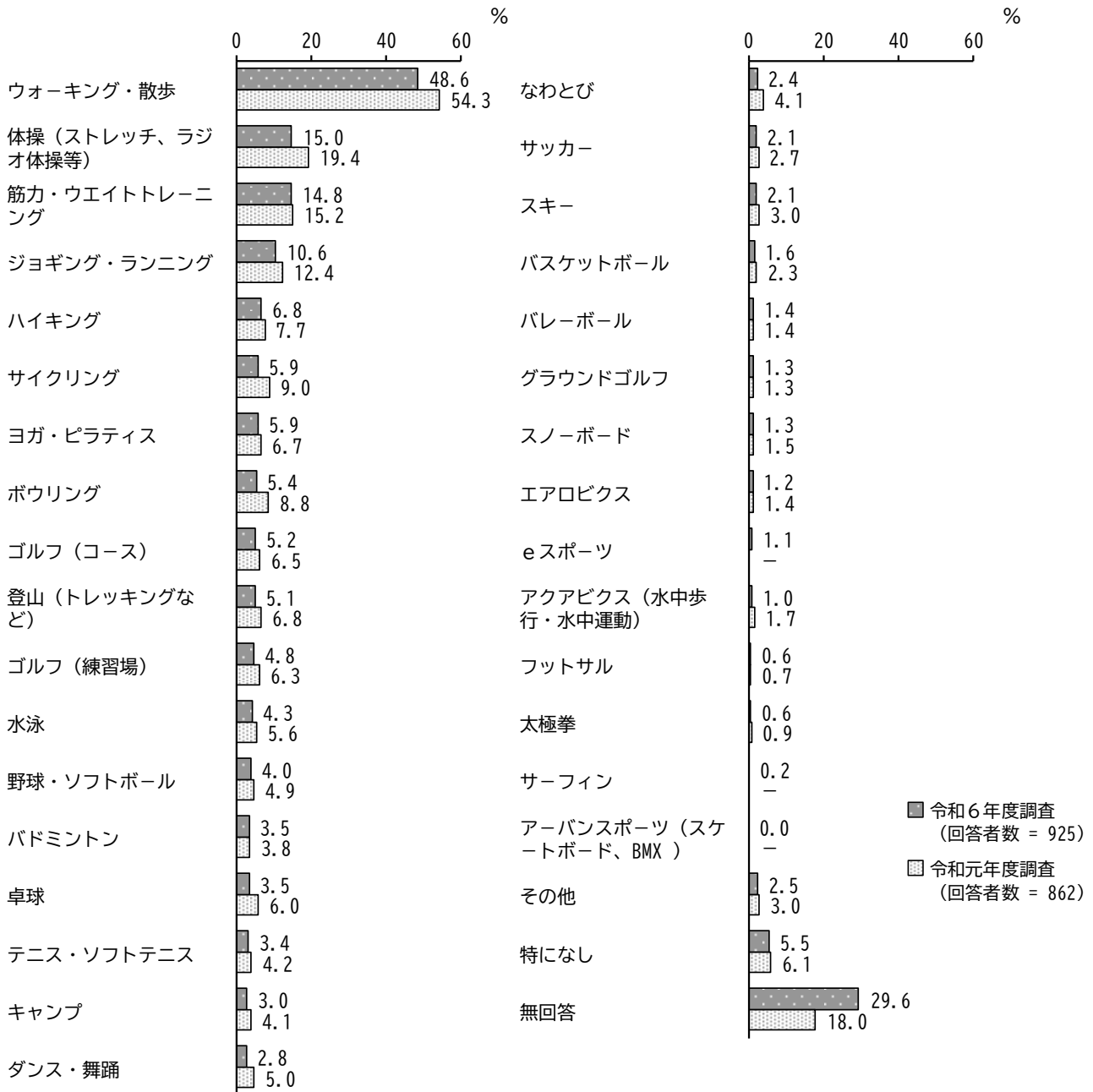
区分	つきあいが面倒だから	スポーツが苦手だから	子どもと一緒に参加できる機会や託児施設がないから	指導者がいないから	運動やスポーツは好きではなく、興味がないから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	11.1	16.4	1.7	1.0	12.1	13.8	17.1	7.7
農業	—	—	—	—	—	—	—	—
商業・自営業	9.1	9.1	—	—	18.2	9.1	9.1	9.1
会社員	14.9	19.4	4.5	—	10.4	4.5	17.9	—
公務員・教員	—	22.2	11.1	—	44.4	11.1	—	—
パート・アルバイト	19.0	19.0	—	2.4	23.8	2.4	11.9	7.1
専業主婦・主夫	10.2	18.6	1.7	1.7	10.2	15.3	22.0	11.9
学生	—	57.1	—	—	14.3	—	—	—
その他	—	11.1	—	—	11.1	22.2	—	—
無職	9.0	9.0	—	1.1	5.6	25.8	21.3	12.4

問 39 ①この1年間で行ったスポーツと、②今後行ってみたいスポーツについて、それぞれお答えください。（あてはまるものすべての番号を選んで（ ）の中に記入）

①行った

「ウォーキング・散歩」の割合が48.6%と最も高く、次いで「体操（ストレッチ、ラジオ体操等）」の割合が15%、「筋力・ウエイトトレーニング」の割合が14.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「ウォーキング・散歩」の割合が減少しています。

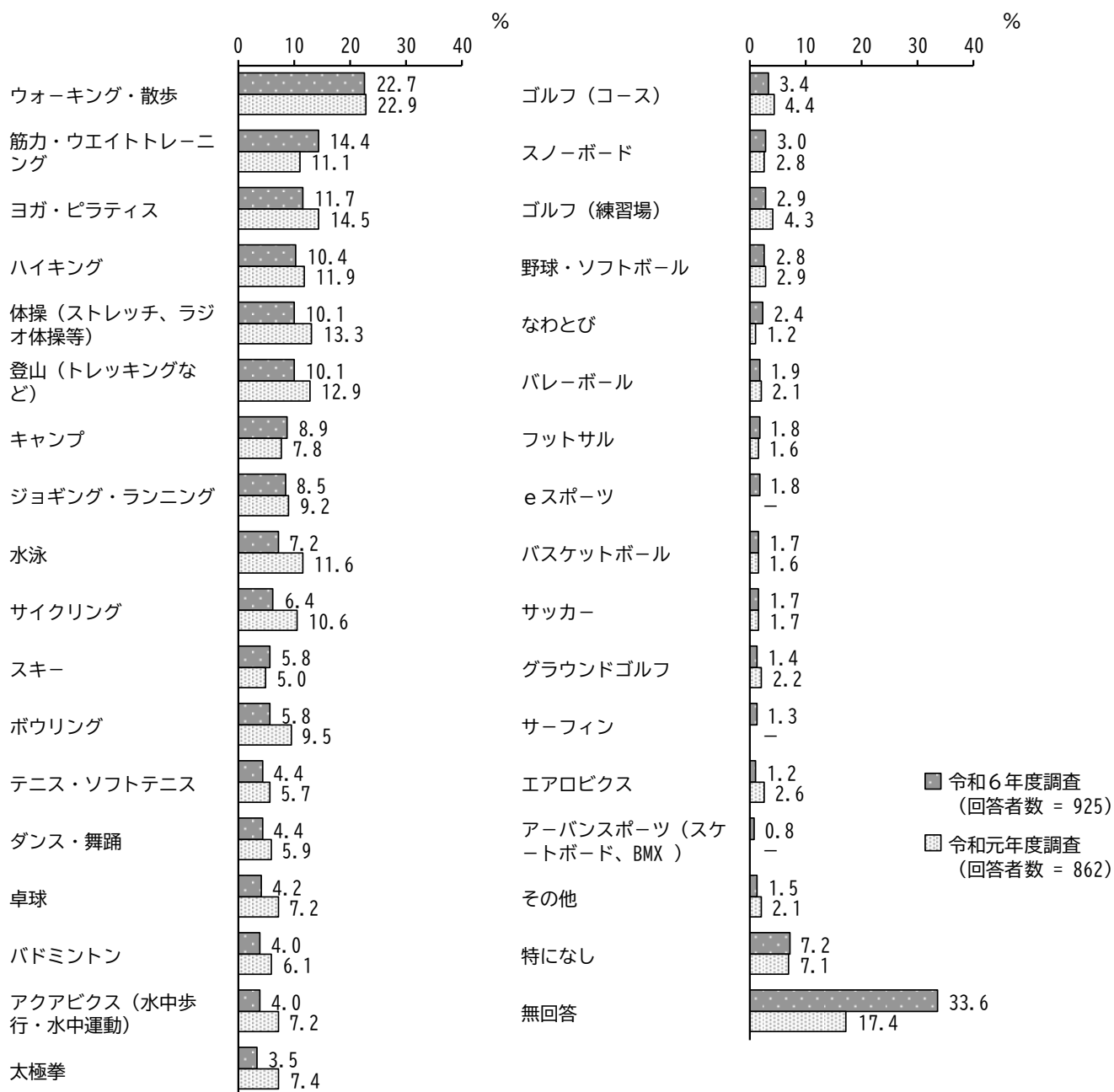


※前回調査では「サーフィン」「アーバンスポーツ（スケートボード、BMX）」「eスポーツ」はありませんでした。

②今後行いたい

「ウォーキング・散歩」の割合が22.7%と最も高く、次いで「筋力・ウエイトトレーニング」の割合が14.4%、「ヨガ・ピラティス」の割合が11.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。

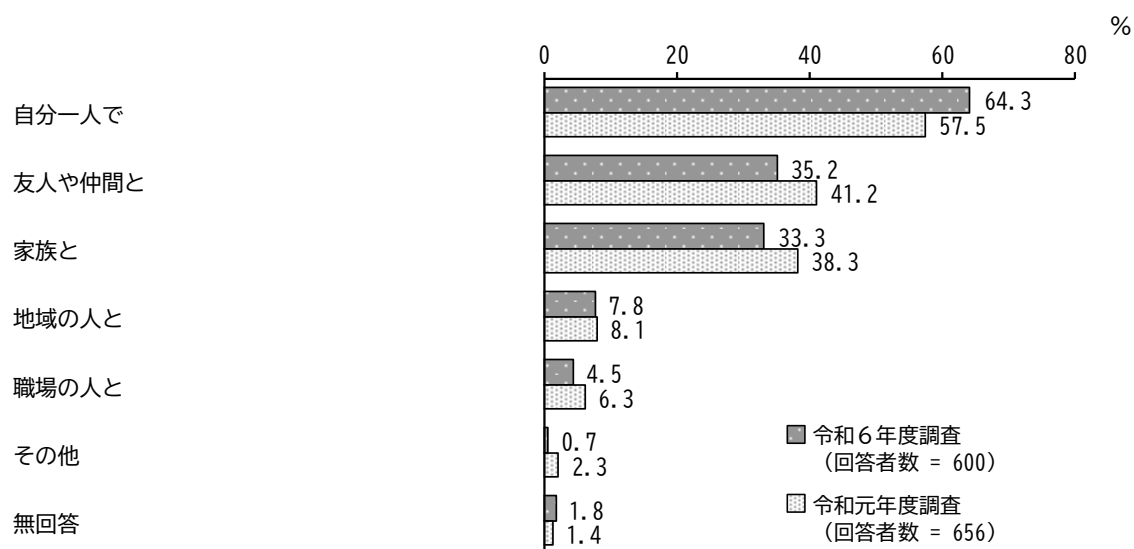


※前回調査では「サーフィン」「アーバンスポーツ（スケートボード、BMX）」「eスポーツ」はありませんでした。

問 40 問 39①でひとつでも「行った」方にお聞きします。スポーツを主に誰と行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「自分一人で」の割合が64.3%と最も高く、次いで「友人や仲間と」の割合が35.2%、「家族と」の割合が33.3%となっています。

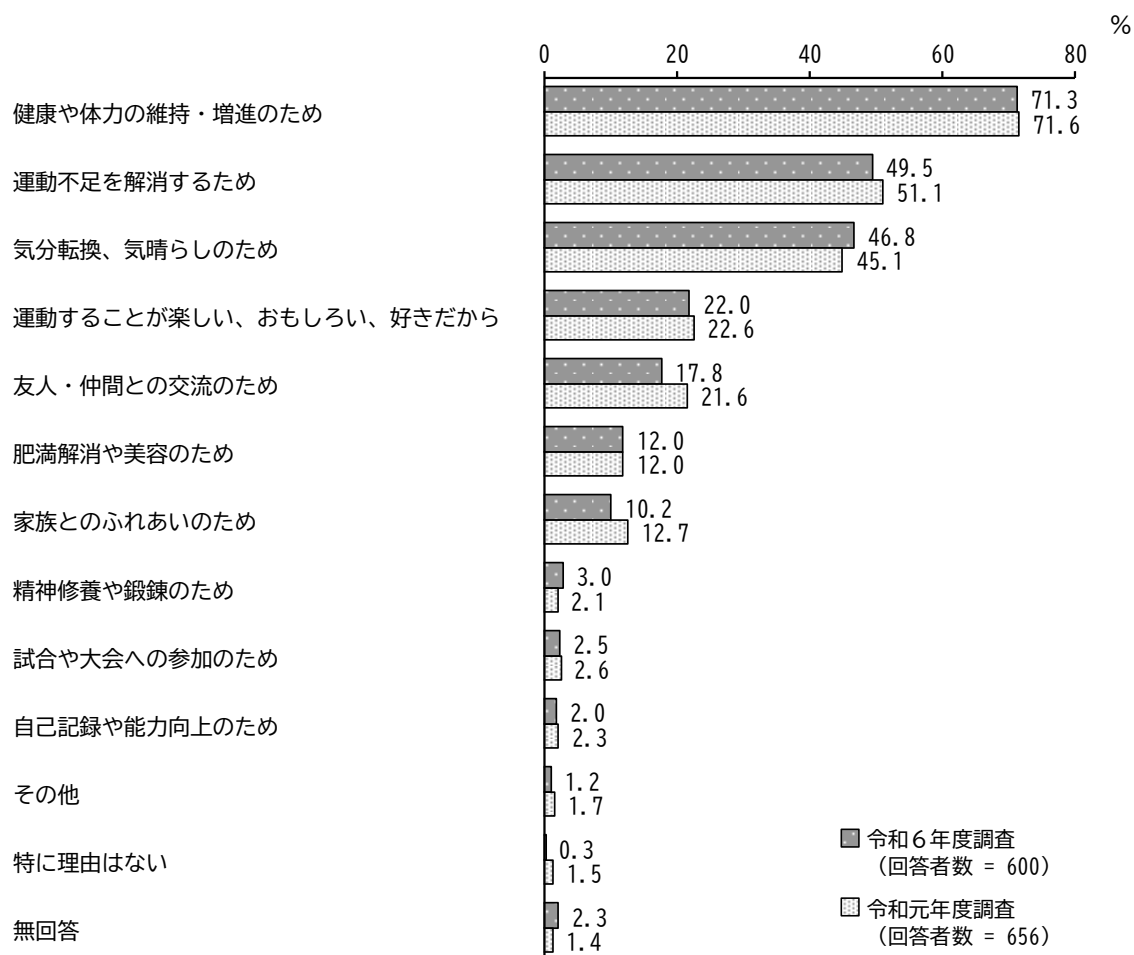
令和元年度調査と比較すると、「自分一人で」の割合が増加しています。一方、「友人や仲間と」の割合が減少しています。



問 41 問 39①でひとつでも「行った」方にお聞きします。スポーツを行う主な理由は何ですか。（主なもの3つまで○）

「健康や体力の維持・増進のため」の割合が71.3%と最も高く、次いで「運動不足を解消するため」の割合が49.5%、「気分転換、気晴らしのため」の割合が46.8%となっています。

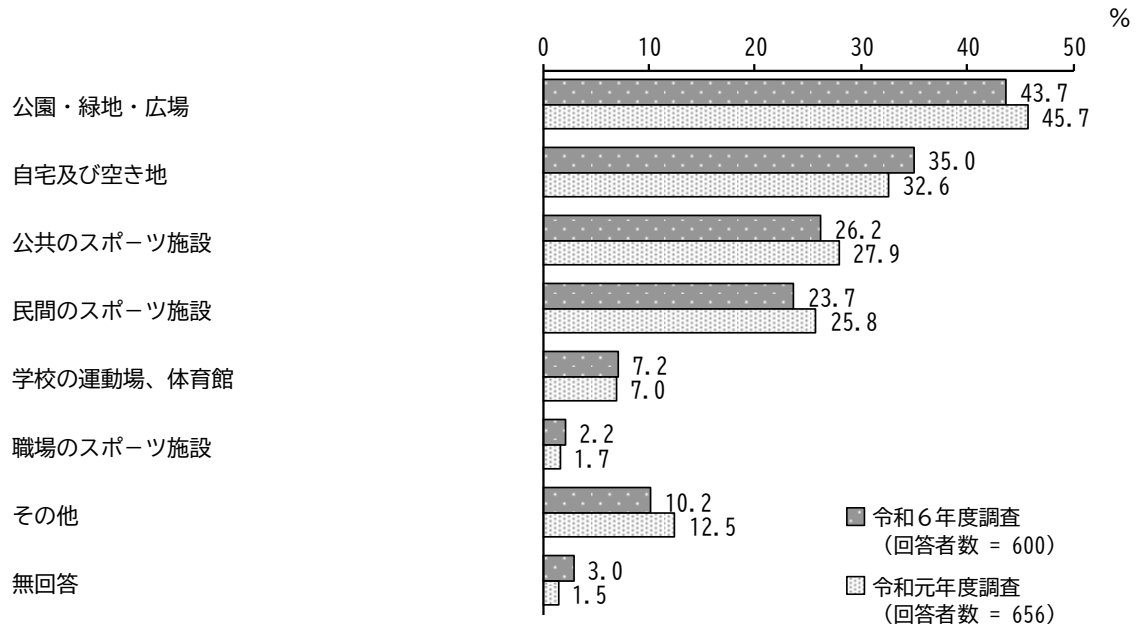
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 42 問 39①でひとつでも「行った」方にお聞きします。スポーツを主にどこで行っていますか。(あてはまるものすべてに○)

「公園・緑地・広場」の割合が43.7%と最も高く、次いで「自宅及び空き地」の割合が35.0%、「公共のスポーツ施設」の割合が26.2%となっています。

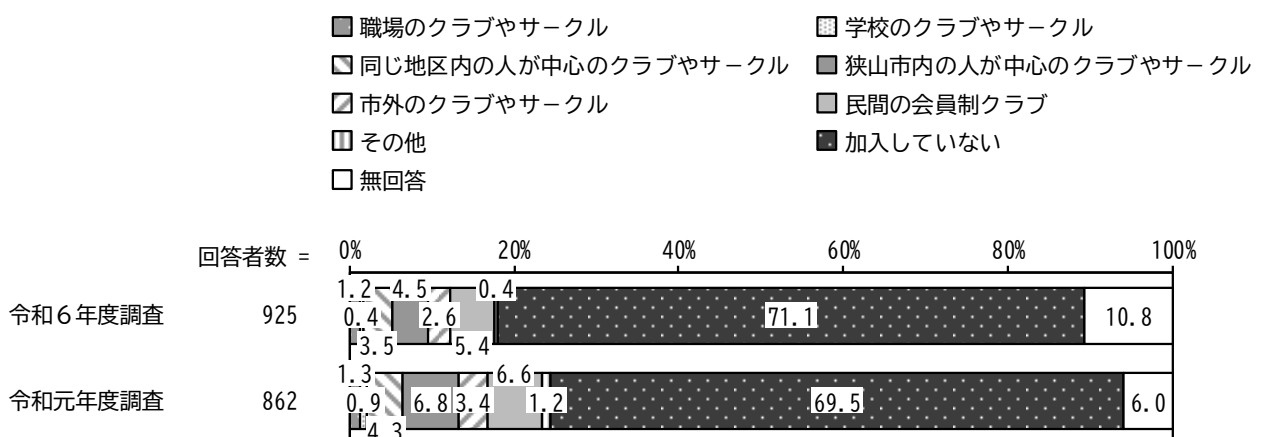
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 43 現在、次のようなスポーツクラブやサークルに加入していますか。

「加入していない」の割合が71.1%と最も高く、次いで「民間の会員制クラブ」の割合が5.4%、「狭山市内の人を中心のクラブやサークル」の割合が4.5%となっています。

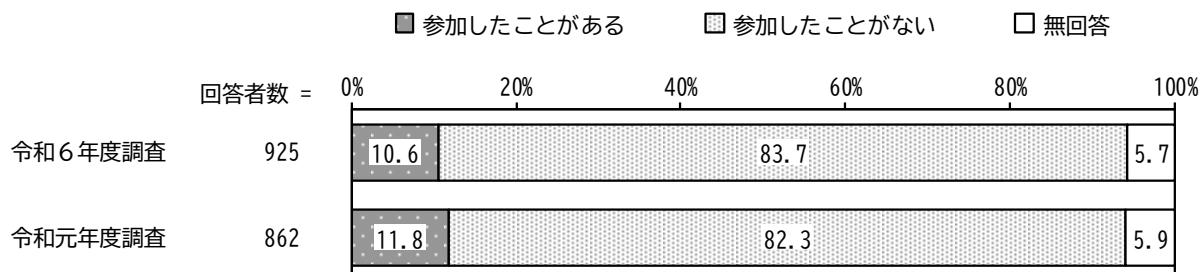
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 44 この１年間で、スポーツの教室や講座に参加したことがありますか。市が実施しているものに限らずお答えください。

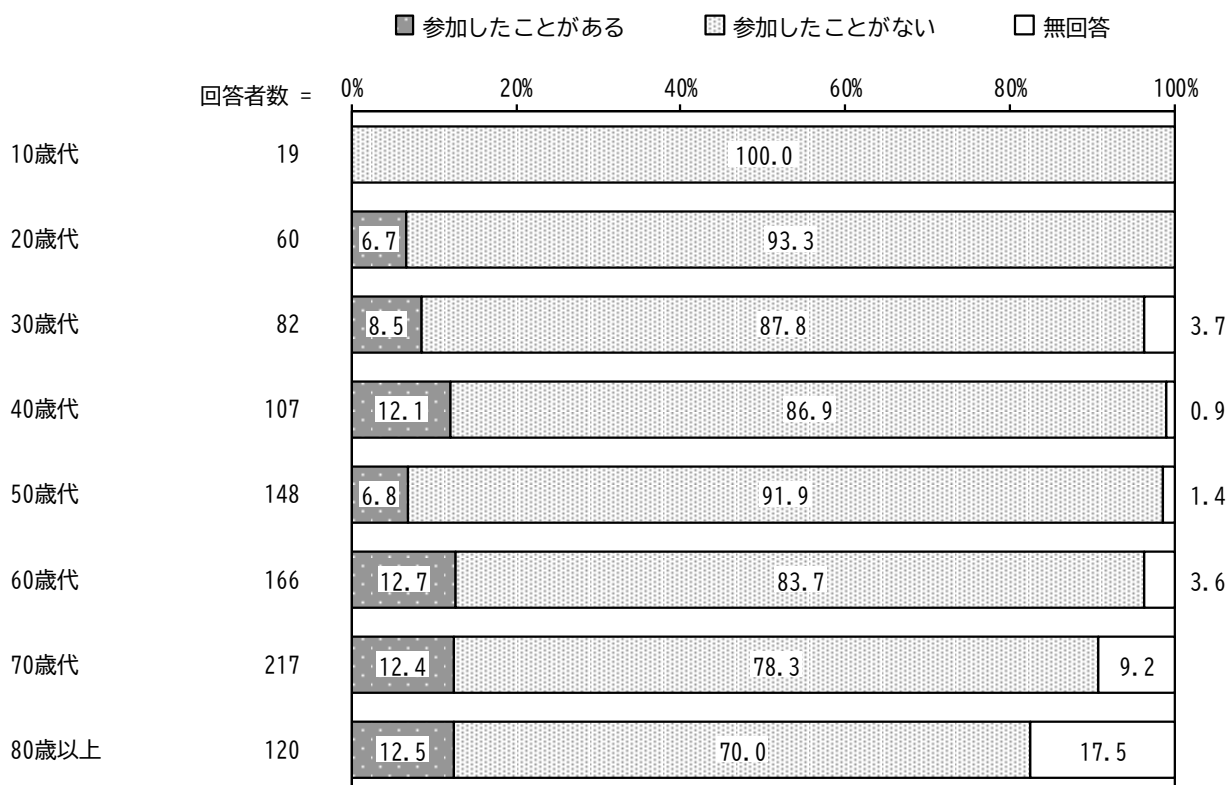
「参加したことがある」の割合が１０．６％、「参加したことがない」の割合が８３．７％となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

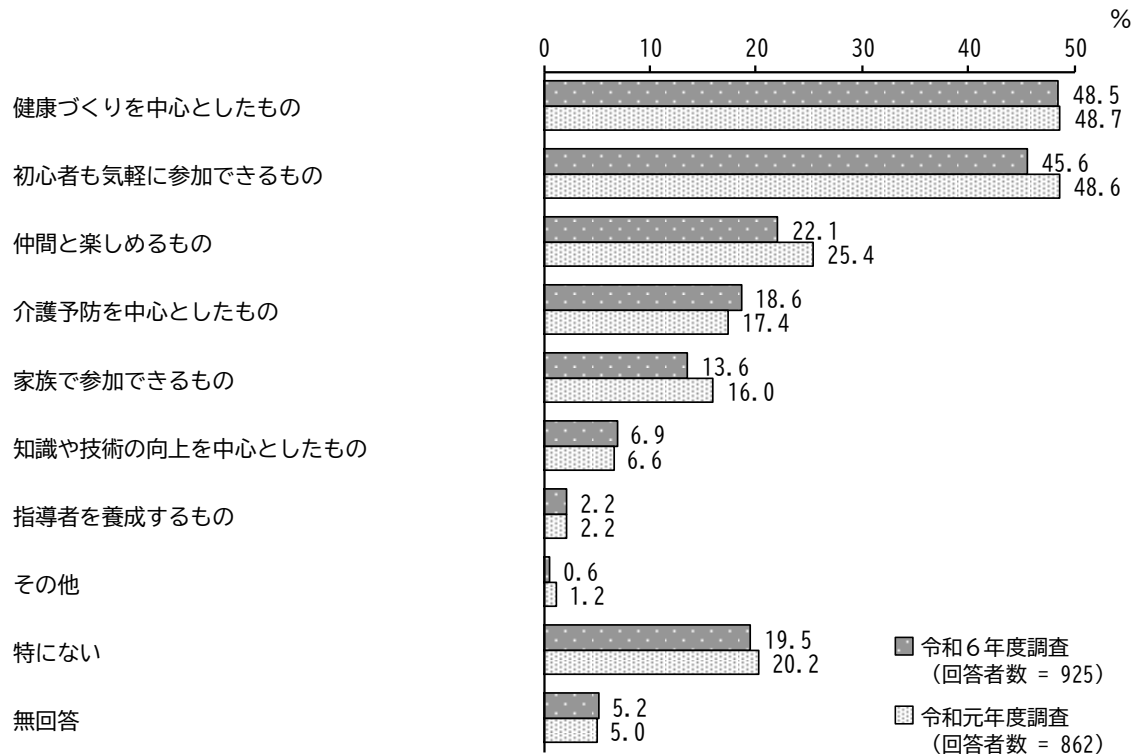
年齢別にみると、「参加したことがある」について１０歳代で低くなっています。



問 45 今後、どのようなスポーツの教室や講座があればいいと思いますか。
(主なものを3つまで○)

「健康づくりを中心としたもの」の割合が48.5%と最も高く、次いで「初心者も気軽に参加できるもの」の割合が45.6%、「仲間と楽しめるもの」の割合が22.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、「仲間と楽しめるもの」について10歳代で高く、「家族で参加できるもの」について30歳代で高く、「指導者を養成するもの」について50歳代で高くなっています。

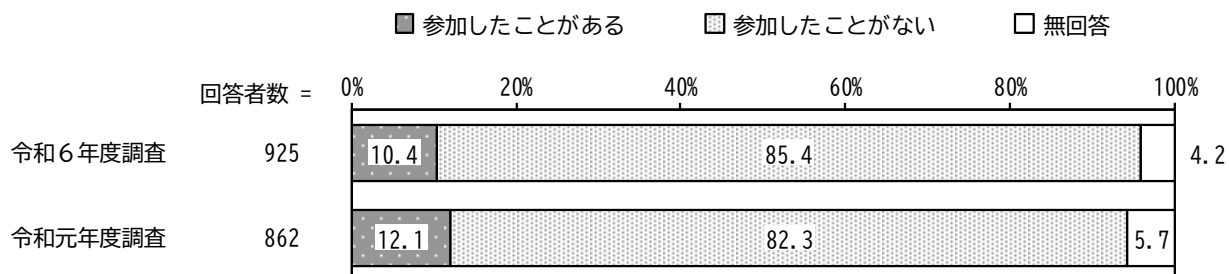
単位：%

区分	回答者数(件)	健康づくりを中心としたもの	介護予防を中心としたもの	初心者も気軽に参加できるもの	仲間と楽しめるもの	知識や技術の向上を中心としたもの	家族で参加できるもの	指導者を養成するもの	その他	特にない	無回答
全 体	925	48.5	18.6	45.6	22.1	6.9	13.6	2.2	0.6	19.5	5.2
10歳代	19	42.1	10.5	63.2	42.1	10.5	5.3	—	—	5.3	—
20歳代	60	38.3	6.7	55.0	25.0	10.0	15.0	1.7	—	18.3	—
30歳代	82	30.5	6.1	50.0	22.0	12.2	45.1	4.9	—	19.5	4.9
40歳代	107	45.8	7.5	55.1	21.5	12.1	25.2	2.8	2.8	21.5	—
50歳代	148	45.9	16.2	50.0	25.0	8.1	13.5	5.4	0.7	18.2	2.0
60歳代	166	62.0	21.1	48.8	18.7	5.4	7.2	1.2	0.6	13.9	3.6
70歳代	217	57.6	26.3	38.7	21.2	4.1	6.5	0.9	—	21.7	7.4
80歳以上	120	40.0	29.2	30.8	21.7	1.7	5.0	—	0.8	25.0	15.8

問 46 この１年間で、地域におけるスポーツの大会や行事に参加したことがありますか。

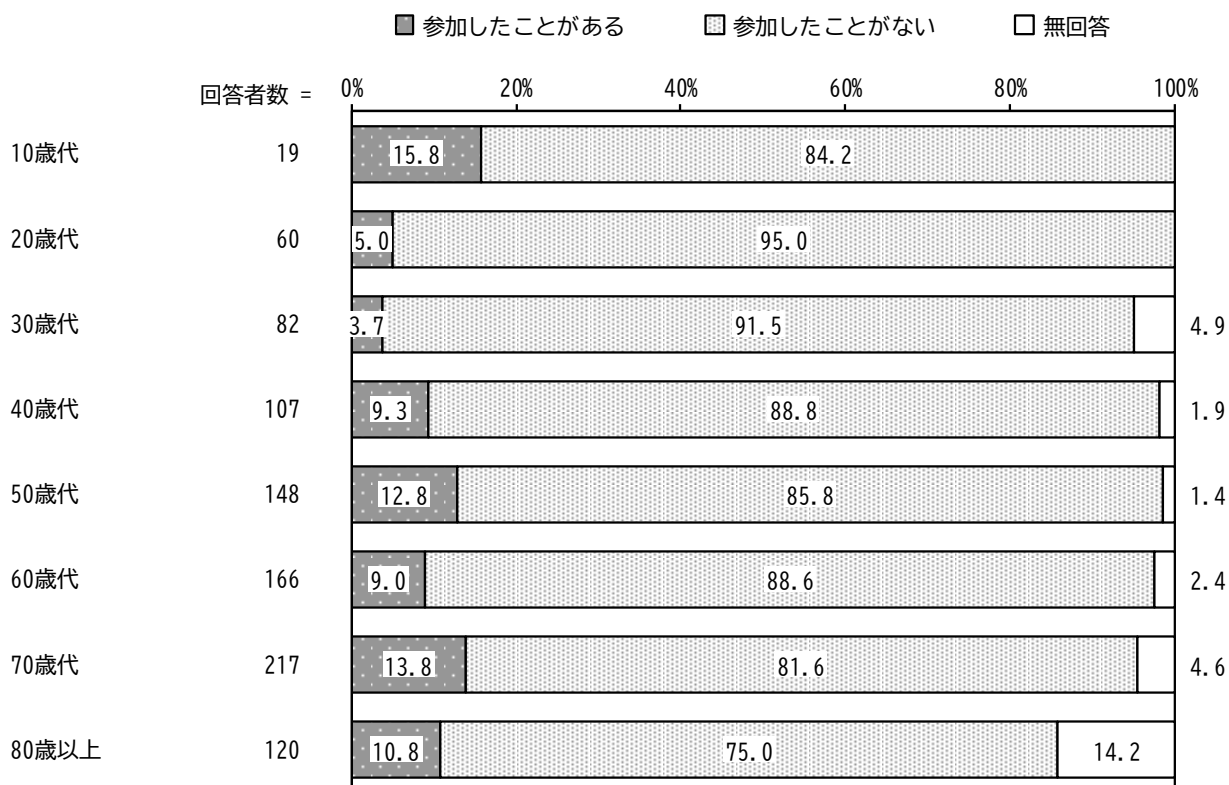
「参加したことがある」の割合が１０．４％、「参加したことがない」の割合が８５．４％となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

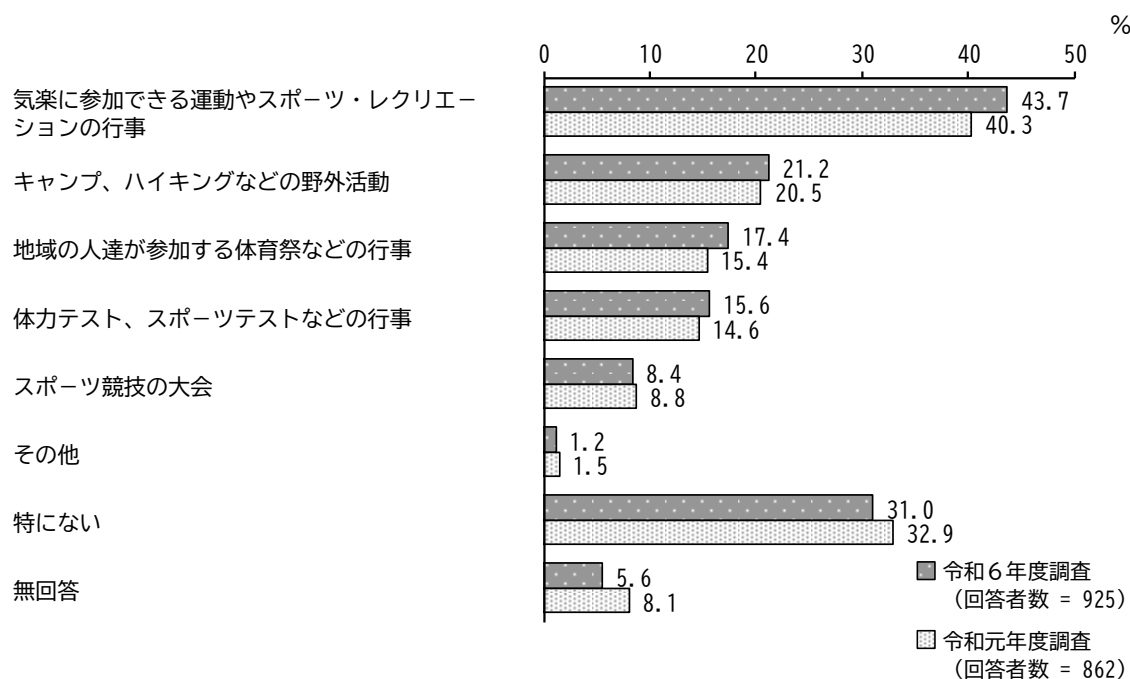
年齢別にみると、「参加したことがある」について３０歳代で低く、「参加したことがない」について２０歳代で高く、８０歳以上で低くなっています。



問 47 今後、どのようなスポーツの大会や行事があればいいと思いますか。
(主なもの3つまで○)

「気楽に参加できる運動やスポーツ・レクリエーションの行事」の割合が43.7%と最も高く、次いで「特にない」の割合が31.0%、「キャンプ、ハイキングなどの野外活動」の割合が21.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、「スポーツ競技の大会」について10歳代で高く、「体力テスト、スポーツテストなどの行事」について20歳代で高く、「キャンプ、ハイキングなどの野外活動」について80歳以上で低くなっています。

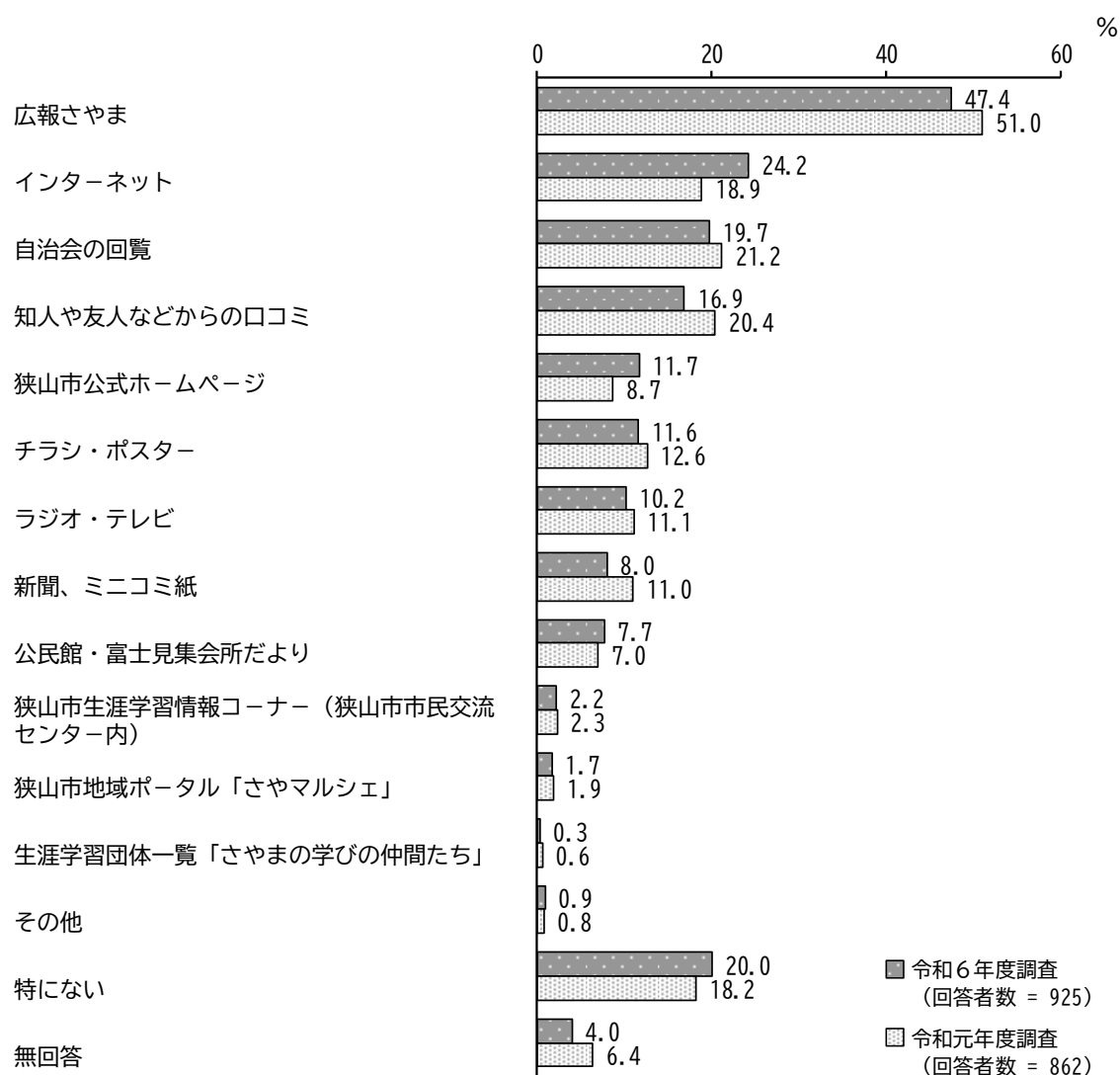
単位：%

区分	回答者数(件)	地域の人達が参加する体育祭などの行事	スポーツ競技の大会	気楽に参加できる運動やスポーツ・レクリエーションの行事	体力テスト、スポーツテストなどの行事	キャンプ、ハイキングなどの野外活動	その他	特にない	無回答
全 体	925	17.4	8.4	43.7	15.6	21.2	1.2	31.0	5.6
10歳代	19	15.8	26.3	52.6	15.8	15.8	—	26.3	—
20歳代	60	21.7	10.0	28.3	21.7	28.3	—	30.0	—
30歳代	82	19.5	18.3	48.8	12.2	26.8	2.4	28.0	—
40歳代	107	19.6	10.3	44.9	14.0	26.2	1.9	34.6	0.9
50歳代	148	15.5	12.2	38.5	14.9	28.4	0.7	33.8	1.4
60歳代	166	12.7	6.0	51.8	18.1	24.1	1.8	25.9	6.0
70歳代	217	17.1	4.6	44.2	15.2	14.7	0.9	35.0	6.0
80歳以上	120	22.5	2.5	40.0	15.0	9.2	0.8	26.7	21.7

問 48 スポーツに関する情報をどのように入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

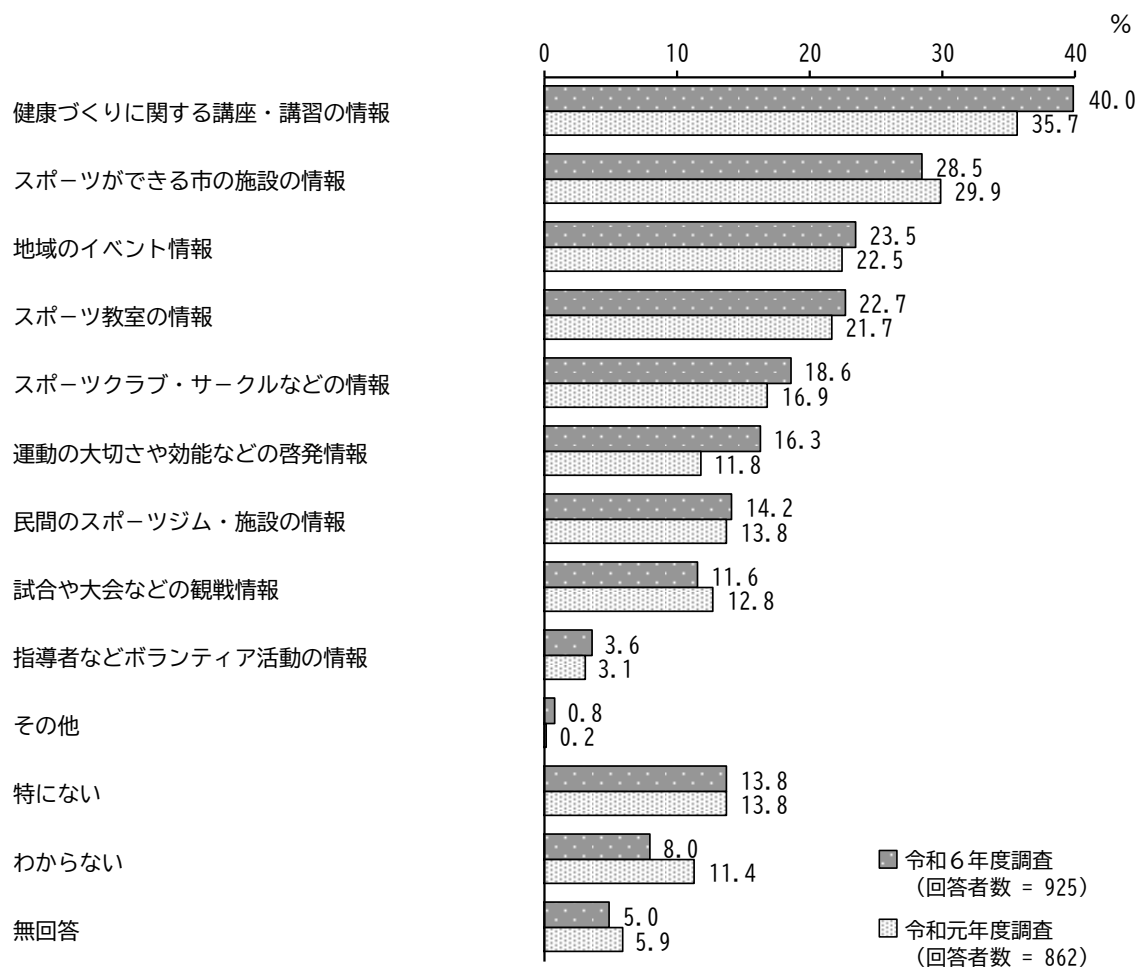
「広報さやま」の割合が47.4%と最も高く、次いで「インターネット」の割合が24.2%、「特
にない」の割合が20.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「インターネット」の割合が増加しています。



問 49 あなたは、スポーツに関してどのような情報が必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

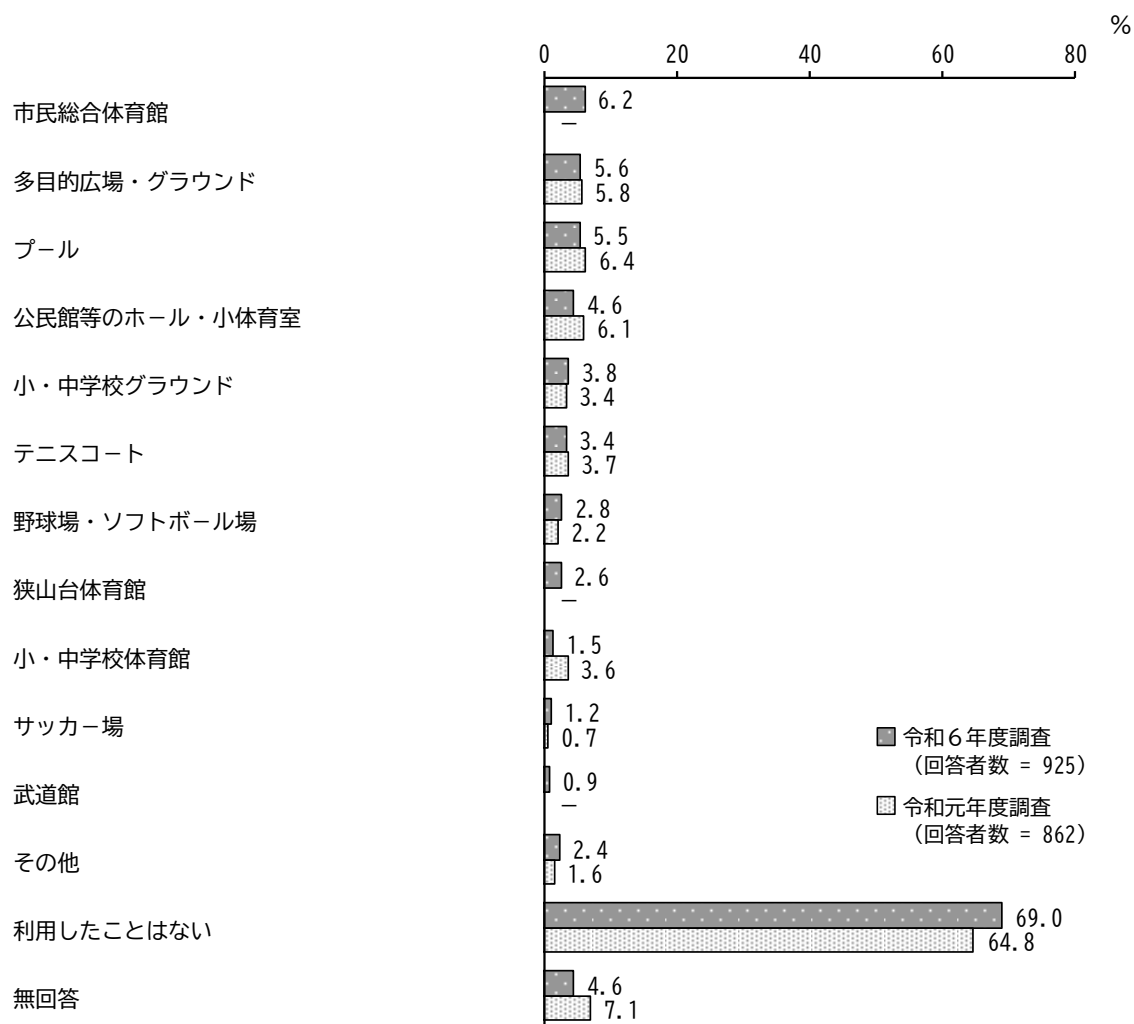
「健康づくりに関する講座・講習の情報」の割合が40％と最も高く、次いで「スポーツができる市の施設の情報」の割合が28.5％、「地域のイベント情報」の割合が23.5％となっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 50 この1年間で、スポーツをするために狭山市が設置しているスポーツ施設を利用したことがありますか。なお、スポーツ施設には学校のグラウンドや体育館も含みます。
(あてはまるものすべてに○)

「利用したことはない」の割合が69%と最も高く、次いで「市民総合体育館」の割合が6.2%、「多目的広場・グラウンド」の割合が5.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



※前回調査では「市民総合体育館」「狭山台体育館」が同一の選択肢でした。また、「武道館」はありませんでした。

【居住地区別】

居住地区別にみると、「狭山台体育館」について奥富地区で低く、「小・中学校グラウンド」について新狭山地区で低く、「小・中学校体育館」について狭山台地区で高く、「公民館等のホール・小体育室」について堀兼地区で高く、「利用したことはない」について新狭山地区で高く、柏原地区で低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	テニスコート	野球場・ソフトボール場	サッカー場	多目的広場・グラウンド	市民総合体育館	狭山台体育館	武道館	プール	小・中学校グラウンド	小・中学校体育館	公民館等のホール・小体育室	その他	利用したことはない	無回答
全 体	925	3.4	2.8	1.2	5.6	6.2	2.6	0.9	5.5	3.8	1.5	4.6	2.4	69.0	4.6
入間川地区（１）	198	4.5	4.0	1.5	4.0	4.5	1.5	1.0	7.1	4.5	2.0	2.5	4.5	69.2	1.5
入間川地区（２）	97	1.0	1.0	1.0	6.2	5.2	4.1	1.0	6.2	2.1	2.1	3.1	4.1	74.2	2.1
入曽地区	229	4.4	4.4	1.3	8.3	6.6	3.9	0.4	4.4	5.2	0.4	6.1	0.9	68.1	4.4
堀兼地区	64	1.6	1.6	1.6	9.4	1.6	1.6	—	3.1	1.6	—	10.9	—	67.2	6.3
奥富地区	37	—	—	—	2.7	8.1	—	2.7	8.1	2.7	—	8.1	—	73.0	8.1
柏原地区	64	4.7	1.6	—	3.1	10.9	3.1	—	1.6	3.1	1.6	7.8	3.1	59.4	9.4
水富地区	130	3.1	2.3	1.5	6.9	8.5	1.5	2.3	8.5	4.6	1.5	3.1	1.5	66.2	5.4
新狭山地区	34	—	—	—	—	5.9	2.9	—	2.9	—	—	5.9	2.9	79.4	5.9
狭山台地区	66	4.5	3.0	1.5	1.5	6.1	3.0	—	4.5	3.0	6.1	—	3.0	71.2	7.6

【居住年数別】

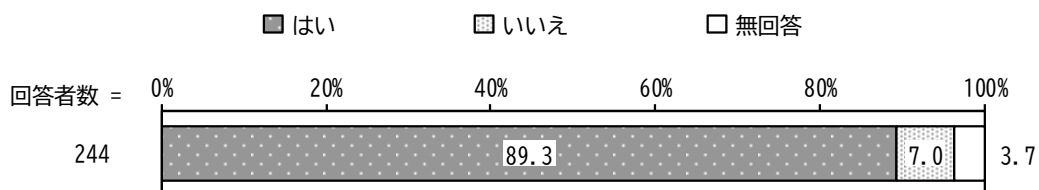
居住年数別にみると、「狭山台体育館」について「10～19年住んでいる」で高く、「プール」について「5～9年住んでいる」で高く、「公民館等のホール・小体育室」について「5年に満たない」で低くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	テニスコート	野球場・ソフトボール場	サッカー場	多目的広場・グラウンド	市民総合体育館	狭山台体育館	武道館	プール	小・中学校グラウンド	小・中学校体育館	公民館等のホール・小体育室	その他	利用したことはない	無回答
全 体	925	3.4	2.8	1.2	5.6	6.2	2.6	0.9	5.5	3.8	1.5	4.6	2.4	69.0	4.6
生まれてからずっと住んでいる	149	5.4	2.7	1.3	4.7	6.0	3.4	1.3	4.7	3.4	2.7	3.4	—	69.1	3.4
5年に満たない	71	1.4	—	—	1.4	4.2	1.4	1.4	7.0	1.4	—	—	4.2	78.9	2.8
5～9年住んでいる	58	1.7	5.2	1.7	6.9	8.6	5.2	—	12.1	5.2	—	1.7	3.4	65.5	1.7
10～19年住んでいる	108	4.6	2.8	0.9	9.3	9.3	5.6	—	7.4	5.6	3.7	2.8	5.6	65.7	1.9
20年以上住んでいる	536	3.0	3.0	1.3	5.6	5.6	1.7	0.9	4.5	3.7	1.1	6.3	2.1	68.7	6.0

問 51 問 50 で利用した施設がある方にお聞きします。あなたは今後も継続して施設を利用しますか。

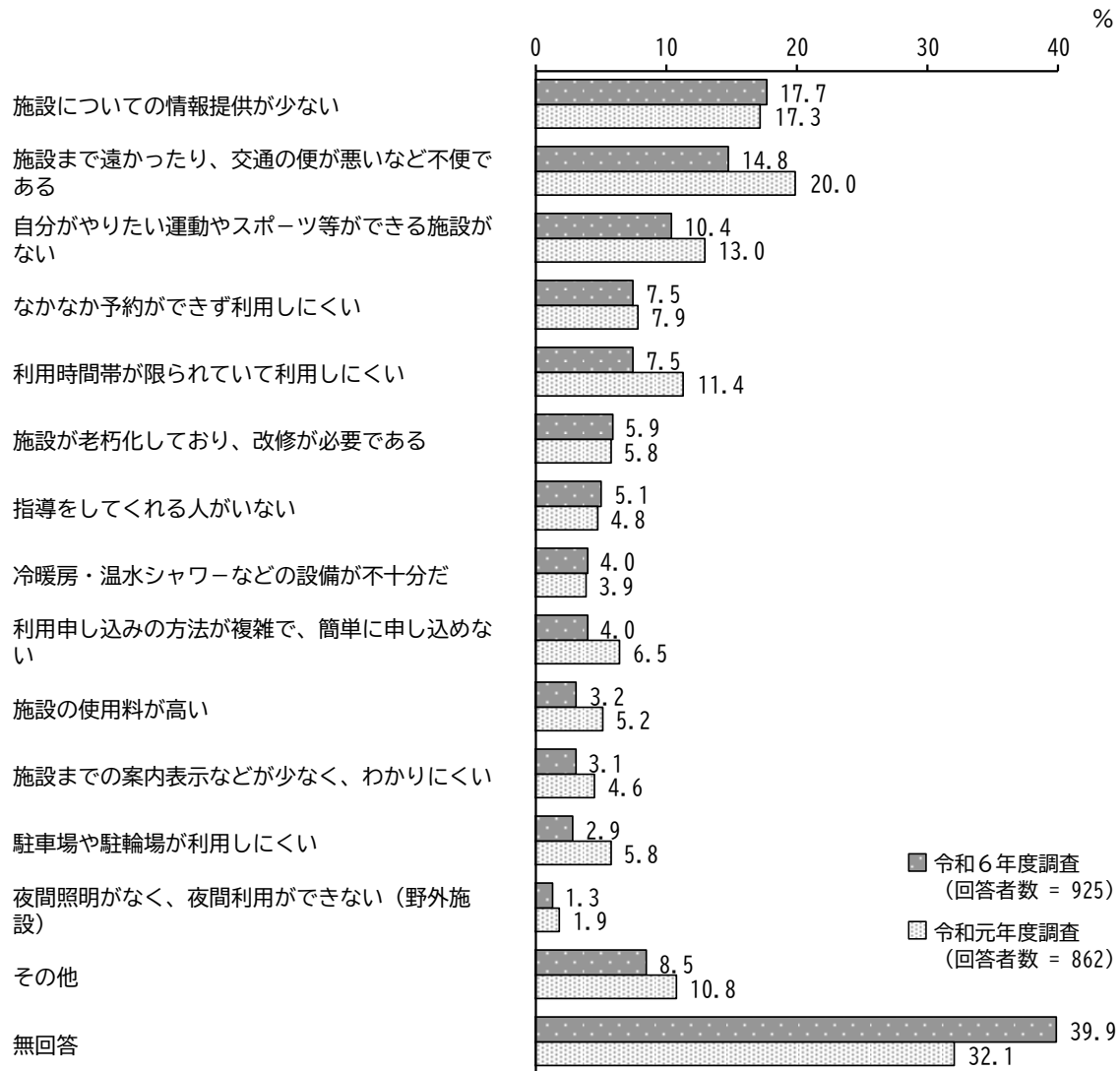
「はい」の割合が89.3％、「いいえ」の割合が7.0％となっています。



問 52 狭山市のスポーツ施設について、お気付きの点や不満な点はありますか。
(あてはまるものすべてに○)

「施設についての情報提供が少ない」の割合が17.7%と最も高く、次いで「施設まで遠かったり、交通の便が悪いなど不便である」の割合が14.8%、「自分がやりたい運動やスポーツ等ができる施設がない」の割合が10.4%となっています。

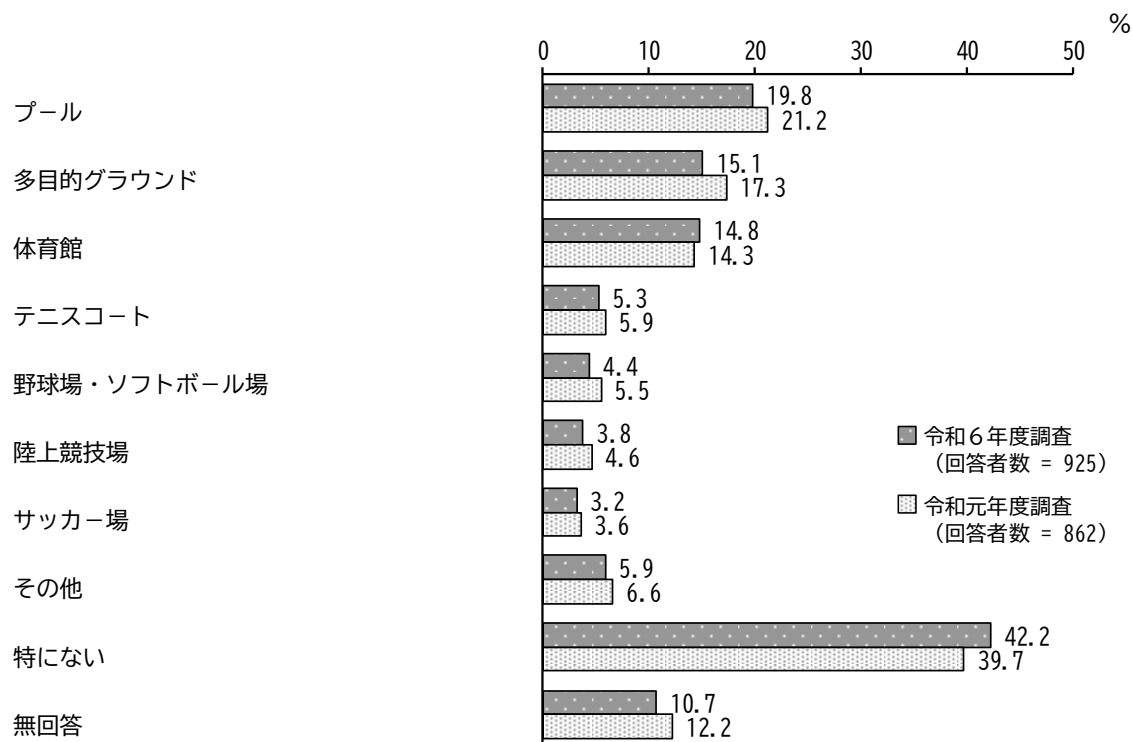
令和元年度調査と比較すると、「施設まで遠かったり、交通の便が悪いなど不便である」の割合が減少しています。



問 53 今後、狭山市に整備してほしいスポーツ施設があればあげてください。
(主なもの3つまで○)

「特にない」の割合が42.2%と最も高く、次いで「プール」の割合が19.8%、「多目的グラウンド」の割合が15.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【居住地区別】

居住地区別にみると、「テニスコート」について狭山台地区で高く、「体育館」について入間川地区（２）で高く、「プール」について堀兼地区で高く、「陸上競技場」について奥富地区で高く、「特にない」について新狭山地区で高くなっています。

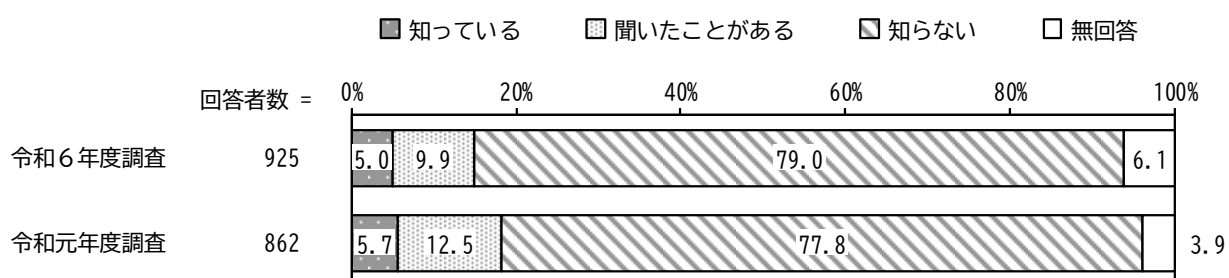
単位：％

区分	回答者数（件）	テニスコート	野球場・ソフトボール場	サッカー場	多目的グラウンド	体育館	プール	陸上競技場	その他	特にない	無回答
全 体	925	5.3	4.4	3.2	15.1	14.8	19.8	3.8	5.9	42.2	10.7
入間川地区（１）	198	3.5	5.6	3.5	17.2	13.1	21.2	2.0	5.6	42.4	7.1
入間川地区（２）	97	6.2	5.2	4.1	17.5	19.6	20.6	5.2	7.2	42.3	10.3
入曽地区	229	4.8	3.9	3.5	18.3	15.7	16.6	5.7	6.1	42.4	9.2
堀兼地区	64	7.8	6.3	4.7	7.8	18.8	25.0	1.6	7.8	40.6	10.9
奥富地区	37	—	—	5.4	16.2	13.5	21.6	8.1	2.7	40.5	16.2
柏原地区	64	6.3	1.6	1.6	7.8	14.1	20.3	3.1	3.1	45.3	14.1
水富地区	130	5.4	6.2	2.3	13.8	10.8	22.3	3.8	7.7	40.8	11.5
新狭山地区	34	—	—	—	8.8	11.8	17.6	5.9	5.9	52.9	11.8
狭山台地区	66	13.6	4.5	3.0	15.2	16.7	16.7	—	4.5	36.4	16.7

問 54 総合型地域スポーツクラブを知っていますか。

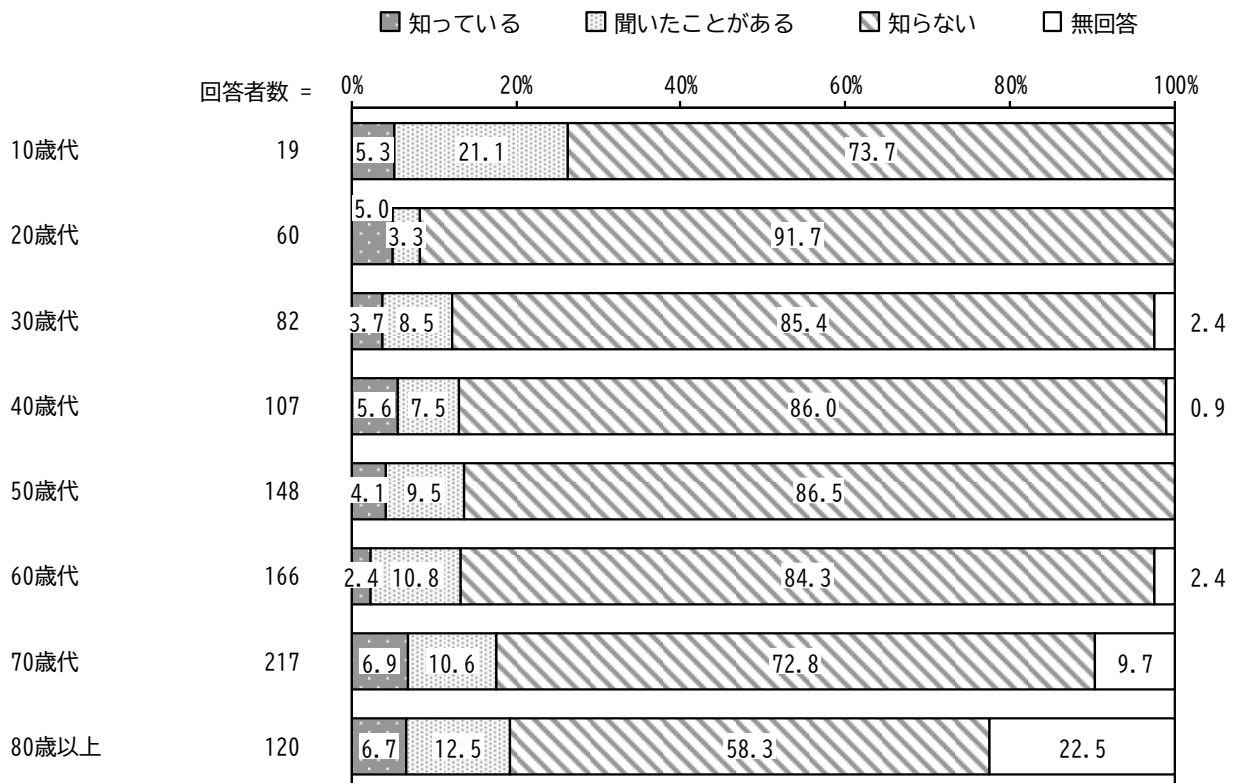
「知っている」の割合が５％、「聞いたことがある」の割合が９．９％、「知らない」の割合が７９％となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



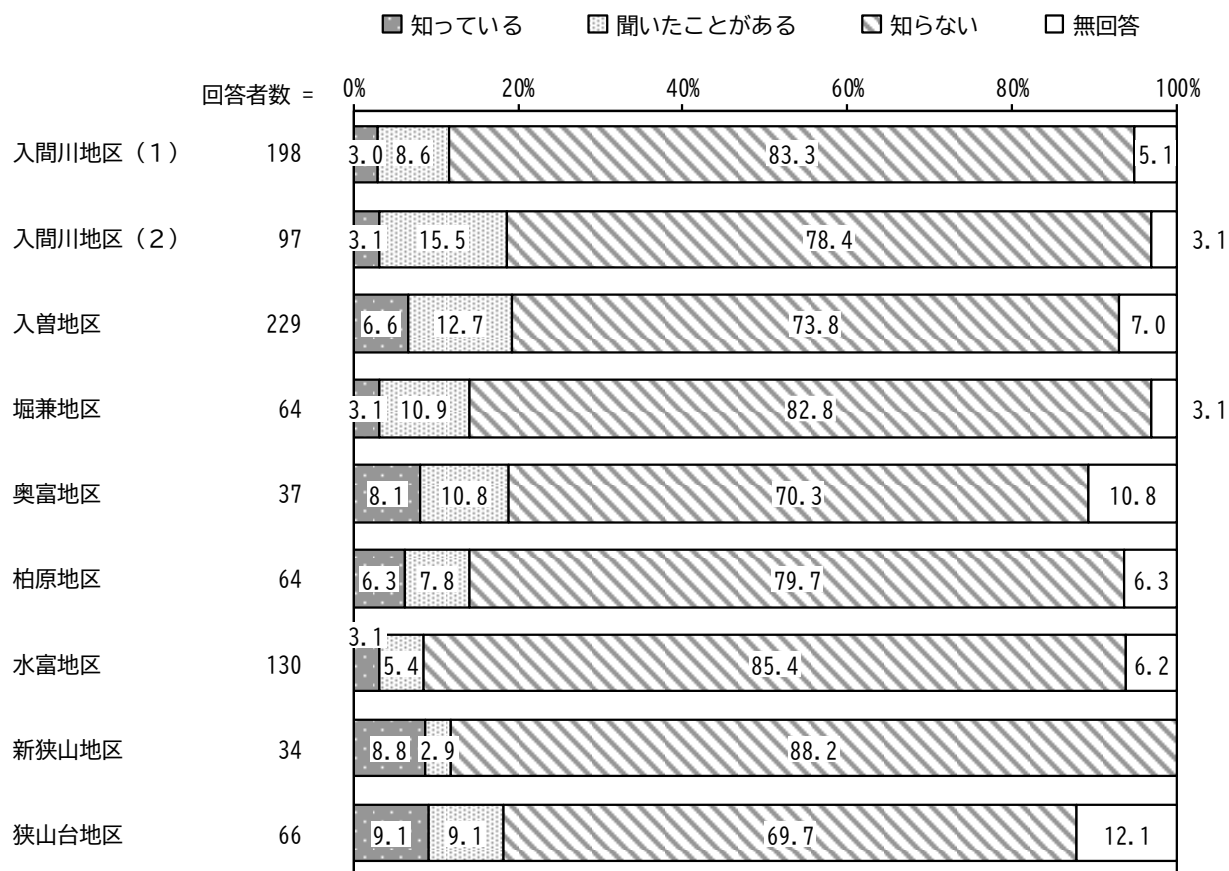
【年齢別】

年齢別にみると、「知っている」について60歳代で低く、「聞いたことがある」について10歳代で高く、「知らない」について80歳以上で低くなっています。



【居住地区別】

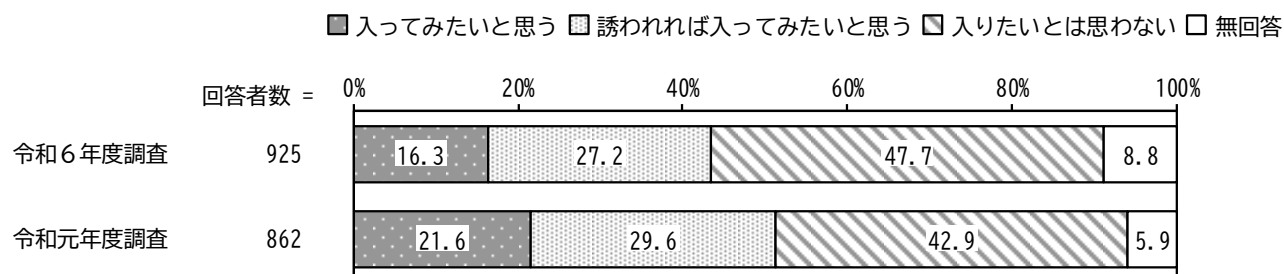
居住地区別にみると、「知っている」について狭山台地区で高く、「聞いたことがある」について新狭山地区で低くなっています。



問 55 総合型地域スポーツクラブは、会費制で地域の誰が入ることのできるスポーツクラブです。このようなスポーツクラブに機会があれば入ってみたいと思いますか。

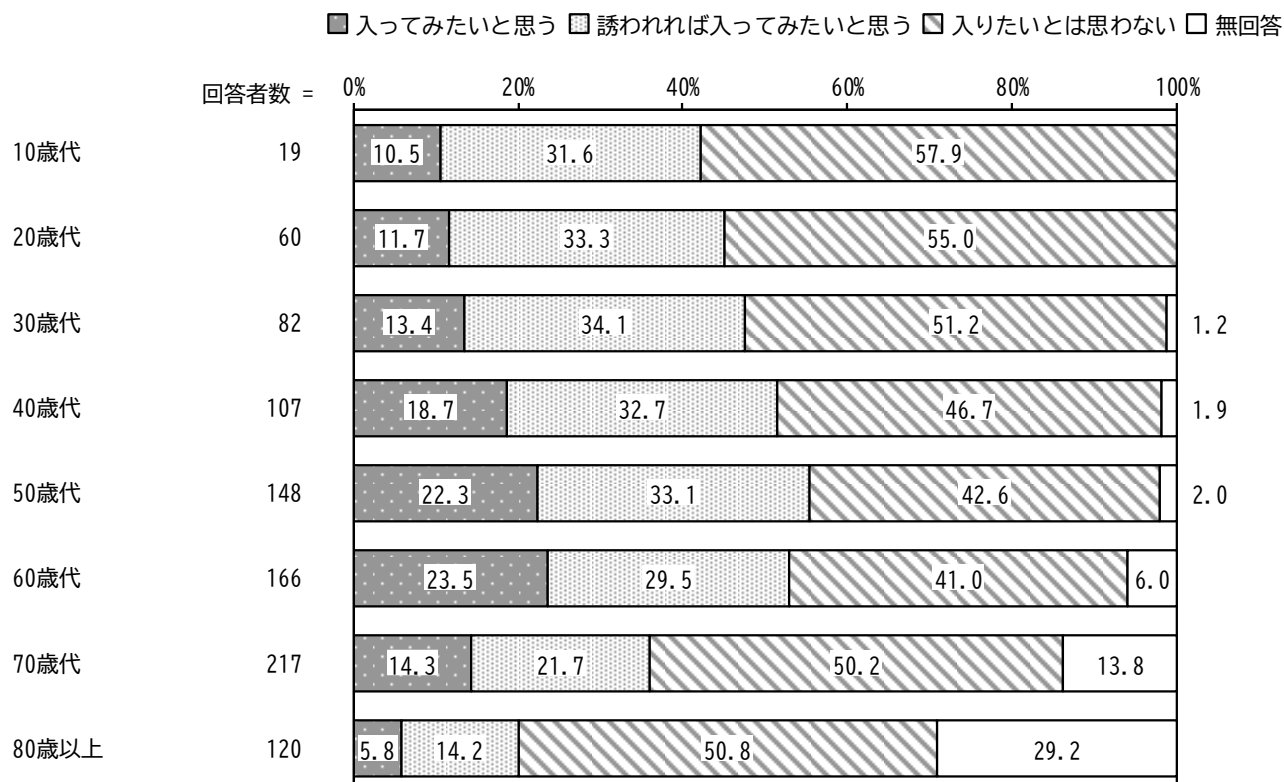
「入ってみたいと思う」の割合が16.3%、「誘われれば入ってみたいと思う」の割合が27.2%、「入りたいとは思わない」の割合が47.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「入ってみたいと思う」の割合が減少しています。



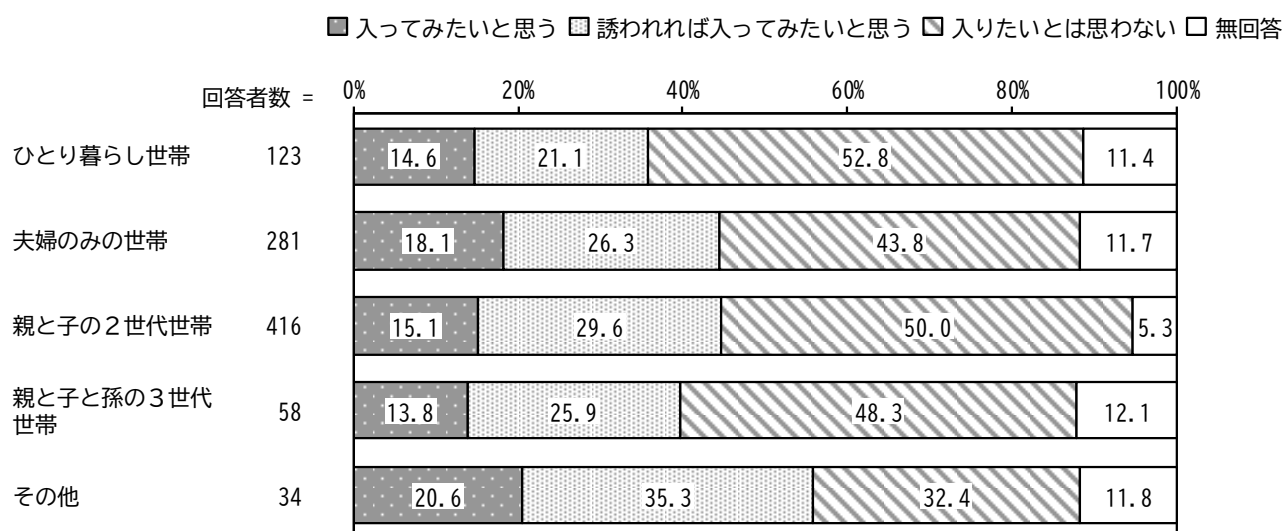
【年齢別】

年齢別にみると、「誘われれば入ってみたいと思う」について80歳以上で低く、「入りたいとは思わない」について10歳代で高くなっています。



【家族構成別】

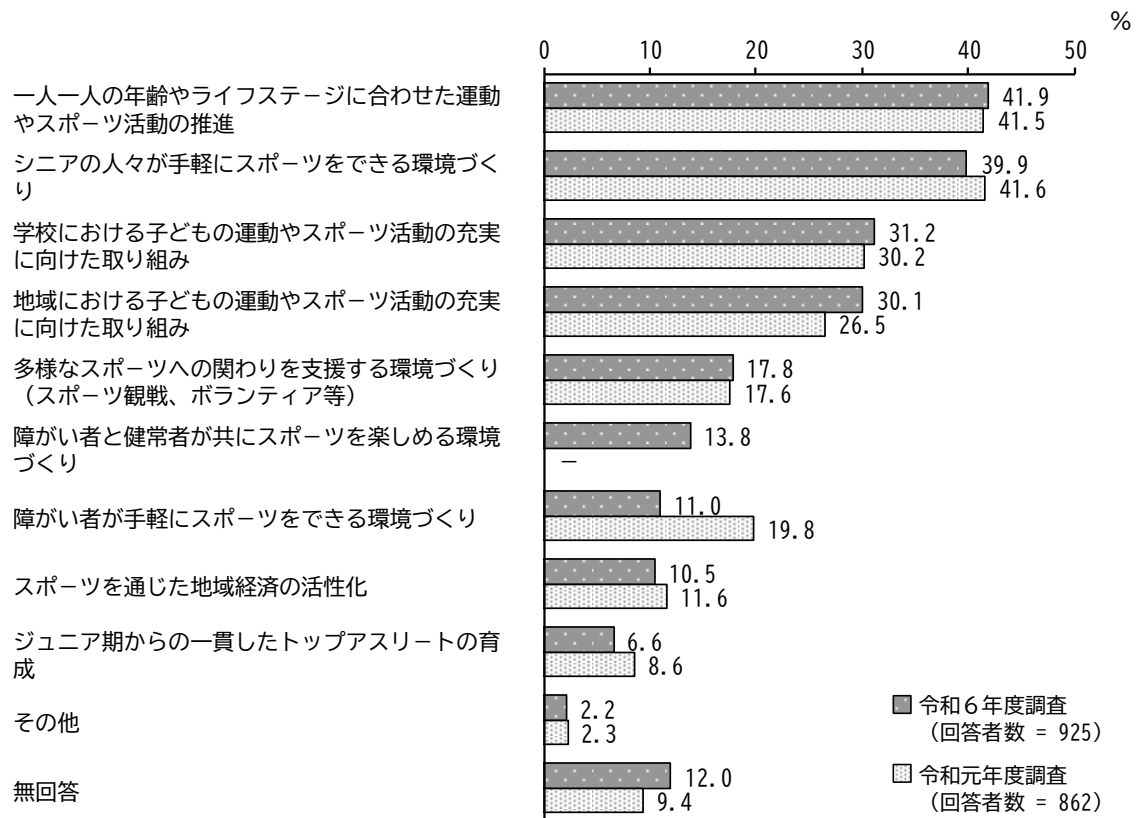
家族構成別にみると、大きな差はみられません。



問 56 今後、狭山市はどのようなスポーツ施策に力を入れるべきだと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「一人一人の年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進」の割合が41.9%と最も高く、次いで「シニアの人々が手軽にスポーツをできる環境づくり」の割合が39.9%、「学校における子どもの運動やスポーツ活動の充実に向けた取り組み」の割合が31.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「障がい者が手軽にスポーツをできる環境づくり」の割合が減少しています。



※前回調査では「障がい者と健常者が共にスポーツを楽しめる環境づくり」はありませんでした。

【年齢別】

年齢別にみると、「一人一人の年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進」について80歳以上で低く、「障がい者が手軽にスポーツをできる環境づくり」について40歳代で低く、「スポーツを通じた地域経済の活性化」について10歳代で高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	学校における子ども運動やスポーツ活動の充実に向けた取り組み	地域における子ども運動やスポーツ活動の充実に向けた取り組み	一人一人の年齢やライフステージに合わせた運動やスポーツ活動の推進	ジュニア期からの一貫したトップアスリートの育成	障がい者が手軽にスポーツをできる環境づくり	障がい者と健常者が共にスポーツを楽しめる環境づくり	シニアの人々が手軽にスポーツをできる環境づくり	多様なスポーツへの関わりを支援する環境づくり(スポーツ観戦、ボランティア等)	スポーツを通じた地域経済の活性化	その他	無回答
全 体	925	31.2	30.1	41.9	6.6	11.0	13.8	39.9	17.8	10.5	2.2	12.0
10歳代	19	68.4	21.1	31.6	5.3	5.3	5.3	21.1	26.3	21.1	—	5.3
20歳代	60	38.3	30.0	40.0	6.7	10.0	15.0	20.0	21.7	11.7	—	1.7
30歳代	82	45.1	39.0	45.1	9.8	9.8	8.5	15.9	23.2	13.4	1.2	4.9
40歳代	107	48.6	43.9	43.0	11.2	3.7	11.2	19.6	24.3	15.9	4.7	1.9
50歳代	148	30.4	39.2	50.0	7.4	12.2	14.9	37.2	18.9	12.2	4.1	4.1
60歳代	166	30.1	28.9	50.0	4.8	10.2	12.7	56.0	17.5	8.4	1.8	10.8
70歳代	217	22.1	23.5	36.9	5.5	13.8	18.4	53.9	14.3	8.3	2.3	16.6
80歳以上	120	16.7	15.8	30.0	4.2	15.0	12.5	42.5	10.8	6.7	—	34.2

問 57 狭山市の教育、生涯学習、スポーツ等に関してご意見などがございましたら、自由にご記入ください。

狭山市の教育、生涯学習、スポーツ等に関するご意見について、以下の意見が挙げられました。

1. スポーツ施設の整備 (15 件)
今回、時間は自分で見つけて積極的に参加しなければと思いました。それと狭山に会員制のスポーツクラブを早く建設して欲しいと思います。(ウォーキング用プール・水泳用) も含め。運営に支障のない程度の金額でもかまわないと思います。
狭山市にサッカースタジアムの建設と若年スポーツ(オリンピック種目、アーバンスポーツ)の施設拡充。
施設の整備が重要と考えます。機能的な部分、美化的な部分、やはり老朽化は否めません。施設、全般的に云える事ではありますが、「疲労感」が如臭に感じられる。
手続きなく市民が活用できる施設が欲しい。ウォーキングコースが少ない。(特に新狭山地区)
子供達がのびのびと過ごせる環境が大切だと思います。近所の子供達バスケットを良くやっているのですが、道路でやっているの、車が通りますし、ご近所の駐車している車にもぶつからないかと、心配になります。空き地などを利用してバスケットゴールがあるコート作って頂けるといいですね!!
狭山市には、観覧席がある野外施設が一つの無い、野球場、サッカー場、そして陸上競技場等、体育館は有りますが、広場を与えておれば良いとの考えは50年前の考えである。
体育館を利用したくても、団体でしか予約がとれないのがとても不便です。個人でも予約がとれるようにしてもらえると嬉しいです。大きな複合スポーツ施設ができると市民の健康づくりに大きく役立つのではないのでしょうか。
サピオ稲荷山が3月で終わり。建替えになるとの事ですが、ぜひ又プールを作って頂きたいです。
スポーツのできる施設への巡回バス等、気軽に利用できる交通機関があるといい。
稲荷山公園駅周辺をスポーツの拠点にしてほしい。入間基地内の留保している土地にサッカー、ラグビースタジアムを作って、ラグッツとエルフェンと共に地域のスポーツ活動をしてほしい。高齢者はスポーツ観戦に行くだけでも生きがいになりますので、よろしくお願いいたします。
サピオのような施設をもっと何ヶ所かあれば良い。行きたい時に行ける、その都度の料金でよい。自転車で行けるような場所など。併設してお風呂(スパ)があるなど。利用する客や雇用も増えるのでは。
この場が適当か不明だが… 入曽多目的広場のテニスコートは無料のせいか舗装が劣化し危険。またコートネットがボロボロで使用に耐えない。
狭山市発祥の女子サッカーチーム「エルフェン」が現在、熊谷が拠点となってしまうのは寂しい。ぜひ狭山市にサッカースタジアムの建設をお願いします。
サピオ稲荷山の閉館は非常に残念です。狭山市にプールがなくなってしまうのは困ります。代替の施設が欲しいところです。
稲荷山公園のサピオ稲荷山のプールの存続を希望します。あんなに安い金額で膝に負担が少ない運動ができるプールがなくなるのは反対です。市民プールはもっと増やさないのでしょうか？
2. 情報提供の充実とスポーツ活動の支援 (15 件)
色々なイベントなど企画、発信して下さい。
問54の総合型地域スポーツクラブの件、ネットで検索してみたがわかりにくい。広報でわかりやすく説明してほしい。
以前は広報さやまでスポーツなどの募集を見てましたが募集が少なく申しこんでも駄目だろうと思った事がありました。
広報さやまにスポーツに関する情報ページが増えると良いですね。また、災害時や救命に関するイベントなどが増えると良いですね。
私の独断と偏見が大きいのか、市の情報誌等の作り方、その他情報の見せ方が、かなりの年配者向けになっている。(悪い言い方をすれば年寄り臭い) もっと若年層の人間が参加したくなるイベント、またその為の仕掛け作り、情報の見せ方を深く研究した方が良いと思います。費用がかかるのであれば、参加費をその度徴収しても良いと思います。

施設の掲示や市のサイトに直接アクセスすれば学習講座やスポーツ施設の情報を得ることが出来るが、特に市外から転入した人などは、サービスや制度に気付いていない人が多いと思う。市でどんなイベントを計画しているか、施設があるのか、講座を開催するのか、チラシでも良いのでPRすれば市民がもっと興味を持つようになると思います。
電話予約だけではなく、インターネットで簡単に予約できるようになれば、電話が苦手な人でも、最初の一步を踏み出しやすくなるのに、と思う。狭山市の情報は、広報やアプリやホームページで見ることが多いので、ぜひ簡単に利用できる予約システムを作してほしい。特にスポーツは初心者が利用しても良いのか？と気遅れするので、情報提供をお待ちしております。
子育ては20年以上前に終わり、今の教育現場や子供たちのまわりの環境も全く違った物になっていると思います。当時はあまり不安もなく子育てしていたように感じます。親や先生方もいろいろな困難があるのではないのでしょうか。今年で定年を迎えるにあたり、今後は機会があれば生涯学習、地域貢献、ボランティアに積極的に参加したいと思います。情報の発信をお願いします。
・生涯学習は色々取り組みをされていて素晴らしいと思うが、シニアが参加しやすいように交通手段を手配するなどされると良いかと思う。・スポーツは地域振興とすることでそれをフォローする手間が働き世代に負荷かかるので、支援する者を職業化した方が、良いと思う。(対シニア)
エルフェンは、元々狭山市発祥のチームだが、現在は熊谷や飯能に実権を握られている。東中跡地に専用グラウンドを作り、再び狭山の地にエルフェンが戻ってくるような政策を是非立案してほしい。
地域に根付いた様々な活動を広く宣伝しその効果がどのように現れるのかまで説明する体制の構築
生涯学習やスポーツに興味はありますが、なかなか予定があわずにいます参加できていないものもあります。またどんなことをやっているかもわからないので、広報などで紹介記事が掲載されるとわかりやすいのでは と思います
限られた予算の中で、効率的に情報提供や活動の支援をしていただけたら、良いと思います。大きく施設整備までは必要ないのかなと思います。
教育、障害学習、スポーツ等の情報がありましたら、自治会の回覧で情報を頂きたいが、考えが古いのかもしれませんが、
3. スポーツ施設の有効利用 (13 件)
調整区域の土地を利用して、本格的野球場。
公園で運動することもあると思うのですが、(遊びも運動と考え) 木がたくさんありすぎたり、雑草が生えたままであったり(特に夏場) 遊ぶ環境としては、どうなのかなあと感じました。緑化と運動場・遊び場は少し分けて考えてみては？と思います。
少子化(自分には子供がいないので責任を感じています)の影響も、子供達が遊んでいる声が外で聞くこともすくなく、元気に遊べるような、昔のように(治安の関係もありますが)なることを望みます。スポーツ施設に関しては充実していると思います。引きこもりのないよう、いじめなどなくなってくれるといいなあ！
入曽地区近隣に、ウエイトトレーニングができる場所があるといい、智光山公園にあることは知っているが、入曽からだ遠すぎる。
車に乗れる年齢まで、テニスコート、体育館迄自由に行けますが、自転車で行ける会場が少なくて残念。それ迄利用させて頂きたい。
一部の市民のためだけでなく、多くの市民が市の施設を多く利用できるようになってほしい。開館時間の検討をすることで働いている人も利用可能になると思います。サッカー場などは多くみられるが(一部の人のための施設が多すぎる)多数のための健康増進や楽しみのための施設が本当に少なく、結局、社会人の多くは民間のクラブを利用せざるをえないのは、ずっとかわらないと実感しています。
市営プールは利用していますが、年に1~2回です。近くにないので、仕事もして中々通えません！一時無くなると淋しく思いました。でも維持していくのも市としては、大変なのかとも思います。個々にまかせるしかないのでは・・・自治会館の再利用はどうでしょうか。年1回からでも可。・自治会の入退者に関係ない行事として。・横のつながりが少なくなる世代です・・・以外と！！
自由に使える施設がほしい
特にスポーツについては、サピオのような総合型リクリエーション施設が増えると良い。
財源に限りがあるため、新たに費用をかけるのではなく、学校設備を生涯学習や地域活動にも活用できる工夫して下さい。
住宅街の近くの河川敷が週末や休みになるとサッカーや野球に占拠される。そこに住む住民がスポーツしたり遊んだり散歩したりのんびりできる場所があれば行政がわざわざ施策するまでもなくだいぶ違うのではないかと昔から思っている。

使い方が複雑 サピオを利用しようとしたが、定員一杯で使用不可となることがあったため、狭山市の施設は働く者には使いにくいものと思っている
今後、部活動の地域移行が行われると思うが、子供だけでも通える場所でやって貰えるのか？学校での部活動となれば子供だけで通えると思うが、クラブチームのような感覚で親の送迎が必要となると、家庭の事情でやりたくてもやれない、というような子が出てくるのではないかと。公共体育館が少ない。狭山台と智光山しかないの、学校体育館が使えない時期は競争になっている。狭山台体育館くらいの規模、もしくは学校体育館規模のもので良いのであれば1~2施設あると(可能ならば川を隔てた地域で1箇所ずつ)個人練習でも使う人がいると思うので、需要はあるのではないかと。近隣の入間市はいくつか体育館がありますよね…
4.スポーツ団体の活動の促進(2件)
若い頃からママさんバレーをやっていますが、狭山市は大会なども少なく連盟などしっかりした体制がないので、川越や所沢に登録してプレーしていました。バレーに限らず、他のスポーツも周辺地域の方が体制が整っていると思います。
狭山フランチイズのチームが現在あるので、市を上げて盛りたてて欲しい(ラグビー、サッカー)。
5.誰もが気軽に楽しめるスポーツの普及(19件)
チョコザップのように誰でも気軽に手軽に安価で利用できる施設が市の運営で出来るといいなと思います。
年々、高齢化が進んでいます。高齢者が気軽に参加出来る運動やスポーツ環境づくりを望みます。
シニアが身近に体力作りが出来る所がほしい。
介護施設(有料)でやっているような超高齢者向きのリハビリ的なスポーツが気軽出来るようにして欲しい。
安くて、気がねすることなく参加できるスポーツを希望します。
生涯学習やスポーツは入り口を広くしておかないと興味のない人は何もしないままだと思います。市として多くの人にやってもらいたいと考えているなら腰の重い人がとっかかりやすい何かがないとせっかく予算を投じたところで享受するのは元々やってる人になるだけかと。スポーツに興味のない私が動くとしたら・・・何か特典があるとか、何かの為になるとか(参加人数に応じて市がどこかに寄付してくれるとか・・・) 嬉しいですかね・・・。
5キロ、10キロ、15キロ等近隣市町を巻き込んでウォーキング、ノルディックを含む軽スポーツは、少ないので、クロスカントリーだけでなく催してはいかがでしょうか。家族、友人多数の参加が望めると思います。
90過ぎです。スポーツは好きです。体力の限界にきているようで気が進まない。しかし、遠くは、行けない。近くは、小学校のグラウンドがあるが、1人じゃ。と考えてしまう。毎日ジョギングはトナリ近所の人を誘って散歩に出ることあり。
毎年12月に開催されている、茶の里ウォークラリーに楽しく参加(妻と一緒に)させて頂いています。このような行事が、気楽に参加できるといいですね。今後共よろしくお願い致します。
シニア中心のボウリング教室があればうれしい。
誰でも気軽に楽しめる場であってほしい。
若者も気軽に利用できるジムとかあれば良いなと思います。
総合型地域スポーツクラブの存在を知らなかった
どうしても「団体」に所属させようという設問が多く困惑します。市としては「一人でできる事」を増やす方向は好ましくないのかもしれませんが。「子供一人でも遊びやすい公園」「子供を一個の人格として、メンターが余裕をもって扱える程度のクラス・学校規模」「散歩しやすく、楽しい市街地」「オンラインでも参加できる学習プログラム」「(どうしても集団にしたいのなら)参加の心理的敷居を下げる工夫(情報、費用や内容以前の入口の問題です)」 せっかくの機会ですので、無理は承知で書きました。ごめんなさいませ。
知的障害があり、家族やヘルパーと一緒に、気軽に利用できる施設が多くあると良いと考える。
子供が運動をして問題ない公園、広場を増やしてもらいたい。
あらゆる世代の健常者、障害者を問わず、みんなで楽しめる ユニバーサルスポーツの振興を進めてはいかがでしょうか。

仕事上なかなか運動する機会がない為、難しい事が多いです。 不規則の休みや夜しか運動出来ない人の意見などを聞いて欲しいです。 土日に活動しているものが多いので参加するのは難しいのです。 平日の昼間や夜に活動しているものがあれば参加してみたいと思います。 長期受講よりスポットだけでもいいと思う オンラインでもできることを拡充したほうが 市民は参加しやすい 自宅でもできるものが増えてほしい
6. スポーツ全般（8件）
まず、我々は日本人であることを認識し、歴史や文化伝統を学び未来をどのように変化していくか、その土台となる精神づくりを生涯学習や、スポーツで養ってゆく必要があると思います。その活力は、きっと町づくりや社会づくりに役立つことと信じます。 定年後、スポーツジムに通い、もともと虚弱体質を少しでも鍛えようと思い続けましたが、数年前に肺炎にかかり入院、1ヶ月後退院するも、常時酸素チューブをつけての生活になりいろいろな意欲が失せてしまい、現在に至っています。中年の元気な方々に、生涯学習、スポーツ等に未来の為、PRが切に、必要と思いました。 スポーツだけでなくすべての学習に心技体の言葉を忘れずに取り組むと良いと思います。 健康づくりの為に、スポーツで体力づくりができ、その結果が、健康にむすびつくことは、障がいがあっても、健康な人でも同じく・・・シニアと言えど、動ける間はスポーツを楽しみ体力をつけたいと思っています。 民間ジム等への補助金の検討（健康増進のため、医療費が少なくなるため）。 スポーツは心も体も強くなると思います。学校での部活は必要だと思います。厳しい練習も人生において決して無駄にはならない。箱根駅伝見て感動しない人はいないでしょう。 スポーツ行政の目的、哲学は何かを標可し、地域の個人を活性化する。 【教育】学校と地域の一体性が見られない。小学校、中学校、地域コミュニティの一体的な運営が必要。「児童、生徒」と「地域コミュニティ」という枠組みではなく、「地域コミュニティ」の枠組みの再整理及び充実が必要。住民の地域コミュニティへのエンゲージメントの充実を図ることにより、その地域にある小学校、中学校、「児童・生徒」の参画が可能になる。例えば、教員の長時間労働問題についても「地域コミュニティ」の問題と捉えて、各コミュニティで解決策を採るべき。 【生涯学習】生涯学習は、内容や分野が千差万別で、人の数だけ分野や方法が有り得る。その成果は、その人の能力を高めていることになるので。「人材」と捉え、社会に還元する仕組みが必要。その成果(能力)を還元する場合は、必ずしも狭山市にあるとは限らないので、日本中や世界中のどこかにあるかもしれない。また、それは個人能力か、ボランティア団体、民間企業、行政機関など、どこに役立つかも分からない。そうした「人材」を広く発信するシステムが欲しい。 【スポーツ】スポーツと一言に言っても、期待される施策は大きく3つの側面がある。第一にトップアスリートの輩出。これは、純粋に市民の健康面に寄与する部分への期待は少なく、むしろ市の知名度の向上や市民の意識の一体感、意識の共有を図る上で必要だと思う。狭山市は何百年も前からある集落の末裔も少なくないが、首都圏のベッドタウンとして或いは首都圏を支える産業のサテライトと都市という、発展とともに流入する新市民を受け入れることが欠かせない。様々なバックグラウンドを持つ市民の意識の共有化を図る施策は、狭山市にとっては重要な要素となるため、トップアスリートの醸成などの市民で共通の目標を持つことが必要だと思う。 第二に市民の健康維持という観点での施策である。これは、老若男女を問わず自由に使える健康促進器具を公園などに配備することだけでなく、個々の器具の効能と利用方法の理解の浸透、器具のメンテナンスまでも施策の一部に含まれる。プールであれば、単に更衣室とプールがあるだけでなく、機能的なプールの配備やプール利用時に必要となる、個人の道具を管理しやすい棚や、サウナ、浴室などの関連設備も含まれる。それらの維持やサービスに必要なコストは利用料として反映すべきで有り、利用料を抑制するあまり、正しく施設運営ができない状況に陥るのは本末転倒で、市民には無益どころが、税金の無駄遣いとなる施設になってしまう。 第三に市民の交流の場としてのスポーツ施設の施策である。具体的にはテニスコート、野球グラウンド、サッカーグラウンド、ゲートボール場など、体を動かしながら、市民同士が交流する場である。駐車場が不便であったり、利用率が低いものもあるので、再整備してほしい。
7. 青少年の競技スポーツの普及（2件）
！！オリンピック選手でも育成するつもりですか。会員制クラブとは。 狭山発祥のプロサッカーチーム（ちふれ）のホームグラウンドとなるサッカー場（多目的な）を作って、多くの人と交流出来るようにしてほしい。又グラウンドはプロだけではなく、少年サッカーの大会としても活用し、子ども達に夢を与えてほしい。
8. アンケートについて（15件）

親の介護で忙しい事、もうすぐ（１月末に）入間市に引越す為アンケートに積極的に記入出来ず申し訳ないです。先生の仕事が増えて、大変にならないようにして欲しいです。勉強をわかり易く教える事が大事だと思います。勉強のし方が上手に出来る子を育てて欲しいです。
子をもっていない。（もてなかった）自分にアンケートが来たのが、判らないです。＝狭山市の教育についての項目です。嫌味かと。レベルが低くすみません。
スポーツ、教育にかかわりなく、このようなアンケートがひんぱんにあるとよい。様々な意見があっても、伝えることができないので、このような機会をふやしていただきたいと思います。
私は赤坂の森でほぼ毎日ウォーキングをしています。１時間位。只、定休日・年末年始の休みなど（約９日間１２／２８～１／５）これは狭山の人が利用していますが皆休み長すぎると言っています。どうにかなりませんか？三ヶ日の休にしてほしいです、せめて！！市役所にアンケートも何度も提出していますが市議の方にもお願いしていますが中々です。どうぞ少しでも改善してくださる様お願いします。
アンケート・・・と言う事で大それた解答は答えられませんが協力させて頂きました。私も年令的に３，０００人目となりますが、狭山に来て５０年程運動をしてきました。子供や大人と悩みを聞くこともありました。その中で思うことは、強かろうが弱かろうが他人と比較をしない。人はみんな性格は同じではないよ・・・何をするにも楽しくなる事に繋げるようにと親御さんと接点をもってここまで来ました。つたない経験をふまえてのこと。意味も分からず失礼しました。スポーツ的でごめん。ここまで来ると私も何を思うのか、すみません。広報等に大まかに掲載をし、小・中・大人・シニアと目を通すように活用出来たらと思います。訳も分からず書いてしまいました。
このアンケートにネットで回答しようとした所、何度もやり直しになった。現状、不満などはありません。
アンケート用紙が来るたびにいろいろなことがわかり、参考になりました。私は８０才を過ぎました。本当に有難うございました。
アンケートは良いことと思います。しかし、質問が多岐に渡り、回答者のレベルもあると思います。本アンケートの取り方が形だけでなく、市民にとって有効かどうかの疑問が残ります。アンケートの主旨を鑑みた時の展開の仕方に知恵が必要と感じました。
・市民アンケートだけでなく、専門家百人にアドバイスをもらって欲しい。事業化へのムダな経費を抑えるためにも。アドバイス料の方が安いのでは？
年令のもっと若い人達からアンケートとった方が良いのでは？・・・私みたいな年よりは、何かやりたくてももう何もやれないので次世代への期待も考えが及ばなくなっています。
中学校の部活のあり方を、保護者へアンケートを取って欲しい。地域へ移行する際、親の負担が増える（経済的、身体的）。
７８才です。もうスポーツはできません。アンケートお役に立てなかったと思います。ごめんなさい。
アンケートの回答が大変遅くなり、誠に申し訳ございませんでした。宜しく願いいたします。
教育等に限定したアンケートでは社会における教育等の現状がわからないのではないかと史料する。住民の生活状況や余暇の過ごし方など、家庭の経済状況やコロナ禍前後の変化なども考慮すると、思うように教育等に取り組めてないのか現状ではないかと思う。 今回のアンケートで現状を把握しようとするのは無理があると思う。

このアンケートに答えるにあたり、参考として荻上チキ・内田良著『ブラック校則』を読みました。2018年の本なので少し情報が古いかもしれませんが、実は昔よりも今のほうが校則は厳しくなっているということが書いてありました。校則の内容も不合理かつ人権侵害なものが多いです（下着の色が決められているなど。チェックまでされるそう）。狭山市はどうなっているのかな？と気になりました。ぜひ実態を調査して、もしもおかしな校則があれば是正して欲しく思います。明文化されていない校則なども存在するらしいので、子どもたちに定期的にアンケートをし、常時相談できる外部窓口があると良いと思いました。生徒が教員を評価するアンケートなどをするのも良いかと思います（大学では一般的）。また、校則について生徒の参画があると良いのではないのでしょうか？廃止したり、変更したりした経験があれば、民主主義社会に前向きになり、選挙にも積極的に行くかもしれません。教育効果が望めます。現状ですと、服従一択であり、民主主義社会の教育としてはマイナスでしょう。また、子どもの頭髪や服装などについて。たとえば染めていたり、おしゃれをしていたりしても気になりません。わざわざクレームを入れる地域の人がいるというので、書いておきます。また、学校が苦手な子に配慮して、リモート授業やフリースクールなどの活用推進を望ましく思います。アンケートの最初にも書きましたが、生きるの楽しいと思ってもらうことが最重要だと思います。逆に言えば、生きるのつまらないとか辛いと思わせる教育は最悪であり、それなら何もしないほうがマシでさえあると思います。もしも生きるの楽しいと思う子どもたちが大人になったら、きっとその子どもたちの多くは社会も愛すし、地域も愛すでしょう。以上、釈迦に説法かとも思いますが、地域住民の一意見です。

9. 子供のスポーツの振興と学校体育の充実（15件）

中学校のクラブ活動が変化するような話を聞きました。運動クラブの現場は、夏は熱中症アラートが発表されると中止。秋、冬の放課後は夕暮れが早く十分な活動ができない状況。中学校のグラウンドに照明を設置すべきである。

小学生の頃体育は順位をつけ、競う物のような印象がありました。運動は今も昔も苦手ですが、健康維持に必要なものだと思いますので、そういった側面も学べたら良いなと思います。

体育授業等、先生が目が行き届いていないことがとても気になります。子供たちにとって「安全に」を決して忘れないでいただきたいです。

学校教育に於ける体育の授業（クラブ活動）は、児童、生徒の体力に個人差があり、何を基準に取り入れているのかと考えることがあります。（スポーツの種目が多数の為）どんな種目にせよ、何かスポーツを続けたいと思える楽しさを、身に付けられる授業であってほしいと思います。子供時代の経験は大切なものだと思います。

学校でプール授業が5回くらいしかないの、サピオのプール教室があって助かっています。夏も戸外は暑すぎて出られない事が多いので、有り難いです。中学部活の外部委託は、とてもよい考えだと思います。

狭山市から世界のアスリートが生まれる環境作りが子供達により良い未来を約束してくれると思います。

近年、スポーツをする子供が減っており、スマホばっか、ゲームばっかということが増えているので、学校、地域でスポーツを行うことで、スポーツの活性化に繋がると思います。

子どもが義務教育終了しているので、小・中学校のことはわかりません。時代もちがうので、あとは子どもがスポ少をやっていたが、とてもいやでいやでたまりませんでした。スポーツ見るのもキライです。

私のまわりには、仕事をしながら子育て、孫育てをしている人がたくさんいます。皆やりがいを感じながら両立しています。給食費、学費の無償化なんか誰も望んでいません。4年生になったら追い出されてしまう学童、熱が出たらすぐ帰らなければならない保護者、どうぞ子ども達を安心してあずけられる場所を作ってあげてください！！子育てをおえ、孫育て中のいちばあばの願いです。よろしくお願いいたします。

小学校5、6年生が行う市内体育大会の事です。5、6年生だけが出れる大会、市内小学校が集う大会（全小学校が一同ではないですが）というだけで、運動が好きな子どもは嬉しくワクワクしています。そんな大会で頑張って1位をとっても、その後その成果が生かせていないように感じます。6年生には特に中学校へ進級していく時に不安の中、1つでも自信が持てる・・・認めてもらっている・・・という安心感になれるといいと思います。例えば中学校の部活の先生から声を掛けてもらう・・・など。今の市内体育大会は5、6年生が行うただの運動会というだけです。せっかく3校～4校集まるのに意味がないです。

その人が持っている素質や興味を能動的に引き出す事が理想だと思っていて、その為に出来ることは知る機会の提供と、主体的に学びたくなった人が体験できる場だと思っています。知る機会の提供は半強制的なプロセスでも良いと思っています。主体に任せてばかりでは、新しい機会に恵まれる可能性が不平等だったり、不十分であると考えからです。学べる場は、(標準的な教育を除いて)半強制的なプロセスではダメだと思っています。教育について求めている(いた)事は2つです。1つ目は、一人一人の得意分野を見つけ出す事です。効率や人材資源を考慮すると無理難題だと分かっていますが、理想としては不得手を平均に戻すより才能を伸ばす事に注力して欲しいです。その為にAIを使うのも良いと思います。時間と場所に縛られず、偏見やバイアスが無く、同時に複数人を相手できるからです。理想としては、秘密を打ち明けたり、教師として教えてくれたりもする一人一人のパーソナルなAIです。2つ目は、最新技術への対応です。インターネットの活用やAIの活用です。これに関しては、人材への負担が大きいのので、教育にAIを活用するか、専門家を招く形式が理にかなっていると思います。スポーツに関しては、半ば強制であっても体育や部活動などの活動は才能を発見できる点でとても素晴らしいと思います。他の学校との試合や大会も、向上心を高めまし、興味のある子達の学習を育む事も十分出来ていると思います。スポーツが必須な事に賛否あるかもしれませんが、不得意であることも含めて知る機会自体は平等であるべきだと思っていますので賛成です。

小中学生の運動能力について 部活動制限のため、他スポーツ団体に所属できない子はますます運動をしなくなると思います。気軽に運動ができる機会があればよいのですが、これからの対策よろしくをお願いします。

小学生の参加できるイベントや講座は多い方だと思います。一方で、未就学児のものは少なかったり平日の昼間で参加できなかったりする印象があります。猛暑で外のグラウンドでのスポーツ教室への参加を躊躇うことが増えたので、グラウンドスポーツでも体育館を利用した教室に変えても良いのかなと思います。子どものスケジュールが優先されるので、自分の学習や運動は家で空いた時間に気軽にできるものになりがちです。自分が参加するためのスケジュール調整や環境調整がしんどい。博物館は子どもと一緒に学んで楽しめるので企画展を楽しみにしています。

子供たちの教育には、少しでも多くの機会、選択肢を与えて欲しいと思います。

就学前の子どもと参加できるスポーツイベントを企画・開催してほしい。

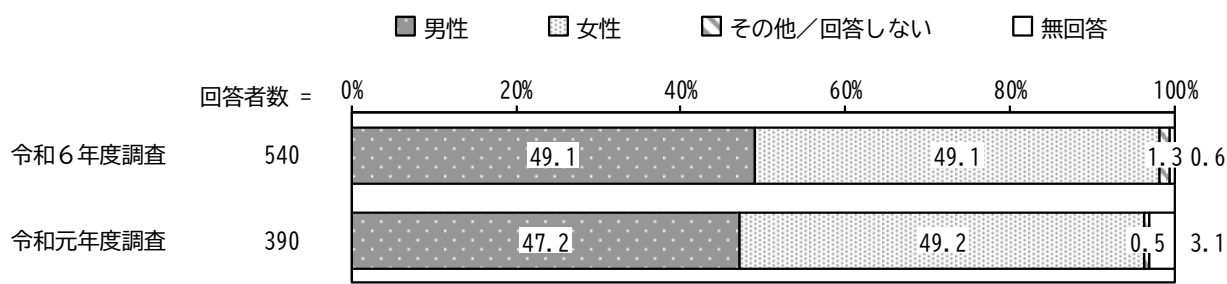
2 児童生徒

(1) 回答者属性

問1 あなたの性別を選んでください。

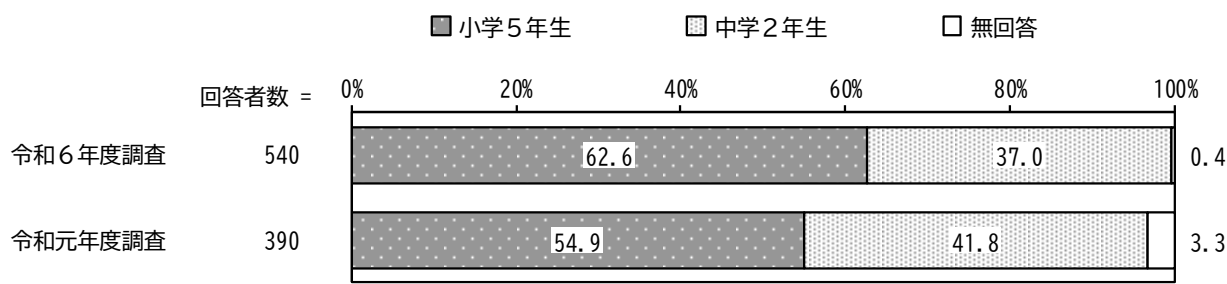
「男性」、「女性」の割合が49.1%となっています。また、「その他／回答しない」の割合が1.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問2 あなたは何年生ですか。

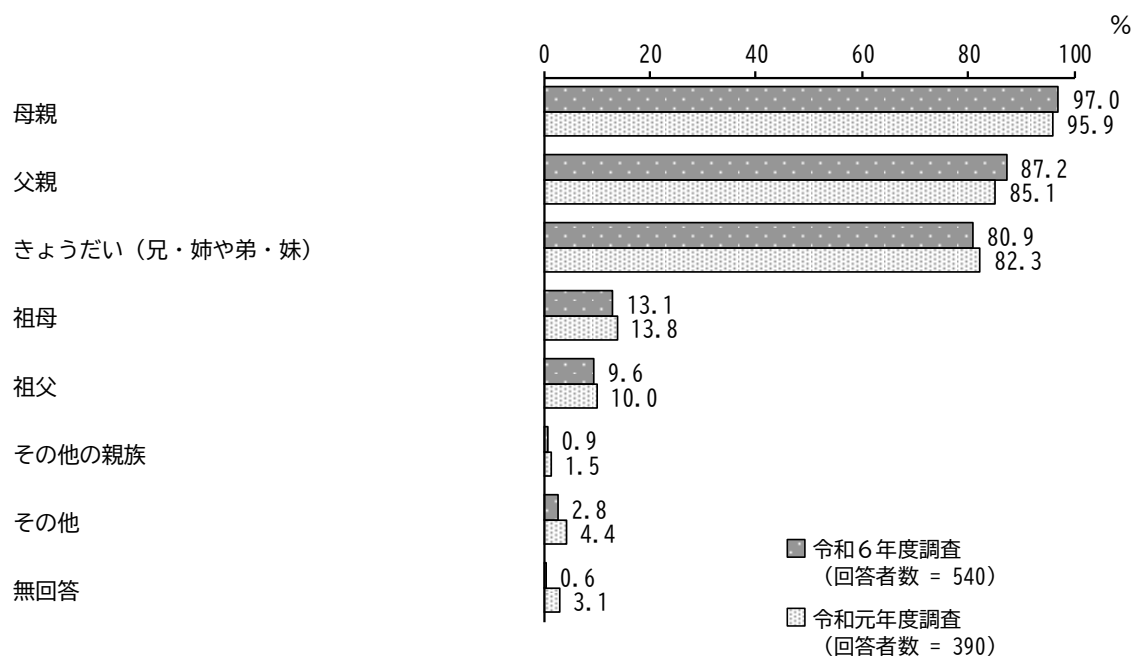
「小学5年生」の割合が62.6%、「中学2年生」の割合が37%となっています。
令和元年度調査と比較すると、「小学5年生」の割合が増加しています。



問3 あなたが同居している家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

「母親」の割合が97%と最も高く、次いで「父親」の割合が87.2%、「きょうだい（兄・姉や弟・妹）」の割合が80.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



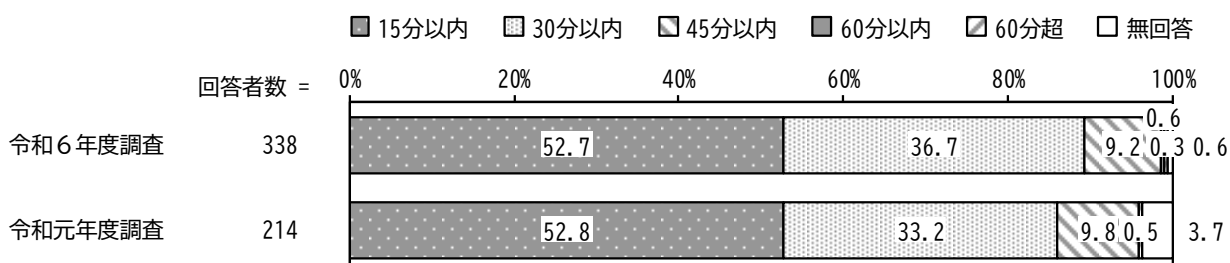
(2) 学校について

問4 あなたの通学時間はどのくらいですか。

ア) 小学生

「15分以内」の割合が52.7%と最も高く、次いで「30分以内」の割合が36.7%、「45分以内」の割合が9.2%となっています。

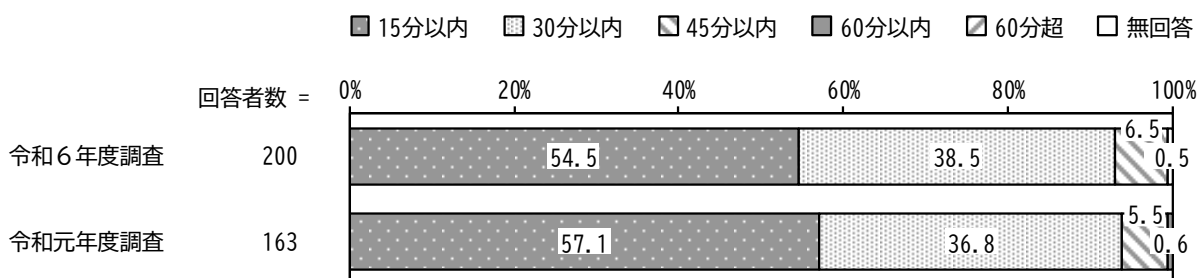
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



イ) 中学生

「15分以内」の割合が54.5%と最も高く、次いで「30分以内」の割合が38.5%、「45分以内」の割合が6.5%となっています。

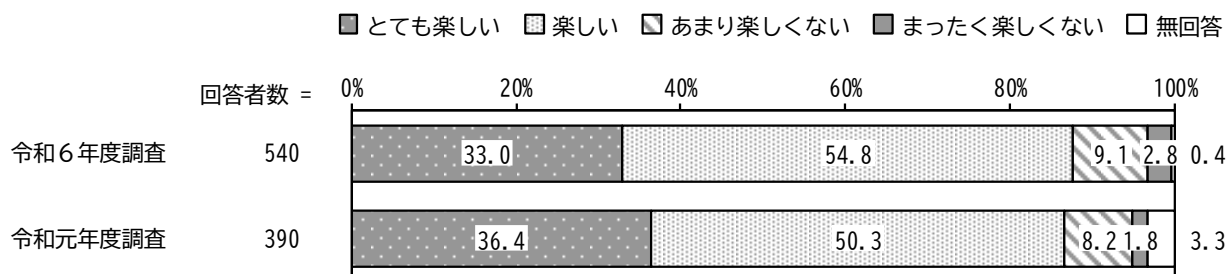
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問5 あなたは、学校に通うのが楽しいですか。

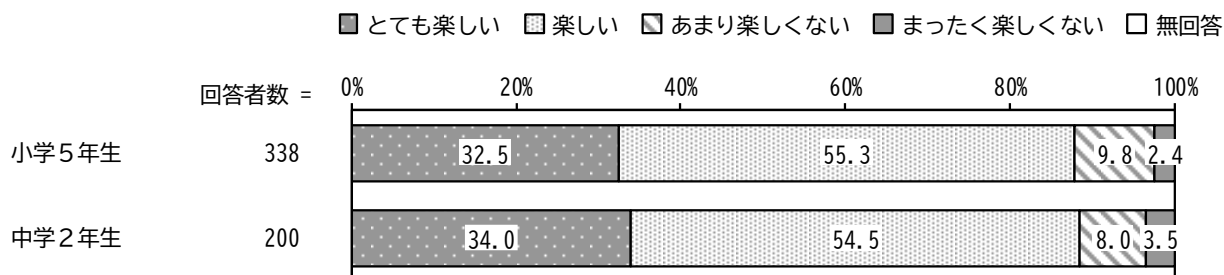
「とても楽しい」「楽しい」を合わせた”楽しい”の割合が87.8%、「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」を合わせた”楽しくない”の割合が11.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



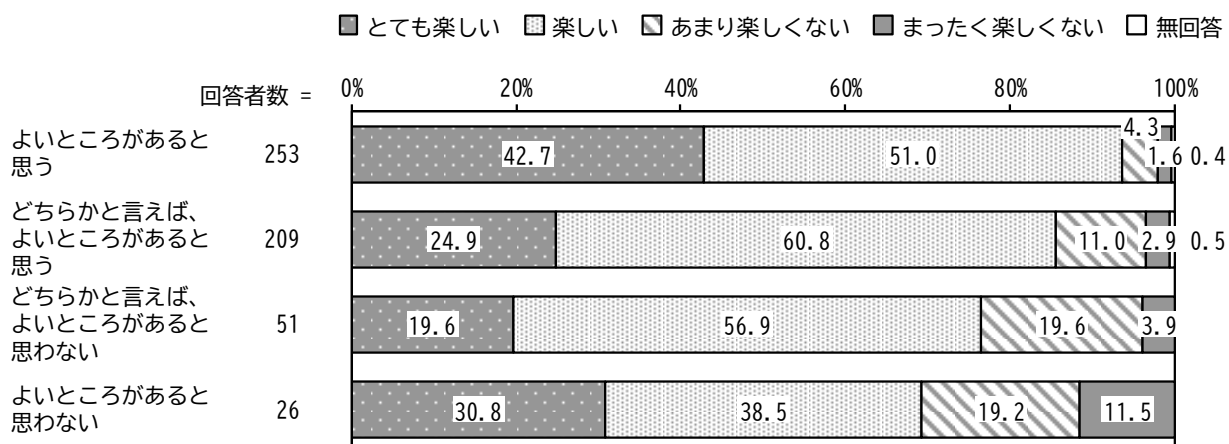
【学年別】

学年別にみると、大きな差はみられません。



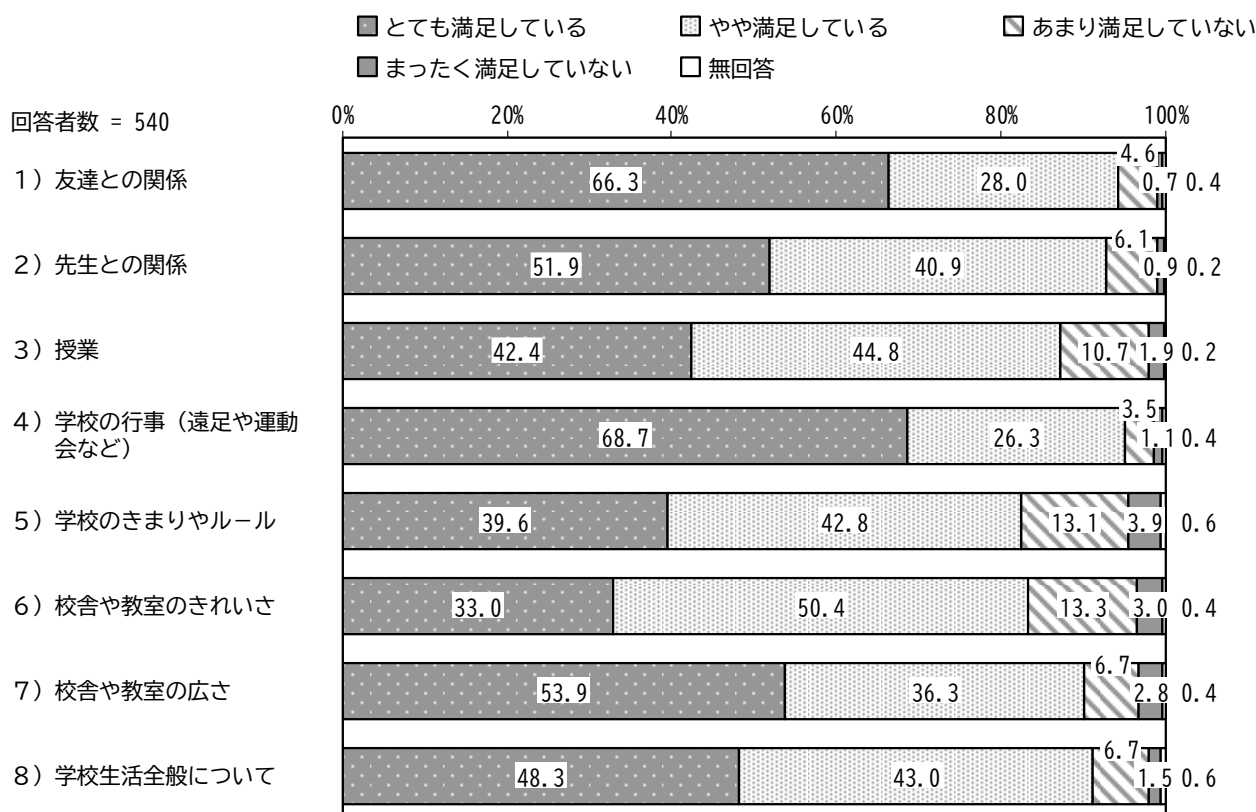
【自己肯定感別】

自己肯定感別にみると、「あまり楽しくない」についてどちらかと言えば、よいところがあると思わないで高く、「まったく楽しくない」についてよいところがあると思わないで高くなっています。



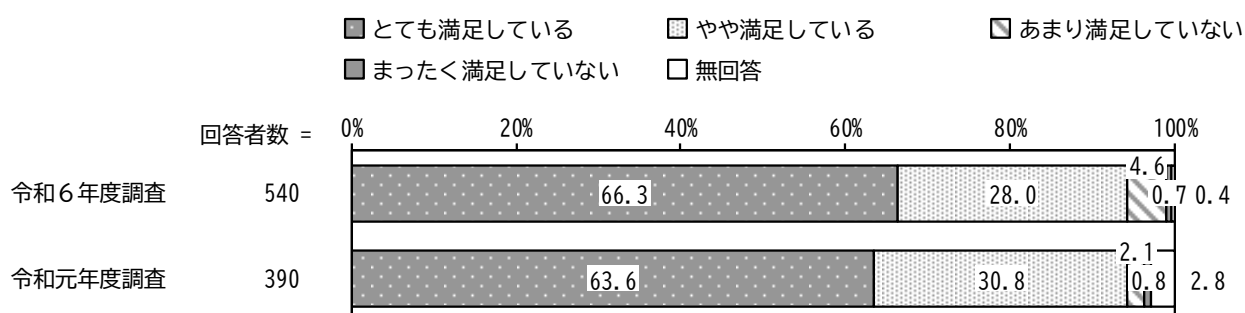
問6 あなたは、学校生活に関する次のようなことに、どれくらい満足していますか。
(それぞれにひとつずつ○)

『1) 友達との関係』『4) 学校の行事(遠足や運動会など)』で「とても満足している」「やや満足している」を合わせた”満足している”の割合が、『5) 学校のきまりやルール』『6) 校舎や教室のきれいさ』で「まったく満足していない」「あまり満足していない」を合わせた”満足していない”の割合が高くなっています。



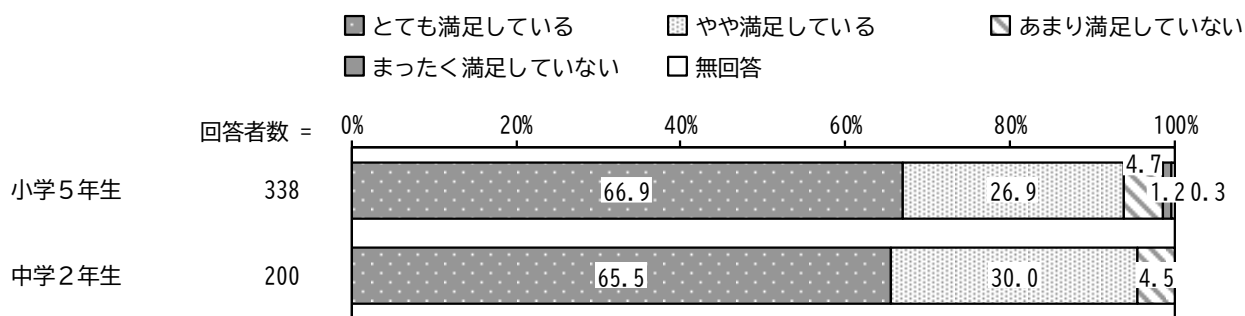
1) 友達との関係

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



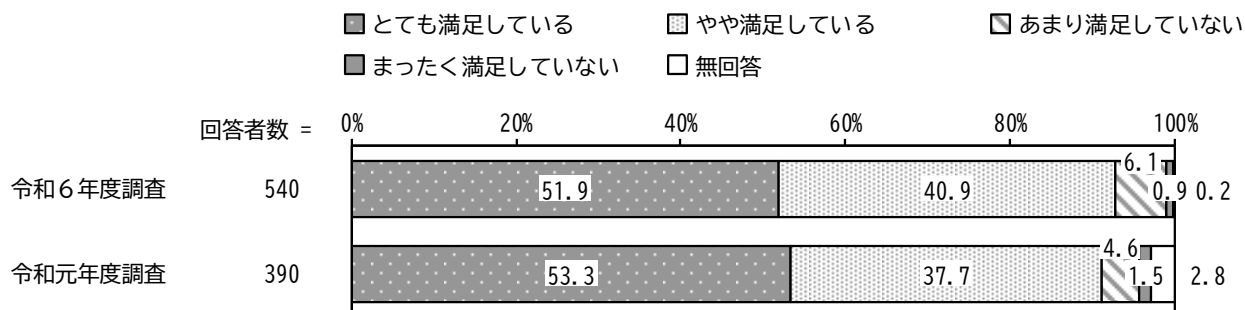
【学年別】

学年別にみると、大きな差はみられません。



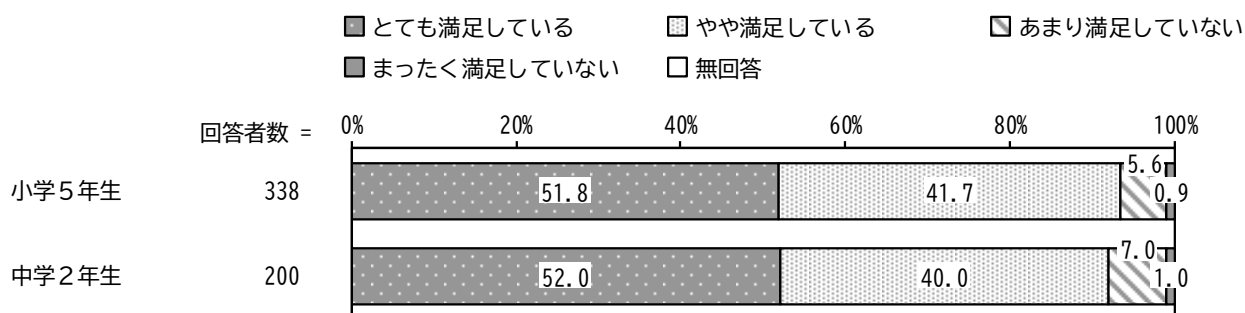
2) 先生との関係

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



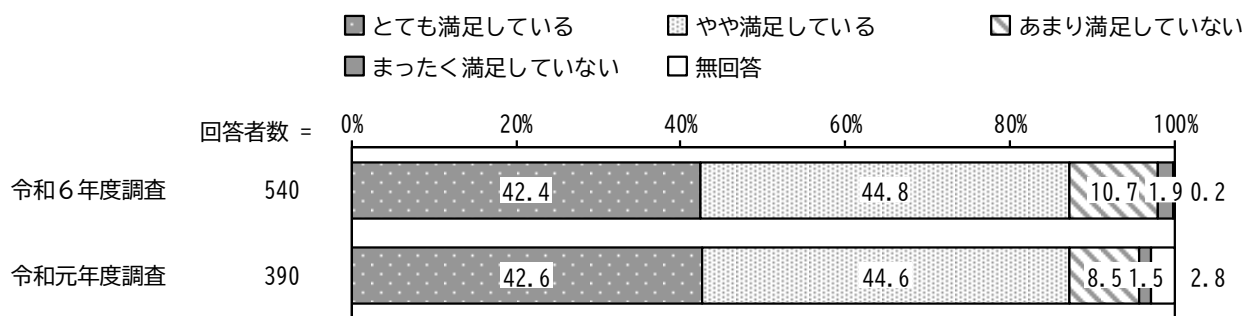
【学年別】

学年別にみると、大きな差はみられません。



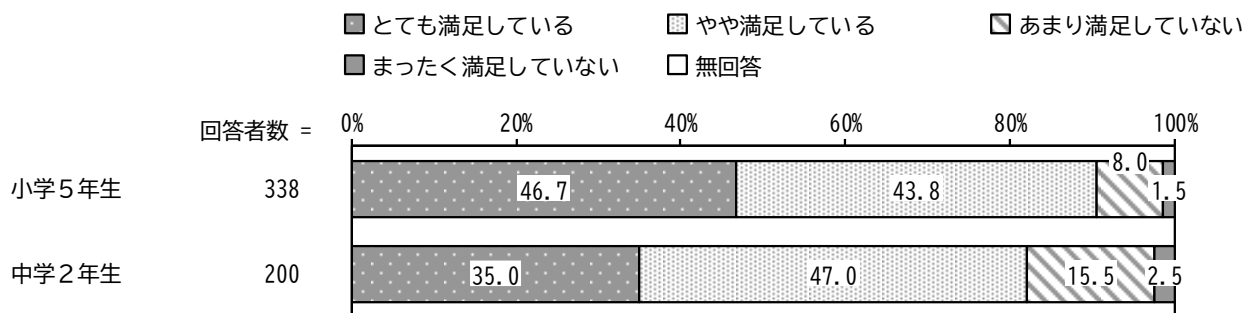
3) 授業

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



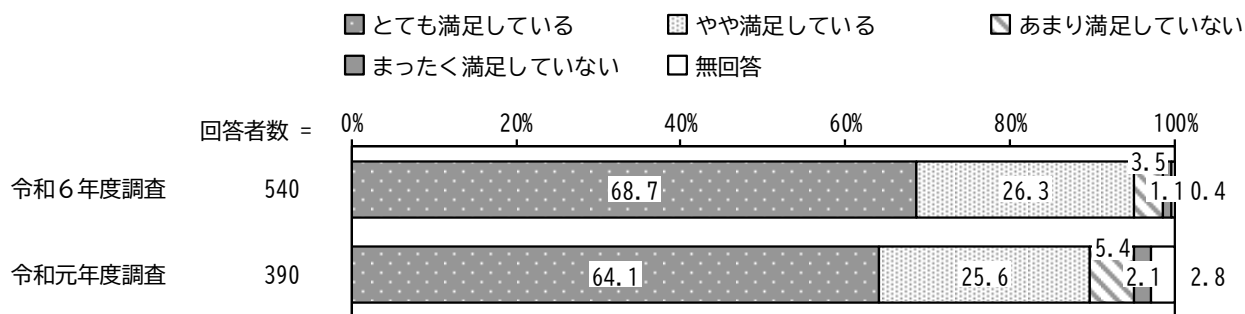
【学年別】

学年別にみると、「とても満足している」で小学5年生の方が高く、「あまり満足していない」で中学2年生の方が高くなっています。



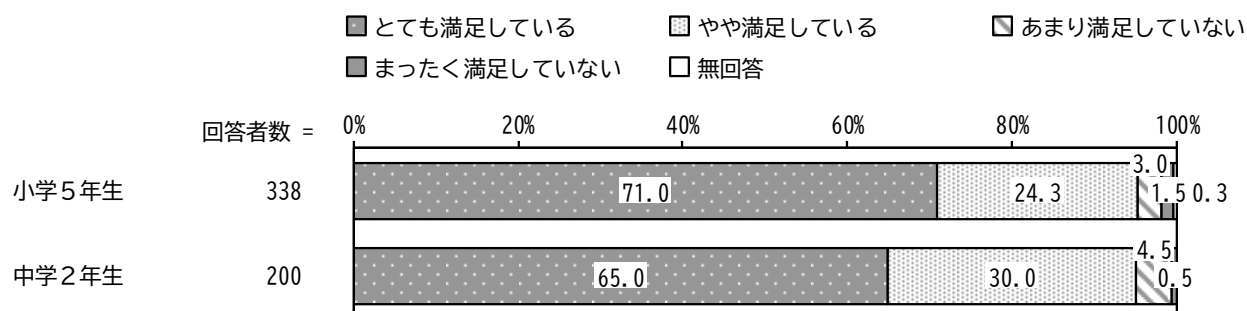
4) 学校の行事（遠足や運動会など）

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



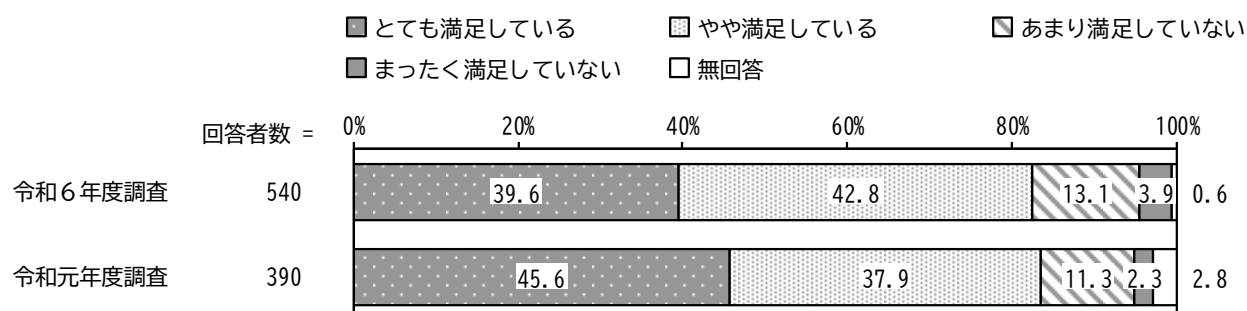
【学年別】

学年別にみると、「とても満足している」で小学5年生の方が高く、「やや満足している」で中学2年生の方が高くなっています。



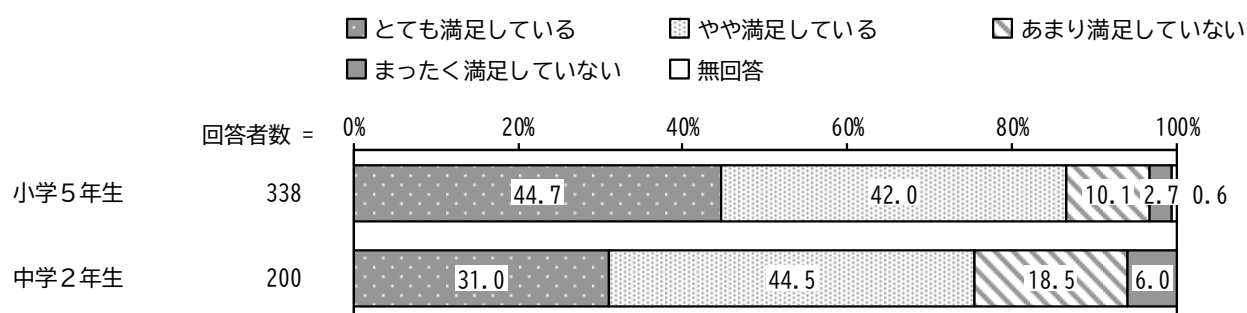
5) 学校のきまりやルール

令和元年度調査と比較すると、「とても満足している」の割合が減少しています。



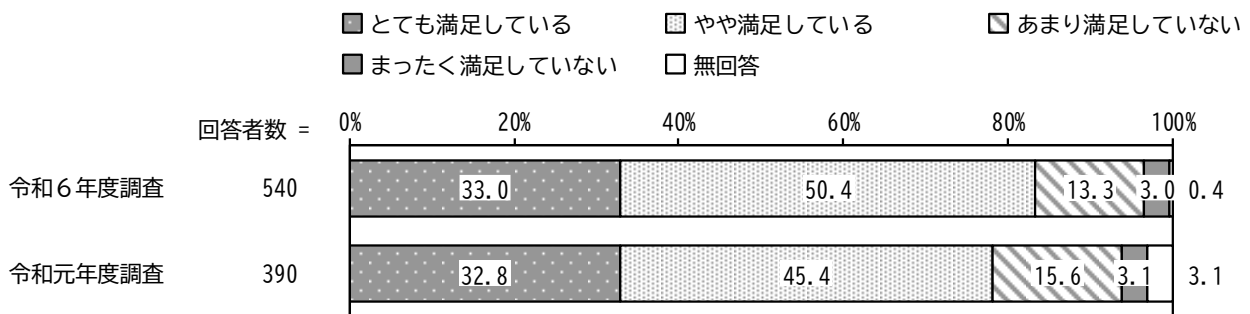
【学年別】

学年別にみると、「とても満足している」で小学5年生の方が高く、「あまり満足していない」で中学2年生の方が高くなっています。



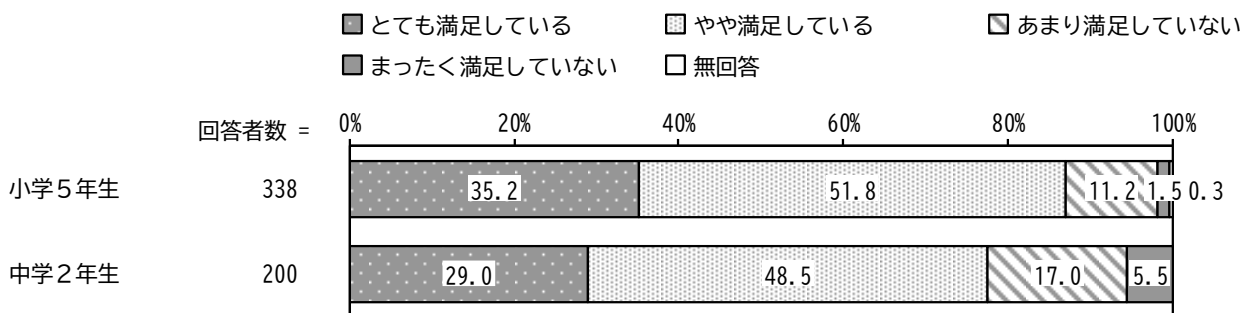
6) 校舎や教室のきれいさ

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



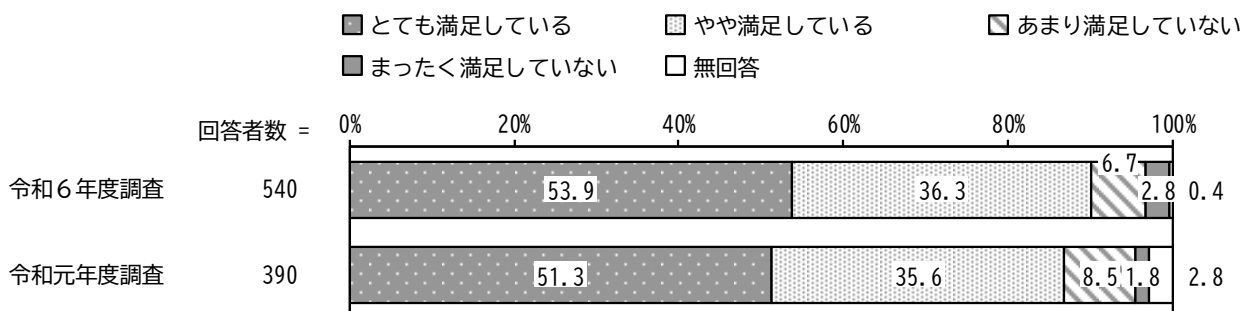
【学年別】

学年別にみると、「とても満足している」で小学5年生の方が高く、「あまり満足していない」で中学2年生の方が高くなっています。



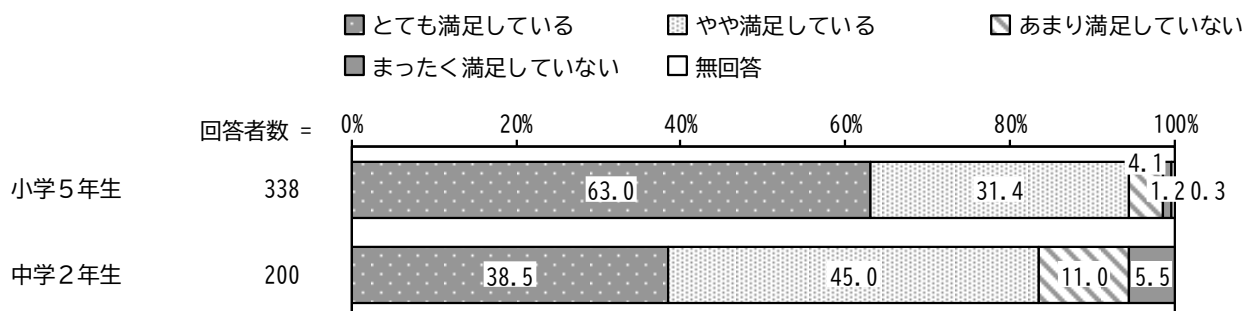
7) 校舎や教室の広さ

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



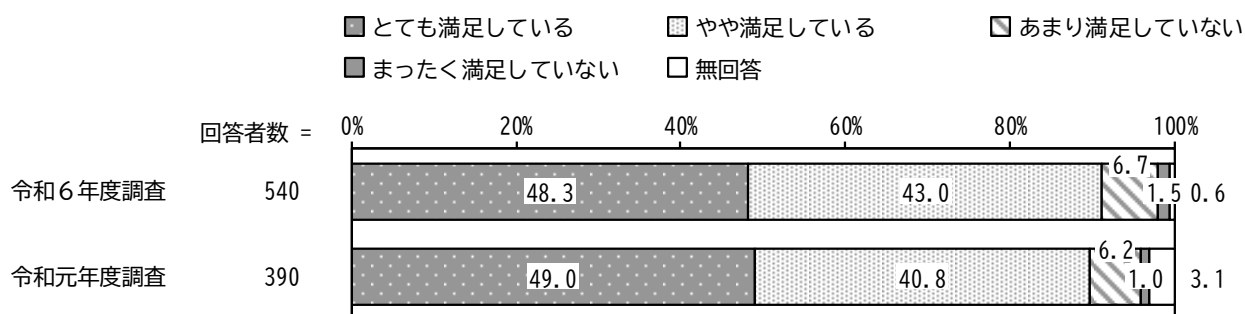
【学年別】

学年別にみると、「とても満足している」で小学5年生の方が高く、「あまり満足していない」で中学2年生の方が高くなっています。



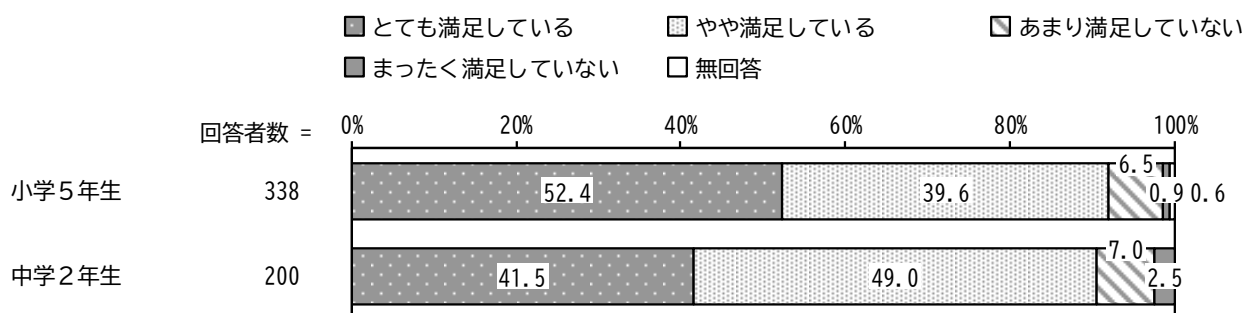
8) 学校生活全般について

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



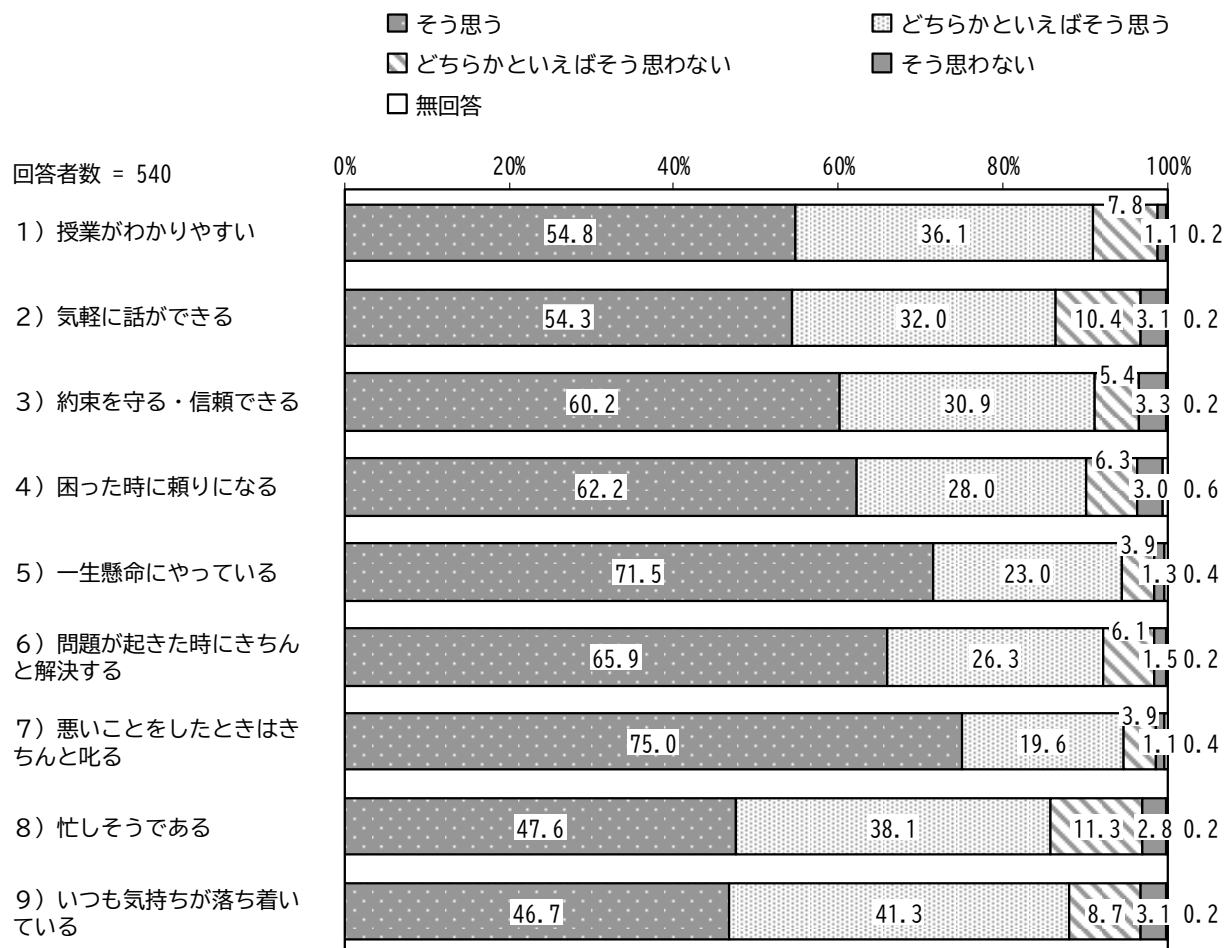
【学年別】

学年別にみると、「とても満足している」で小学5年生の方が高く、「やや満足している」で中学2年生の方が高くなっています。



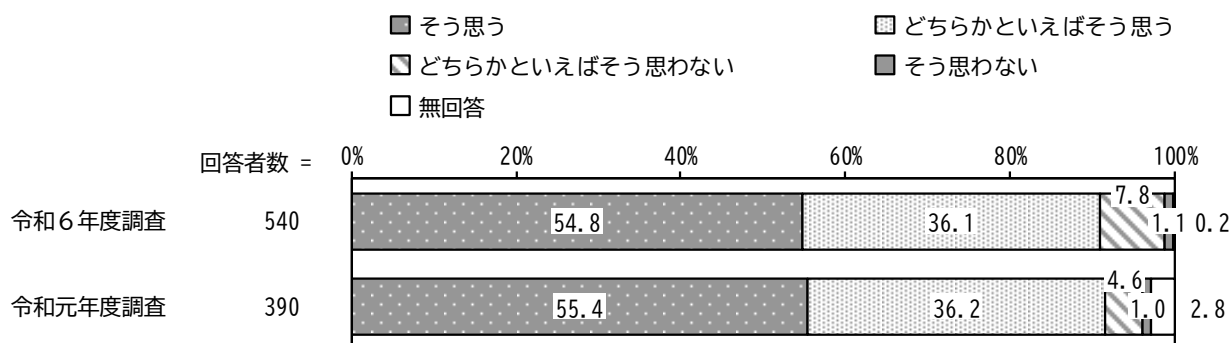
問7 あなたは、学校の先生について、どう思いますか。(それぞれにひとつずつ○)

『5) 一生懸命にやっている』『7) 悪いことをしたときはきちんと叱る』で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた”そう思う”の割合が、『2) 気軽に話ができる』『8) 忙しそうである』で「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた”そう思わない”の割合が高くなっています。



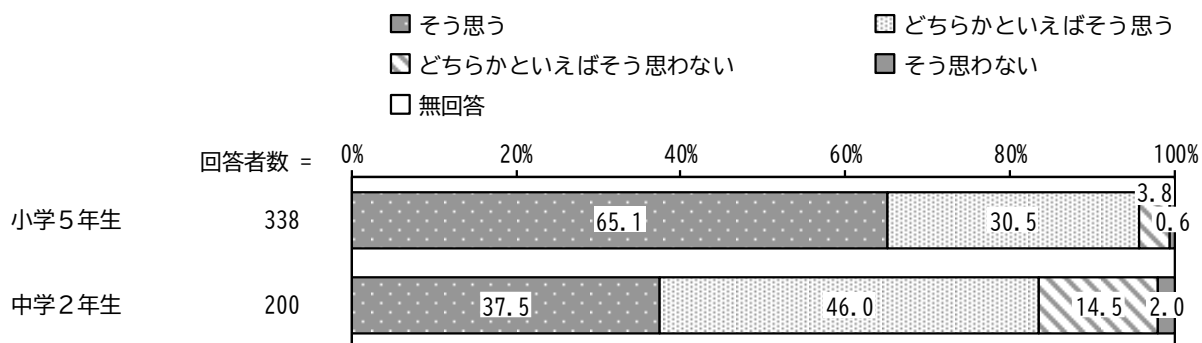
1) 授業がわかりやすい

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



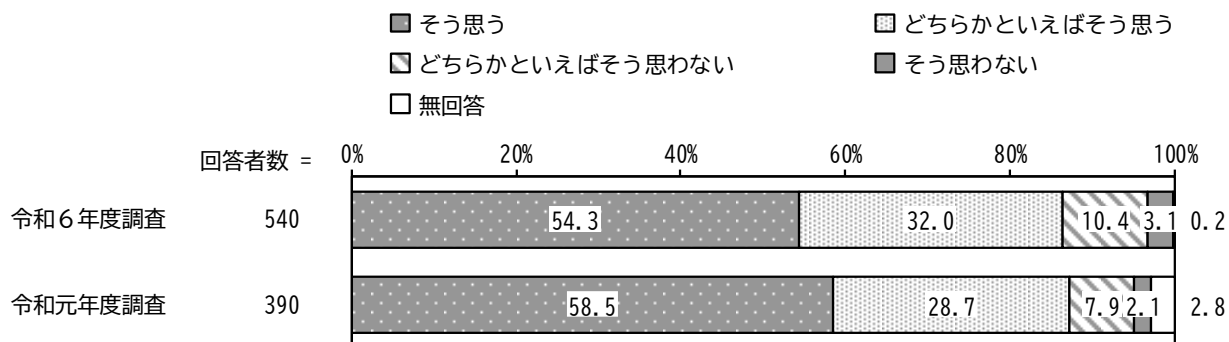
【学年別】

学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高く、「どちらかといえばそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



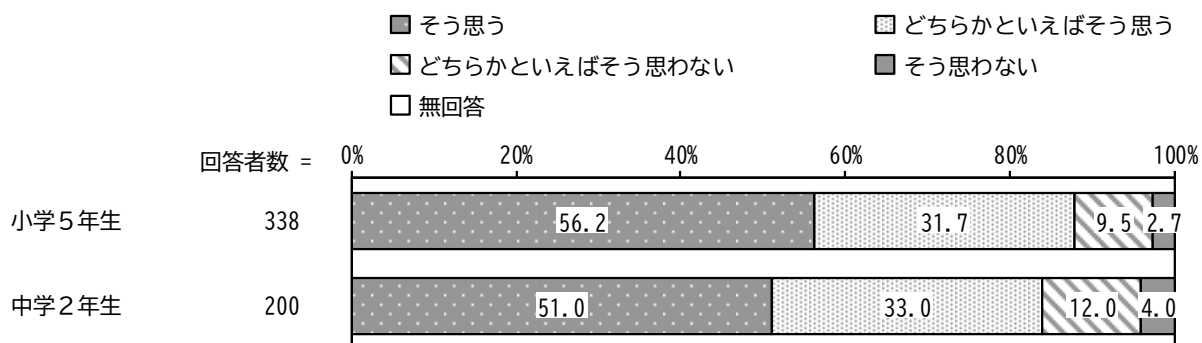
2) 気軽に話ができる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



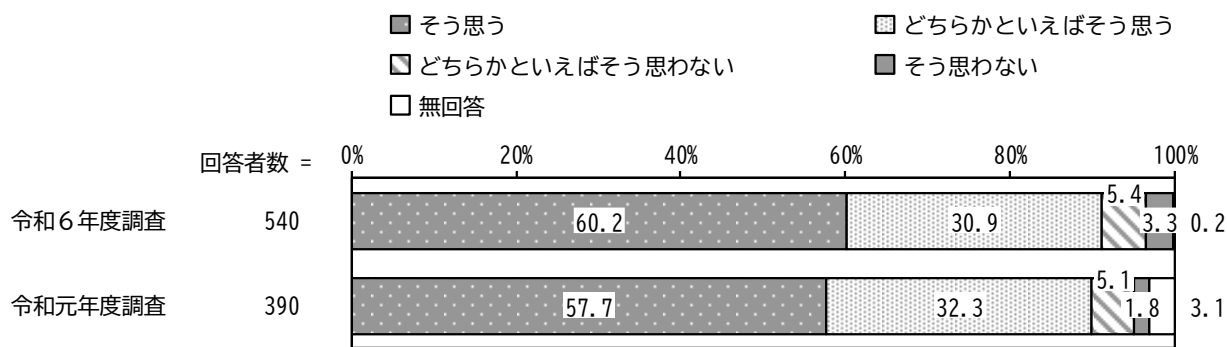
【学年別】

学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高くなっています。



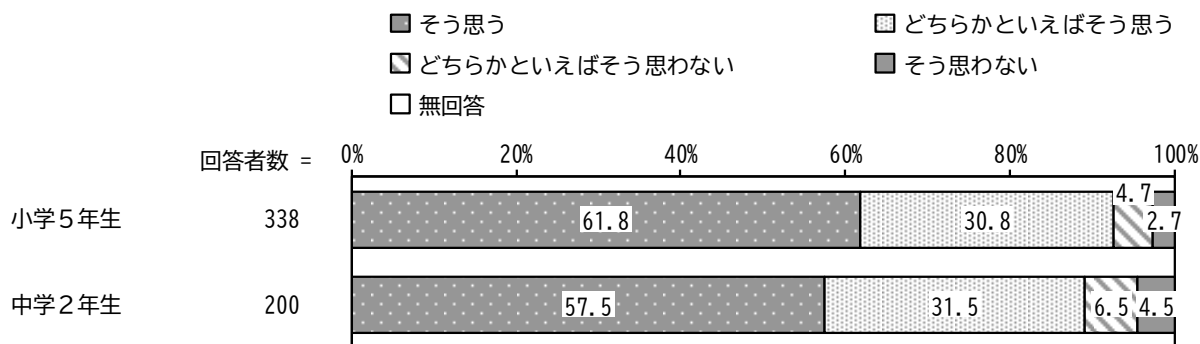
3) 約束を守る・信頼できる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



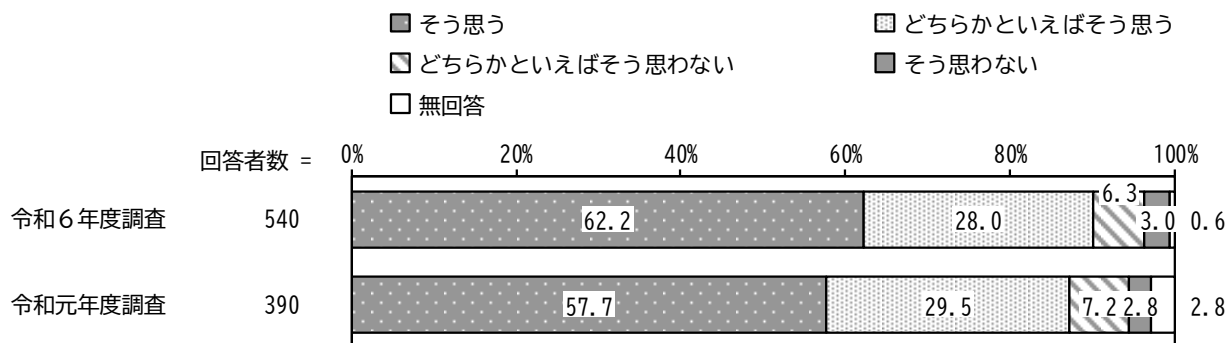
【学年別】

学年別にみると、大きな差はみられません。



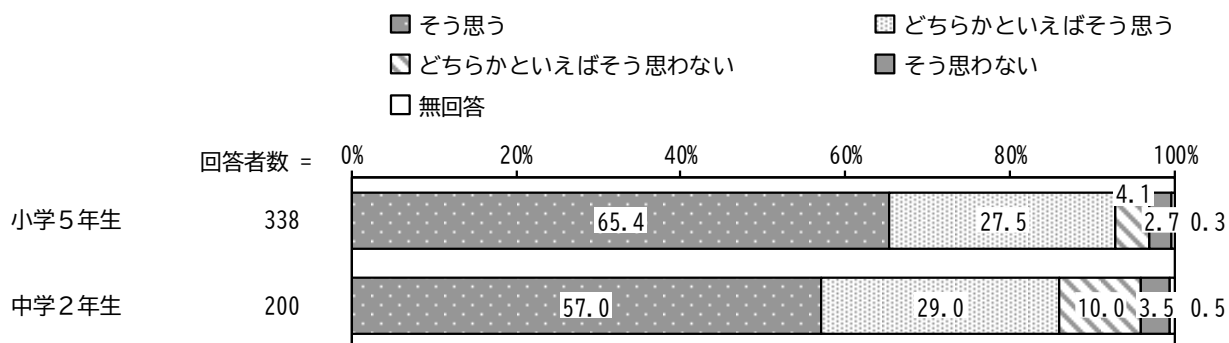
4) 困った時に頼りになる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



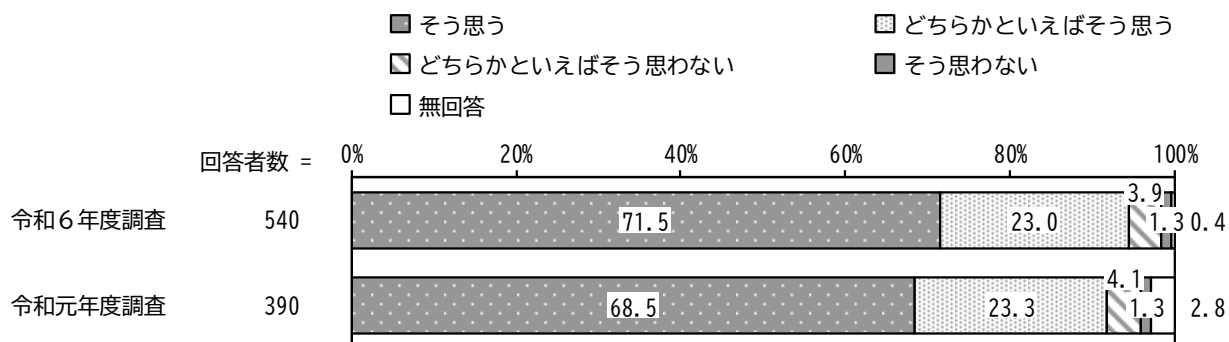
【学年別】

学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高く、「どちらかといえばそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



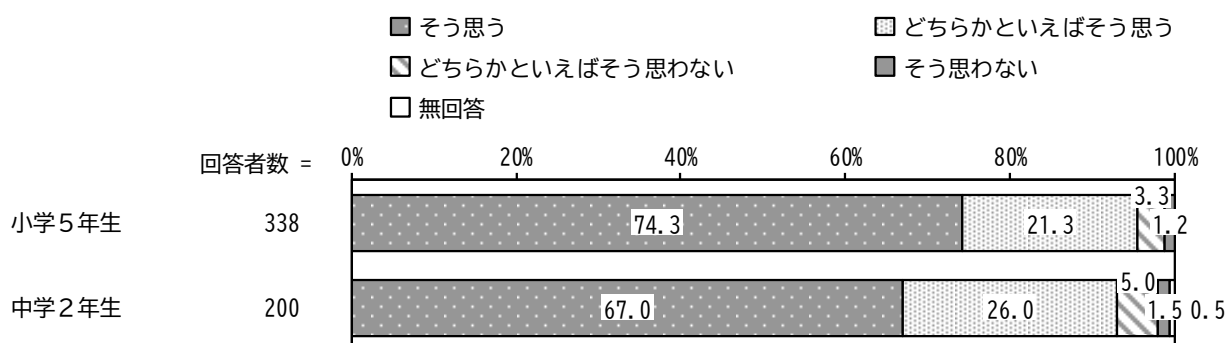
5) 一生懸命にやっている

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



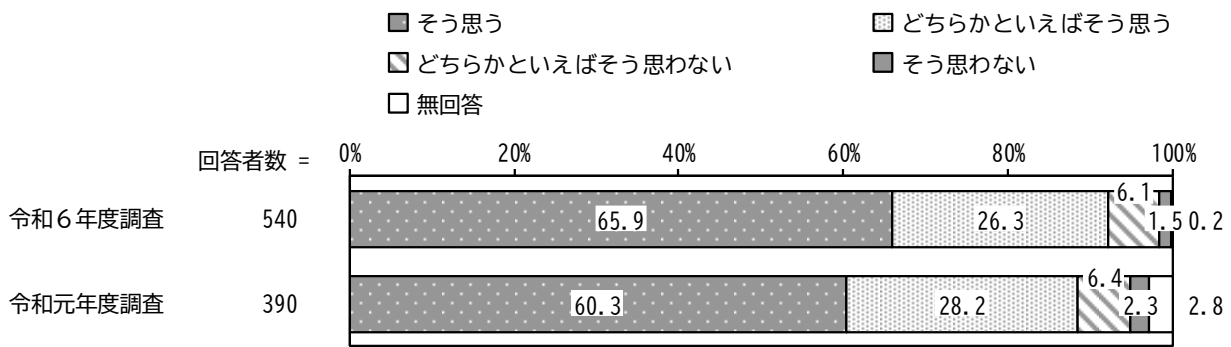
【学年別】

学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高くなっています。



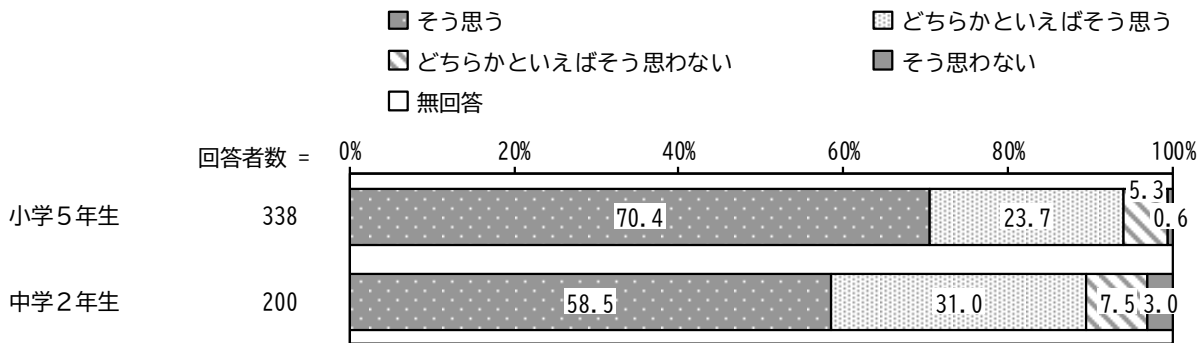
6) 問題が起きた時にきちんと解決する

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



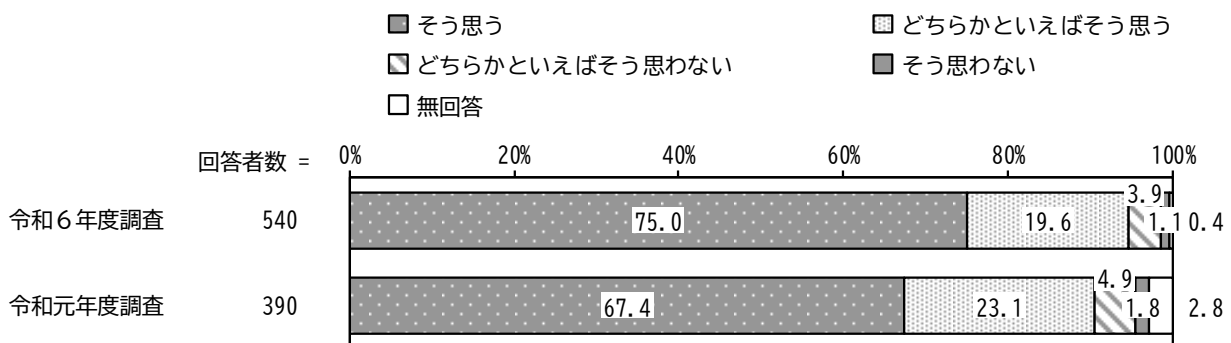
【学年別】

学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高く、「どちらかといえばそう思う」で中学2年生の方が高くなっています。



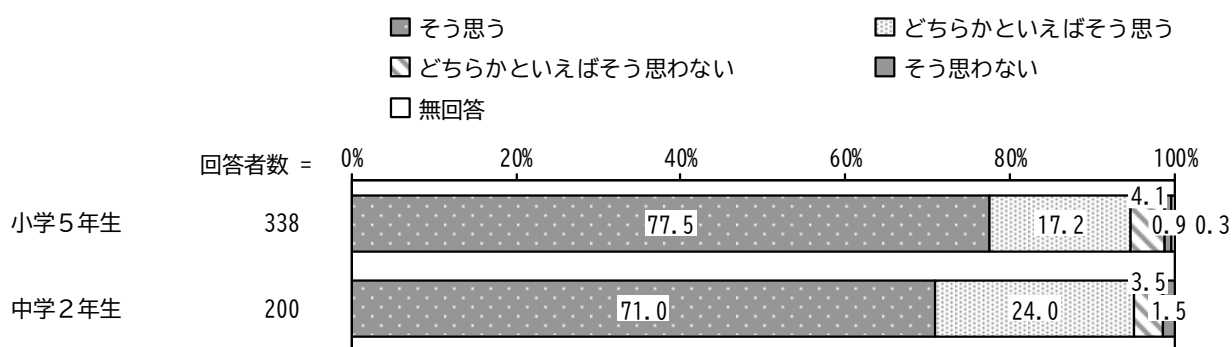
7) 悪いことをしたときはきちんと叱る

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



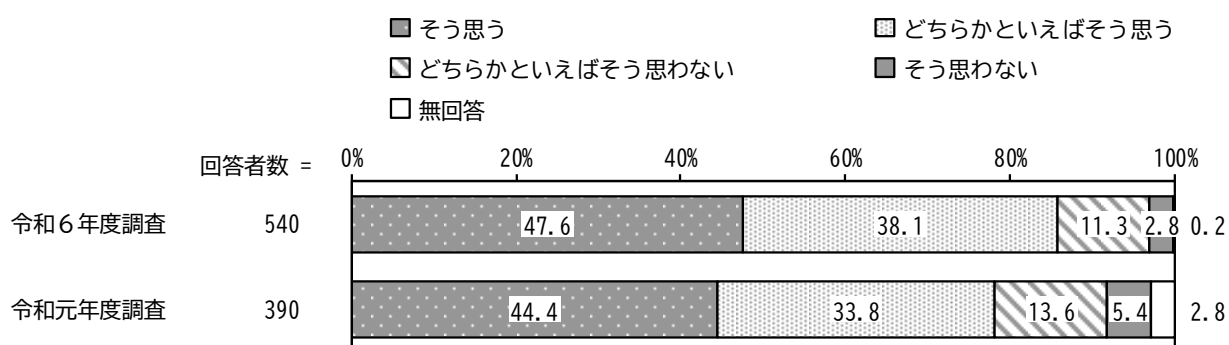
【学年別】

学年別にみると、「どちらかといえばそう思う」で中学2年生の方が高くなっています。



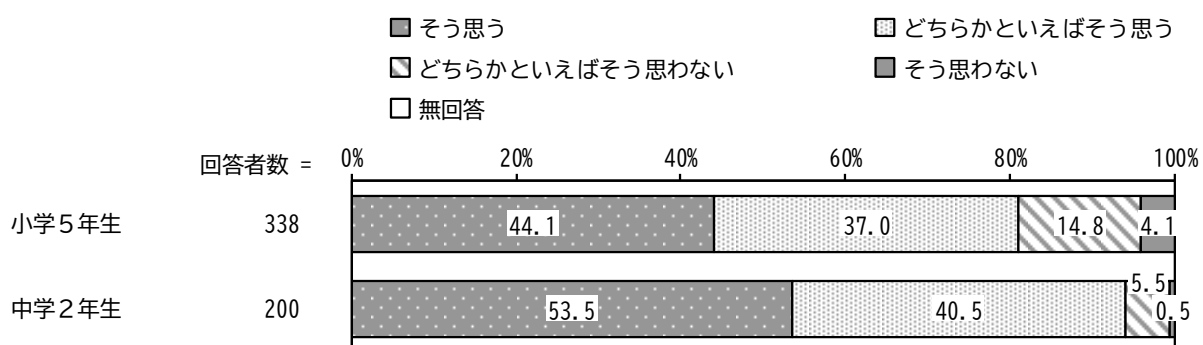
8) 忙しいのである

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



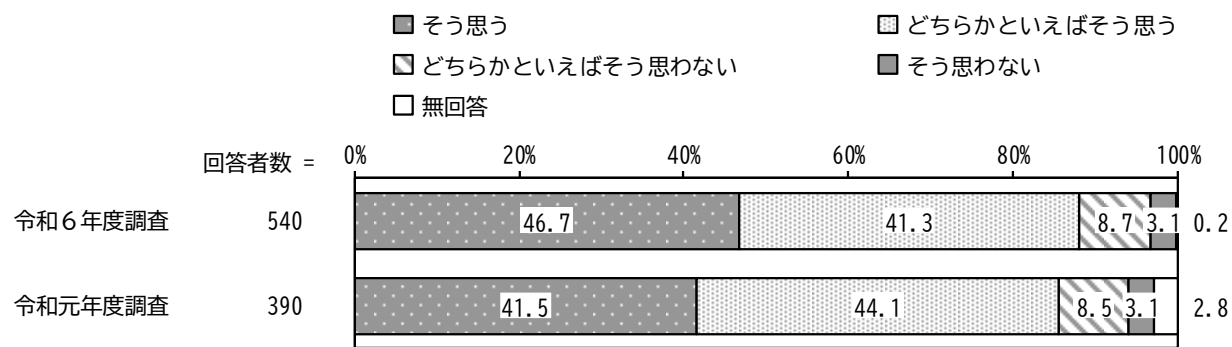
【学年別】

学年別にみると、「どちらかといえばそう思わない」で小学5年生の方が高くなっています。



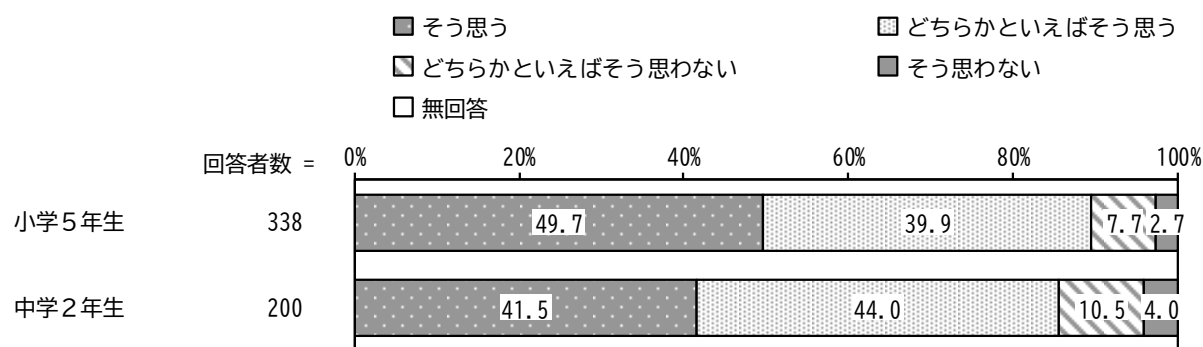
9) いつも気持ちが落ち着いている

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



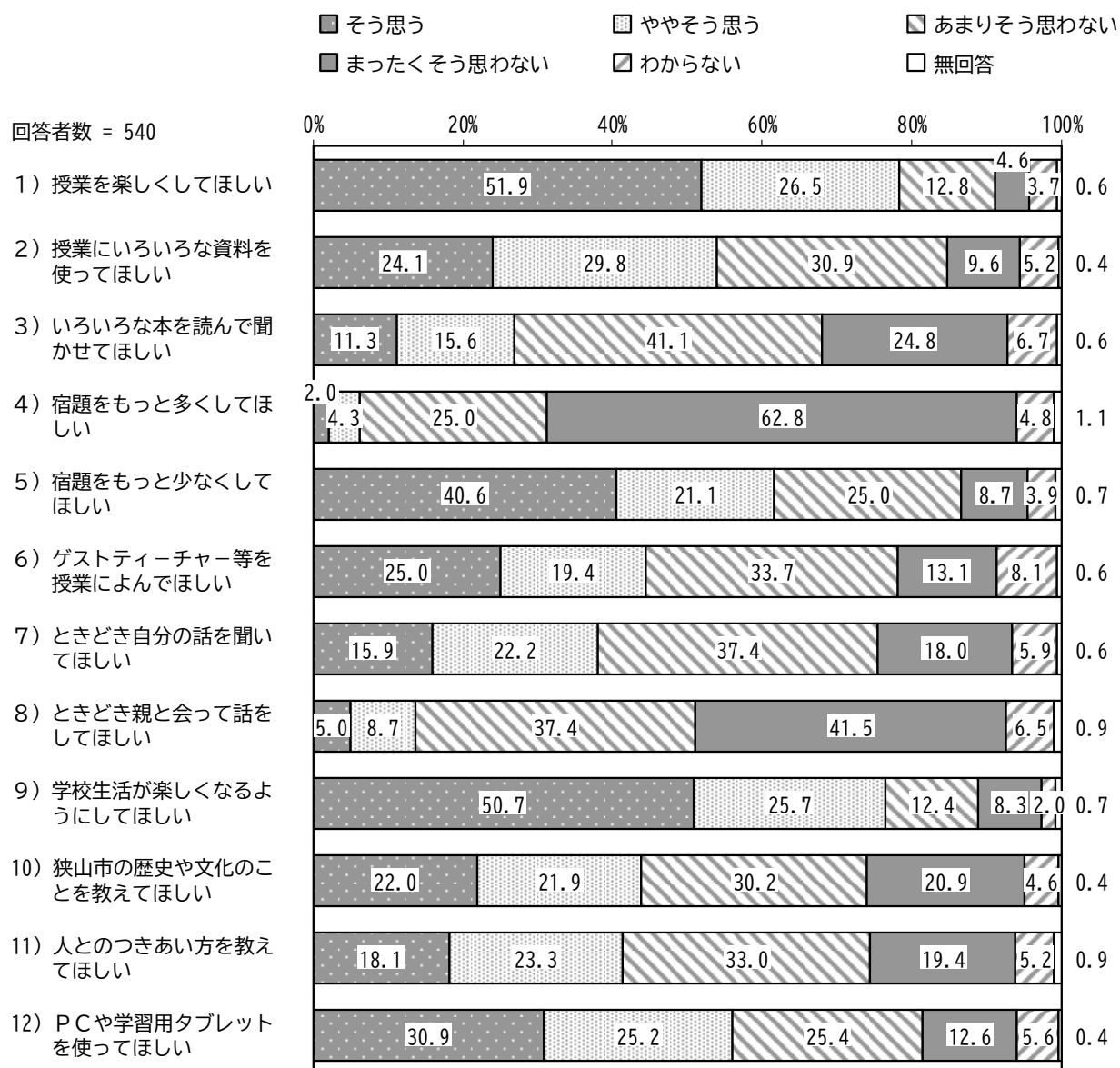
【学年別】

学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高くなっています。



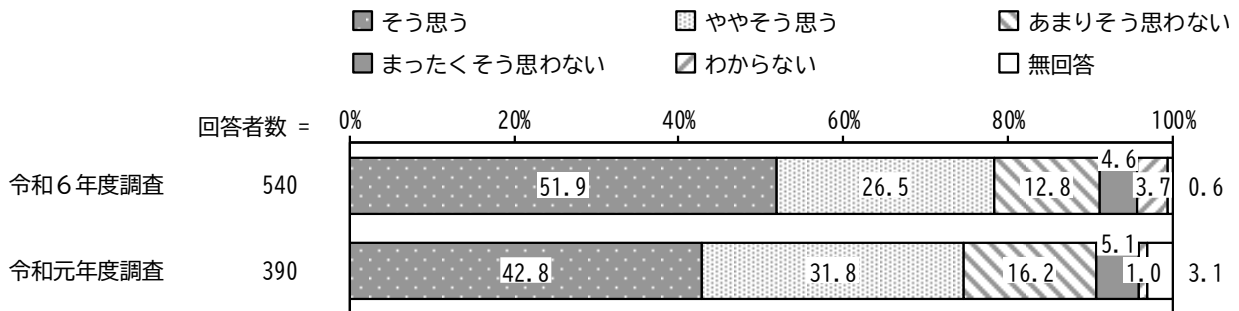
問8 あなたは、学校や先生に対して、次のようなことをしてほしいと思いますか。
(それぞれにひとつずつ○)

『1) 授業を楽しくしてほしい』『9) 学校生活が楽しくなるようにしてほしい』で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた”そう思う”の割合が、『4) 宿題をもっと多くしてほしい』で「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた”そう思わない”の割合が高くなっています。



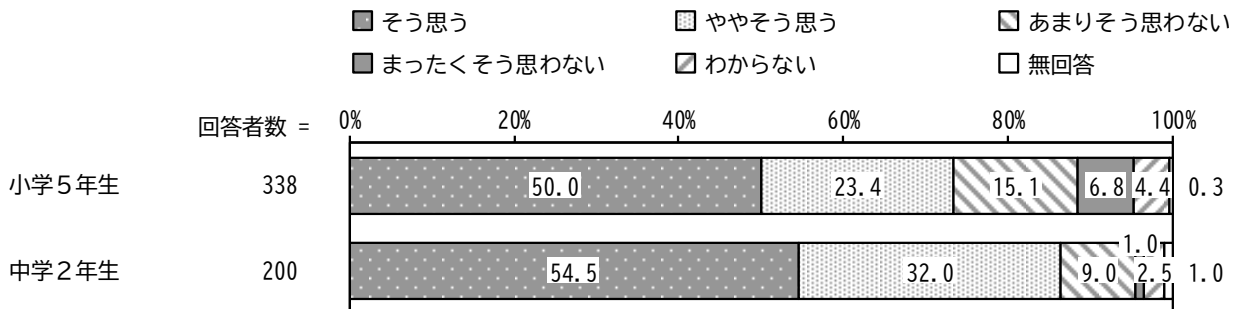
1) 授業を楽しんでほしい

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。一方、「ややそう思う」の割合が減少しています。



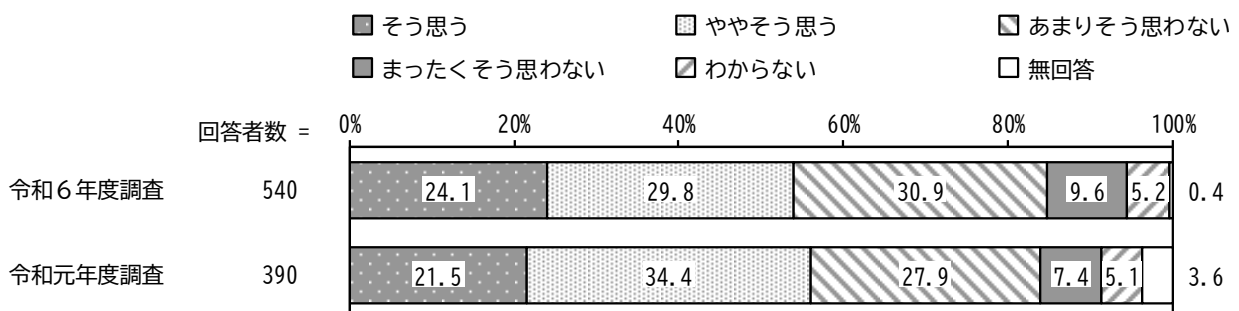
【学年別】

学年別にみると、「あまりそう思わない」、「まったくそう思わない」で小学5年生の方が高くなっています。



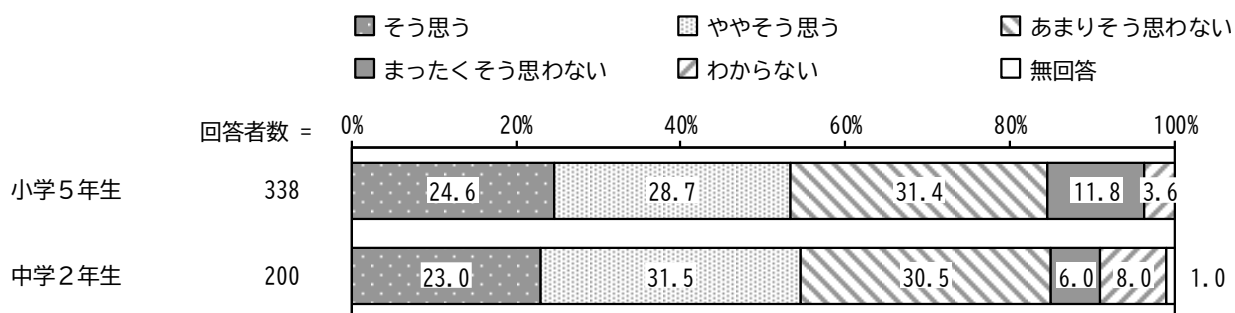
2) 授業にいろいろな資料を使ってほしい

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



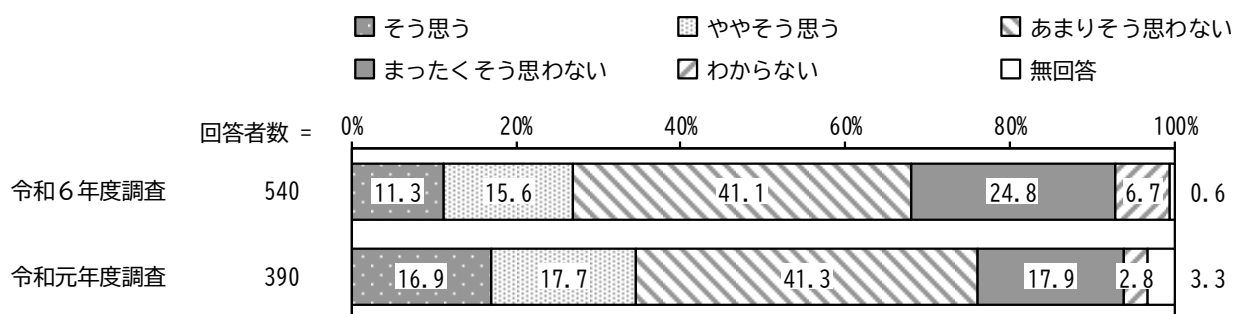
【学年別】

学年別にみると、「まったくそう思わない」で小学5年生の方が高くなっています。



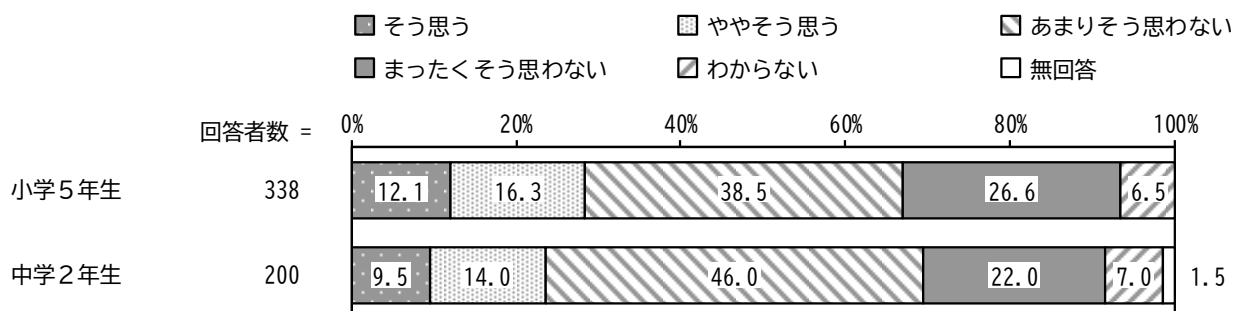
3) いろいろな本を読んで聞かせてほしい

令和元年度調査と比較すると、「まったくそう思わない」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



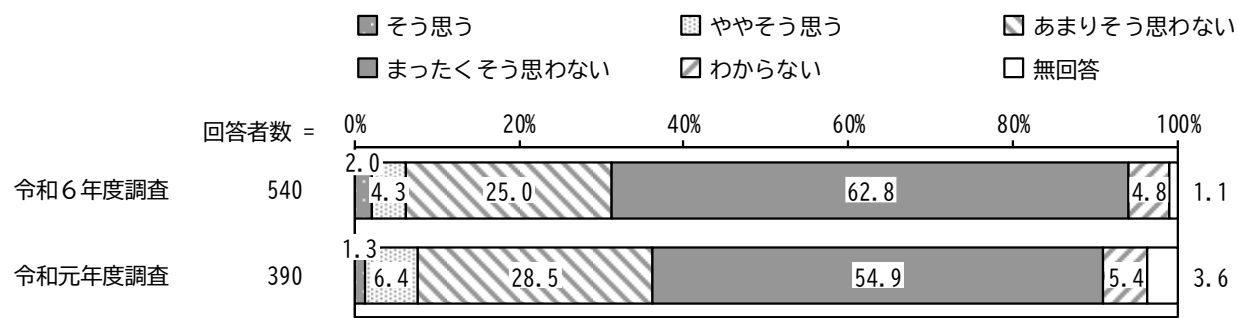
【学年別】

学年別にみると、「あまりそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



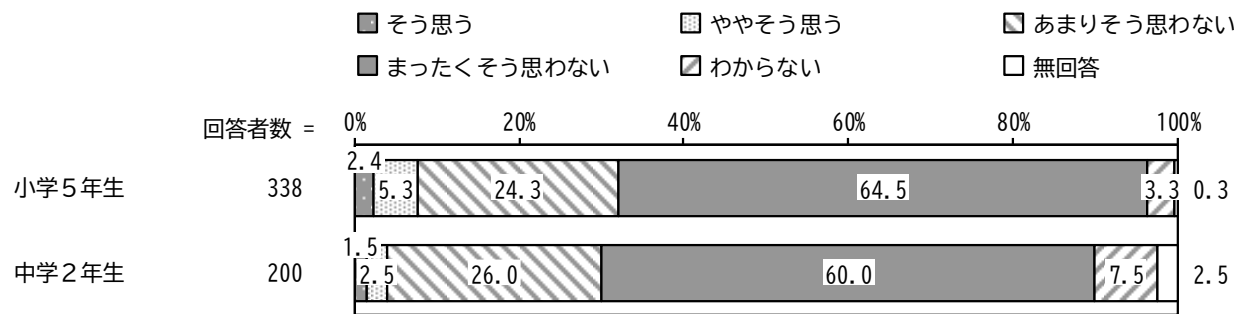
4) 宿題をもっと多くしてほしい

令和元年度調査と比較すると、「まったくそう思わない」の割合が増加しています。



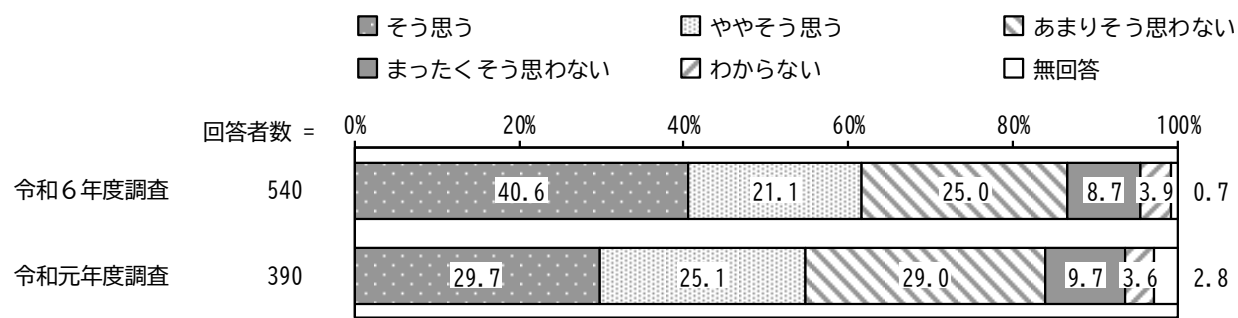
【学年別】

学年別にみると、大きな差はみられません。



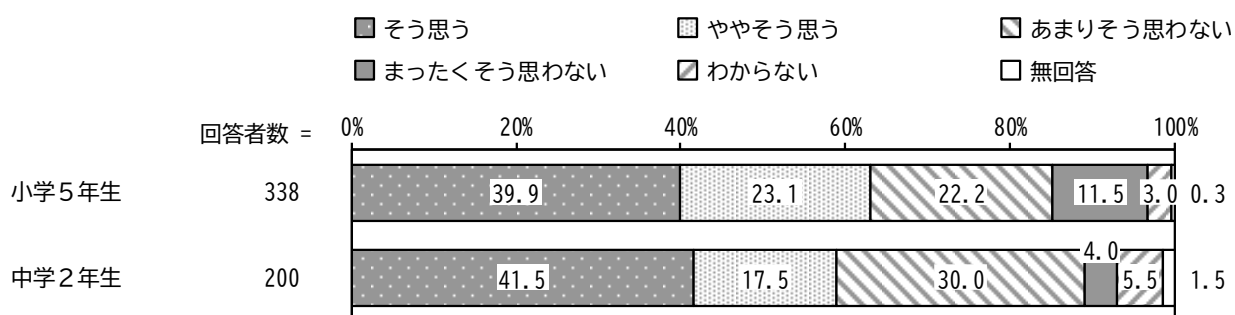
5) 宿題をもっと少なくしてほしい

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



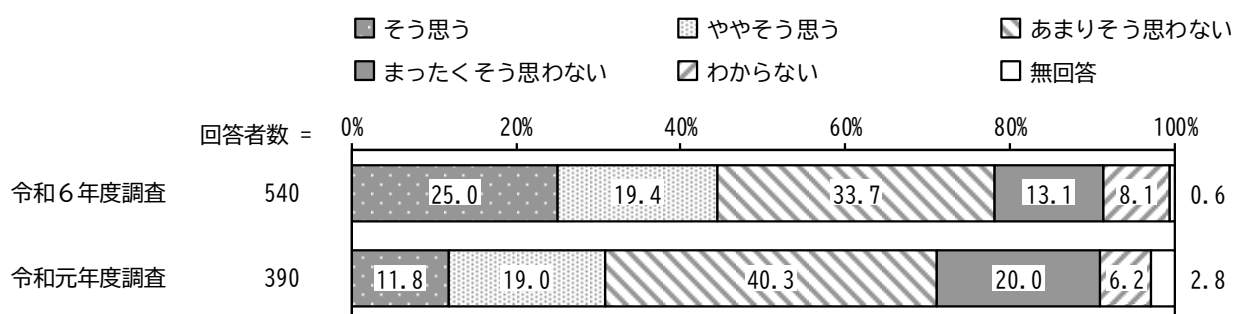
【学年別】

学年別にみると、「まったくそう思わない」で小学5年生の方が高くなっています。



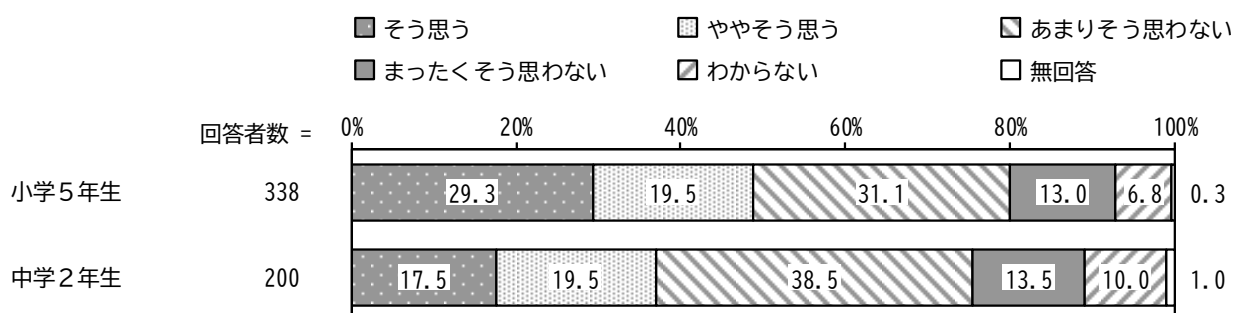
6) ゲストティーチャー等を授業によんでほしい

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。一方、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」の割合が減少しています。



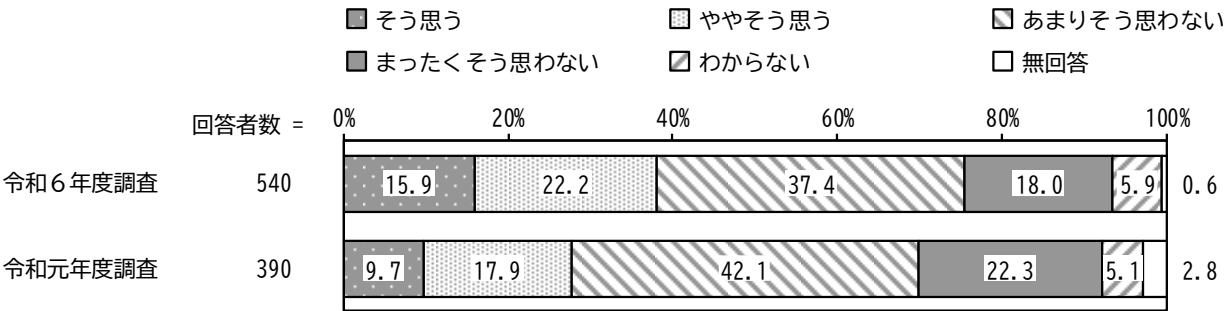
【学年別】

学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高く、「あまりそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



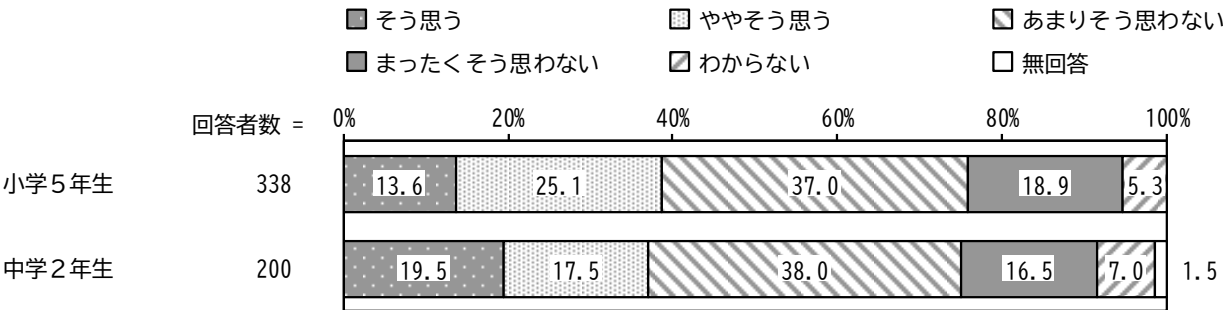
7) ときどき自分の話を聞いてほしい

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



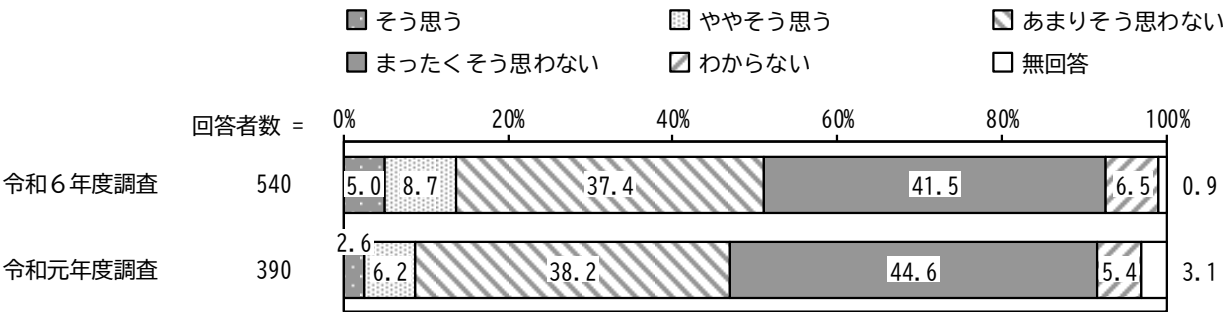
【学年別】

学年別にみると、「ややそう思う」で小学5年生の方が高くなっています。



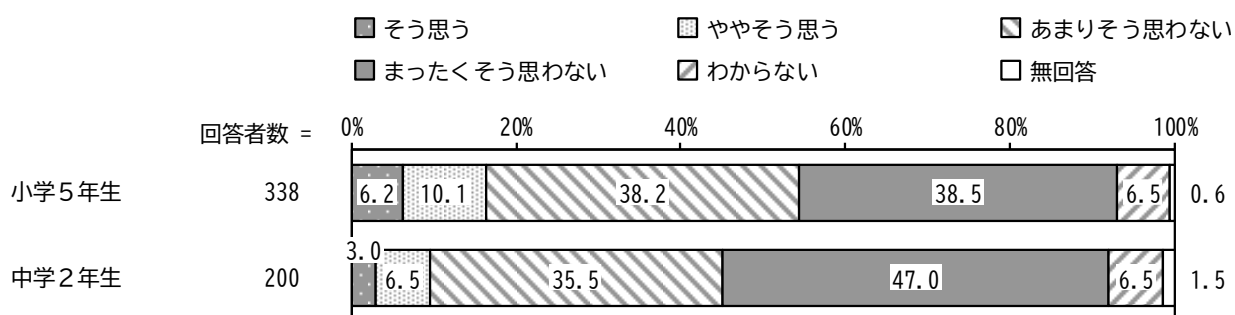
8) ときどき親と会って話をしてほしい

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



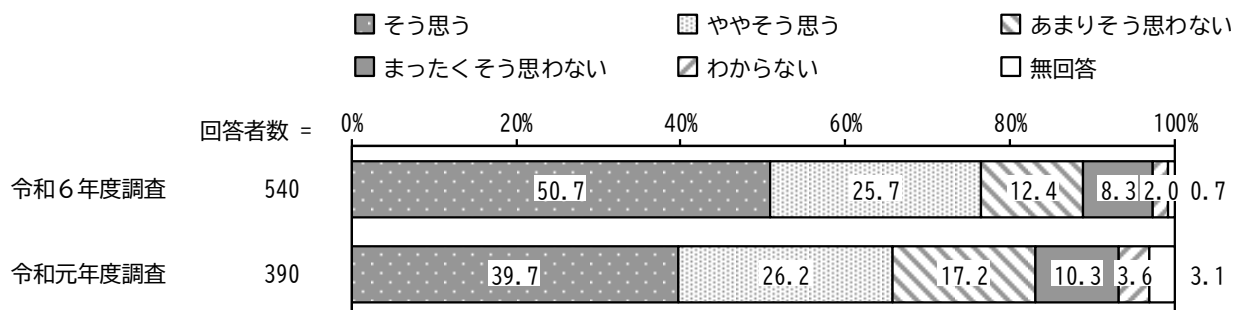
【学年別】

学年別にみると、「まったくそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



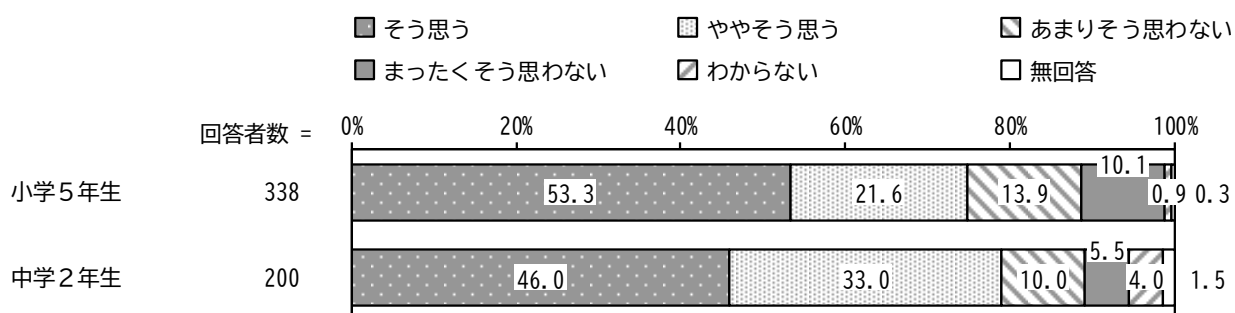
9) 学校生活が楽しくなるようにしてほしい

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



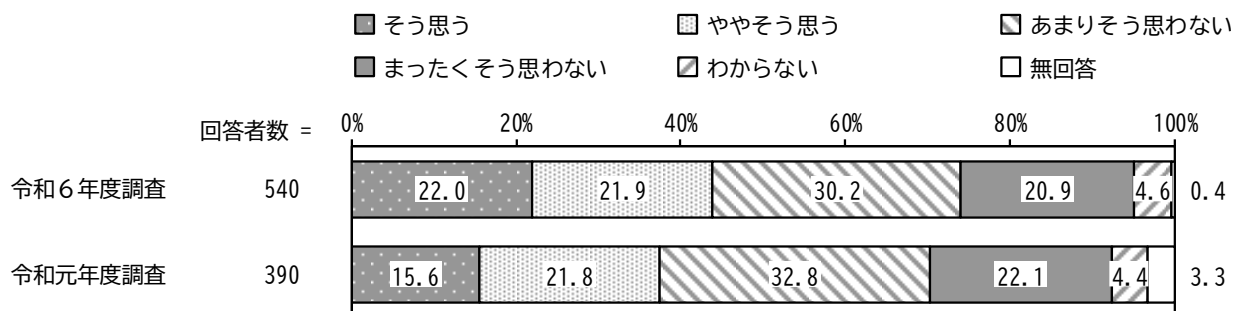
【学年別】

学年別にみると、「ややそう思う」で中学2年生の方が高くなっています。



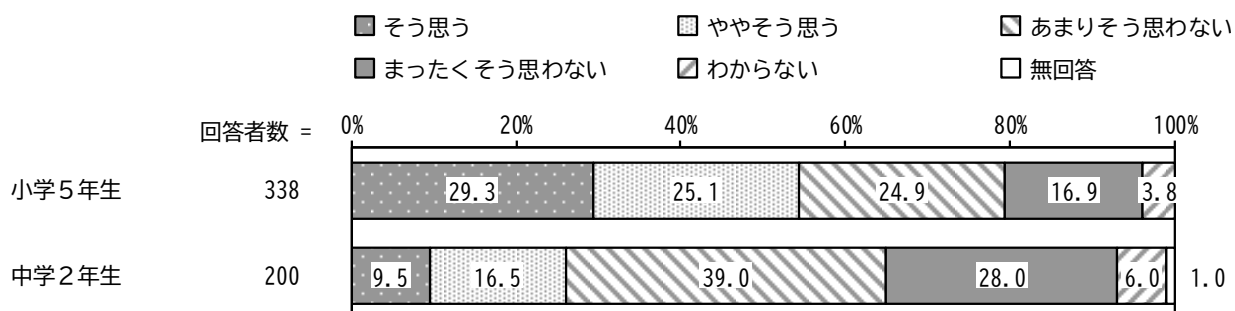
10) 狭山市の歴史や文化のことを教えてほしい

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



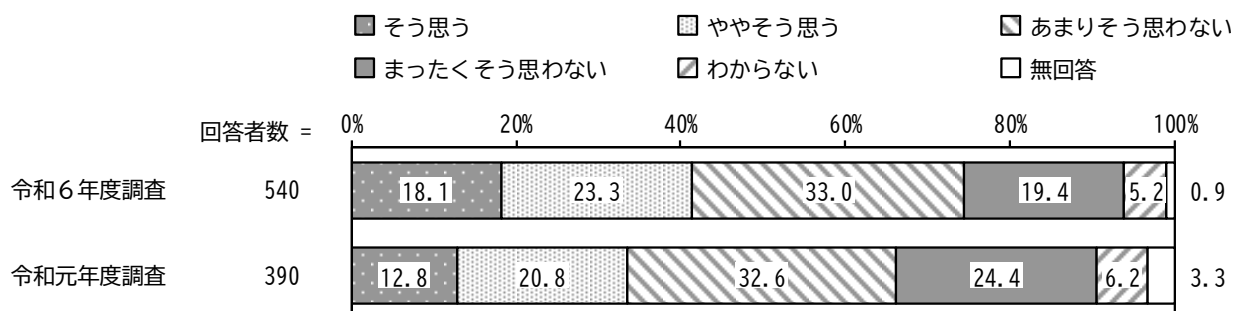
【学年別】

学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高く、「まったくそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



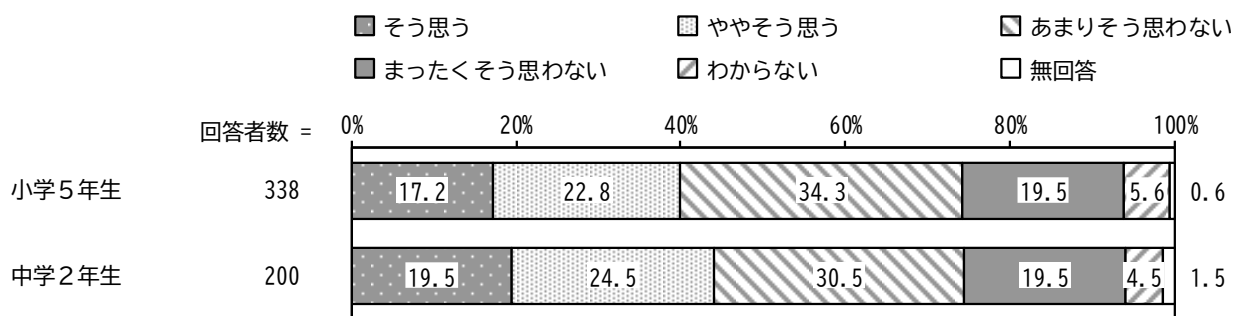
11) 人とのつきあい方を教えてほしい

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。



【学年別】

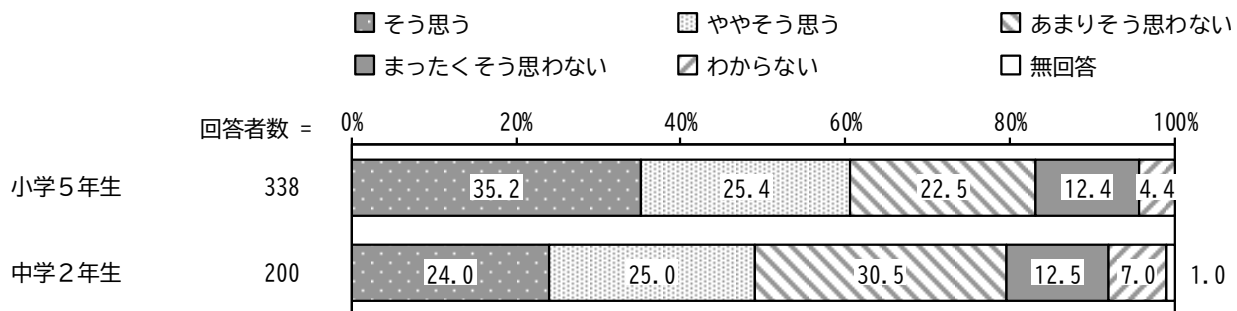
学年別にみると、大きな差はみられません。



12) PCや学習用タブレットを使ってほしい

【学年別】

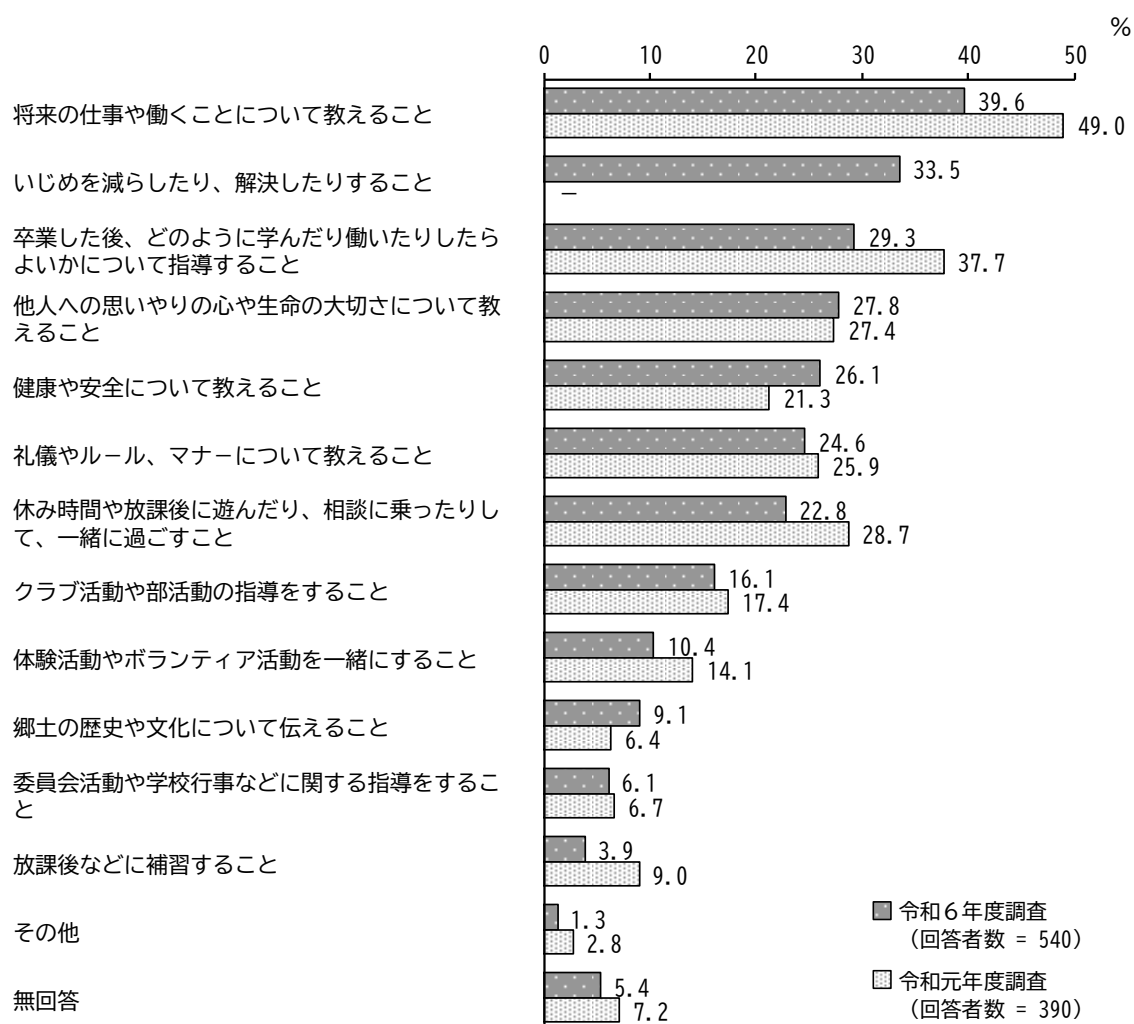
学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高く、「あまりそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



問9 あなたが、学校の先生に、次の中から、特にしてほしいことは何ですか。
(主なもの3つまで○)

「将来の仕事や働くことについて教えること」の割合が39.6%と最も高く、次いで「いじめを減らしたり、解決したりすること」の割合が33.5%、「卒業した後、どのように学んだり働いたりしたらよいかについて指導すること」の割合が29.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「将来の仕事や働くことについて教えること」「卒業した後、どのように学んだり働いたりしたらよいかについて指導すること」「休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと」「放課後などに補習すること」の割合が減少しています。



※前回調査では「委員会活動や学校行事などに関する指導をすること」が「生徒会、委員会活動や学校行事などに関する指導をすること」となっており、「いじめを減らしたり、解決したりすること」がありませんでした。

【学年別】

学年別にみると、「郷土の歴史や文化について伝えること」、「いじめを減らしたり、解決したりすること」で小学5年生の方が高く、「クラブ活動や部活動の指導をすること」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

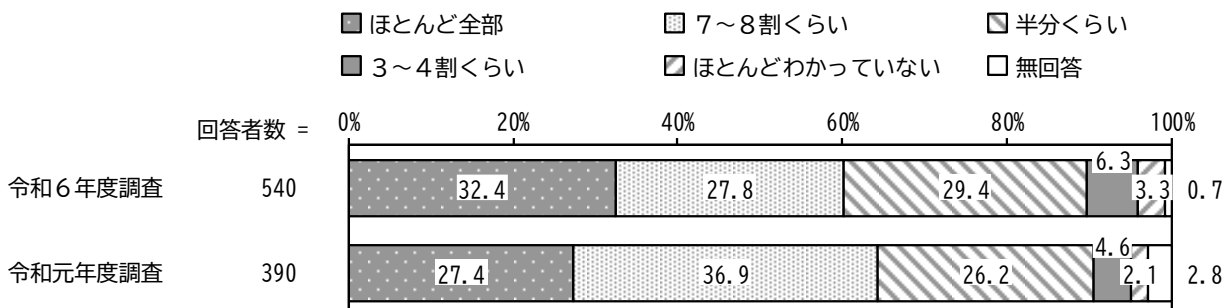
区分	回答者数（件）	と 礼儀やルール、マナーについて教えること	他人への思いやりの心や生命の大切さ について教えること	健康や安全について教えること	将来の仕事や働くことについて教える こと	卒業した後、どのように学んだり働いた りしたらよいかについて指導すること	休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗 ったりして、一緒に過ごすこと	放課後などに補習すること	クラブ活動や部活動の指導をすること	委員会活動や学校行事などに関する指 導をすること	体験活動やボランティア活動を一緒に すること	郷土の歴史や文化について伝えること	いじめを減らしたり、解決したりするこ と	その他	無回答
全 体	540	24.6	27.8	26.1	39.6	29.3	22.8	3.9	16.1	6.1	10.4	9.1	33.5	1.3	5.4
小学5年生	338	19.8	29.6	30.8	35.8	27.5	22.8	3.3	10.1	6.5	10.9	12.1	39.3	1.2	4.7
中学2年生	200	33.0	25.0	18.5	46.5	32.5	23.0	5.0	26.5	5.5	9.5	4.0	23.5	1.5	6.0

(3) 学校での勉強について

問10 あなたは、学校の授業がどのくらいわかりますか。

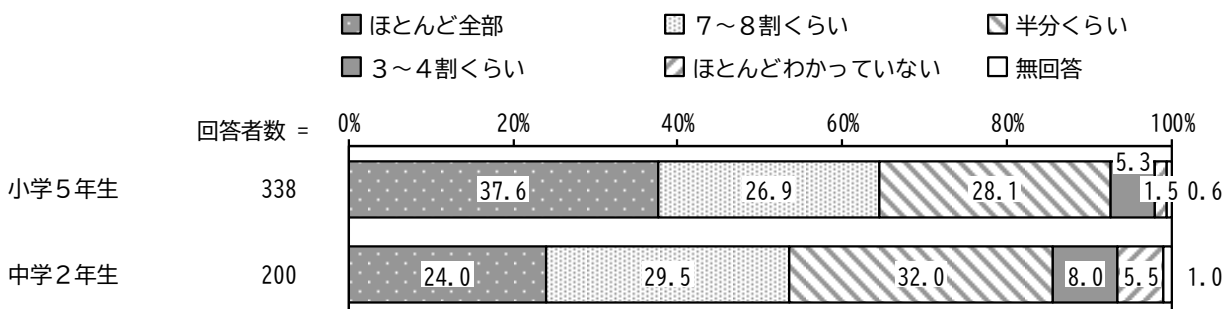
「ほとんど全部」の割合が32.4%と最も高く、次いで「半分くらい」の割合が29.4%、「7～8割くらい」の割合が27.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「7～8割くらい」の割合が減少しています。



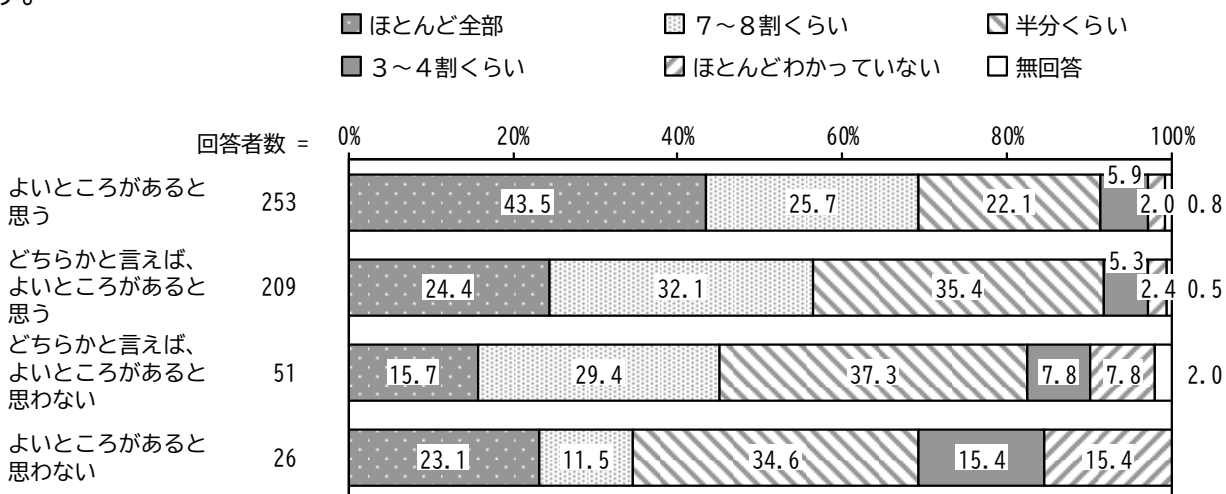
【学年別】

学年別にみると、「ほとんど全部」で小学5年生の方が高くなっています。



【自己肯定感別】

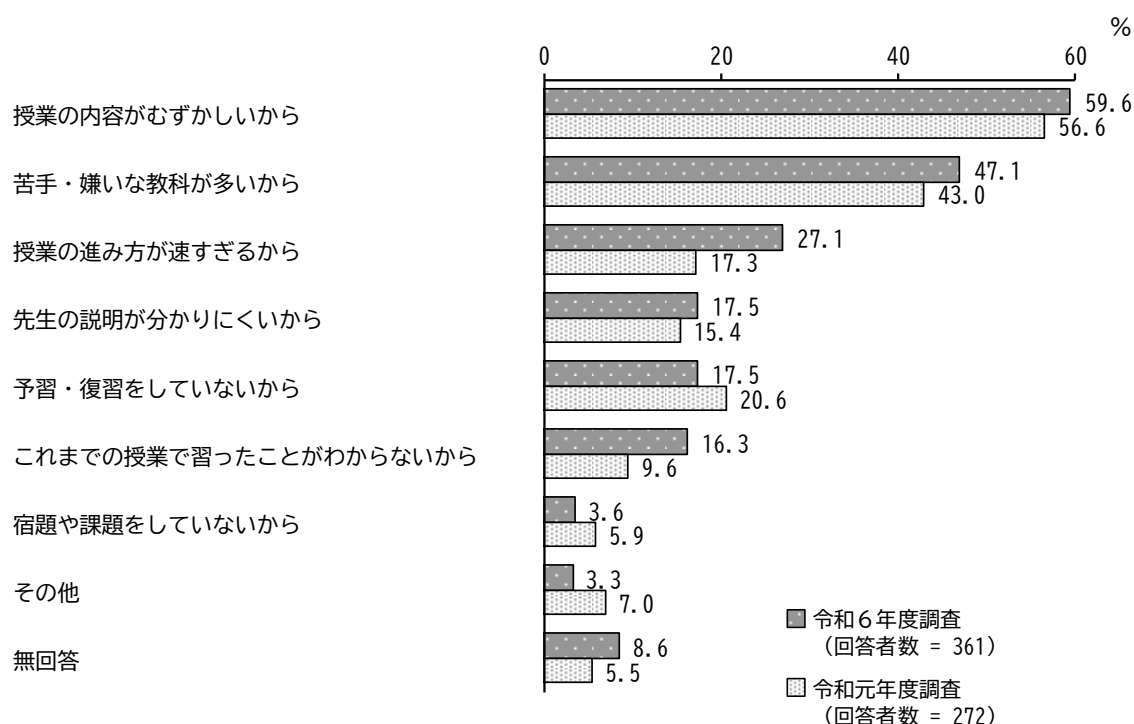
自己肯定感別にみると、「3～4割くらい」についてよいところがあると思わないで高くなっています。



問11 問10で「7～8割くらい」～「7～8割くらい」と回答した方のみ答えてください。
授業がわからない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「授業の内容がむずかしいから」の割合が59.6%と最も高く、次いで「苦手・嫌いな教科が多いから」の割合が47.1%、「授業の進み方が速すぎるから」の割合が27.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「授業の進み方が速すぎるから」「これまでの授業で習ったことがわからないから」の割合が増加しています。



【学年別】

学年別にみると、「苦手・嫌いな教科が多いから」で中学2年生の方が高くなっています。

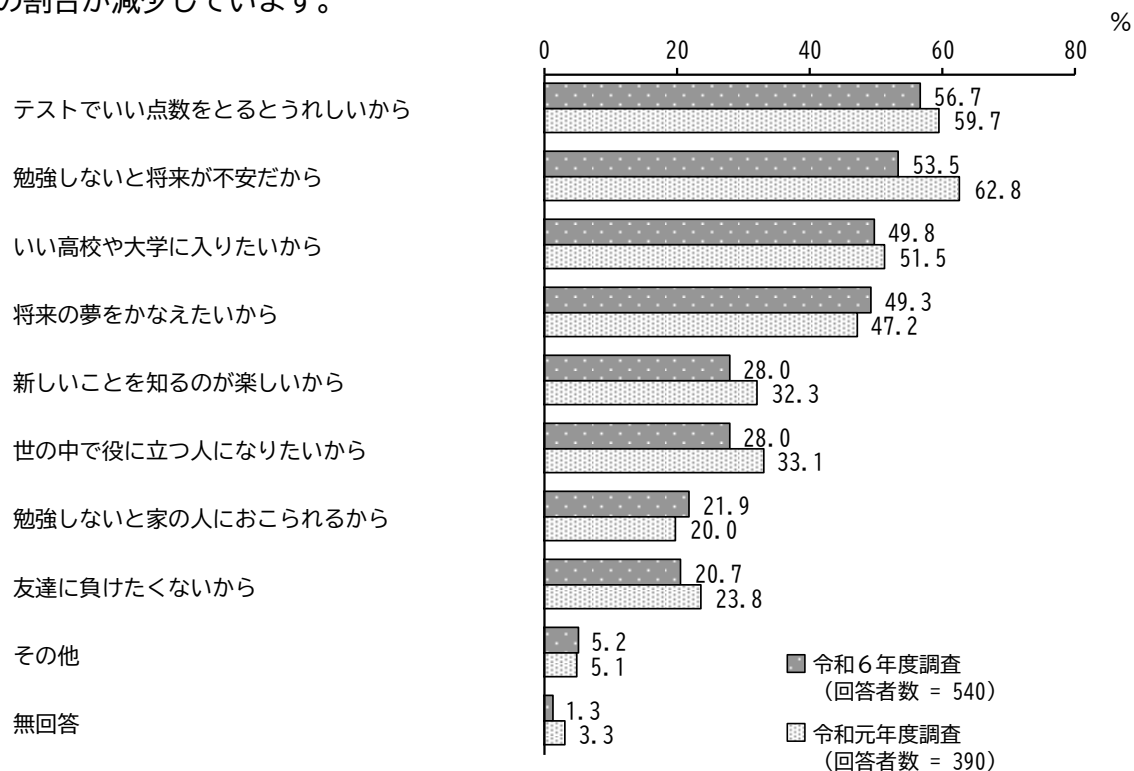
単位：%

区分	回答者数(件)	授業の進み方が速すぎるから	授業の内容がむずかしいから	先生の説明が分かりにくいから	これまでの授業で習ったことがわからないから	宿題や課題をしていないから	予習・復習をしていないから	苦手・嫌いな教科が多いから	その他	無回答
全 体	361	27.1	59.6	17.5	16.3	3.6	17.5	47.1	3.3	8.6
小学5年生	209	20.6	58.4	5.3	6.2	1.9	13.9	41.6	3.3	10.5
中学2年生	150	36.0	61.3	34.7	30.0	6.0	22.0	54.0	3.3	6.0

問12 あなたが勉強するのはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

「テストでいい点数をとるとうれしいから」の割合が56.7%と最も高く、次いで「勉強しないと将来が不安だから」の割合が53.5%、「いい高校や大学に入りたいから」の割合が49.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「世の中で役に立つ人になりたいから」「勉強しないと将来が不安だから」の割合が減少しています。



【学年別】

学年別にみると、「世の中で役に立つ人になりたいから」、「将来の夢をかなえたいから」で小学5年生の方が高く、「いい高校や大学に入りたいから」で中学2年生の方が高くなっています。

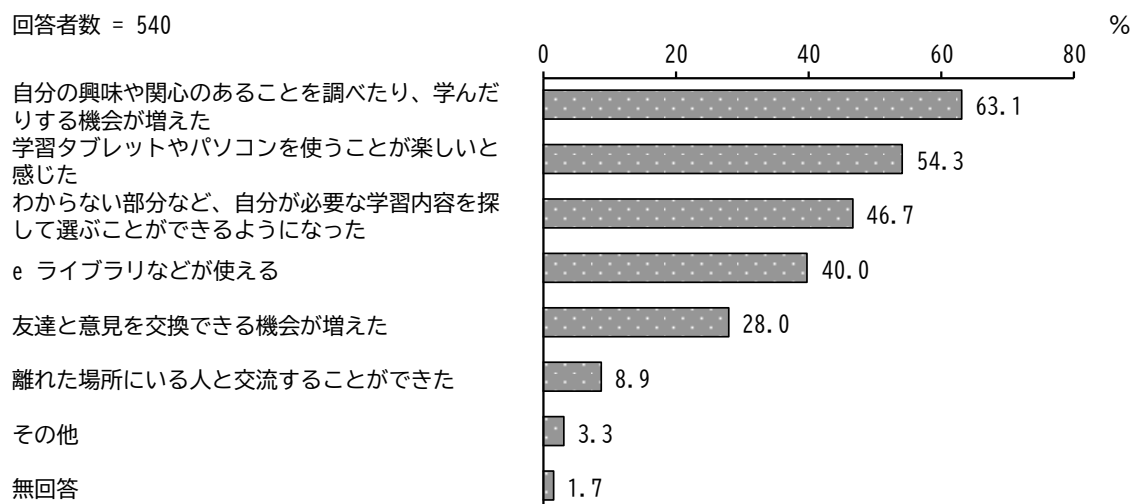
単位：%

区分	回答者数(件)	新しいことを知るのが楽しいから	テストでいい点数をとるとうれしいから	勉強しないと家の人におこられるから	友達に負けたくないから	いい高校や大学に入りたいから	世の中で役に立つ人になりたいから	将来の夢をかなえたいから	勉強しないと将来が不安だから	その他	無回答
全 体	540	28.0	56.7	21.9	20.7	49.8	28.0	49.3	53.5	5.2	1.3
小学5年生	338	34.0	57.1	16.9	18.9	46.4	32.8	57.4	55.0	5.3	0.6
中学2年生	200	18.0	56.0	30.0	24.0	55.5	19.5	35.5	51.0	5.0	2.5

問13 学習タブレットを使った授業を受けて良かったことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

「自分の興味や関心のあることを調べたり、学んだりする機会が増えた」の割合が63.1%と最も高く、次いで「学習タブレットやパソコンを使うことが楽しいと感じた」の割合が54.3%、「わからない部分など、自分が必要な学習内容を探して選ぶことができるようになった」の割合が46.7%となっています。

回答者数 = 540



【学年別】

学年別にみると、「学習タブレットやパソコンを使うことが楽しいと感じた」、「e ライブラリなどが使える」で小学5年生の方が高くなっています。

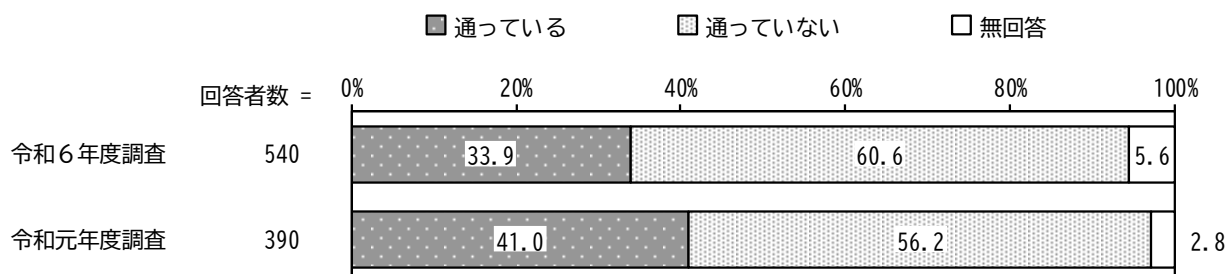
単位：%

区分	回答者数(件)	自分の興味や関心のあることを調べたり、学んだりする機会が増えた	わからない部分など、自分が必要な学習内容を探して選ぶことができるようになった	友達と意見を交換できる機会が増えた	離れた場所にいる人と交流することができた	学習タブレットやパソコンを使うことが楽しいと感じた	e ライブラリなどが使える	その他	無回答
全 体	540	63.1	46.7	28.0	8.9	54.3	40.0	3.3	1.7
小学5年生	338	64.8	45.3	32.2	10.1	62.7	44.4	3.3	0.9
中学2年生	200	60.5	49.0	20.5	7.0	39.5	32.5	3.5	3.0

(4) 学校外での過ごし方について

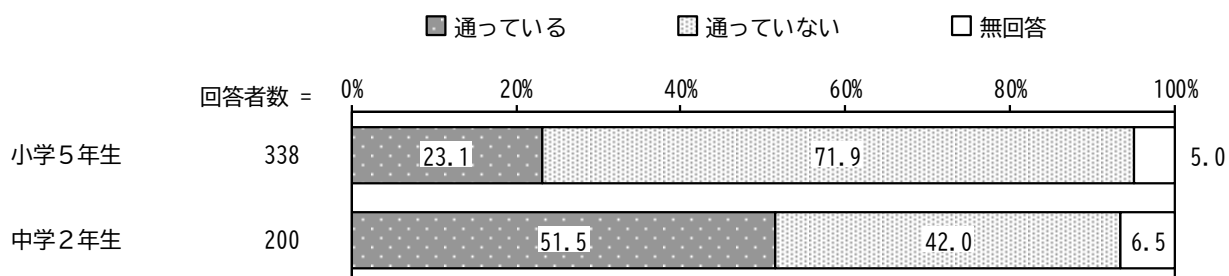
問 14 あなたは、学習塾に通っていますか。

「通っている」の割合が33.9%、「通っていない」の割合が60.6%となっています。
令和元年度調査と比較すると、「通っている」の割合が減少しています。



【学年別】

学年別にみると、「通っていない」で小学5年生の方が高くなっています。

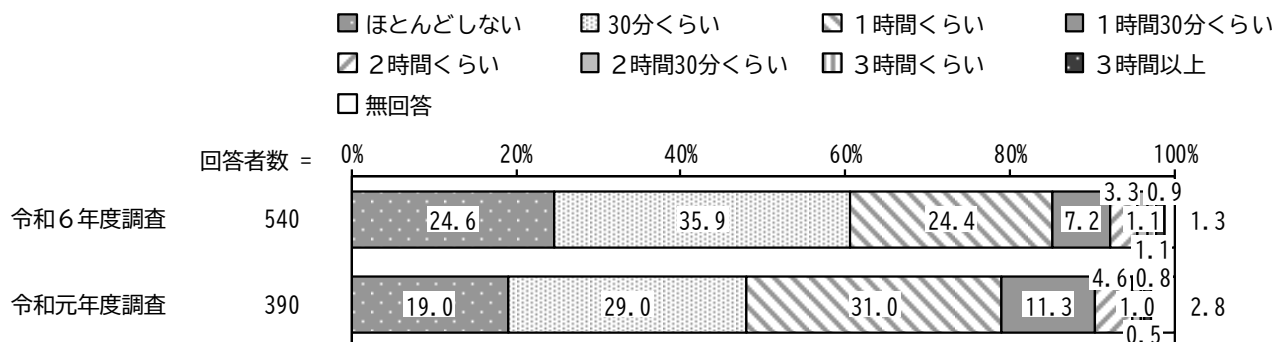


問 15 あなたは、ふだん家でどれくらい勉強していますか。塾で勉強する時間をのぞいた一日のだいたいの時間を教えてください。(それぞれにひとつずつ〇)

平日（学校がある日）

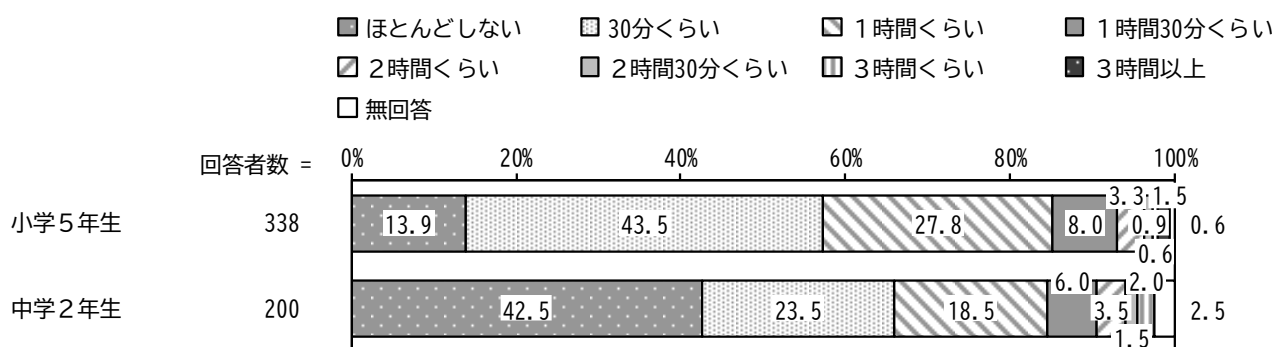
「30分くらい」の割合が35.9%と最も高く、次いで「ほとんどしない」の割合が24.6%、「1時間くらい」の割合が24.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「ほとんどしない」「30分くらい」の割合が増加しています。一方、「1時間くらい」の割合が減少しています。



【学年別】

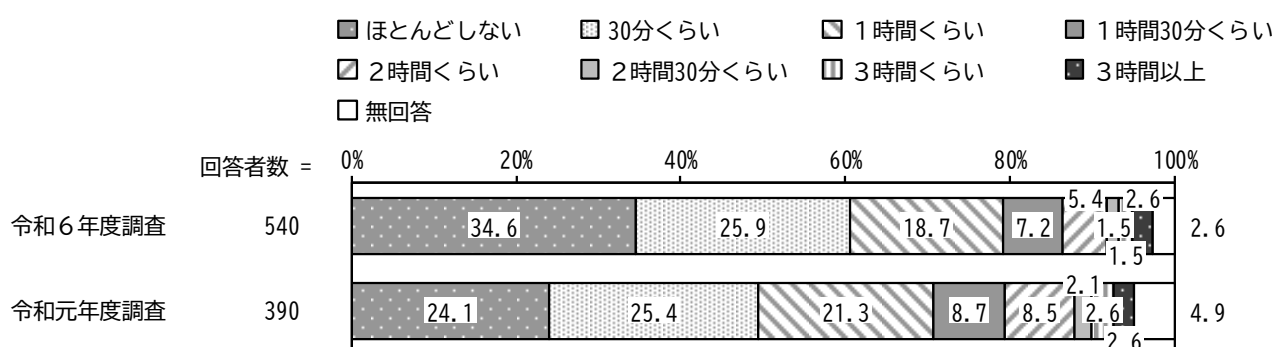
学年別にみると、「30分くらい」、「1時間くらい」で小学5年生の方が高くなっています。



休日（学校がない日）

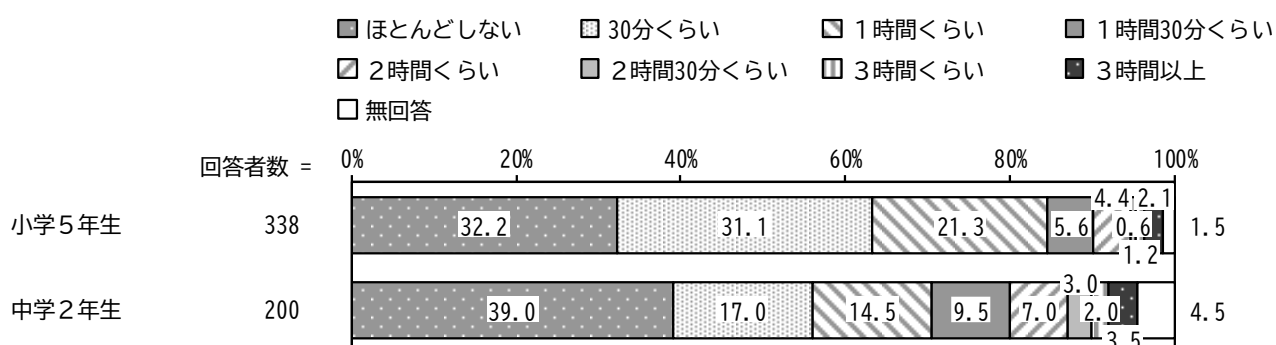
「ほとんどしない」の割合が34.6%と最も高く、次いで「30分くらい」の割合が25.9%、「1時間くらい」の割合が18.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「ほとんどしない」の割合が増加しています。



【学年別】

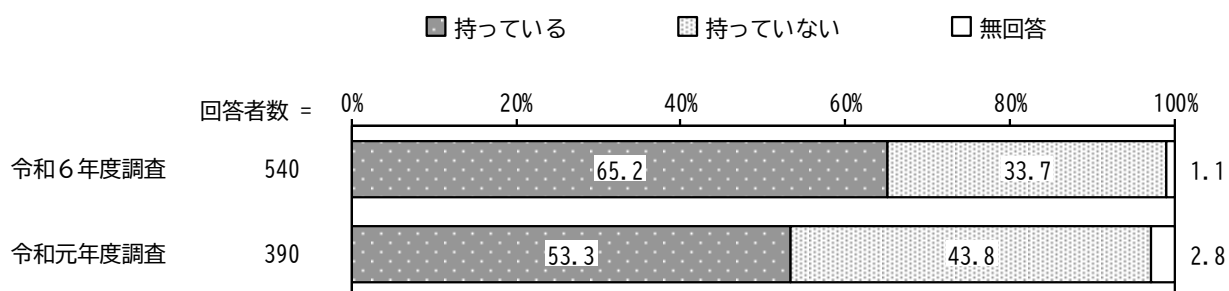
学年別にみると、「30分くらい」、「1時間くらい」で小学5年生の方が高くなっています。



問 16 あなたは、自分専用の携帯電話やスマートフォンを持っていますか。

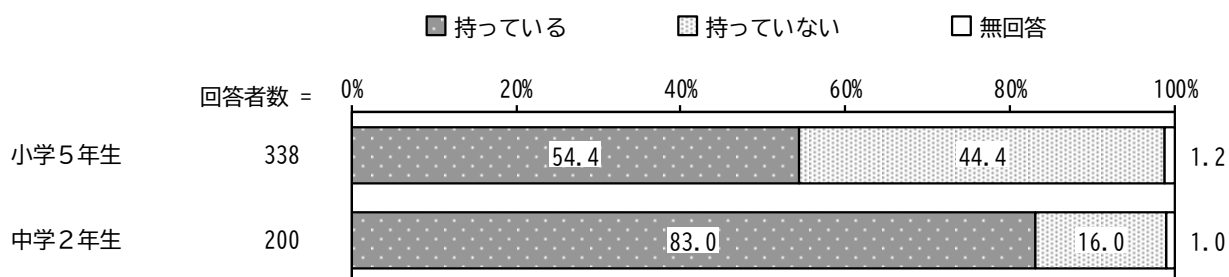
「持っている」の割合が65.2%、「持っていない」の割合が33.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「持っている」の割合が増加しています。一方、「持っていない」の割合が減少しています。



【学年別】

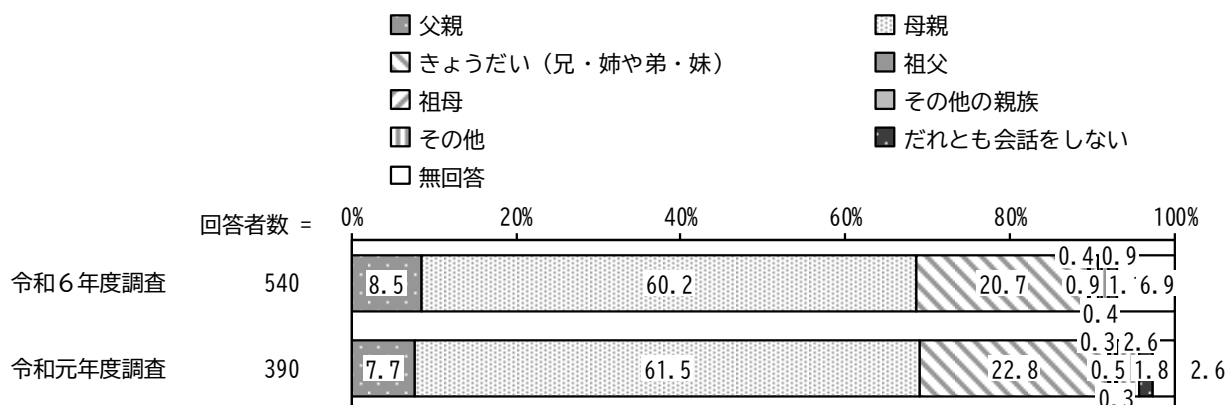
学年別にみると、「持っていない」で小学5年生の方が高くなっています。



問 17 あなたは、家族のだれと一番話をしますか。

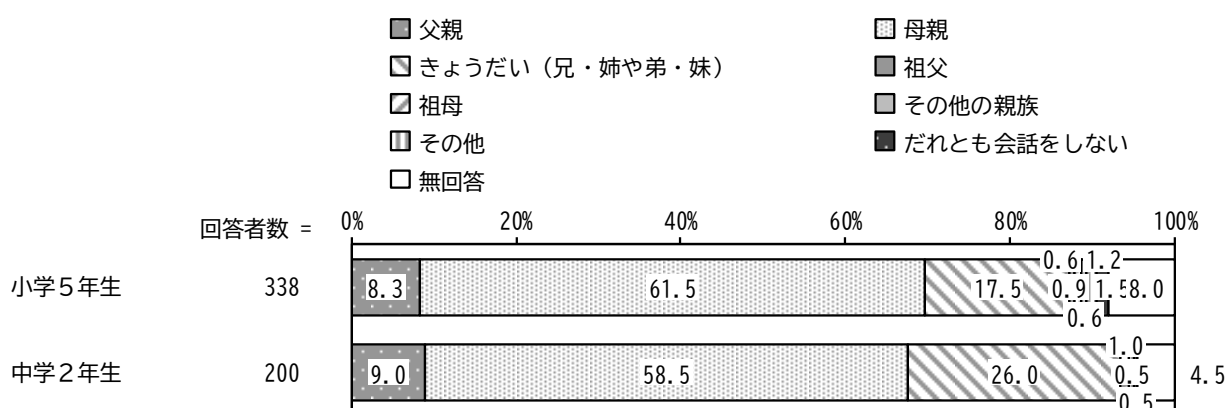
「母親」の割合が60.2%と最も高く、次いで「きょうだい（兄・姉や弟・妹）」の割合が20.7%、「父親」の割合が8.5%となっています。また、「だれとも会話をしない」の割合が1.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

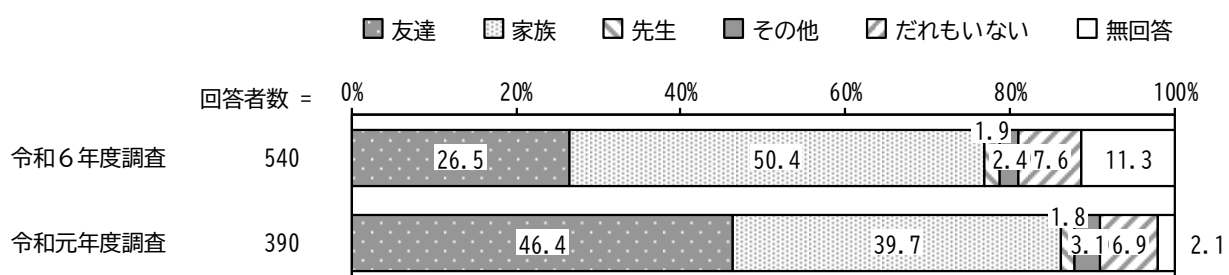
学年別にみると、「きょうだい（兄・姉や弟・妹）」で中学2年生の方が高くなっています。



問 18 あなたは、心配事や悩みがあるとき、だれに相談しますか。
（最もあてはまるものひとつだけ○）

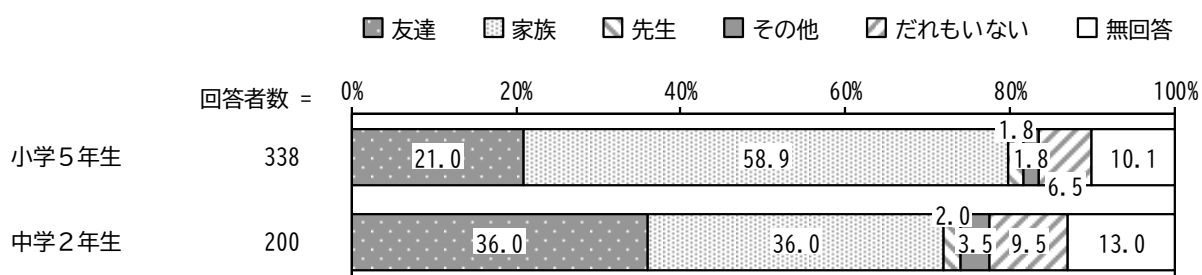
「友達」の割合が26.5%、「家族」の割合が50.4%、「先生」の割合が1.9%となっています。また、「だれもいない」の割合が7.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「家族」の割合が増加しています。一方、「友達」の割合が減少しています。



【学年別】

学年別にみると、「家族」で小学5年生の方が高くなっています。

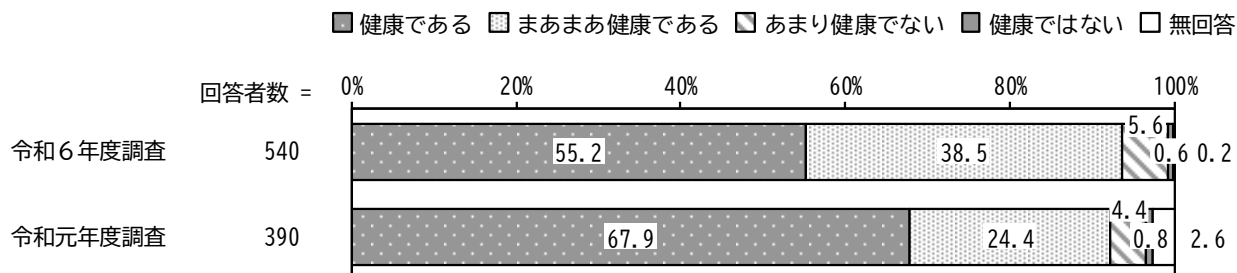


(5) スポーツについて

問 19 ご自分の健康状態は、いかがですか。

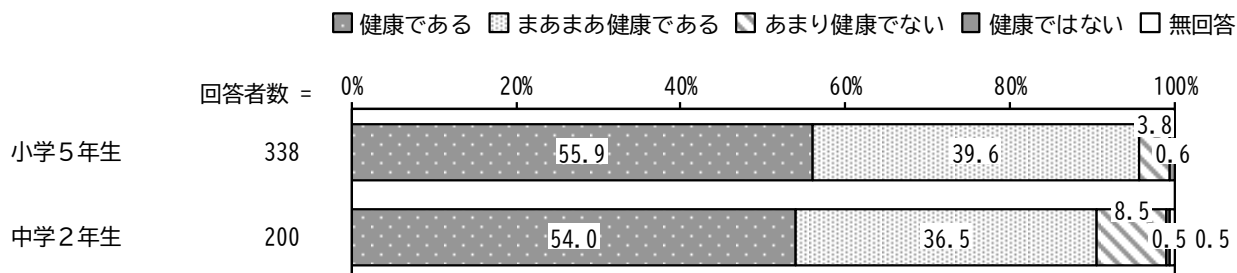
「健康である」「まあまあ健康である」を合わせた「健康である」の割合が93.7%、「あまり健康でない」「健康ではない」を合わせた「健康でない」の割合が6.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「まあまあ健康である」の割合が増加しています。一方、「健康である」の割合が減少しています。



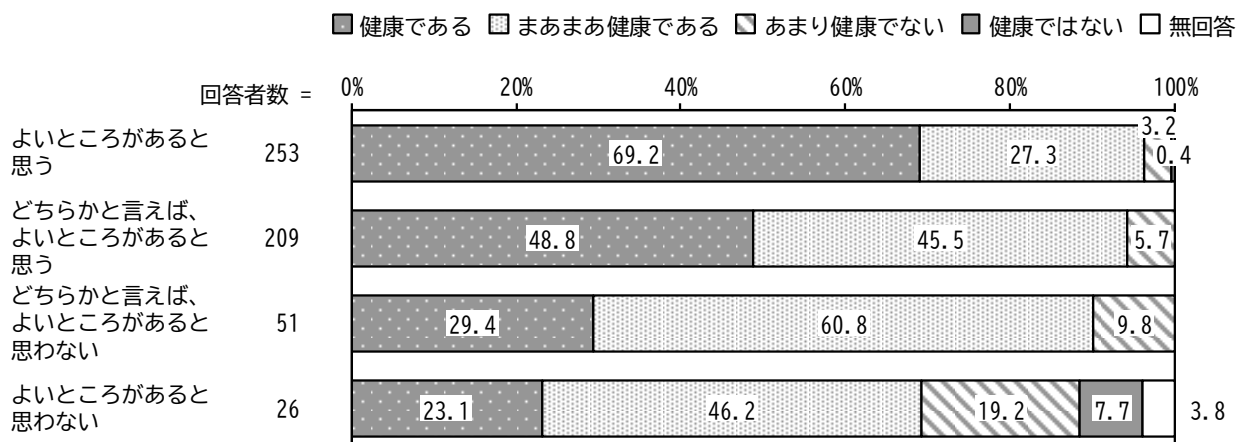
【学年別】

学年別にみると、大きな差はみられません。



【自己肯定感別】

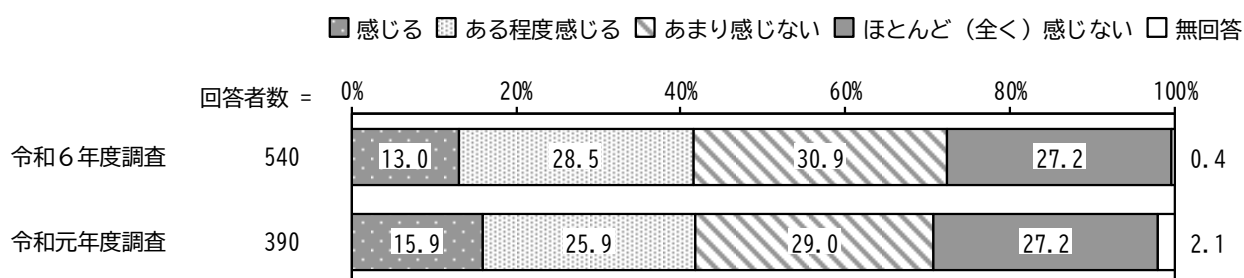
自己肯定感別にみると、「まあまあ健康である」についてどちらかと言えば、よいところがあると思わないで高く、「あまり健康でない」についてよいところがあると思わないで高くなっています。



問 20 普段、運動不足を感じますか。

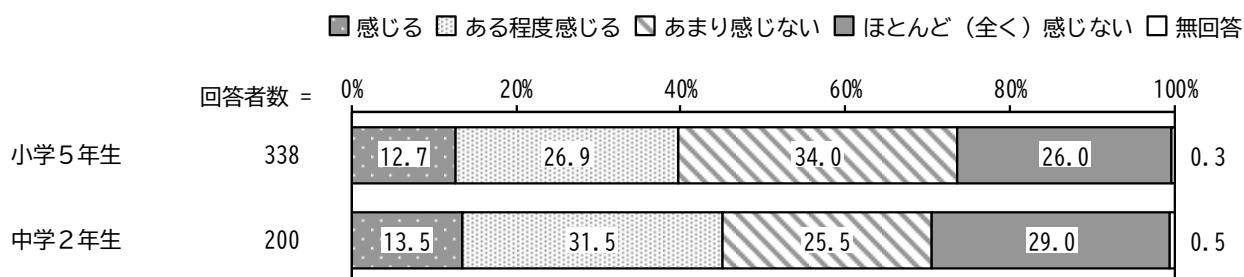
「感じる」「ある程度感じる」を合わせた”感じる”の割合が41.5%、「あまり感じない」「ほとんど（全く）感じない」を合わせた”感じない”の割合が58.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

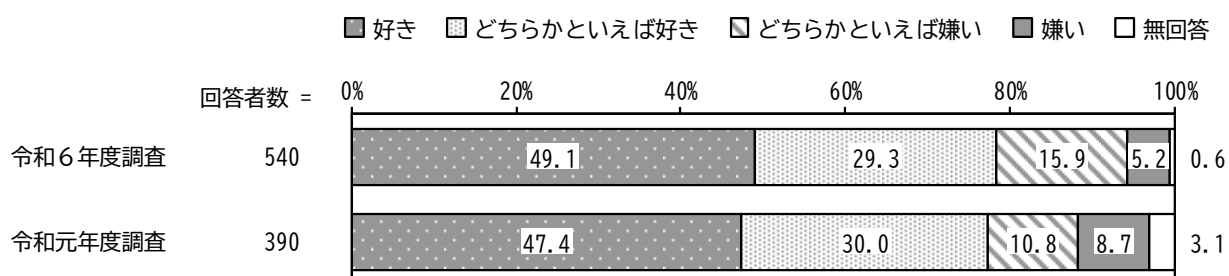
学年別にみると、「あまり感じない」で小学5年生の方が高くなっています。



問 21 日頃から、スポーツをすることが好きですか。

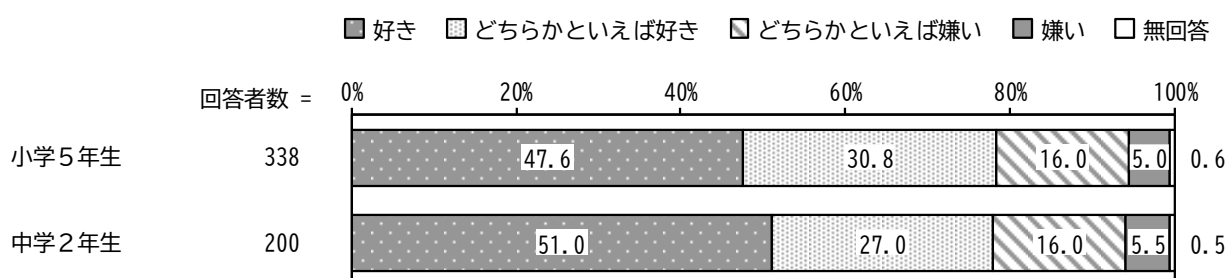
「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた”好き”の割合が78.4%、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を合わせた”嫌い”の割合が21.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえば嫌い」の割合が増加しています。



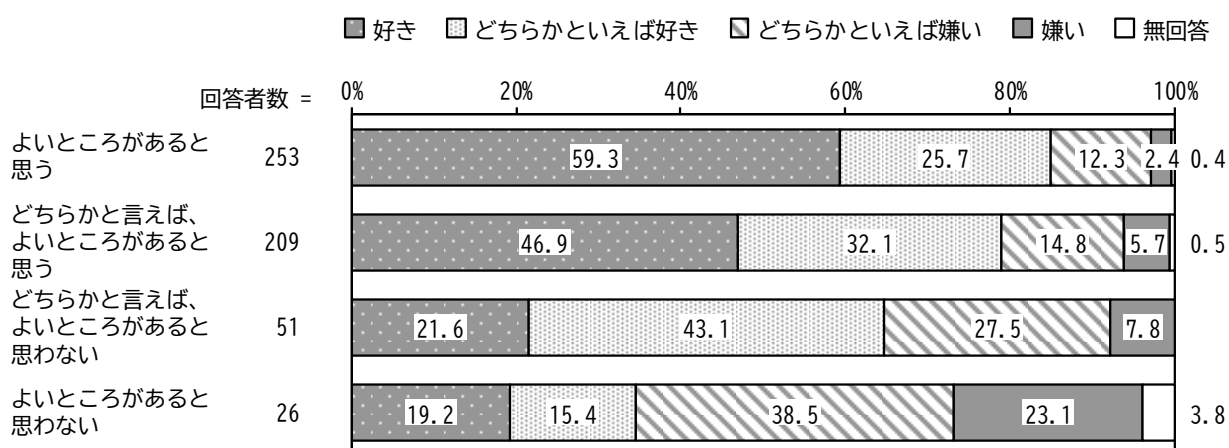
【学年別】

学年別にみると、大きな差はみられません。



【自己肯定感別】

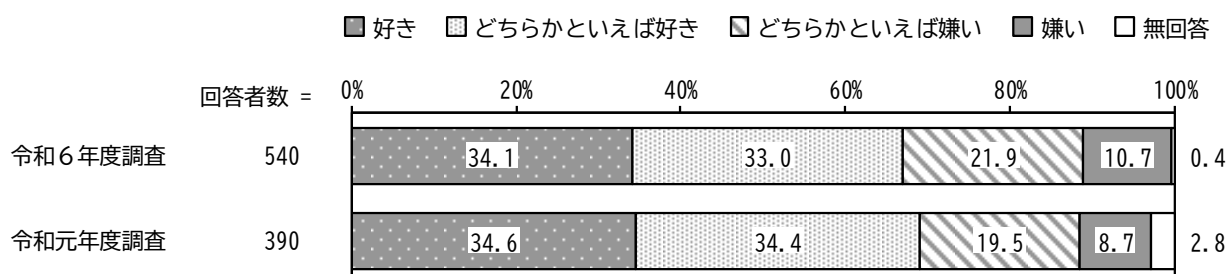
自己肯定感別にみると、「嫌い」についてよいところがあると思わないで高くなっています。



問 22 テレビや競技場などでスポーツを見ることが好きですか。

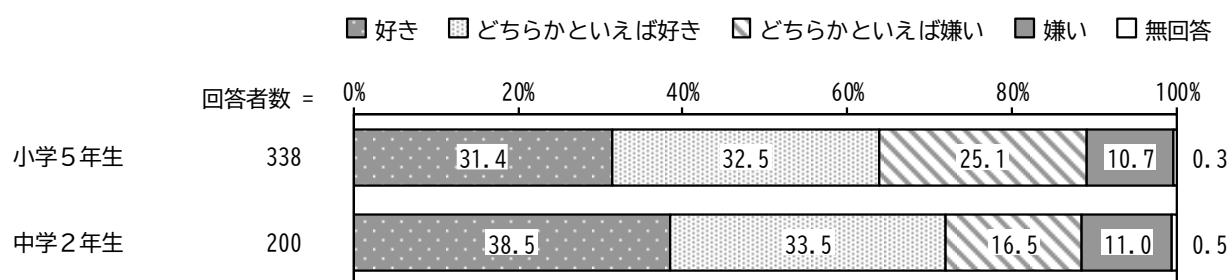
「好き」「どちらかといえば好き」を合わせた「好き」の割合が67.1%、「どちらかといえば嫌い」「嫌い」を合わせた「嫌い」の割合が32.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

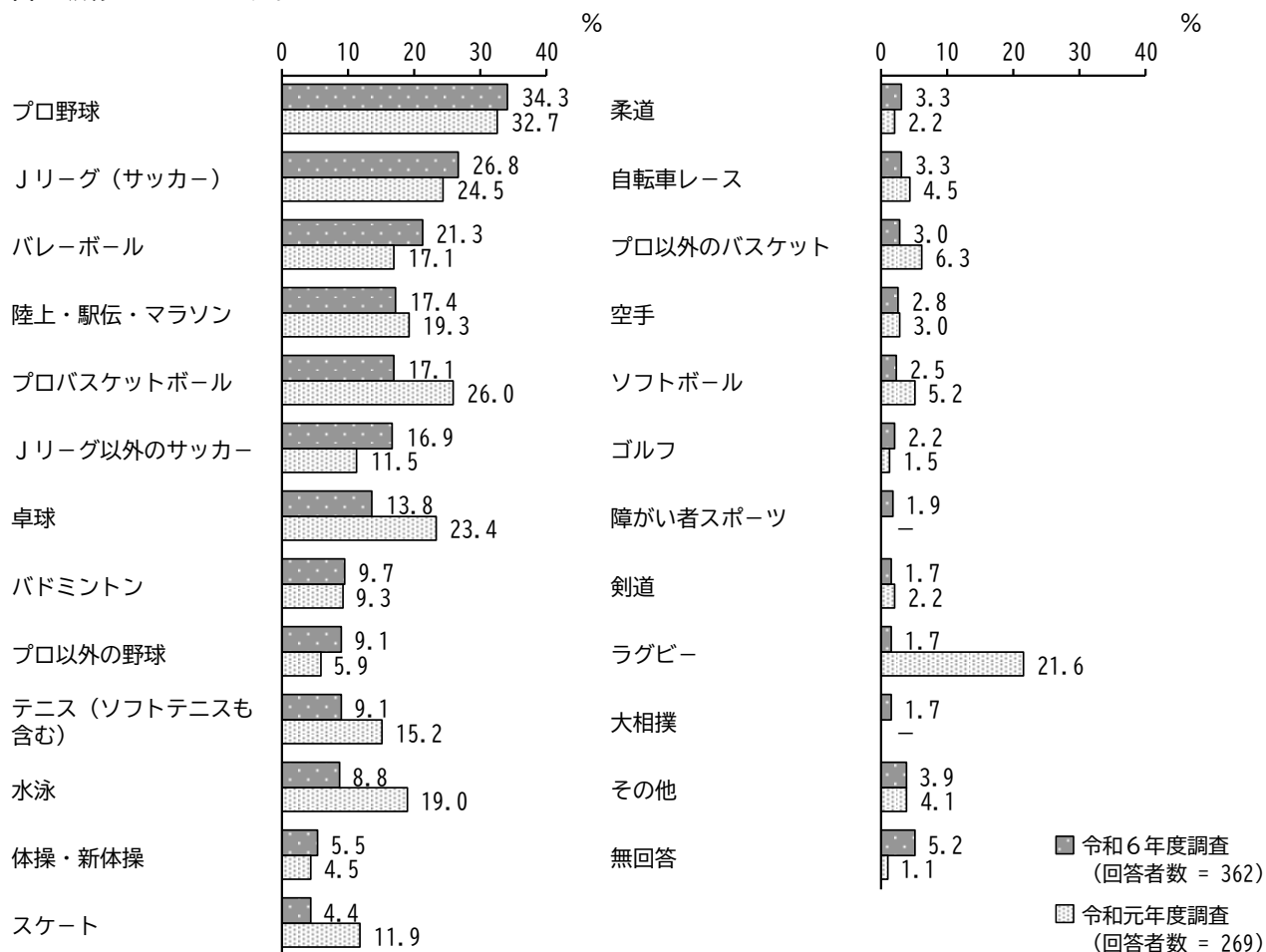
学年別にみると、「どちらかといえば嫌い」で小学5年生の方が高くなっています。



問 23 問 22 で「1 好き」または「2 どちらかといえば好き」と答えた方にお聞きします。テレビや競技場などで観戦したいスポーツは、どんな競技ですか。
(主なもの3つまで○)

「プロ野球」の割合が34.3%と最も高く、次いで「Jリーグ(サッカー)」の割合が26.8%、「バレーボール」の割合が21.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「Jリーグ以外のサッカー」の割合が増加しています。一方、「プロバスケットボール」、「テニス(ソフトテニスも含む)」、「卓球」、「水泳」、「ラグビー」、「スケート」の割合が減少しています。



※前回調査では「大相撲」「障がい者スポーツ」がありませんでした。

【学年別】

学年別にみると、「水泳」で小学5年生の方が高く、「バドミントン」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

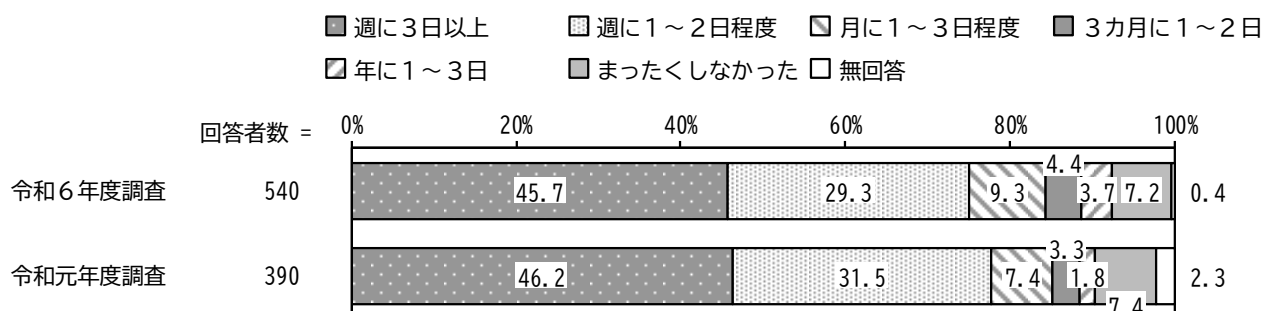
区分	回答者数 (件)	プロ野球	プロ以外の野球	Jリーグ (サッカー)	Jリーグ以外のサ ッカー	プロバスケットボ ール	プロ以外のバスケ ット	バレーボール	ソフトボール	テニス(ソフトテ ニスも含む)	バドミントン	卓球	陸上・駅伝・マラソ ン
全 体	362	34.3	9.1	26.8	16.9	17.1	3.0	21.3	2.5	9.1	9.7	13.8	17.4
小学5年生	216	34.3	9.7	25.9	16.2	13.4	4.6	22.2	2.3	5.1	6.9	13.4	17.1
中学2年生	144	34.0	8.3	27.8	18.1	22.9	0.7	19.4	2.8	15.3	13.9	13.9	17.4

区分	体操・新体操	水泳	剣道	柔道	空手	ゴルフ	ラグビー	スケート	自転車レース	大相撲	障がい者スポーツ	その他	無回答
全 体	5.5	8.8	1.7	3.3	2.8	2.2	1.7	4.4	3.3	1.7	1.9	3.9	5.2
小学5年生	7.4	11.6	1.9	4.2	2.3	1.9	1.9	4.2	3.7	2.3	2.8	4.2	3.2
中学2年生	2.1	4.9	1.4	2.1	3.5	2.8	1.4	4.9	2.8	0.7	0.7	3.5	8.3

問 24 この1年間に、どのくらいスポーツを行っていますか。ただし、学校の授業として行ったものは除きます。

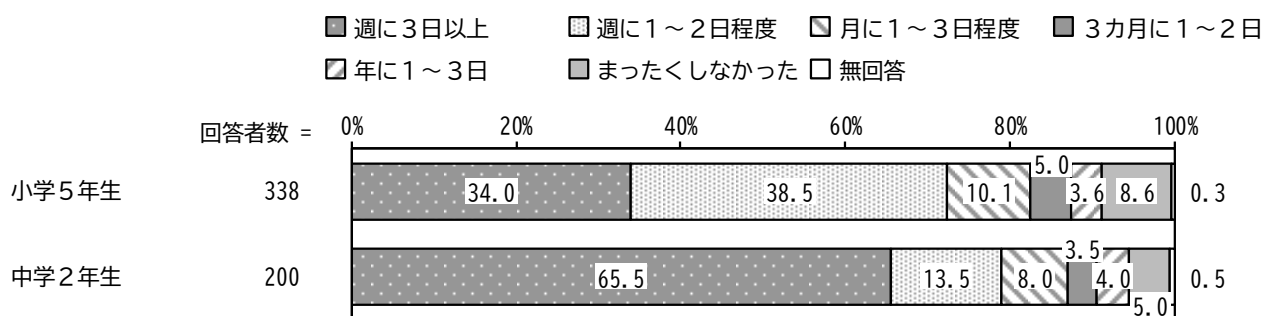
「週に3日以上」の割合が45.7％と最も高く、次いで「週に1～2日程度」の割合が29.3％、「月に1～3日程度」の割合が9.3％となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

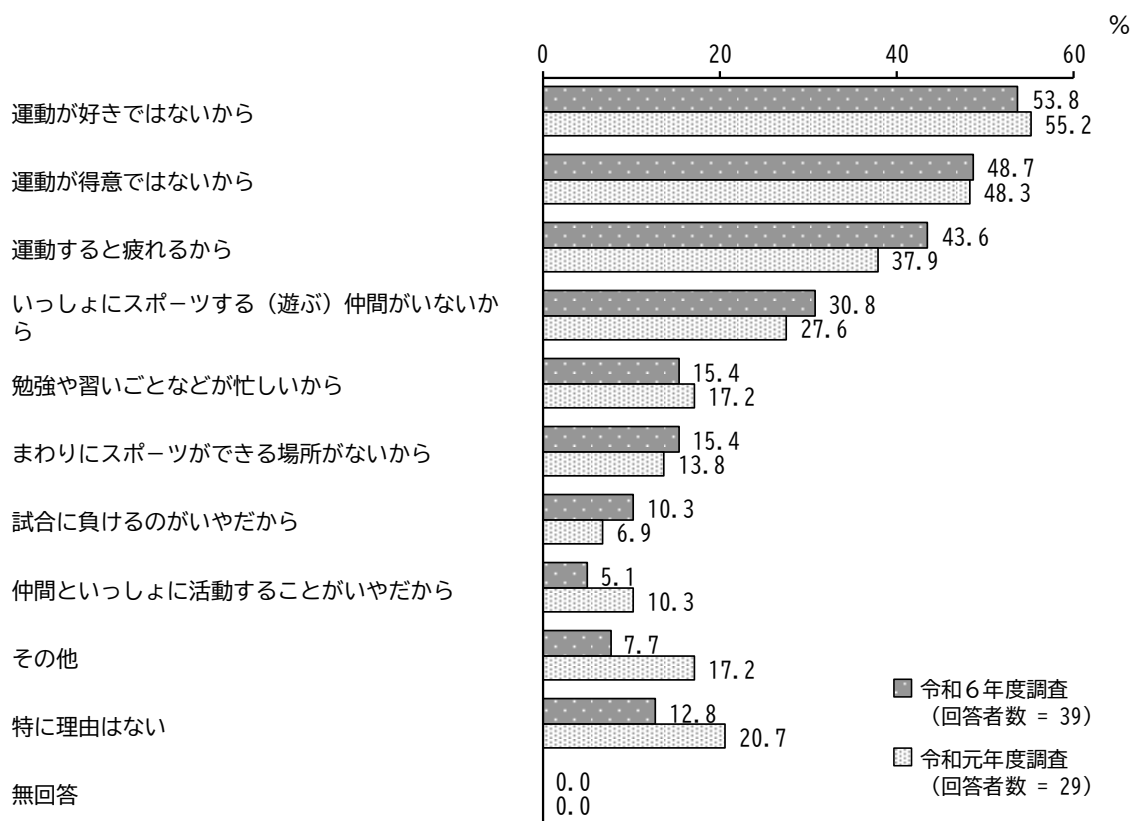
学年別にみると、「週に1～2日程度」で小学5年生の方が高くなっています。



問 25 問 24 で学校の授業のほかにスポーツを「6 まったくしなかった」方にお聞きします。スポーツをしなかった理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

「運動が好きではないから」の割合が53.8%と最も高く、次いで「運動が得意ではないから」の割合が48.7%、「運動すると疲れるから」の割合が43.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「運動すると疲れるから」の割合が増加しています。一方、「仲間といっしょに活動することがいやだから」「特に理由はない」の割合が減少しています。



【学年別】

学年別にみると、「特に理由はない」で小学5年生の方が高く、「仲間といっしょに活動することがいやだから」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

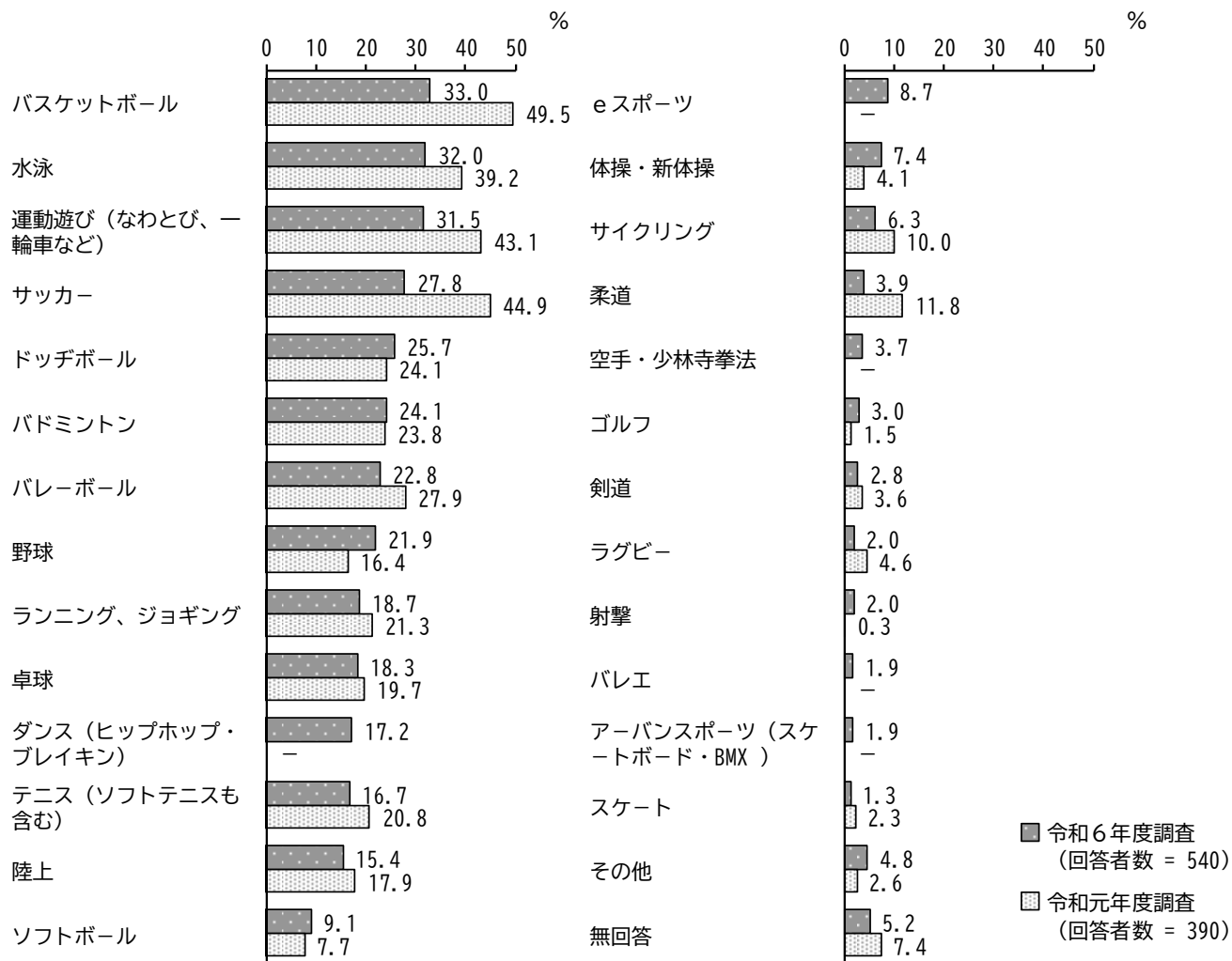
区分	回答者数（件）	仲間といっしょにスポーツする（遊ぶ）仲間がいないから	勉強や習いごとなどが忙しいから	まわりにスポーツができる場所がないから	運動が好きではないから	運動すると疲れるから	運動が得意ではないから	試合に負けるのがいやだから	仲間といっしょに活動することがいやだから	その他	特に理由はない	無回答
全 体	39	30.8	15.4	15.4	53.8	43.6	48.7	10.3	5.1	7.7	12.8	－
小学5年生	29	24.1	6.9	13.8	48.3	44.8	41.4	13.8	－	10.3	17.2	－
中学2年生	10	50.0	40.0	20.0	70.0	40.0	70.0	－	20.0	－	－	－

問 26 ①この1年間で行ったスポーツと、②今後行ってみたいスポーツについて、それぞれお答えください。（あてはまるものすべての番号を選んで（ ）の中に記入）

①行った

「バスケットボール」の割合が33%と最も高く、次いで「水泳」の割合が32%、「運動遊び（なわとび、一輪車など）」の割合が31.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「野球」の割合が増加しています。一方、「運動遊び（なわとび、一輪車など）」、「サッカー」、「バスケットボール」、「バレーボール」、「水泳」、「柔道」の割合が減少しています。



※前回調査では「空手・少林寺拳法」が「空手」「少林寺拳法」に分かれており、「バレエ」「ダンス（ヒップホップ・ブレイキン）」が同一の選択肢となっておりました。また、「アーバンスポーツ（スケートボード・BMX）」「eスポーツ」はありませんでした。

【学年別】

学年別にみると、「ドッチボール」で小学5年生の方が高く、「ランニング、ジョギング」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

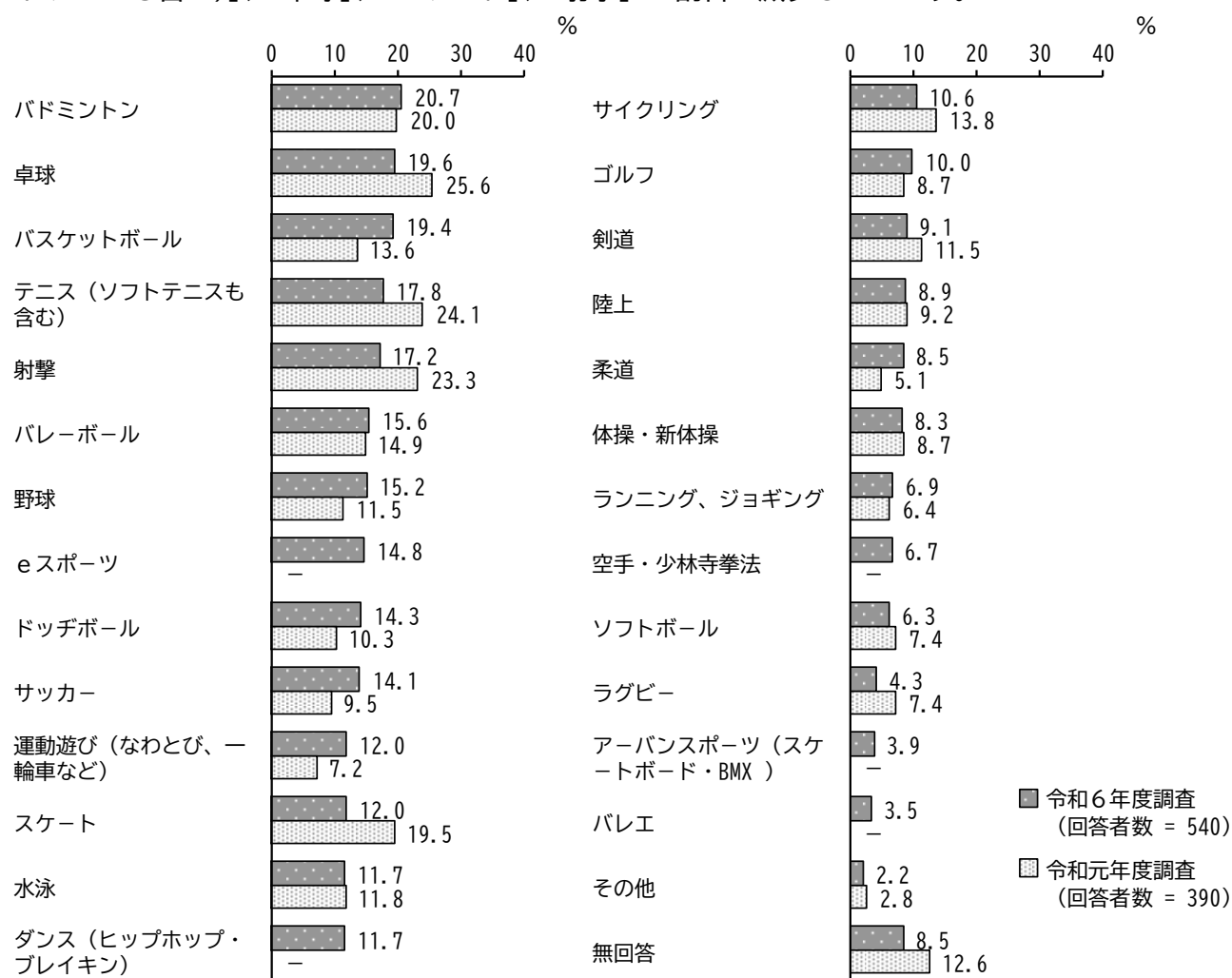
区分	回答者数 (件)	運動遊び (なわとび、 一輪車など)	野球	サッカー	バスケットボール	バレーボール	ソフトボール	テニス(ソフト テニスも含む)	バドミントン	卓球	陸上	体操・新体操	水泳	剣道	柔道
全 体	540	31.5	21.9	27.8	33.0	22.8	9.1	16.7	24.1	18.3	15.4	7.4	32.0	2.8	3.9
小学5年生	338	35.8	21.0	23.4	29.0	13.9	5.0	10.4	23.1	17.5	6.2	8.6	30.8	2.7	1.2
中学2年生	200	24.0	23.0	35.0	39.0	37.0	16.0	27.5	25.5	20.0	30.5	5.0	34.5	3.0	8.5

区分	空手・少林寺拳法	ゴルフ	バレエ	ダンス(ヒップホップ・ ブレイキン)	ラグビー	スケート	射撃	ランニング、ジョギン	ドッチボール	サイクリング	アーバンスポーツ(ス ケートボード・BMX)	eスポーツ	その他	無回答
全 体	3.7	3.0	1.9	17.2	2.0	1.3	2.0	18.7	25.7	6.3	1.9	8.7	4.8	5.2
小学5年生	3.6	2.7	1.8	16.0	1.8	1.2	2.7	15.4	30.8	7.1	2.4	8.0	5.6	5.0
中学2年生	4.0	3.5	2.0	19.5	2.5	1.5	1.0	24.0	17.0	5.0	1.0	10.0	3.5	5.5

②今後行いたい

「バドミントン」の割合が20.7%と最も高く、次いで「卓球」の割合が19.6%、「バスケットボール」の割合が19.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「バスケットボール」の割合が増加しています。一方、「テニス（ソフトテニスも含む）」、「卓球」、「スケート」、「射撃」の割合が減少しています。



※前回調査では「空手・少林寺拳法」が「空手」「少林寺拳法」に分かれており、「バレエ」「ダンス（ヒップホップ・ブレイキン）」が同一の選択肢となっておりました。また、「アーバンスポーツ（スケートボード・BMX）」「eスポーツ」はありませんでした。

【学年別】

学年別にみると、「eスポーツ」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

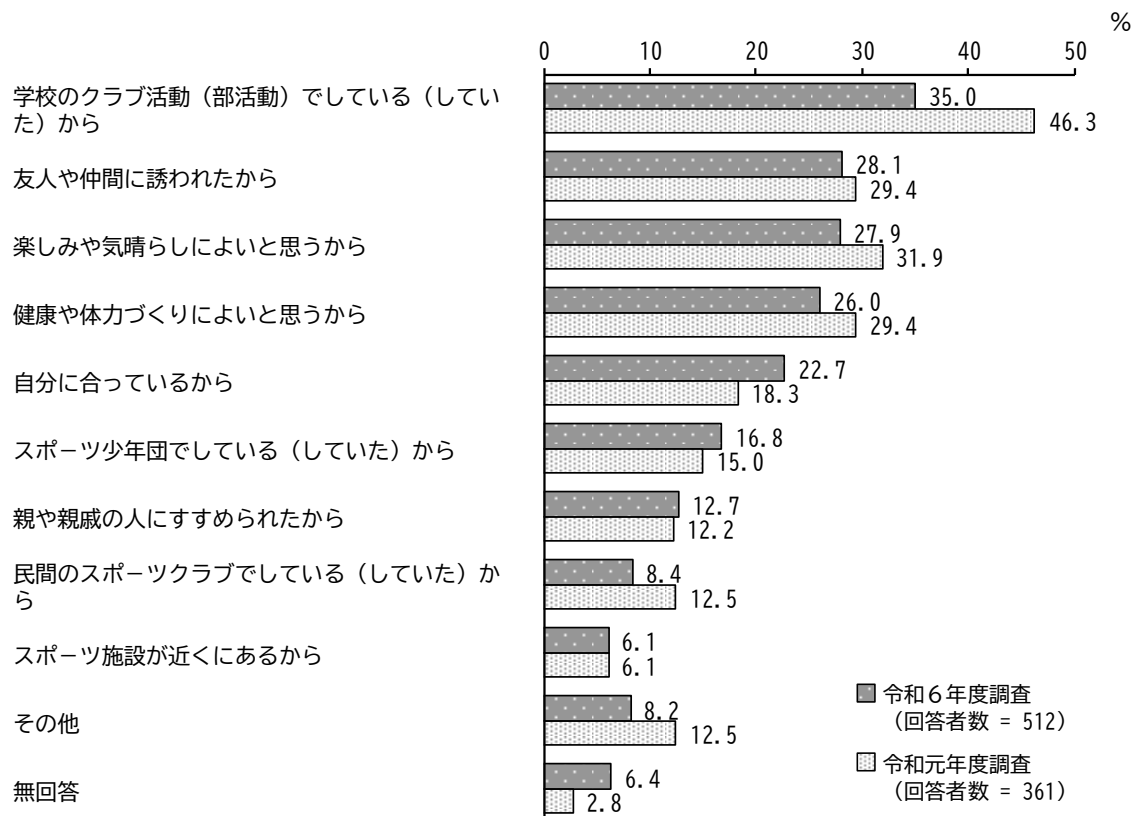
区分	回答者数 (件)	運動遊び (なわとび、 一輪車など)	野球	サッカー	バスケットボール	バレーボール	ソフトボール	テニス(ソフト テニスも含む)	バドミントン	卓球	陸上	体操・新体操	水泳	剣道	柔道
全 体	540	12.0	15.2	14.1	19.4	15.6	6.3	17.8	20.7	19.6	8.9	8.3	11.7	9.1	8.5
小学5年生	338	11.8	12.7	11.8	16.9	13.0	5.6	14.8	18.6	16.9	8.6	8.6	13.0	8.6	7.4
中学2年生	200	12.5	19.0	17.5	23.5	19.5	7.5	22.5	24.5	24.0	8.5	8.0	9.0	10.0	10.0

区分	空手・少林寺拳法	ゴルフ	バレエ	ダンス(ヒップホップ・ ブレイキン)	ラグビー	スケート	射撃	ランニング、ジョギング	ドッジボール	サイクリング	アーバンスポーツ(ス ケートボード・BMX)	eスポーツ	その他	無回答
全 体	6.7	10.0	3.5	11.7	4.3	12.0	17.2	6.9	14.3	10.6	3.9	14.8	2.2	8.5
小学5年生	7.4	9.5	3.6	9.2	3.3	10.7	16.3	6.8	13.0	8.6	3.0	10.7	2.7	8.6
中学2年生	5.0	11.0	3.5	16.0	6.0	14.0	19.0	7.0	16.5	14.0	5.5	22.0	1.5	8.5

問 27 問 26①で1つでも「行った」方にお聞きします。スポーツを行った理由は何ですか。
(主なものを3つまで○)

「学校のクラブ活動（部活動）でしている（していた）から」の割合が35.0%と最も高く、次いで「友人や仲間に誘われたから」の割合が28.1%、「楽しみや気晴らしによいと思うから」の割合が27.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「学校のクラブ活動（部活動）でしている（していた）から」の割合が減少しています。



【学年別】

学年別にみると、「親や親戚の人にすすめられたから」、「自分に合っているから」、「健康や体力づくりによいと思うから」で小学5年生の方が高く、「友人や仲間に誘われたから」で中学2年生の方が高くなっています。

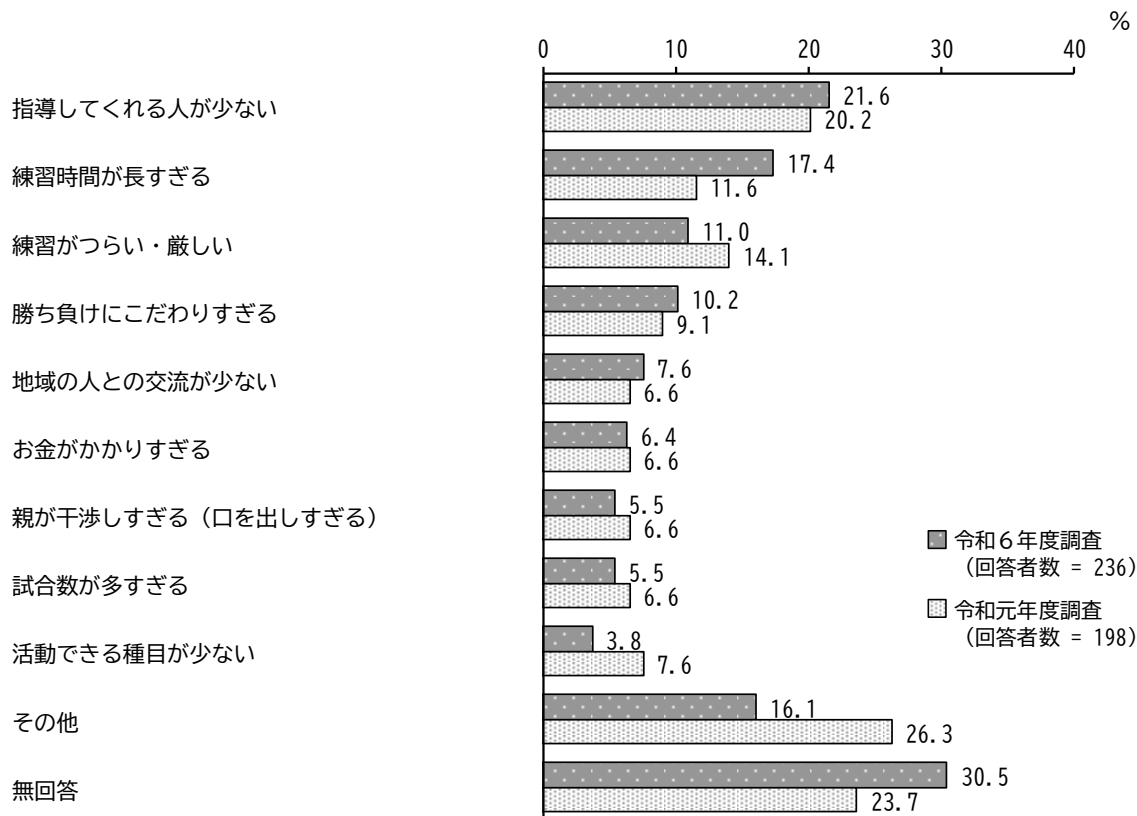
単位：％

区分	回答者数(件)	学校のクラブ活動(部活動)でしている(していた)から	スポーツ少年団でしている(していた)から	民間のスポーツクラブでしている(していた)から	親や親戚の人にすすめられたから	友人や仲間に誘われたから	自分に合っているから	健康や体力づくりによいと思うから	楽しみや気晴らしによいと思うから	スポーツ施設が近くにあるから	その他	無回答
全 体	512	35.0	16.8	8.4	12.7	28.1	22.7	26.0	27.9	6.1	8.2	6.4
小学5年生	321	17.4	20.2	7.8	15.6	26.2	25.5	29.3	25.9	5.9	9.3	7.2
中学2年生	189	64.0	11.1	9.0	7.9	31.7	18.0	20.1	30.7	6.3	6.3	5.3

問 28 問 27で「1 学校のクラブ活動(部活動)でしている(していた)から」または「2 スポーツ少年団でしている(していた)から」と答えた方にお聞きします。クラブやスポーツ少年団の活動で、改善・工夫してほしいことはありますか。(主なもの3つまで○)

「指導してくれる人が少ない」の割合が21.6％と最も高く、次いで「練習時間が長すぎる」の割合が17.4％、「練習がづらい・厳しい」の割合が11.0％となっています。

令和元年度調査と比較すると、「練習時間が長すぎる」の割合が増加しています。



【学年別】

学年別にみると、「お金がかかりすぎる」で小学5年生の方が高く、「指導してくれる人が少ない」で中学2年生の方が高くなっています。

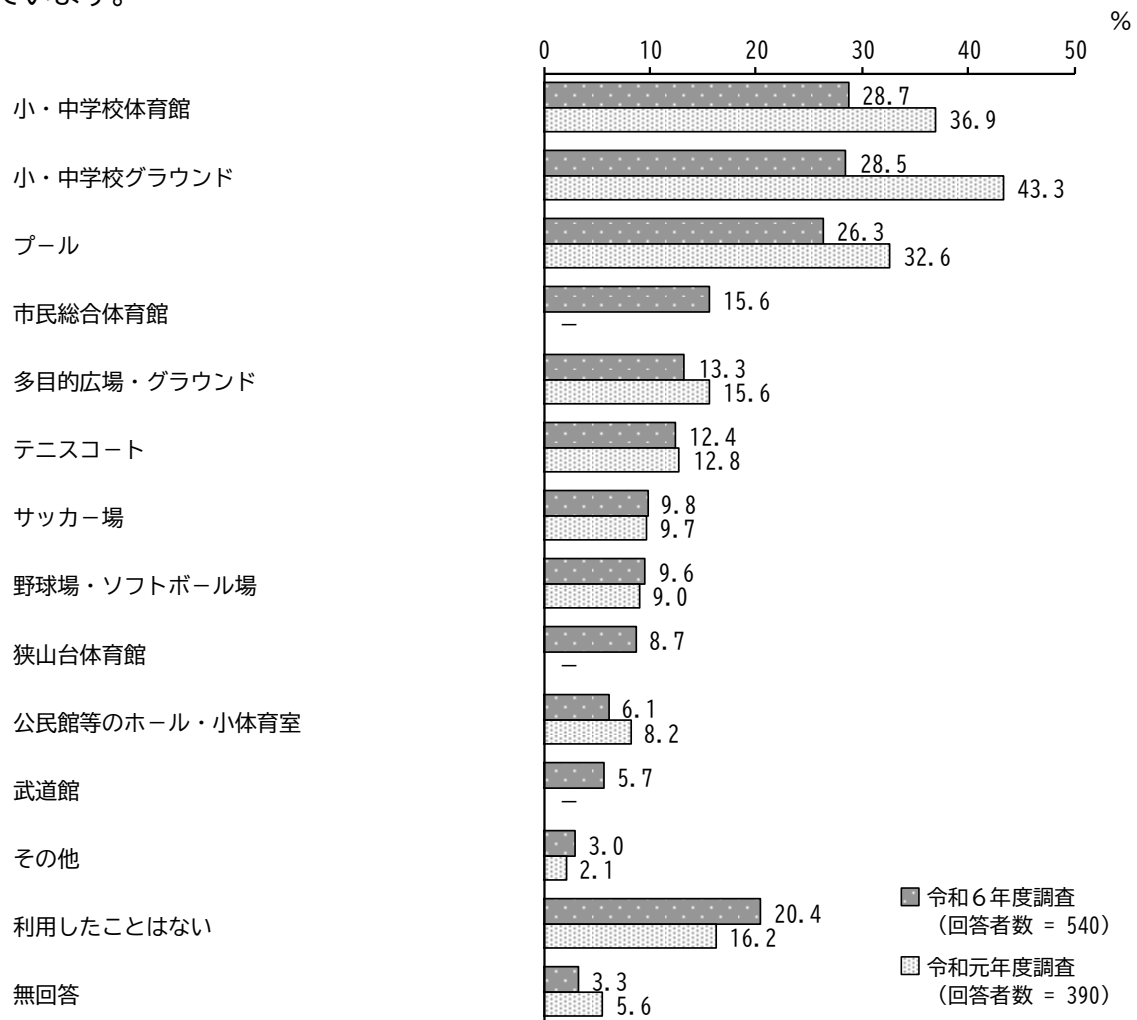
単位：％

区分	回答者数 (件)	練習時間が長すぎる	練習がつらい・厳しい	指導してくれる人が少ない	親が干渉しすぎる (口を出しすぎる)	お金がかかりすぎる	試合数が多すぎる	勝ち負けにこだわ りすぎる	地域のひととの交流 が少ない	活動できる種目が 少ない	その他	無回答
全 体	236	17.4	11.0	21.6	5.5	6.4	5.5	10.2	7.6	3.8	16.1	30.5
小学5年生	107	16.8	13.1	14.0	6.5	10.3	5.6	10.3	9.3	1.9	14.0	35.5
中学2年生	127	18.1	9.4	27.6	3.9	2.4	5.5	10.2	6.3	5.5	18.1	26.0

問 29 この１年間で、スポーツをするために狭山市が設置しているスポーツ施設を利用したことがありますか。なお、スポーツ施設には学校のグラウンドや体育館も含みます。
(あてはまるものすべてに○)

「小・中学校体育館」の割合が28.7%と最も高く、次いで「小・中学校グラウンド」の割合が28.5%、「プール」の割合が26.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「プール」「小・中学校グラウンド」「小・中学校体育館」の割合が減少しています。



※前回調査では「市民総合体育館」「狭山台体育館」が同一の選択肢となっておりました。また、「武道館」はありませんでした。

【学年別】

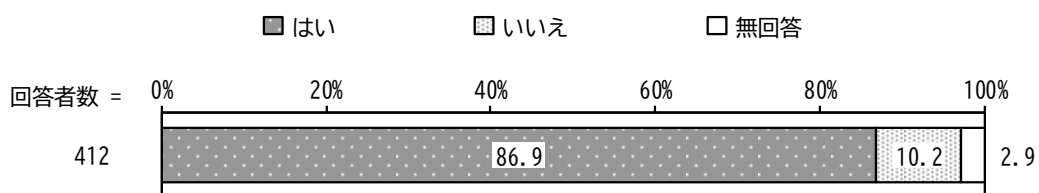
学年別にみると、「プール」、「小・中学校グラウンド」で小学5年生の方が高く、「小・中学校体育館」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数（件）	テニスコート	野球場・ソフトボール場	サッカー場	多目的広場・グラウンド	市民総合体育館	狭山台体育館	武道館	プール	小・中学校グラウンド	小・中学校体育館	公民館等のホール・小体育室	その他	利用したことはない	無回答
全 体	540	12.4	9.6	9.8	13.3	15.6	8.7	5.7	26.3	28.5	28.7	6.1	3.0	20.4	3.3
小学5年生	338	6.8	9.5	9.2	12.7	10.4	8.6	4.1	29.3	30.8	26.6	7.1	3.8	21.6	2.7
中学2年生	200	22.0	9.5	11.0	14.5	24.5	9.0	8.5	21.5	25.0	32.0	4.0	1.5	18.5	4.5

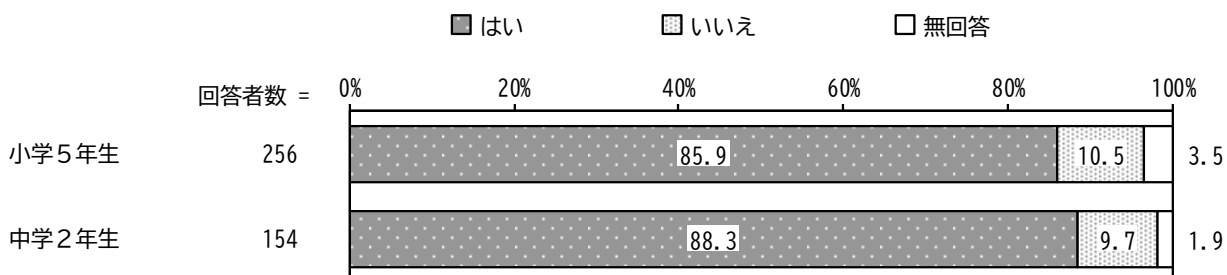
問 30 問 29 で利用した施設がある方にお聞きします。あなたは今後も継続して施設を利用しますか。

「はい」の割合が86.9％、「いいえ」の割合が10.2％となっています。



【学年別】

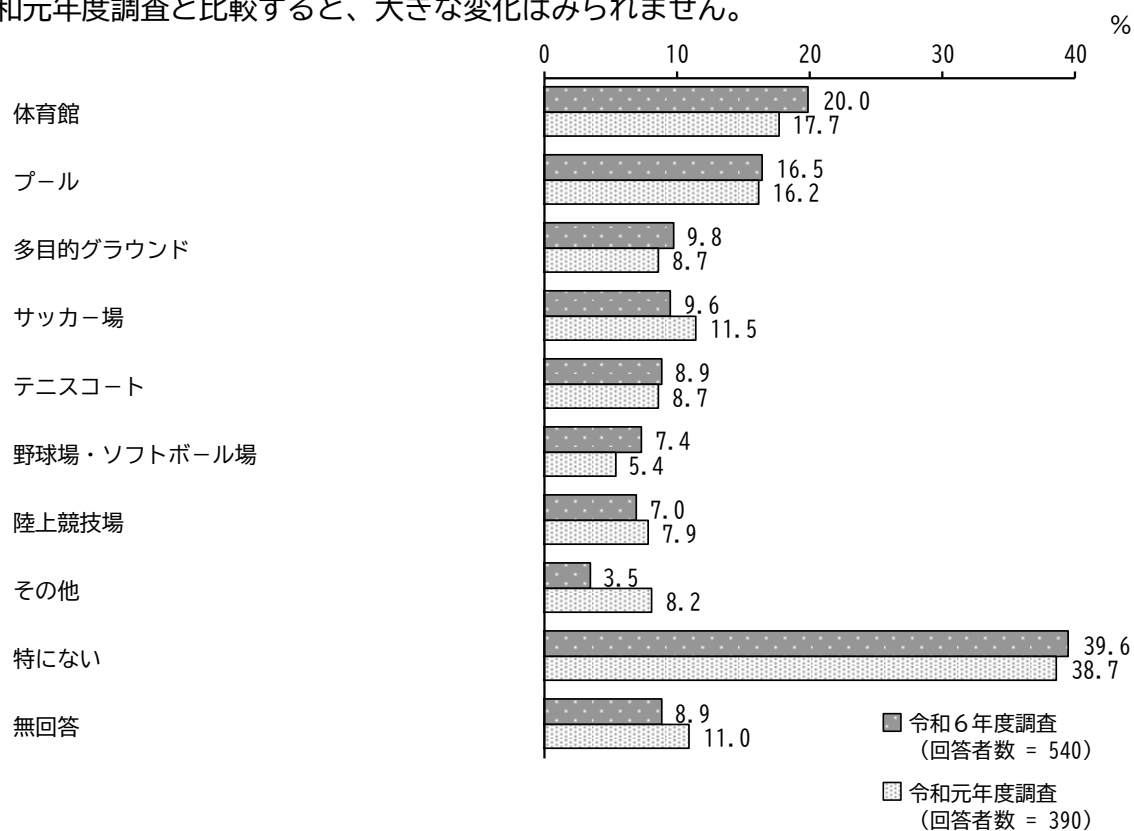
学年別にみると、大きな差はみられません。



問 31 今後、狭山市に整備してほしいスポーツ施設があればあげてください。
(主なもの3つまで○)

「特にない」の割合が39.6%と最も高く、次いで「体育館」の割合が20%、「プール」の割合が16.5%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

学年別にみると、「特にない」で小学5年生の方が高く、「体育館」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

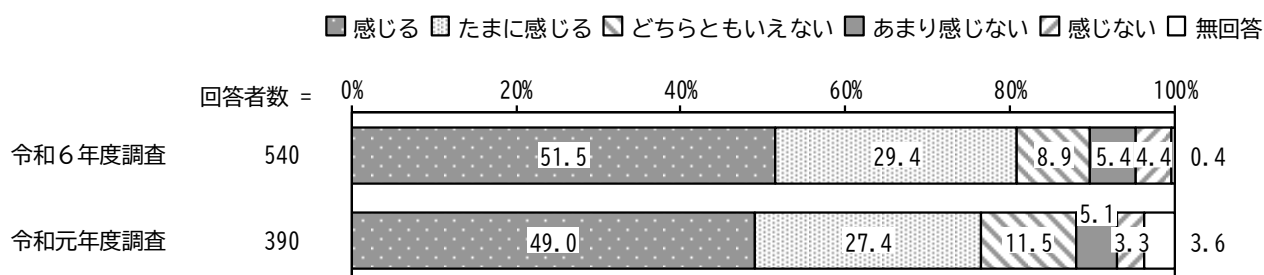
区分	回答者数(件)	テニスコート	野球場・ソフトボール場	サッカー場	多目的グラウンド	体育館	プール	陸上競技場	その他	特にない	無回答
全 体	540	8.9	7.4	9.6	9.8	20.0	16.5	7.0	3.5	39.6	8.9
小学5年生	338	6.2	8.0	9.2	8.9	16.6	16.3	6.2	3.0	45.9	7.7
中学2年生	200	13.5	6.5	10.5	11.0	25.5	16.5	8.5	4.5	29.5	10.5

(6) 地域での様子について

問 32 あなたの住んでいる地域では、地域の大人が自分たちを見守ってくれていると感じますか。

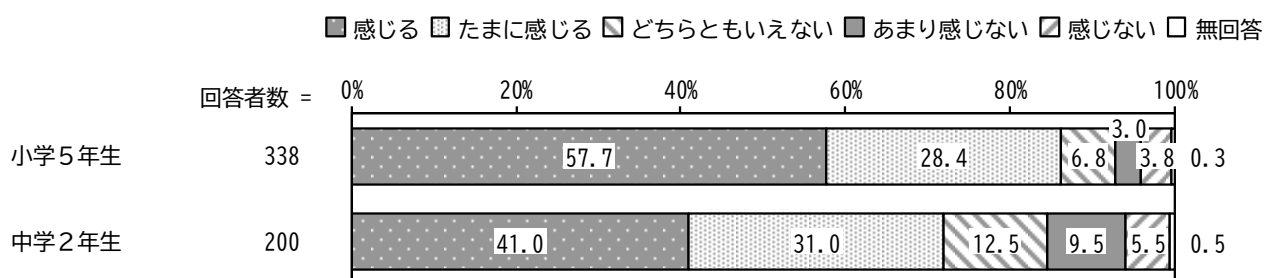
「感じる」「たまに感じる」を合わせた”感じる”の割合が80.9%、「あまり感じない」「感じない」を合わせた”あまり感じない”の割合が9.8%となっています。また、「どちらともいえない」の割合が8.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

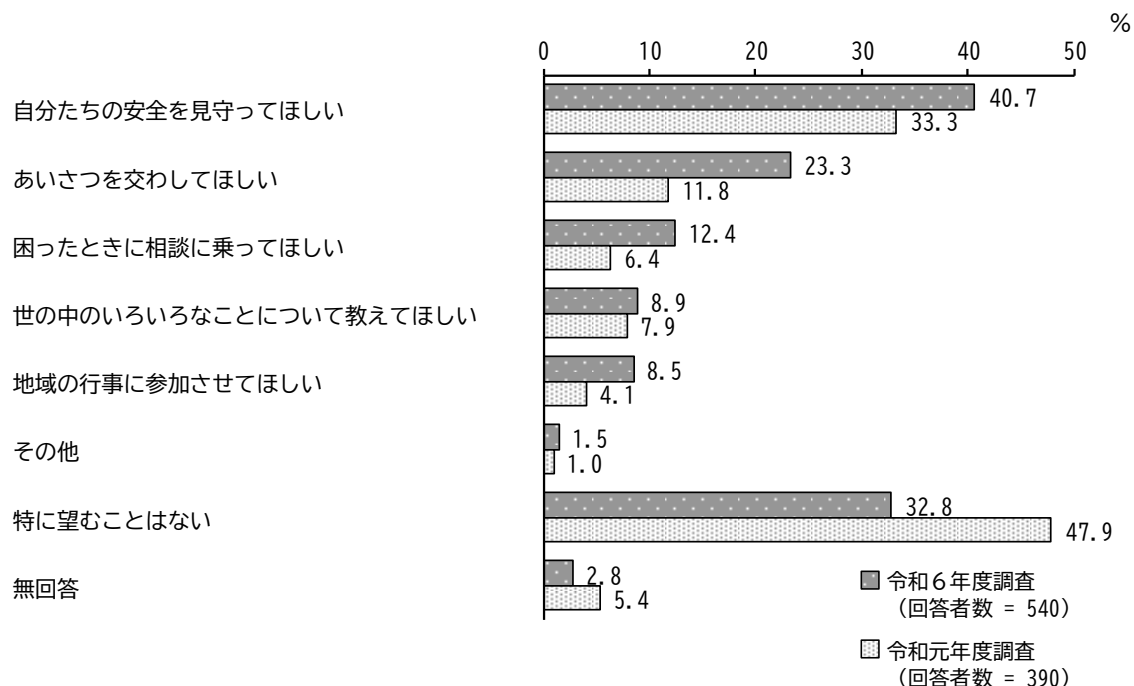
学年別にみると、「感じる」で小学5年生の方が高く、「あまり感じない」で中学2年生の方が高くなっています。



問 33 あなたの住んでいる地域の大人に望むことは何ですか。(主なもの2つまで○)

「自分たちの安全を見守ってほしい」の割合が40.7%と最も高く、次いで「特に望むことはない」の割合が32.8%、「あいさつを交わしてほしい」の割合が23.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「自分たちの安全を見守ってほしい」「あいさつを交わしてほしい」「困ったときに相談に乗ってほしい」の割合が増加しています。一方、「特に望むことはない」の割合が減少しています。



【学年別】

学年別にみると、「困ったときに相談に乗ってほしい」で小学5年生の方が高く、「特に望むことはない」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：%

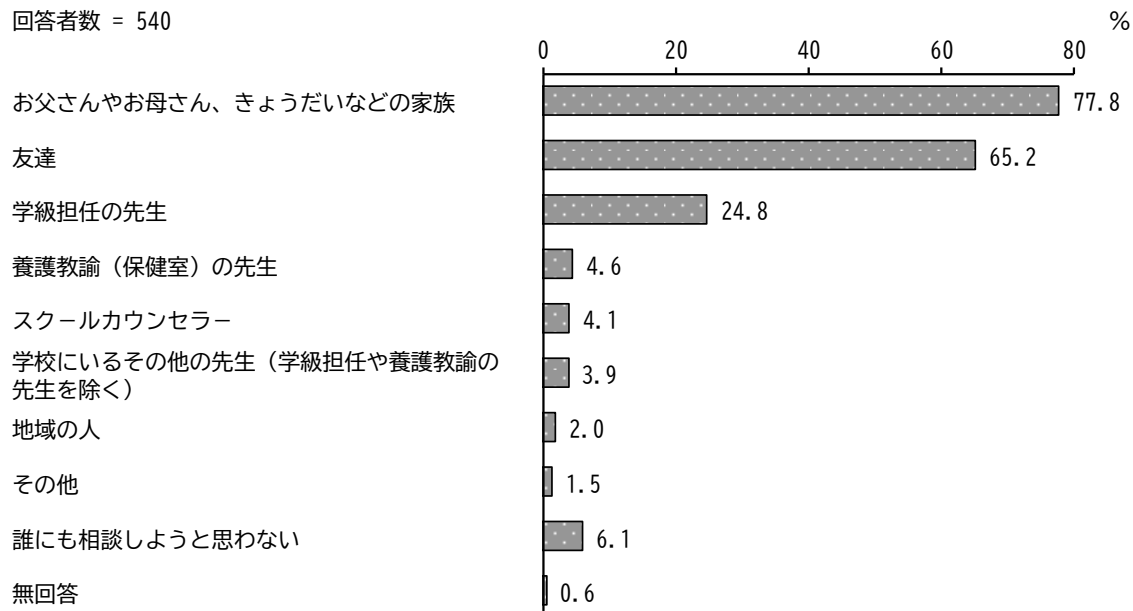
区分	回答者数(件)	自分たちの安全を見守ってほしい	あいさつを交わしてほしい	地域の行事に参加させてほしい	世の中のいろいろなことについて教えてほしい	困ったときに相談に乗ってほしい	その他	特に望むことはない	無回答
全 体	540	40.7	23.3	8.5	8.9	12.4	1.5	32.8	2.8
小学5年生	338	44.1	21.0	8.9	10.4	15.7	2.1	29.0	2.7
中学2年生	200	35.5	27.5	8.0	6.5	7.0	0.5	39.0	2.5

(7) 回答者自身について

問 34 あなたは、困ったことがあったとき、誰に相談しやすいですか。
(あてはまるものすべてに○)

「お父さんやお母さん、きょうだいなどの家族」の割合が77.8%と最も高く、次いで「友達」の割合が65.2%、「学級担任の先生」の割合が24.8%となっています。また、「誰にも相談しようと思わない」の割合が6.1%となっています。

回答者数 = 540



【学年別】

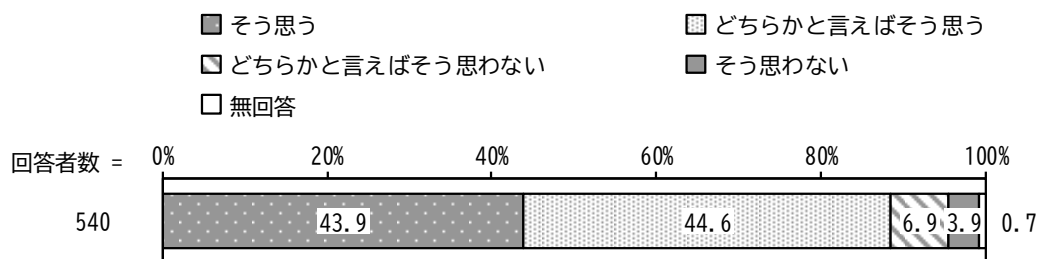
学年別にみると、「お父さんやお母さん、きょうだいなどの家族」で小学5年生の方が高く、「誰にも相談しようと思わない」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数（件）	お父さんやお母さん、きょうだいなどの家族	友達	学級担任の先生	養護教諭（保健室）の先生	学校にいるその他の先生（学級担任や養護教諭の先生を除く）	スクールカウンセラー	地域の人	その他	誰にも相談しようと思わない	無回答
全 体	540	77.8	65.2	24.8	4.6	3.9	4.1	2.0	1.5	6.1	0.6
小学5年生	338	83.1	59.5	24.6	4.1	3.0	5.3	2.4	0.6	3.8	0.6
中学2年生	200	68.5	74.5	25.0	5.5	5.5	2.0	1.5	3.0	10.0	0.5

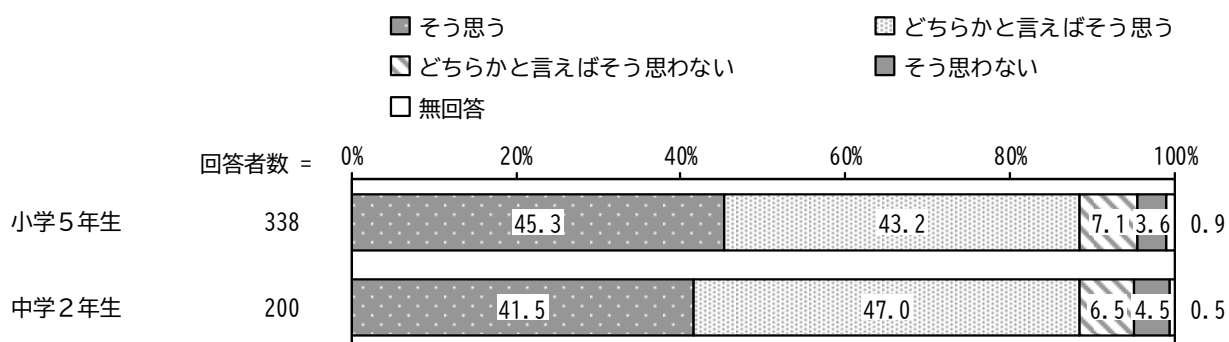
問 35 あなたは、社会のために役立つことがしたいと思いますか。

「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」を合わせた”そう思う”の割合が88.5%、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」を合わせた”そう思わない”の割合が10.8%となっています。



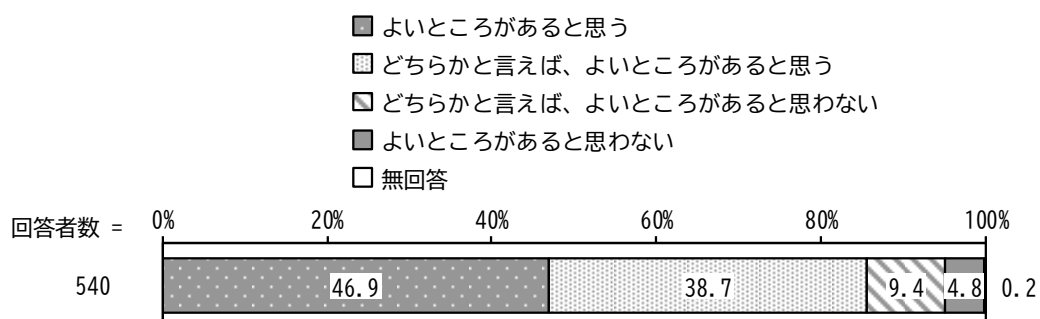
【学年別】

学年別にみると、大きな差はみられません。



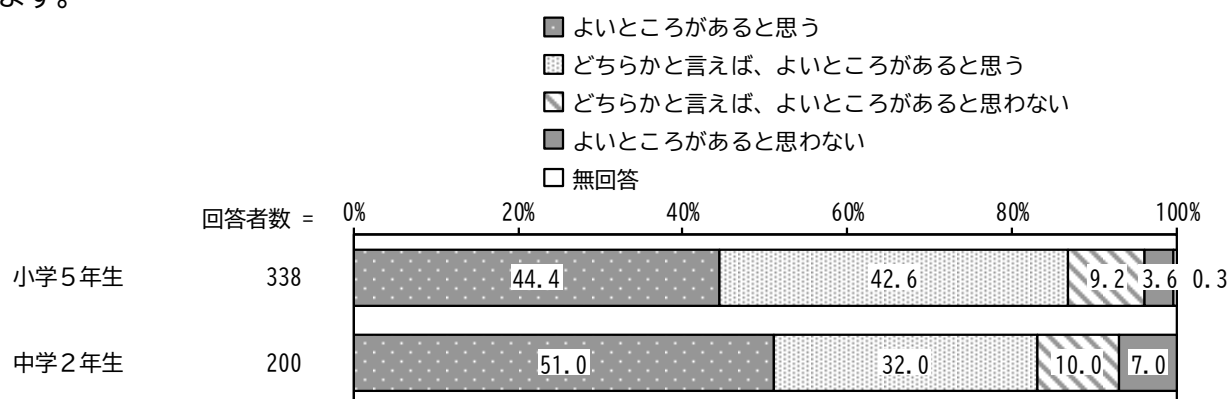
問 36 あなたは、自分にはよいところがあると思いますか。
(どんなことでもかまいません。)

「よいところがあると思う」「どちらかと言えば、よいところがあると思う」を合わせた”よいところがあると思う”の割合が85.6%、「どちらかと言えば、よいところがあると思わない」「よいところがあると思わない」を合わせた”よいところがあると思わない”の割合が14.2%となっています。



【学年別】

学年別にみると、「どちらかと言えば、よいところがあると思う」で小学5年生の方が高くなっています。

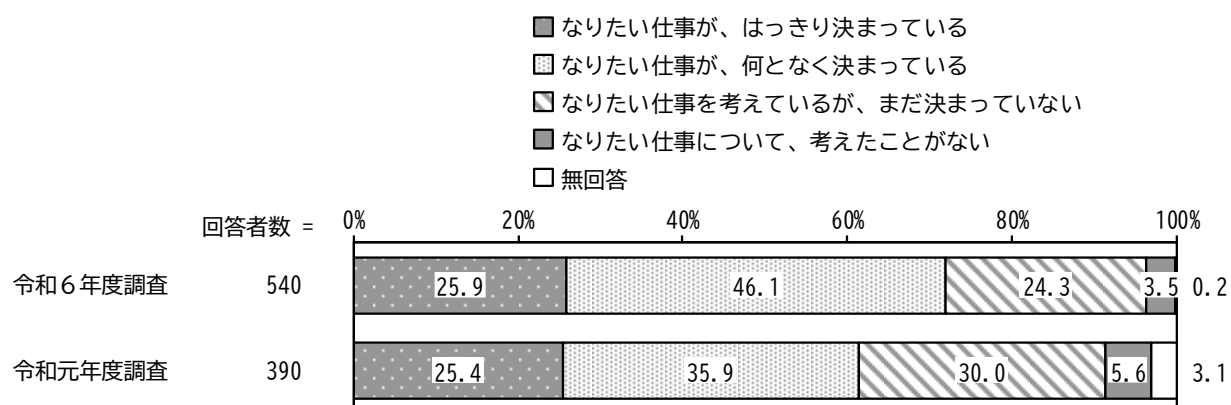


(8) 将来について

問 37 あなたには、将来なりたい仕事がありますか。

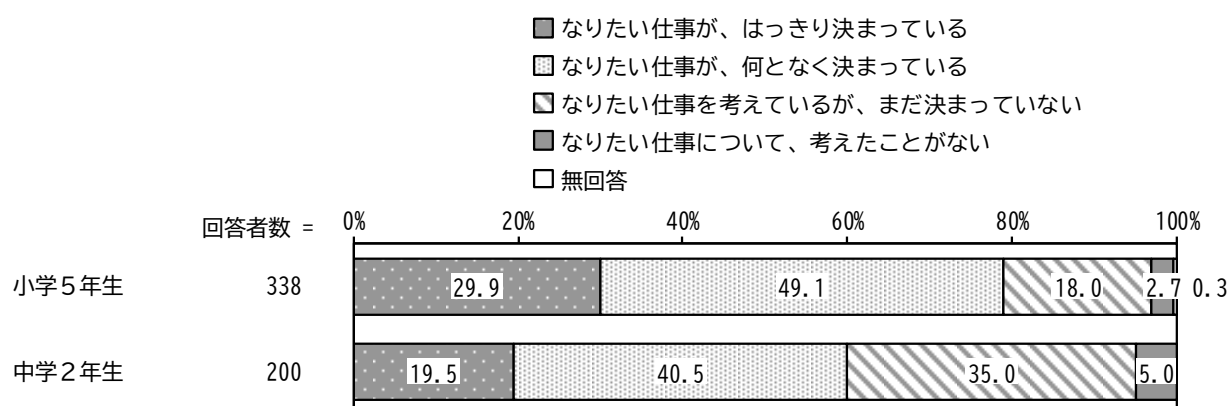
「なりたい仕事は、はっきり決まっている」「なりたい仕事は、何となく決まっている」を合わせた「決まっている」の割合が72%、「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」「なりたい仕事について、考えたことがない」を合わせた「決まっていない」の割合が27.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「なりたい仕事は、何となく決まっている」の割合が増加しています。一方、「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」の割合が減少しています。



【学年別】

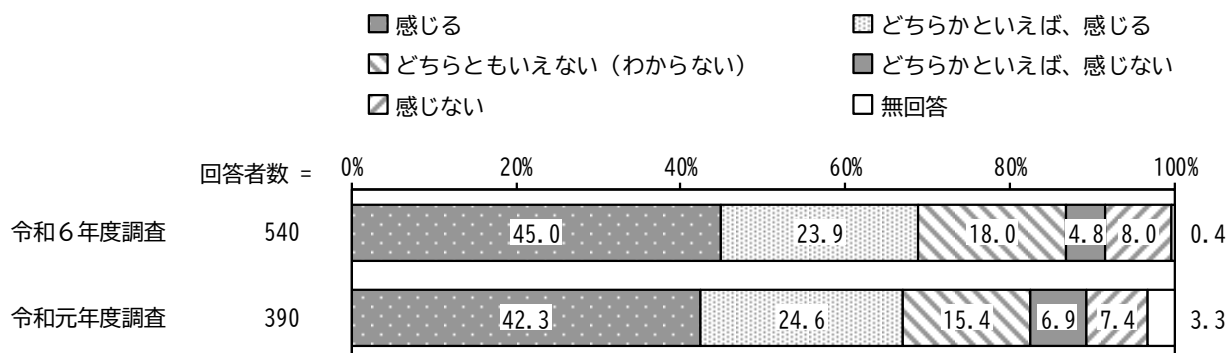
学年別にみると、「なりたい仕事は、何となく決まっている」で小学5年生の方が高く、「なりたい仕事を考えているが、まだ決まっていない」で中学2年生の方が高くなっています。



問 38 あなたは、狭山市を「ふるさと」と感じますか。

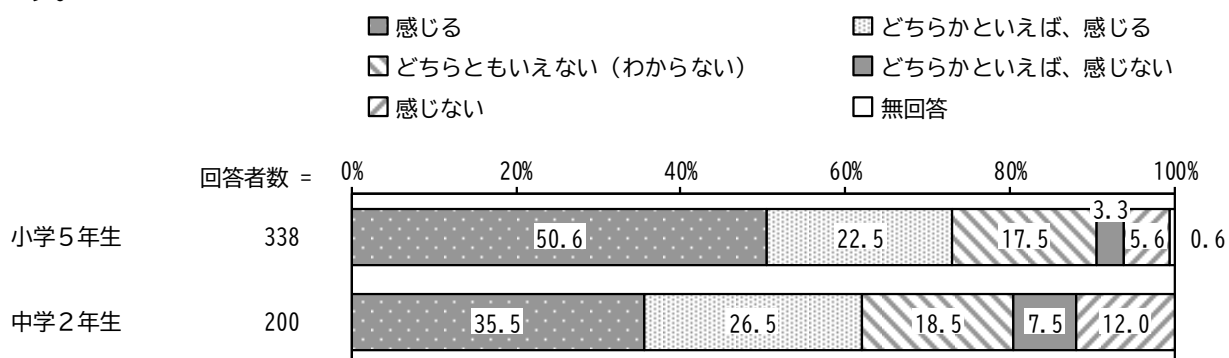
「感じる」「どちらかといえば、感じる」を合わせた”感じる”の割合が68.9%、「どちらともいえない（わからない）」の割合が18%、「どちらかといえば、感じない」「感じない」を合わせた”感じない”の割合が12.8%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【学年別】

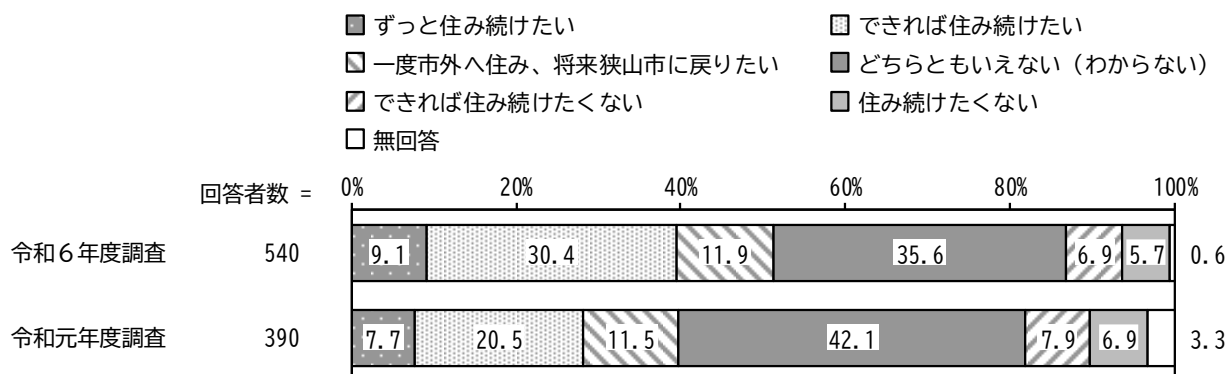
学年別にみると、「感じる」で小学5年生の方が高く、「感じない」で中学2年生の方が高くなっています。



問 39 あなたは、将来、狭山市に住み続けたいと思いますか。

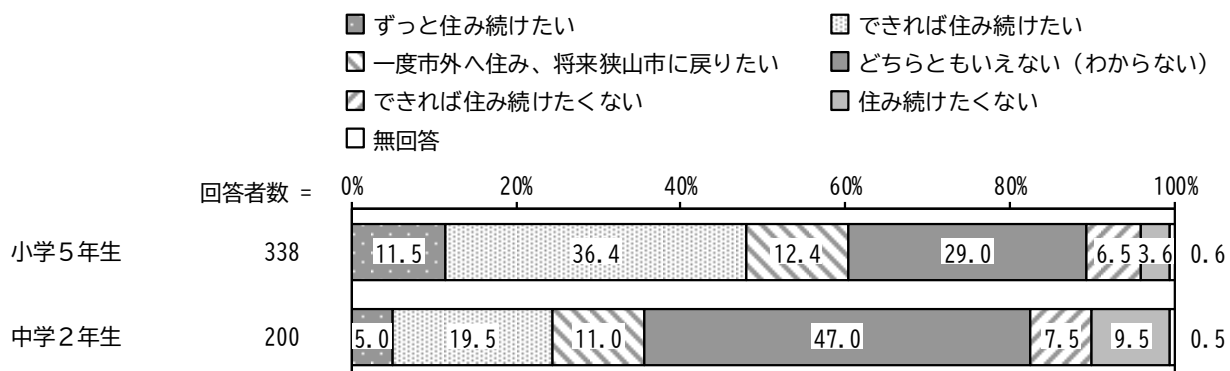
「どちらともいえない（わからない）」の割合が35.6%と最も高く、次いで「できれば住み続けたい」の割合が30.4%、「一度市外へ住み、将来狭山市に戻りたい」の割合が11.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「できれば住み続けたい」の割合が増加しています。一方、「どちらともいえない（わからない）」の割合が減少しています。



【学年別】

学年別にみると、「住み続けたくない」で中学2年生の方が高くなっています。



問 40 あなたが学校や勉強、スポーツ、狭山市について思っていることを書いてください。

学校や勉強、スポーツ、狭山市について思っていることについて、以下の意見が挙げられました。同様の意見に関しては一部抜粋して掲載しています。

1. スポーツ施設の整備（60 件）
だんぼうのたいいくかんをつくってほしい。
もう少し、し設をきれいにしてほしい。
狭山市には、稲荷山総合市民体育館などがあって、いいと思う。けど、もっと運動ができる施設等があればいい。そして、狭山市のみんなが優しいし、学校みんなも優しいところが一番いい。
陸上での大会(学総・通信・新人)で、狭山市は競技場がなく、グラウンドで予選をしているので、狭山市にも川越陸上競技場のような競技場を建ててほしい。
学校=体育館にエアコンをつけてほしい。勉強=定期テストをもう少し簡単にしてほしい。スポーツ=人工芝や天然芝の広いサッカー場をつくってほしい。
テニスコートのせいび
広くて整備がととのっているだれでも使える野球場を作ってほしい
スポーツ施設がすくない。だけどそれがいはい。
スポーツのする場所がすくないけど、ちょっとあってしかもしぜんゆたかだからいいなと思ってます。
スポーツ用品点やグラウンドが少ないから増やしてほしい
2. スポーツ施設の有効利用（14 件）
しせつをもっとつかっていきたい
サッカーができる所があってありがたいです
誰でも行けるプール施設が少ない 体育館利用時のお金が高い
学校のトイレをきれいにしてほしい 学校のテニスコートに照明をつけてほしい
貸し切りできる施設をもうちょっとだけ増やしてほしい。 そして、交番もちょっと増やして欲しい。
楽しいことが多い。もう少し運動するところを増やしてほしい。
狭山市は色々なしせつが充実していて、とてもいい市だと思います。
スポーツには色々な種類があるから、自分に合ったスポーツを見つけることができ、いいと思います。家の近くに、スポーツ施設があると、通いやすくて便利です。
ぼくは、野球をしているのですが、あまりにも練習する場所が少ないのでもう少し増やしてほしいです あとその料金は無料をお願いしたいです。そしてもっと指導できる人を増やして教えてくれるところ を作ってほしいです。そして狭山市にしかない野球専用の場所を作ってほしいです。そして狭山市はとってもいい市だと思いますが美味しい食べ物が少ないのでもっと増やしてほしいです。また安心安全な事故0を目指した市にしてほしいです。 狭山市にしかないさや抹茶プロテインなどを作ってほしいです。
もっと将来のことなどを勉強したい 狭山市にダンススクールをもっと作ってほしい
もう少し、遊べる場所やスポーツを練習できる場所を増やしてほしい。 食べ物はとても美味しい。
勉強は、将来のためにしっかりとやりたい。スポーツでは、もう少し狭山市のスポーツクラブがあったらいいと思う。
狭山市には、プールができる場所があったりするからいいなと思っています。 学校の勉強でいろいろな行事があるからいいと思います 狭山市をもっと住みやすいところになりたいと思っています。
テニスコートが16面ある智光山公園が狭山市にあるのでいいと思います。
3. スポーツ団体の活動の促進（4 件）
スポーツで私が通っているクラブチームが川越だけど狭山市でかなり有名だからうれしいです。狭山市はお茶が有名でお茶がおいしいです。

部活の時間を増やしてほしい。
スポーツのイベントをもっと増やした方が良いと思う
学校もいろんな行事があるし、狭山市は七夕祭りとか、行事はあるけど、もっと増やしてほしい。
4.誰もが気軽に楽しめるスポーツの普及（8件）
もっと勉強をし、将来に困らないようにする。スポーツは、体を動かしけんこうでいたい。狭山市は、自然が多いが、ゴミもすてる人がいるので、ゴミを見つけたら、手もちのふくろにゴミを入れて、ゴミを少なくしてほしい。
部活をなくして自分の好きなようにたくさんのスポーツをやる日を作ってほしい。
サッカーが楽しい
バスケが出来る外のコートをもっと増やして欲しい。 テストの点などに授業のレベルを変えてほしい。（教室を分けて） 運動していない人が不利になるような体育などを廃止してほしい。 公園での球技禁止もやめてほしい。
学校はあまり好きではないけれど、友達や優しい先生がいるので、快適な場所だと思う。スポーツは習ったりしたくはないけど、遊びとしてやっていきたいと思う。
学校のクラス分けを学力別にできるならその方がいい 狭山市の行事にはなるべく参加しているけれど、子供向けのイベントもたくさんあって、いいなと思う 自分はスポーツが苦手だけど、運動不足解消や体力づくりのために、適度に体を動かしたいと思っている 家での勉強時間が短すぎると感じている テレビで見た、「夏休みの宿題を0」だと嬉しい
狭山市は、勉強もスポーツも楽しくできるからいいと思っている。地域の人も優しくて、あいさつを交わしやすい。 やっぱり自分の居場所もあるということが、故郷という感じで好き。
狭山市は、静かに勉強できるのでよく集中出来ている。 スポーツは、いろんな人が教えてくれるのでとても楽しいです。
5. スポーツ全般（24件）
狭山市にはひとりがいっぱいキレイ。サッカーもわかりやすいぐらいキレイな市。
狭山市はゆたかで、スポーツもいろいろな場所でできて楽しい。
これからも楽しく勉強やスポーツなどをしていきたいと思っている。
狭山市は、スポーツする場所や勉強できる所がたくさんあるので、うれしい。でも、習い事でいそがしいので、ほとんどいけてないので、とても残念。
勉強は最近楽しいと思えるようになってきて、スポーツはもっと色々なことに挑戦したいと思っています、狭山市は良い所だなと思っています。
野球やプールもとても自分に合っているスポーツだと思うあと狭山市はほんとうに「ふるさと」と感じていますこれからも住み続けたいです。
学校はめんどくさいけどスポーツは楽しいと思っている
学校は友達がいって楽しいし、スポーツは、好きなことがうまくなれて運動不足じゃなくなるしにより楽しい。狭山市は思い出がいっぱいつまってる、自分の心に残るすばらしいところだと思う。
学校、勉強は楽しいものだと思っている。また、勉強をすれば知識がふえ、学校に通えば、人との交流がふえると思う。スポーツは、大変だと思う。スペースも必要だし、体をほぐすから。だが、体や健康のためになると思う。狭山市は、はんざいも少ないし、みんなおだやかだと私は感じるのでもいい市だと思う。
学校は友達がたくさんいて話す人がいるから楽しく、スポーツは気分がよくなります。狭山市は色々な人がいてにぎやかでたくさんの人達が協力している良い市だなと思っています。
学校や勉強やスポーツのある狭山市は最高です。
狭山市は自然につつまれていてお茶もおいしいしさいがいすくないからとてもくらしやすい市で学校の先生、スポーツもできているので狭山市はいろいろなことに協力してくれます、
勉強や新しいスポーツにもチャレンジしてみたい。
スポーツは人の心を動かしてくれると思っています。
学校ではよく学べる場だと思っています。勉強もまあまあわかったりもするし、スポーツもよくできていて狭山市はいいと思います。
狭山市のいろいろなスポーツのプロの人たちを作ってほしい

勉強については将来いい会社に入りたい。スポーツはもう少し積極的にやりたい。狭山市についてはあまり不自由と思っていることがない。
学校や勉強に関しては、学校みんなの仲がいいし、いつまでもこのクラスでいていたいくらい好きです。でも、勉強はあまり得意ではないものと得意なものがあるので、その教科ごとに少人数レッスンなどを作ってくれとありがたいと思います。スポーツは、男女関係なく入れるチームを作ってくれたり、女子だけのチームなどを作ってほしいです。狭山市は、いろいろな交流も多いけれど、いつも同じ感じになっているので、少し内容を変えたり、まったく別のことをしてみたいです。
スポーツは、グラウンドがあっていいと思います。勉強は、ちょいむずくていいレベルだと思います。学校は、楽しいです。
サッカーは楽しい
やきゅうは楽しい
学校は、友達がたくさんいて、すごく楽しいです。 ならっている柔道は、友達と一緒にやるのが楽しいです。
狭山市はスポーツが充実しているし、ほかの人たちと交流する場所が多くていい市だなと思っています
スポーツ 健康や体づくり楽しみなど楽しいスポーツがたくさんあるので将来もやり続けたいと思っている いつもやっている野球以外にもサッカーやバスケットボールなどいろいろなスポーツに取り組みいろいろな動きを覚えたい。 勉強 現在は計算や漢字などやっているが将来のお金のことなどについても学んでみたい。
6. 青少年の競技スポーツの普及（3件）
他校の人達皆な、テニスが上手ですごいなと、思います。大会とかは、皆強いから、とても楽しいです。
ぼくは、サッカーがもっとうまくなりたいし、いろいろな人に教えてほしいです。
サッカーの走りがたをれるぐらいつらい
7. アンケートについて（1件）
子どもむけにアンケートをだすなら、大人じゃないのでよみがなをふってほしいとわたしは思いました
8. 子供のスポーツの振興と学校体育の充実（24件）
もうちょっとスポーツをする時間を学校でつくってほしいです。
体育の授業で合気道をやってみてはどうか。けがをしないやわらかい体の使い方が学べて良いと思う。学校の授業などで、もっとPCを使ってほしい。将来ほぼ必ず使うと思うので、よりくわしく知りたい。
狭山市は学校の勉強やスポーツをやっているけど狭山市のスポーツや勉強が楽しいです。
学校の学習は苦手な人に合わせているからつまらない時がある。 体育館にエアコンみたいのをつけてほしい。
狭山市はスポーツがほかの市より怠っているから、体力をつける授業やいろんなスポーツにもっと触れさせてほしい。
狭山市の中学校の体育館に冷房をつけてほしい 夏の練習が毎年へってしまっているため。
狭山市の学校の柔道部を増やしてほしい。
狭山市に硬式の野球チームを作してほしい
学校でもっと体育の時間を増やしてほしいです。 6年生だけでなく5年生から日本の歴史について学びたいです。
勉強をもっと練習問題に取り組んでみたいと思いました。
スポーツをもっと充実させてほしい バスケットは小学5・6年生からしかやらないから、もっと取り入れてバスケットの楽しさを伝えたい。 狭山市は、狭山茶の生産額が3位だから、1位になってほしい 習い事の費用が高すぎるかも…しれないです
学校で話を聞いて怒ってくれるのはうれしいですが、こちらの話をお聞きしないで怒られるのは嫌です、あと休み時間少しでいいので伸ばしてほしいです スポーツはeスポーツやりたいです、eスポーツ科目のものとかやりたいですね、 狭山市は最高ですよ！今月にファミチキ出るって聞いてうれしいです！ さやまっちゃプリンはおいしいし、狭山茶もおいしいし、うれしいですよー！ できれば頻度増やしてくれると嬉しいです！ それではこれで

体育を増やしてほしい
社会と体育を増やしてほしい。
勉強（授業）では 手を挙げていないのに当てないで、説明をしてほしいです。 学校についてはもっと運動会のようなイベントを開催してほしいです。
学校の体育は楽しい
部活の時間をもっと増やしてほしい。アラートの制度をなくしてほしい。室内練習場を設置してほしい
部活の時間が少ない。
小中学校の体育館に冷房も暖房もできるエアコンをつけてほしい。 冷風機は使い勝手悪いからやめてほしい
学校は理不尽を学ぶ場所 スポーツは体育の授業でなるべく多くの種類のスポーツをできるようにしたい。たのしい 狭山市は自然が豊か 空気が新鮮でおいしい 遊ぶ場所がない
体育館にエアコンをつけてほしい
部活がもっとしたい
学校では友人関係がうまくいっていいと思う。部活動ではサッカーが好きなので、たくさん出来てうれしいです。狭山市はのどかで過ごしやす感じた。
野球でコーチや保護者に支えられながら頑張っています。

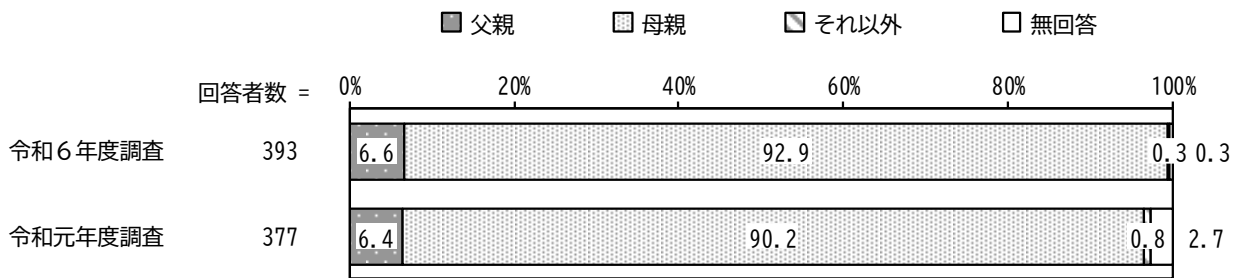
3 保護者

(1) あなたについて

問1 あなたと、調査用紙を持ち帰ったお子さんとの関係を教えてください。

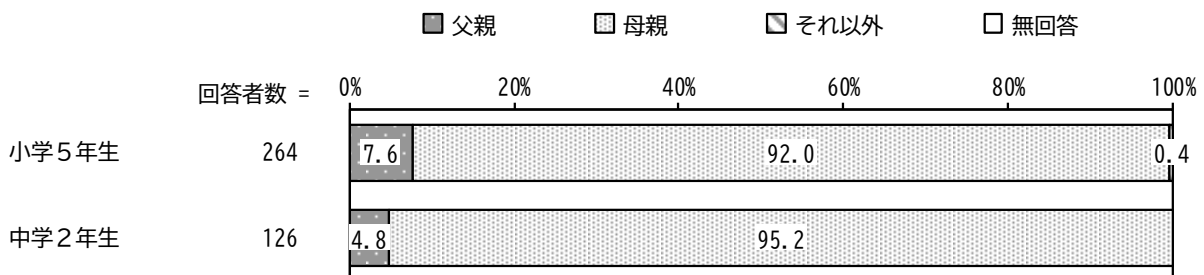
「父親」の割合が6.6%、「母親」の割合が92.9%、「それ以外」の割合が0.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【子どもの学年別】

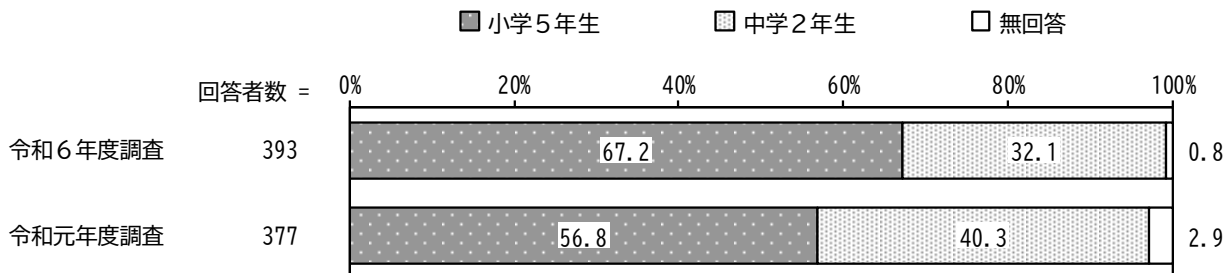
子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



問2 調査用紙を持ち帰ったお子さんの学年を教えてください。

「小学5年生」の割合が67.2%、「中学2年生」の割合が32.1%となっています。

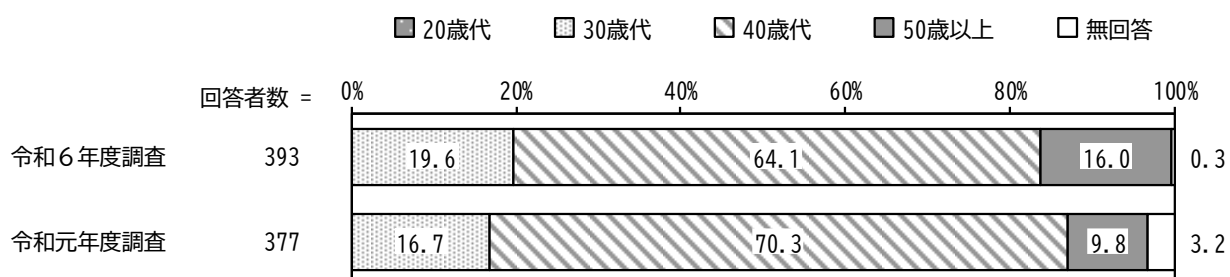
令和元年度調査と比較すると、「小学5年生」の割合が増加しています。一方、「中学2年生」の割合が減少しています。



問3 あなたの年齢を教えてください。

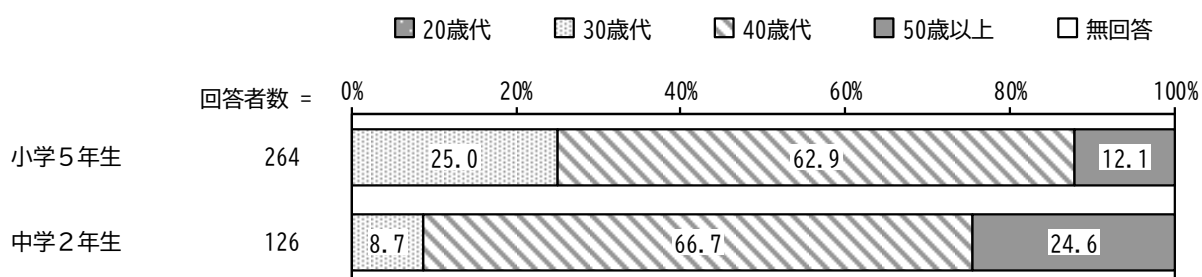
「40歳代」の割合が64.1%と最も高く、次いで「30歳代」の割合が19.6%、「50歳以上」の割合が16.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「50歳以上」の割合が増加しています。一方、「40歳代」の割合が減少しています。



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「30歳代」で小学5年生の方が高く、「50歳以上」で中学2年生の方が高くなっています。

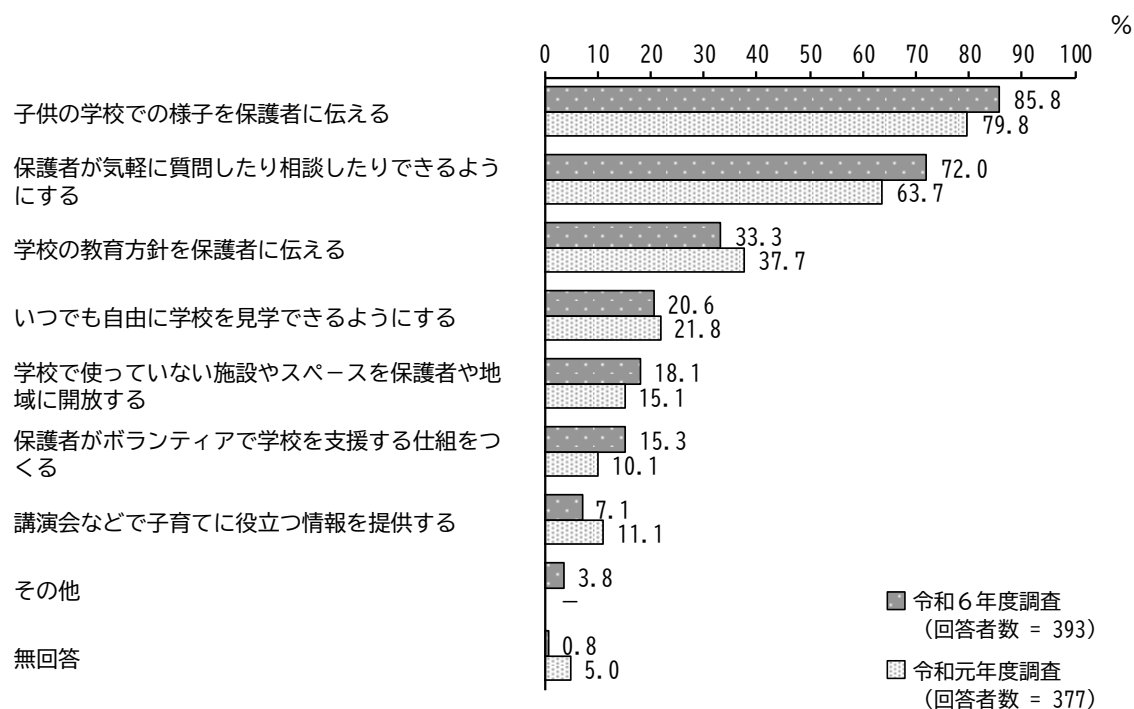


(2) 学校とのかかわりについて

問4 あなたはお子さんが通われている学校に、どのようなことを望みますか。
(あてはまるものすべてに○)

「子供の学校での様子を保護者に伝える」の割合が85.8%と最も高く、次いで「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」の割合が72.0%、「学校の教育方針を保護者に伝える」の割合が33.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「子供の学校での様子を保護者に伝える」「保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする」「保護者がボランティアで学校を支援する仕組みをつくる」の割合が増加しています。



※前回調査では「その他」はありませんでした。

【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「いつでも自由に学校を見学できるようにする」で小学5年生の方が高くなっています。

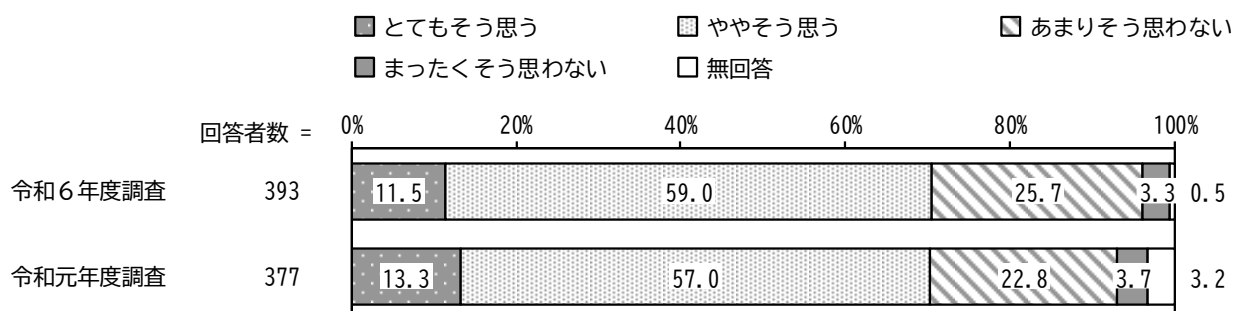
単位：％

区分	回答者数 (件)	学校の教育方針を保護者に伝える	子供の学校での様子を保護者に伝える	講演会などで子育てに役立つ情報を提供する	いつでも自由に学校を見学できるようにする	学校で使っていない施設やスペースを保護者や地域に開放する	保護者が気軽に質問したり相談したりできるようにする	保護者がボランティアで学校を支援する仕組みをつくる	その他	無回答
全 体	393	33.3	85.8	7.1	20.6	18.1	72.0	15.3	3.8	0.8
小学5年生	264	32.2	86.7	6.4	24.2	19.3	72.0	14.0	4.5	0.8
中学2年生	126	35.7	84.1	8.7	13.5	15.9	72.2	17.5	2.4	—

問5 あなたは、もっと学校の活動に参加したり、先生に協力したりしたいと思いますか。

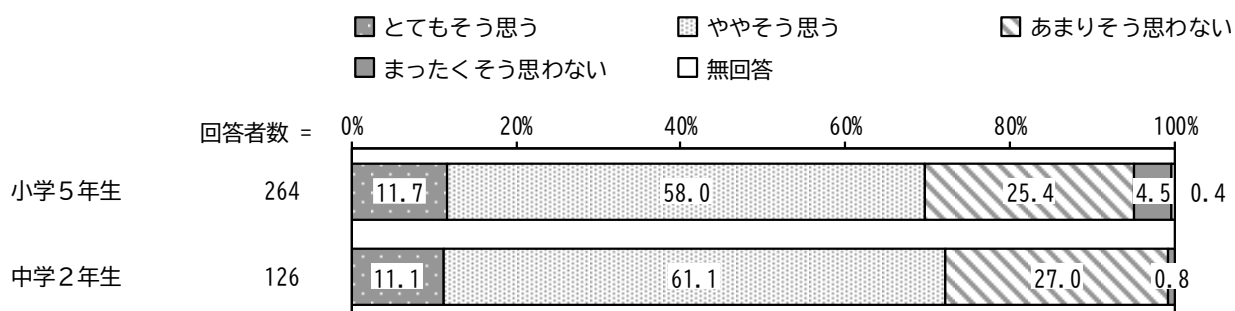
「とてもそう思う」「ややそう思う」を合わせた「そう思う」の割合が70.5%、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」を合わせた「そう思わない」の割合が29%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



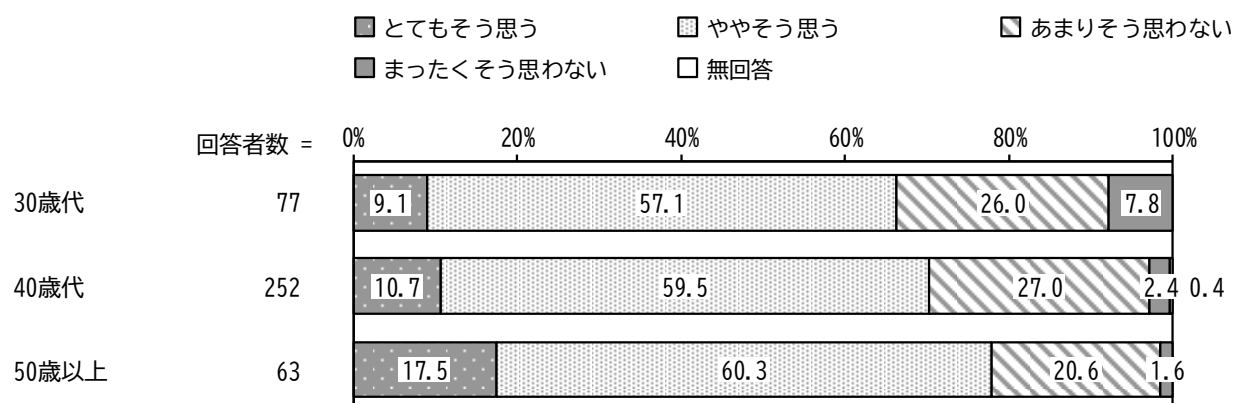
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



【年齢別】

年齢別にみると、「あまりそう思わない」について20歳代で低くなっています。

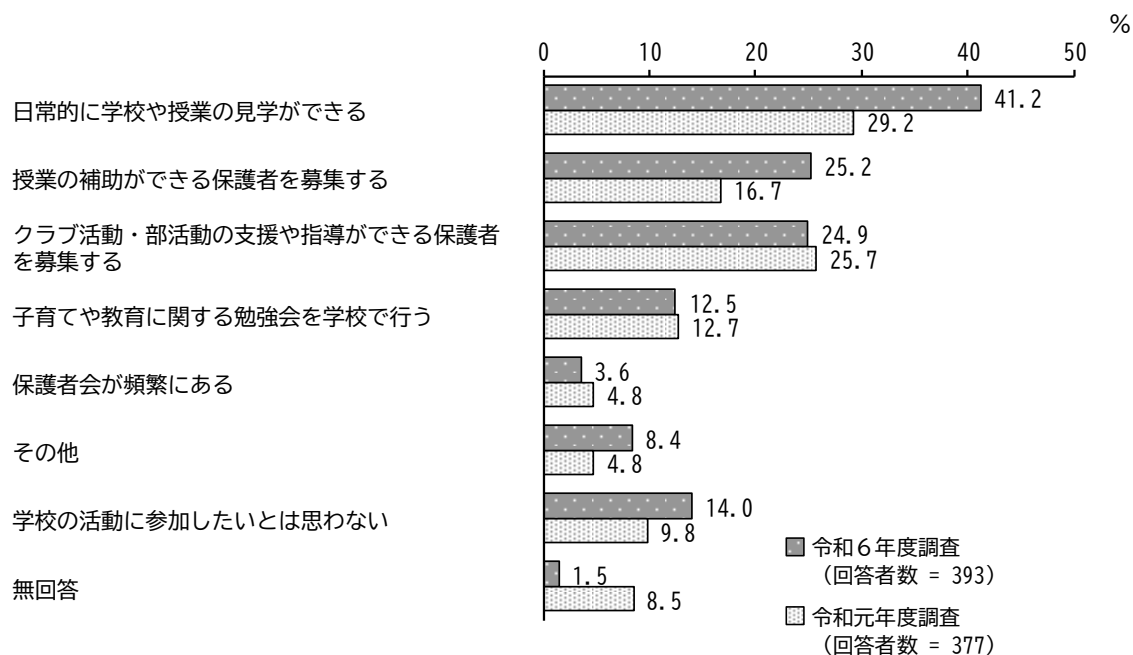


※「20歳代」の回答者数が0件のため省略しています。

問6 どのような方法であれば、あなたはより一層学校の活動に参加できますか。
(あてはまるものすべてに○)

「日常的に学校や授業の見学ができる」の割合が41.2%と最も高く、次いで「授業の補助ができる保護者を募集する」の割合が25.2%、「クラブ活動・部活動の支援や指導ができる保護者を募集する」の割合が24.9%となっています。また、「学校の活動に参加したいとは思わない」の割合が14.0%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「日常的に学校や授業の見学ができる」「授業の補助ができる保護者を募集する」の割合が増加しています。



【子どもの学年別】

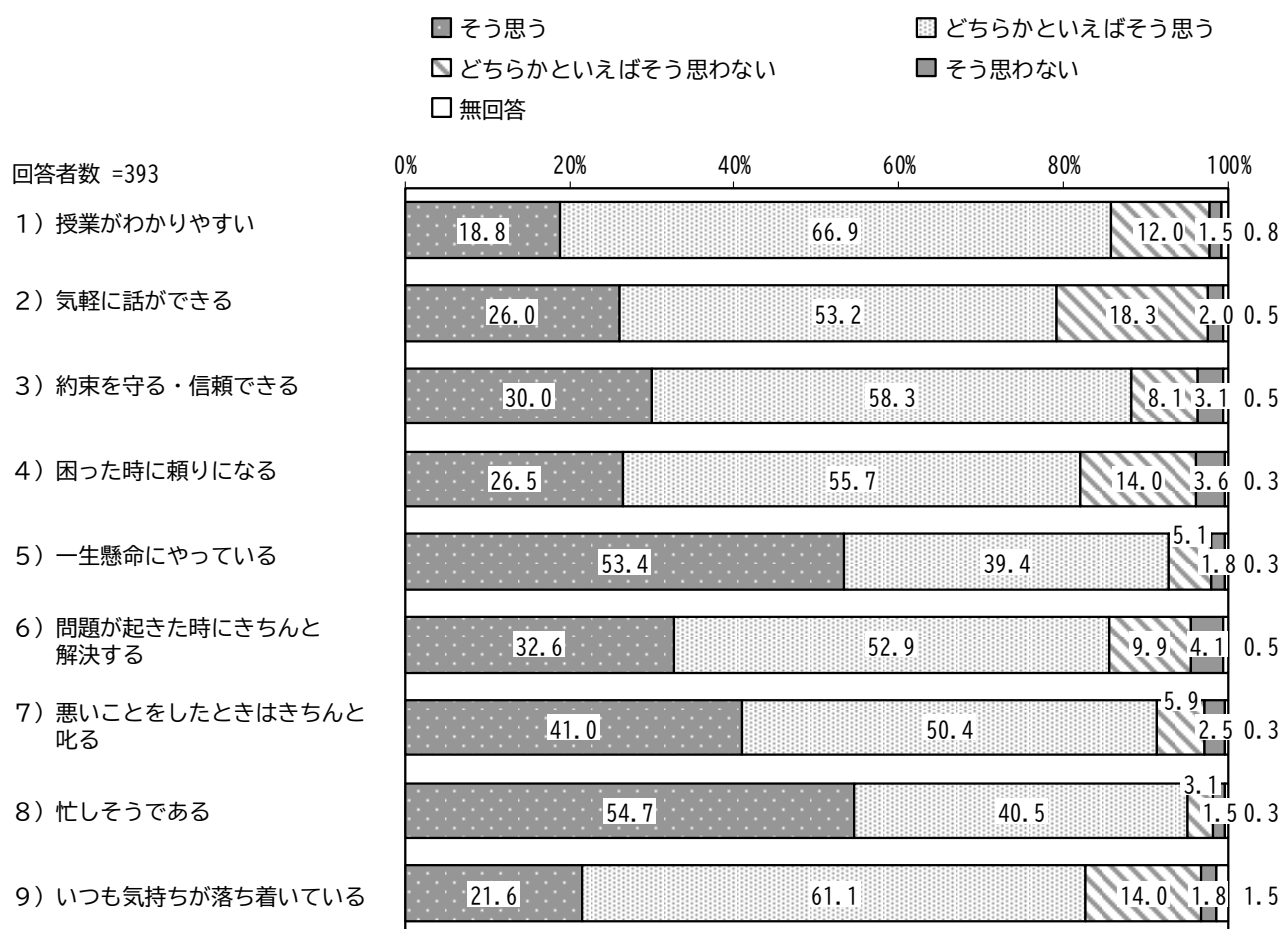
子どもの学年別にみると、「日常的に学校や授業の見学ができる」、「授業の補助ができる保護者を募集する」で小学5年生の方が高く、「クラブ活動・部活動の支援や指導ができる保護者を募集する」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数 (件)	日常的に学校や授業の見学ができる	保護者会が頻繁にある	子育てや教育に関する勉強会を学校で行う	授業の補助ができる保護者を募集する	クラブ活動・部活動の支援や指導ができる保護者を募集する	その他	学校の活動に参加したいとは思わない	無回答
全 体	393	41.2	3.6	12.5	25.2	24.9	8.4	14.0	1.5
小学5年生	264	46.6	3.8	10.2	26.9	21.2	8.3	13.6	1.9
中学2年生	126	29.4	3.2	17.5	21.4	32.5	8.7	15.1	—

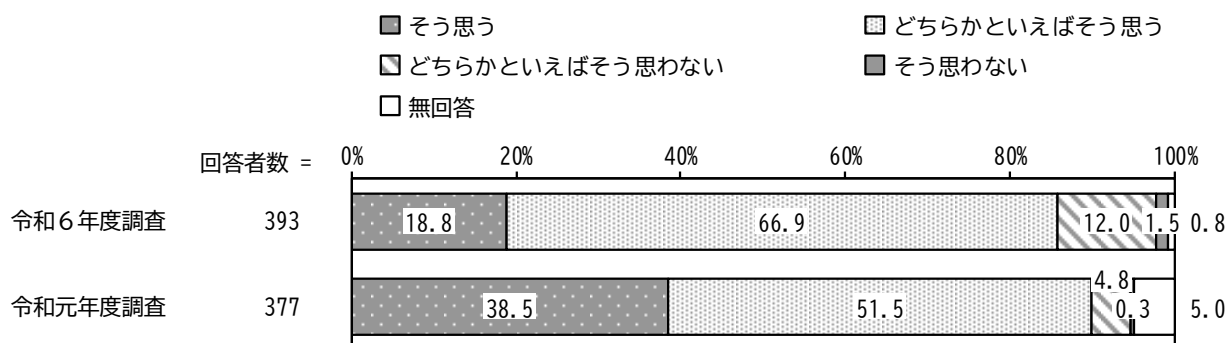
問7 あなたは、学校の先生について、どう思いますか。(それぞれにひとつずつ○)

『8) 忙しそうである』で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた”そう思う”の割合が、『4) 気軽に話ができる』で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を合わせた”そう思わない”の割合が高くなっています。



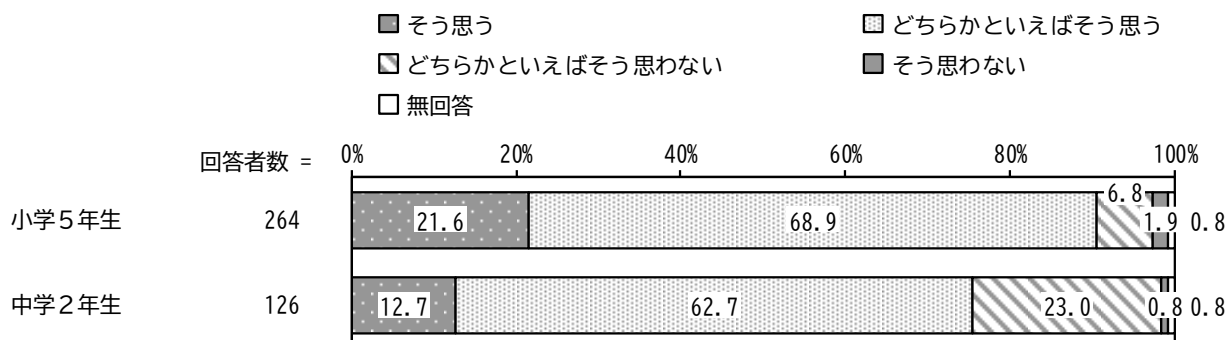
1) 授業がわかりやすい

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



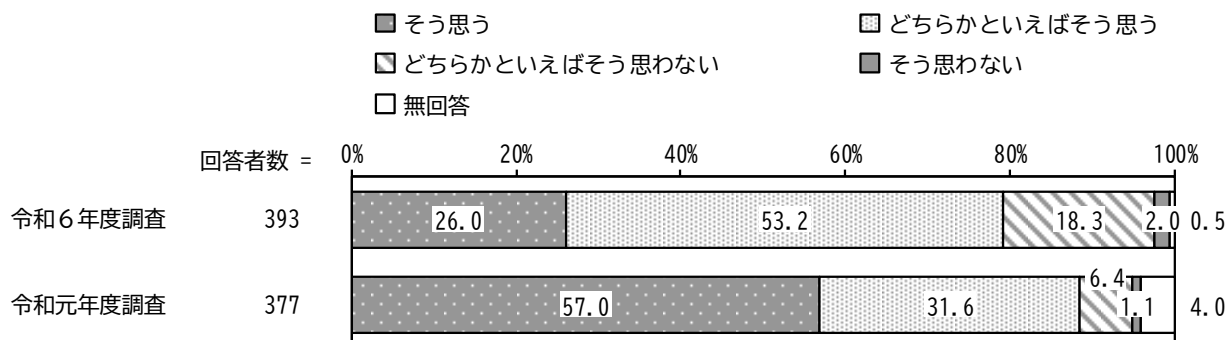
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「どちらかといえばそう思う」で小学5年生の方が高く、「どちらかといえばそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



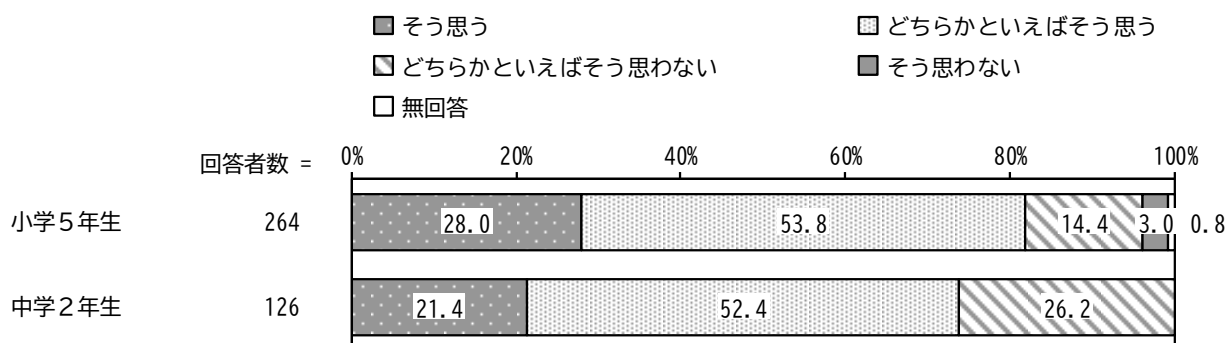
2) 気軽に話ができる

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



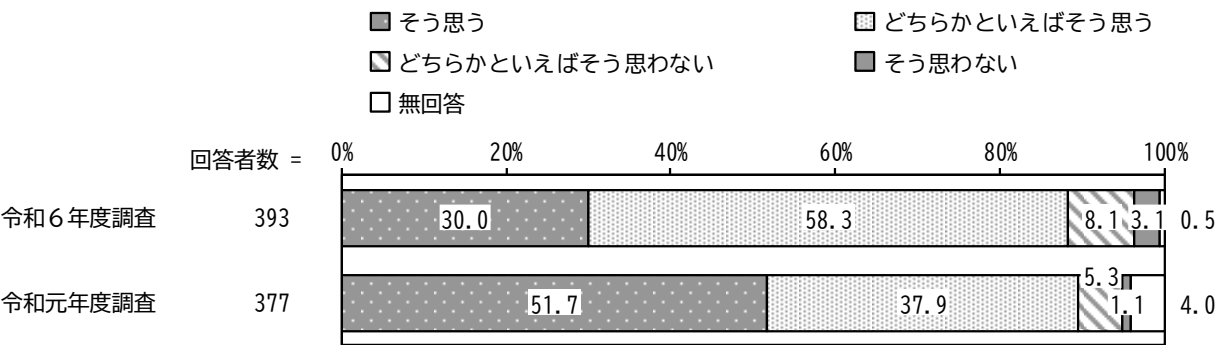
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「どちらかといえばそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



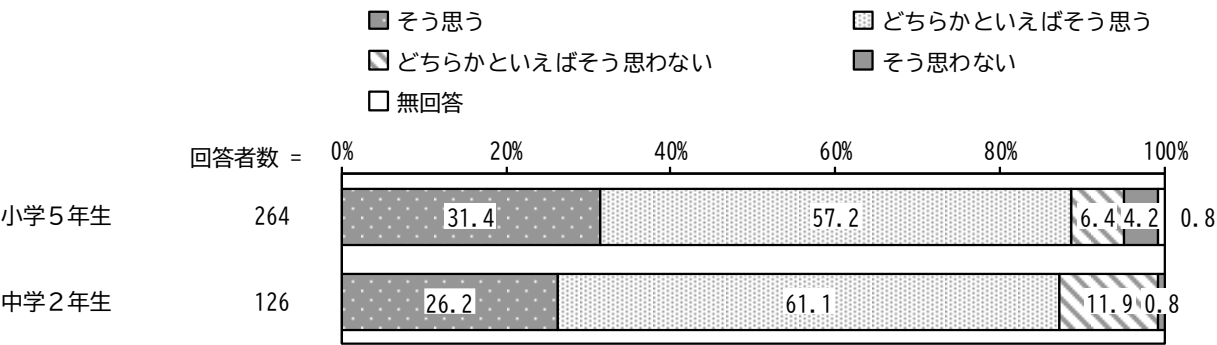
3) 約束を守る・信頼できる

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



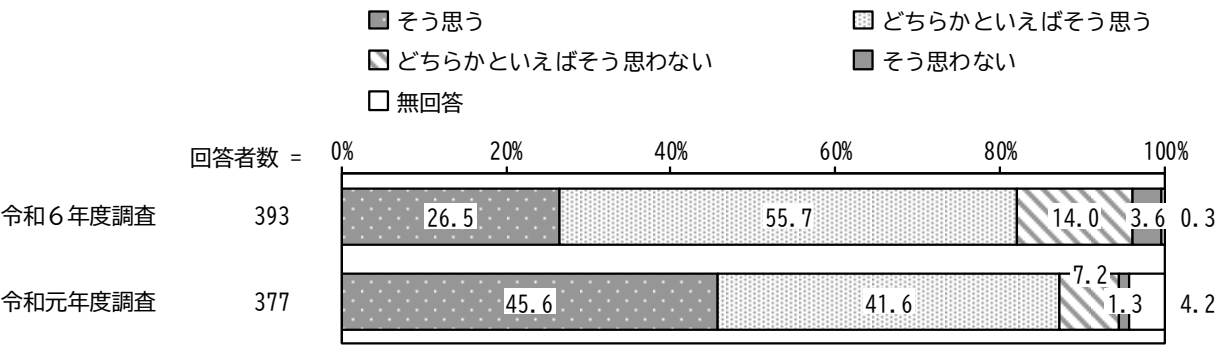
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「どちらかといえばそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。



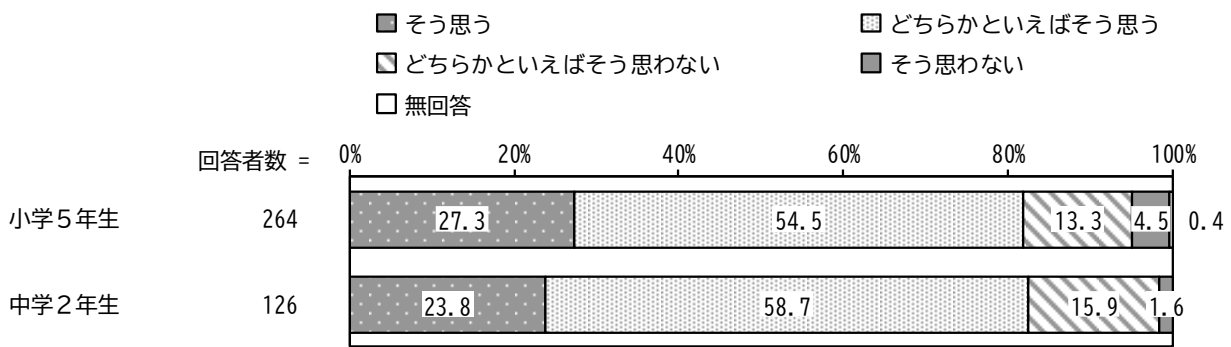
4) 困った時に頼りになる

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



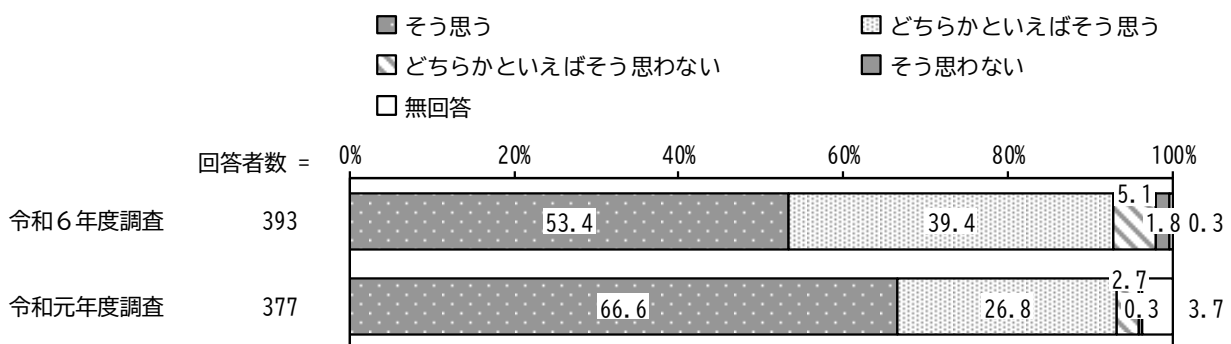
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



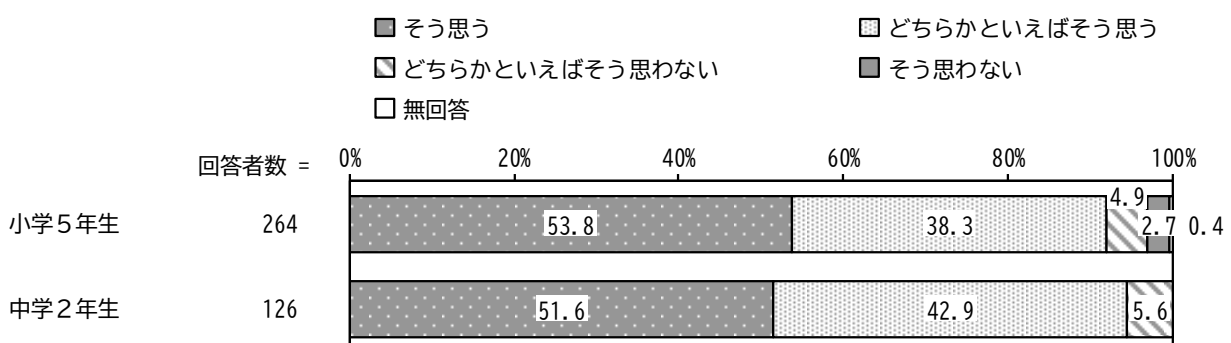
5) 一生懸命にやっている

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



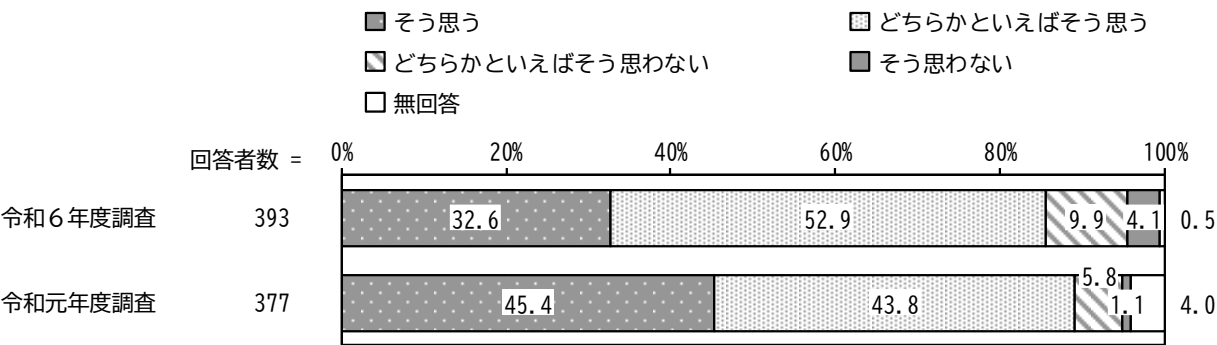
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



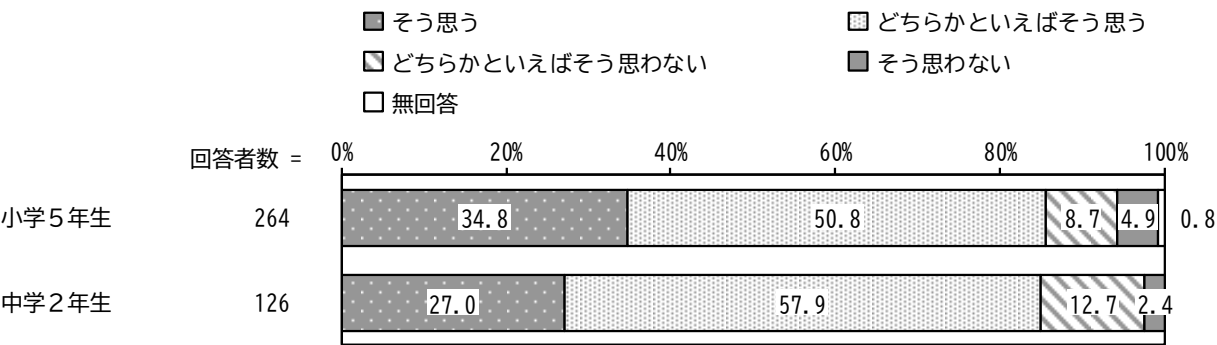
6) 問題が起きた時にきちんと解決する

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



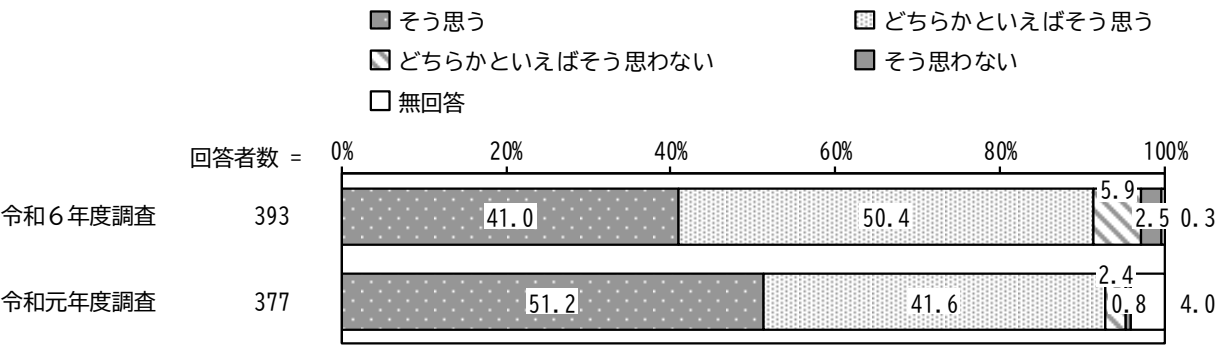
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高く、「どちらかといえばそう思う」で中学2年生の方が高くなっています。



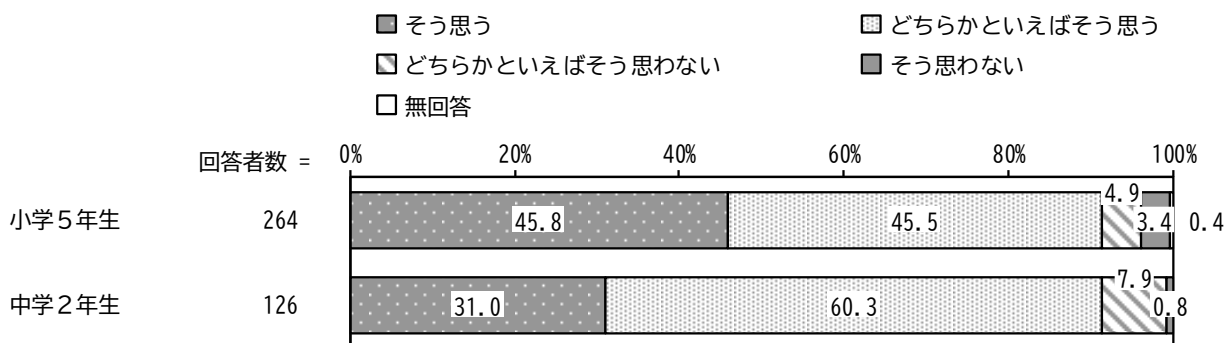
7) 悪いことをしたときはきちんと叱る

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



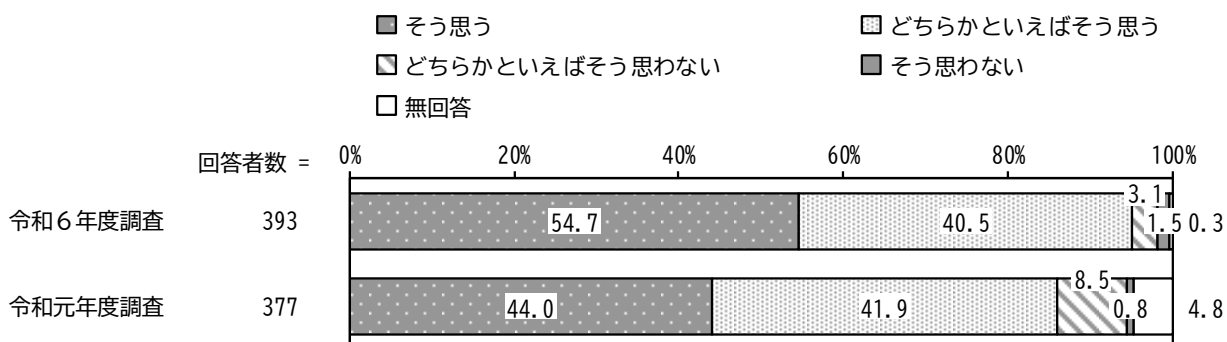
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「そう思う」で小学5年生の方が高く、「どちらかといえばそう思う」で中学2年生の方が高くなっています。



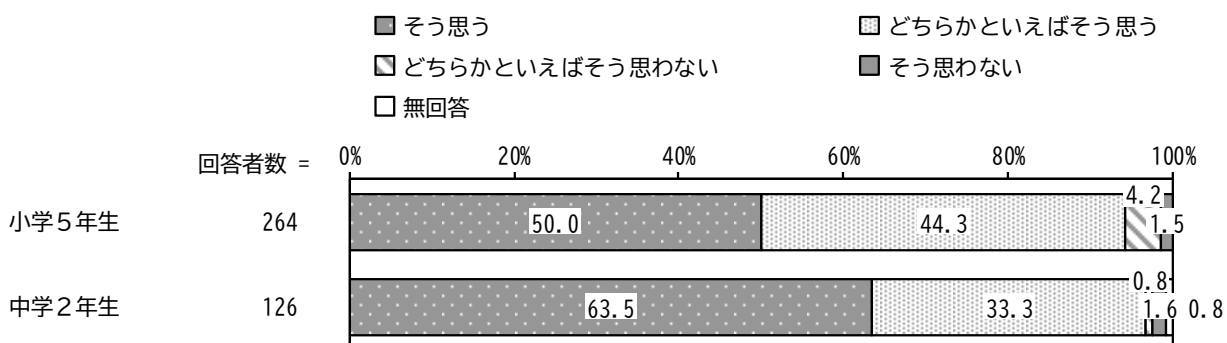
8) 忙しいそうである

令和元年度調査と比較すると、「そう思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかといえばそう思わない」の割合が減少しています。



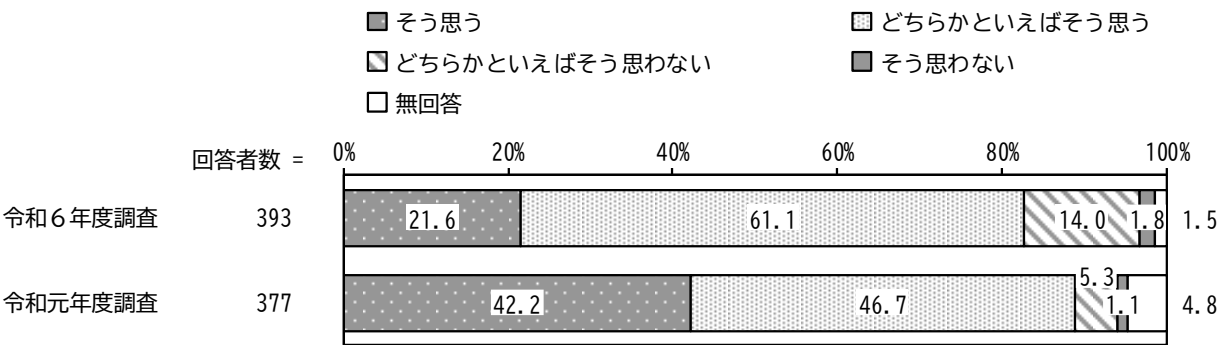
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「どちらかといえばそう思う」で小学5年生の方が高くなっています。



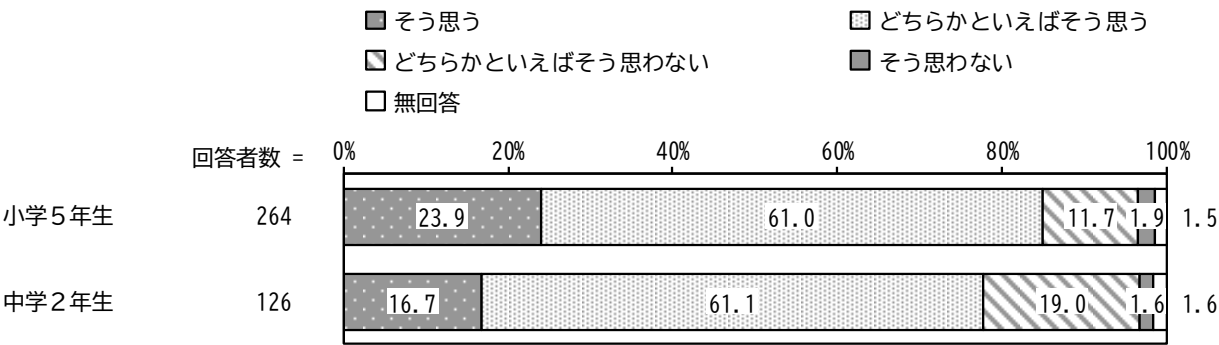
9) いつも気持ちが落ち着いている

令和元年度調査と比較すると、「どちらかといえばそう思う」「どちらかといえばそう思わない」の割合が増加しています。一方、「そう思う」の割合が減少しています。



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「どちらかといえばそう思わない」で中学2年生の方が高くなっています。

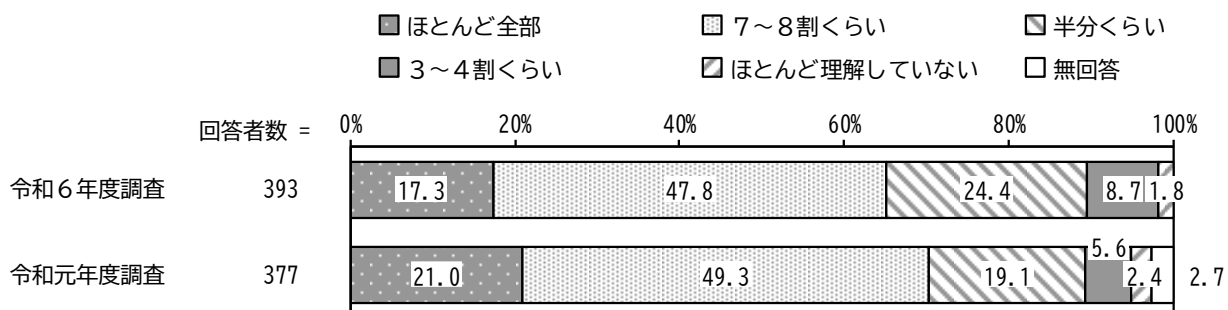


(3) 学校教育について

問8 お子さんは学校の授業をどのくらい理解していますか。

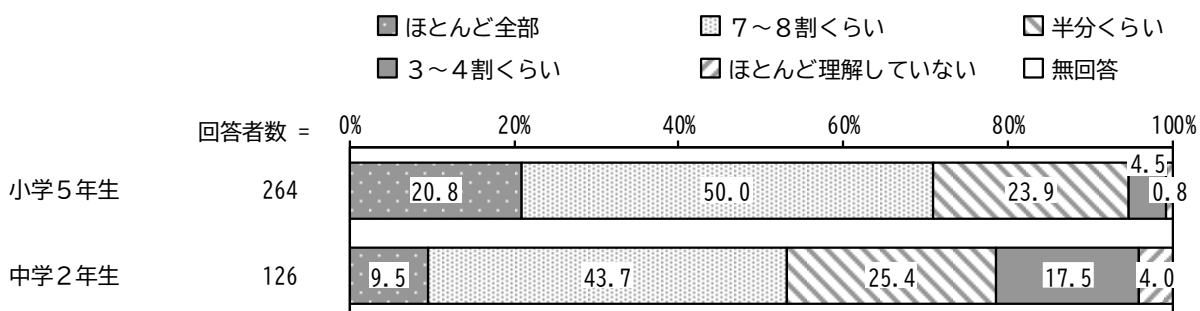
「7～8割くらい」の割合が47.8%と最も高く、次いで「半分くらい」の割合が24.4%、「ほとんど全部」の割合が17.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「半分くらい」の割合が増加しています。



【子どもの学年別】

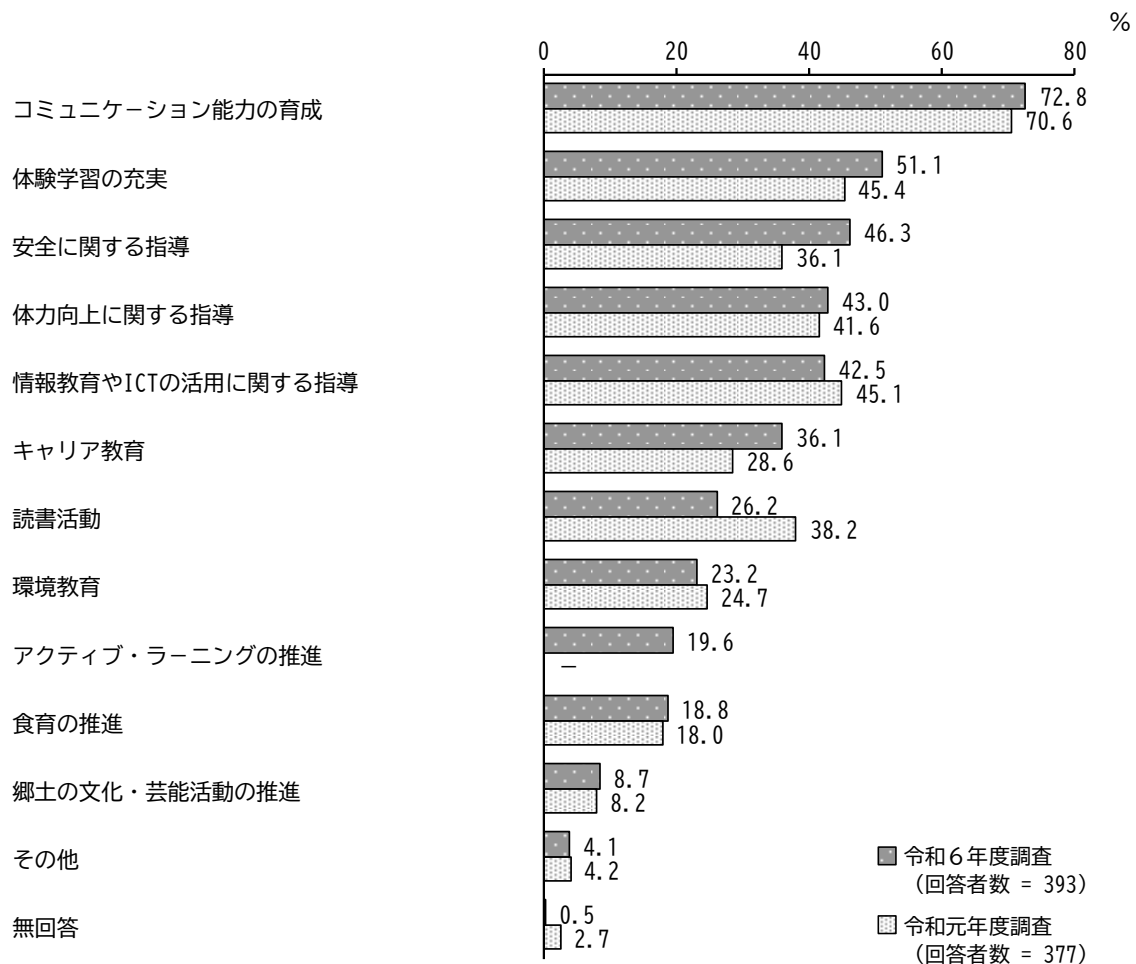
子どもの学年別にみると、「7～8割くらい」で小学5年生の方が高く、「3～4割くらい」で中学2年生の方が高くなっています。



問9 各教科の学習活動以外に、今後特に重点的に取り組むべきものは何だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「コミュニケーション能力の育成」の割合が72.8%と最も高く、次いで「体験学習の充実」の割合が51.1%、「安全に関する指導」の割合が46.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「キャリア教育」「安全に関する指導」「体験学習の充実」の割合が増加しています。一方、「読書活動」の割合が減少しています。



※前回調査では、「アクティブ・ラーニングの推進」はありませんでした。

【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「読書活動」、「体力向上に関する指導」で小学5年生の方が高く、「アクティブ・ラーニングの推進」で中学2年生の方が高くなっています。

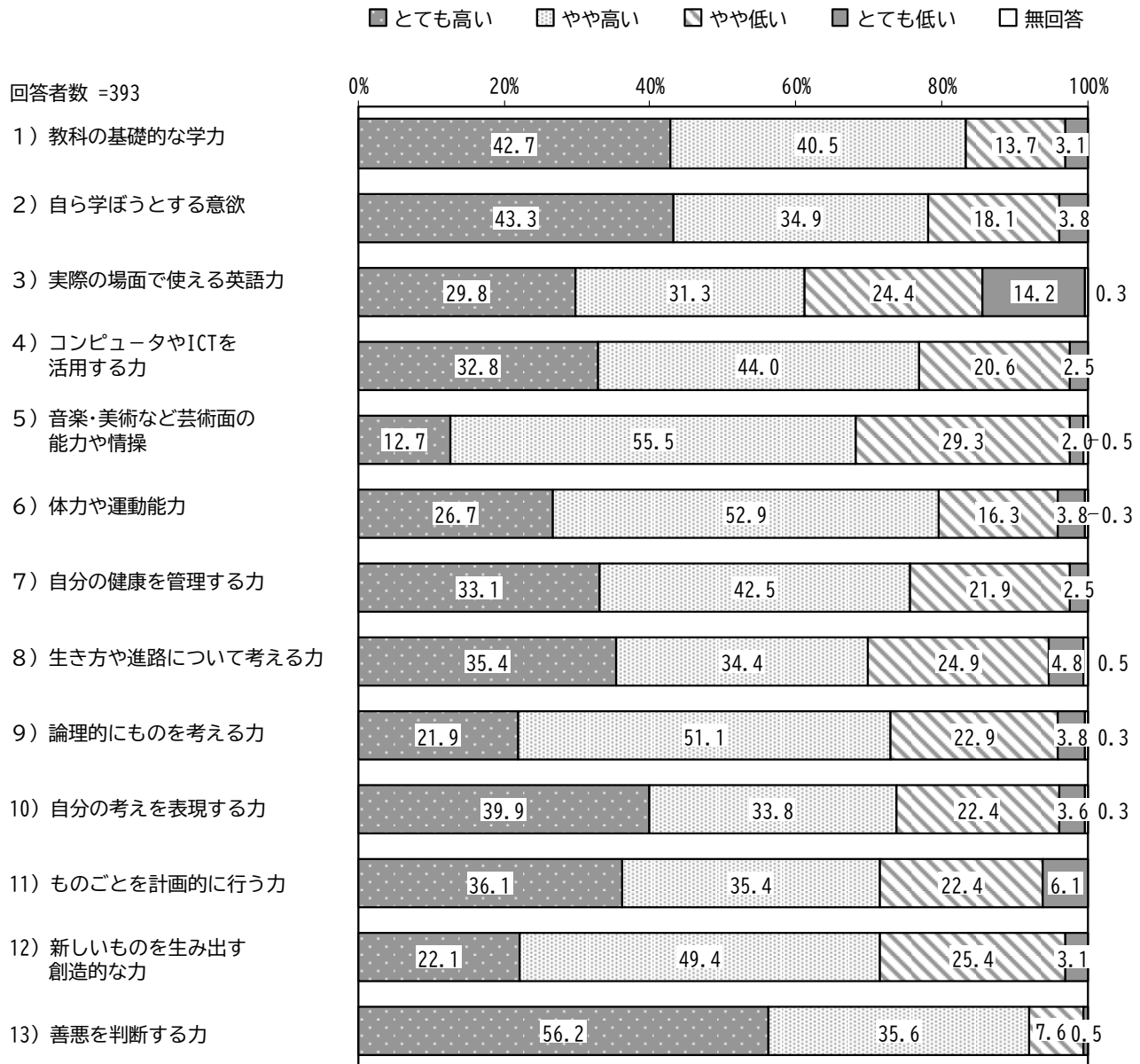
単位：％

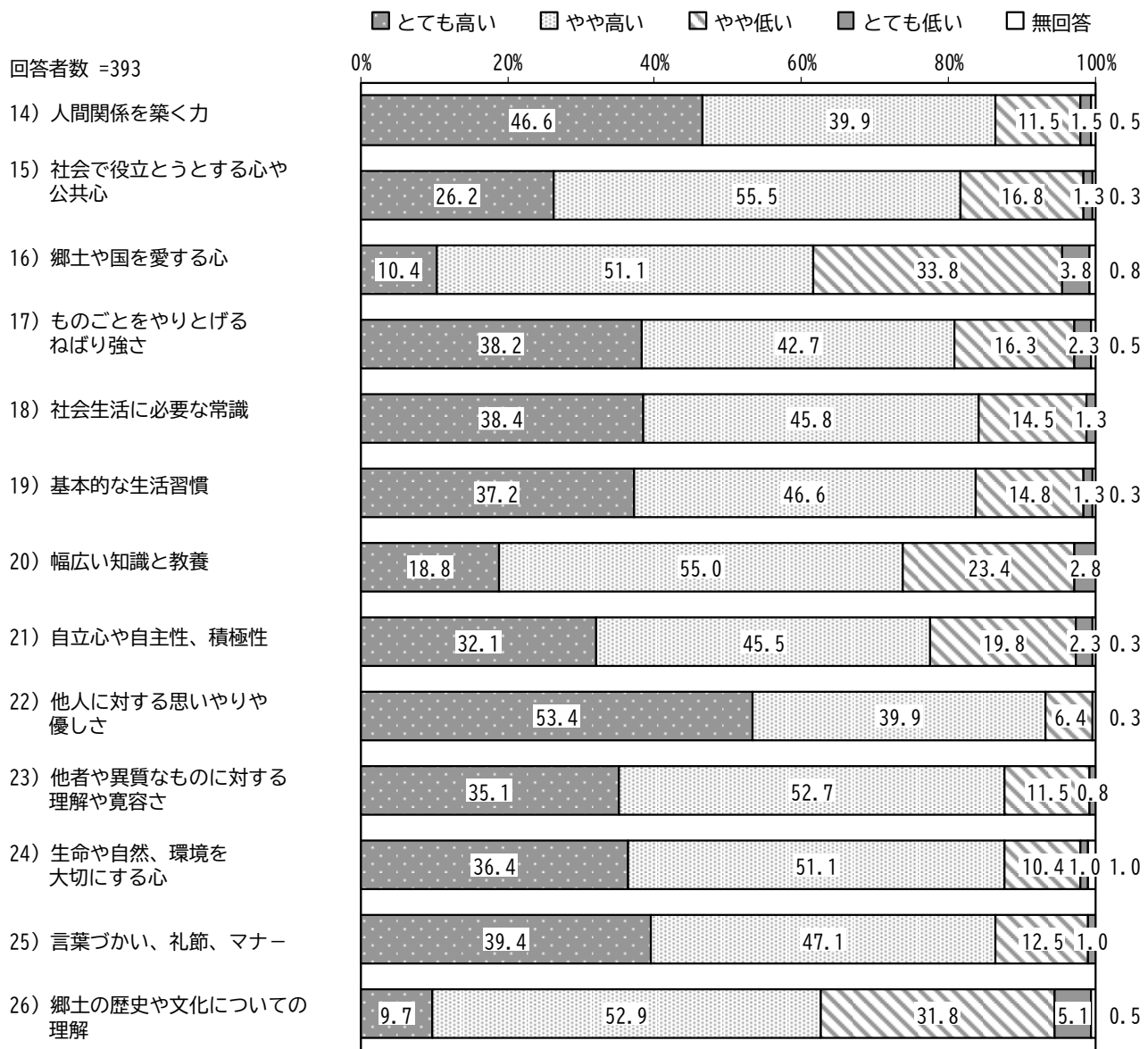
区分	回答者数 (件)	環境教育	キャリア教育	食育の推進	安全に関する指導	読書活動	体力向上に関する指導	コミュニケーション能力の育成	体験学習の充実	情報教育やICTの活用に関する指導	アクティブ・ラーニングの推進	郷土の文化・芸能活動の推進	その他	無回答
全 体	393	23.2	36.1	18.8	46.3	26.2	43.0	72.8	51.1	42.5	19.6	8.7	4.1	0.5
小学5年生	264	24.2	31.1	20.8	48.1	29.9	50.8	73.9	51.5	40.2	17.8	9.1	3.8	0.8
中学2年生	126	20.6	47.6	14.3	42.1	19.0	27.8	70.6	50.8	47.6	23.0	7.9	4.8	—

問 10 主に学校教育の中で次のような能力や態度を身につける必要性は高いと思いますか。
また、あなたのお子さんは、年齢に応じて、実際に身につけていると思いますか。
(それぞれにひとつずつ○)

必要性

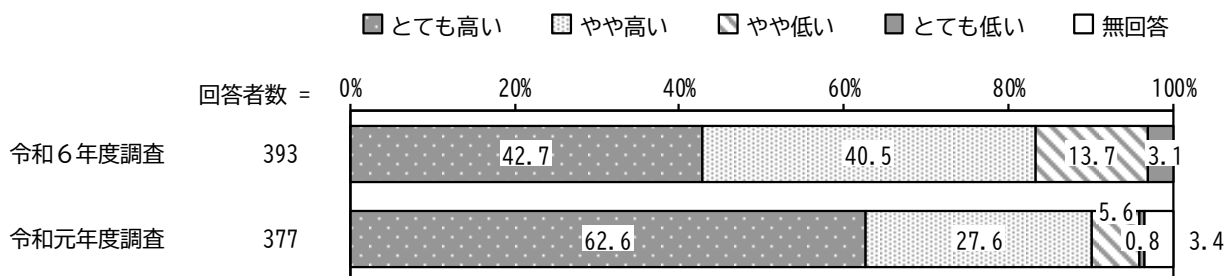
『1 3) 善悪を判断する力』『2 2) 他人に対する思いやりや優しさ』で「とても高い」「やや高い」を合わせた”高い”の割合が、『3) 実際の場面で使える英語力』で「やや低い」「とても低い」を合わせた”低い”の割合が高くなっています。





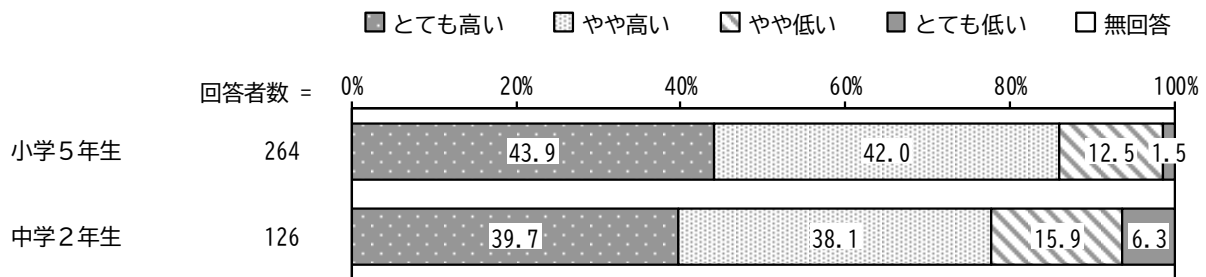
1) 教科の基礎的な学力

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



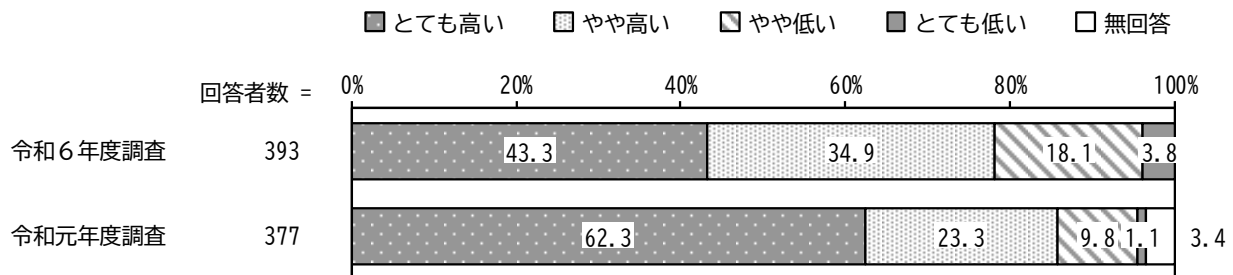
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



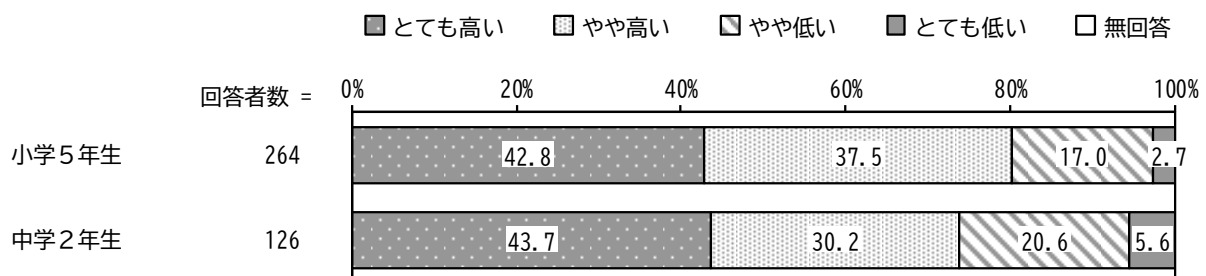
2) 自ら学ぼうとする意欲

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



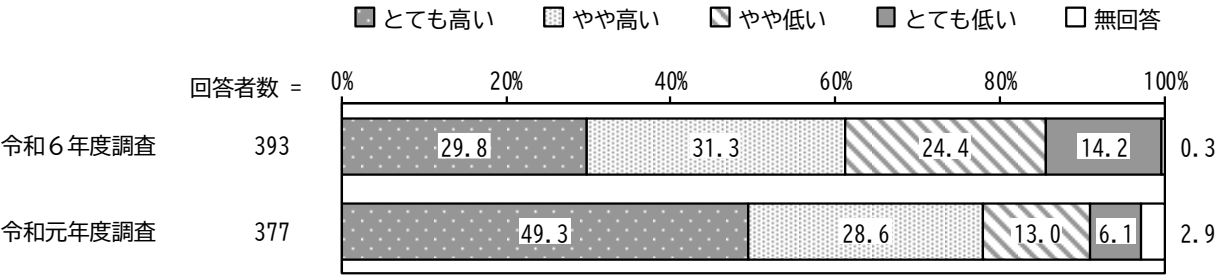
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや高い」で小学5年生の方が高くなっています。



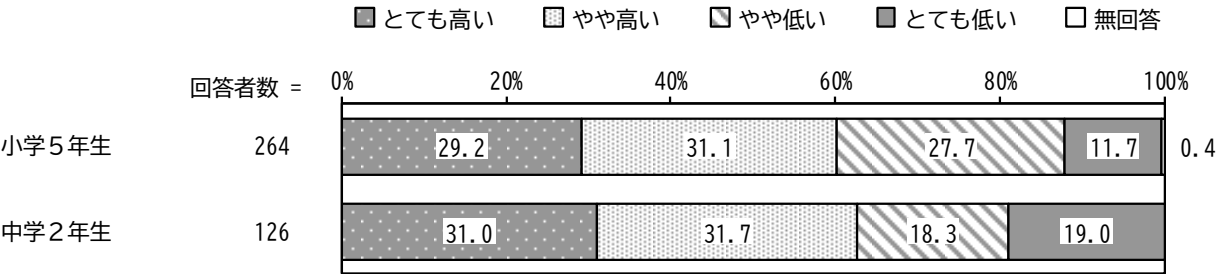
3) 実際の場面で使える英語力

令和元年度調査と比較すると、「やや低い」「とても低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



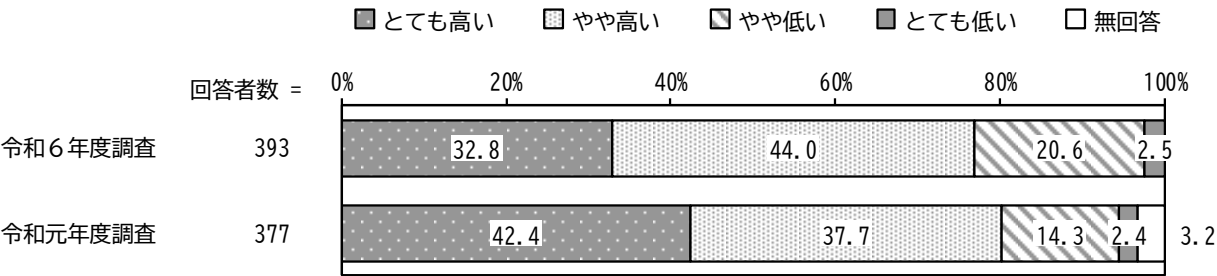
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや低い」で小学5年生の方が高く、「とても低い」で中学2年生の方が高くなっています。



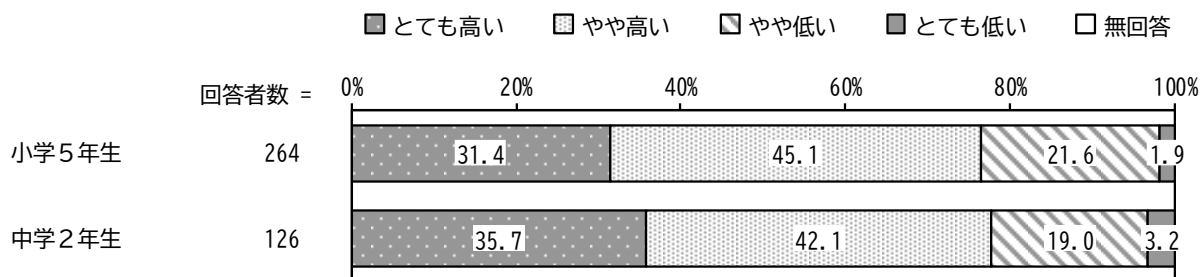
4) コンピュータやICTを活用する力

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



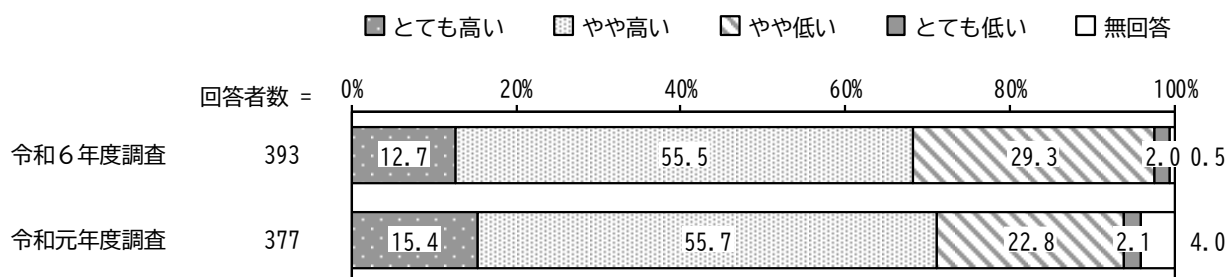
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



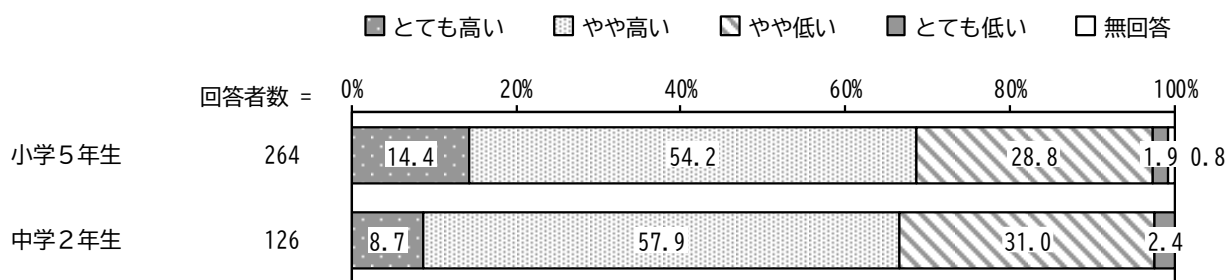
5) 音楽・美術など芸術面の能力や情操

令和元年度調査と比較すると、「やや低い」の割合が増加しています。



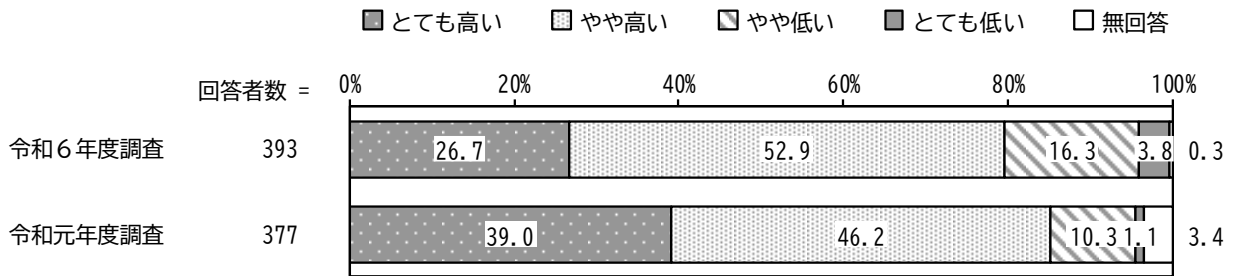
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「とても高い」で小学5年生の方が高くなっています。



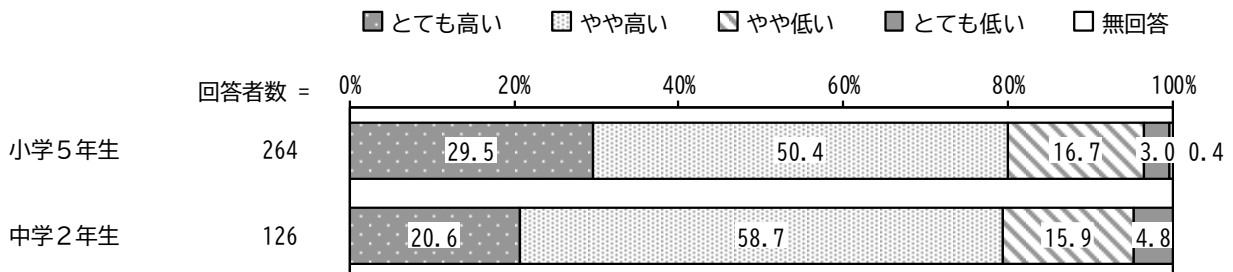
6) 体力や運動能力

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



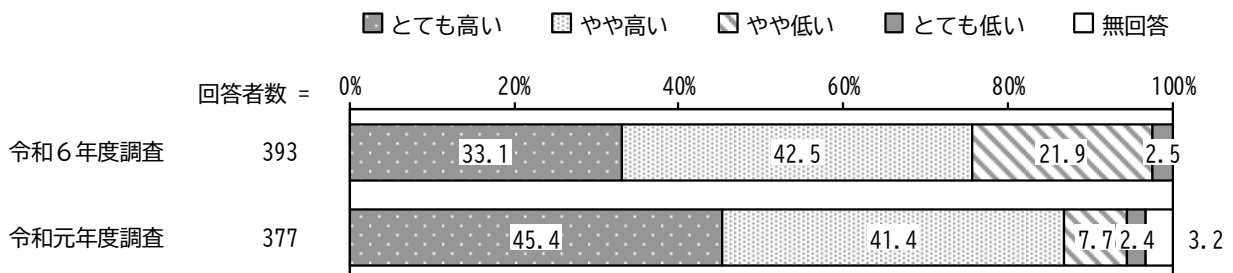
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「とても高い」で小学5年生の方が高く、「やや高い」で中学2年生の方が高くなっています。



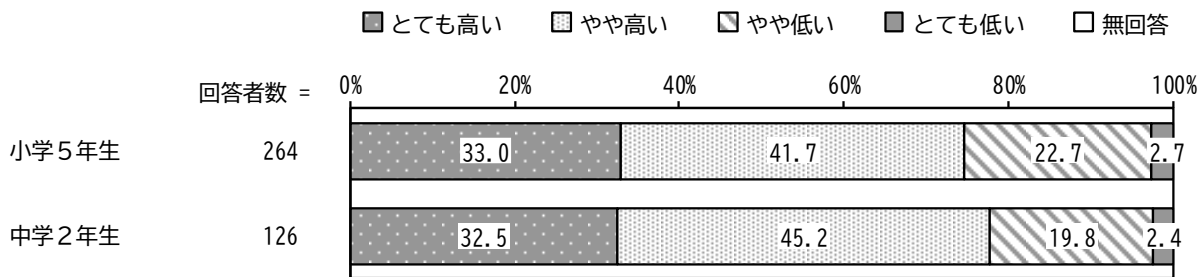
7) 自分の健康を管理する力

令和元年度調査と比較すると、「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



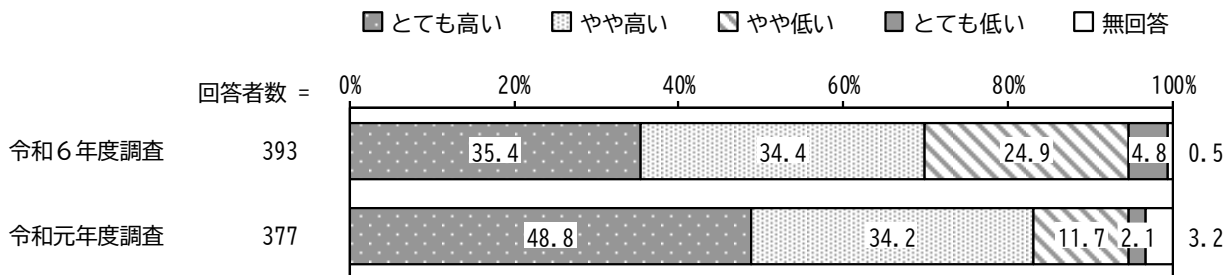
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



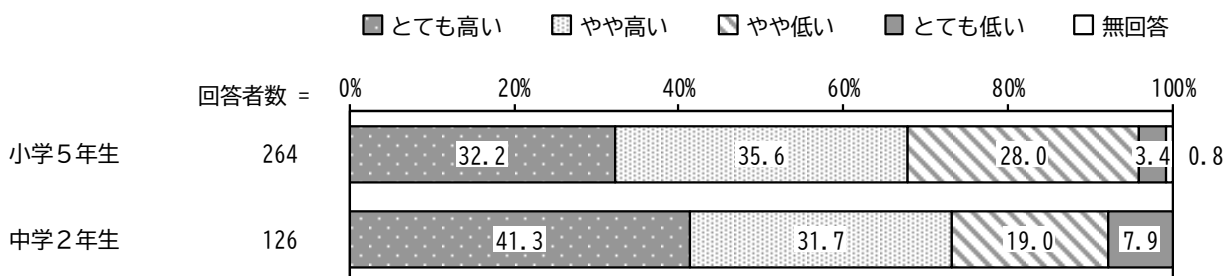
8) 生き方や進路について考える力

令和元年度調査と比較すると、「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



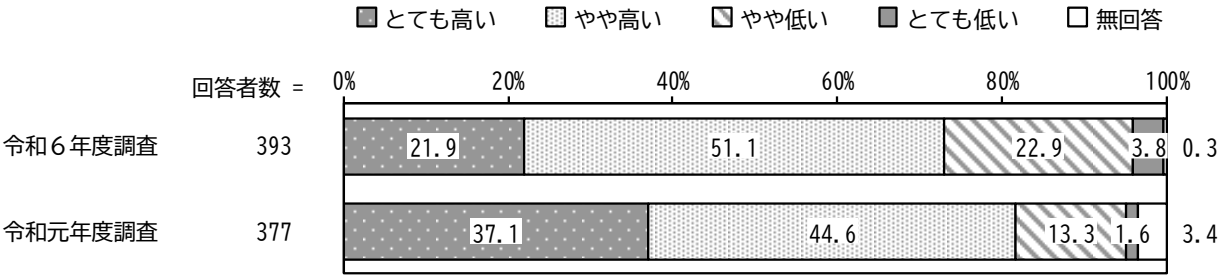
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや低い」で小学5年生の方が高くなっています。



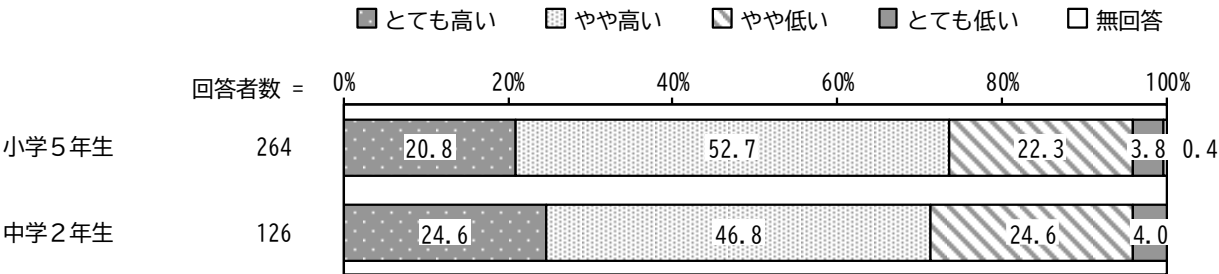
9) 論理的にものを考える力

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



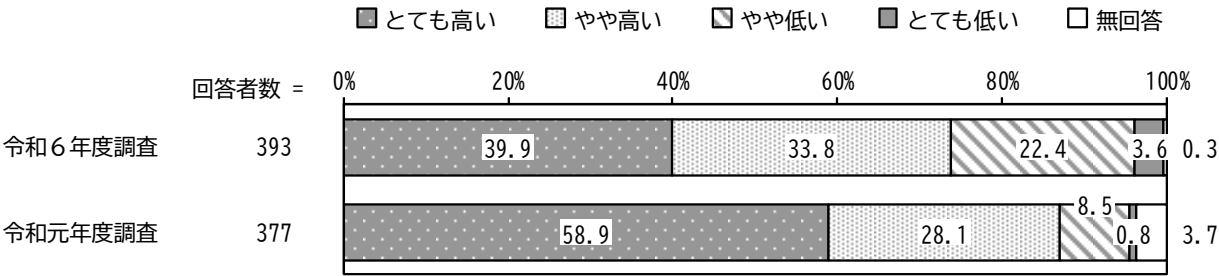
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや高い」で小学5年生の方が高くなっています。



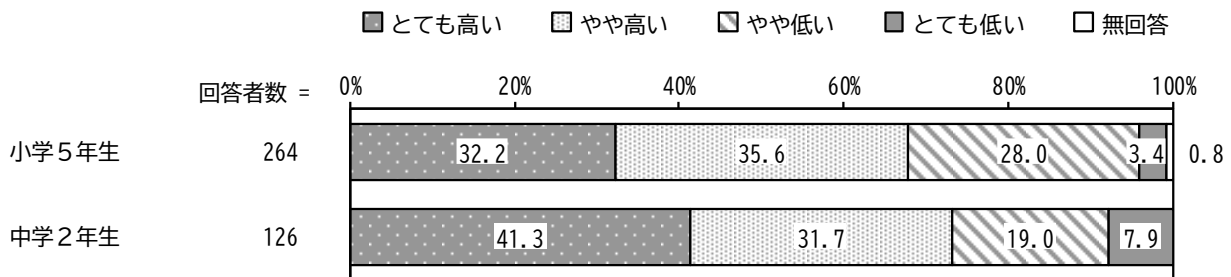
10) 自分の考えを表現する力

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



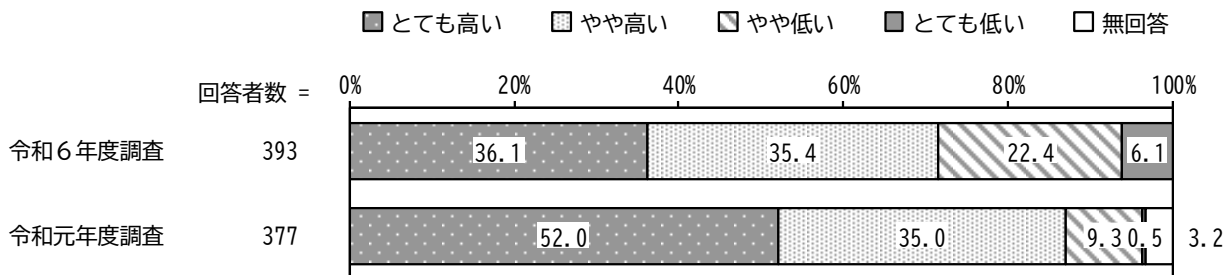
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



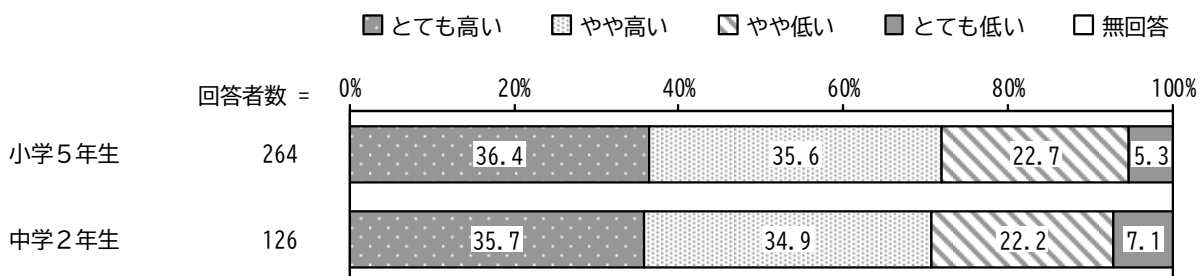
11) ものごとを計画的に行う力

令和元年度調査と比較すると、「やや低い」「とても低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



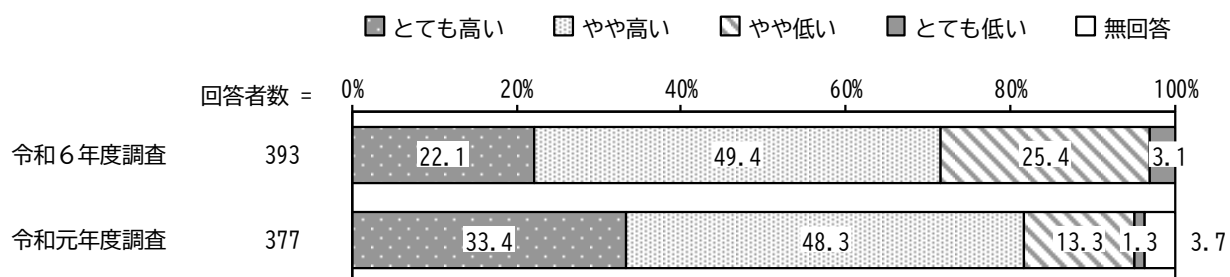
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



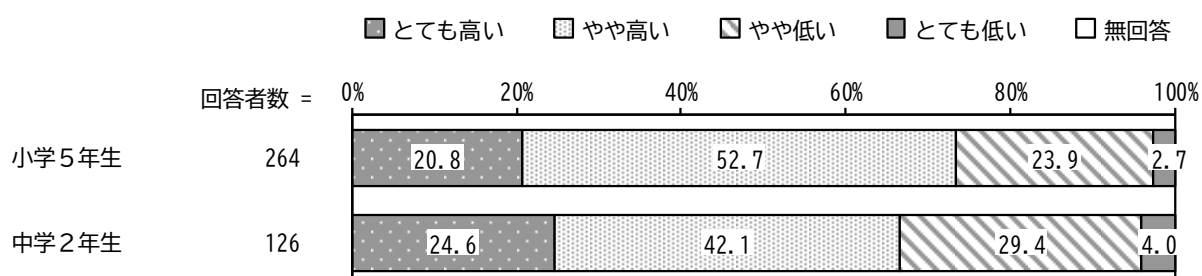
12) 新しいものを生み出す創造的な力

令和元年度調査と比較すると、「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



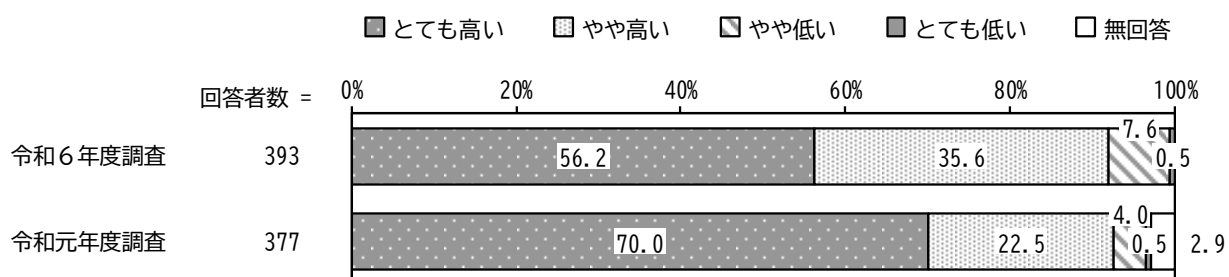
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや高い」で小学5年生の方が高く、「やや低い」で中学2年生の方が高くなっています。



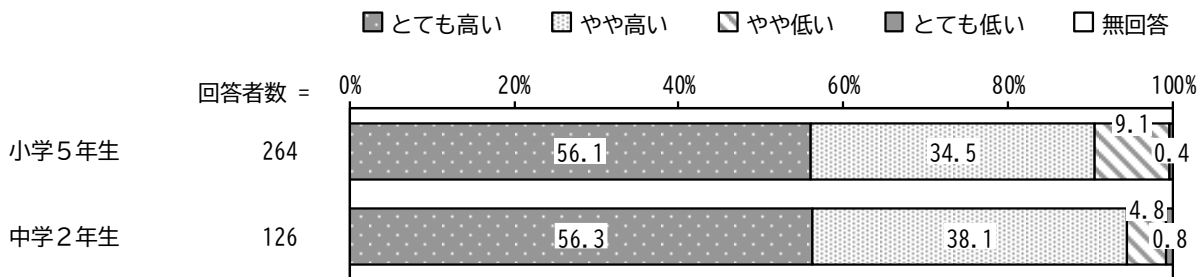
13) 善悪を判断する力

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



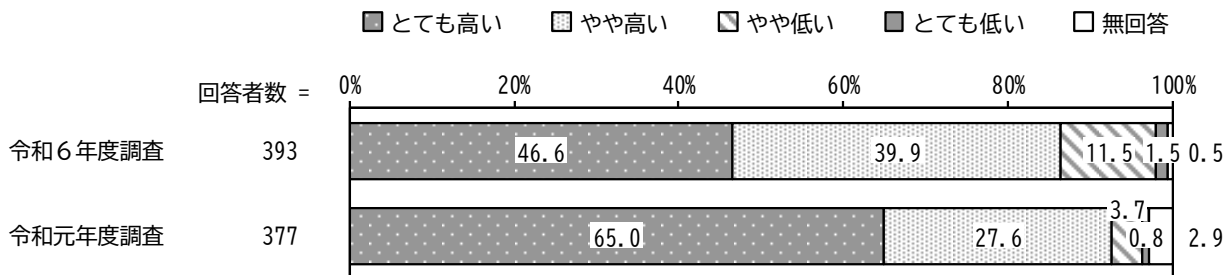
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



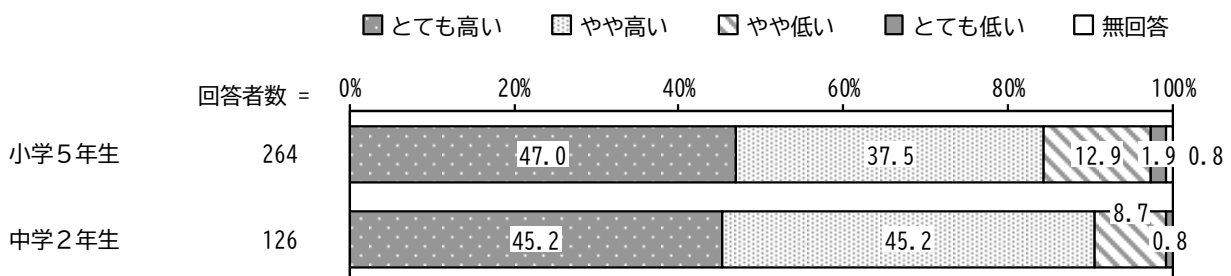
14) 人間関係を築く力

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



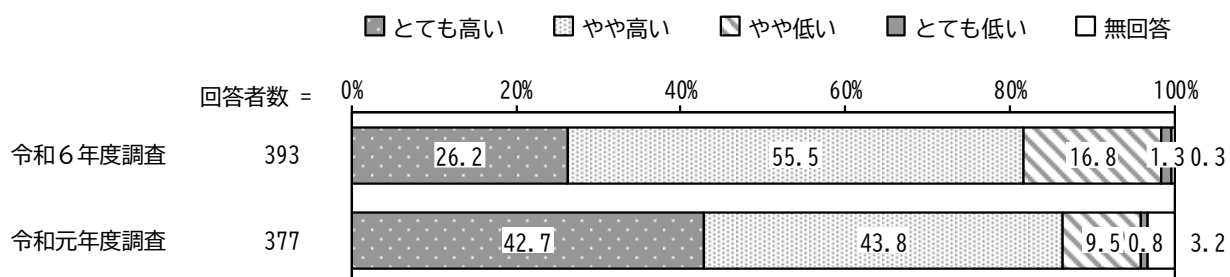
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや高い」で中学2年生の方が高くなっています。



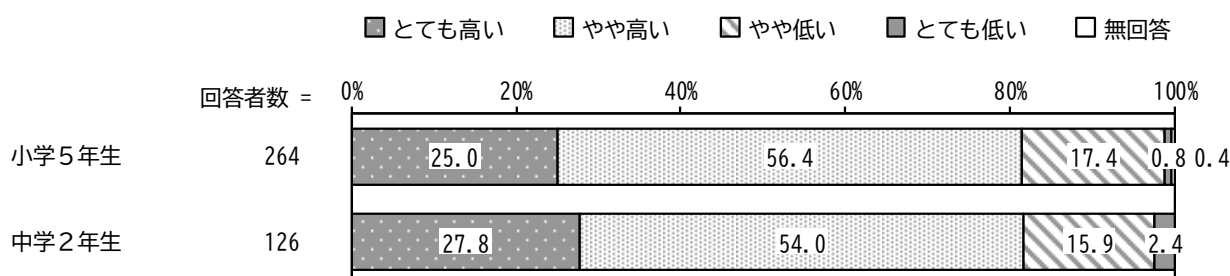
15) 社会で役立とうとする心や公共心

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



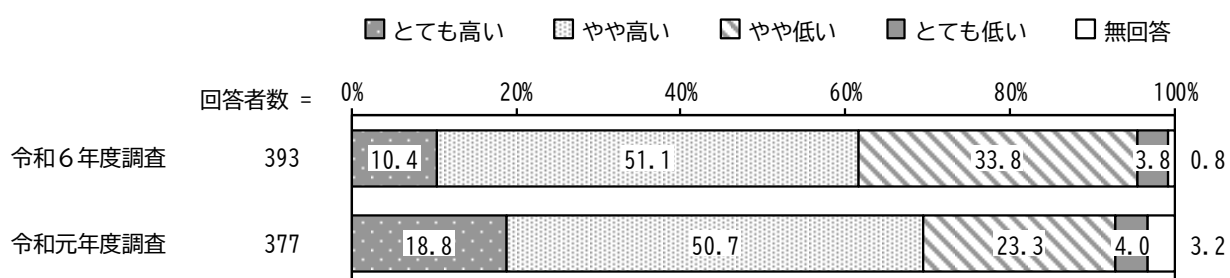
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



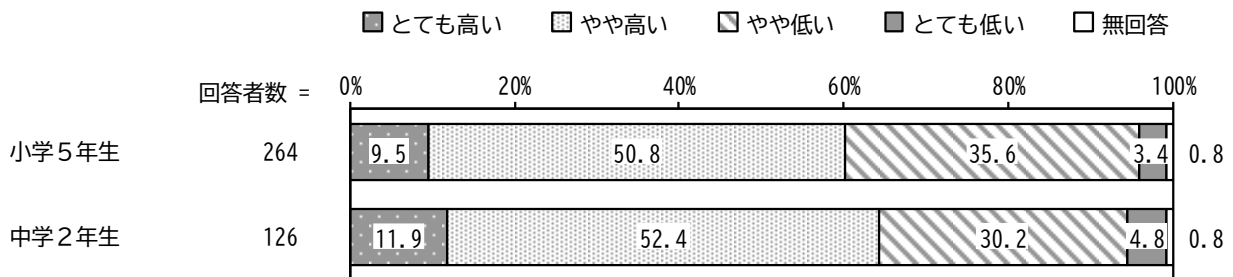
16) 郷土や国を愛する心

令和元年度調査と比較すると、「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



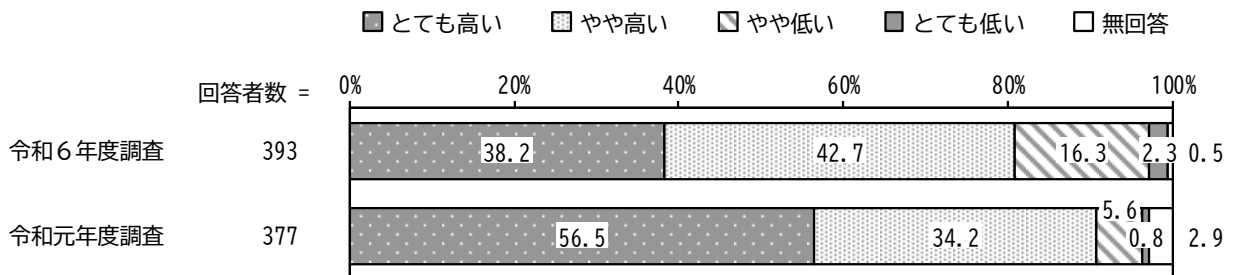
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや低い」で小学5年生の方が高くなっています。



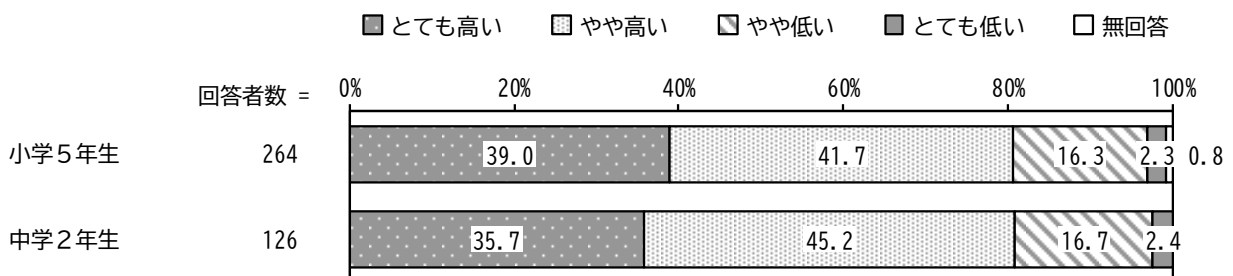
17) ものごとをやりとげるねばり強さ

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



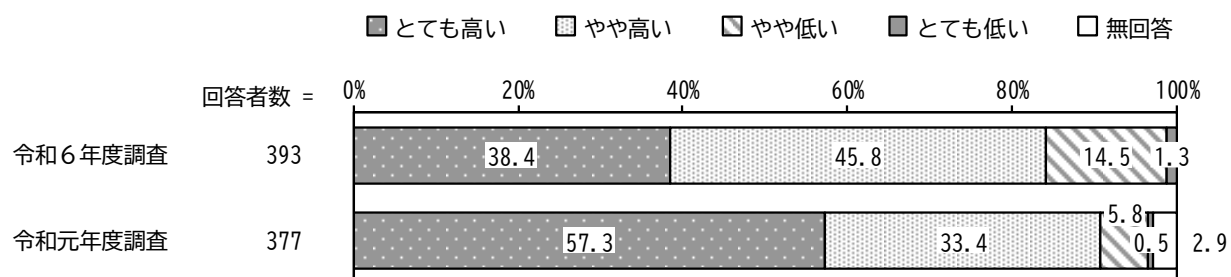
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



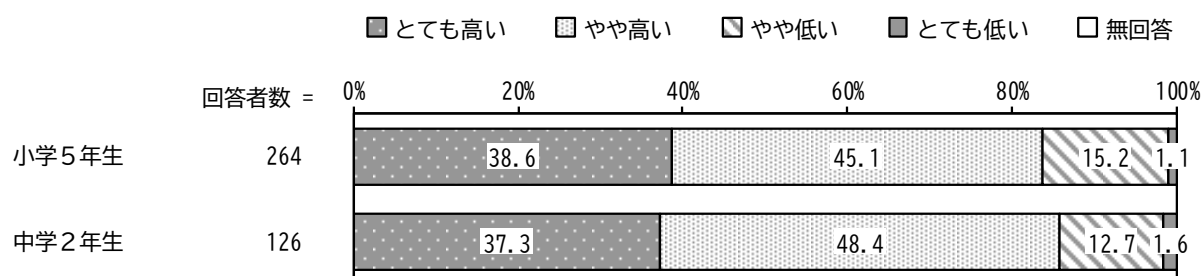
18) 社会生活に必要な常識

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



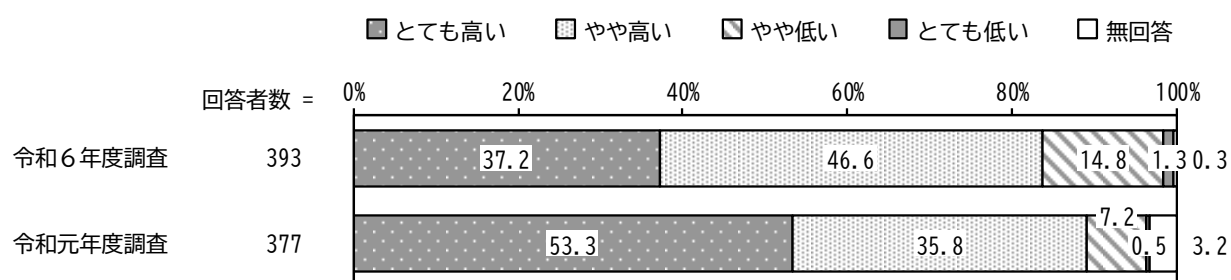
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



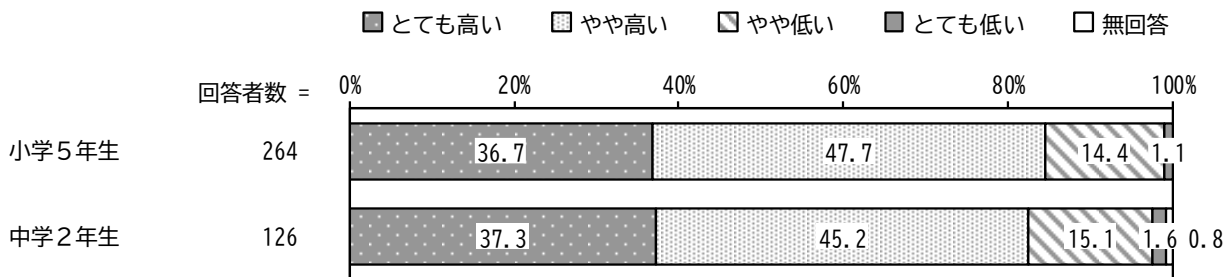
19) 基本的な生活習慣

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



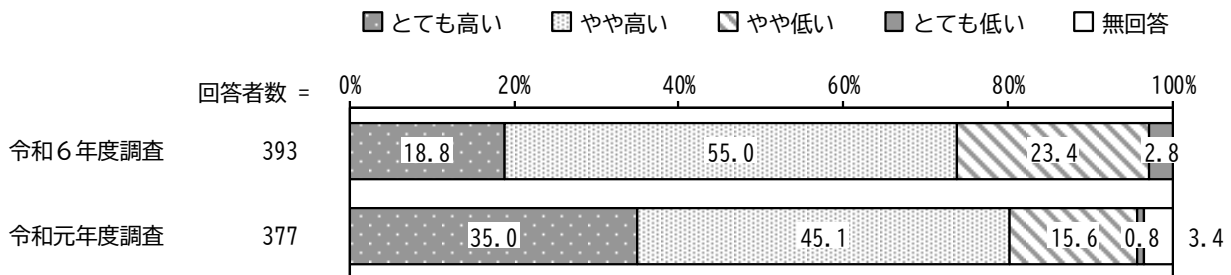
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



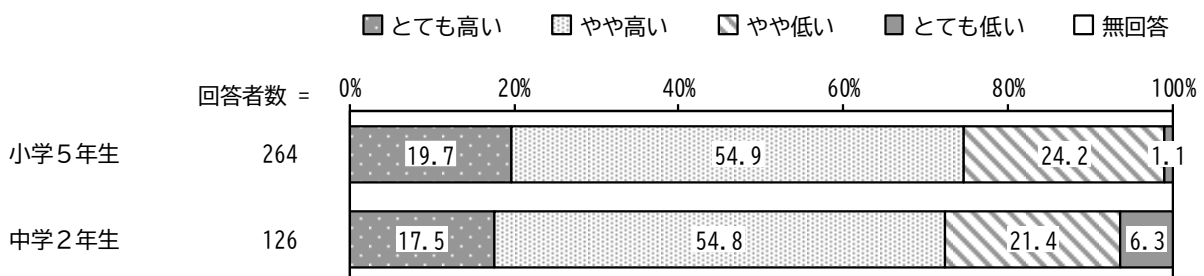
20) 幅広い知識と教養

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



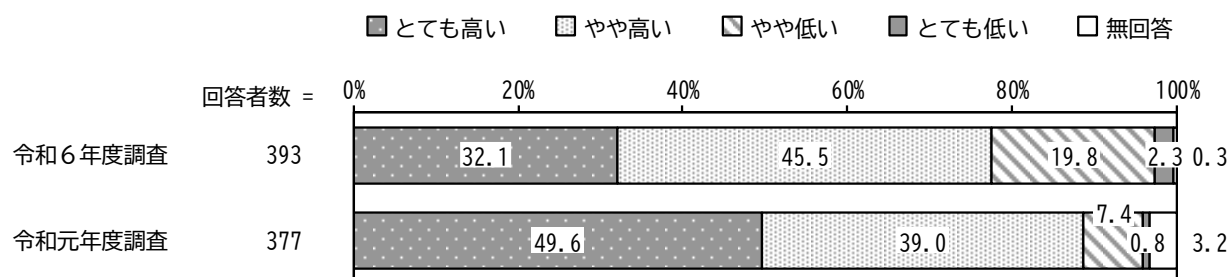
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「とても低い」で中学2年生の方が高くなっています。



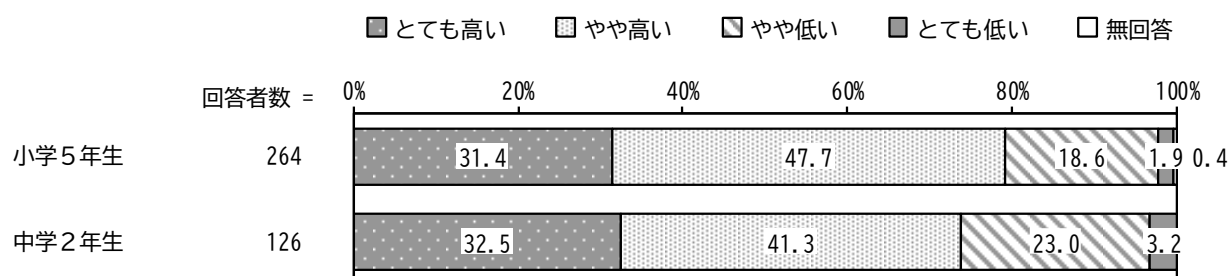
21) 自立心や自主性、積極性

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



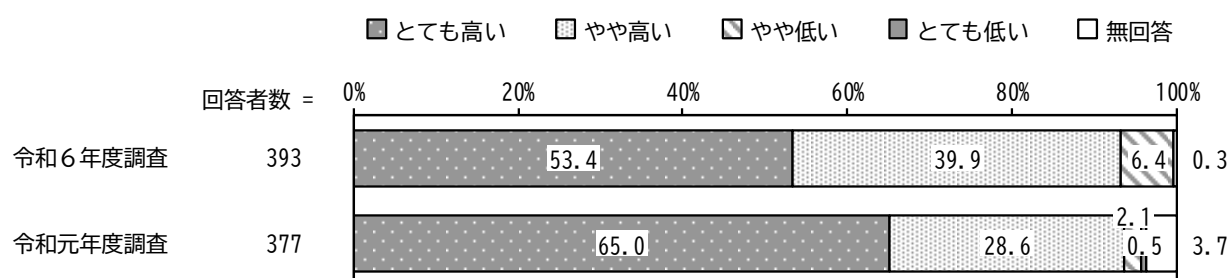
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや高い」で小学5年生の方が高くなっています。



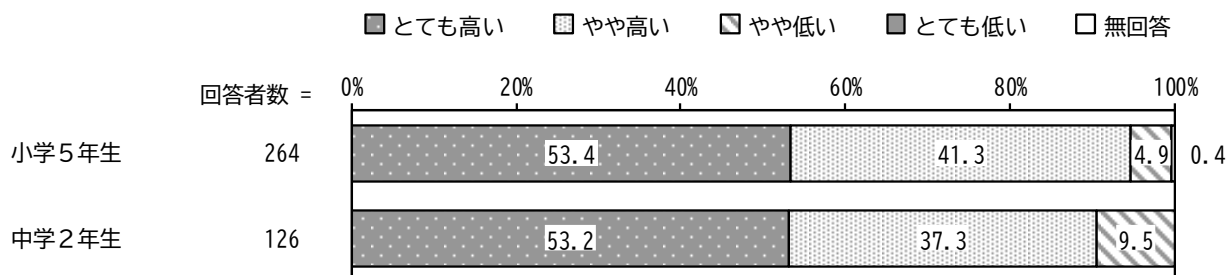
22) 他人に対する思いやりや優しさ

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



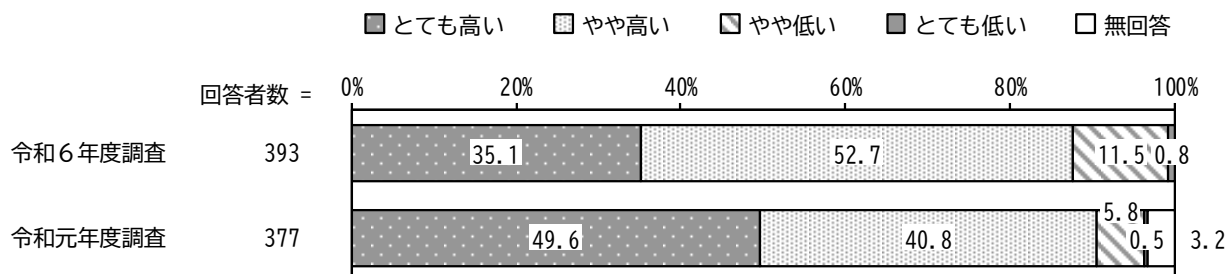
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



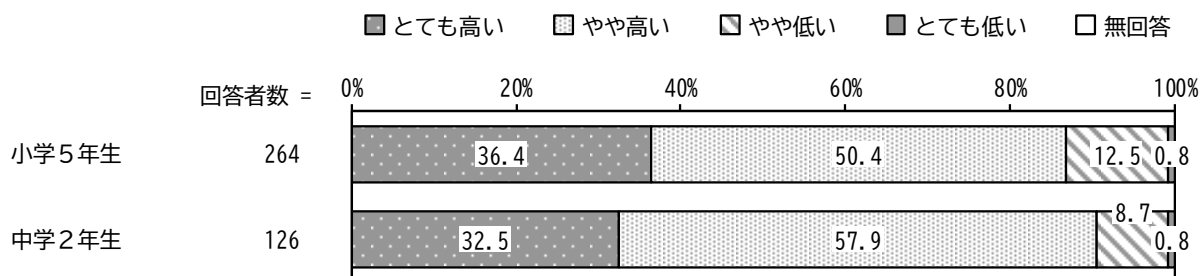
23) 他者や異質なものに対する理解や寛容さ

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



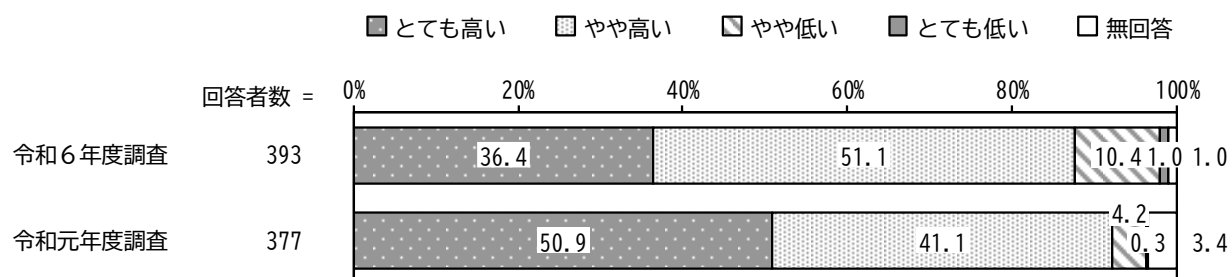
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや高い」で中学2年生の方が高くなっています。



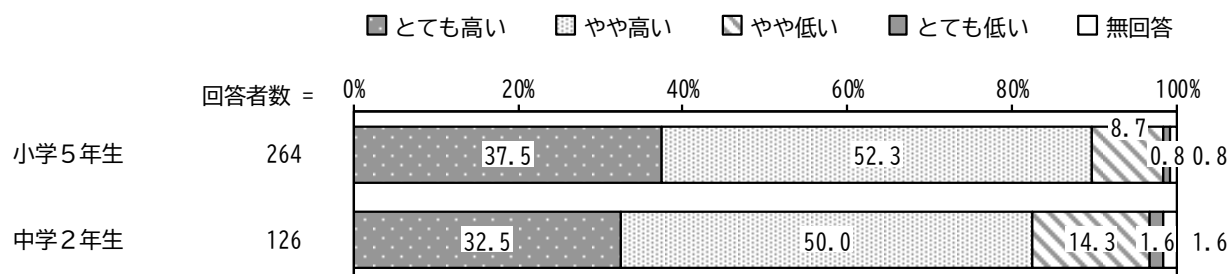
24) 生命や自然、環境を大切にすること

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



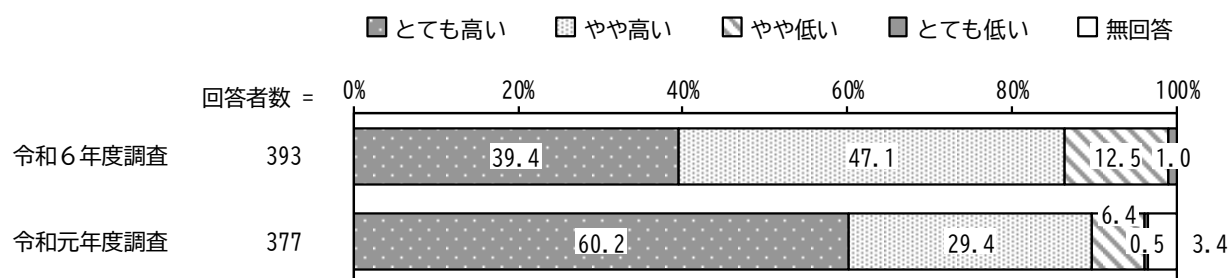
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや低い」で中学2年生の方が高くなっています。



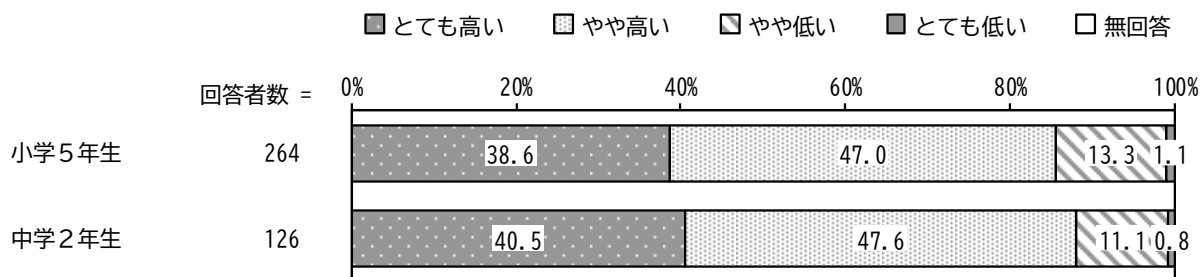
25) 言葉づかい、礼節、マナー

令和元年度調査と比較すると、「やや高い」「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



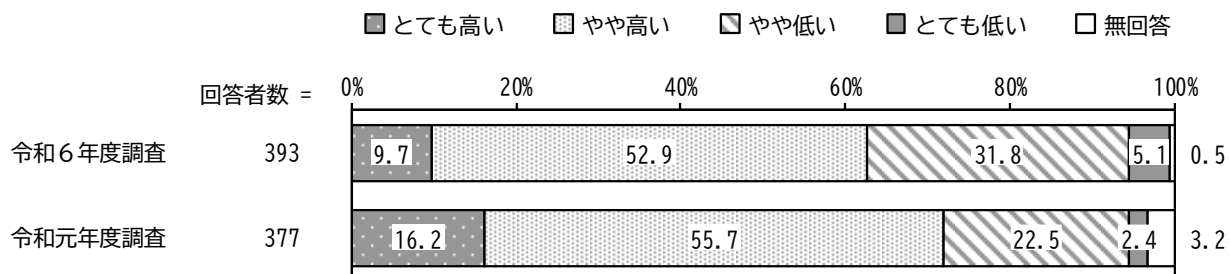
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



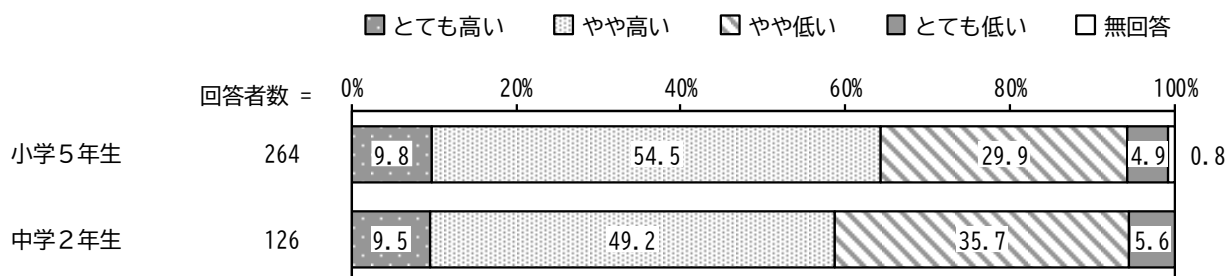
26) 郷土の歴史や文化についての理解

令和元年度調査と比較すると、「やや低い」の割合が増加しています。一方、「とても高い」の割合が減少しています。



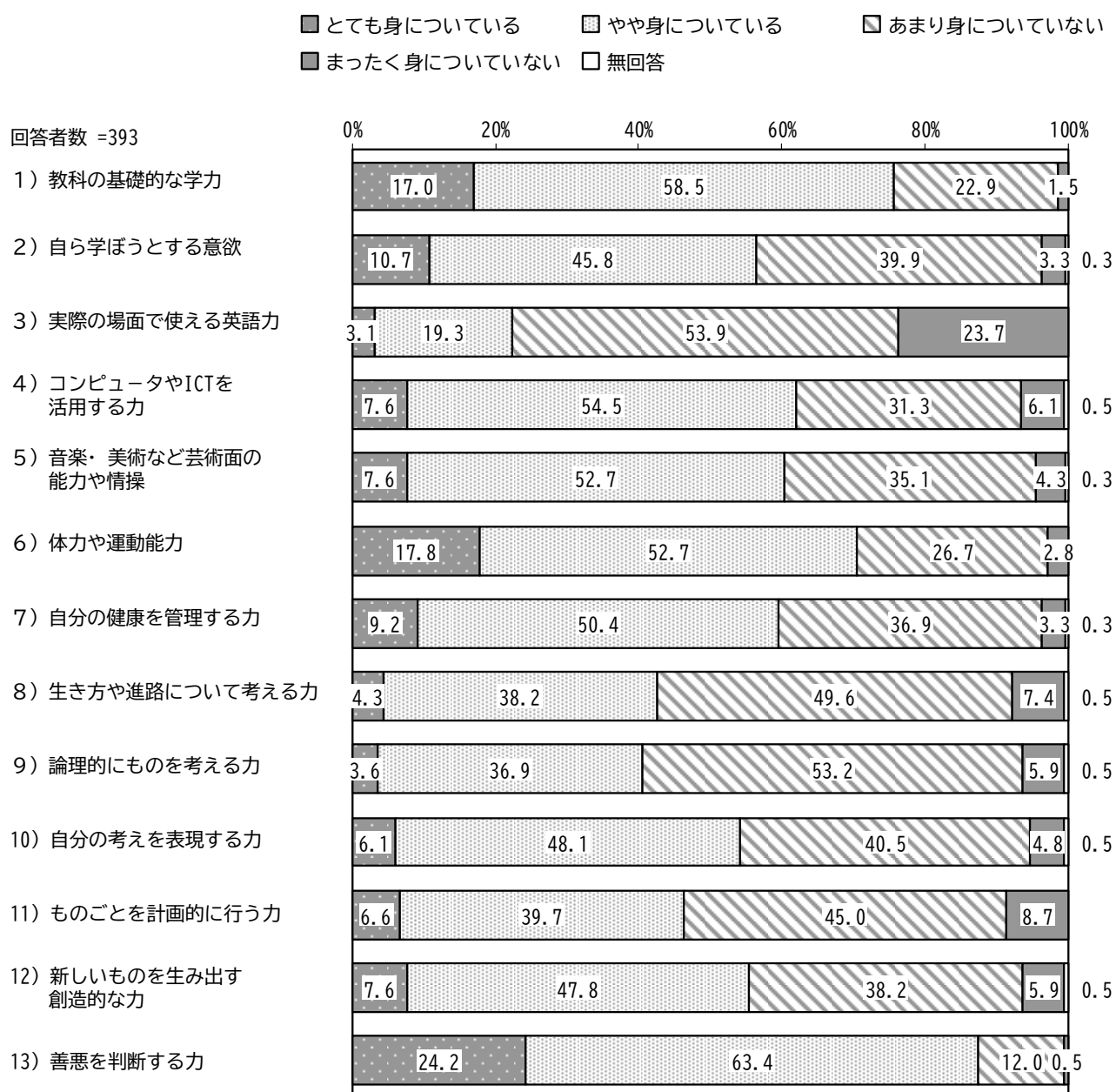
【子どもの学年別】

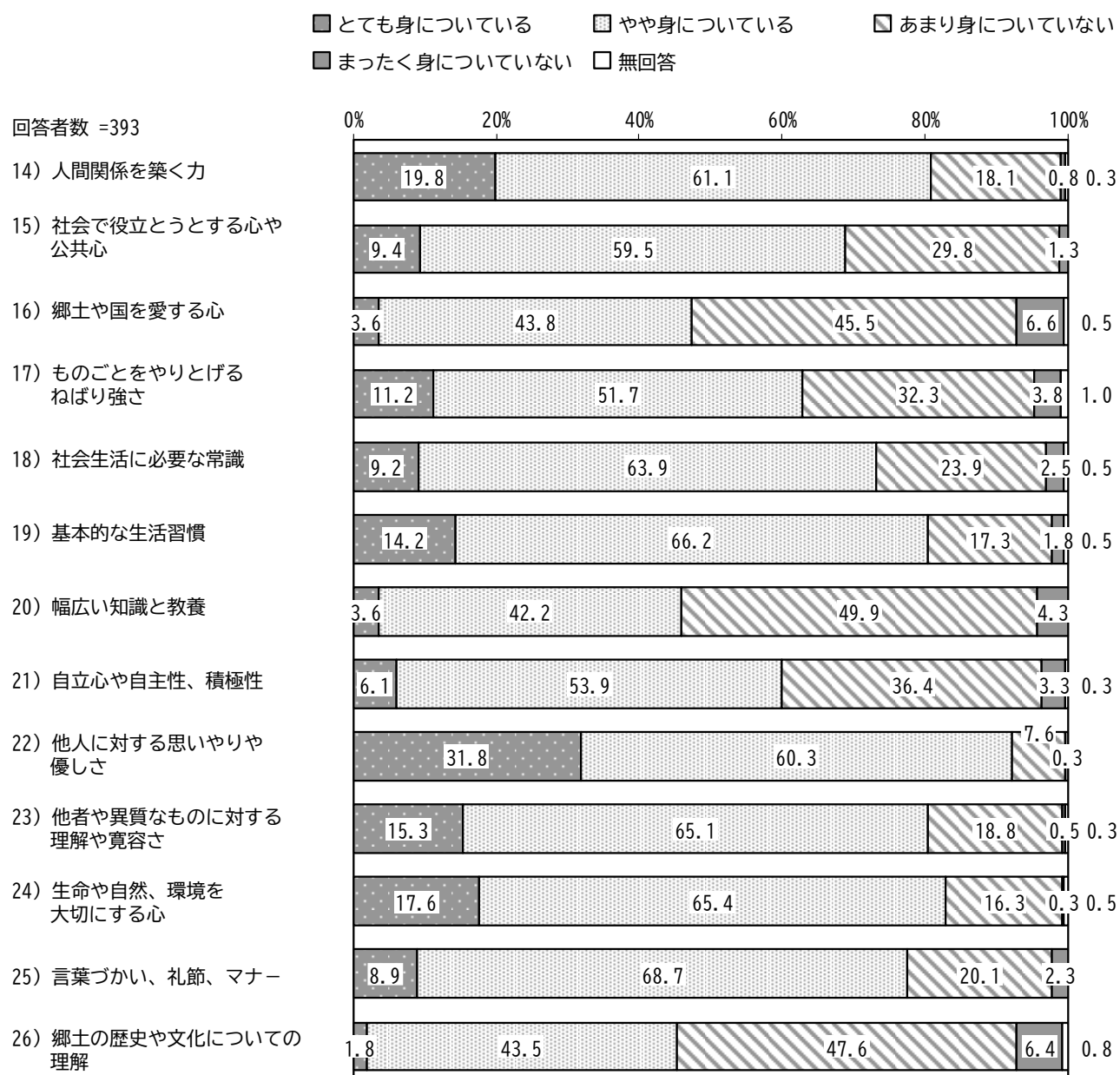
子どもの学年別にみると、「やや低い」で中学2年生の方が高くなっています。



身についている

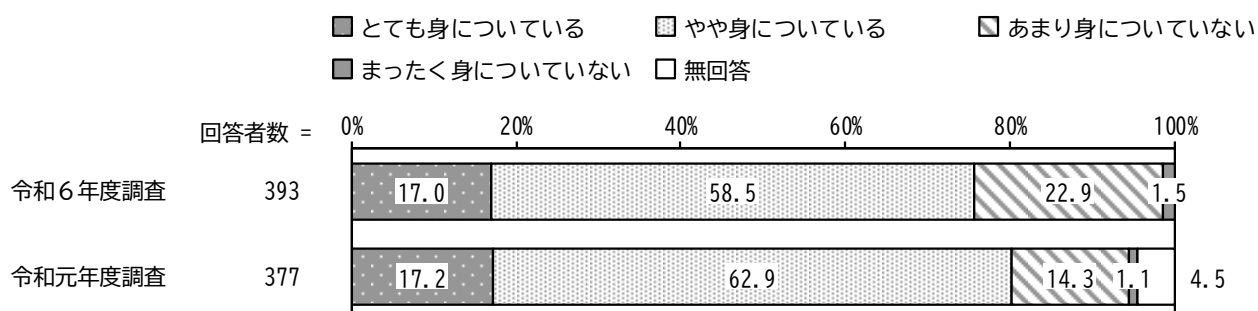
『22) 他人に対する思いやりや優しさ』で「とても身についている」「やや身についている」を合わせた”身についている”の割合が、『3) 実際の場面で使える英語力』で「あまり身についていない」「まったく身についていない」を合わせた”身についていない”の割合が高くなっています。





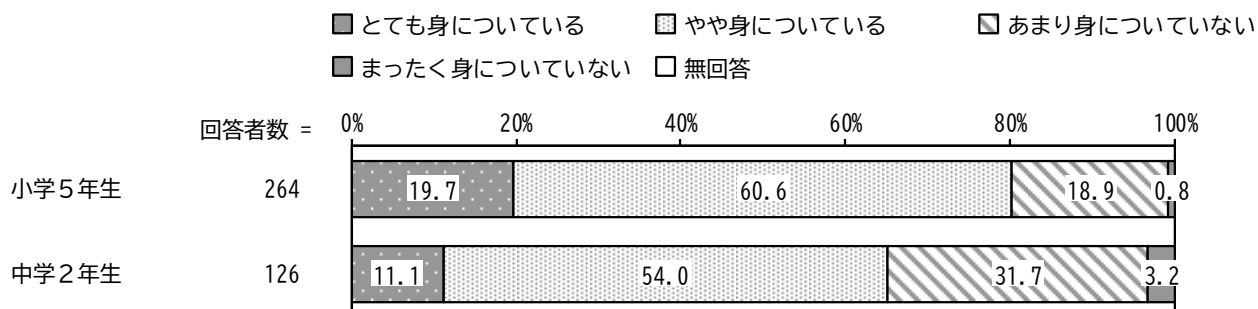
1) 教科の基礎的な学力

令和元年度調査と比較すると、「あまり身についていない」の割合が増加しています。



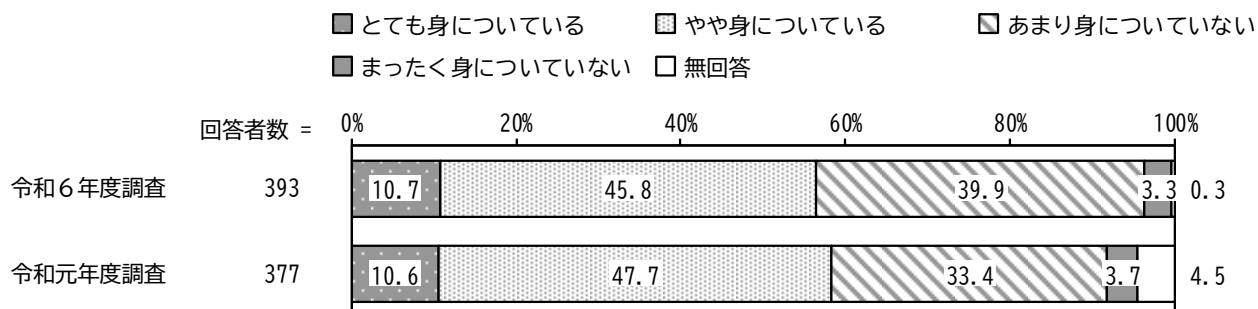
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや身についている」で小学5年生の方が高く、「あまり身についていない」で中学2年生の方が高くなっています。



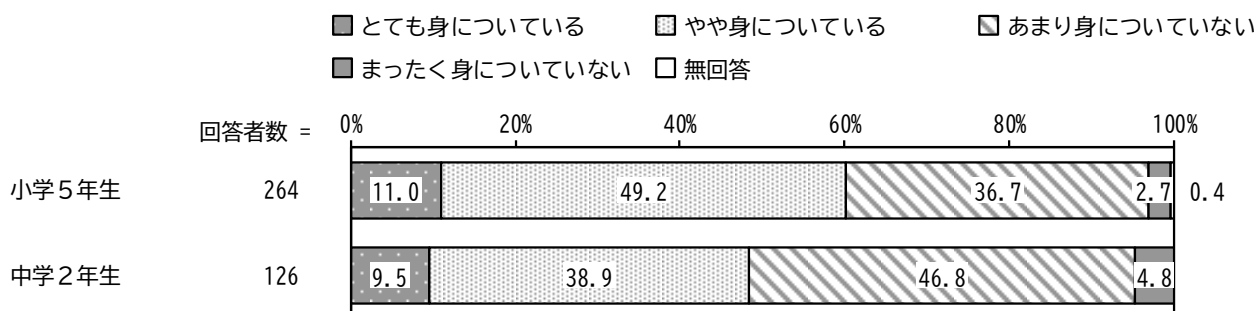
2) 自ら学ぼうとする意欲

令和元年度調査と比較すると、「あまり身についていない」の割合が増加しています。



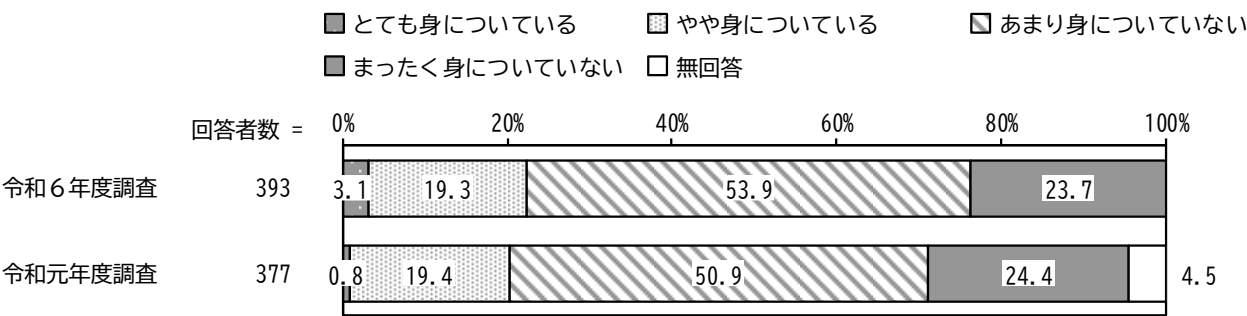
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや身についている」で小学5年生の方が高く、「あまり身についていない」で中学2年生の方が高くなっています。



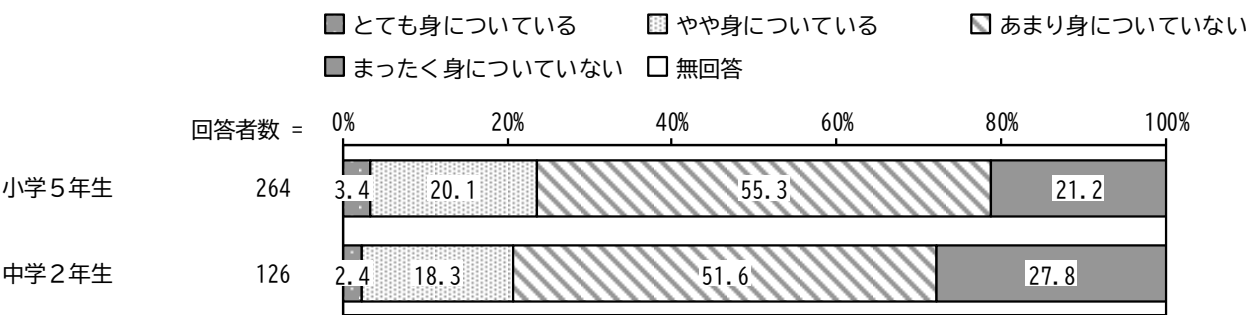
3) 実際の場面で使える英語力

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



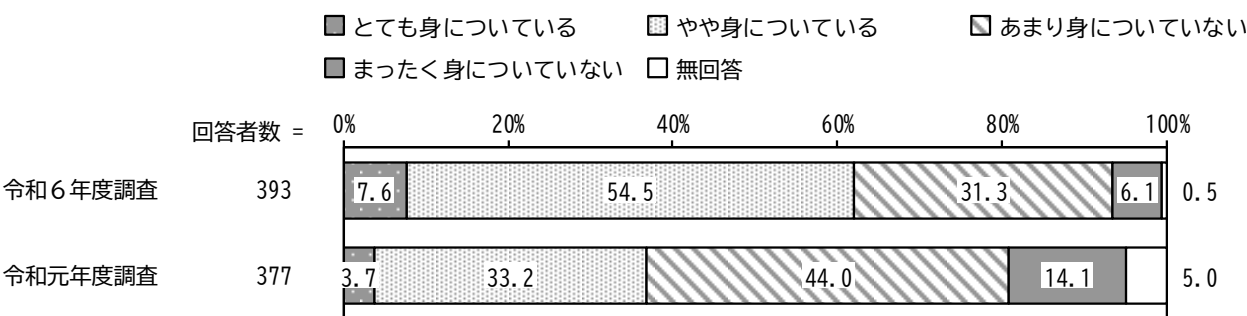
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「まったく身についていない」で中学2年生の方が高くなっています。



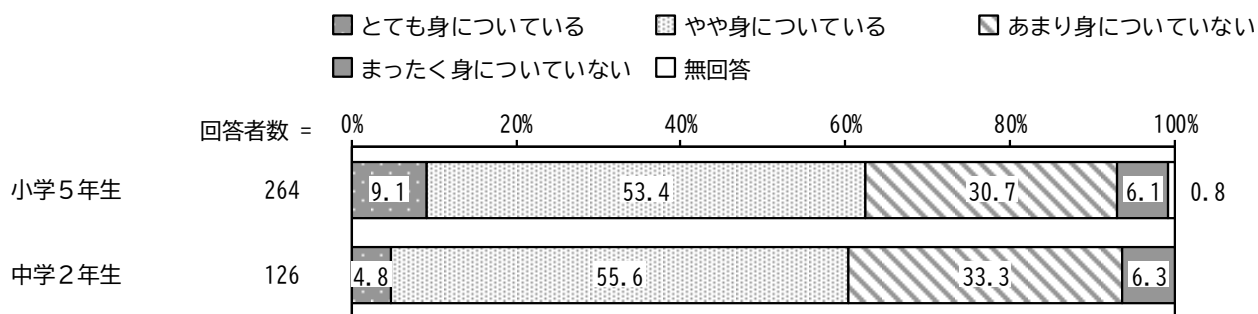
4) コンピュータやICTを活用する力

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。一方、「あまり身についていない」「まったく身についていない」の割合が減少しています。



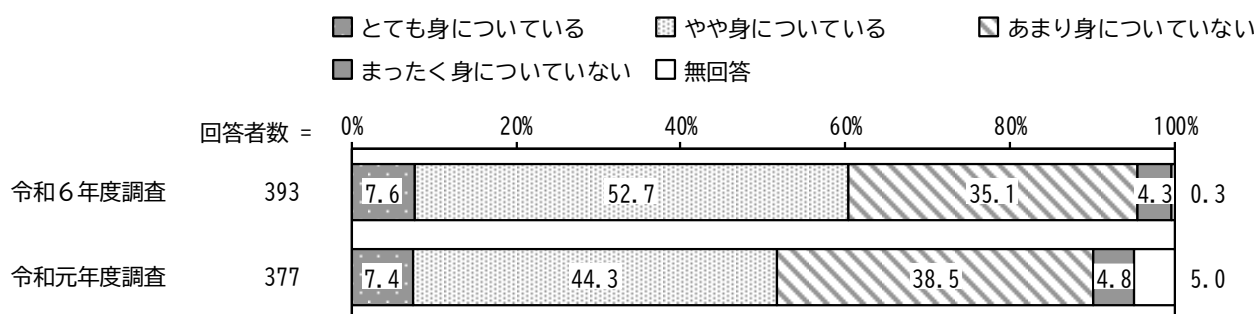
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



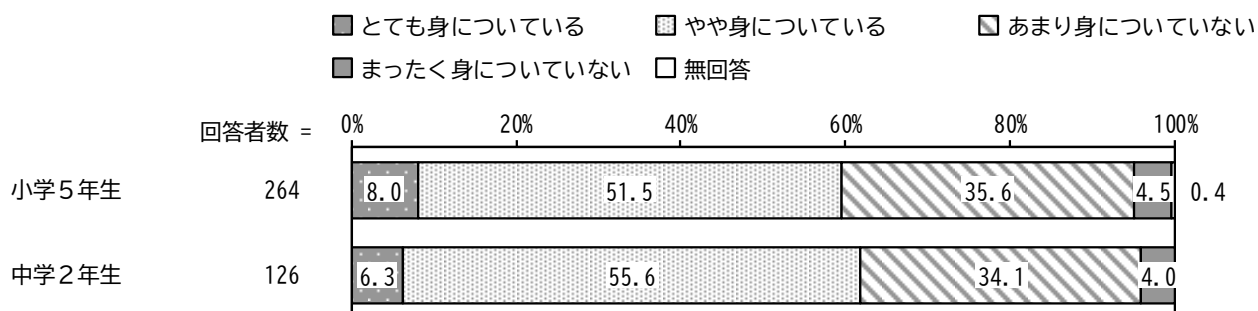
5) 音楽・美術など芸術面の能力や情操

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。



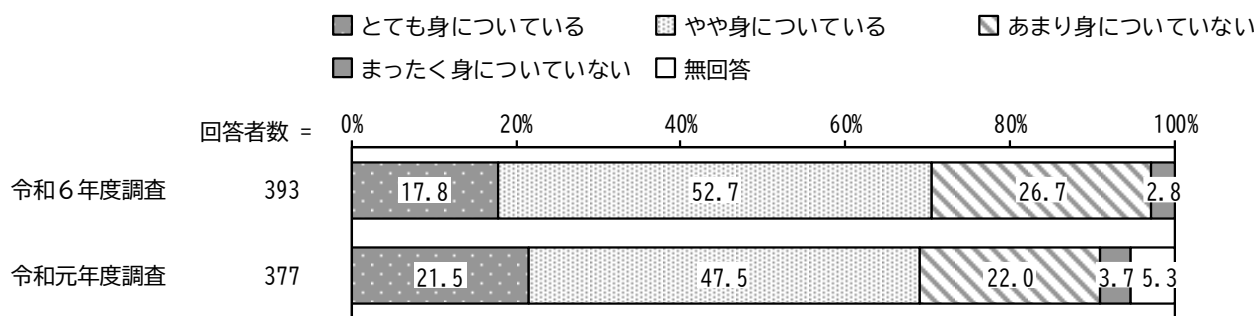
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



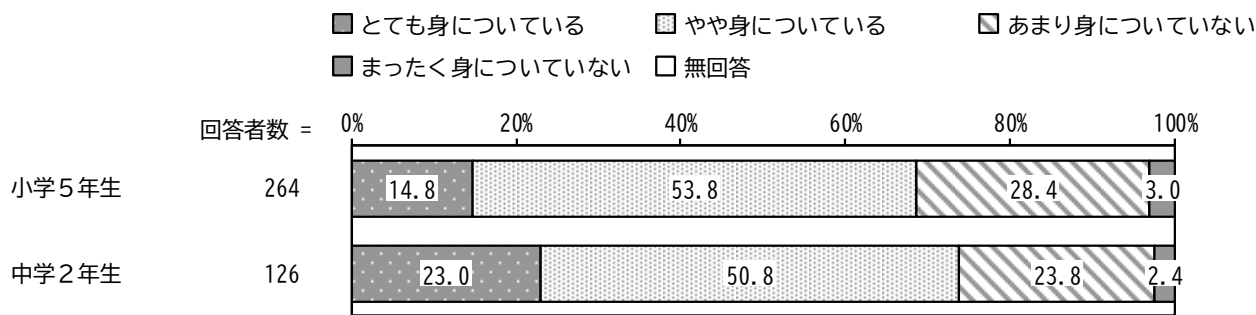
6) 体力や運動能力

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。



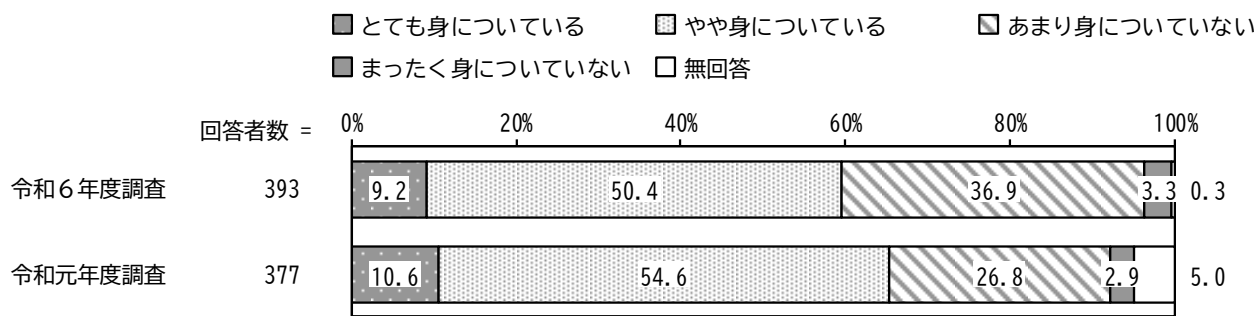
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「とても身についている」で中学2年生の方が高くなっています。



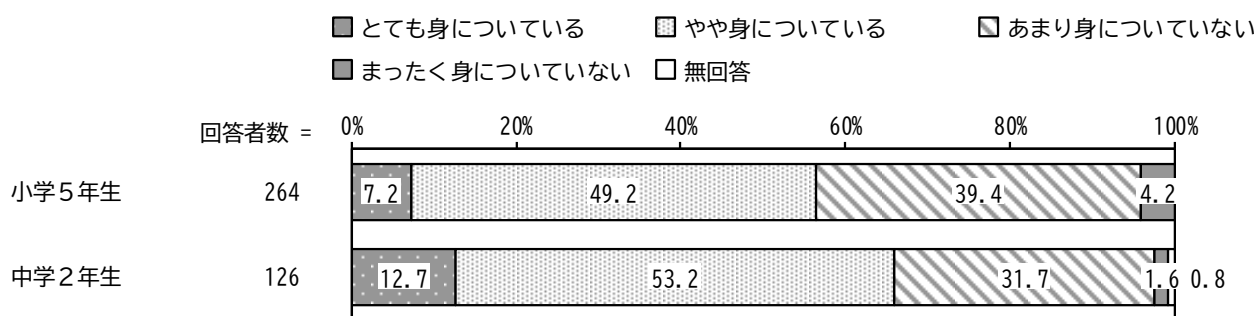
7) 自分の健康を管理する力

令和元年度調査と比較すると、「あまり身についていない」の割合が増加しています。



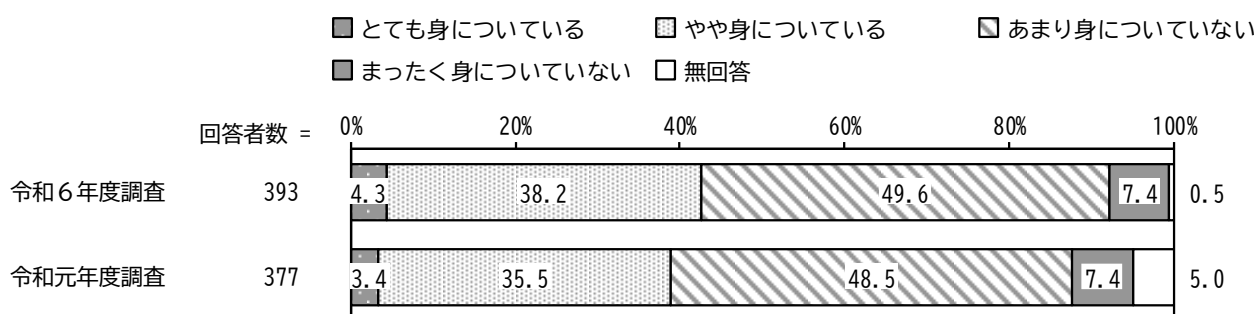
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「あまり身についていない」で小学5年生の方が高くなっています。



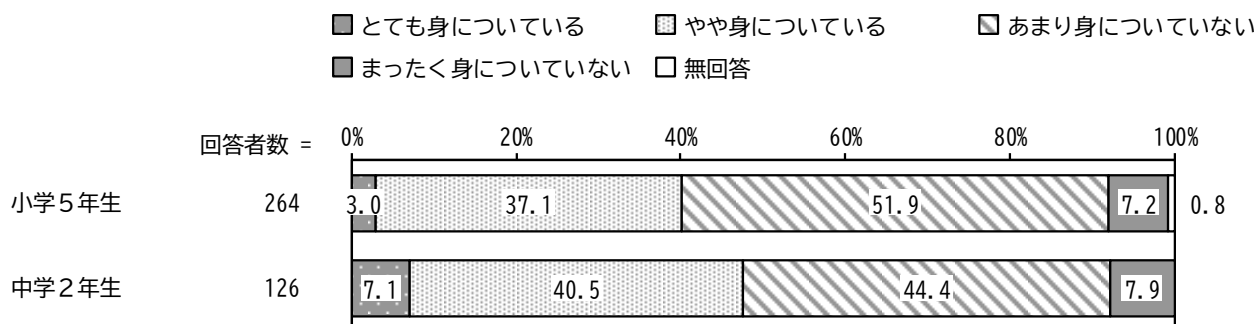
8) 生き方や進路について考える力

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



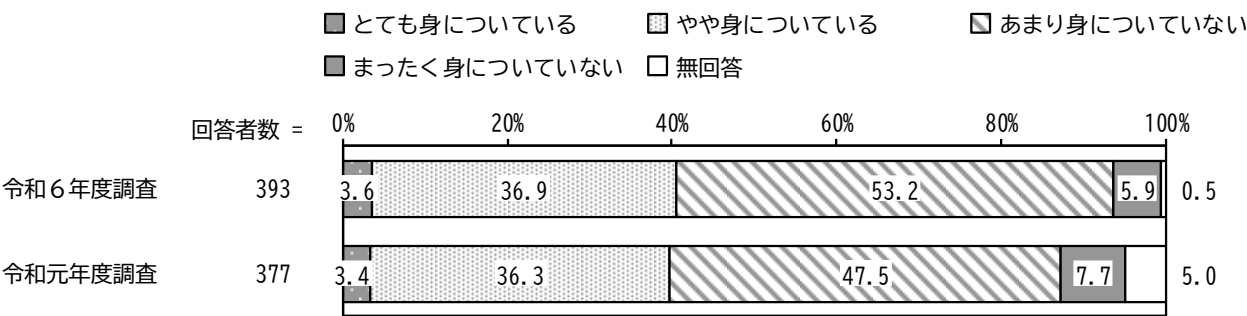
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「あまり身についていない」で小学5年生の方が高くなっています。



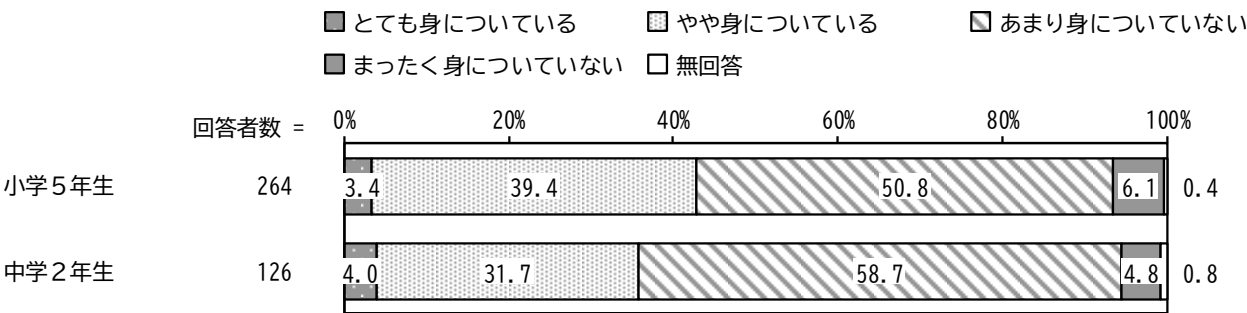
9) 論理的にもものを考える力

令和元年度調査と比較すると、「あまり身についていない」の割合が増加しています。



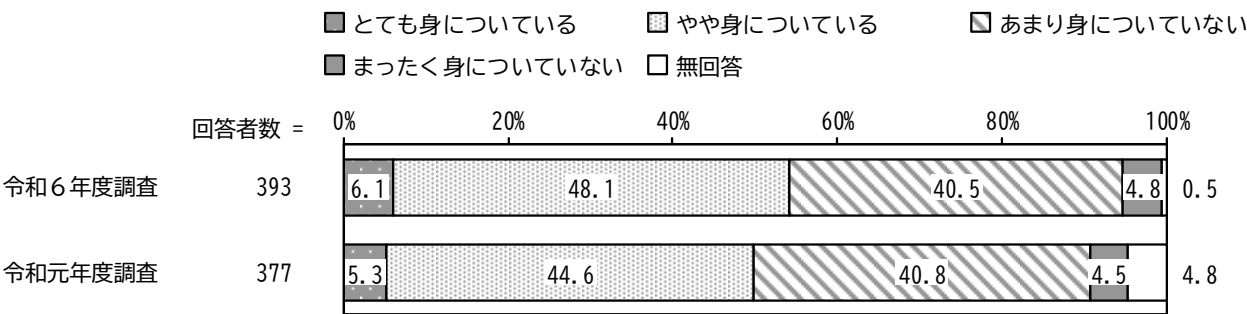
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「あまり身についていない」で中学2年生の方が高くなっています。



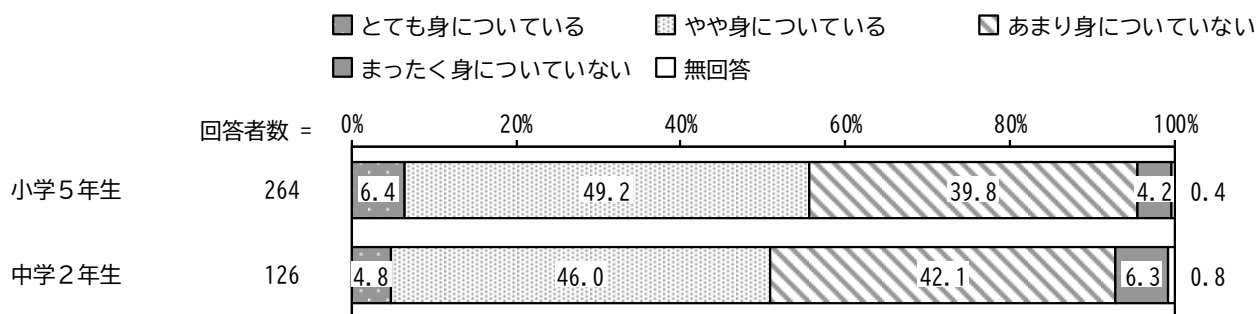
10) 自分の考えを表現する力

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



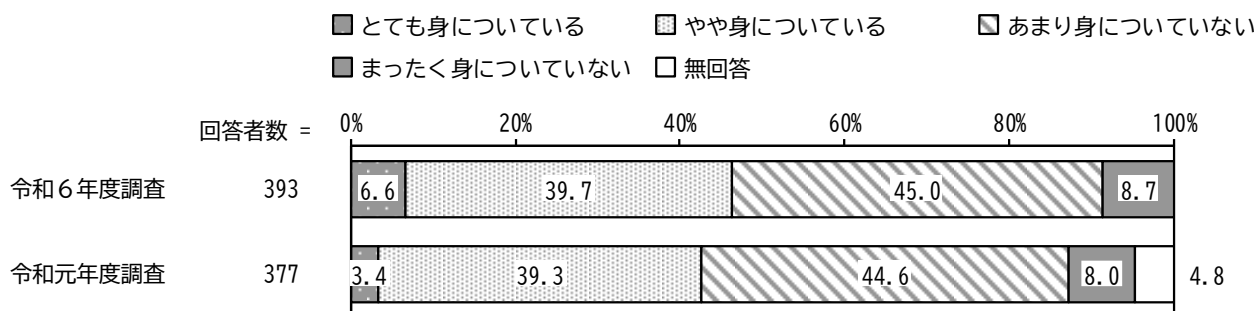
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



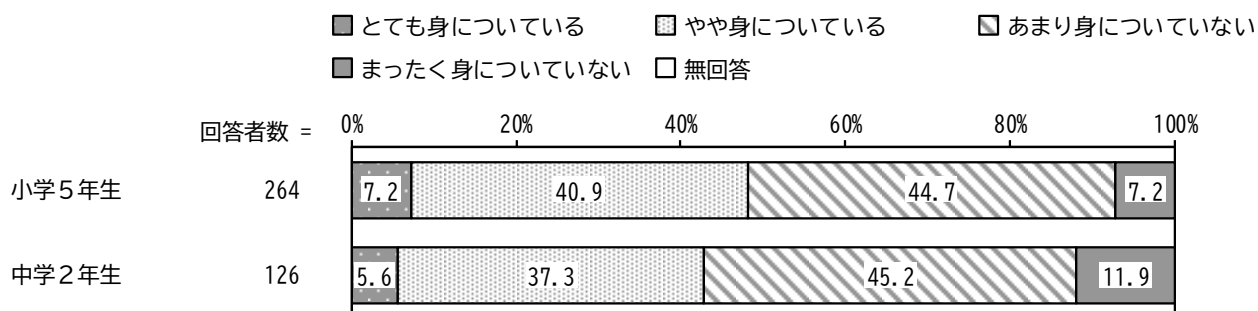
11) ものごとを計画的に行う力

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



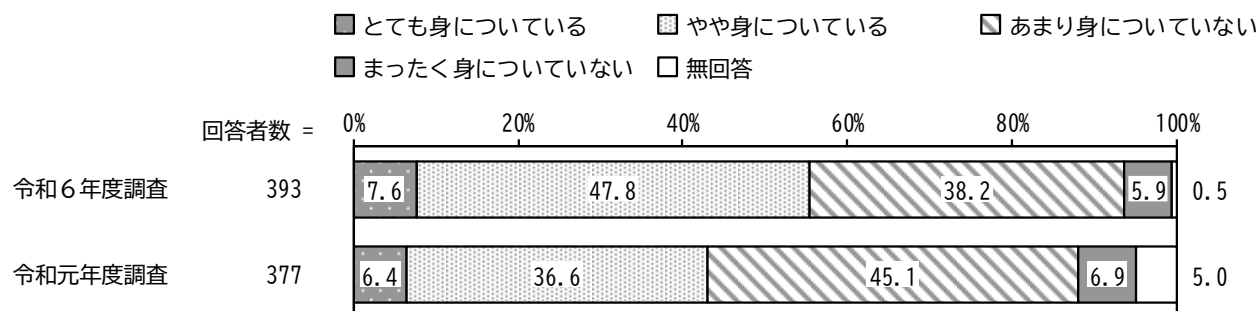
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



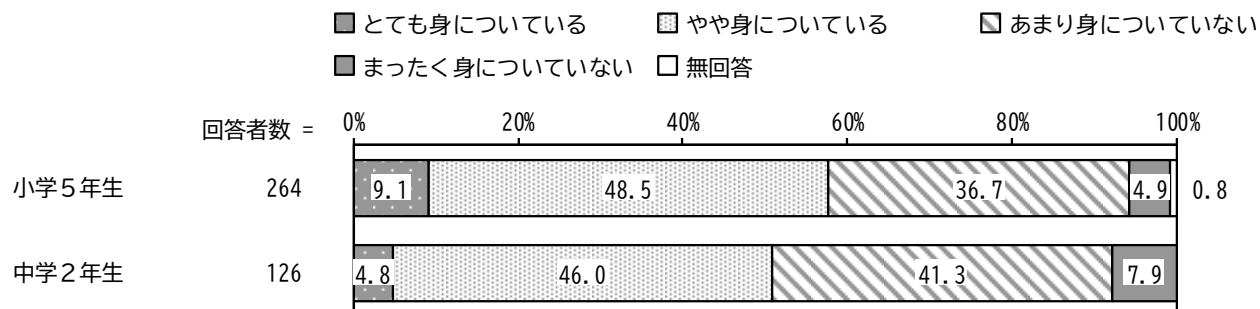
12) 新しいものを生み出す創造的な力

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。一方、「あまり身についていない」の割合が減少しています。



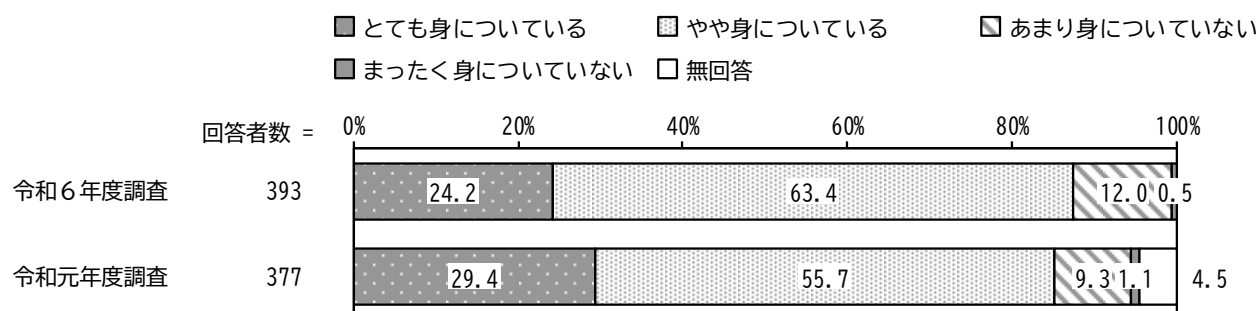
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



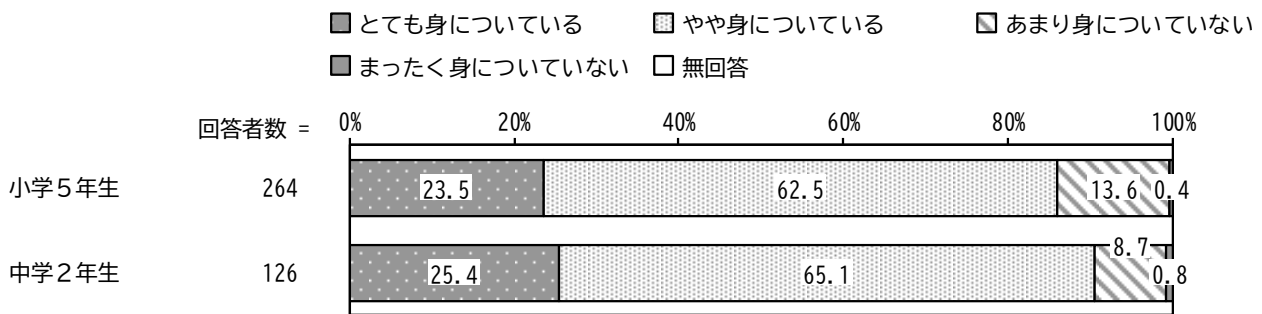
13) 善悪を判断する力

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。一方、「とても身についている」の割合が減少しています。



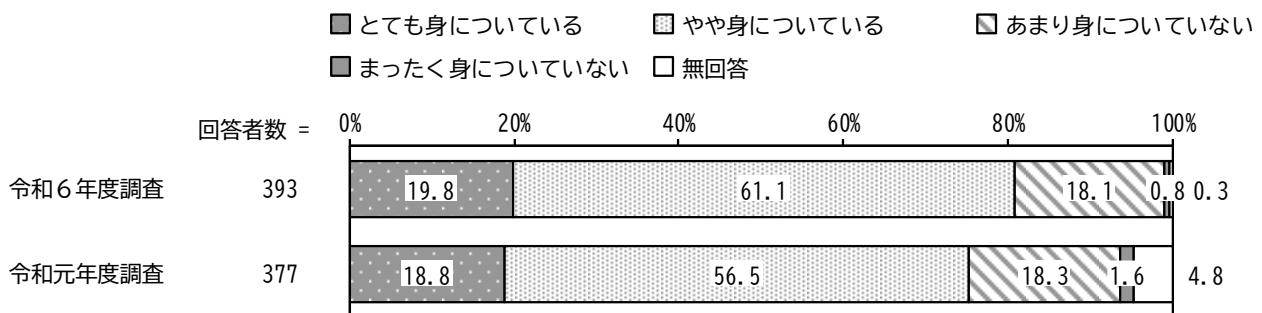
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



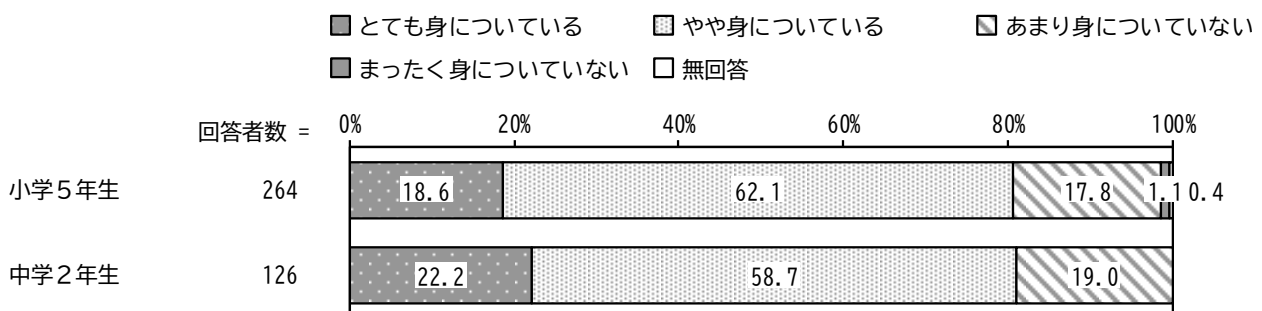
14) 人間関係を築く力

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



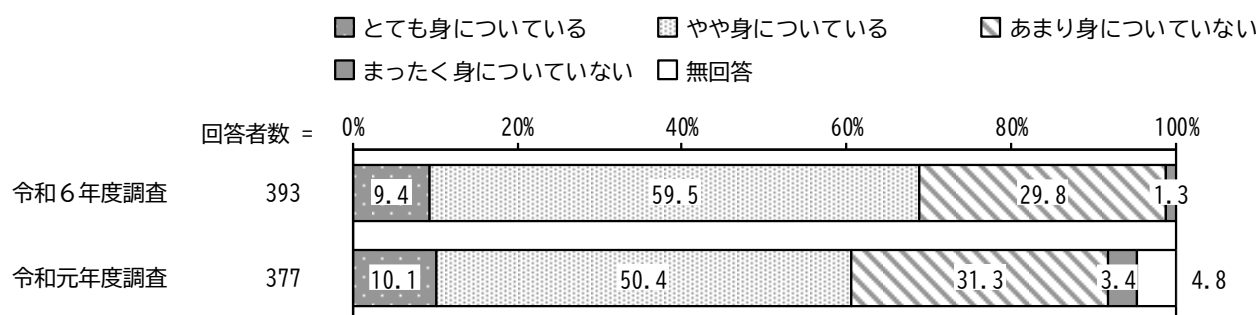
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



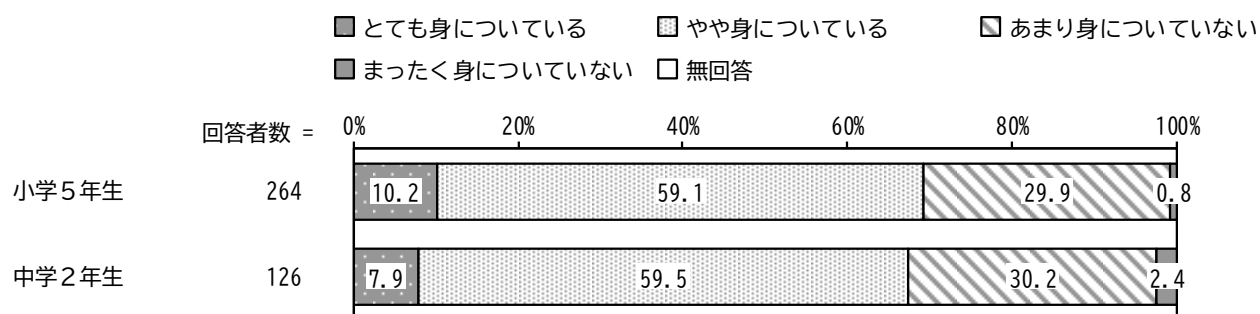
15) 社会で役立とうとする心や公共心

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。



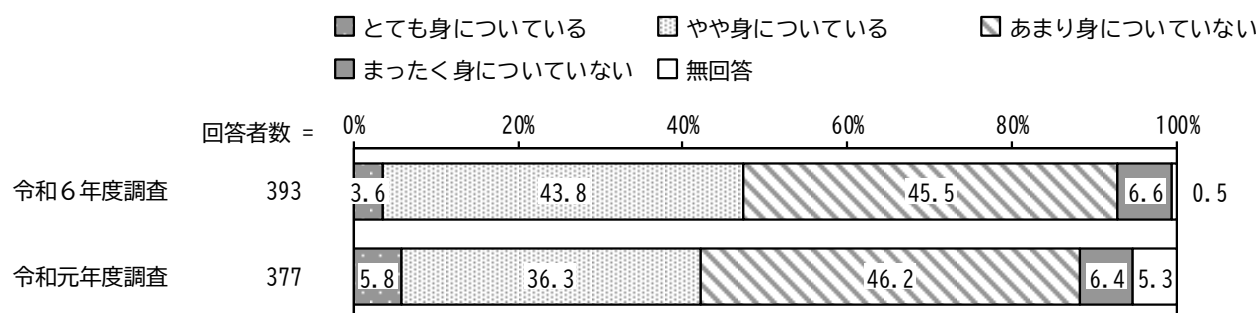
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



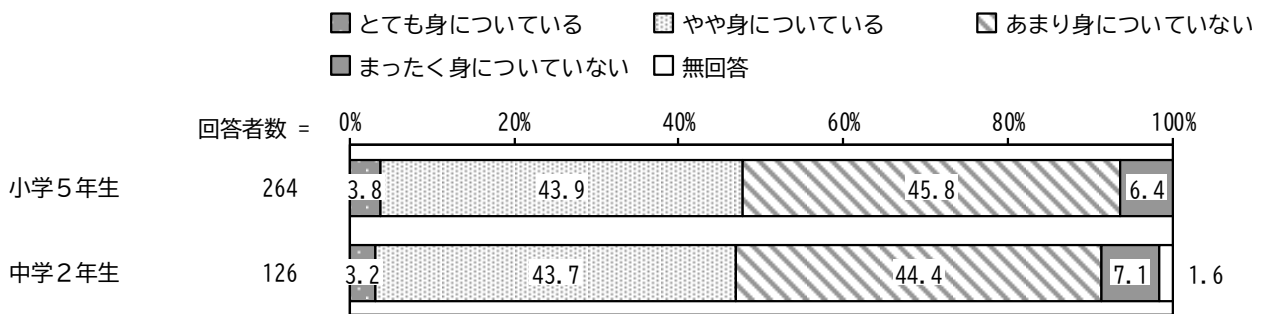
16) 郷土や国を愛する心

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。



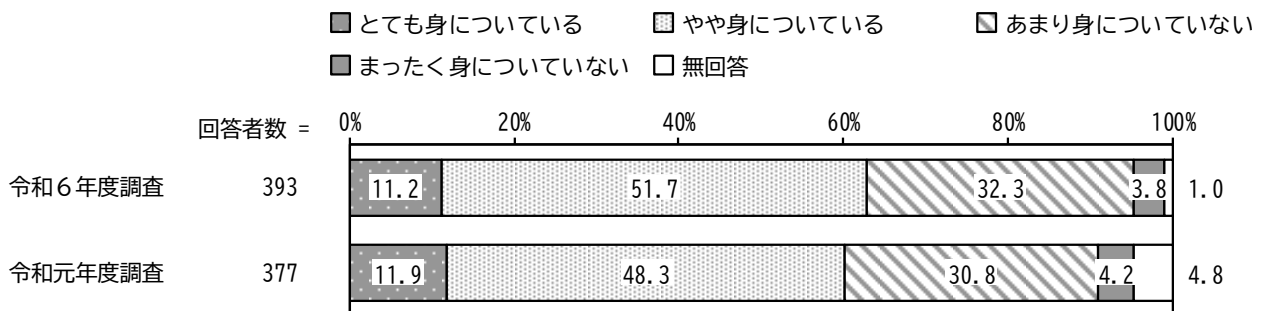
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



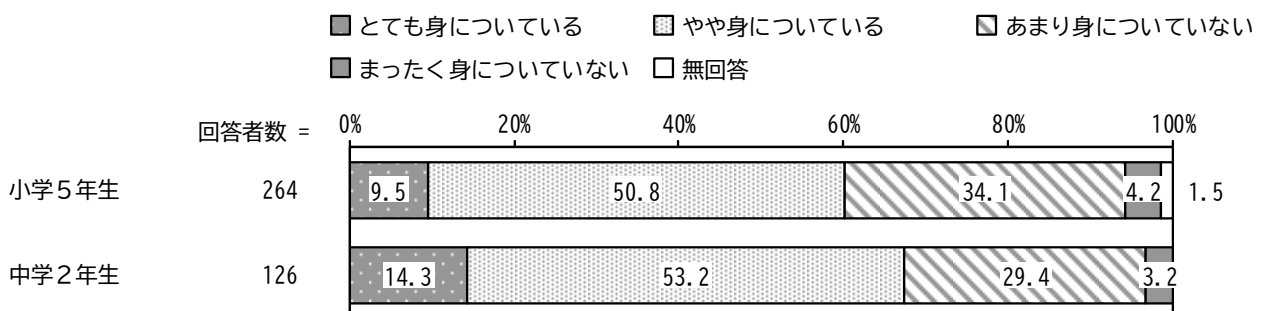
17) ものごとをやりとげるねばり強さ

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



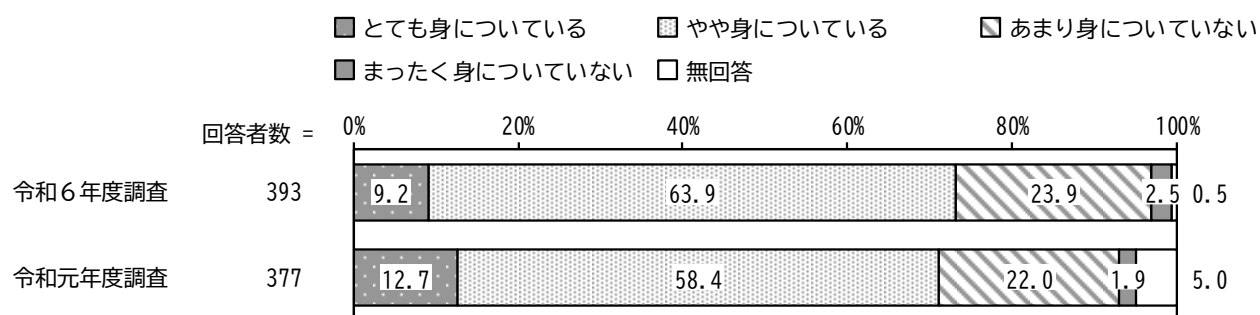
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



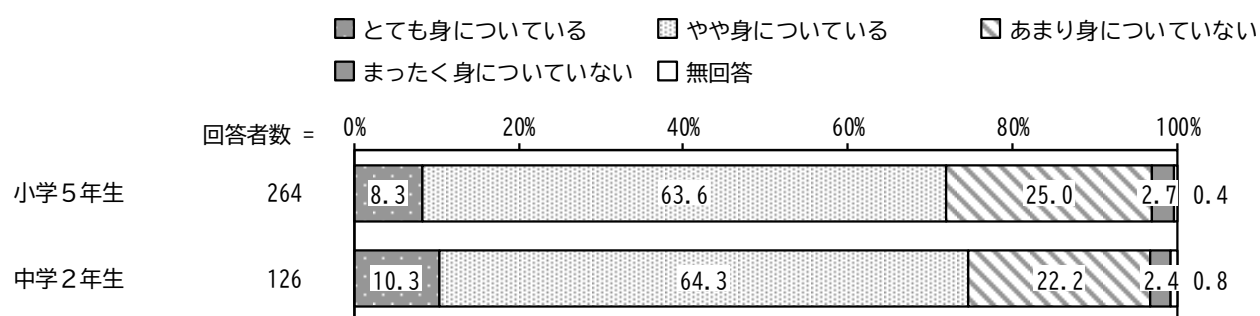
18) 社会生活に必要な常識

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。



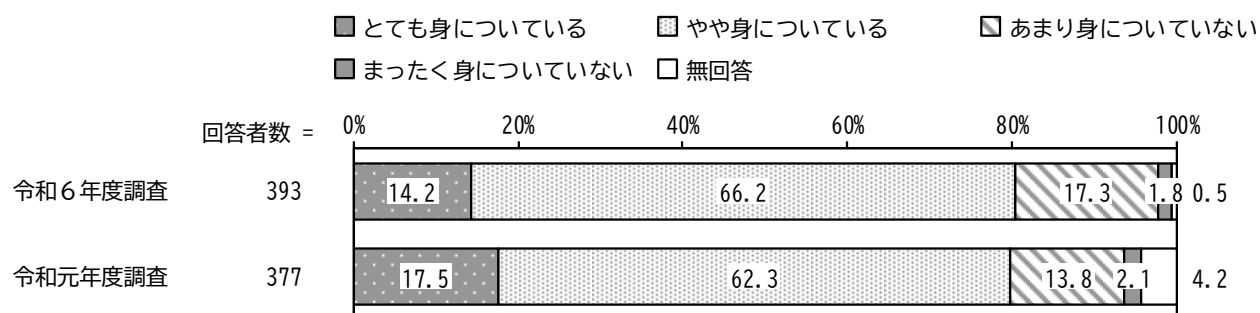
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



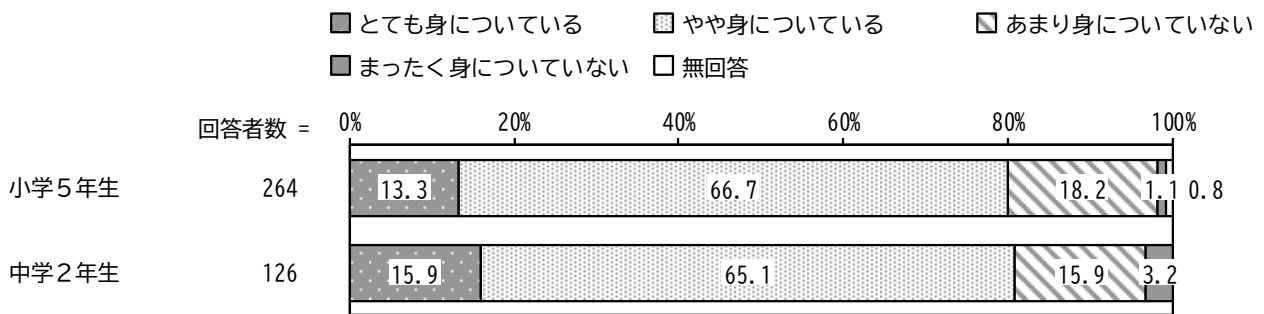
19) 基本的な生活習慣

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



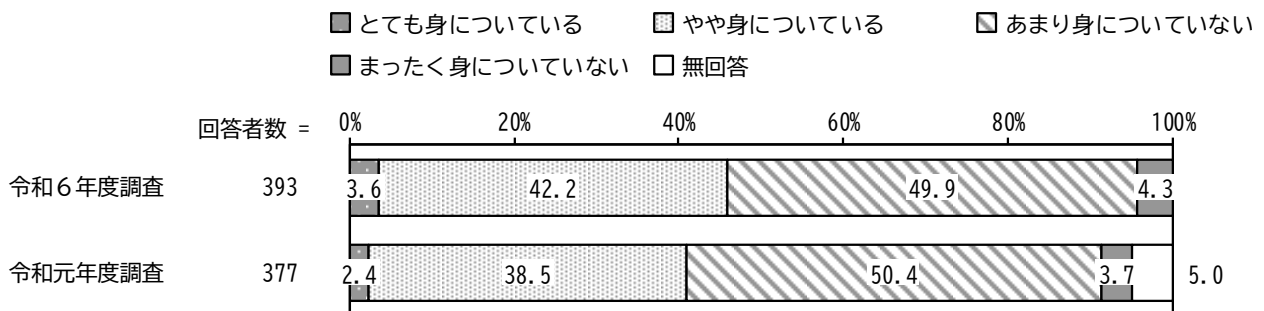
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



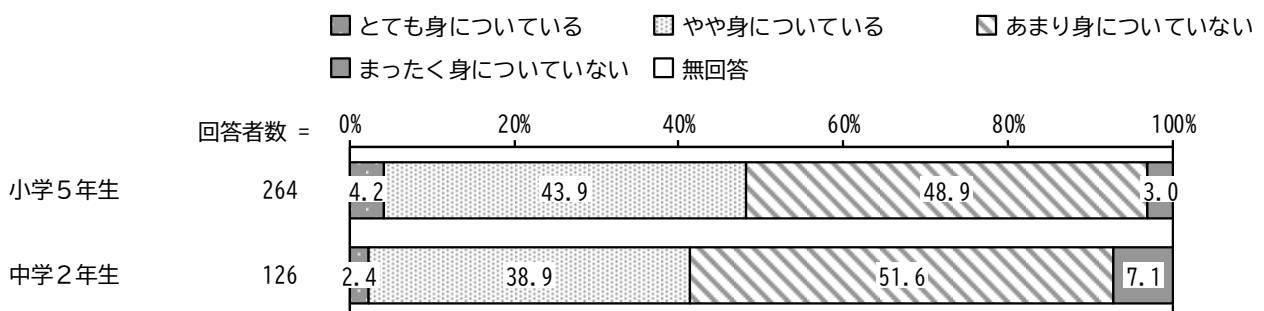
20) 幅広い知識と教養

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



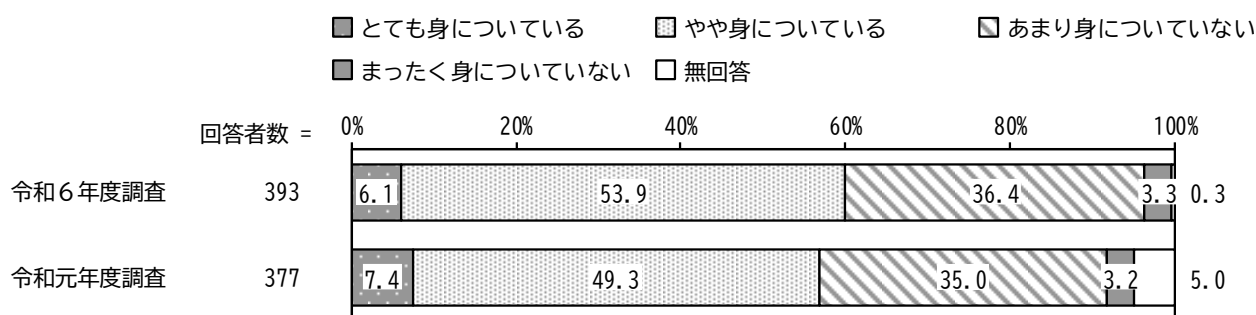
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや身についている」で小学5年生の方が高くなっています。



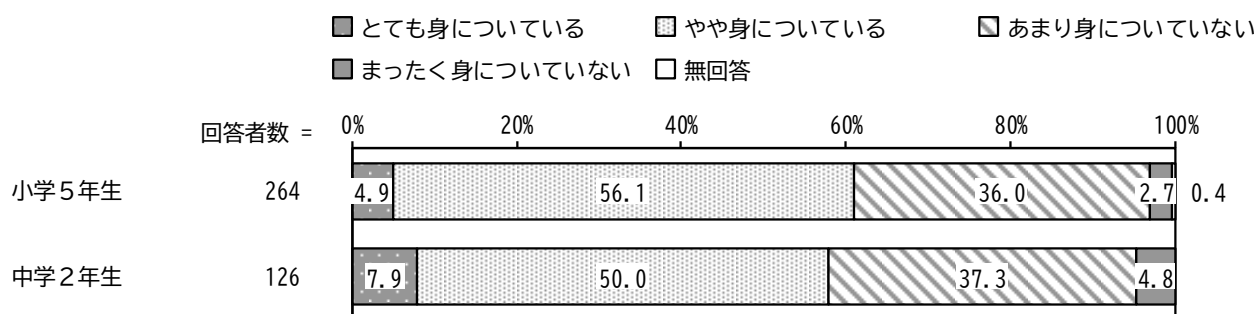
21) 自立心や自主性、積極性

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



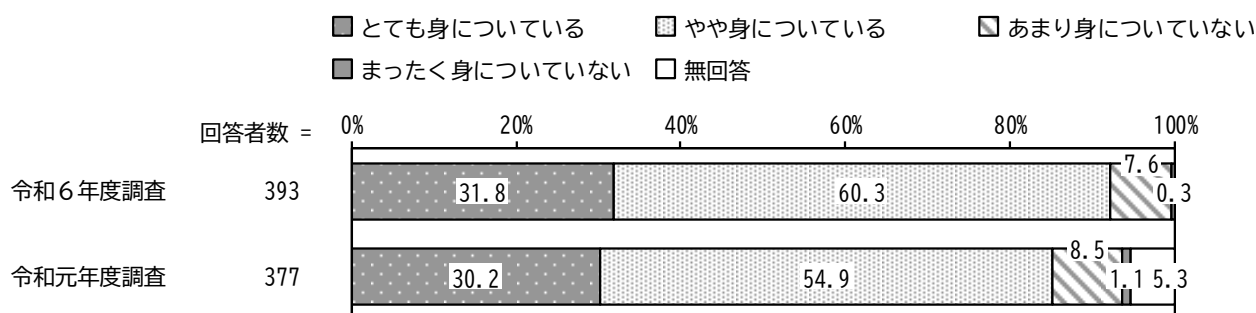
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「やや身についている」で小学5年生の方が高くなっています。



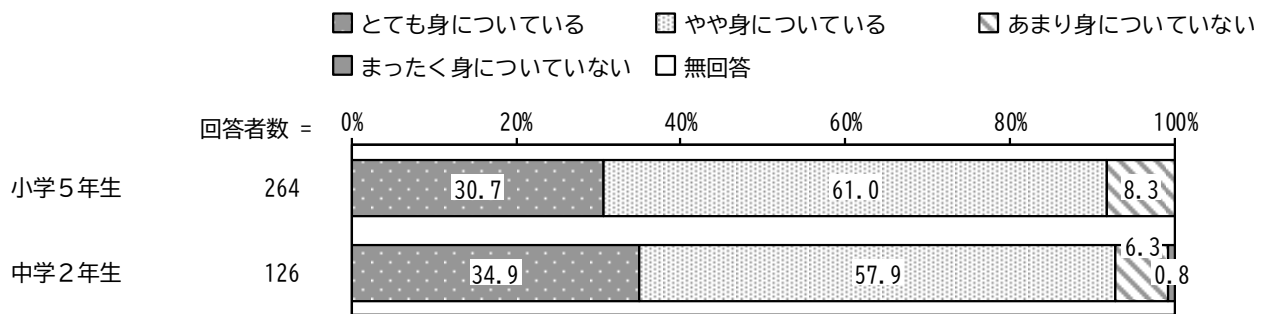
22) 他人に対する思いやりや優しさ

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。



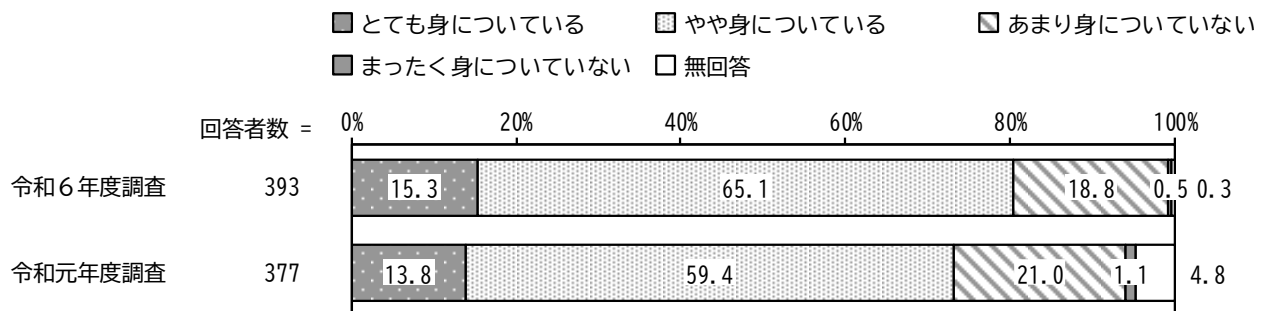
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



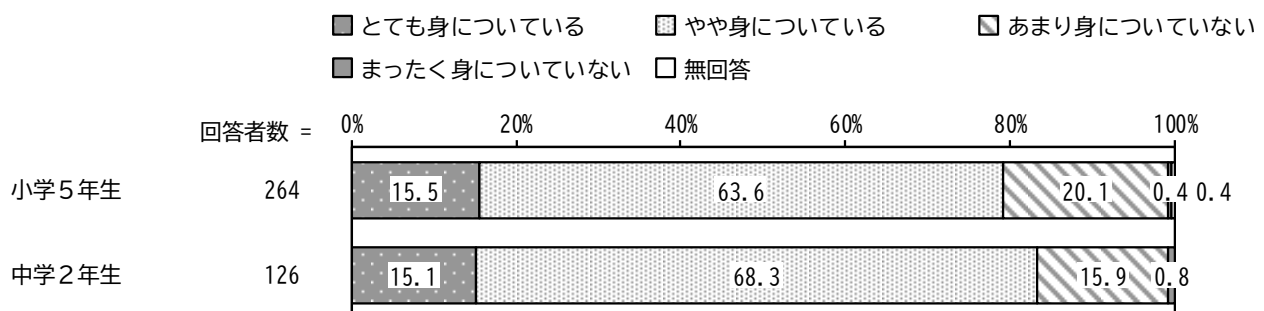
23) 他者や異質なものに対する理解や寛容さ

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。



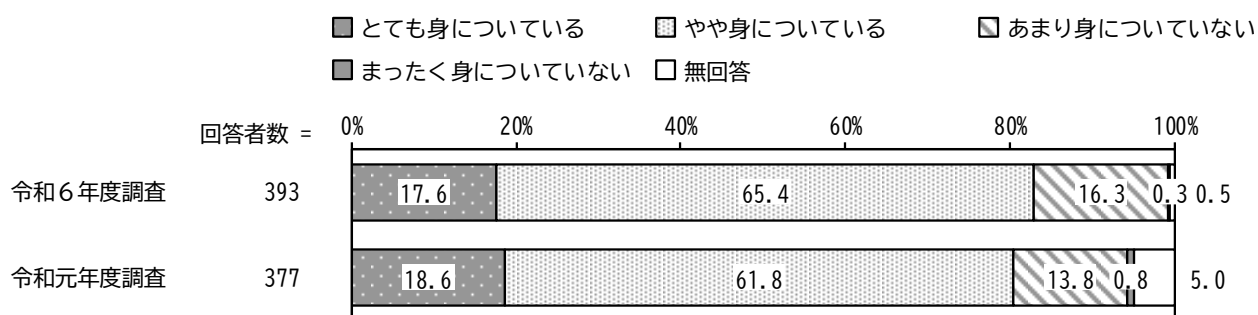
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



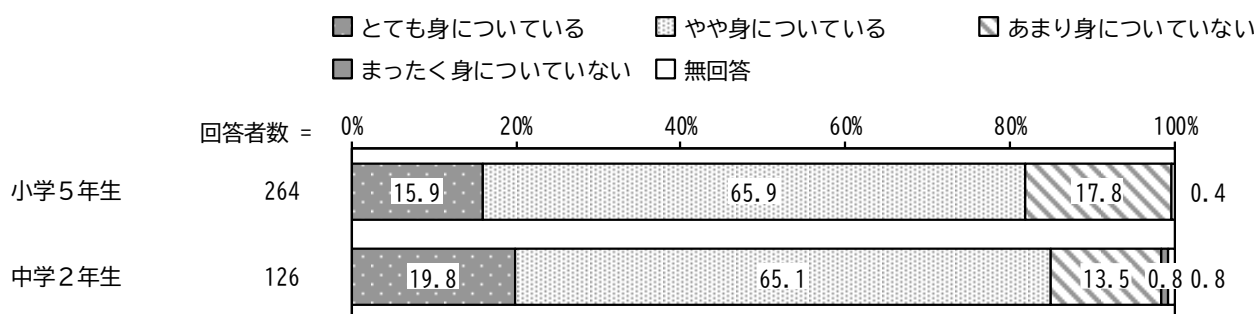
24) 生命や自然、環境を大切にする心

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



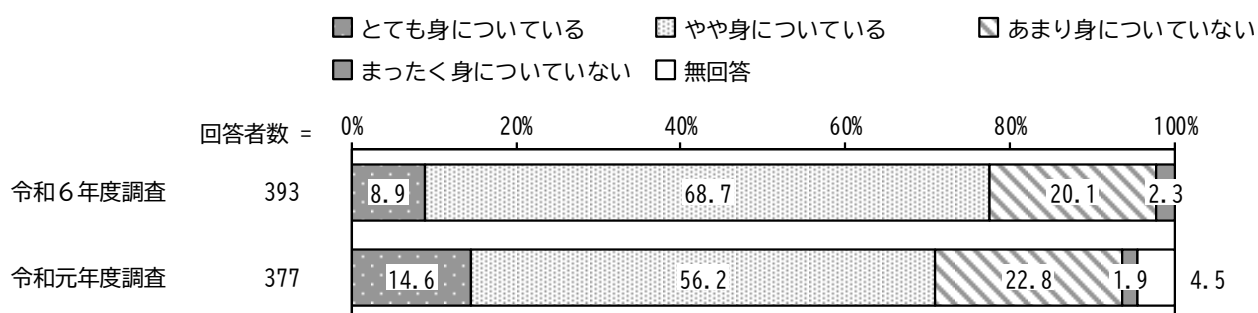
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



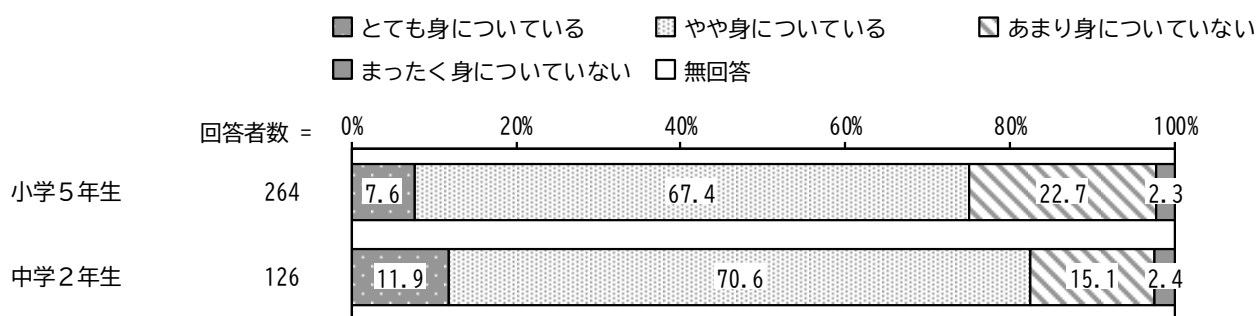
25) 言葉づかい、礼節、マナー

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。一方、「とても身についている」の割合が減少しています。



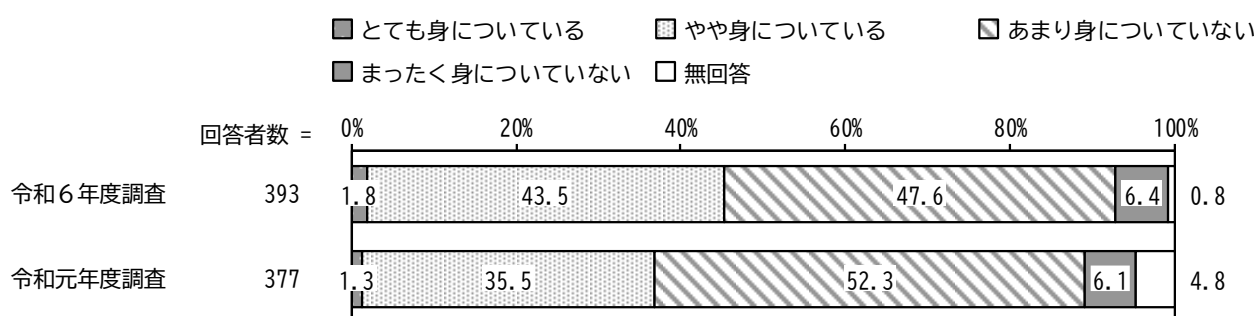
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「あまり身についていない」で小学5年生の方が高くなっています。



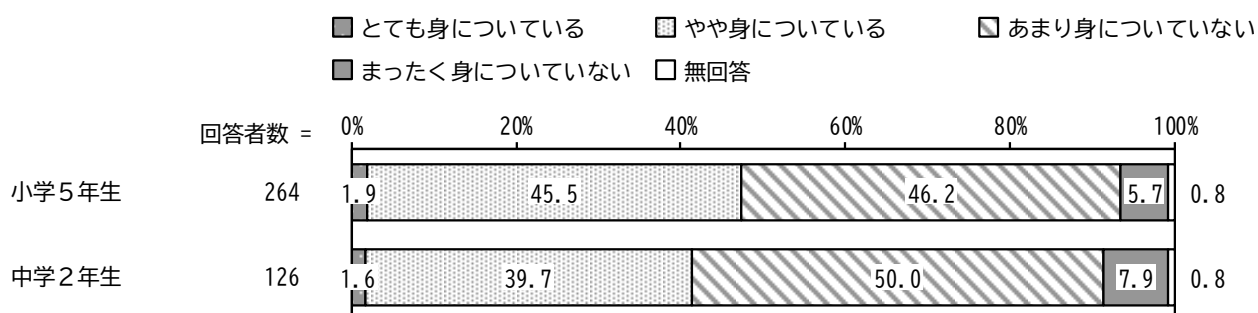
26) 郷土の歴史や文化についての理解

令和元年度調査と比較すると、「やや身についている」の割合が増加しています。



【子どもの学年別】

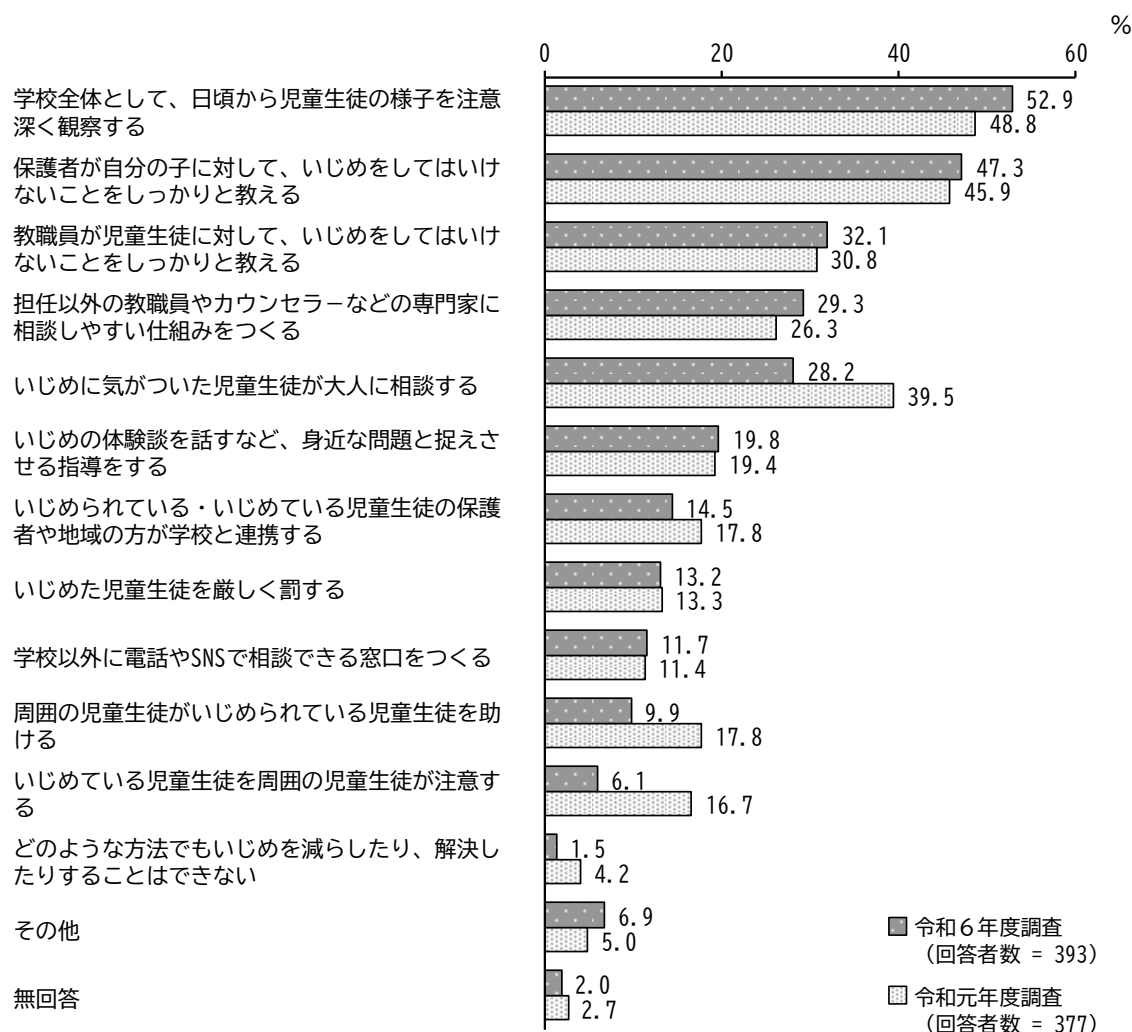
子どもの学年別にみると、「やや身についている」で小学5年生の方が高くなっています。



問11 どうしたらいじめを減らしたり、解決したりできると思いますか。
(主なもの3つまで○)

「学校全体として、日頃から児童生徒の様子を注意深く観察する」の割合が52.9%と最も高く、次いで「保護者が自分の子に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」の割合が47.3%、「教職員が児童生徒に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」の割合が32.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「周囲の児童生徒がいじめられている児童生徒を助ける」「いじめている児童生徒を周囲の児童生徒が注意する」「いじめに気がついた児童生徒が大人に相談する」の割合が減少しています。



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「教職員が児童生徒に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」、「保護者が自分の子に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」で小学5年生の方が高く、「周囲の児童生徒がいじめられている児童生徒を助ける」で中学2年生の方が高くなっています。

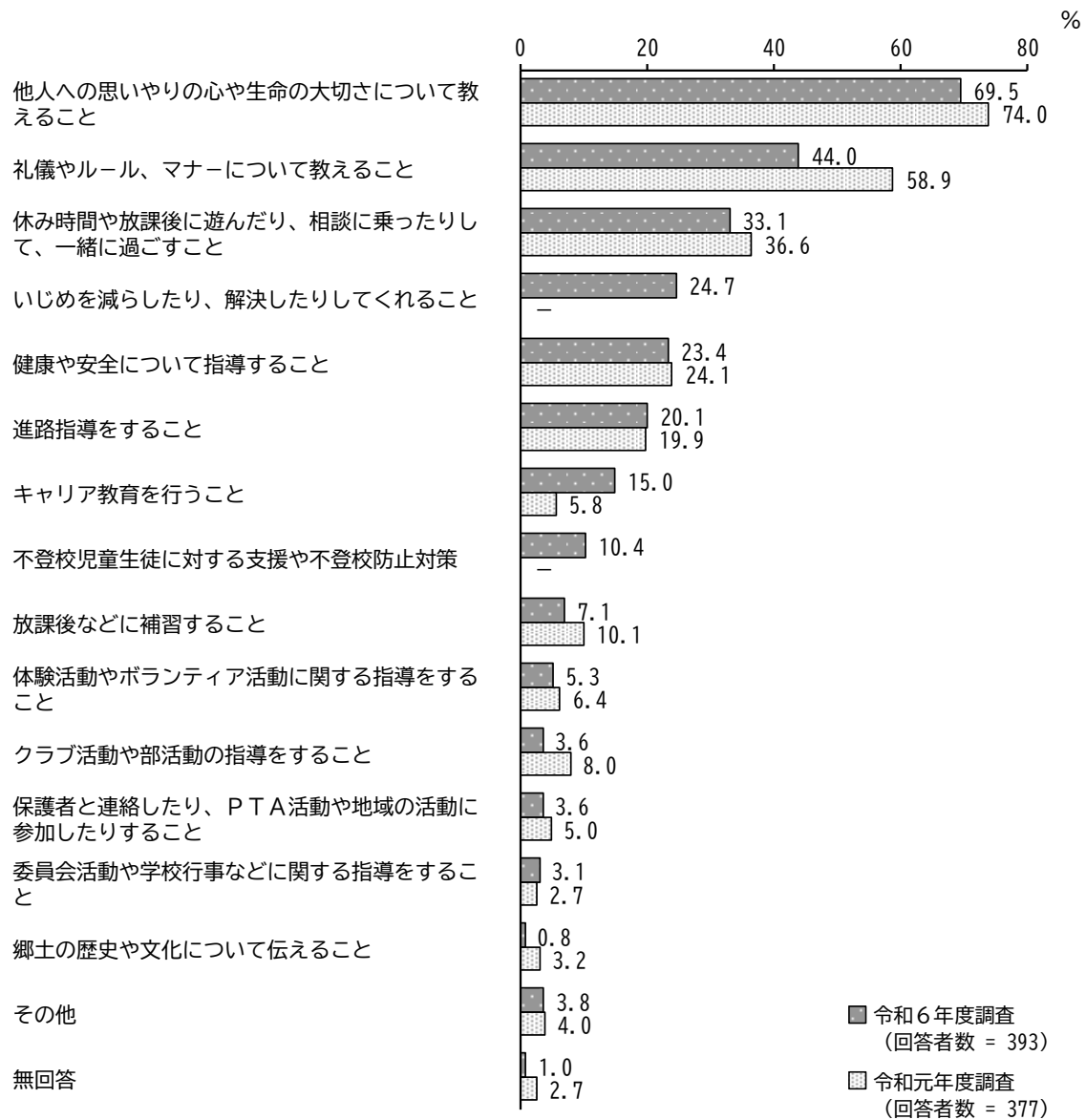
単位：％

区分	回答者数（件）	教職員が児童生徒に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える	学校全体として、日頃から児童生徒の様子を注意深く観察する	担任以外の教職員やカウンセラーなどの専門家に相談しやすい仕組みをつくる	学校以外に電話やSNSで相談できる窓口をつくる	保護者が自分の子に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える	いじめられていて・いじめられている児童生徒の保護者や地域の方が学校と連携する	いじめた児童生徒を厳しく罰する	いじめの体験談を話すなど、身近な問題と捉えさせる指導をする	周囲の児童生徒がいじめられている児童生徒を助ける	いじめている児童生徒を周囲の児童生徒が注意する	いじめに気がついた児童生徒が大人に相談する	どのような方法でもいじめを減らしたり、解決したりすることはできない	その他	無回答
全 体	393	32.1	52.9	29.3	11.7	47.3	14.5	13.2	19.8	9.9	6.1	28.2	1.5	6.9	2.0
小学5年生	264	38.3	51.5	28.8	10.6	50.8	12.5	12.5	20.5	7.2	5.3	26.9	1.1	7.2	2.7
中学2年生	126	19.8	56.3	30.2	13.5	38.9	19.0	15.1	18.3	15.9	7.9	31.7	2.4	5.6	0.8

問12 お子さんの学校の先生に、次の中から特に期待することは何ですか。
(主なもの3つまで○)

「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の割合が69.5%と最も高く、次いで「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が44.0%、「休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと」の割合が33.1%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「キャリア教育を行うこと」の割合が増加しています。一方、「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が減少しています。



※前回調査では、「いじめを減らしたり、解決したりしてくれること」、「不登校児童生徒に対する支援や不登校防止対策」はありませんでした。

【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」、「休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと」、「いじめを減らしたり、解決したりしてくれること」で小学5年生の方が高く、「クラブ活動や部活動の指導をすること」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

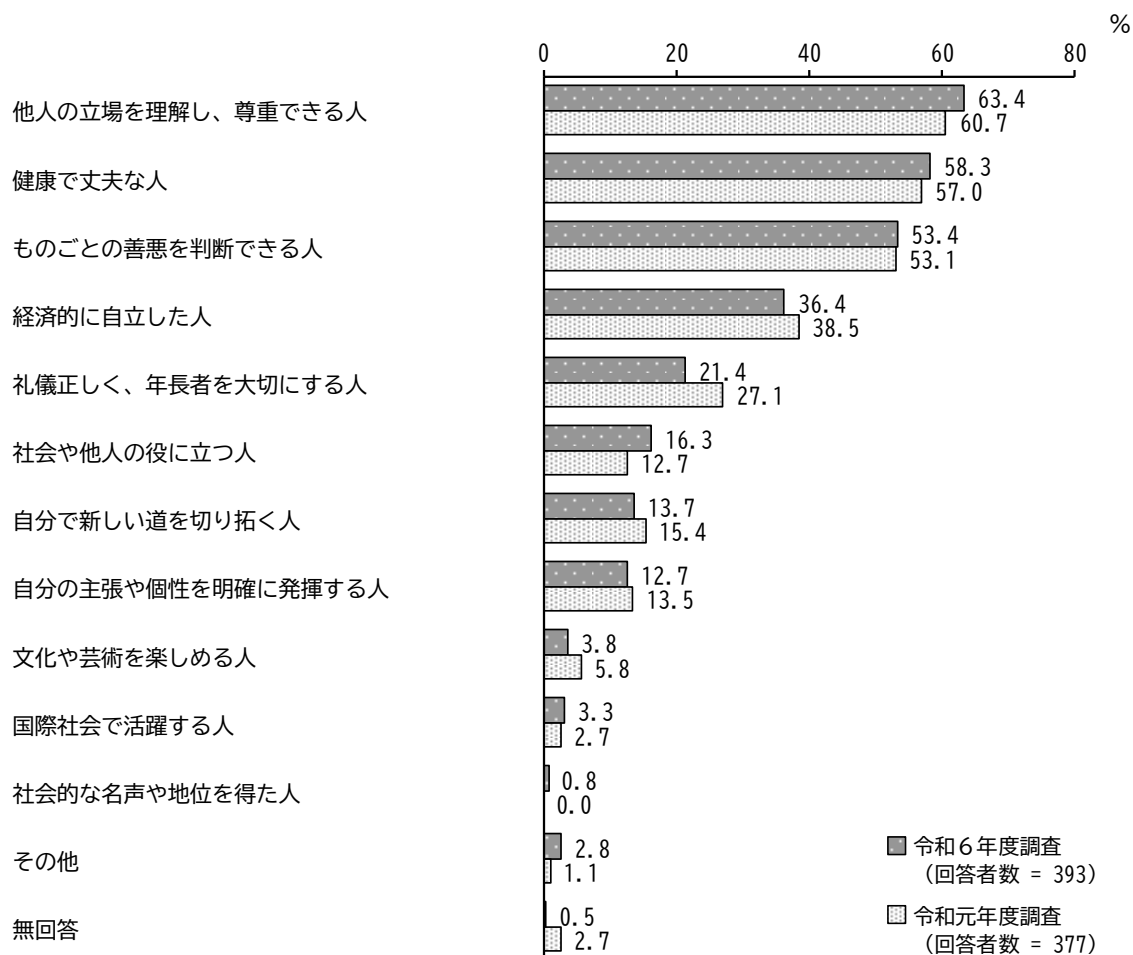
区分	回答者数（件）	礼儀やルール、マナーについて教えること	他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること	健康や安全について指導すること	キャリア教育を行うこと	進路指導をすること	休み時間や放課後に遊んだり、相談に乗ったりして、一緒に過ごすこと	放課後などに補習すること	クラブ活動や部活動の指導をすること
全 体	393	44.0	69.5	23.4	15.0	20.1	33.1	7.1	3.6
小学5年生	264	49.2	74.6	26.1	12.1	8.3	40.2	5.3	1.1
中学2年生	126	32.5	58.7	18.3	21.4	45.2	17.5	11.1	7.9

区分	委員会活動や学校行事などに関する指導をすること	体験活動やボランティア活動に関する指導をすること	保護者と連絡したり、PTA活動や地域の活動に参加したりすること	郷土の歴史や文化について伝えること	いじめを減らしたり、解決したりしてくれること	不登校児童生徒に対する支援や不登校防止対策	その他	無回答
全 体	3.1	5.3	3.6	0.8	24.7	10.4	3.8	1.0
小学5年生	4.2	4.2	2.7	1.1	27.7	11.0	4.2	0.8
中学2年生	0.8	7.9	5.6	－	18.3	9.5	3.2	1.6

問13 お子さんに将来どのような人になってもらいたいと思いますか。
(主なもの3つまで○)

「他人の立場を理解し、尊重できる人」の割合が63.4%と最も高く、次いで「健康で丈夫な人」の割合が58.3%、「ものごとの善悪を判断できる人」の割合が53.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「礼儀正しく、年長者を大切にする人」の割合が減少しています。



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「健康で丈夫な人」、「他人の立場を理解し、尊重できる人」で小学5年生の方が高く、「経済的に自立した人」で中学2年生の方が高くなっています。

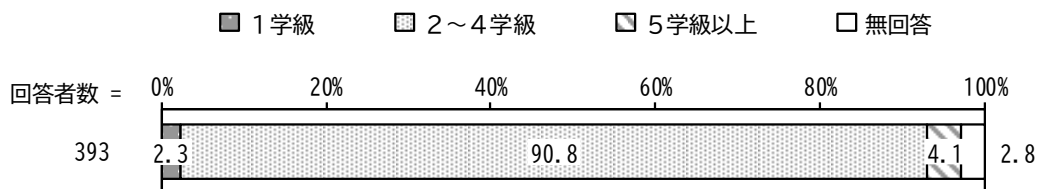
単位：％

区分	回答者数(件)	健康で丈夫な人	礼儀正しく、年長者を大切にする人	他人の立場を理解し、尊重できる人	ものごとの善悪を判断できる人	社会や他人の役に立つ人	社会的な名声や地位を得た人	経済的に自立した人	自分で新しい道を切り拓く人	自分の主張や個性を明確に発揮する人	文化や芸術を楽しめる人	国際社会で活躍する人	その他	無回答
全 体	393	58.3	21.4	63.4	53.4	16.3	0.8	36.4	13.7	12.7	3.8	3.3	2.8	0.5
小学5年生	264	61.7	19.7	65.2	52.7	15.9	0.8	34.5	12.9	12.1	3.8	3.4	3.4	0.8
中学2年生	126	50.8	24.6	59.5	55.6	15.1	0.8	41.3	15.9	14.3	4.0	3.2	1.6	—

問 14 狭山市では、子どもたちのより良い教育環境を目指して、適正な学校規模を小学校は 1 学年あたり 2 ～ 4 学級の 12 学級から 24 学級、中学校は 1 学年あたり 4 ～ 6 学級の 12 学級から 18 学級としています。学校の再編などを行う場合、学級数や定員数はどのくらいが適当だと思いますか。その理由もお答えください。

ア) 小学校 1 学年あたりの学級数

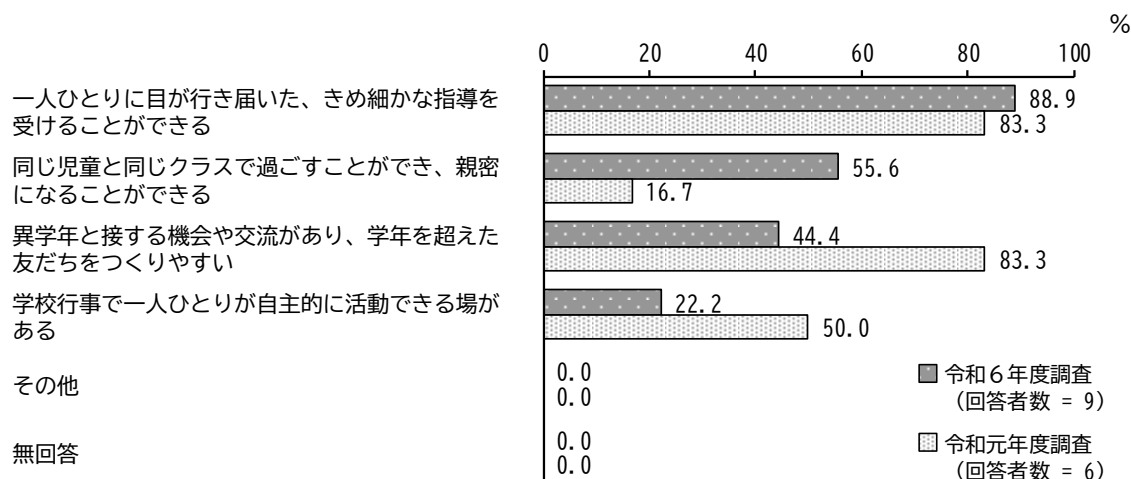
「1 学級」の割合が 2.3%、「2 ～ 4 学級」の割合が 90.8%、「5 学級以上」の割合が 4.1% となっています。



ア－1) 小学校で 1 学級が適当と答えた理由（主なもの 3 つまで○）

「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細かな指導を受けることができる」が 8 件、「同じ児童と同じクラスで過ごすことができ、親密になることができる」が 5 件、「異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友だちをつくりやすい」が 4 件となっています。

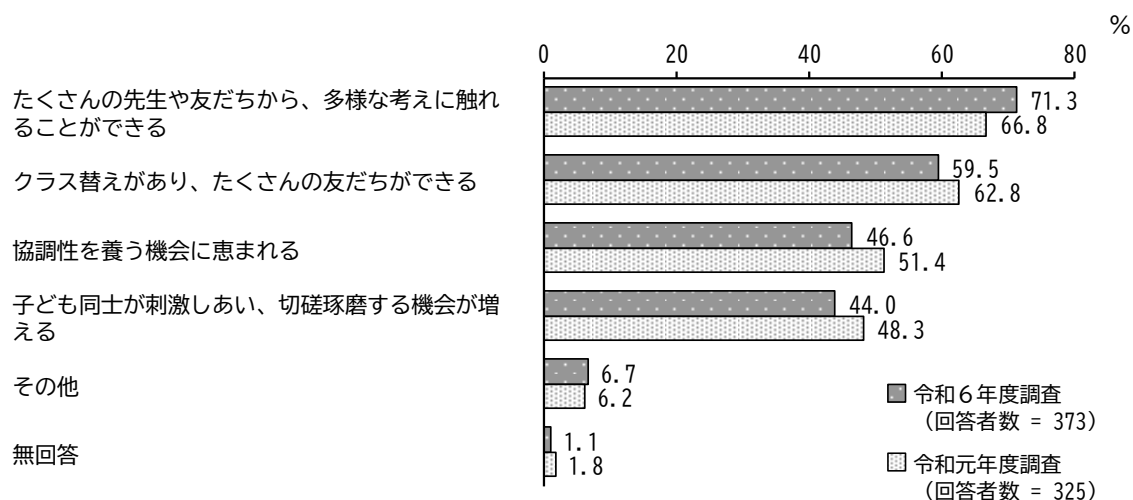
令和元年度調査と比較すると、「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細かな指導を受けることができる」「同じ児童と同じクラスで過ごすことができ、親密になることができる」の割合が増加しています。一方、「学校行事で一人ひとりが自主的に活動できる場がある」「異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友だちをつくりやすい」の割合が減少しています。



アー２）小学校で２学級以上が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

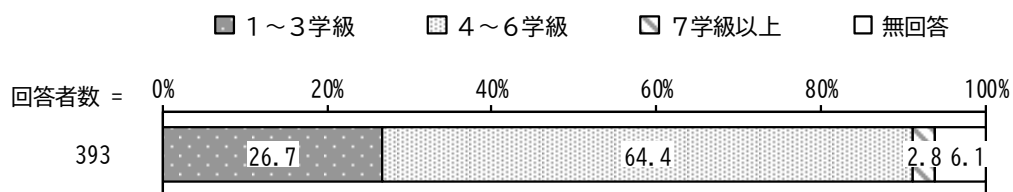
「たくさんの先生や友だちから、多様な考えに触れることができる」の割合が71.3%と最も高く、次いで「クラス替えがあり、たくさんの友だちができる」の割合が59.5%、「協調性を養う機会に恵まれる」の割合が46.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



イ）中学校1学年あたりの学級

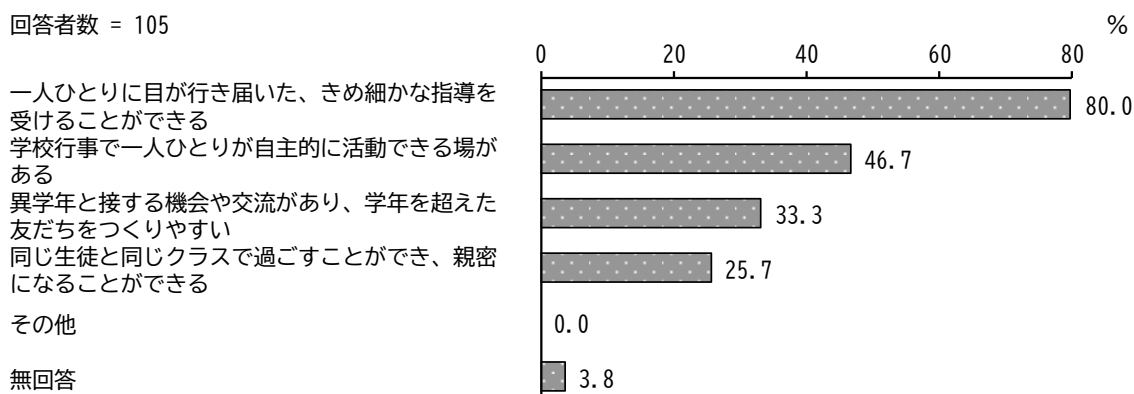
「1～3学級」の割合が26.7%、「4～6学級」の割合が64.4%、「7学級以上」の割合が2.8%となっています。



イ－１）中学校で１～３学級が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細かな指導を受けることができる」の割合が８０％と最も高く、次いで「学校行事で一人ひとりが自主的に活動できる場がある」の割合が４６．７％、「異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友だちをつくりやすい」の割合が３３．３％となっています。

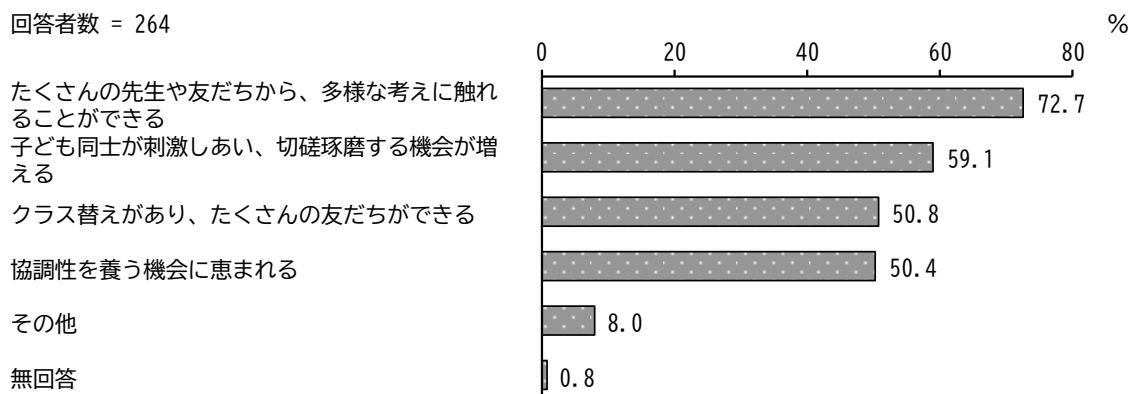
回答者数 = 105



イ－２）中学校で４学級以上が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

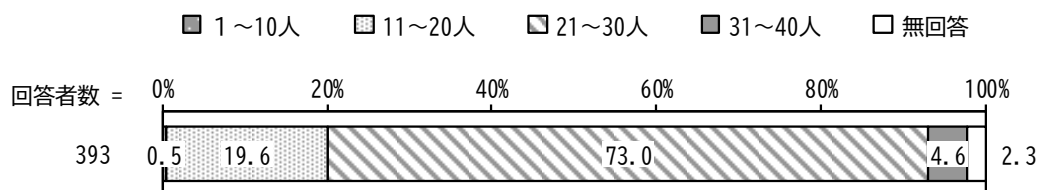
「たくさんの先生や友だちから、多様な考えに触れることができる」の割合が７２．７％と最も高く、次いで「子ども同士が刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える」の割合が５９．１％、「クラス替えがあり、たくさんの友だちができる」の割合が５０．８％となっています。

回答者数 = 264



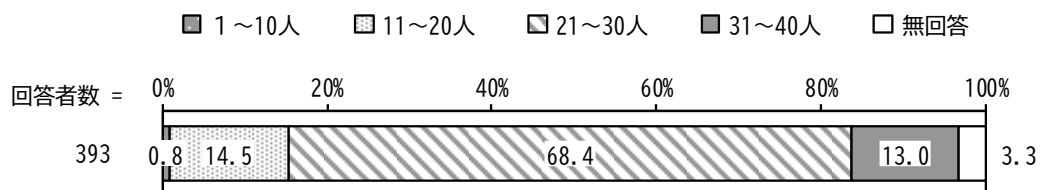
ウ）小学校１学級あたりの理想的な定員数

「２１～３０人」の割合が７３％と最も高く、次いで「１１～２０人」の割合が１９．６％、「３１～４０人」の割合が４．６％となっています。



エ) 中学校1学級あたりの理想的な定員数

「21～30人」の割合が68.4%と最も高く、次いで「11～20人」の割合が14.5%、「31～40人」の割合が13.0%となっています。

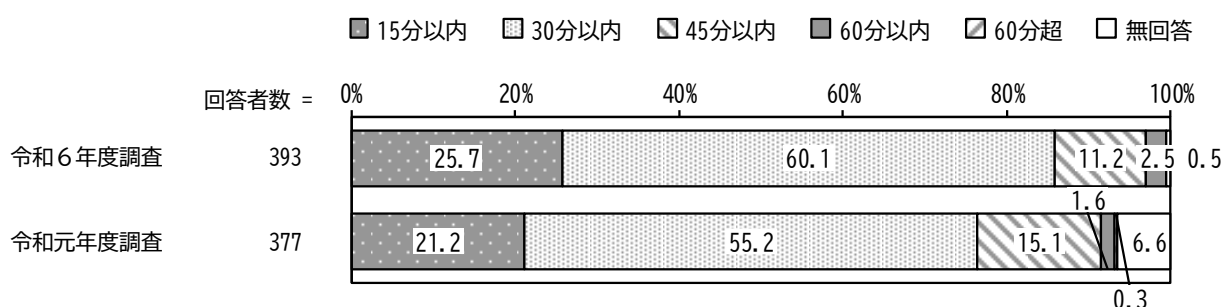


問15 国においては、小学校までの通学時間（距離）の目安をおおむね1時間（4キロメートル）以内、中学校までの通学時間（距離）の目安をおおむね1時間（6キロメートル）以内としています。どの程度の時間が通学可能な範囲と考えますか。

ア) 小学生

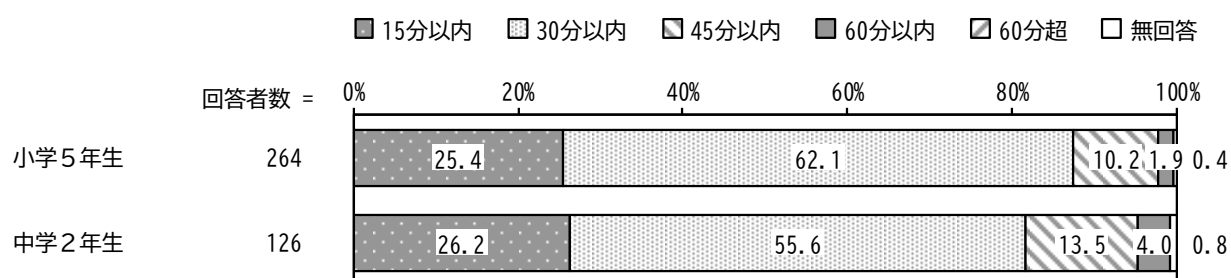
「30分以内」の割合が60.1%と最も高く、次いで「15分以内」の割合が25.7%、「45分以内」の割合が11.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【子どもの学年別】

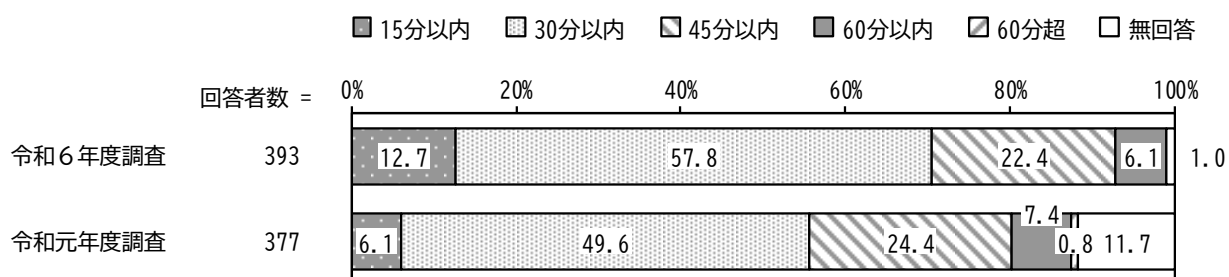
子どもの学年別にみると、「30分以内」で小学5年生の方が高くなっています。



イ) 中学生

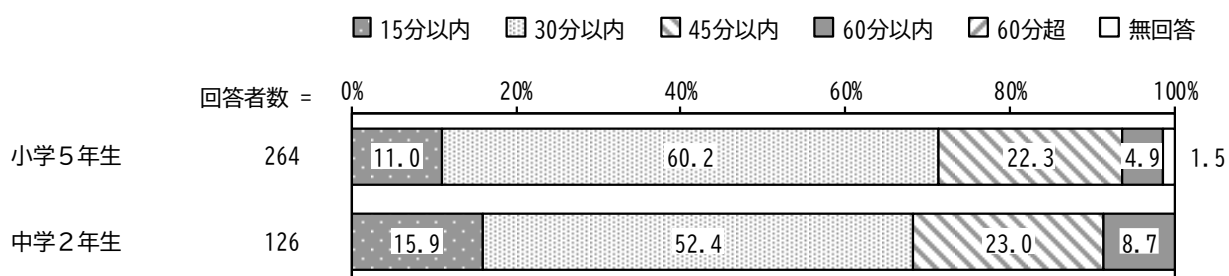
「30分以内」の割合が57.8%と最も高く、次いで「45分以内」の割合が22.4%、「15分以内」の割合が12.7%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「15分以内」「30分以内」の割合が増加しています。



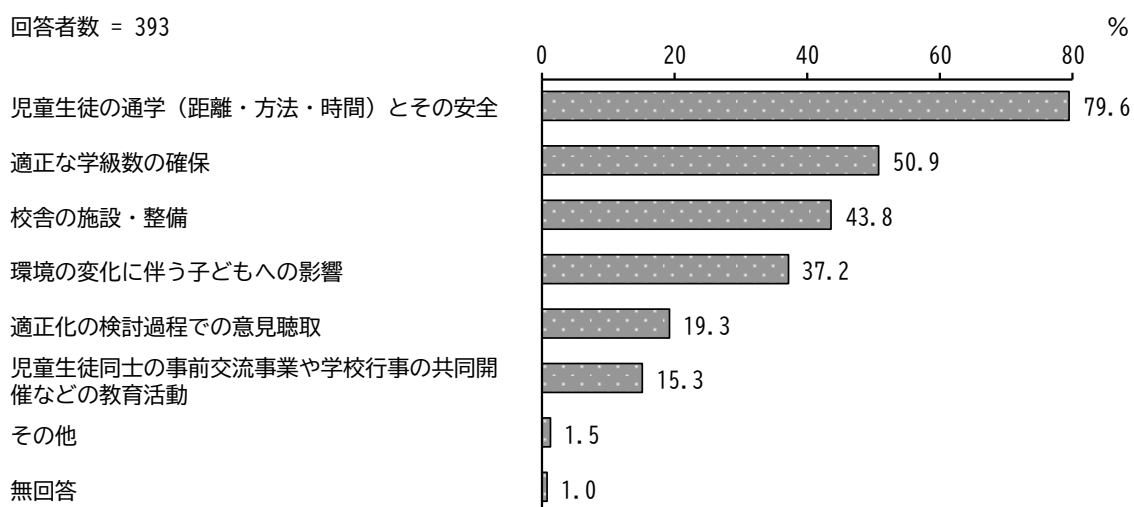
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「30分以内」で小学5年生の方が高くなっています。



問16 学校の規模と配置の適正化を進めるうえで、配慮すべきだと思うことは何ですか。 (主なものを3つまで○)

「児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全」の割合が79.6%と最も高く、次いで「適正な学級数の確保」の割合が50.9%、「校舎の施設・整備」の割合が43.8%となっています。



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「適正な学級数の確保」、「環境の変化に伴う子どもへの影響」で小学5年生の方が高くなっています。

単位：％

区分	回答者数 (件)	適正な学級数の確保	児童生徒の通学（距離・方法・時間）と安全	環境の変化に伴う子どもへの影響	児童生徒同士の前交流事業や学校の行事などの共同開催などの教育活動	適正化の検討過程での意見聴取	校舎の施設・整備	その他	無回答
全 体	393	50.9	79.6	37.2	15.3	19.3	43.8	1.5	1.0
小学5年生	264	52.7	80.7	39.0	16.3	20.5	45.1	1.1	0.8
中学2年生	126	46.8	77.0	33.3	13.5	16.7	40.5	2.4	1.6

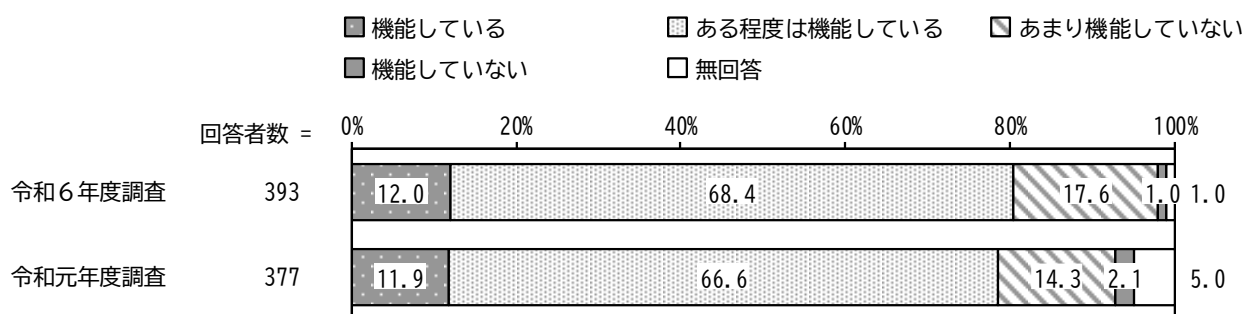
（４）家庭教育・地域教育について

問 17 周辺の社会を見まわして、家庭の教育力、地域の教育力が機能していると思いますか。（それぞれにひとつずつ〇）

家庭の教育力

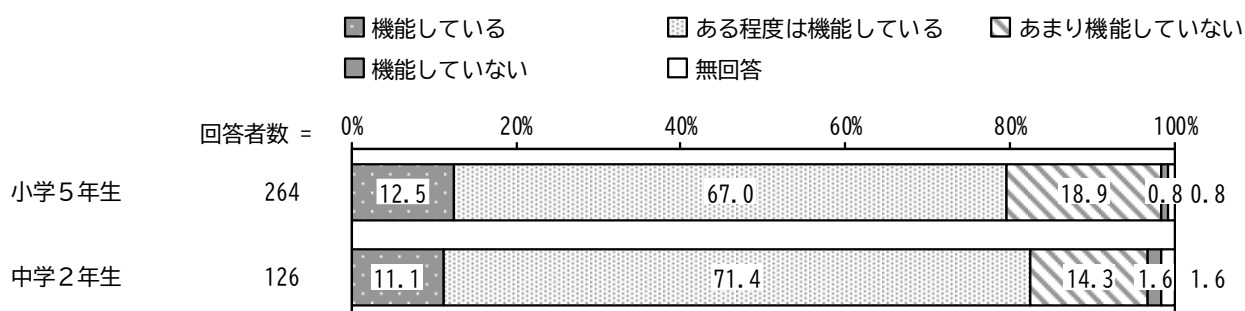
「機能している」「ある程度は機能している」を合わせた”機能している”の割合が80.4%、「あまり機能していない」「機能していない」を合わせた”機能していない”の割合が18.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【子どもの学年別】

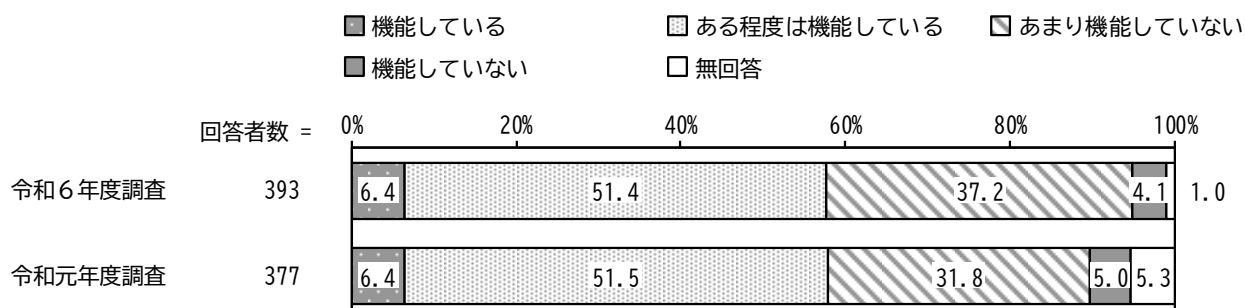
子どもの学年別にみると、大きな差はみられません。



地域の教育力

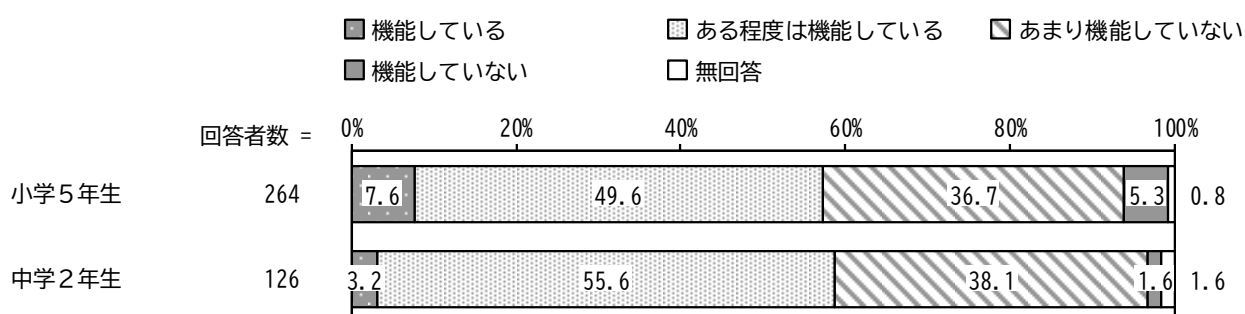
「機能している」「ある程度は機能している」を合わせた「機能している」の割合が57.8%、「あまり機能していない」「機能していない」を合わせた「機能していない」の割合が41.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「あまり機能していない」の割合が増加しています。



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「ある程度は機能している」で中学2年生の方が高くなっています。

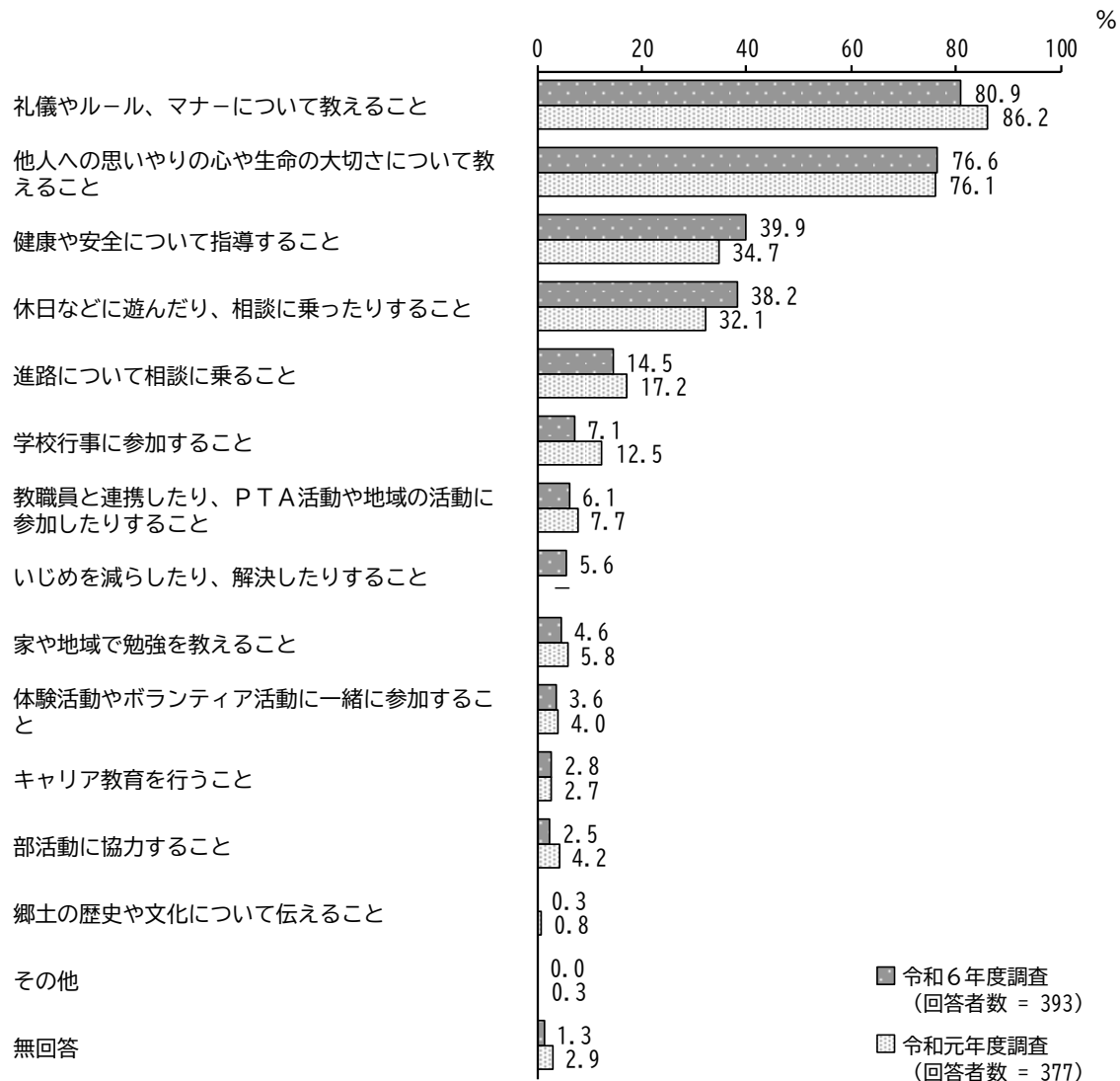


問 18 保護者や地域の方が主に担うべきだと考えることは何ですか。
(それぞれに主なもの3つまで○)

保護者

「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が80.9%と最も高く、次いで「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の割合が76.6%、「健康や安全について指導すること」の割合が39.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「健康や安全について指導すること」「休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること」の割合が増加しています。一方、「礼儀やルール、マナーについて教えること」「学校行事に参加すること」の割合が減少しています。



※前回調査では、「いじめを減らしたり、解決したりすること」はありませんでした。

【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること」で小学5年生の方が高くなっています。

単位：％

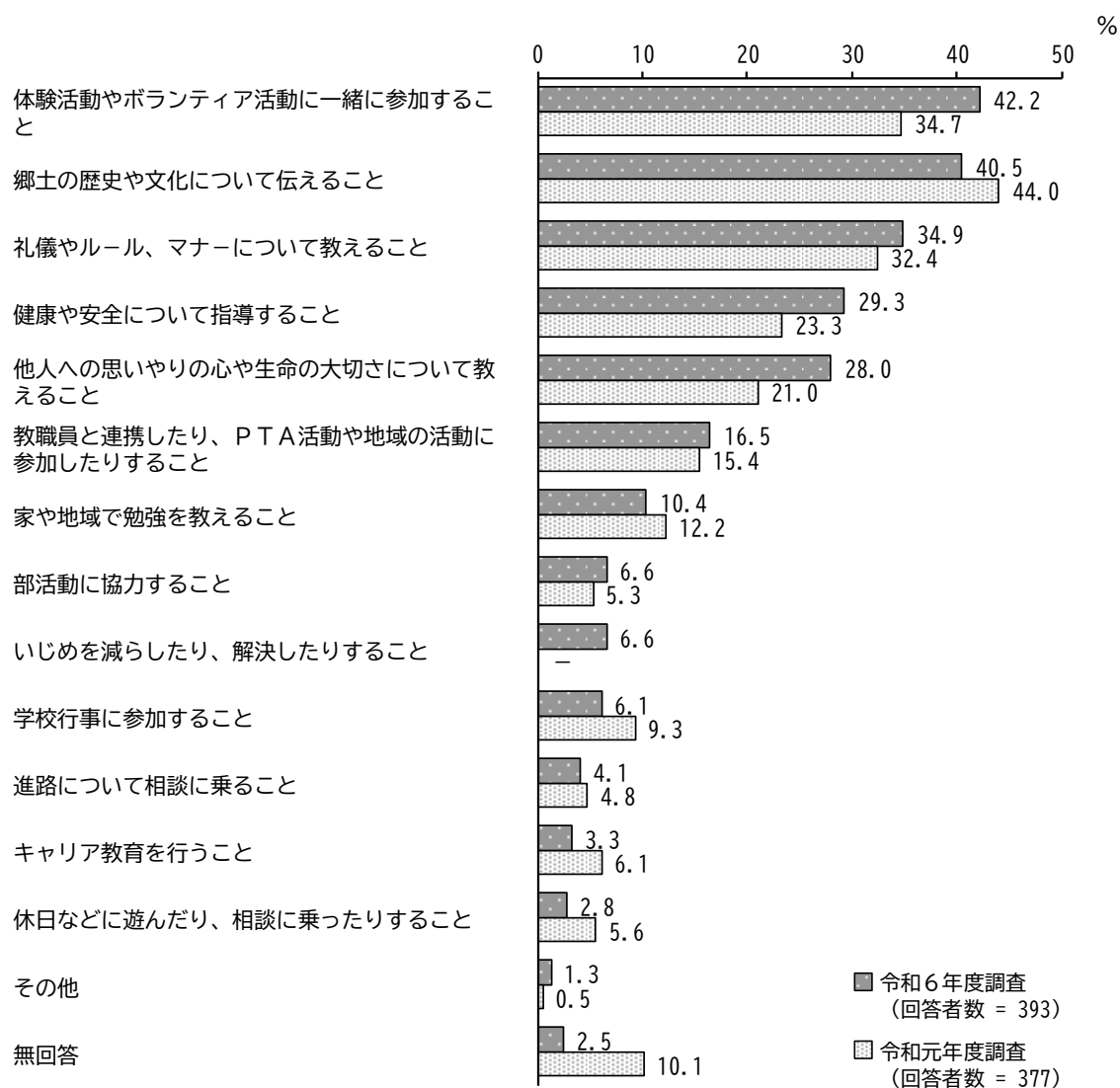
区分	回答者数(件)	礼儀やルール、マナーについて教えること	他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること	健康や安全について指導すること	キャリア教育を行うこと	進路について相談に乗ること	休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること	家や地域で勉強を教えること
全 体	393	80.9	76.6	39.9	2.8	14.5	38.2	4.6
小学5年生	264	79.9	76.1	39.8	2.7	13.3	43.2	5.7
中学2年生	126	83.3	77.0	39.7	3.2	17.5	27.0	2.4

区分	部活動に協力すること	学校行事に参加すること	体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること	教職員と連携したり、PTA活動や地域の活動に参加したりすること	いじめを減らしたり、解決したりすること	郷土の歴史や文化について伝えること	その他	無回答
全 体	2.5	7.1	3.6	6.1	5.6	0.3	—	1.3
小学5年生	1.5	6.8	3.0	5.3	5.7	0.4	—	1.1
中学2年生	4.8	7.9	4.8	7.9	5.6	—	—	1.6

地域の方

「体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること」の割合が42.2%と最も高く、次いで「郷土の歴史や文化について伝えること」の割合が40.5%、「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が34.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」「健康や安全について指導すること」「体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること」の割合が増加しています。



※前回調査では、「いじめを減らしたり、解決したりすること」はありませんでした。

【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」、「健康や安全について指導すること」で小学5年生の方が高く、「郷土の歴史や文化について伝えること」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：％

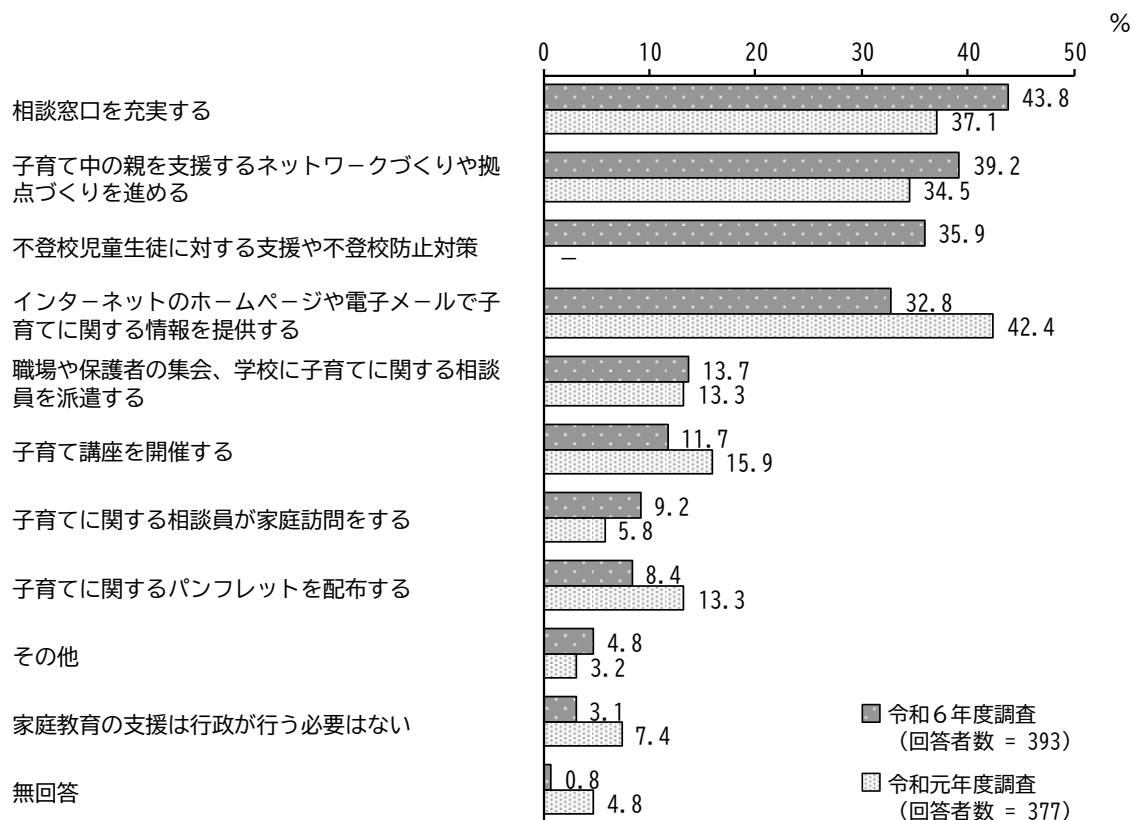
区分	回答者数(件)	礼儀やルール、マナーについて教えること	他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること	健康や安全について指導すること	キャリア教育を行うこと	進路について相談に乗ること	休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること	家や地域で勉強を教えること
全 体	393	34.9	28.0	29.3	3.3	4.1	2.8	10.4
小学5年生	264	39.0	30.3	33.7	3.0	3.8	3.4	8.7
中学2年生	126	26.2	23.8	20.6	4.0	4.8	1.6	14.3

区分	部活動に協力すること	学校行事に参加すること	体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること	教職員と連携したり、PTA活動や地域の活動に参加したりすること	いじめを減らしたり、解決したりすること	郷土の歴史や文化について伝えること	その他	無回答
全 体	6.6	6.1	42.2	16.5	6.6	40.5	1.3	2.5
小学5年生	6.1	5.7	41.3	15.2	6.8	37.1	1.9	2.3
中学2年生	7.9	7.1	43.7	19.0	6.3	46.0	—	3.2

問 19 家庭の教育力を高めるために行政に支援を期待することは何ですか。
(主なもの3つまで○)

「相談窓口を充実する」の割合が43.8%と最も高く、次いで「子育て中の親を支援するネットワークづくりや拠点づくりを進める」の割合が39.2%、「不登校児童生徒に対する支援や不登校防止対策」の割合が35.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「相談窓口を充実する」の割合が増加しています。一方、「インターネットのホームページや電子メールで子育てに関する情報を提供する」の割合が減少しています。



※前回調査では、「不登校児童生徒に対する支援や不登校防止対策」はありませんでした。

【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「子育て中の親を支援するネットワークづくりや拠点づくりを進める」で小学5年生の方が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	子育て講座を開催する	子育てに関する相談員が家庭訪問をする	職場や保護者の集会、学校に子育てに関する相談員を派遣する	相談窓口を充実する	子育てに関するパンフレットを配布する	インターネットのホームページや電子メールで子育てに関する情報を提供する	子育て中の親を支援するネットワークづくりや拠点づくりを進める	不登校児童生徒に対する支援や不登校防止対策	その他	家庭教育の支援は行政が行う必要はない	無回答
全 体	393	11.7	9.2	13.7	43.8	8.4	32.8	39.2	35.9	4.8	3.1	0.8
小学5年生	264	11.4	9.1	13.3	42.8	9.5	31.8	40.9	35.6	4.5	3.8	0.8
中学2年生	126	12.7	9.5	15.1	44.4	6.3	34.9	34.9	36.5	5.6	1.6	0.8

【年齢別】

年齢別にみると、「相談窓口を充実する」について20歳代で低くなっています。

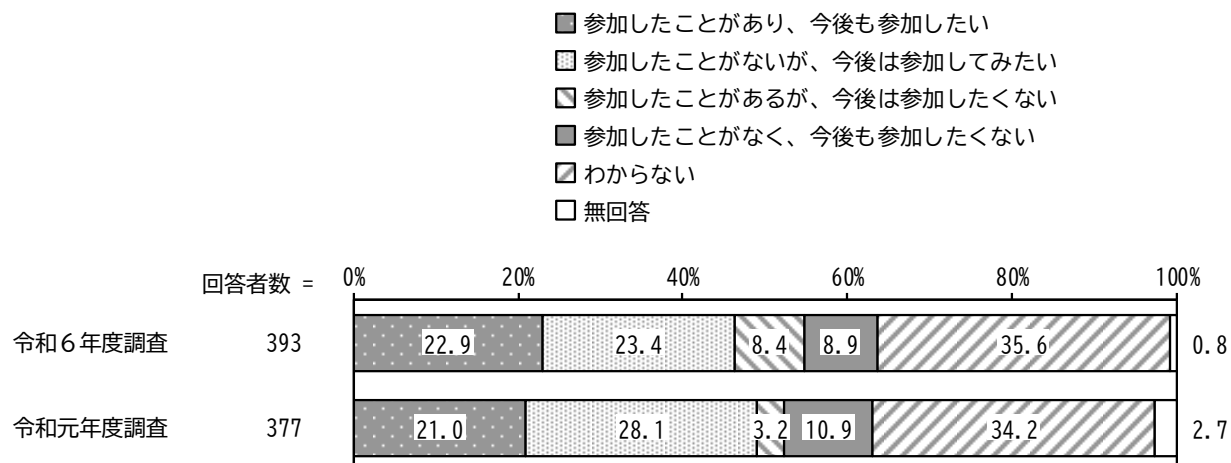
単位：％

区分	回答者数（件）	子育て講座を開催する	子育てに関する相談員が家庭訪問をする	職場や保護者の集会、学校に子育てに関する相談員を派遣する	相談窓口を充実する	子育てに関するパンフレットを配布する	インターネットのホームページや電子メールで子育てに関する情報を提供する	子育て中の親を支援するネットワークづくりや拠点づくりを進める	不登校児童生徒に対する支援や不登校防止対策	その他	家庭教育の支援は行政が行う必要はない	無回答
全 体	393	11.7	9.2	13.7	43.8	8.4	32.8	39.2	35.9	4.8	3.1	0.8
20歳代	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
30歳代	77	18.2	9.1	13.0	35.1	9.1	26.0	40.3	23.4	6.5	6.5	1.3
40歳代	252	9.5	10.3	13.9	47.6	7.5	32.1	40.5	38.9	4.8	2.4	0.4
50歳以上	63	12.7	4.8	14.3	38.1	11.1	44.4	33.3	39.7	3.2	1.6	1.6

問 20 あなたは、お住まいの地域にある学校を支援する活動に参加したいと思いますか。

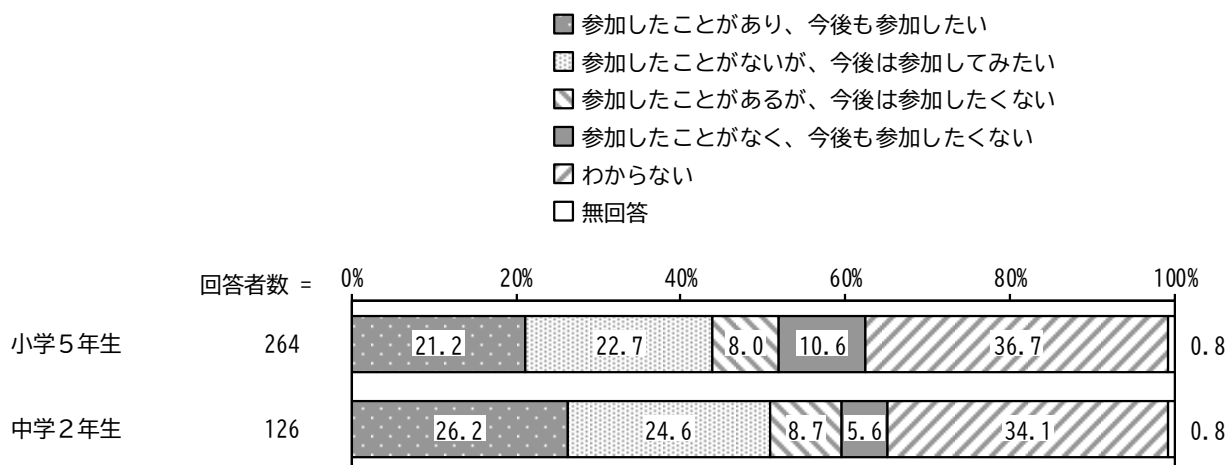
「わからない」の割合が35.6％と最も高く、次いで「参加したことがないが、今後は参加してみたい」の割合が23.4％、「参加したことがあり、今後も参加したい」の割合が22.9％となっています。

令和元年度調査と比較すると、「参加したことがあるが、今後は参加したくない」の割合が増加しています。



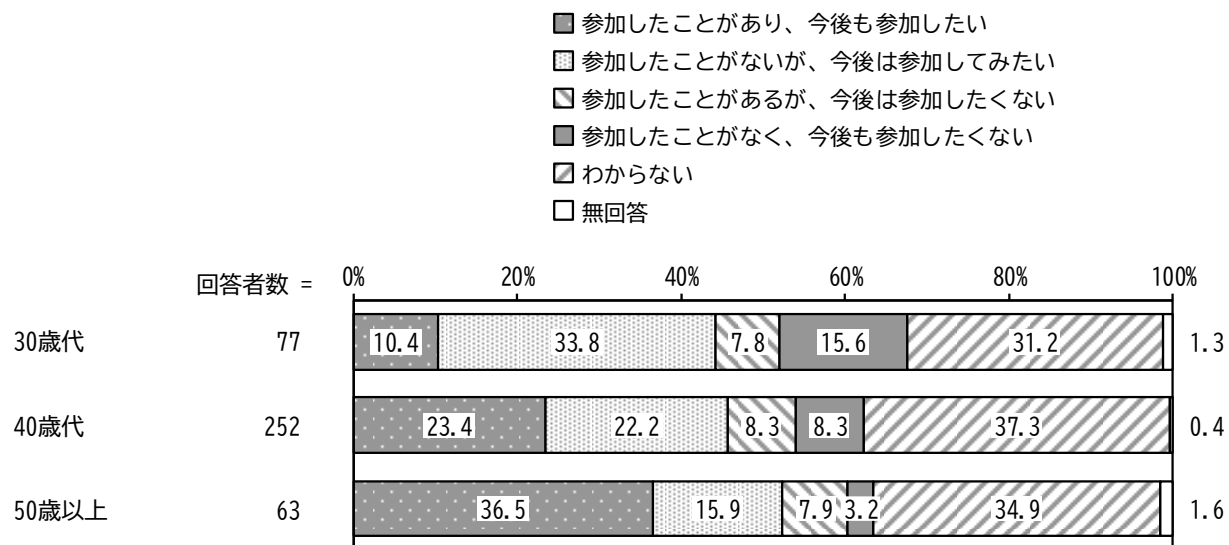
【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「参加したことがなく、今後も参加したくない」で小学5年生の方が高くなっています。



【年齢別】

年齢別にみると、「参加したことがあり、今後も参加したい」について30歳代で低くなっています。

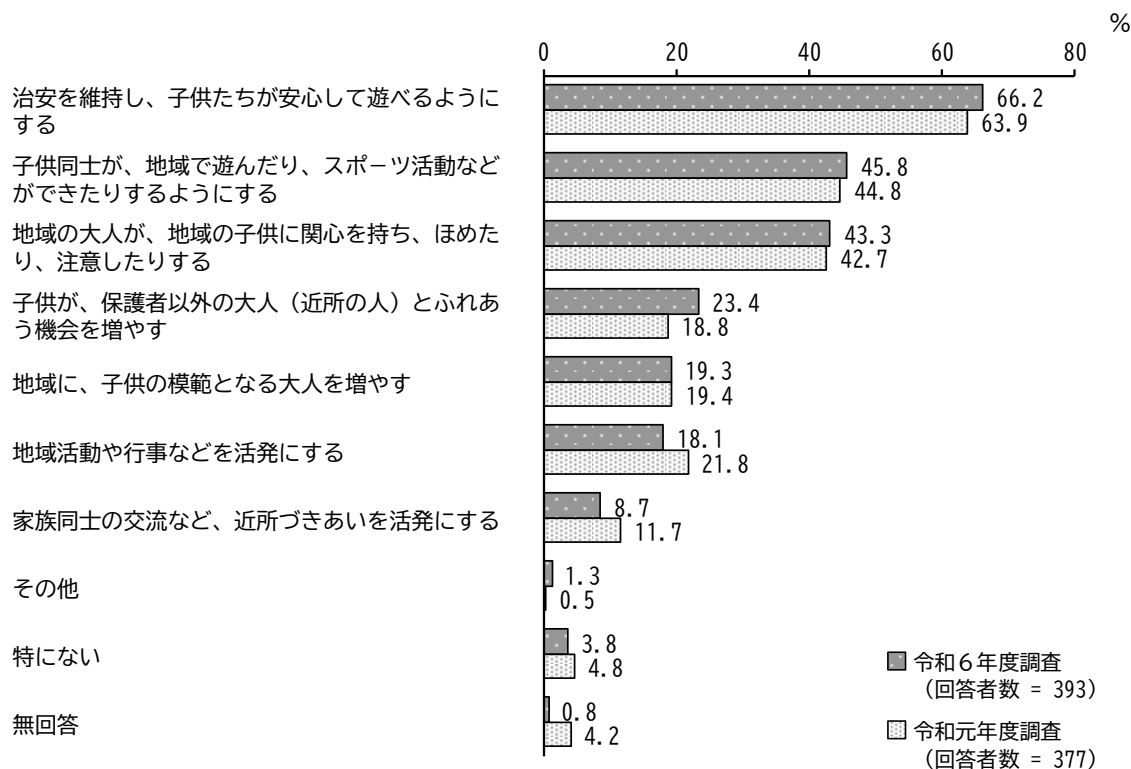


※「20歳代」の回答者数が0件のため省略しています。

問 21 「地域の教育力」を高めるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。
(主なもの3つまで○)

「治安を維持し、子供たちが安心して遊べるようにする」の割合が66.2%と最も高く、次いで「子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができたりするようにする」の割合が45.8%、「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」の割合が43.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



【子どもの学年別】

子どもの学年別にみると、「子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができたりするようにする」で小学5年生の方が高く、「子供が、保護者以外の大人（近所の人）とふれあう機会を増やす」で中学2年生の方が高くなっています。

単位：%

区分	回答者数(件)	地域に、子供の模範となる大人を増やす	地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする	子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができたりするようにする	家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする	地域活動や行事などを活発にする	治安を維持し、子供たちが安心して遊べるようにする	子供が、保護者以外の大人（近所の人）とふれあう機会を増やす	その他	特にない	無回答
全 体	393	19.3	43.3	45.8	8.7	18.1	66.2	23.4	1.3	3.8	0.8
小学5年生	264	19.7	44.7	47.7	8.0	15.9	65.9	21.2	1.9	4.5	0.8
中学2年生	126	19.0	40.5	41.3	10.3	23.0	66.7	27.8	—	2.4	0.8

問 22 狭山市の教育に関してご意見などがございましたら、自由にご記入ください。

狭山市の教育に関するご意見について、以下の意見が挙げられました。

1. スポーツ施設の整備（2件）
今年の夏はとても気温が高く、部活動や体育の授業に影響が出ました。タブレットや電子黒板を使っ ての教育も必要かもしれませんが、子どもたちの体調や今の環境に合わせて、体育館のエアコンの設 置を希望します。 子どもたちが伸び伸びと運動できる環境作りをして欲しいです。 ◎体育館にエアコンを設置してほしい。 夏場は室温が上がりすぎていて運動ができる環境ではない と感じます。 スポットの冷風機が設置されましたが室温は下がっていません。 冬ストーブもありま すが、匂いが気になると子供も話しています。
2. スポーツ団体の活動の促進（1件）
子供たちは、平日は学校の人のみしか関わらない日が多く、土日にも部活動なら同じ。先生の機嫌を伺 いながら生活しとても狭い世界にいるので人間関係が苦手のように感じる。 小学校のうちに、出来 る子、出来ない子に分けられ、高学年で確立しそのまま中学校でも同様。チャレンジするチャンスも なく諦めてただ学校に行くのが当たり前の今。 学校で発揮出来ないのなら、学校外で地域や市で沢 山の人と関われる何かが土日にもあれば、大人が楽しみ子供たちが自然にやりたがるような集まる居 場所やイベントがいいと思います
3. 誰もが気軽に楽しめるスポーツの普及（1件）
いつも子どもたちを暖かく見守っていただきありがとうございます。部活動の外部委託は先生たちの 負担軽減にもとても良いと思います。しかし、外部のクラブチーム等が子どもの見本となるような大 人ばかりがいるとは限りません。実際に息子は、サッカー部がないためクラブチームでサッカーをし ましたが、監督の心理的虐待、必要以上のしごき、罰を与える等の辛い経験をしました。 大事に するつもりで伝えているのではありません。外部に色々委託するという事は、そういったリスクが あることを知っていただきたいです。信頼でき、子どもが安心して、大好きなスポーツを楽しめる狭 山市であってほしいです。
4. 子供のスポーツの振興と学校体育の充実（14件）
多忙の中中学の先生は部活動の指導にも熱心に行ってください大変感謝しております。経験者の保護 者が顧問に内容や試合のナンバー選出などで厳しく文句を言っているのを目にすると正直先生がとて もかわいそうに思います。顧問を守る方法、保護者ではない外部の導入、保護者への教育方法等、ご 検討いただけると幸いです。 中学校の部活動はなくさないでほしいです。 鶴ヶ島市の公立中学では、部活動でどうしても師事したい先生がいるとのことで2 駅先の方から越境 入学している子供がいると聞きました。来年中学にあがる息子は希望の学校からは外れてしまいまし たが、その子の表彰歴などから柔軟な対応があってもいいのではないかと思います。部活動の外部 委託の話もありますが、その移行期真っ只中の子どもは可哀想です。 近隣の学校は体育館にエアコンなどが付いていると聞きます。狭山市にはまだなく、夏は体育館が暑 く、冬は寒い為エアコンなどの設備があると子供達も過ごしやすいのではないかと思います。 狭山市の教育に関して。 正直何をしてくださっているのか、伝わってきていません。狭山市は子供 達のために、何をしてくださっていますか？ 地域の活動（外部のスポーツ等）においても、活動す る場所が限られています。他の市では市内在住であれば体育館が無料であったり、公民館も個人への 解放、そして市内在住者は無料だったりします。子供達への支援、何を必要としているのか、狭山市 の子供達がどこでどれだけ活躍をしているのか、お調べになったことはあるのでしょうか？狭山市民 に、子育て世代に、子供達に、リアルな話を聞いたことはありますか？ 先生方に関しては、十人十 色です。とても素敵な先生もいらっしゃれば、？と思う先生もいらっしゃいます。担任が変わるた びに子供達は適応しますが、1年間我慢しながら学校に通っている子も中にはいます。仕方のないこ ともかもしれませんが、もう少しどうにか出来ないものかなと思うのが正直なところ。先生方の多 忙さは承知しておりますが、先生方の激務問題に関しては、子供達や保護者に協力を仰ぐ前に、もっ と上の機関が動く必要があるのではないのでしょうか。

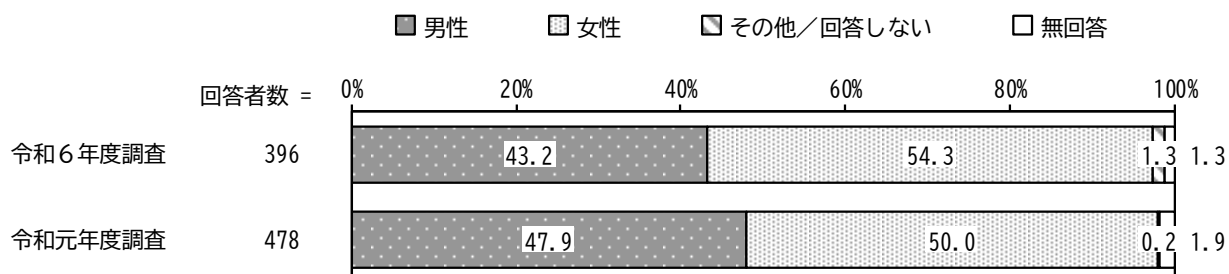
学校・家庭・地域の連携とよく聞きますが、家庭（子ども）が学校にお世話になっているので、それはわかるのですが、地域と連携する必要性が感じられません。そもそも校外の方に手伝ってもらわなければ成り立たない行事等は見直していくべきなのではないかと思います。土曜授業もやっと年2回まで減りましたが、全て撤廃でいいと思います。ほぼ毎日6時間授業なので、学校にいる時間が長すぎです。総合や書写、道徳など授業時間を増やしすぎて、今の小学生はやることが多すぎです。宿題もあり、毎日が大変です。朝の自習時間等は廃止して、登校時間を後ろ倒して、朝の会から開始でいいのではないのでしょうか。PTAの行事を授業時間にやる必要はあるのでしょうか（例えば1/2成人式とか）。これは授業数としてカウントされているのかわかりませんが…。お弁当の日も学期ごとであり、事前にメニューを考えたり、コメントを求められることがあるので、とても負担に感じています。先日、体罰や性暴力の調査がありましたが、先生達はものすごく大変な思いをされていると思います。先生が怒鳴ったり、たたいたりできないのを知っているから、大人をなめて悪さをする児童もいたりします。このような子には何度言ってもきかないのなら、叩いて思い知らせてもいいのではないかと考えてしまいます。
他校の話聞く機会がありますが、虐待なのでは？と思う対応をされていることを聞くことがあったり、昨年度、不登校児が多数いたというクラスの担任をしていた方が、今年度異動されてきたりもあるので心配に思います。読み聞かせのボランティアをしていますが、一年生の日直さんが挨拶をうまくできなかったために、子どもたちが叱られることがあり、それもどうか？と疑問に思います。教育自体はよくわかりませんが、職員の適性は時々確認していただきたいです。
秋休みを導入してほしい。1ヶ月以上の夏休みが長過ぎる。結局一日中ゲームやスマホを見てダラダラ過ごすことになり、2学期の初めは元の学校生活に戻るのに苦労している。千葉の方では公立でも秋休み（10月中旬くらいに2週間とか）を導入していると聞いた。（その分夏休みが短い）10月は旅行するのに値段的にも季節的にもちょうど良いし、子供たちも夏休みが終わっても頑張ればまた秋休みが来る、ということで、メリハリをつけて学校生活が送れるのではないかと。また、水泳の授業の期間が短過ぎるので、夏休みを短くすると8月後半も授業時間を取れると思う。他地域との学力の差について、埼玉県の実力調査の結果、平均点が他の市より低かったと記憶している。例えば、さいたま市や隣の川越市、所沢市だと中学受験をする子供が多く、塾に通っている割合が高いのかもしれないが、学校以外での学習にもう少し力を入れなければならないのかもしれない、効果的なコンテンツが必要なのかもしれない、と思った。（タブレットでできる学習であったり）
夏季の酷暑も当たり前になりました 異常気象災害もおきやすくなり学校が避難所になる可能性もあります 体育館等子供達が集まる場所には、必要であれば使用できるように、命を守るためにも冷暖房の設置をお願いしたいです
学校、学年、学級によってコンピュータの活用頻度に差があるように感じています。我が子の学級ではあまり使われていないようですが、日常的によく使っている他校のお話も聞いています。教育環境の大きな変化であり、大変だとは思いますが、先生方のICTを活用した授業の指導力を高めていただき、コンピュータが子供にとって身近なものになってくれるとよいと思います。
①少子化に伴い、クラスの上限人数は改善すべきです。1人少ないだけで3クラス→2クラスといったやり方は子供たちも戸惑います。担任の負担も大きいと思います。一人一人に向けられる時間も少なくなり、いじめに発展しそうな事案も見逃してしまう可能性もあると思います。教員の数が多いといった難題もあるとは思いますが、余裕をもった教育を望みます。②近隣の市が2学期を8月下旬から行っていますが、近年の残暑の厳しさを考えると狭山市は今のままの9月始まりのままにして欲しいです。
地域交流センターや公民館、児童館などの色々なイベントの開催は子供にとっていい経験になっているので、携わって下さっている方々には本当に感謝しています。ありがとうございます。学校でのいじめに関して、各々学校の対応次第なのかもしれませんが、加害者側の親は何も知らないんじゃないか？と思うことがあり、むしろ加害者側の親にこそ、きちんと自分の子供の言動等に関して学校側から話すべきではないかと思いました。難しい課題ではあるかと思いますが…。
いつも先生方にはお世話になっております。ご縁あって、狭山市に転入してきて10年近くになりますが、狭山で子育てができて本当に良かったと思っています。たくさんの素敵な先生と出会えたことに感謝しています。先生方との出会いは、かけがえのない子育ての思い出です。家庭環境、特に母子関係の礎は、親の幼児期まで遡ることになるので、当事者も周りも、あらがったり、もがいたり、苦しい局面があると感じています。なんとか未来が明るくありますように、いち保護者として我が子のことはもちろん、周りの子にも目が配れるよう、狭山市民として、さやまっ子と一緒に見守りたいと思っています。いつもありがとうございます。
子供の話を聞いていると、教師でも感情的に怒ったり、威圧的な物の言い方をする先生の話をよく聞きます。先生も人間だし、忙しいのだと思いますが、子供達はよく見ているし聞いています。感受性豊かで傷つきやすい子供もいます。子供達の見本となれるような話し方、行動ができるといいと思います。宜しくお願い致します。

4 教職員

(1) 回答者属性

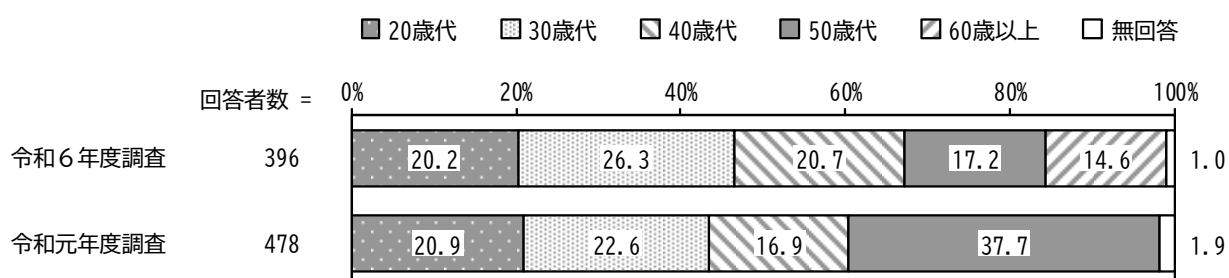
問1 あなたの性別を選んでください。

「男性」の割合が43.2%、「女性」の割合が54.3%となっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



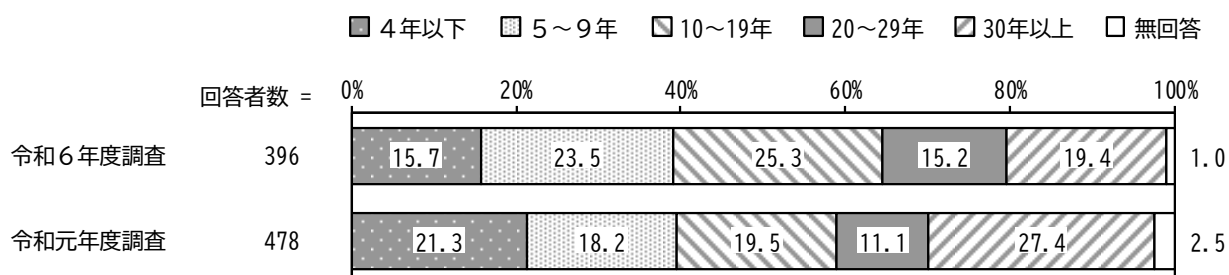
問2 あなたの年齢を教えてください。

「30歳代」の割合が26.3%と最も高く、次いで「40歳代」の割合が20.7%、「20歳代」の割合が20.2%となっています。
令和元年度調査と比較すると、「50歳代」の割合が減少しています。



問3 あなたの教員経験年数は何年ですか。

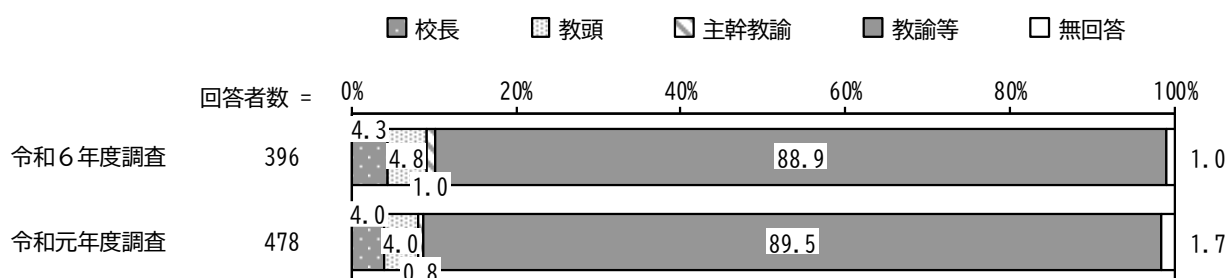
「10～19年」の割合が25.3%と最も高く、次いで「5～9年」の割合が23.5%、「30年以上」の割合が19.4%となっています。
令和元年度調査と比較すると、「5～9年」「10～19年」の割合が増加しています。一方、「4年以下」「30年以上」の割合が減少しています。



問4 あなたの職名は何ですか。

「教諭等」の割合が88.9%と最も高く、次いで「教頭」の割合が4.8%、「校長」の割合が4.3%となっています。

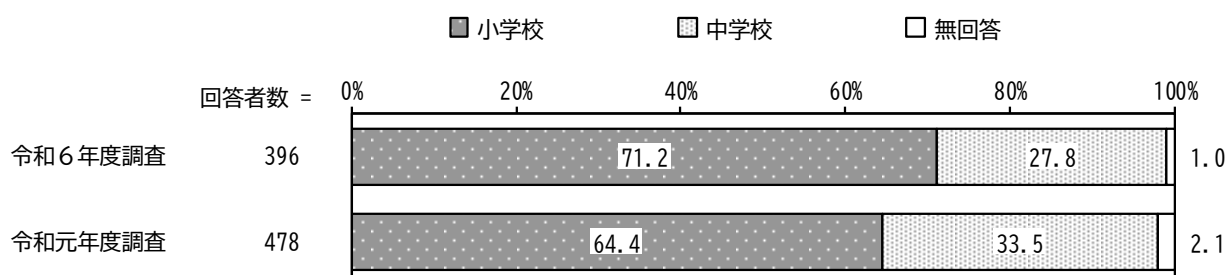
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問5 あなたの勤務先はどちらですか。

「小学校」の割合が71.2%、「中学校」の割合が27.8%となっています。

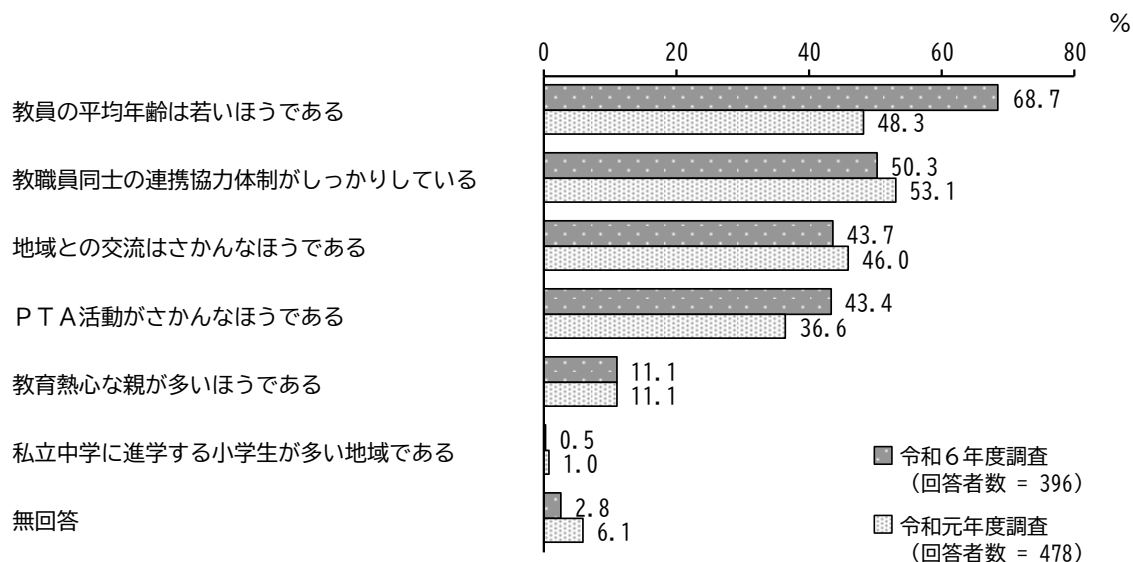
令和元年度調査と比較すると、「小学校」の割合が増加しています。一方、「中学校」の割合が減少しています。



問6 あなたの勤務校の特徴として次のようなことはあてはまりますか。
(あてはまるものすべてに○)

「教員の平均年齢は若いほうである」の割合が68.7%と最も高く、次いで「教職員同士の連携協力体制がしっかりしている」の割合が50.3%、「地域との交流はさかんなほうである」の割合が43.7%となっています。

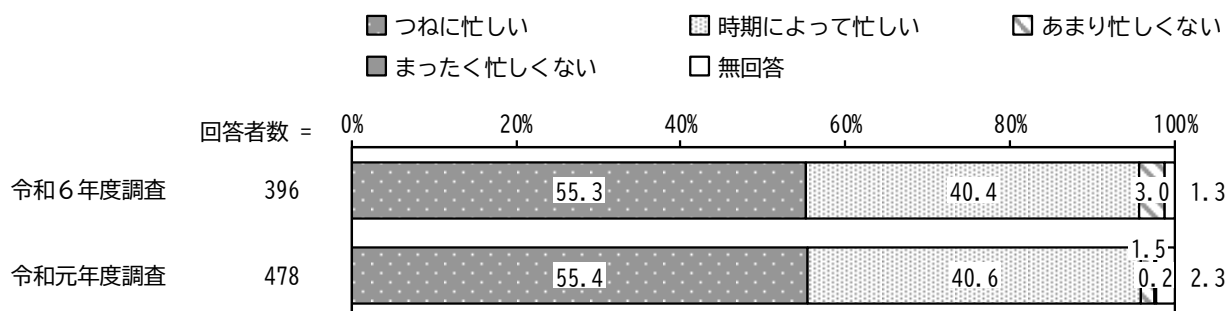
令和元年度調査と比較すると、「教員の平均年齢は若いほうである」「PTA活動がさかんなほうである」の割合が増加しています。



問7 ご自身の職務について、どれくらい忙しいと感じていますか。

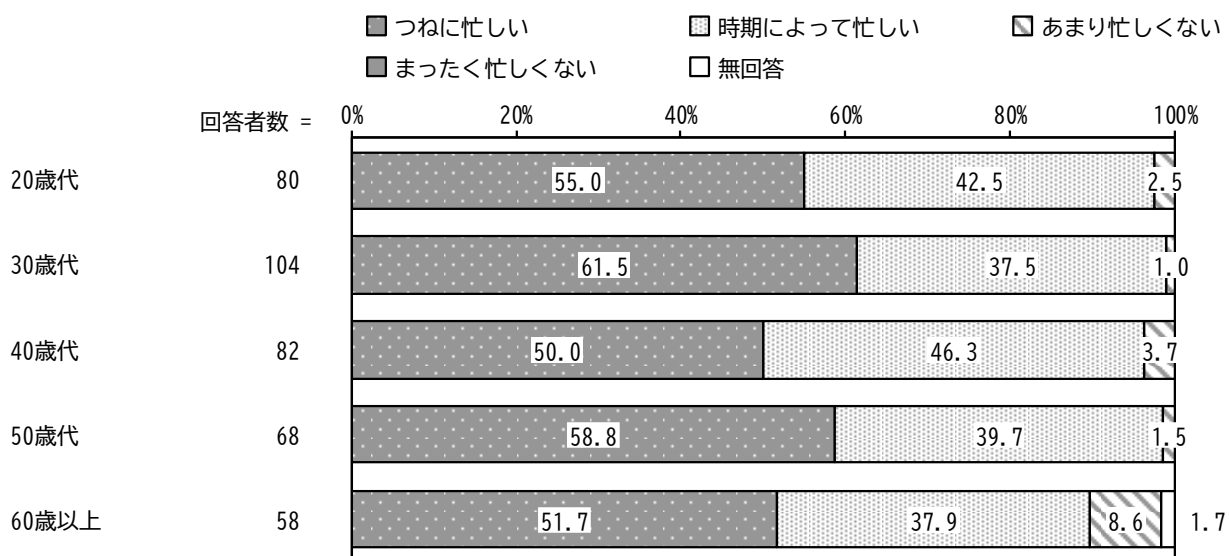
「つねに忙しい」「時期によって忙しい」を合わせた「忙しい」の割合が95.7%、「あまり忙しくない」「まったく忙しくない」を合わせた「忙しくない」の割合が3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



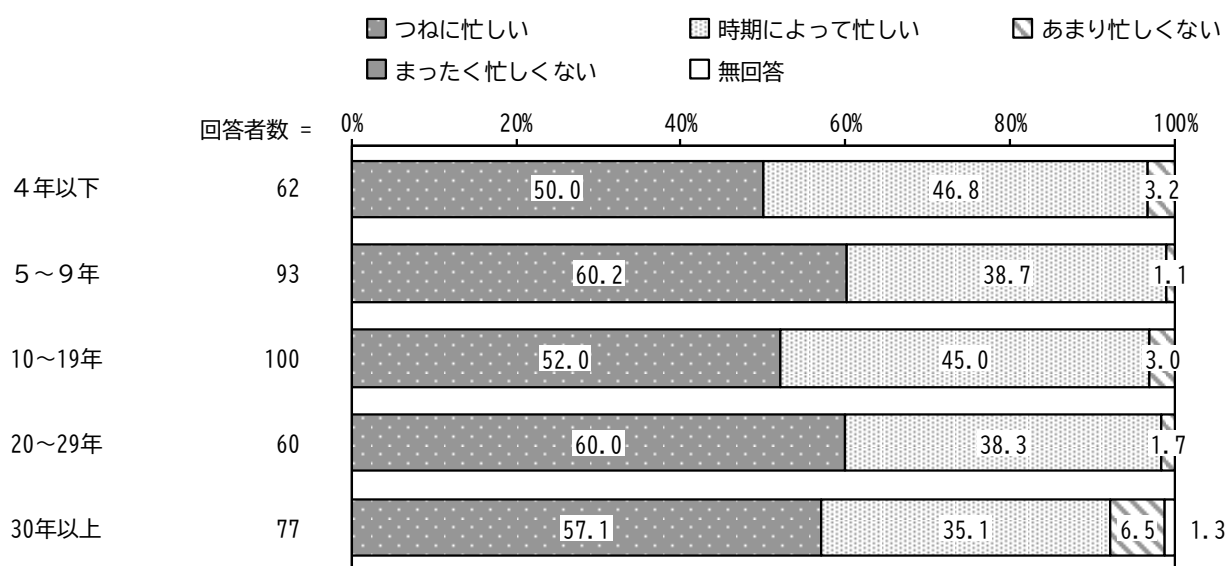
【年代別】

年代別にみると、「時期によって忙しい」について40歳代で高く、「あまり忙しくない」について60歳以上で高くなっています。



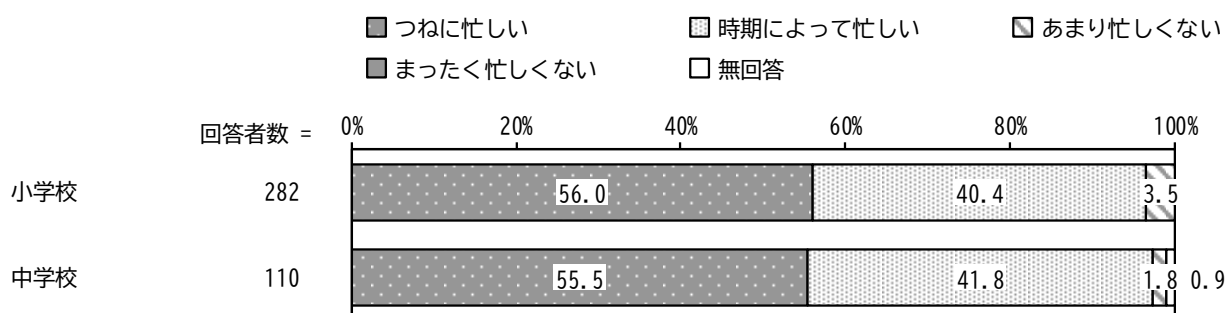
【経験年数別】

経験年数別にみると、「あまり忙しくない」について30年以上で高くなっています。



【勤務先別】

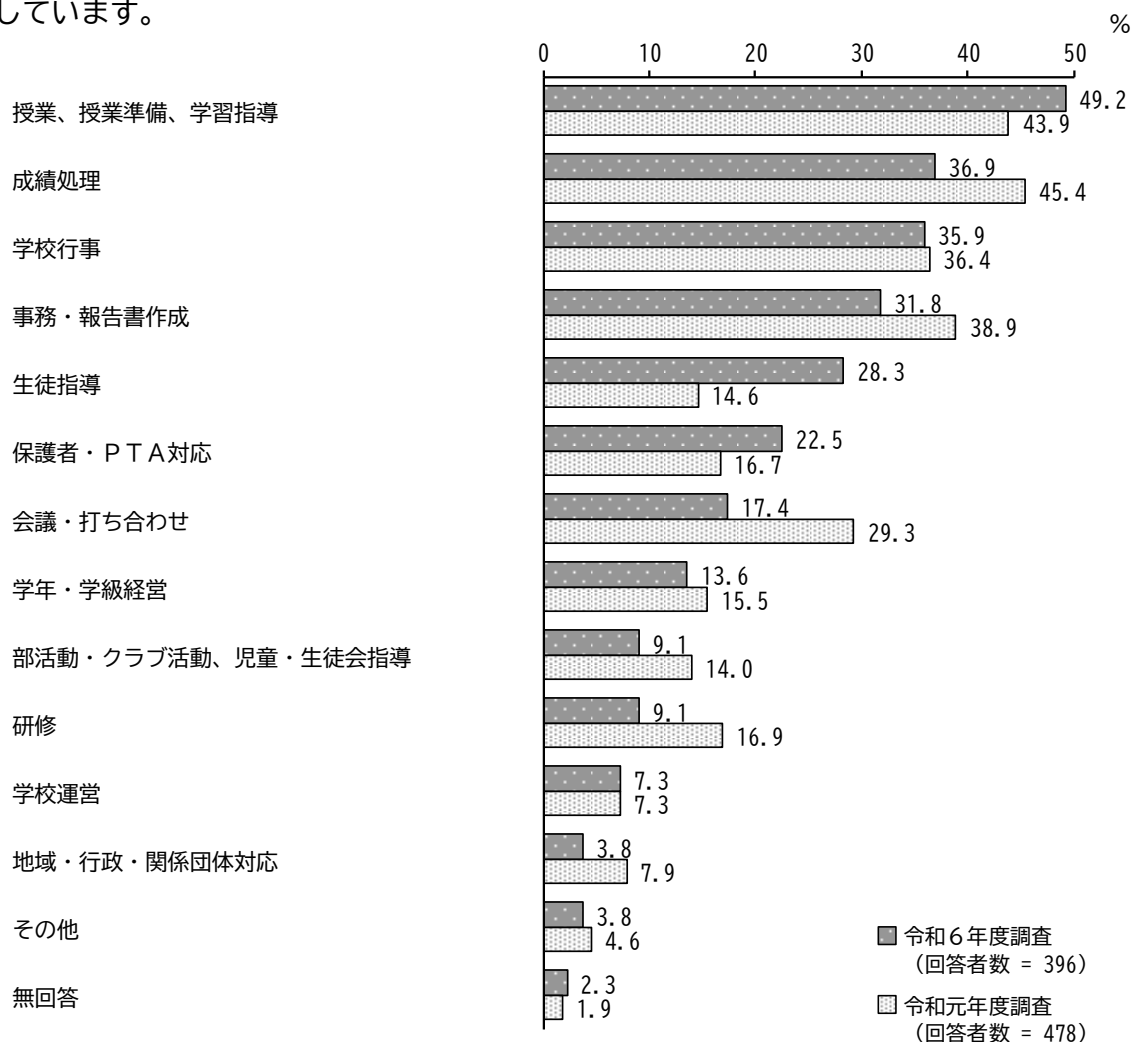
勤務先別にみると、大きな差はみられません。



問8 仕事をするうえで、あなたが特に忙しさを感じるのはどのような業務ですか。
(主なもの3つまで○)

「授業、授業準備、学習指導」の割合が49.2%と最も高く、次いで「成績処理」の割合が36.9%、「学校行事」の割合が35.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「授業、授業準備、学習指導」「生徒指導」「保護者・PTA対応」の割合が増加しています。一方、「成績処理」「会議・打ち合わせ」「事務・報告書作成」「研修」の割合が減少しています。



【勤務先別】

勤務先別にみると、「授業、授業準備、学習指導」、「会議・打ち合わせ」で小学校の方が高く、「保護者・PTA対応」で中学校の方が高くなっています

単位：%

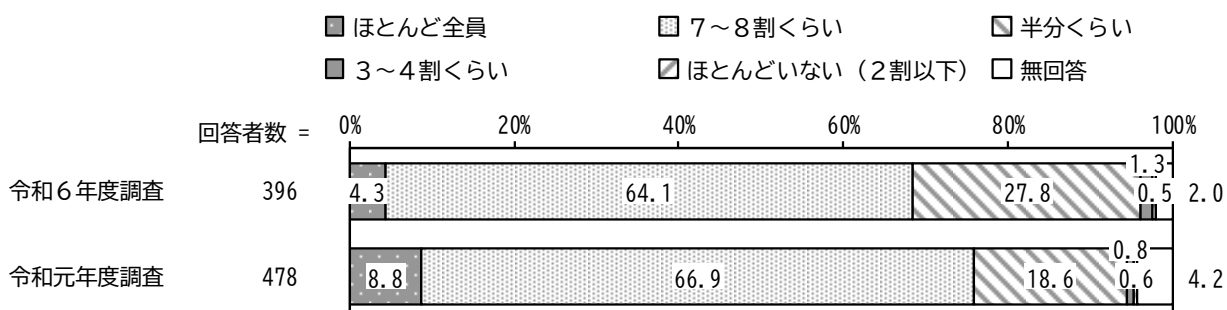
区分	回答者数(件)	授業、授業準備、学習指導	成績処理	生徒指導	部活動・クラブ活動、児童・生徒会指導	学校行事	学年・学級経営	学校運営	会議・打ち合わせ	事務・報告書作成	研修	保護者・PTA対応	地域・行政・関係団体対応	その他	無回答
全 体	396	49.2	36.9	28.3	9.1	35.9	13.6	7.3	17.4	31.8	9.1	22.5	3.8	3.8	2.3
小学校	282	54.6	39.4	25.2	2.5	35.1	13.1	7.4	20.9	32.3	9.9	20.6	3.9	3.9	1.1
中学校	110	37.3	31.8	37.3	26.4	39.1	15.5	7.3	9.1	31.8	7.3	28.2	3.6	3.6	1.8

(2) 学習指導などの状況について

問9 授業の内容を概ね理解している児童生徒の割合はどれくらいだと思いますか。

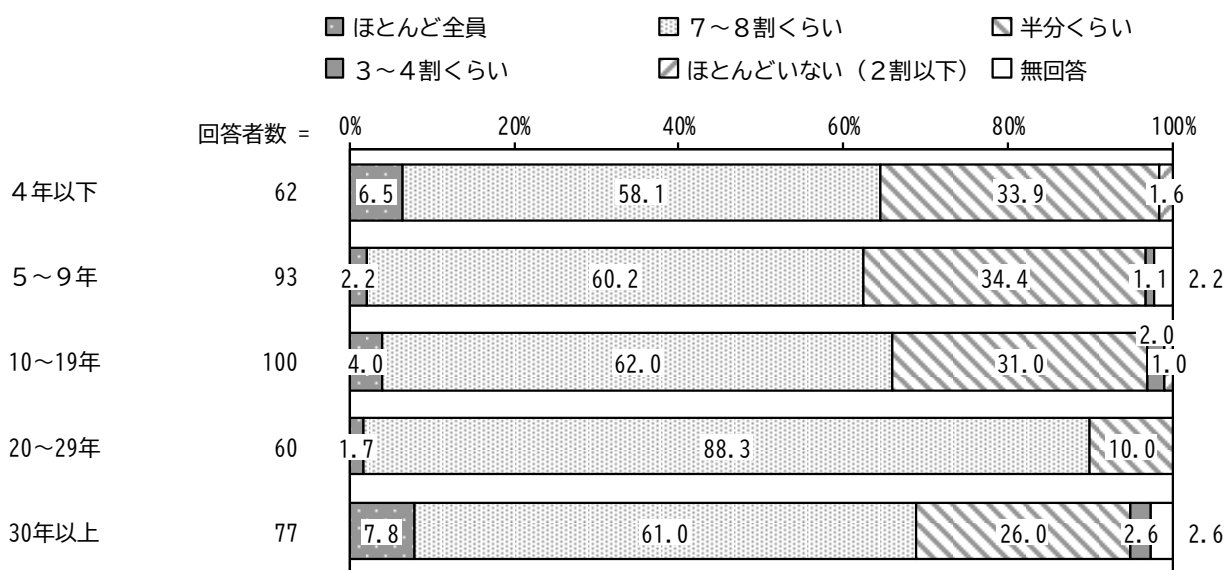
「7～8割くらい」の割合が64.1%と最も高く、次いで「半分くらい」の割合が27.8%、「ほとんど全員」の割合が4.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「半分くらい」の割合が増加しています。



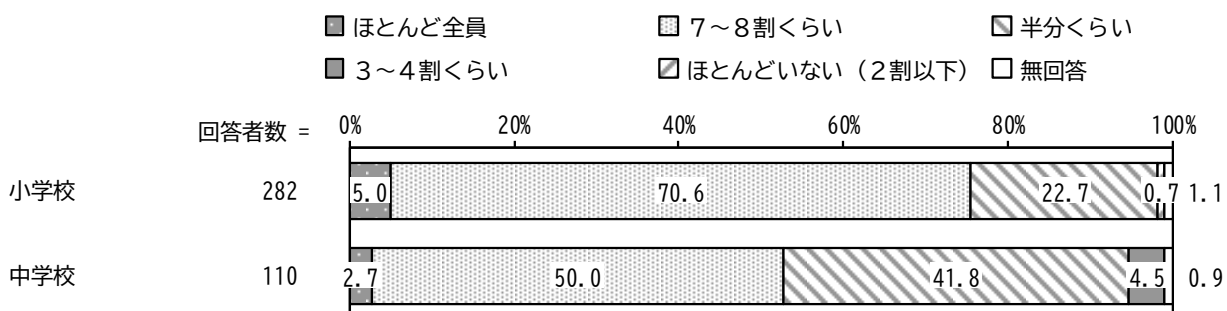
【経験年数別】

経験年数別にみると、「7～8割くらい」について20～29年で高くなっています。



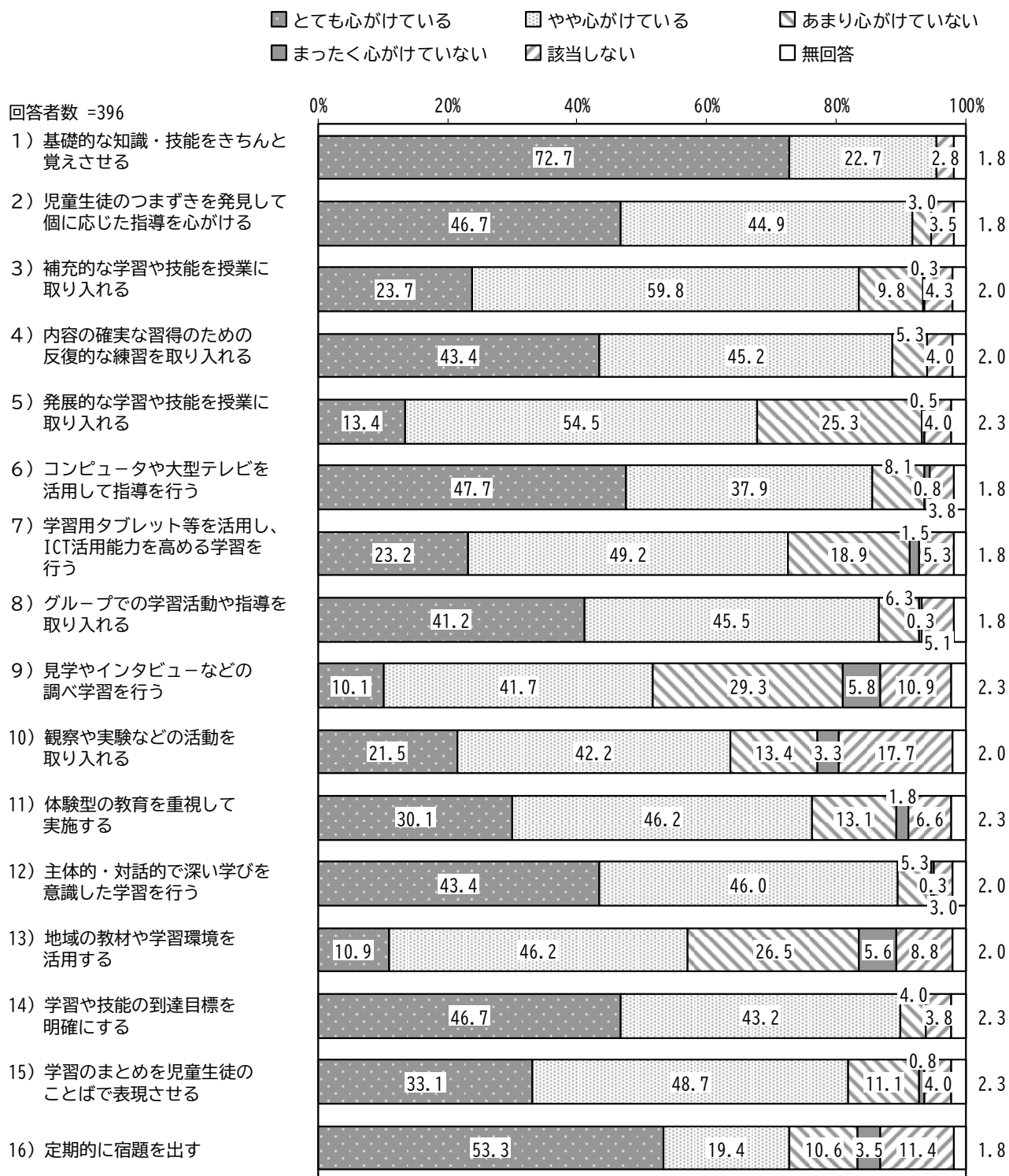
【勤務先別】

勤務先別にみると、「7～8割くらい」で小学校の方が高く、「半分くらい」で中学校の方が高くなっています。



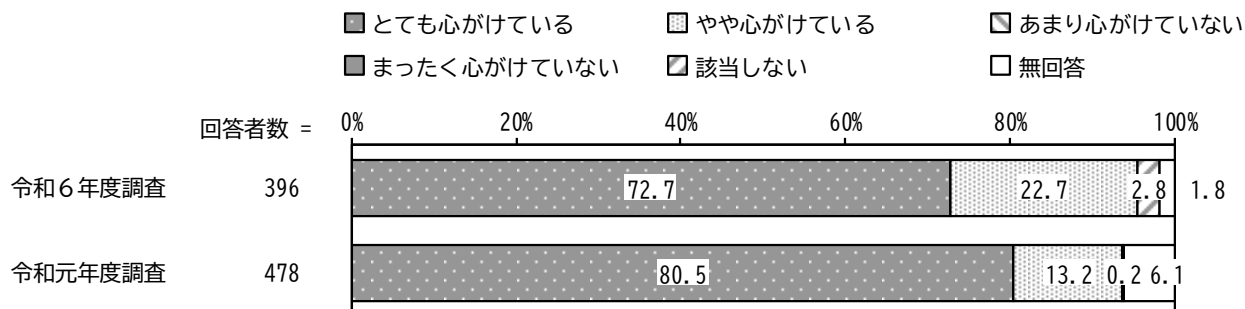
問10 あなたは、学習指導のなかで、次のようなことを心がけていますか。
(それぞれにひとつずつ○)

『1) 基礎的な知識・技能をきちんと覚えさせる』で「とても心がけている」「やや心がけている」を合わせた”心がけている”の割合が、『9) 見学やインタビューなどの調べ学習を行う』で「あまり心がけていない」「まったく心がけていない」を合わせた”心がけていない”の割合が高くなっています。



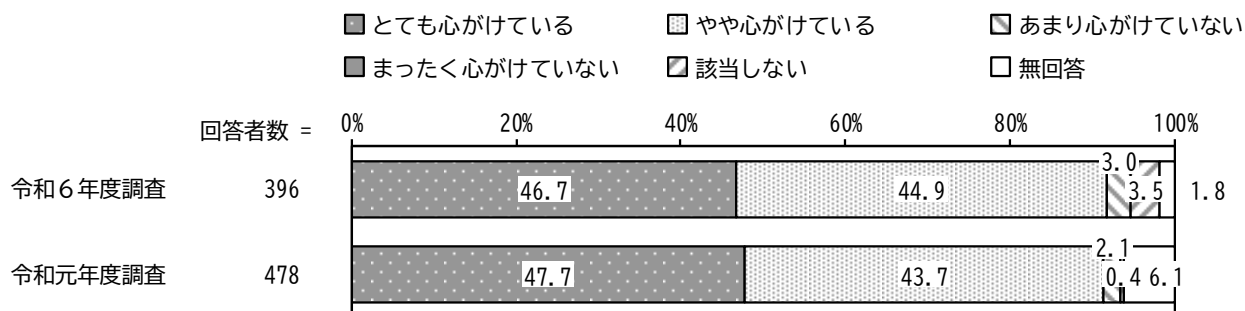
1) 基礎的な知識・技能をきちんと覚えさせる

令和元年度調査と比較すると、「やや心がけている」の割合が増加しています。一方、「とても心がけている」の割合が減少しています。



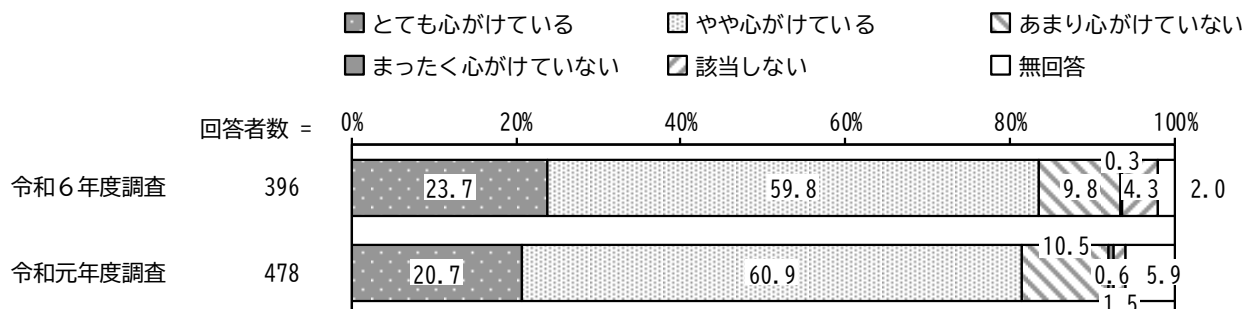
2) 児童生徒のつまずきを発見して個に応じた指導を心がける

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



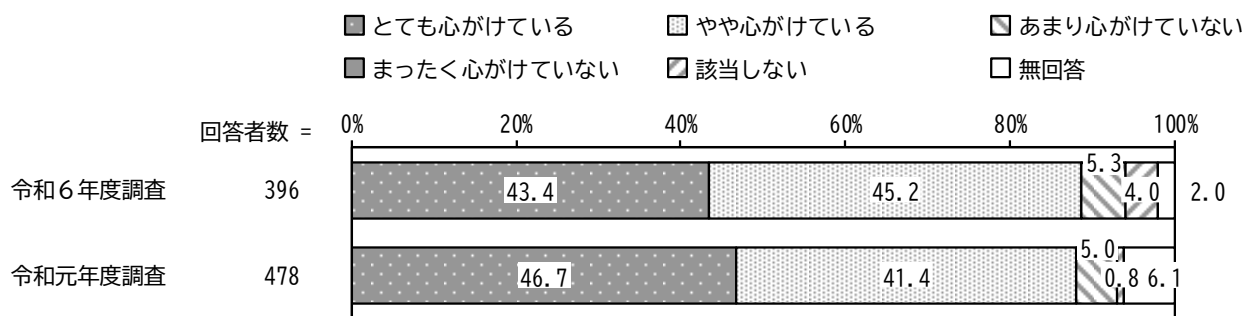
3) 補充的な学習や技能を授業に取り入れる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



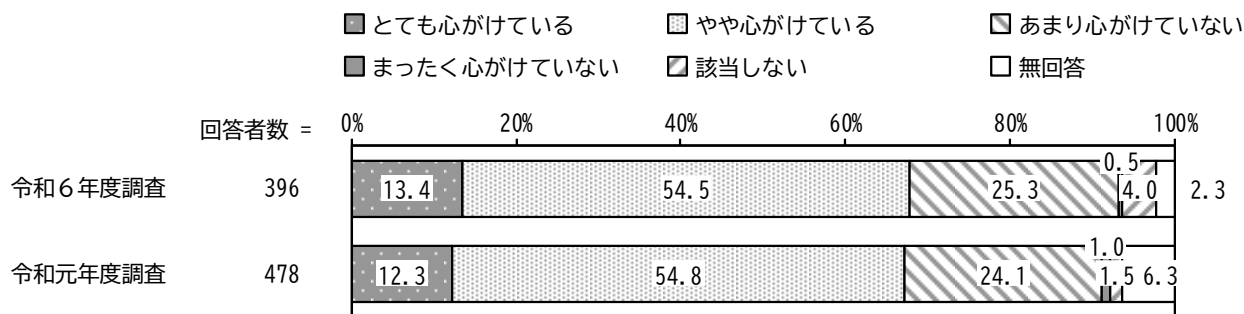
4) 内容の確実な習得のための反復的な練習を取り入れる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



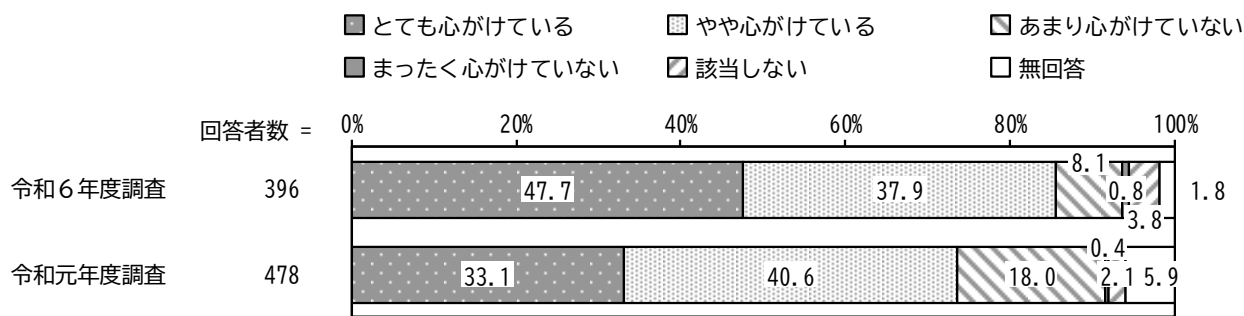
5) 発展的な学習や技能を授業に取り入れる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



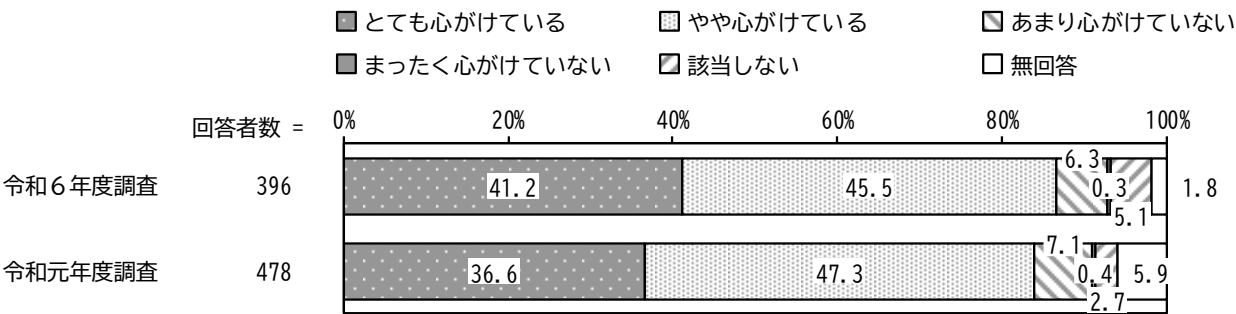
6) コンピュータや大型テレビを活用して指導を行う

令和元年度調査と比較すると、「とても心がけている」の割合が増加しています。一方、「あまり心がけていない」の割合が減少しています。



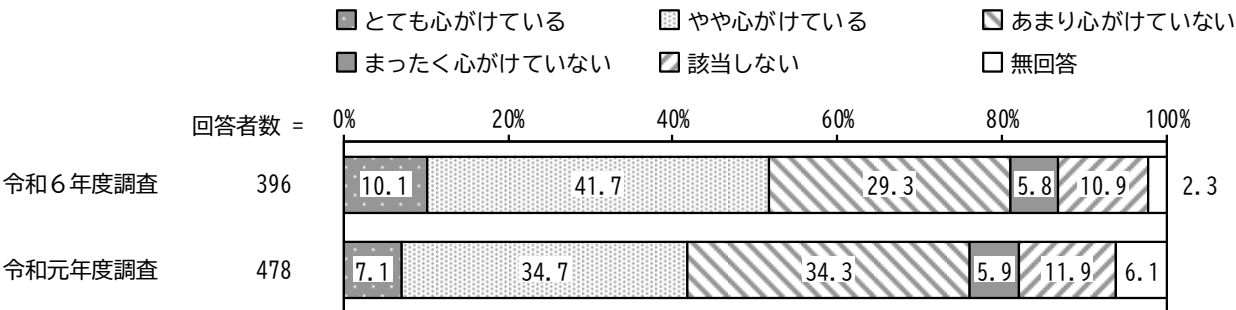
8) グループでの学習活動や指導を取り入れる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



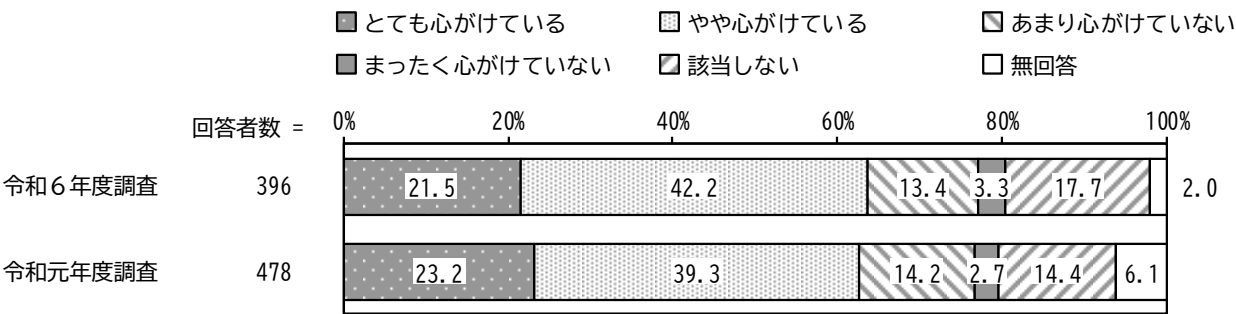
9) 見学やインタビューなどの調べ学習を行う

令和元年度調査と比較すると、「やや心がけている」の割合が増加しています。



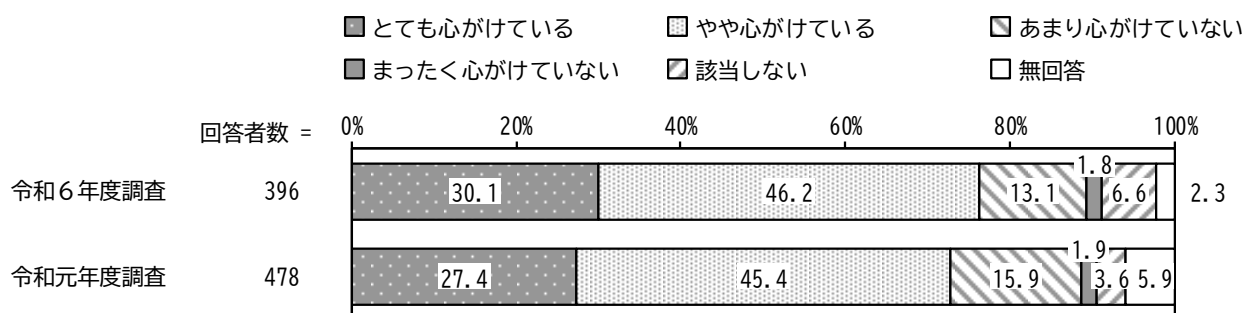
10) 観察や実験などの活動を取り入れる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



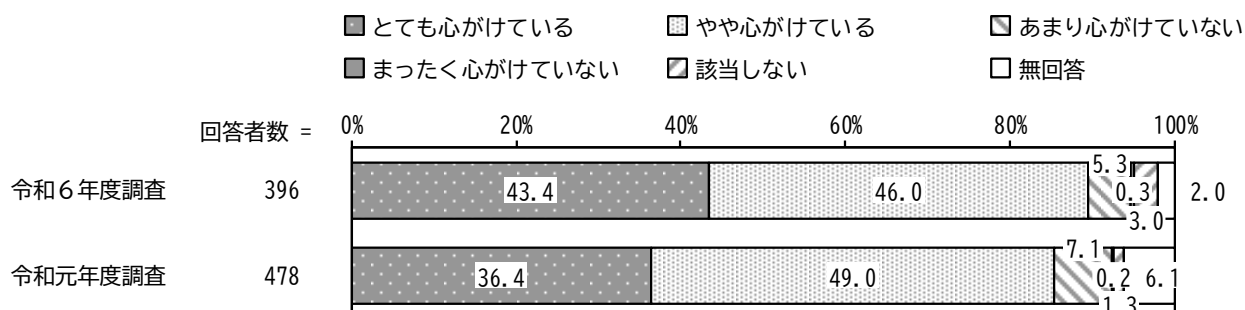
11) 体験型の教育を重視して実施する

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



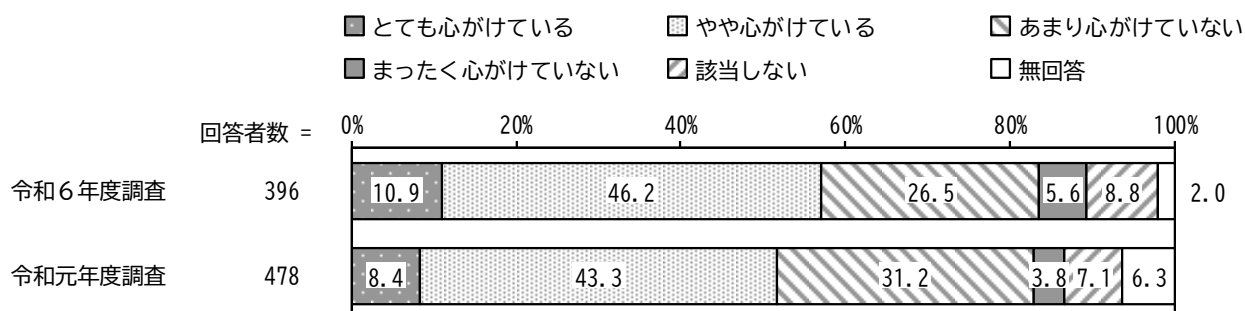
12) 主体的・対話的で深い学びを意識した学習を行う

令和元年度調査と比較すると、「とても心がけている」の割合が増加しています。



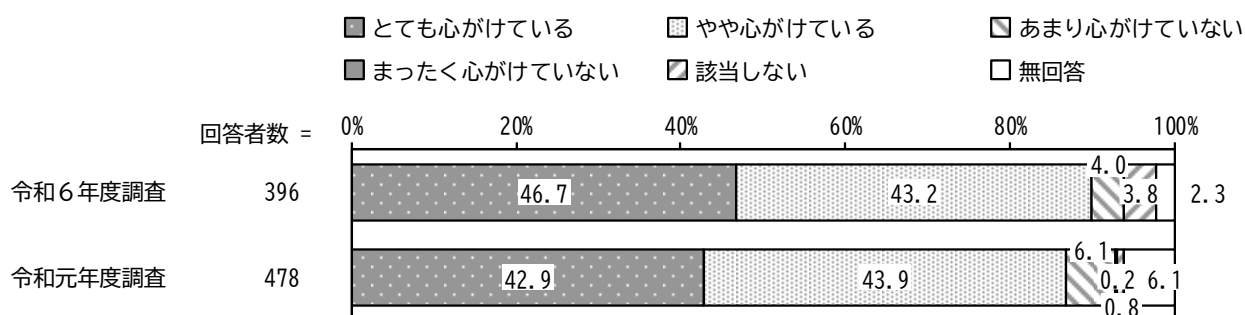
13) 地域の教材や学習環境を活用する

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



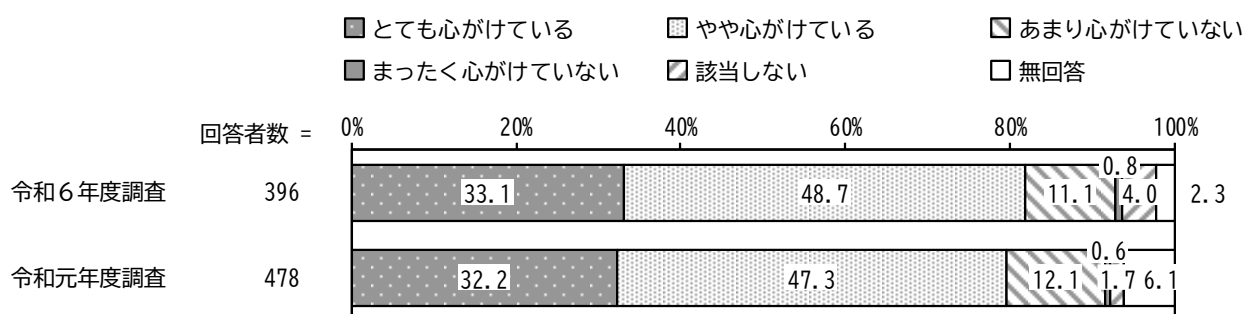
14) 学習や技能の到達目標を明確にする

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



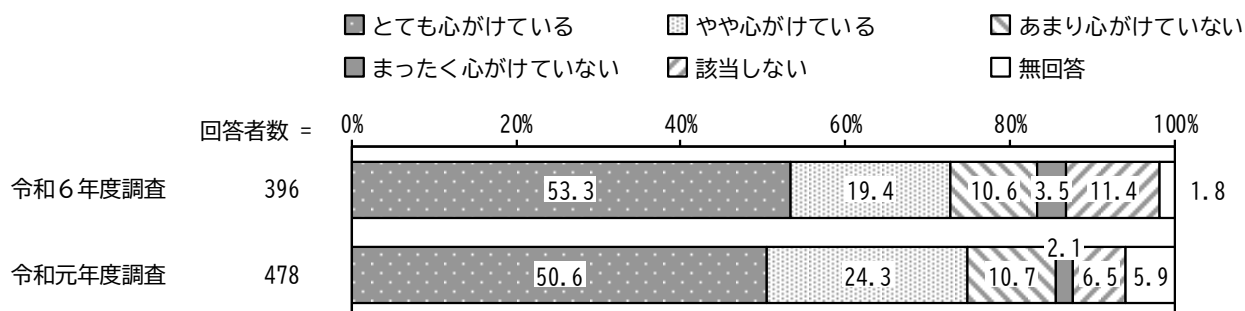
15) 学習のまとめを児童生徒のことばで表現させる

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



16) 定期的に宿題を出す

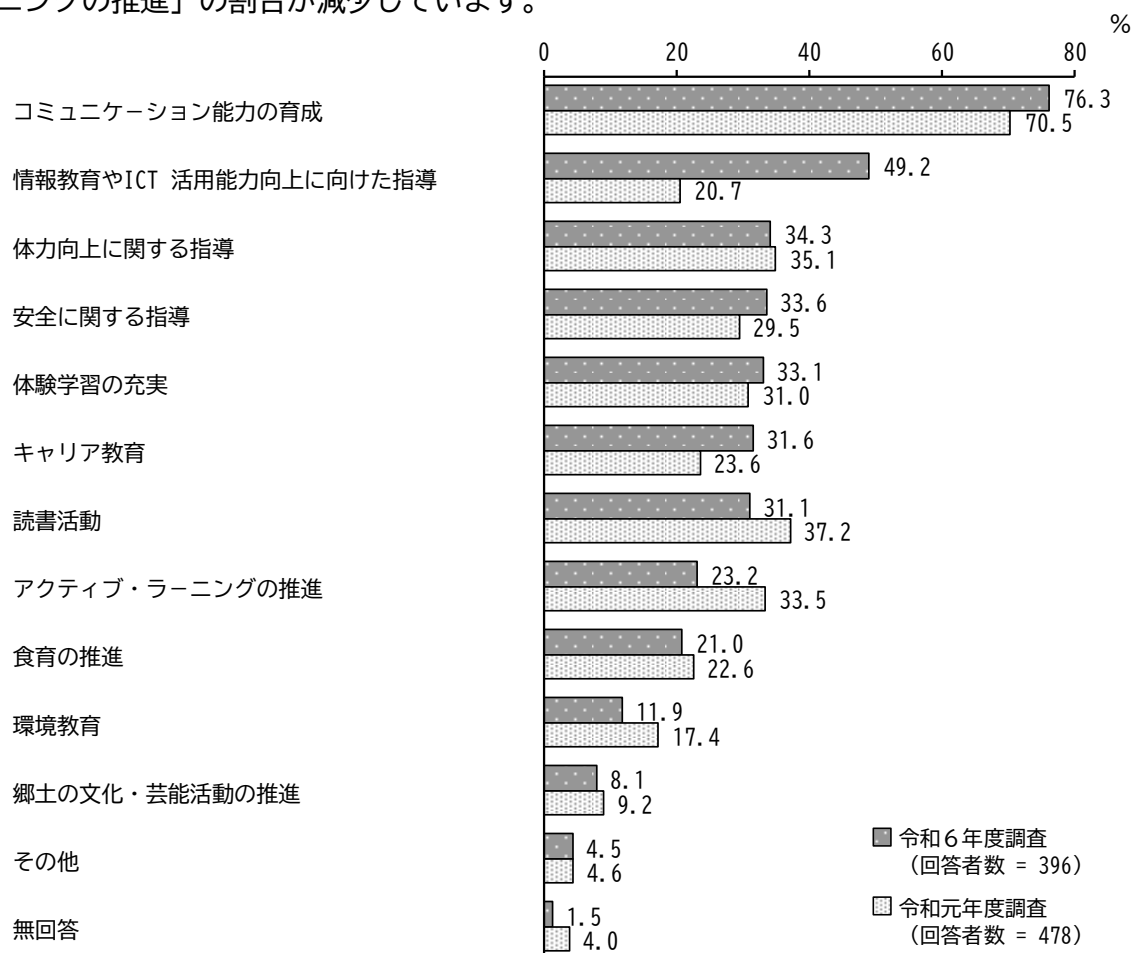
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問 11 各教科の学習活動以外に、今後特に重点的に取り組むべきものは何だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

「コミュニケーション能力の育成」の割合が76.3%と最も高く、次いで「情報教育やICT活用能力向上に向けた指導」の割合が49.2%、「体力向上に関する指導」の割合が34.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「キャリア教育」「コミュニケーション能力の育成」「情報教育やICT活用能力向上に向けた指導」の割合が増加しています。一方、「環境教育」「読書活動」「アクティブ・ラーニングの推進」の割合が減少しています。



【勤務先別】

勤務先別にみると、「読書活動」、「情報教育やICT活用能力向上に向けた指導」で小学校の方が高く、「キャリア教育」で中学校の方が高くなっています

単位：％

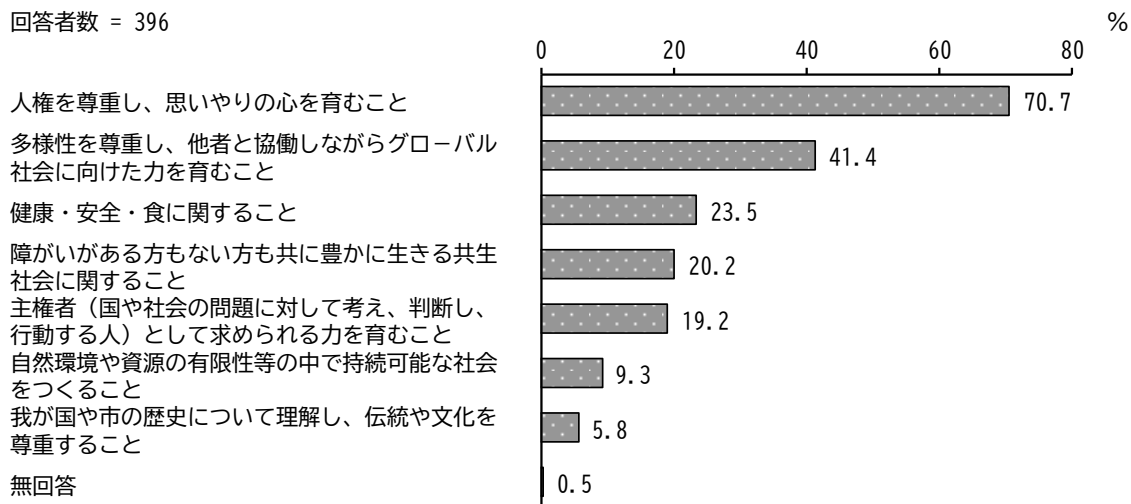
区分	回答者数 (件)	環境教育	キャリア教育	食育の推進	安全に関する指導	読書活動	体力向上に関する指導	コミュニケーション能力の育成	体験学習の充実	情報教育やICT活用能力向上に向けた指導	アクティブ・ラーニングの推進	郷土の文化・芸能活動の推進	その他	無回答
全 体	396	11.9	31.6	21.0	33.6	31.1	34.3	76.3	33.1	49.2	23.2	8.1	4.5	1.5
小学校	282	10.6	26.6	21.3	35.5	36.2	36.9	77.3	33.7	52.8	23.8	8.2	3.9	—
中学校	110	15.5	45.5	20.9	30.0	19.1	29.1	76.4	32.7	41.8	22.7	8.2	6.4	1.8

(3) 学校教育について

問 12 狭山市の学校教育で児童生徒に教えることとして、以下の項目の中で、特に重要だと思ふことは何ですか。(主なもの2つまで○)

「人権を尊重し、思いやりの心を育むこと」の割合が70.7%と最も高く、次いで「多様性を尊重し、他者と協働しながらグローバル社会に向けた力を育むこと」の割合が41.4%、「健康・安全・食に関すること」の割合が23.5%となっています。

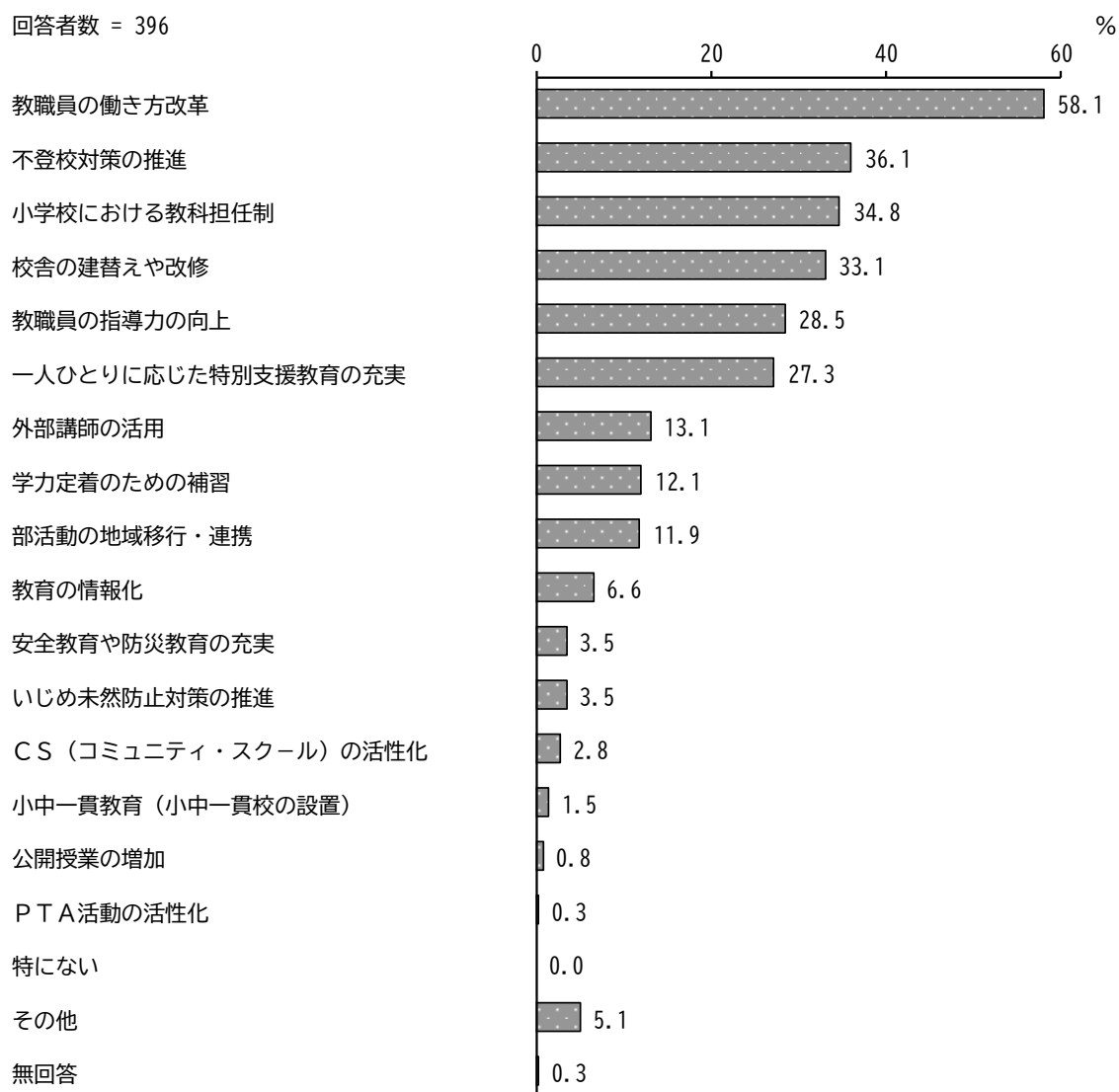
回答者数 = 396



問13 今後、狭山市の公立学校教育で特に重点をおいて取り組む必要があるものは、どれですか。（主なもの3つまで○）

「教職員の働き方改革」の割合が58.1%と最も高く、次いで「不登校対策の推進」の割合が36.1%、「小学校における教科担任制」の割合が34.8%となっています。

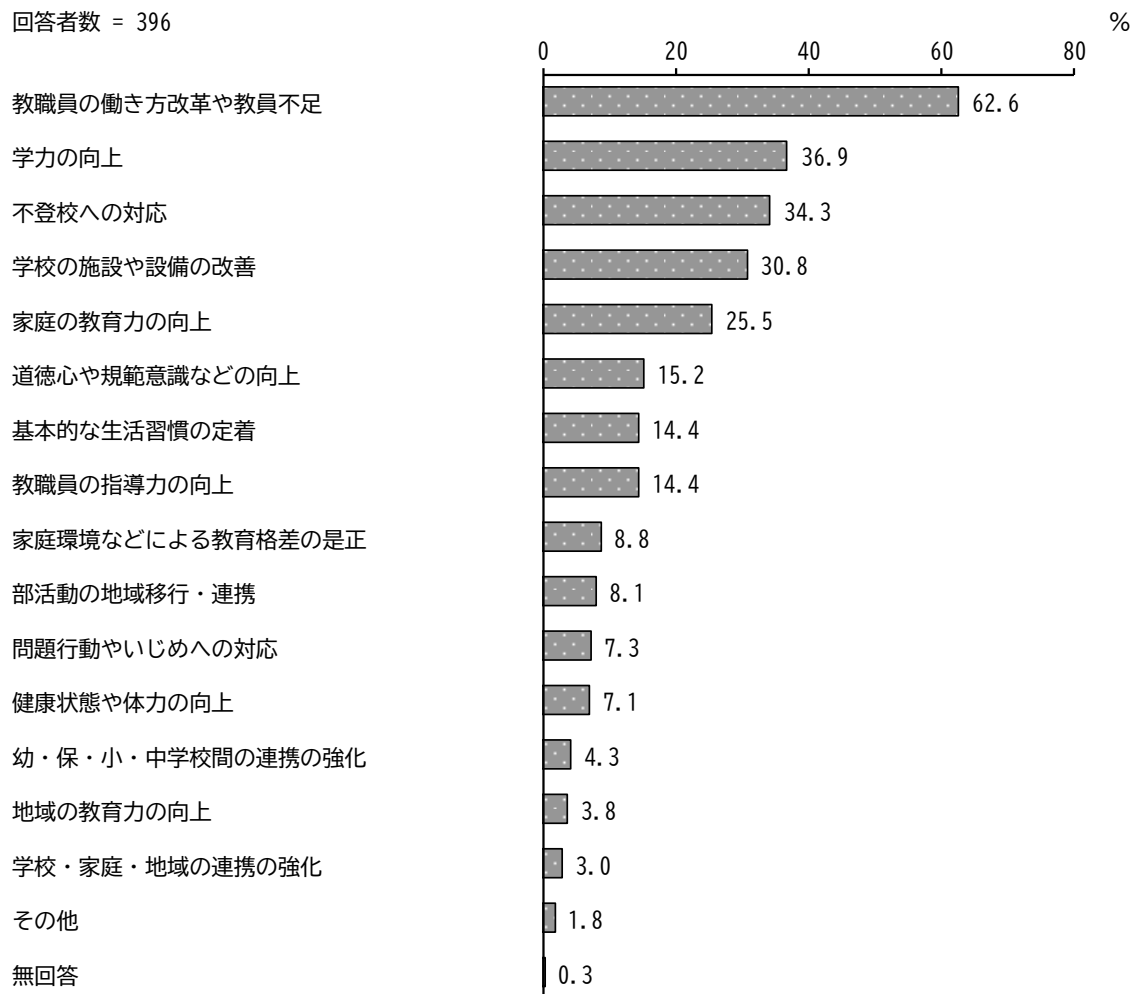
回答者数 = 396



問 14 狭山市における教育的課題とを感じるものは何ですか。（主なもの3つまで○）

「教職員の働き方改革や教員不足」の割合が62.6%と最も高く、次いで「学力の向上」の割合が36.9%、「不登校への対応」の割合が34.3%となっています。

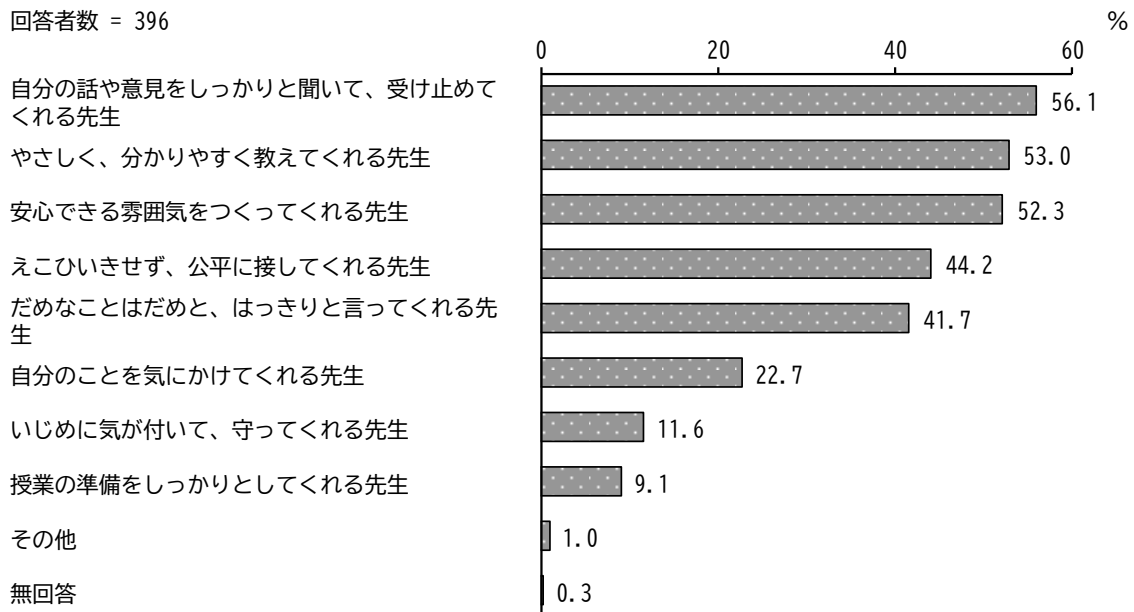
回答者数 = 396



問 15 児童生徒が望む先生はどのような先生だと思いますか。(主なもの3つまで○)

「自分の話や意見をしっかりと聞いて、受け止めてくれる先生」の割合が56.1%と最も高く、次いで「やさしく、分かりやすく教えてくれる先生」の割合が53.0%、「安心できる雰囲気をつくってくれる先生」の割合が52.3%となっています。

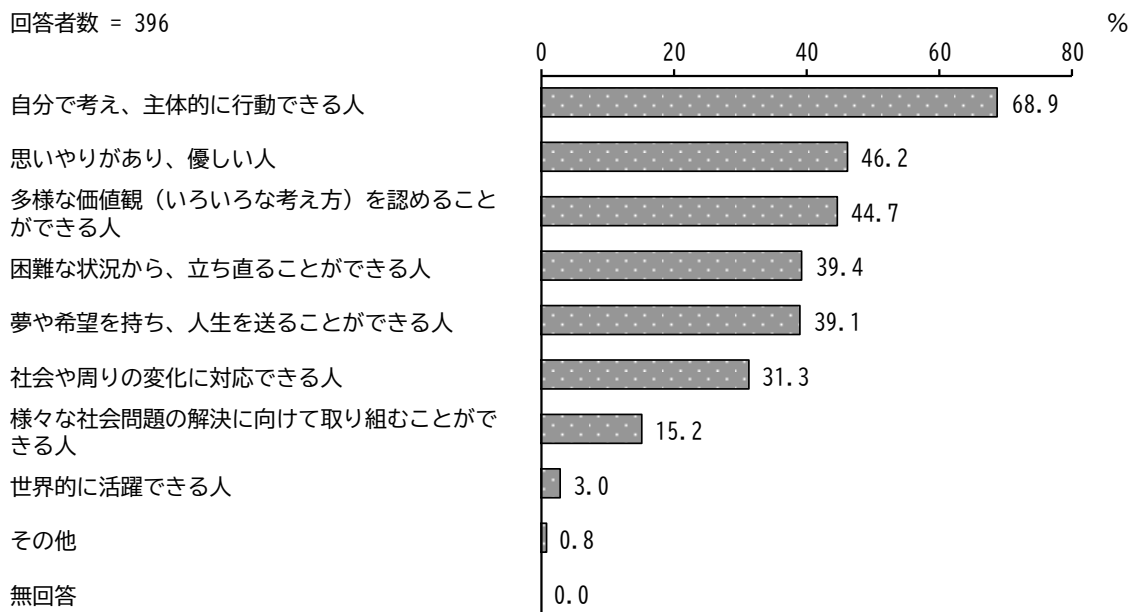
回答者数 = 396



問 16 10年後の狭山市を考えたとき、児童生徒にどのような大人になってほしいですか。(主なもの3つまで○)

「自分で考え、主体的に行動できる人」の割合が68.9%と最も高く、次いで「思いやりがあり、優しい人」の割合が46.2%、「多様な価値観（いろいろな考え方）を認めることができる人」の割合が44.7%となっています。

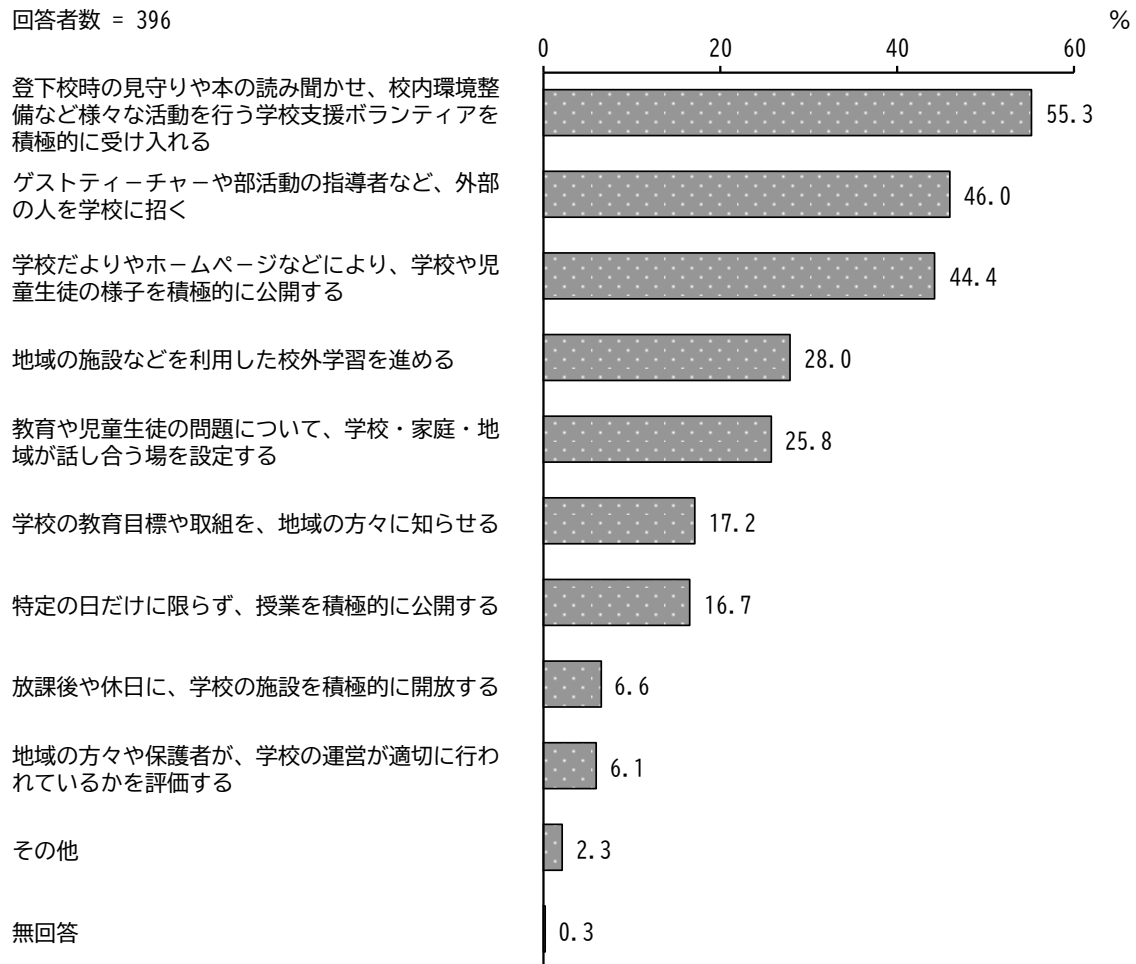
回答者数 = 396



問 17 地域とともにある学校（パートナーとしての連携・協働関係）づくりを行うために、
何が大切だと思いますか。（主なもの3つまで○）

「登下校時の見守りや本の読み聞かせ、校内環境整備など様々な活動を行う学校支援ボランティアを積極的に受け入れる」の割合が55.3%と最も高く、次いで「ゲストティーチャーや部活動の指導者など、外部の人を学校に招く」の割合が46.0%、「学校だよりやホームページなどにより、学校や児童生徒の様子を積極的に公開する」の割合が44.4%となっています。

回答者数 = 396



問 18 コロナ禍を経験した学校教育の中で、今後、学校現場で何を大切にしていけることが必要だと考えますか。(箇条書き可)

学校現場で大切なことについて、以下の意見が挙げられました。

1. コミュニケーション能力の向上 (15 件)
多くの仲間と学び合うことが大切だと思います(学習、行事、相手の表情、言葉を見る・聴く、けんかをした時そのあとどうすればよいか互いに考えるなど)。
人との関わり。
人とのコミュニケーション。学習への意欲。
・コミュニケーションをとること。その具体的な手段を様々な経験を通して学ぶ。対話、SNS(直接的)を通しての情報交換。
コミュニケーション能力。
・人と人とのコミュニケーションスキルの向上。・共生に対する取り組み。
コミュニケーション能力の育成。
・コミュニケーション能力の向上。・他者理解。・生活経験の充実。
人との関わりの中で学びとっていく機会が、希薄になりました。人間形成の上でも大事なコミュニケーションや心の成長に関わることは大切にしていきたいものです。
・子ども同士のつながり、コミュニケーションを大事に指導していきたい。
マスクをしている生活で、表情や言葉で伝えるのが苦手な児童が増えた。人と人とのコミュニケーションを大切にしていけるべきだと強く感じた。
・他者との関わりができていないので、コミュニケーション能力の向上、地域の方々との関わりを増やすなど。
人と人と結びつける力、コミュニケーション能力とその礎となる思いやり。
・生徒同士の結びつき。
・人とのコミュニケーション能力(オンラインが広がりつつあるが、対面することで得られる良さもある)。・集団で学ぶことの良さ。
2. 体験学習の充実 (6 件)
緊急事態宣言の時に小1として入学し、5月末まで学校に通えなかった子どもたちが5年生になりました。本校では、5年生の不登校がとて多く、1クラスに2~3人います。予備軍はもっといます。やはり背景には三密等、人との関わりでの制限があげられると考えます。メンタル的に弱い子どもが増えてしまったように感じています。もっと体験的な学習を増やしていくことが大切だと考えます。
・コロナ期にできなかった体験を学年に合わせて行う(既に実施していると思います)。
・学校行事の充実。・外部の人との交流。・体験学習の充実。
コミュニケーション、体験学習の充実。仲間と共に頑張る、乗り越える経験。
・体験学習
・人とのコミュニケーションを取る方法を学び生徒も大人も実践していく力を身につける。・体験活動や探究的な活動を増やしていく。・地域や様々な職業、考え方を持つ人とふれ合う場をもっと設ける。
3. 行事の精選と再検討 (12 件)
・学習内容をふやすだけでなく、へらしてほしい。
行事の再検討。全てコロナ禍前に戻すのではなく、必要なもののみ残す。
・子どもたちにとって、本当に必要なことなのかを考える(行事等)。必要ないものはけずる。
・行事の精選、朝読書、学習方略、部活のあり方等を考え直してもいいかと思います。
学習活動、学校行事の精選と再構築。
・行事の見直し。・行事の簡素化。

いろいろ削ぎおとしすぎて、ゆとりというか楽しみになっていた行事がなくなってしまった気がします。
・行事等の精選
・教育過程の見直し。・学校行事の精選。・学校で担う仕事の明確化、業務の明確化。
コロナ禍で縮小された行事を、できるだけ元に近い状態に戻すこと。何でもかんでも「働き方改革」の名のもとに行事を精選、縮小するのは聞こえがいいようにみえますが、私は教員の手抜きであると考えます。
・やらなくてもいいものは、無理に復活させない。・友達との学び合い。
・行事や教科書等の精選。・コミュニティ、人との関わり等、大切にしないとならない。
4. オンライン授業の活用（3件）
コロナ以前の学校ではなく、マスターコロナを意識した効果的な、リモート授業の積極的導入と措置の設置。
・オンラインでの授業の活用（ICTの活用）。・個別最適な学びの実現。
・オンラインでできることは、オンラインにする（始業式や終業式等）。
5. 地域とのつながり強化（2件）
・人と人とのつながり、基本的なあいさつや言葉づかいなどが大切だな、と改めて思いました。・人と人とのつながりが地域でもうすいと感じていて、そこをつないでいくのが学校として大切。
・地域とのつながりです。
6. 教員の負担軽減
・毎日、学校に来て勉強・運動にはげむ。・個別対応、仕方がないが現場の担任に負担が大きいので、その対応の人がいてほしい。
生徒のコロナ感染の中で、教職員も感染しました。複数担任制など、教職員の人数を増やしてほしい。
コロナ禍で縮小してできたことを継続していく（負担の軽減）。
・教員を増やす（副担任等）。・特学適の児童が普通学級にいる場合のサポート体制。・1クラスの人数を減らす。
7. ICT教育の推進（4件）
・感染症による学級閉鎖時の授業の補償（ICTを活用した学習）。
・人間関係の形成。・GIGAスクール
・生徒が登校できない状況においても、授業が成り立つICT教育。・未曾有の事態でも間違った情報にまどわされないための情報教育。
○紙とタブレットの使い分け
8. 感染症対策の徹底（3件）
・消毒液の充実。・養護教諭との連絡を密に。・手洗い、うがいの励行。
・手洗い、消毒。・不登校生徒の対応。
・不登校児童とのz o o m授業。・手洗いうがいや、消毒などの徹底。
9. 多様な学びの場の確保（2件）
・子どもの成長の場を確保すること（行事・部活）。
・児童の多様な学びの場の確保。
10. 働き方改革の推進（3件）
本当に必要なものかどうかを検討し、見直して働き方改革へつなげていく。
効率化が可能とわかったことを忘れずに（時間をある程度削減してもなんとかあった）、時数をもう少し減らすなど（内容も）柔軟にしていける必要がある（子どもも教師も忙しい）。ただ不易と流行でないけど、大切にしていかなければならないこともある。
コロナで削減した行事をコロナ後に残すかどうか判断すること（生徒にとって大切な、教員の働き方改革の視点で）。

問 19 文部科学省が推進する GIGA スクール構想の中で、一人一台学習用タブレットの活用が求められています。児童生徒にとって、必要なことや大切だと思うことは何ですか。（箇条書き可）

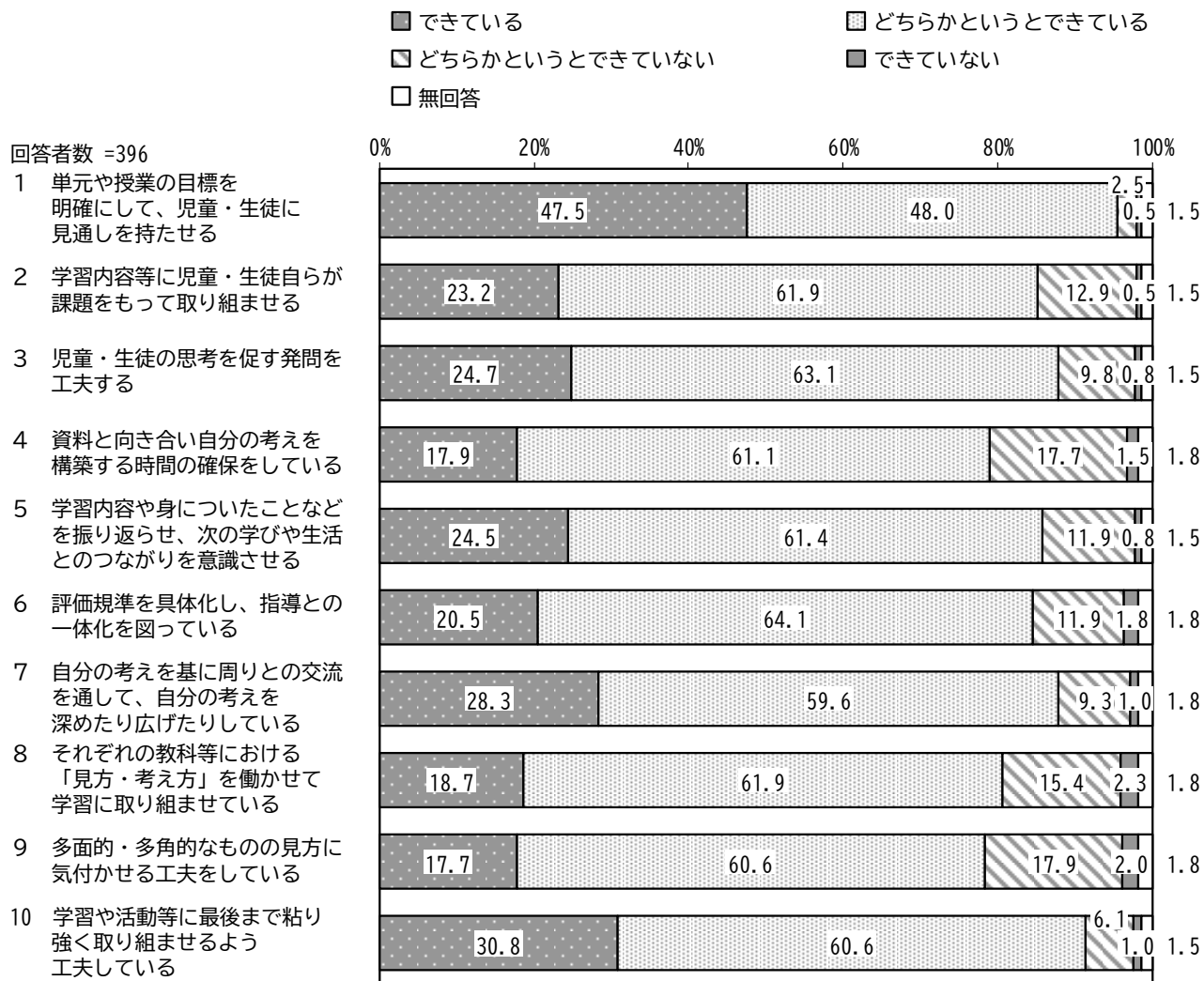
学習用タブレットの活用に関する大切なことについて、以下の意見が挙げられました。

1. タブレットの適切な使用場面を見極める（6件）
・ 使いやすさと使いどころを明確にすること。・ 市町村で端末の差があるのはよくない。
・ タブレットの正しい活用方法を知ること。・ タブレット等を活用した学習の楽しさを学ぶこと。
適切な使い方の指導の充実。
・ タブレットを適切に用いるメディアリテラシカ。
タブレットを使用した方が良い場面、そうでない場面を指導者がしっかりと見極めること、理解していること。ICTの研究授業等10本ほど見てきたが、シーンとしている授業になりがちであると感じている。特に対話、伝え合い、考えの言語化。
・ タブレットの使用が大切ではなく、必要な時に使いこなせることが大切。・ w i f i の環境がよくないので、クラス全員で動画を観ることができないことがほとんど。
2. 情報モラル教育の重要性（9件）
情報モラル
・ 情報モラル教育。
タブレット使用上のモラルについて教えること。
スキルも大切ですが、モラル教育が必要。また、うまく使う技術が習得できていない子どもたちを助けてくれる（教えてくれる）人が、常に複数名必要ではないでしょうか。苦手な子は楽しく学ばずに進んでしまう現状がある気がします。
G I G A スクール構想による1人が1台タブレットを使えるので、児童1人1人が正しく使用する知識を身につけさせること（情報モラル等）。
インターネットを使用する際のモラル（情報モラル）。
・ 情報モラル、教育の充実。
・ タブレットを正しく活用する情報教育。・ タイピング指導をする授業数の確保。
・ 情報モラル教育。・ 各OSの名称や操作方法。・ 使いやすさ（起動、動作がスムーズに行える）。
3. ICT 活用のための予算確保が必要（3件）
ICT機器の活用。
ICTの活用方法を見つけること。
・ 常に新しいものが求められているので、特にハード面での予算確保が必要。
4. タブレット使用の姿勢や視力への影響（1件）
・ 使い方（姿勢の悪化、視力の低下が心配である）。・ 学校の中で統一した活用プラン（先生によってばらつきがある）。
5. 統一したタブレット活用プランの必要性（1件）
・ タブレットだけ持たせて、指導内容や方法については現場任せなので、得意な人はどんどん使えるがそうでない人は困る。カリキュラムなども用意してほしい。
6. 自分の実力に合った学習の重要性（1件）
・ 自分の実力に合ったドリルやワークを行う。
7. タブレット依存を避ける教育（2件）
教員も児童もタブレットに依存させないこと。
・ タブレットなどは、ルールを守って上手に活用させたい。タブレットだけに頼りすぎない学習スタイルを。
8. 紙とデジタルの学習の長所短所（3件）

・情報リテラシー。・従来の紙と鉛筆の学習と、端末を使った学習のそれぞれの長所、短所を伝え効果的に選択できる力。
・タブレットのメリット、デメリット、理解。・ツールとして、必要性を感じながら日常で使う。
私はタブレット学習よりも教科書、ノートを使った昔ながらの学習の方がよいと思っているので、タブレットはこれ以上推進しなくてよいと考えます。漢字練習、計算練習を徹底し、基礎基本を身につけさせるべきです。
9. ネットリテラシーの教育（6件）
・メディアリテラシー。・ルールを守れなかったときの対応。
・情報を活用する力。・ネットリテラシー
・ネットリテラシー。・情報活用能力。
・ネットモラル
・ネットリテラシーについて、全員が当たり前理解すること。
・ネットモラル。・安心安全なアプリ。
10. タブレット使用のルールとマナー（10件）
タブレットで活動するときに気をつけるべきこと（ルール、著作権等）の分かりやすい学びが最低限必要と感じます。学校ごとではなく、市や県、国で作成されたDVDやパワポなどがあるとありがたい、統一した認識がされると思います。
・使い方のルール、モラルを学んで守る。
はやい時期からタブレットにふれていくので、使うルールなど基本的なことをしっかり身につけていくことが大切。
使用にあたってのルールを守らせる（大切に扱う）。タブレットケースなどを使用せず、壊れたという生徒がいる。
SNSの利用について（ルール等）。
。ルールを守ることの大切さを理解する。・タブレット学習に偏りすぎるのはよくないが、適切に学習手段の一つとして利用する。
・使い方や使う時間など、しっかり守ること（低学年に1人1台タブレットが本当に必要ですか？）。
モラル、マナー。一人一台の意味とありがたさを知る。
・学習のなかで、1つの方法として積極的に活用していく。・ICTを使う上でのマナー、決まりごとを明確にしておく。
SNSの使い方、マナー、ルール等。

問 20 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、次のことについて、どの程度実践していますか。(1～10の各項目について、それぞれひとつずつ○)

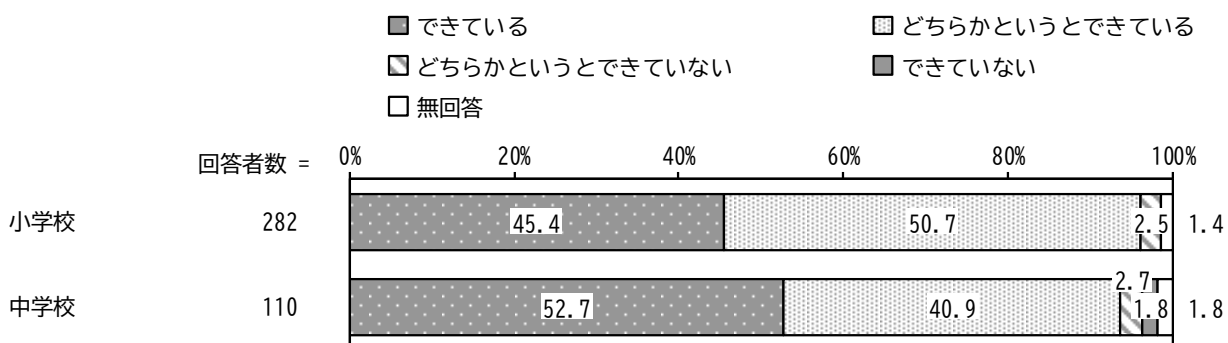
『1 単元や授業の目標を明確にして、児童・生徒に見通しを持たせる』で「できている」「どちらかというとできている」を合わせた”できている”の割合が、『4 資料と向き合い自分の考えを構築する時間の確保をしている』『9 多面的・多角的なものの見方に気付かせる工夫をしている』で「できていない」「どちらかというとできていない」を合わせた”できていない”の割合が高くなっています。



1 単元や授業の目標を明確にして、児童・生徒に見通しを持たせる

【勤務先別】

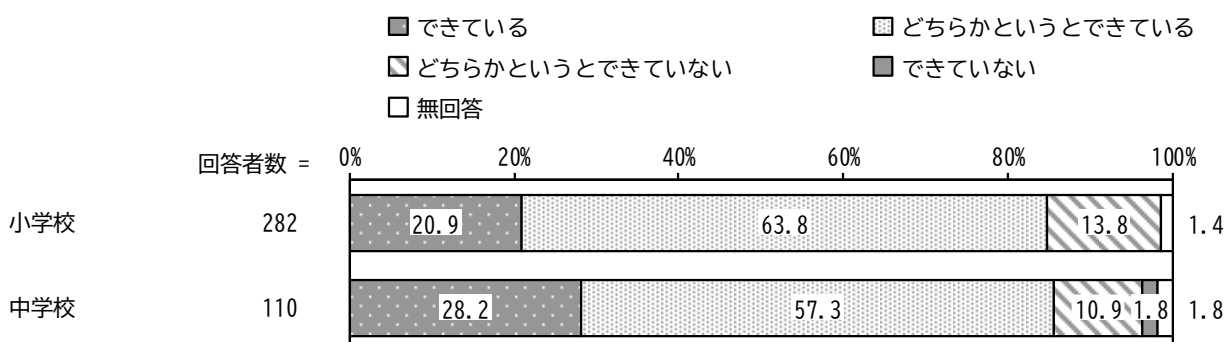
勤務先別にみると、「どちらかというとできている」で小学校の方が高く、「できている」で中学校の方が高くなっています



2 学習内容等に児童・生徒自らが課題をもって取り組ませる

【勤務先別】

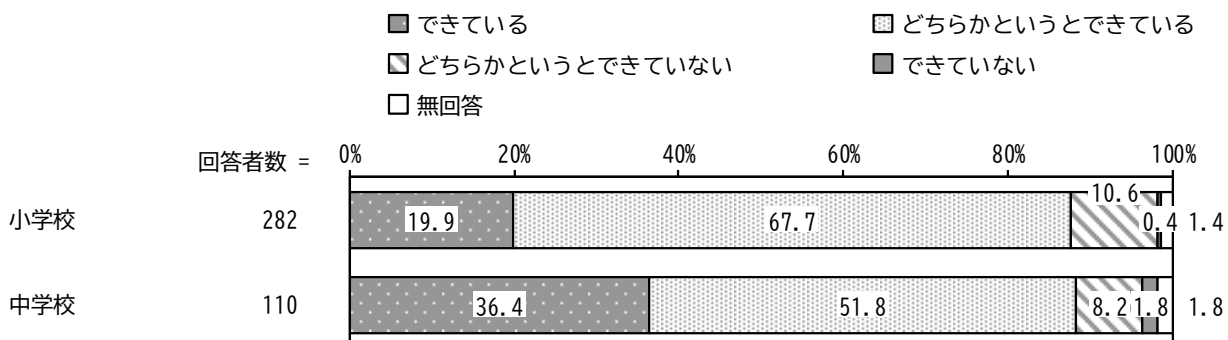
勤務先別にみると、「どちらかというとできている」で小学校の方が高く、「できている」で中学校の方が高くなっています



3 児童・生徒の思考を促す発問を工夫する

【勤務先別】

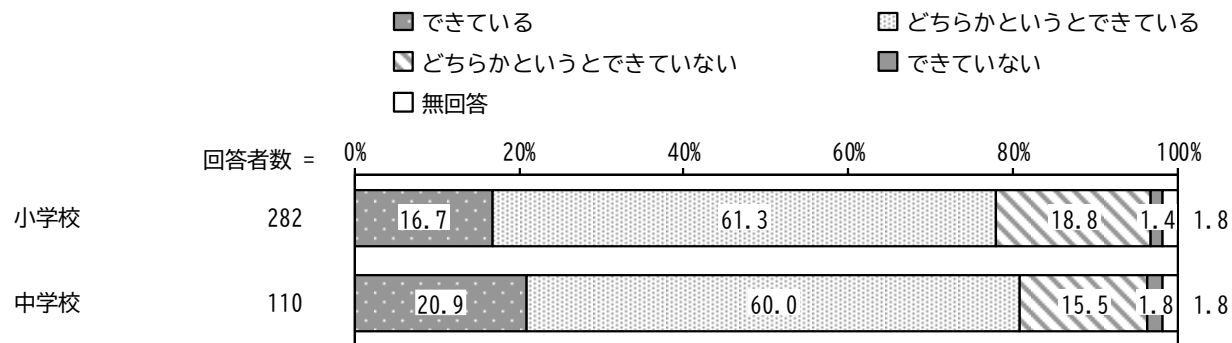
勤務先別にみると、「どちらかというとできている」で小学校の方が高く、「できている」で中学校の方が高くなっています



4 資料と向き合い自分の考えを構築する時間の確保をしている

【勤務先別】

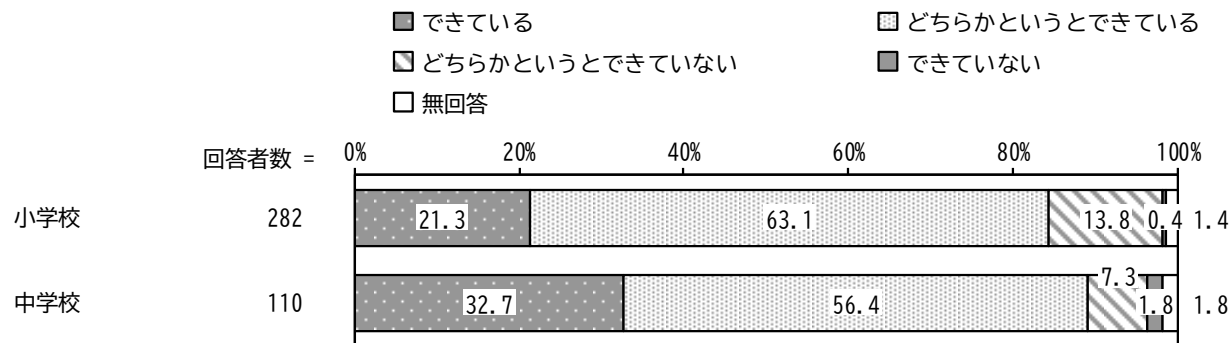
勤務先別にみると、大きな差はみられません。



5 学習内容や身についたことなどを振り返らせ、次の学びや生活とのつながりを意識させる

【勤務先別】

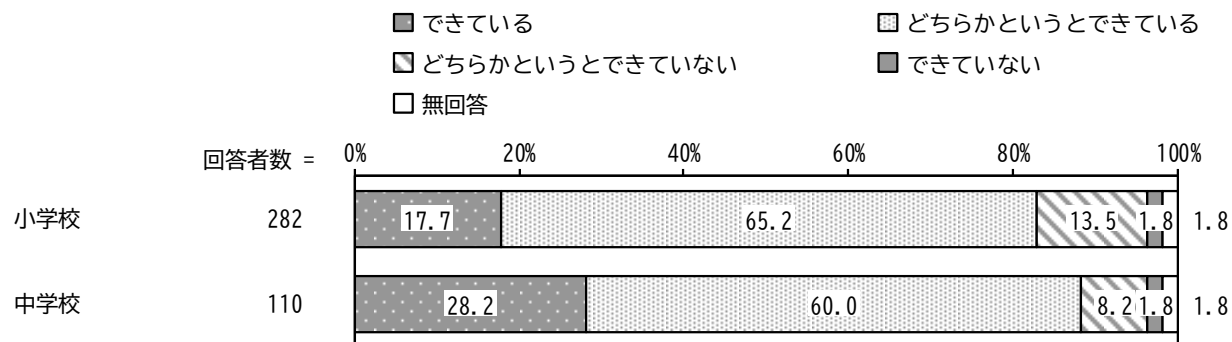
勤務先別にみると、「どちらかというときでできている」、「どちらかというときできていない」で小学校の方が高く、「できている」で中学校の方が高くなっています



6 評価規準を具体化し、指導との一体化を図っている

【勤務先別】

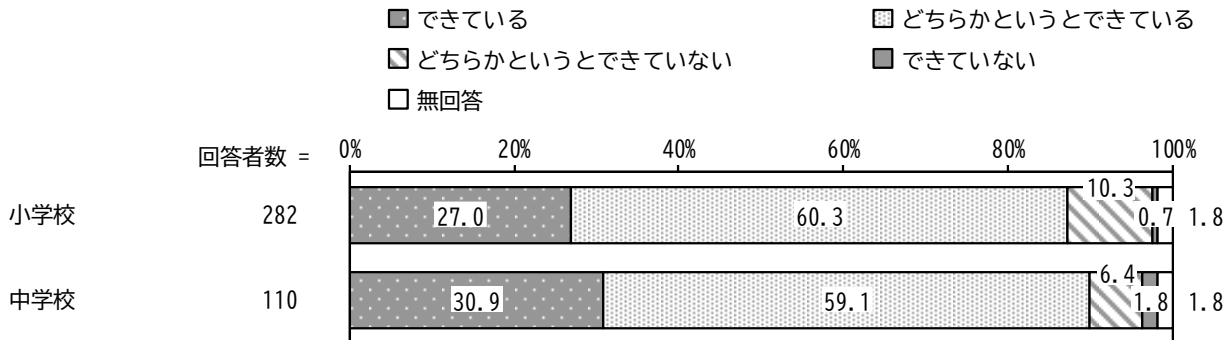
勤務先別にみると、「どちらかというときできていない」で小学校の方が高く、「できている」で中学校の方が高くなっています



7 自分の考えを基に周りとの交流を通して、自分の考えを深めたり広げたりしている

【勤務先別】

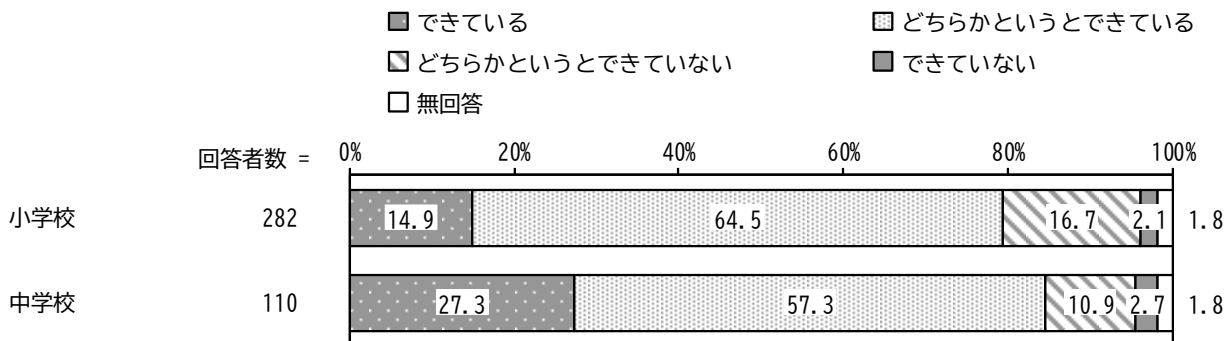
勤務先別にみると、大きな差はみられません。



8 それぞれの教科等における「見方・考え方」を働かせて学習に取り組ませている

【勤務先別】

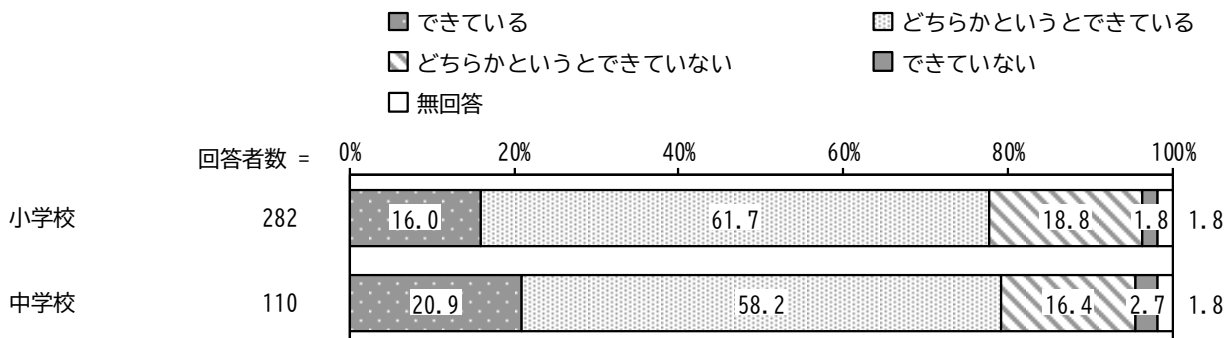
勤務先別にみると、「どちらかというтоできている」、「どちらかというтоできていない」で小学校の方が高く、「できている」で中学校の方が高くなっています



9 多面的・多角的なものの見方に気付かせる工夫をしている

【勤務先別】

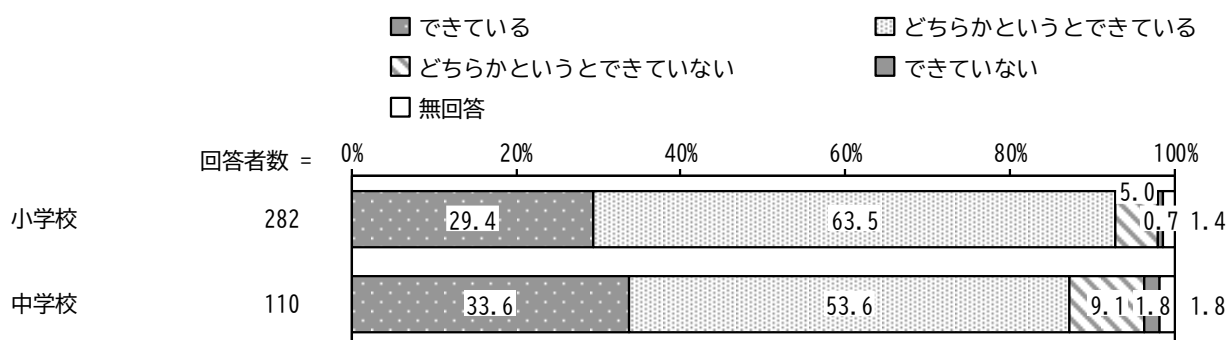
勤務先別にみると、大きな差はみられません。



10 学習や活動等に最後まで粘り強く取り組ませるよう工夫している

【勤務先別】

勤務先別にみると、「どちらかというとできている」で小学校の方が高くなっています



問 21 上記の他に「主体的・対話的で深い学び」を実現するために実践していることや課題と感じていることがありましたらお答えください。（箇条書き可）

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために実践していることや課題について、以下の意見が挙げられました。

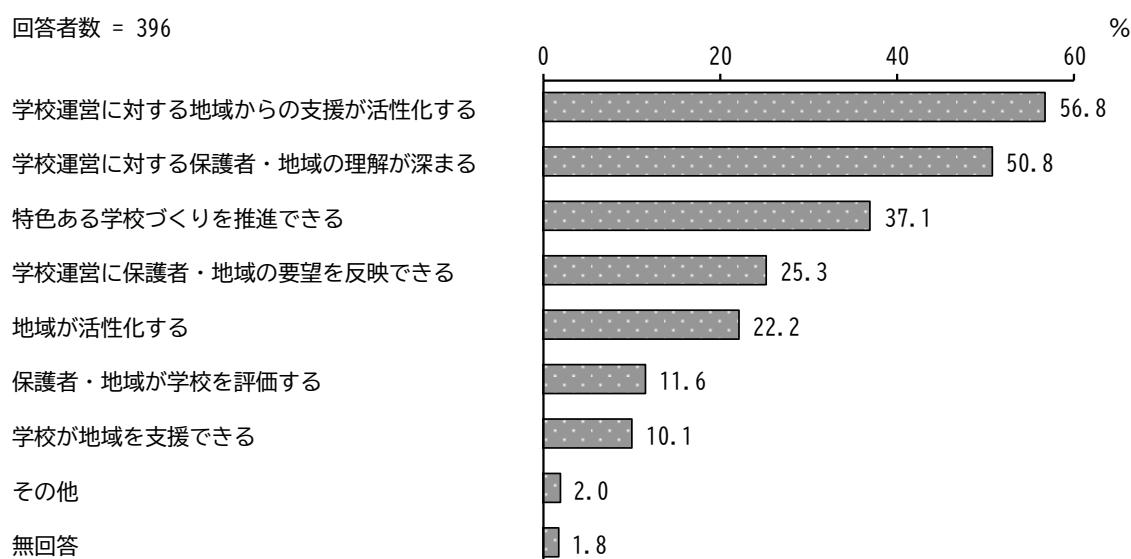
1. コミュニケーション能力の向上が必要（4件）
教師の指導、というよりはファシリテーション力。
自分の言葉で会話をする。
・ コミュニケーションスキルをもっとつけていくべきと感じています。
・ 意欲、関心を高める。・ コミュニケーション能力の強化。
2. 児童の学習意欲を高める工夫（6件）
・ 友だちと教え合える時間をつくっている。・ 多くのことを教えすぎないように気をつけている。
児童が自分で課題を選ぶ。
主体的にまず子どもが学習できるように、導入の工夫をしている。対話的に取り組めるように自分の考えをもてるようにサポートしている。
児童の実態に応じて、児童の興味、関心を高める授業の工夫を心がけている。
・ 児童とともに学習のゴールと学習計画を一緒につくっている。・ 「何故学ぶのか」や学習をしていく必要性をもたせる発問を考えていくこと。
・ 児童の学習意欲の向上は、どうしていけばよいか。
3. 授業での対話的活動の難しさ（2件）
1～3年生は特に「対話的」が難しい。「話し合い」からあまり広げられない。
形だけの対話とならないように、意図（ポイント、目的）を明示して児童に取り組ませること。
4. 学力差による進度の差が課題（1件）
・ 全員が発言できる簡単な発問を、毎授業準備し、意欲をもてるようにしている。（課）・ 学力の差が大きい生徒の進度の差。
5. 時間不足で学びの深化が難しい（4件）
時間がたりない。
・ 振り返りを必ず書くことです。・ 課題は学習内容に対して指導時間が少なく、深め切るのが難しいです。
課題の明確化と十分な時間の確保。課題です！

・学びの深化が難しい。
6. 自分の考えを表現する力の不足（5件）
・自分（子ども）なりの考えをひき出すこと・・・どうすればできるかなと考えています。・環境づくり。
・批評文や長文を書かせるが、漢字が書けず文章も書けない生徒が多い。・情報が多すぎて理解できなかったり、長期記憶がおとっている。・他教科と結びつける教科横断的な授業。
自分の考えを文章で表現する。言葉で伝えることが苦手な児童でも、友達や先生に手伝ってもらいながら、伝えられることを大切にしていこうとすることで、学ぶ意欲につながると思う。そのゆとりや人員が必要。
・自分の考えや意見を、自信を持って伝えられる生徒が少ない。
・自分の考えをもつ、話すこと自体に苦手を感じる児童が多いことが課題。
7. グループワークの活用と工夫（5件）
授業毎にテーマにそって話し合ったり、自分自身の学びをふりかえさせたりする時間をとっている。グループで活動するよう心がけ、共に教え合うようにしている。
理科におけるレポート作成。グループワーク。
（実）グループワークを取り入れること。（課）なし。
単元によっては、グループ学習、ペア学習を取り入れ、話し合いをしながら学習が進められるよう工夫した。
・オペアワーク、グループワーク。

問 22 狭山市では、「コミュニティ・スクール」「地域学校協働活動」の取組をはじめ、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組が進められています。どのような成果があると考えますか。（あてはまるものすべてに○）

「学校運営に対する地域からの支援が活性化する」の割合が56.8%と最も高く、次いで「学校運営に対する保護者・地域の理解が深まる」の割合が50.8%、「特色ある学校づくりを推進できる」の割合が37.1%となっています。

回答者数 = 396



【勤務先別】

勤務先別にみると、「学校運営に対する地域からの支援が活性化する」で小学校の方が高く、「学校が地域を支援できる」で中学校の方が高くなっています

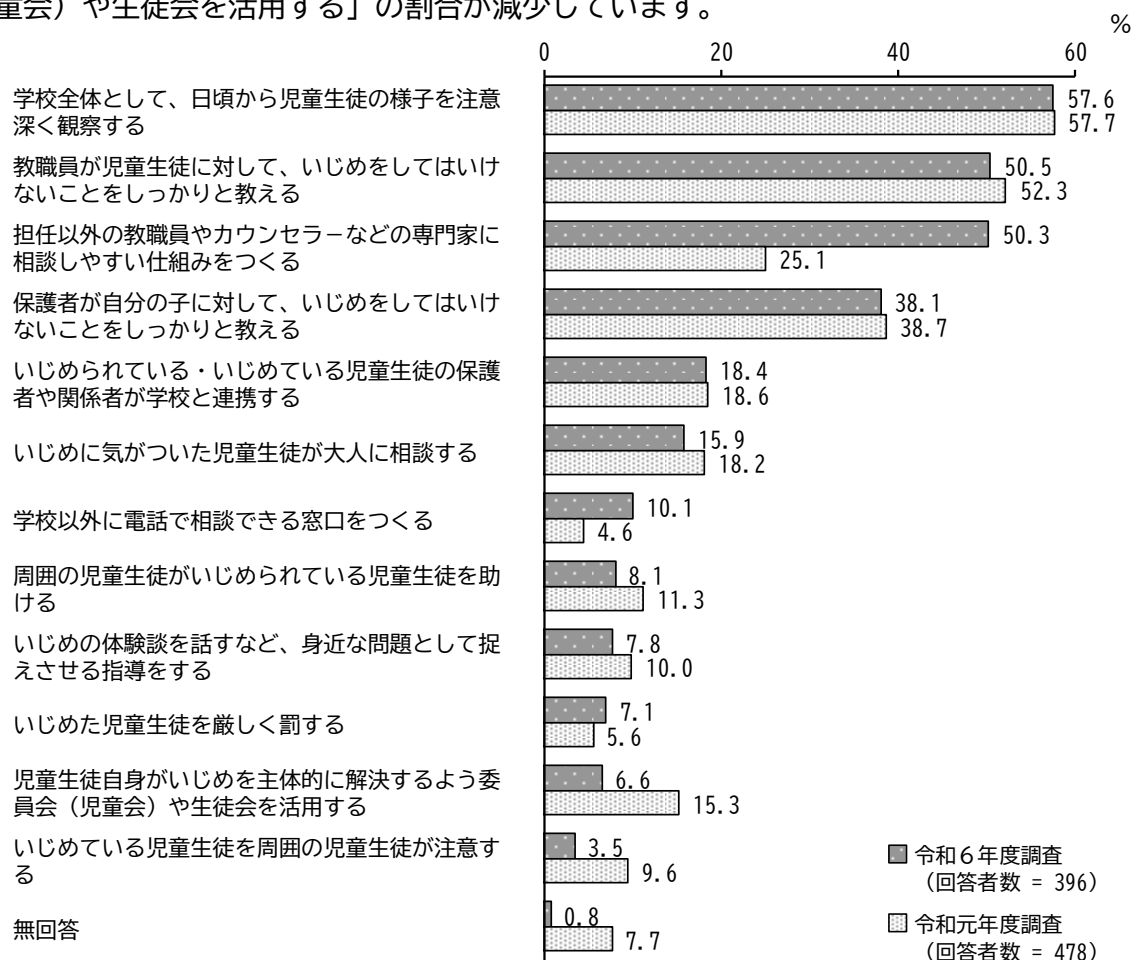
単位：％

区分	回答者数 (件)	特色ある学校づくりを推進できる	学校運営に対する地域からの支援が活性化する	学校運営に保護者・地域の要望を反映できる	学校運営に対する保護者・地域の理解が深まる	保護者・地域が学校を評価する	学校が地域を支援できる	地域が活性化する	その他	無回答
全 体	396	37.1	56.8	25.3	50.8	11.6	10.1	22.2	2.0	1.8
小学校	282	38.7	59.2	26.2	50.0	12.4	8.5	22.0	1.4	2.1
中学校	110	32.7	51.8	23.6	51.8	10.0	13.6	22.7	3.6	0.9

問 23 どうしたらいじめを減らしたり、解決したりできるかについて、以下の中で重要だと思うことは何ですか。(主なもの3つまで○)

「学校全体として、日頃から児童生徒の様子を注意深く観察する」の割合が57.6％と最も高く、次いで「教職員が児童生徒に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」の割合が50.5％、「担任以外の教職員やカウンセラーなどの専門家に相談しやすい仕組みをつくる」の割合が50.3％となっています。

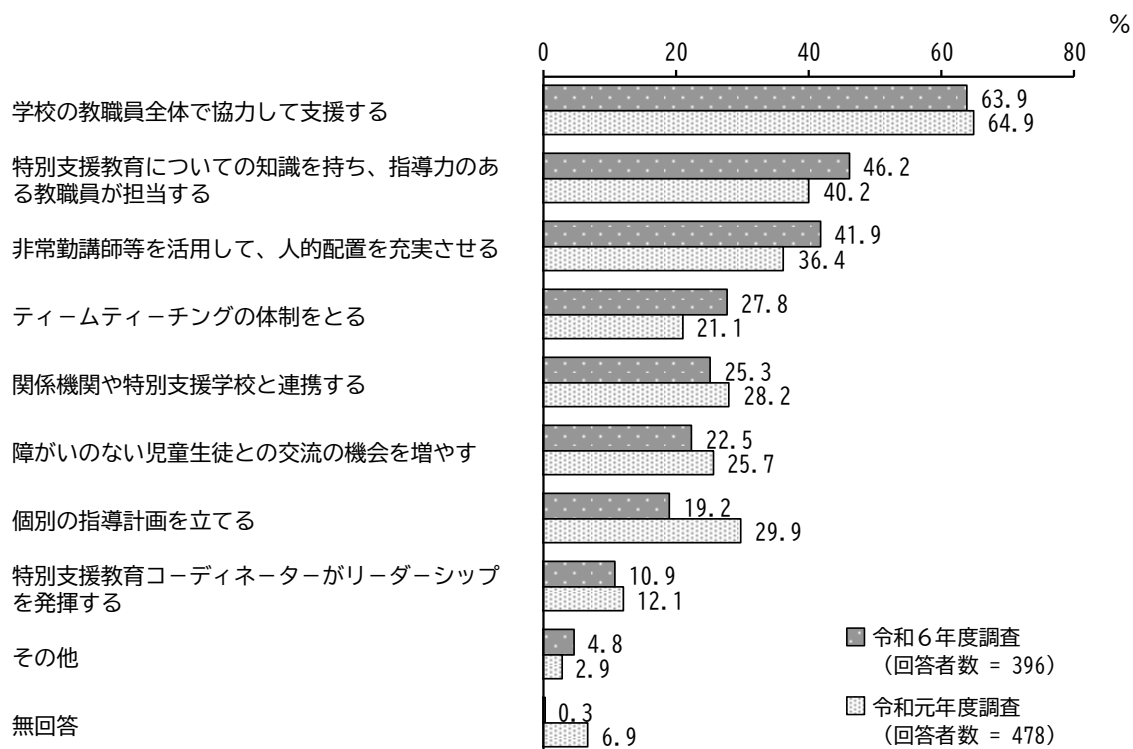
令和元年度調査と比較すると、「担任以外の教職員やカウンセラーなどの専門家に相談しやすい仕組みをつくる」「学校以外に電話で相談できる窓口をつくる」の割合が増加しています。一方、「いじめている児童生徒を周囲の児童生徒が注意する」「児童生徒自身がいじめを主体的に解決するよう委員会（児童会）や生徒会を活用する」の割合が減少しています。



問 24 学校において、特別な支援を必要とする児童生徒への教育を充実するために必要なことは何だと思いますか。(主なもの3つまで○)

「学校の教職員全体で協力して支援する」の割合が63.9%と最も高く、次いで「特別支援教育についての知識を持ち、指導力のある教職員が担当する」の割合が46.2%、「非常勤講師等を活用して、人的配置を充実させる」の割合が41.9%となっています。

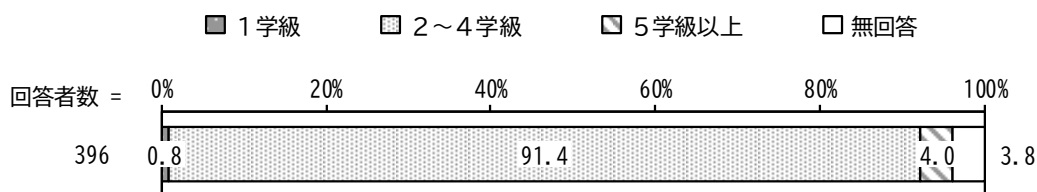
令和元年度調査と比較すると、「特別支援教育についての知識を持ち、指導力のある教職員が担当する」「チームティーチングの体制をとる」「非常勤講師等を活用して、人的配置を充実させる」の割合が増加しています。一方、「個別の指導計画を立てる」の割合が減少しています。



問 25 狭山市では、児童生徒のよりよい教育環境を目指して、適正な学校規模を小学校は1学年あたり2～4学級の12学級から24学級、中学校は1学年あたり4～6学級の12学級から18学級としていますが、学校の再編などを行う場合、学級数や定員数はどのくらいが適当だと思いますか。その理由もお答えください。

ア) 小学校1学年あたりの学級数

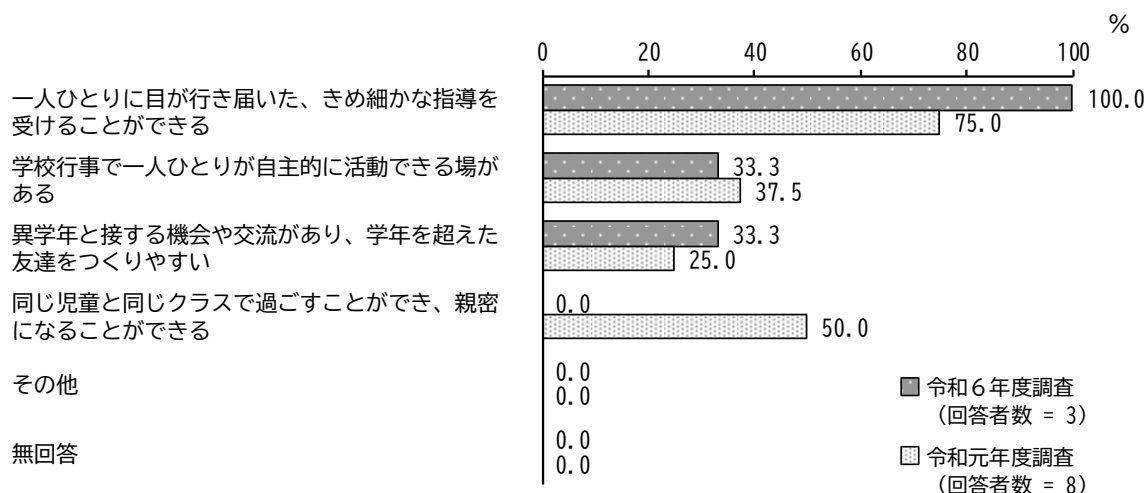
「1学級」の割合が0.8%、「2～4学級」の割合が91.4%、「5学級以上」の割合が4%となっています。



ア－１）小学校で１学級が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細かな指導を受けることができる」が３件、「学校行事で一人ひとりが自主的に活動できる場がある」、「異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友達をつくりやすい」が１件となっています。

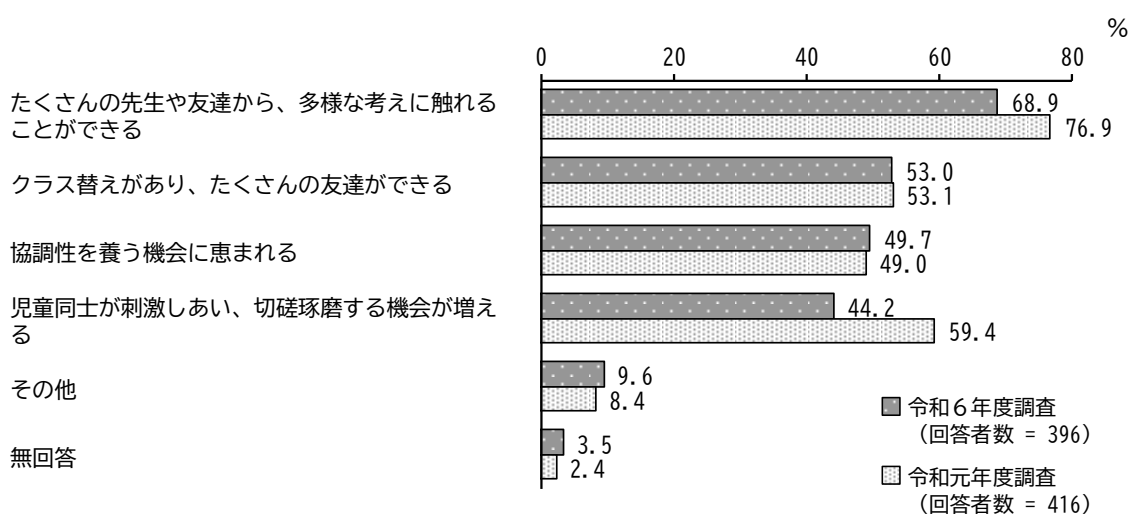
令和元年度調査と比較すると、「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細かな指導を受けることができる」「異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友達をつくりやすい」の割合が増加しています。一方、「同じ児童と同じクラスで過ごすことができ、親密になることができる」の割合が減少しています。



ア－２）小学校で２学級以上が適当と答えた理由（主なもの３つまで○）

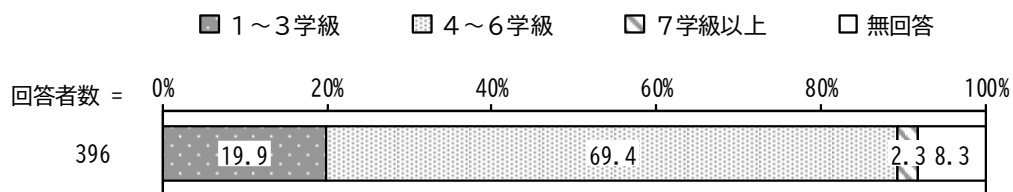
「たくさんの先生や友達から、多様な考えに触れることができる」の割合が６８．９％と最も高く、次いで「クラス替えがあり、たくさんの友達ができる」の割合が５３％、「協調性を養う機会に恵まれる」の割合が４９．７％となっています。

令和元年度調査と比較すると、「児童同士が刺激しあい、切磋琢磨する機会が増える」「たくさんの先生や友達から、多様な考えに触れることができる」の割合が減少しています。



イ) 中学校1 学年あたりの学級

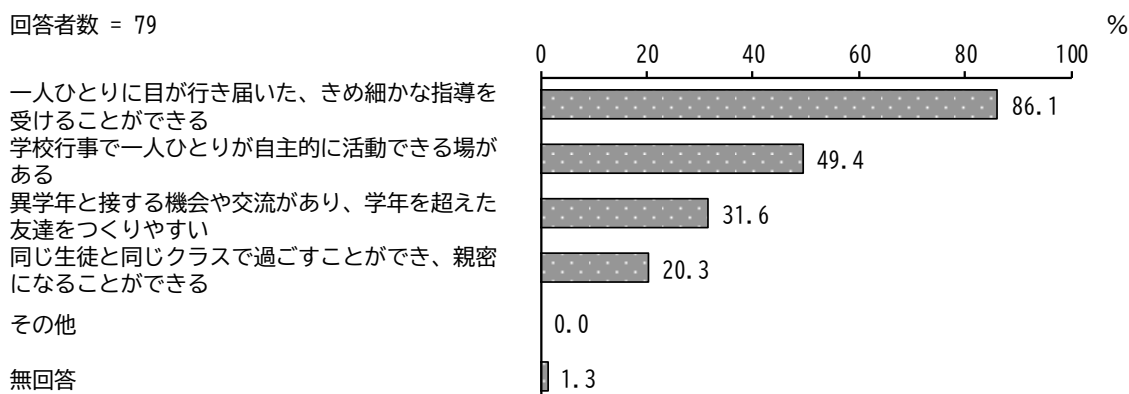
「1～3学級」の割合が19.9%、「4～6学級」の割合が69.4%、「7学級以上」の割合が2.3%となっています。



イ-1) 中学校で1～3学級が適当と答えた理由（主なもの3つまで○）

「一人ひとりに目が行き届いた、きめ細かな指導を受けることができる」の割合が86.1%と最も高く、次いで「学校行事で一人ひとりが自主的に活動できる場がある」の割合が49.4%、「異学年と接する機会や交流があり、学年を超えた友達をつくりやすい」の割合が31.6%となっています。

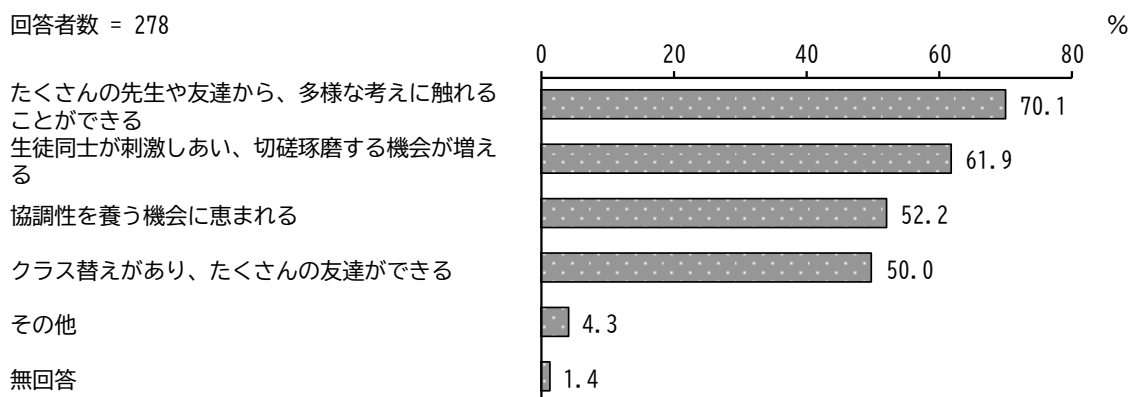
回答者数 = 79



イ-2) 中学校で4学級以上が適当と答えた理由（主なもの3つまで○）

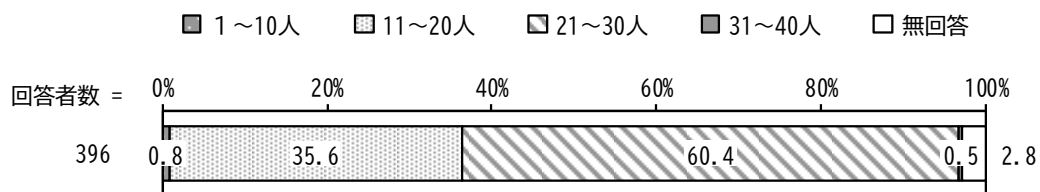
「たくさんの先生や友達から、多様な考えに触れることができる」の割合が70.1%と最も高く、次いで「生徒同士が刺激あい、切磋琢磨する機会が増える」の割合が61.9%、「協調性を養う機会に恵まれる」の割合が52.2%となっています。

回答者数 = 278



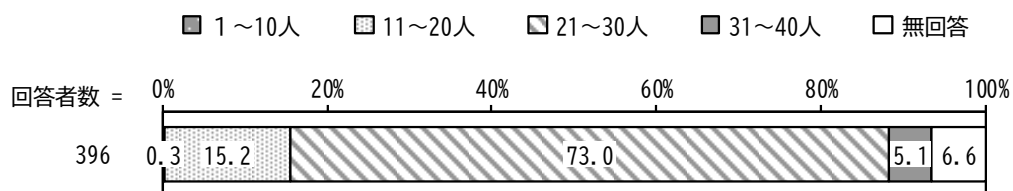
ウ) 小学校1学級あたりの理想的な定員数

「21～30人」の割合が60.4%と最も高く、次いで「11～20人」の割合が35.6%、「1～10人」の割合が0.8%となっています。



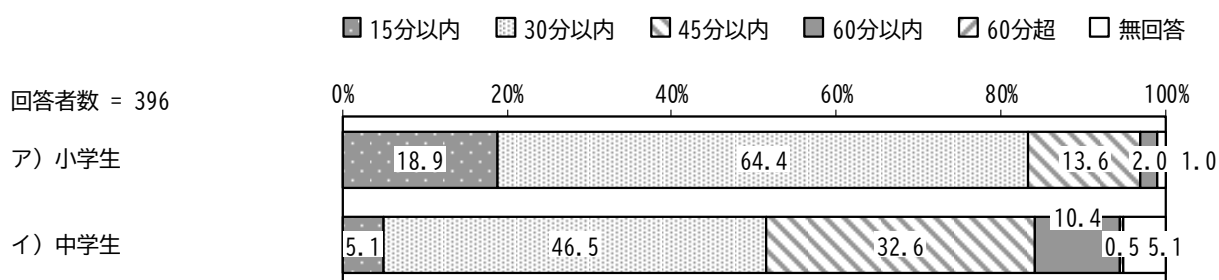
エ) 中学校1学級あたりの理想的な定員数

「21～30人」の割合が73.0%と最も高く、次いで「11～20人」の割合が15.2%、「31～40人」の割合が5.1%となっています。



問 26 国においては、小学校までの通学時間（距離）の目安をおおむね1時間（4キロメートル）以内、中学校までの通学時間（距離）の目安をおおむね1時間（6キロメートル）以内としています。どの程度の時間が通学可能な範囲と考えますか。

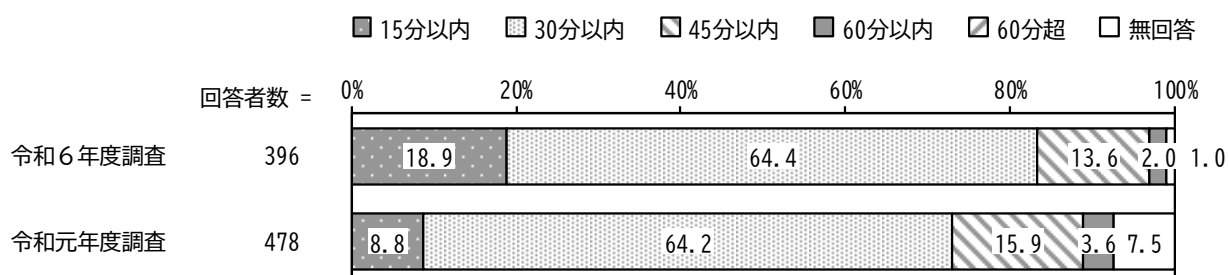
『ア) 小学生』で「15分以内」「30分以内」の割合が、『イ) 中学生』で「45分以内」「60分以内」の割合が高くなっています。



ア) 小学生

「30分以内」の割合が64.4%と最も高く、次いで「15分以内」の割合が18.9%、「45分以内」の割合が13.6%となっています。

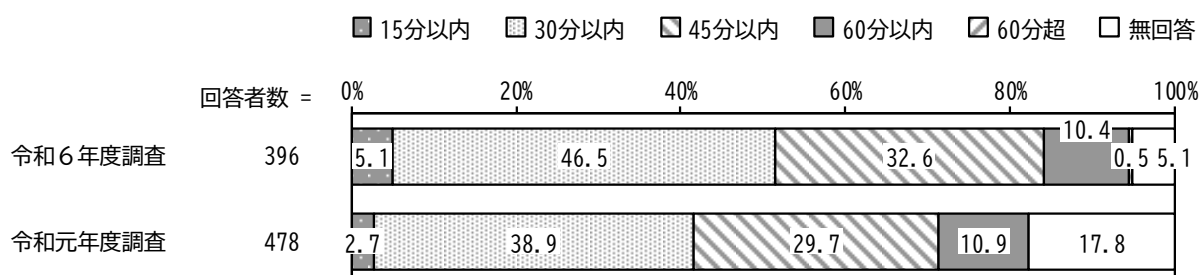
令和元年度調査と比較すると、「15分以内」の割合が増加しています。



イ) 中学生

「30分以内」の割合が46.5%と最も高く、次いで「45分以内」の割合が32.6%、「60分以内」の割合が10.4%となっています。

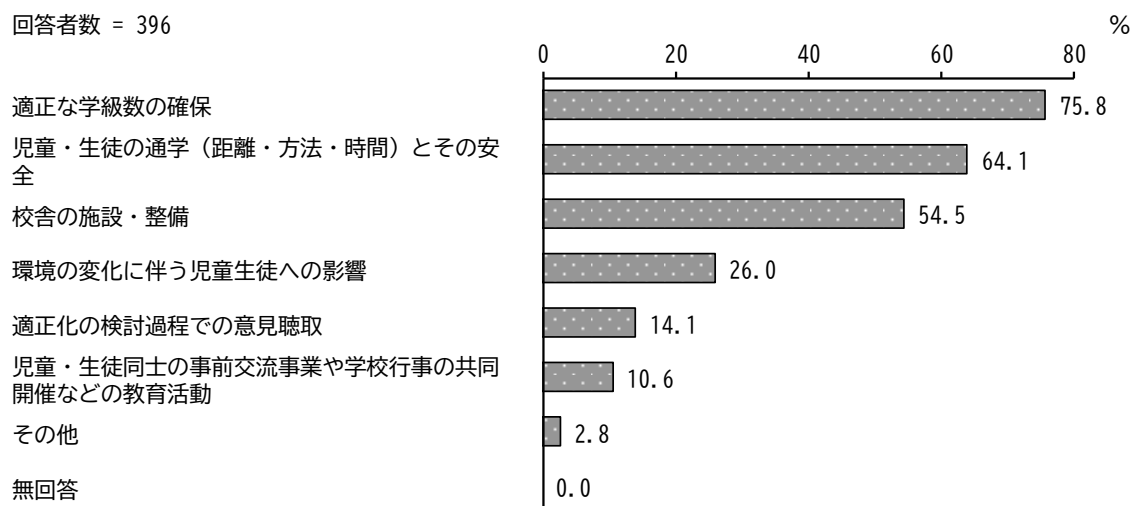
令和元年度調査と比較すると、「30分以内」の割合が増加しています。



問 27 学校の規模と配置の適正化を進めるうえで、配慮すべきだと思うことは何ですか。
(主なものを3つまで○)

「適正な学級数の確保」の割合が75.8%と最も高く、次いで「児童・生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全」の割合が64.1%、「校舎の施設・整備」の割合が54.5%となっています。

回答者数 = 396



問 28 あなたが日頃の業務を通じて感じる、市の教育に関する問題点や課題点は何ですか。
また、改善策やアイデアがありましたらご記入ください。(主なもの2つまで)

狭山市のより良い学校教育の推進に向けてのご意見について、以下の意見が挙げられました。
回答件数が多い項目につきましては、一部抜粋して掲載しています。

問題・課題	改善策・アイデア
1. 教員不足と人員確保の必要性 (60 件)	
教員の不足。	多様化する子どもたちの実態に対応するため、担任以外で学級に関わることのできる教員数を確保すること。
教員数の不足です。若手の方がじっくり子どもと関わる時間が足りていません。	子どもは将来の宝なので、支援員の先生の増員、副担任を小学校に配置、担任+1人の先生にしたいです。
教員不足	マスコミが教員の仕事が大変なことを多く言い過ぎです。やりがいがあって、書類相手ではなく人間とのやりとりの楽しさ、おもしろさをもっとアピールできるよう、マスコミにもお願いしたいです。学校行事など、過程からどんどんオープンにして、見てもらうチャンスがあるとよいと思います。
教職員不足	不登校
人手不足。	市の出張が多い。
教職員の長時間過密労働の問題 (持ち時数が多く授業の準備などに必要な時間が確保されていない。)	教職員の未配置、未補充問題
教職員が足りていないことへ課題を感じます。働き方改革を充実させることを掲げて、埼玉県としてさまざまな休暇を考えるなど、しており休みやすい環境、風土がある中で、休んだ職員に対して、補充がなされないことは大きな課題です。欠けた分の仕事を代わりに行う教職員の心身の負担は大きいです。	公務員なのである程度仕方ないとは思いますが、給与体系に課題を感じます。
職員不足	職員の勤務時間
・せっかくの各校の研究授業が日程が近かったり、人員不足で参加できない。やりくりをしてはいるが、参加がかなわないことが残念。	・教職員の自由に働ける時間の確保。業務に追われ、教材研究等余裕をもって働ける時間の確保をしてあげたい。
教員の成り手不足。産休代替の方が見つからず、管理職が兼ねている。それが当たり前になりつつあるのが怖い。	通常学級に在籍する配慮を要する児童への指導、支援、担任へのサポート
○教員の未配置・未補充、教員の多忙化	○不登校の増加
人手不足。常にマイナスの状態。(人手が少ないことで目が届かないところで何か起き、対応に追われるという負のループ)	施設が古くて、危ない箇所が多い。走っているだけでも木の根っこなどで転んで大怪我をするリスクがあ。危ない。
ぜひ人員を増やし、各校1名毎日配置できるようにしてほしい。	・教育相談員さんが複数校受け持っているので、毎日勤務していない。
教職員の派遣	人の派遣
・派遣講師教員に養護も担当できる方を任用する。または、市教委に保健専門の部署を作成し、何かの際には派遣できる体制づくりをする。	・支援員、介助員の増加
臨時採用者などを増やして、1人の役割分担を減らす	・冷暖房を体育館につける

狭山市の教育予算を増やし教員の獲得をする	センター派遣教員を増やしてほしい。
教育予算の拡充と勤務条件の改善	働き方改革の推進 人を増やすこと
人的支援の予算を増やしてほしい。	できるだけリモートにして参集せずに行えば、旅費の節約、教育活動の実施ができます。よろしくお願いします。
部活動指導員を各中学校に複数配置し、少なくとも土日は指導員が顧問として指導する（白岡市の取り組みを参考に）。	・スペシャルサポートルームを全小中学校に整備し、専門員をつける。
市として教育センターなどで余剰の人員を確保しておいて、病体に入る教員などがでて現場に定数不足が出たときに学校に派遣できるようにしてほしい。または、現場の人数に不足が出たときに市の指導主事を派遣するなど現場での運営に負担が出ないように市としてのサポート体制の人員を確保してほしい。	各教科や学校ごとに行う調査を最小限にして、市全体で行えるものは市としてネットからの回答なども活用して行う。市独自の英語教育の調査などを行っている教職員の負担を市として考えて欲しい。
人材確保。まずは教科担任制を取り入れる。	現場にどのようなものが必要か聞いてもらう。積極的に購入してもらう。
市で具体的な方針を制定し、運営に必要な人員は全て市から派遣する。設置することで教職員の負担が増えることのないよう、運営していただきたい。	各校に一人法的な知識のある人員を配置したり、過度な要求や人格攻撃をする保護者に対して市で対応するよう窓口を作り、担任を守る制度を整える。
・小規模校への人員配置の特別な措置（学級数が少なくても、分掌（学校を支える業務）は変わらないため）。	・研修会や各学校の授業研究会等の日程調整、効率化（兼ね合わせるなど）。
2. 学校設備の老朽化と改善要望（23 件）	
学校の設備で空調の効きが悪く、夏場は体調をくずしてしまう児童がいた。	命にかかわることなので、すぐに見直していただきたいです。
設備（特にトイレ）→男子トイレも全て個室にほしい（人権的な意味もこめて）。男子は学校で大便をしない人が多い→目立つから。	予算をつけて一斉リフォーム。
体育館、武道場の温度調整。	・エアコンを付ける。・防温ペンキを塗る。
教育施設が古い。トイレ等、新しくすべき。	改善、補修。
体育館に冷暖房機器がなく、体育館での温度管理ができないため、設置をお願いしたいです。	小規模校だと教員 1 人に様々な役割（校務分掌）が与えられてしまうので、それをフォローできる人材をもっと欲しいです。
施設の老朽化に対する処置に時間がかかる	アンケートに回答しても反映されていると感じづらい
学校の施設の老朽化	トイレの洋式化
3. 働き方改革の進展と課題（24 件）	
給食を担当しています。たくさんの勤務形態の方々の給食申し込みを担任もしくは担任外の教員に任せられているのが実状です。そして曜日、月日もバラバラな方々の給食をミスなく申し込まなければならないのはとても負担です。ご自分で申し込み変更等ができるシステムをぜひ取り入れて欲しいです。未だに F A X と電話での申し込みです。	・ご自分のスマホを使うなど、もう少し I T を活用できないでしょうか。
重複した業務が多いこと。（出席簿、出欠調査等）同じようなデータを何度も提出しています。	データ化をすすめること。データのひもづけ。
・教職員一人あたりの業務量の削減。・保護者対応。	・教職員の配置を増やす。
早く帰ろうと上から指導をするが、上から何かを辞める決断しましたをしない。このアンケートも業務を止めてやっている。まず、上の人間が何か示して欲しい。	決断もしないで「早く帰れ」という姿勢。現場も「残るのが美德」と考えている。

教員の働き方改革を一層推進してほしい	狭山市の教員の魅力を深める努力が必要
○働き方改革の名のもとに、児童生徒の教育活動がどんどん削減されてしまっている。	○学校独自で取り組んだり、学校の特色、地域の特色を活かしたりする教育活動が少なく、型にはめられたような教育活動が多い。
・働き方改革を進めていくには、家庭・地域の理解が不可欠になる。市として、家庭・地域への働き方改革への周知・理解を進める取り組みがほしい。働き方改革について市教委と市長部局では温度差があるのではないかな。	・教職員の事務に関する業務が多い。
ペーパーレス推進による課題も特に小学校では多々ある。	コロナ禍を挟み淘汰されたものも復活し教職員の出張が多すぎる、しかし旅費はない。
教員の負担を軽くするための仕組み作り。	人員の確保。
働き方改革の為の大きな決断をしてほしい。	上が何か辞める事を提案する。各学校に生成 AI を導入する。市内一斉に所見を無くす。
②学期末は、成績処理や短縮日課によって気分が浮きだっている児童生徒に目を向けることでも多忙なのに、所見作成（本校は年 2 回、道徳と総合は年 3 回、英語は年 1 回）は教員にとって大きな負担である。所見は年 1 回にして、保護者と個人面談（希望する場合だけでも）をする。	①多様性を尊重する気持ちも理解できるが、染髪における基本方針（洗髪はしない。理由は市内で統一したルールがあるからなど）を打ち出すべきだと考える。保護者によっては「〇〇小は許可されているのに」などと話す人もいる。校長裁量ではなく、市内で統一するべきである。
すぐできる取り組み。オンライン出張でも良いし、学校でしていることで振り返られるものは、それでも良い。まずは、数を減らす。	市としての授業ができる教職員の採用。教員免許保持者によって、授業もできるので 県費、市費で授業ができれば負担軽減。
年齢ではなく、仕事量に見合った給与体系（手当等で調整）ができると働きがいにもつながり、勤労意欲、職場への不満解消につながると思います。	教職員不足への対策を充実させることで子どもへの教育がより充実することになりますし、職員の心身の健康にもつながると思います。未来ある狭山っ子の育成に向けて、市費職員を増やし、教育環境を改善していただきたいと思います。
・給食費の公会計化 ・狭山市はよくやってくれていると思うが、会計事務や諸調査等の集計等学習や児童に直接関係ない業務を行う職員のさらなる増員	・市として、自治会連合会や P T A 連合会等をとおして、働き方改革への理解と家庭・地域でできることを学校から分離することについての理解を求めていく。 学校からの依頼としてでなく、地域として児童・生徒の登下校の安全指導を行う。 通学班登校を学校から分離し、家庭・地域で運営する。学校外でのトラブルについての相談を学校に持ち込まない 等
勤務時間の見直し 昼休みの校内見守りボランティア	丸つけや、印刷などのボランティア 授業の教科担任制や、ティーツの導入
私個人の考えですが、教員が早く帰るために ①空き時間の確保 （放課後におこなってきた仕事が日中にでき、そもそも授業準備の絶対数が少ない） ②学校研究の負担軽減 （研究が個々人の質の向上につながることは承知していますが、学校研究の在り方について考え直すターニングポイントにきていると思います） ③学校行事の精選 （そもそもやる必要があるのか、やるにしても内容はどうか） を重視して取り組んでいます。	学校を統廃合する
4. ICT 活用の遅れと改善希望（9 件）	
成績処理ソフトが統一されていない。	ソフトを統一する。
I C T 機器が、既に古くなっていること。	卒業生の機器をすぐに使うのではなく、4 年かけて点検、清掃してから使う。
仕事に使う ICT 機器が不便なものが多かったり、数が足りなかったりして逆に使いづらくなっている。	東京都のように教科専科がいると、教育の質が上がったり、教師の特技を生かせたり、仕事量の軽減にも繋がると考えるが、実現が難しい。

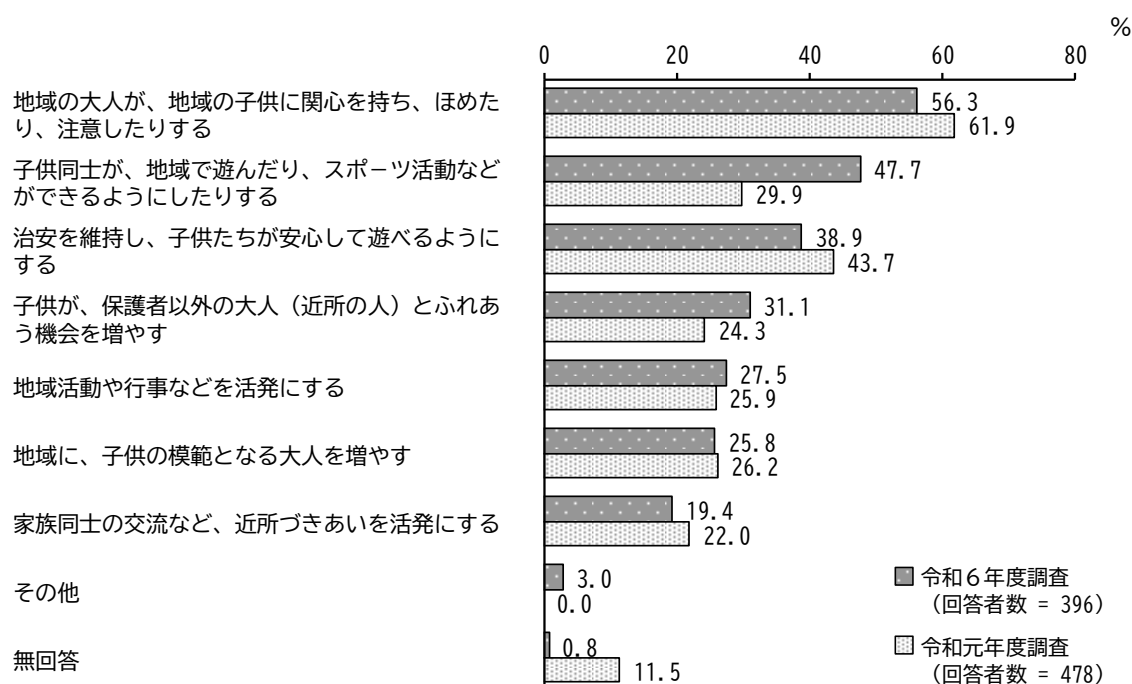
・所沢市、飯能市などと同じように、クラウドでの情報管理に移行する。・セキュリティを下げ、情報の持ち出しを可能にする。	土曜授業の廃止。または、翌週の月曜日に振休を設けること。
5. 家庭教育力の低下と支援必要性	
家庭力の低下。	市で支援する人が、もっと家庭にふみこんでいけること。
支援が必要な、いわゆるグレーゾーンの子どもの支援ができていない（各学級に10%いる？）。	人員を増やす。特別支援学級ではない、学習支援等のできる学級を各校に1クラス。
・家庭の教育力の低下（生活リズムが整わない。学校をすぐに休ませる等）。	・家庭アドバイザーを配置する（専門家が保護者に指導、アドバイスする）。
モンスターペアレントに対する対応が不十分	不登校対策ルームの指針や運営が各校に丸投げである
水泳指導を民間に完全委託、家庭の責任へ。	出張を少なくするために、市教委と市教研、それぞれの主催で似ている内容・研修を統合する。また、市教研の教科・教科外の一斉研で隔年で行うのだから、「教科外」の年に「教科」部会では授業研究を行わないようにする。

（４）その他について

問 29 「地域の教育力」を高めるためにどのような取組が必要だと思いますか。
（主なもの３つまで○）

「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」の割合が56.3%と最も高く、次いで「子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにしたりする」の割合が47.7%、「治安を維持し、子供たちが安心して遊べるようにする」の割合が38.9%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにしたりする」「子供が、保護者以外の大人（近所の人）とふれあう機会を増やす」の割合が増加しています。一方、「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」の割合が減少しています。



問 30 本市のより良い学校教育の推進に向けて、ご意見・ご提案をお聴かせください。
(箇条書き可)

狭山市のより良い学校教育の推進に向けてのご意見について、以下の意見が挙げられました。

1. スポーツ施設の整備（2件）
教職員の数を増やし、手厚い指導を充実させたい。エレベーターや温水、体育館に空調など設備も整えたい。
老朽化した施設を直してほしい。体育館に冷暖房を入れてほしい。
2. スポーツ団体の活動の促進（2件）
・多様な生徒が増えてきており、現在の1学級の定員では対応できない。1学級当たりの生徒数を減らし、対応しやすくしてもらいたい。・部活動の地域移行を積極的に進めるには、まだまだ受け皿が少ない。
なかなか難しいとは思いますが、部活動の地域移行の実現に向けて、さらに推進してほしいです。
3. アンケートについて（8件）
・学級編成について、3学級以上が適切に思います。2学級だと学年での連携はとりやすいですが、クラス替えに困ります。・教員の手が足りないと思います。ボランティアではなく、時間講師のように、時間を選んで働きやすい枠があるとさらに人手不足解消につながると思います。
児童生徒の問題行動への対応や学力差に対する指導など、人手がほしいと感じる場面が多々あるが、人員不足でしっかり対応しきれていないところがある。
・教職員を増やす。・支援員、介助員を増やす。・ボランティア（学習支援）を増やす。・働き方改革が人手不足のため、動きがとれない。⇒特定の教職員に負担がかかりすぎていると思う。ちなみに私は書写部部長、一年学年主任、入学準備委員長など多くの仕事があり、時間外校時間、2学期末で357時間でした。
教職員一人ひとりが、少数の子どもと向き合えるように（細かいところまで支援、配慮ができるように）人員配置を増やした方が良いと思います。子どもたちと向き合う以前に、それ以外の業務に忙殺されてしまいます。
・教員へのアンケートや研修、出張が多いことや、働き方改革を進めているのにやることが減らずに、増えることが多いので困る。それにより、教材研究する時間がなく帰ることになってしまい、さらに授業が子どもたちにとってわかりやすいものではなく、意欲の低下や学力低下につながっていることもある。・生徒指導訪問をなくし、主任会を開き不登校、いじめ、暴力などの主だった児童の報告や小中連携ができるとよい。
教員の為に本気で取り組んでほしい。正直、このアンケートもパフォーマンスかと感じている。
とにかく様々な問題を解決し改革を実現させるためには、十分な教育予算の確保が求められると思います。また、このアンケートもそうですが、現場の教職員の生の声を聞き、行政に反映させることができるしくみ（例えば、各学校で教育長や市長と懇談する機会を設けるなど）をつくることも必要なではないでしょうか。トップダウンよりボトムアップです。
本アンケートの問い12、23に「その他」選択肢をいれること。
4. 子供のスポーツの振興と学校体育の充実（3件）
いつもご指導いただきありがとうございます。前述していますが、何でもかんでも縮小、廃止は子どもの力が伸びません。行事を通して子どもは成長すると考えます。狭山市は特活を研究している学校が少なく残念です。特活がすべてではありませんが、特活にもっと力を入れた教育をすれば、子どもたちはもっと伸びると思います。どうぞよろしくお願いします。
今年度より数校がプール指導をスイミングスクールに委託するようになりました。プールの老朽化や天候に左右されるプール学習の面から見てもとても良いと思います。ただ、市内の児童がみんな同じになれることが大事だと思いますので、頑張って調整していただくと良いと思います。宜しくお願いします。
狭山市は、早期より小学校における外国語活動教育に力を注ぎ、またその指導のための人財を充実させていることは、大変よいことであり、児童・生徒にとっても幸せなことと思う。音楽については、専科がいるが、小学校において特に高学年で、理科や体育、図工、家庭科などの専門的な知識・技能を習得させた方がよいものについては、中学校教師ではなくても専門的な知識を有する教師がいるとよいと思う。

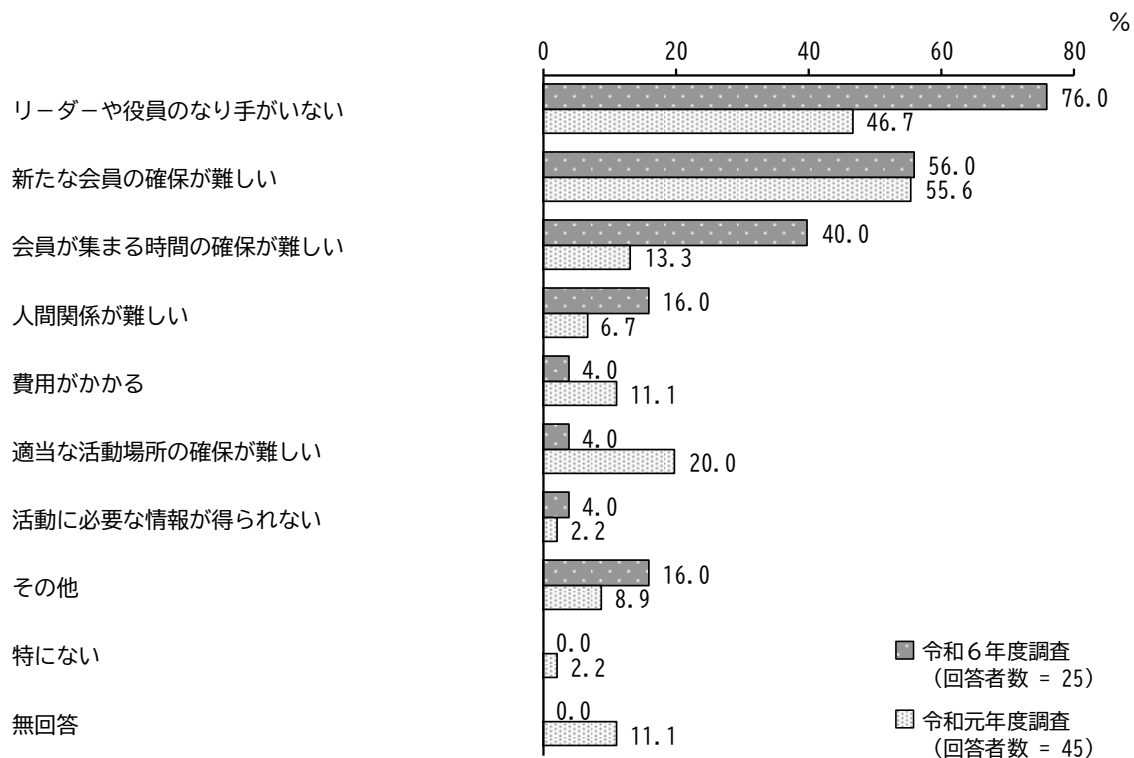
5 関係団体

(1) 団体の活動について

問2 団体の活動上の課題（困っていることなど）はどのようなことですか。
（あてはまるものすべてに○）

「リーダーや役員のなり手がいない」の割合が76%と最も高く、次いで「新たな会員の確保が難しい」の割合が56%、「会員が集まる時間の確保が難しい」の割合が40%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「会員が集まる時間の確保が難しい」「リーダーや役員のなり手がいない」「人間関係が難しい」の割合が増加しています。一方、「費用がかかる」「適当な活動場所の確保が難しい」の割合が減少しています。



問3 団体活動において、具体的に困っていることや改善のために市に望むことを記入してください。

団体活動で困っていることや改善のために市に望むことについて、以下の意見が挙げられました。

直面している問題	市への要望
1. 役員の成り手不足に悩んでいる（10 件）	
役員の数が減っている。	人権セミナーの各学校の参加人数を決めて、強制的な参加要請はやめてほしい（理由があり、出席できなかった時、学校に電話がかかってきた）。
役員担い手の不足	他団体の情報（対応）提供。
役員の成り手が少ない。 PTA は嫌なもの、という概念が抜けない。 PTA 連合会関連の会議に参加するのが大変。	特に校外役員の負担が大きい。 登校班編成、通学の見守り、保護者からのクレーム対応等。 旗振り制度、集団登下校の必要性について審議が必要な段階までできていると思う。
次期本部役員の獲得に苦慮している。 年数免除のためだけに立候補されると活動に支障が出る（やる気がない、不平不満ばかり、当事者意識がない）	-
1. 共稼ぎの親が多く、役員等のなり手が少ない。 2. 活動はほぼ、役員の方。 3. 会長になると、上部団体の会議や講演会の支援が多く、仕事を休まなければならない。 4. 市役所の方は、仕事としてやっているが保護者の方は自分たちの仕事があり、家庭、子どもの事がある。時間的に無理が多い。	毎年、会長選び
毎年の役員選出に苦労している	-
学校、自治会、PTA、子ども会を連携する上で、そのすべてに関わる人材がほほいらない。各役員・役職の方々が1～3年で入れ替わってしまい、人員の協力を得られる力を持つ人の育成ができない。自治会加入率が年々低くなることと連動して、子ども会への加入や、積極的なイベント参加も減っているため、イベントを開催したくても役員の人手が足りないため、活動に制約ができる。地域会議の予算枠が近年減らされたため、地域独自の活動案があがっても、実現できない。	近年、市民会議の予算確保のために、地域会議の予算枠を大きく減らされたため、増額して欲しい。会議の時間が長く回数も多いため、会長の負担が大きい。自治会長や自治協力員には補助金が出ていますが、地域会議の会長は完全な無報酬であり、ボランティアとはいえ、立場上役割が多いため、時間拘束やイベントに関する関係団体への働きかけや地域企業への協賛あいさつ回りなどの準備に関わる時間拘束や交通費等を考えると、相当マイナス負担が大きく、継続する上で不公平感が強い。
役員の成り手がいないこと	-
・役員を受けたくない、受けない保護者が増加していて、年々非会員を選ぶ保護者が多くなっている。	・PTA室にWi-Fi環境がなく、パソコンを使っている作業に限界が来ている。（役員の携帯などでデザリングを行って急場凌ぎをしたり、役員が自分のパソコンを学校に持参して作業を行うなどしている）
少子化に伴い、子どもの育成事業を行う団体においては、参加する子どもの人数の減少もみられますが、団体を組織する運営の担い手不足に思案しています。	構成団体、個々にはあるのかもしれませんが、市民会議のところまではあがってきていません。
2. 会議や活動の負担が大きい（3 件）	
会議体はオンラインとのハイブリッド開催を希望します。 また、小学生が家にいる時間帯には会議に参加しにくいので検討してほしい。	通学班制度を一度見直していただきたい。
PTA の負担軽減策について提案して欲しい	-
会議が平日なため、参加できなく PTA 自体に迷惑をかけていること(会長不参加)に困ってます。	-

3. 新規会員の確保が難しい（4件）	
スタッフ、ボランティアの確保がむずかしい。	・私共の組織には市のコーディネーターが3名おり、地域の自治会、公民館などに一緒に募集の説明会とちらし配布などを行なう。もっと広く子ども教室の事を市民の方に知っていただき、協力していただける方がみつかるようお願いしたいです。・年5回の理事会時に各教室の現状を報告し、課題などがあれば全体で話し合う。・狭山子育て支援ネットワーク主催の子どもマスタ、日高市の日本標準ふれあい祭りに参加し、T i eの各教室より各々交流を深めている。
新たな会員の確保。	・SSVCの任務であるが、市も協働して市報や学校だより、SNS等で呼びかけてほしい。・支援者養成のセミナーでボランティアの育成を協働されたい。
新たな会員の確保が難しいは高齢化社会に会って一層困難を極めています。協働募集を掛けると応募者が集まります。視点を変えた内容応援をお願いします。	連絡担当者が公民館なく個人名になることを希望します。
新規会員の確保が難しくなっている。	参加者が年々少なくなっていることと、低年齢化している。
4. 地域や学校との連携が不足（3件）	
公民館と連携	会員としてのスカウト活動とは別に連合会としては、地域の方々が参加出来る活動をしています。場所としては公民館を利用しますが共催事業としての協力、連携の知識がほしいと思います。とくに指定管理については、協働の在り方やこれからの推進が方策を考えて地域づくりを目指していただきたいです。
無駄な会議や活動はなくし、もっと地域、学校、保護者が楽しく無理のない活動にしてもらいたい。上部団体から脱退し、地域密着方の活動。今の活動が本当に子どものためなのか考えてもらいたい。教育委員会も子どものためにやってるか疑問。	PTAの廃止
PTAへの理解 行政との連携 教職員との連携	-
5. 働き方改革が影響を与えている（2件）	
担い手不足、休日に学校の中でのイベントを行いたいなかなか難しい、先生方の働き方改革がPTA活動に影響が出てる気がする	担い手不足、休日の学校内の使用が出来ない(例えば家庭科室での調理とか)
PTA活動に対して、教職員(学校側)の理解や協力をいただきたいが、昨今の働き方改革等で、積極的な参加を呼びかけにくい。	-
6. 活動の目的が不明確（1件）	
誰のために、何のためにやっているのが明確になっていない。	保護者が何を望んでいるのか、聞き取り調査をした方がよいと思う。
7. 休日の活動開催を希望する（2件）	
学校内を休日でも自由に使いたい、飲食を伴うイベントをもっとやりやすくしたい(例えば、料理教室や子どもたちが作った食べ物等を地域で販売とか)	学校内を先生の負担なく休日でも使いたい、休日に子どもたちのためのイベントを増やしたいため
会議で、土日開催を検討して欲しいです。	-

問4 団体間での交流・連携を深めるために行っている事例や具体的なお提案などがありますか。(自由記述)

団体間の交流・連携については、18件の意見が寄せられました。事業や会議等の共催という意見が多くみられるほか、小学校や公民館との連携といった意見もございました。

内容
狭山市防災訓練。ロープワーク（荷物をしばるとき等）、ロープを使い大切な生命を救う。
・市と団体間により、フォーラムやパネルディスカッション他を行なう。 ・学校運営協議会やスクスクで、活発な情報交換や協議が進むように、市や学校からも事例や具体的な提案も欲しい。
今は行っていないが、コロナ前は中学校区の3小学校との交流をしていた様です。
事業の共催、会議等において情報の交換等を行う。
会議体への参加。行事への参加協力。
柏原小学校、柏原公民館が比較的近い場所にあるため、イベントや施策について合同で開催している。
地区によってバラツキがあるが、自治会、子供会との意味のある連携を取りたい。祭りやイベントも大切だとは思いますが、本当に子供達のためになっているのか？地域や子供たちの事を考えてくれるなら、お互いの要望を伝える機会などが必要だと考える。
仕事が忙しくて、できない。
定期的な会議の開催 他団体活動への参加
おやじの会主催の行事を定期的に開催している
コロナ禍で従前行っていた交流、狭山市-入間市-所沢市の3市生涯学習をすすめる市民会や足立区の楽学会と交流していました。今後は狭山市内の他の団体と交流を深めたいと考えています。
学校運営協議会の長と兼任しているため、その立場を生かして、学校と地域の連携を深めていきたい。地域自治会のイベントが高齢化、人手不足になっている中で、子どもたちとその保護者を呼び込める活動を行うことで、学校ではできない個性を褒めて生かす社会教育の場、ご近所のつながりを広げる場をつくっていきたい。
いりそフェスタ、星の観察、こども料理教室、サマーキャンプ等、事業内容により地域のさまざまな団体と意図的に連携して各種の事業を実施している。それぞれ団体には得意分野（強み）があるので、それらを活かせるように事業の中に取り入れるようにしている。そうすることで地域の教育力の向上、地域ぐるみの教育の推進につながると思われる。
・ブロックでの忘年会・新年会・歓送迎会を開催。 ・昔にあった「学校PTA合同歓送迎会」がコロナの影響もあって、「なくても良いもの」と化し再開し難い状況になったので、保護者と先生のコミュニケーションが取りにくく、希薄な人間関係になりつつある。教職員の働き方改革もあるので無理強いするつもりはないが、またあの頃に戻りたいと思う（参加希望者だけで良い）。
家庭教育力の低下に伴い、当団体、地区センター、NP0、ボランティアで「遊びと学びと食」の事業WAKU☆DOKI はッピー（子ども達の居場所）未就園児を対象にした親子講座（インターネット社会の子育てを中心に、エビデンスを基にこどもの発達阻害や子育て、保護者のしゃべり場）を開催しています。
月一回の定例会で、交流と情報交換をしている。
会員同士の交流会や情報交換会（簡単に言うと飲み会）
構成団体の子どもたちの事業があれば、参加をして、理事会の時に共有したり、団体の事業の報告をして頂き、狭山市の子どもたちの活動の周知と協力は団体として行っています。

問5 市全体の教育及び生涯学習活動の活性化に向けて、団体として取り組んでいること／今後取り組めることはありますか。（自由記述）

滑石化に向けた取り組みについては、14件の意見が寄せられました。団体により様々な活動に取り組んでいる現状ですが、学校や地域等との連携に関する意見が比較的多くみられました。

内容
人を思いやる気持ち、人の役に立つように育成。街頭での「赤い羽根募金」「ユニセフ募金」また東日本大震災・能登半島地震募金等々。「入間川の七夕まつり」「地域のまつり」みなさまと取り組めることを考えたいと思います。
S S V Cが主体となって、行政の協力もいただいて支援者養成セミナーや研修を行っている。
・活動の場所の提供。 ・情報の発信（団体の活動、会員募集等）。 ・参加しやすい活動の実施方法の検討。
児童が健全に成長するために、まずは保護者の方々の学びを深めたい。
地域との連携の強化が必須。例えば、防災をキーワードにして活動する。公民館、小学校、中学校が連携して遊びながら防災について学び、発災時に大人も子供も連携して避難所運営できるような取り組みをする。
研修会の開催
今は意識して、親子、中学生以下が参加できるイベントを企画し展開しています。この展開は社会教育課の支援のもとすすめている。今後も中学生以下をターゲットに学校教育の中に生涯学習の視点を持ち、生徒に将来の生涯学習の礎になってくれることを期待している。
学校の授業となりうる場を地域で提供する（花いっぱい運動、町探検等）、地域のお祭りを学校やPTAと公民館、地域会議、自治会の共催とすることで、子どもたちが中心に地域が共助できる地域社会の構築を進めていきたい。
これからの時代は特に、単一団体での活動は人的、資金的、重層的な取組の面で限界があるので、他団体との連携協力を注力している。
学校と地域の橋渡しの役割を求められていると思います。
数々の講演会や研修会には積極的に参加するよう周知し、参加者を出すようにしている。
公民館利用での世代間交流の場になる事業の展開及び、地域、家庭の啓発
図書館や公民館、児童館等と協力して、お話を開催している。
今、課題を抱えた子どもたちが多くなってきています。家庭、学校の問題だけではなく、地域としての取り組みや、狭山市全体としての取り組みを子どもたちの将来、未来のために大人が今できることの事業を行っています。特別なことではなく、継続をしていきコロナ以前の活動に戻していければと思います。

問6 生涯学習活動を行っている団体にお聞きします。学んだことや活動の成果を地域に還元するためのご提案等がありますか。(自由記述)

活動の成果の地域還元については、10件の意見が寄せられました。成果を情報発信するという意見が多くみられました。

内容
私達の独自の活動、野外体験などその活動を生かせる場所、危機管理課より狭山市総合訓練、防災フェスタの参加の依頼がありました。団としている小学校のスカウト達は、自分達の修得した技術を教えることができました。
市が当該団体を指導・支援・協働する所管部課を、団体の活動目的や活動内容に合った所管へ変更を検討されたい。
展示、発表等の機会、場所を確保する。
情報発信
学んだことや活動の成果はイベントやフェスなどで市民の皆さんに公開することです。地域の皆さんに体験してもらい口づてに広げてもらうこと。また意見交換して磨きを掛けるよう努力することです。
地域会議主催のイベントへ参加した子供たちの名前や内容を学校へ報告することで、児童・生徒の個性を学校の先生へより幅広く理解していただき、評価にも反映させてほしい。すでに中学生ボランティアについては、そのような関係ができています。
地域に還元することの意味を、活動する団体側と、生涯学習を支援する立場の職員側が、共に理解する機会が不足していると感じる。
事業対象者へのアウトリーチ型支援で、顔の見えるつながり、地域コミュニケーションの向上
団体の特性上、絵本や児童書のちしきを深めた後お話会等で、その知識の還元をしているが、自分たちの団体だけでなく他団体を巻き込むような活動に発展できれば良いと思う。
各団体が地域に発信できるよう SNS の活用を行っていきたいと考えますが、情報の入手は保護者だけで子どもたちには届かない現状です。生涯学習活動は、市民として、地域住民として、小さい時から高齢者になっても居場所とする拠点が公民館だと思います。市民会議の構成団体の大きな活動団体としては、地域会議であり、設立当初の会則にも事務局は公民館とあります。地域の要となる公民館の理解も重要だと思います。

問7 5年前と比べて、教育行政や生涯学習環境、子ども達の変化を感じることはありますか。(自由記述)

子ども達の変化については、18件の意見が寄せられました。タブレットの普及やネット社会の到来などICTに関わるご意見や、コロナ禍に関するご意見が多くみられました。

内容
行政が悪い意味で、現場を理解していない。変っていない。トップダウンのような依頼が多い。
智光山キャンプ場の利用。今までのように市内に住んでいる方を優先することが少なくなり、市内以外の方々が利用するので、私達団体の利用が難しくなりました。
・第3次教育振興基本計画が掲げる学力格差の解消に向けた取り組みや、具体的な効果が良く見えない(3次計画の8ページ関係)。 ・不登校の子ども達が増加していることが心配である。 ・新型コロナやボランティアの高齢化の影響もあって、学習支援に限界の学校も見られる。
ネット社会になっている。子どものトラブルもネットによるものが多い。
多様性が認められる時代感を感じている。
パソコン教育により、ゲーム器で遊ぶ時間が長くなった。休みの時でも外で遊ぶなくなった。自宅で友だちをよんで、ゲーム。
人と人との繋がりが減った『教職員の働き方改革』が教職員のためだけに行われていて子供たちや保護者のために繋がっていない
1. 学習環境は座学より体験学習が進む 2. 親子参加で親子の絆が深まる 3. 子ども達の笑顔が素晴らしい 4. 子ども達の達成感
・コロナ禍を挟んで、地域活動へ積極的に参加してくれる保護者が激減した。 ・団体の役員になっても、やらされる固定の仕事は減らし、様々なイベントを実施するたびに実行委員を募集する形で活動を行えば、親子でのイベント参加によって活動は行えると思う。
学校の先生方の働き方改革が叫ばれ、これに理解はするものの、あまりにも働き方改革を全面に出されてしまうと、子供たちのためにと、仕事を持ちながらも土日夜間に時間と労力を使いながら地域活動を行う者にとっては、これは何なのか、と虚しい気持ちになってしまうことがここ数年で出てきた。
5年前からかはわかりませんが、不登校の生徒は多いと思います。
変化自体が早いと感じてます。
・ちょうどコロナ禍に突入した時期なので、すべてが変わったのではないのでしょうか。 ・先生方の働き方改革によって、放課後に先生とゆっくり話す時間が取れなくなった。 ・子供たちが授業なども含めタブレットを使うようになって、操作などが上達した反面、ルールを守らずにインターネットにハマっていたり、ネットいじめが問題になったりしている(学校用タブレットに限らず、子供がスマホを持つ時代になったこともあり、どうしても避けては通れないことだという諦めの気持ちが私の中にはある)。
コロナ禍で、人との交流の制限があったために、家庭教育力、地域力、コミュニケーション能力が低下したと推察します。こども、保護者においてはSNSへの依存化傾向で、学習、経験、体験が欠如してきたと思われます。その延長上の今日、登校しぶり、不登校、こども同士のトラブルから、保護者のトラブル、しいては地域にも広がっています。この状況を変えたいと思い、事業を計画しますが、子ども達からは、「ママが寝ていたいから参加できない」「学校から連絡がきていても教えてもらえない」等のこどもたち子ども達からの意見は聞きますが、
・お話会に興味を持ち、参加してくれる人数が減少している。 ・以前のお話会では幼児が中心だったが、今は乳幼児が中心になってきている。 ・子どもと一緒に話を楽しむ保護者も少なくなっている。子どもだけ聞いて親はスマホを見ていてその場を共感しない保護者もいる。
コロナ禍以降、学校側のPTAや市内の団体への様々なイベントや活動には参加しない傾向になったと感じます。

行政も働き方改革ということを挙げてきますが、子どもたちの育成活動をしている組織メンバーは皆さんボランティアです。あまりにもそのことが前面に出されると活動団体の意欲の欠如になります。行政だけではなく、家庭においても、保護者は働かなくてはならないからという方がいらっしゃる。子どもから「いろいろ参加したくても、学校からのスクリレでの案内だとお母さんは見せてくれない」と言われました。そのようなことが続くと子どもの気持ちの中での「あきらめ」、地域交流への「意欲」がなくなっていると感じます。また、ゲーム機、スマホなどのトラブルの相談が増加していることと、子どもたちの体験・経験不足が問題ではないかと感じる事例が多くなりました。

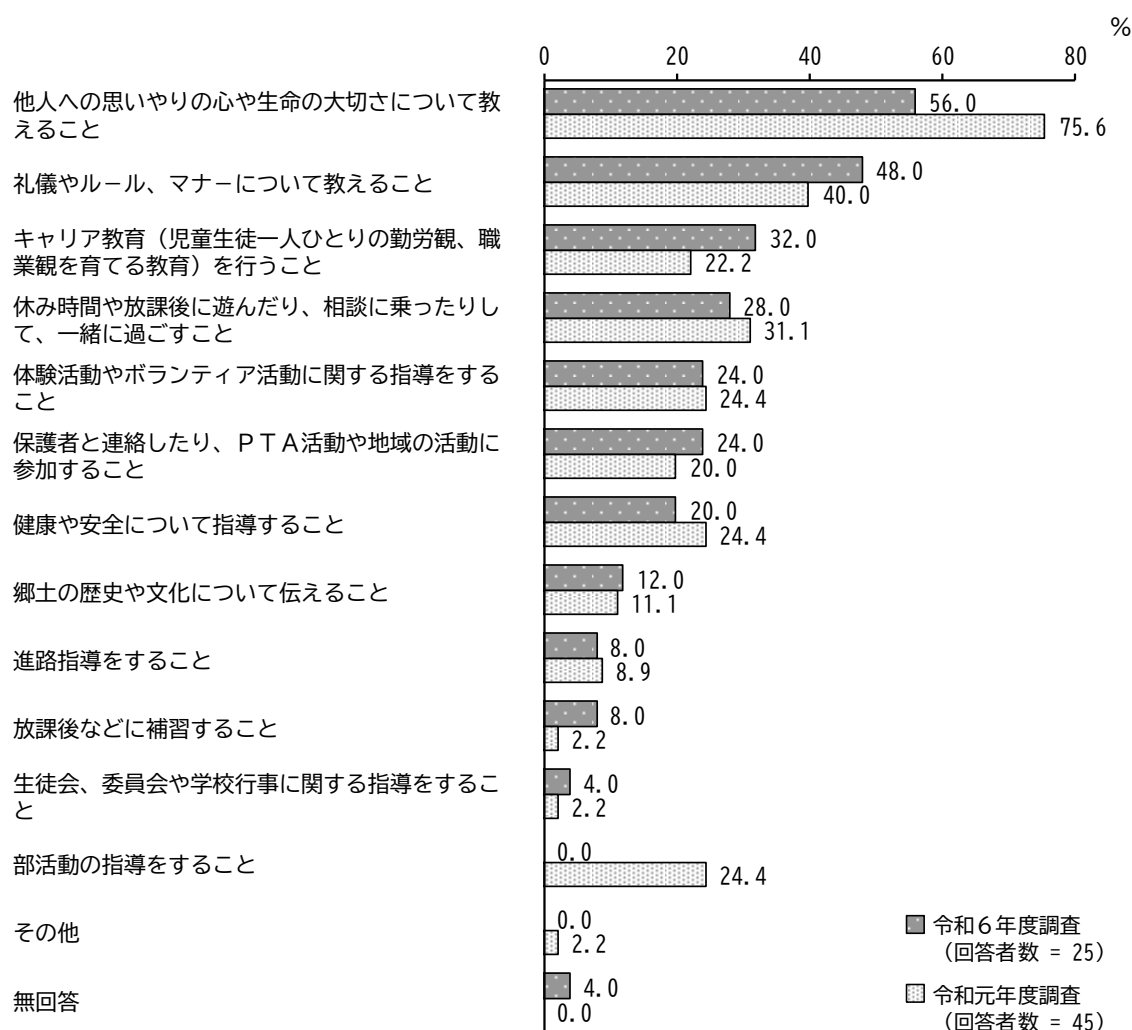
タブレットを使う事で課題の提出など、先に繋がる活動

(2) 学校教育について

問8 学校の先生に、教科の授業以外で特に期待することは何ですか。 (主なもの3つまで○)

「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の割合が56%と最も高く、次いで「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が48%、「キャリア教育（児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育）を行うこと」の割合が32%となっています。

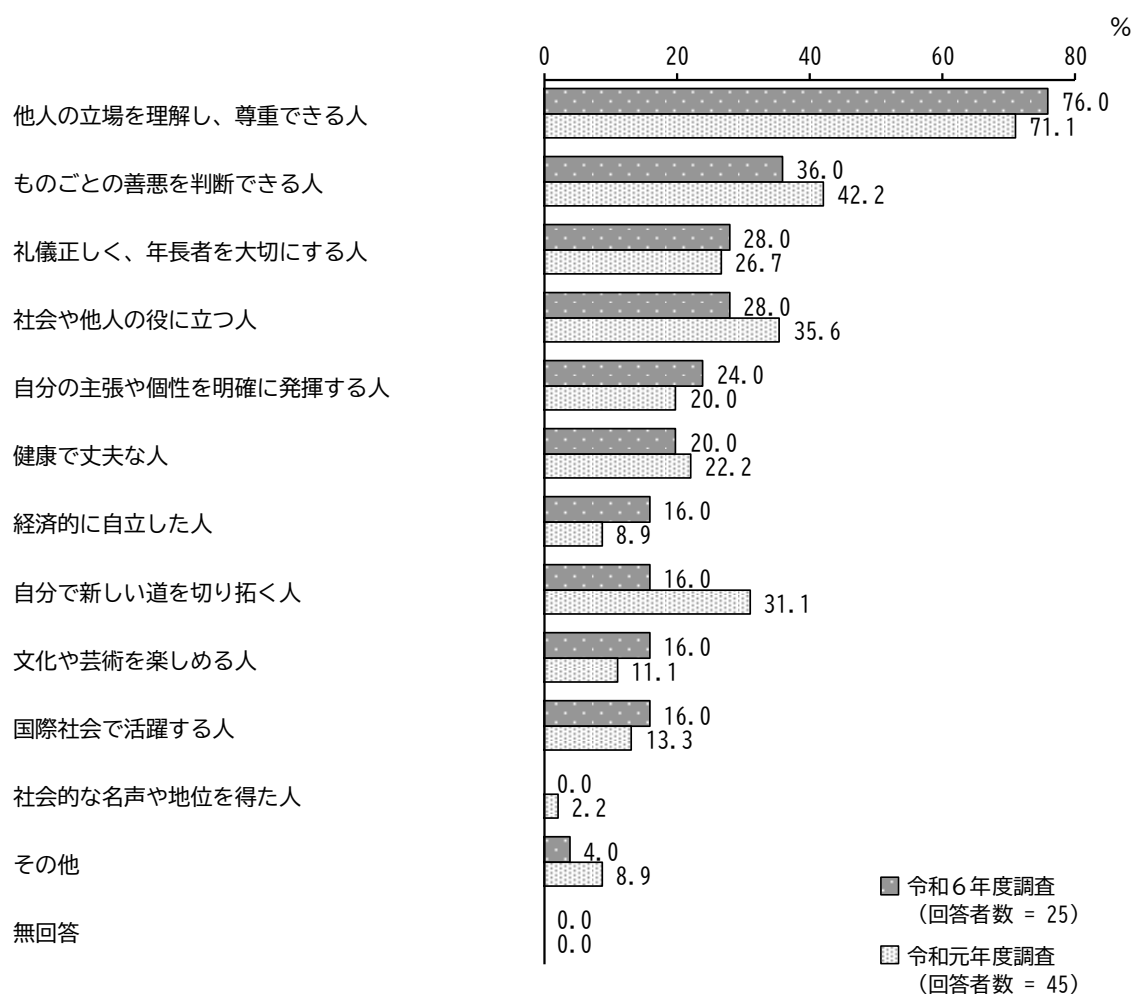
令和元年度調査と比較すると、「礼儀やルール、マナーについて教えること」「キャリア教育（児童生徒一人ひとりの勤労観、職業観を育てる教育）を行うこと」「放課後などに補習すること」の割合が増加しています。一方、「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」「部活動の指導をすること」の割合が減少しています。



問9 狭山市の子供たちに将来どのような人になってもらいたいと思いますか。
(主なもの3つまで○)

「他人の立場を理解し、尊重できる人」の割合が76%と最も高く、次いで「ものごとの善悪を判断できる人」の割合が36%、「礼儀正しく、年長者を大切にする人」、「社会や他人の役に立つ人」の割合が28%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「経済的に自立した人」の割合が増加しています。一方、「ものごとの善悪を判断できる人」「社会や他人の役に立つ人」「自分で新しい道を切り拓く人」の割合が減少しています。



(3) 家庭教育・地域教育について

問10 あなたが住んでいる地域において、家庭の教育力、地域の教育力が機能していると思いますか。(それぞれにひとつずつ〇)

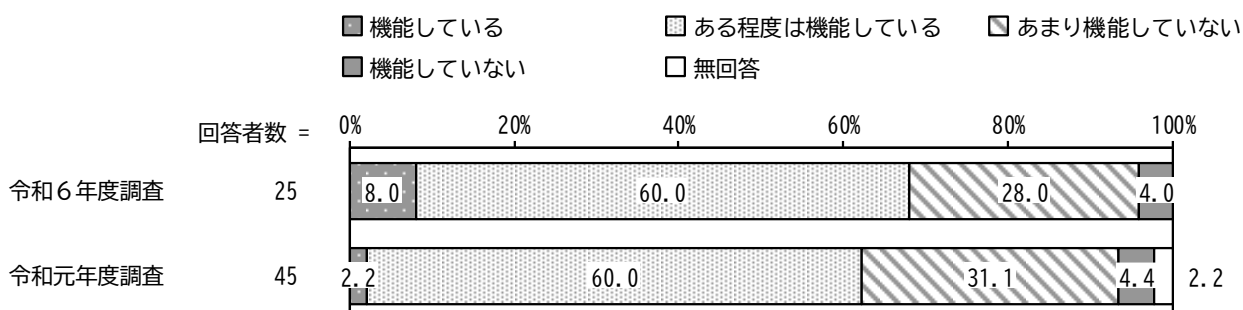
※「家庭の教育力」とは、親が子に対して行う教育の力であり、生きる力の基礎的な資質や能力を育成するもの。「地域の教育力」とは、郷土の伝統文化や地域防災などを子供が大人から学ぶことなど、地域社会の中で子供たちが大人や異年齢の友人との交流を通じて得られる教育の力のこと。

※「機能」とは、地域社会の中で家庭や地域がそれぞれの教育力が十分に発揮されていることを指します。

家庭の教育力

「機能している」「ある程度は機能している」を合わせた「機能している」の割合が68%、「あまり機能していない」「機能していない」を合わせた「機能していない」の割合が32%となっています。

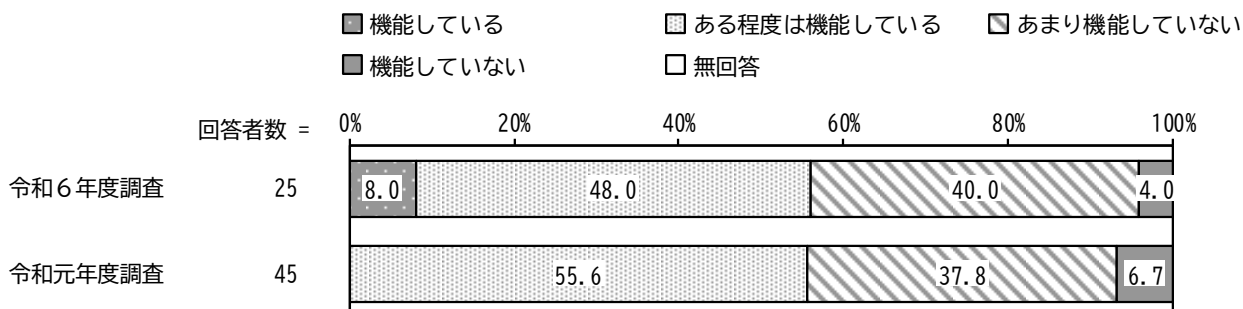
令和元年度調査と比較すると、「機能している」の割合が増加しています。



地域の教育力

「機能している」「ある程度は機能している」を合わせた「機能している」の割合が56%、「あまり機能していない」「機能していない」を合わせた「機能していない」の割合が44%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「機能している」の割合が増加しています。一方、「ある程度は機能している」の割合が減少しています。

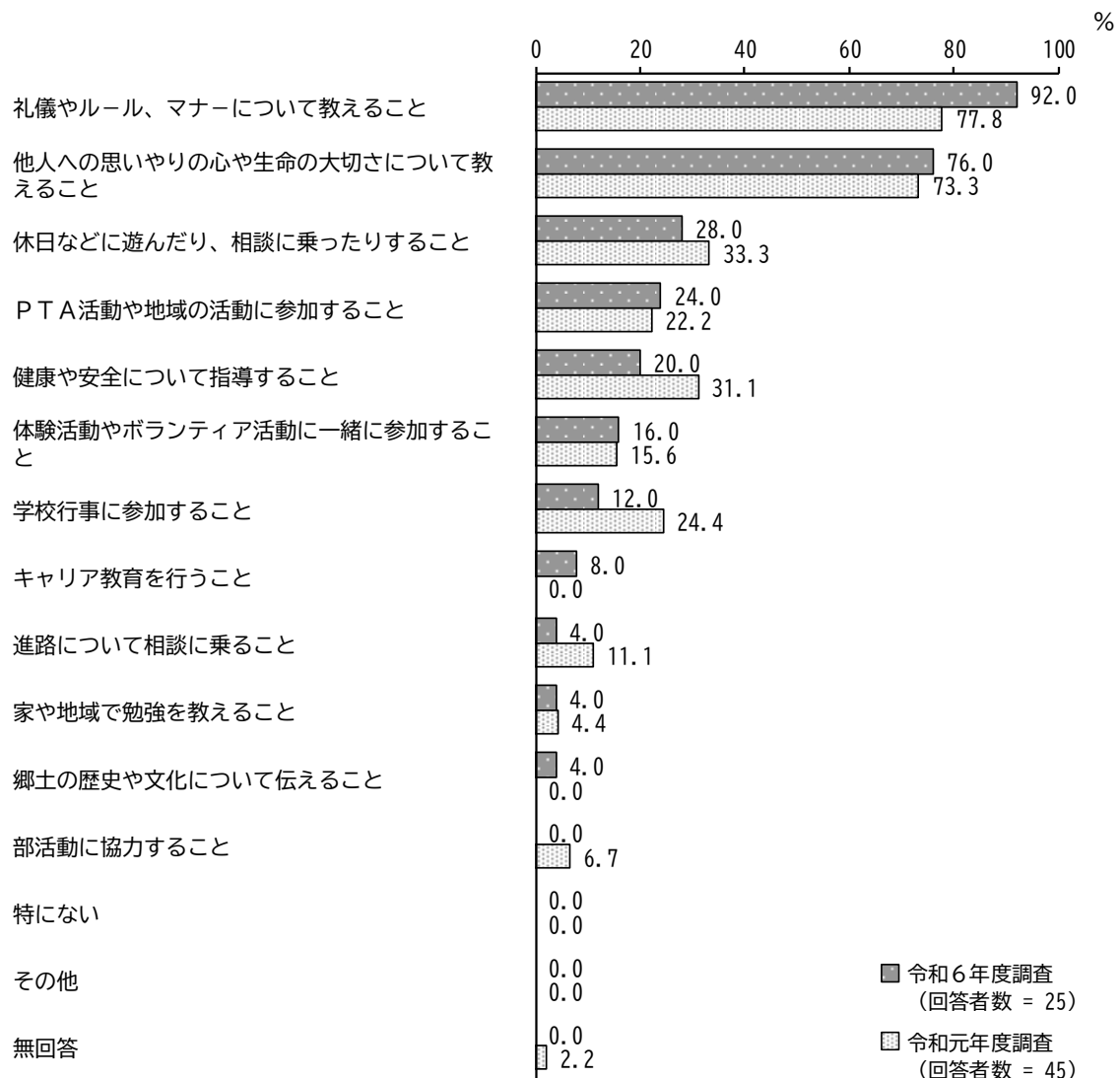


問11 「保護者」と「地域の方」のそれぞれの立場になって考えたときに、それぞれが主体的に行うことだと考えるものを選択してください。
※（「保護者」と「地域の方」それぞれ主なもの3つまで○）

保護者

「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が92%と最も高く、次いで「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の割合が76%、「休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること」の割合が28%となっています。

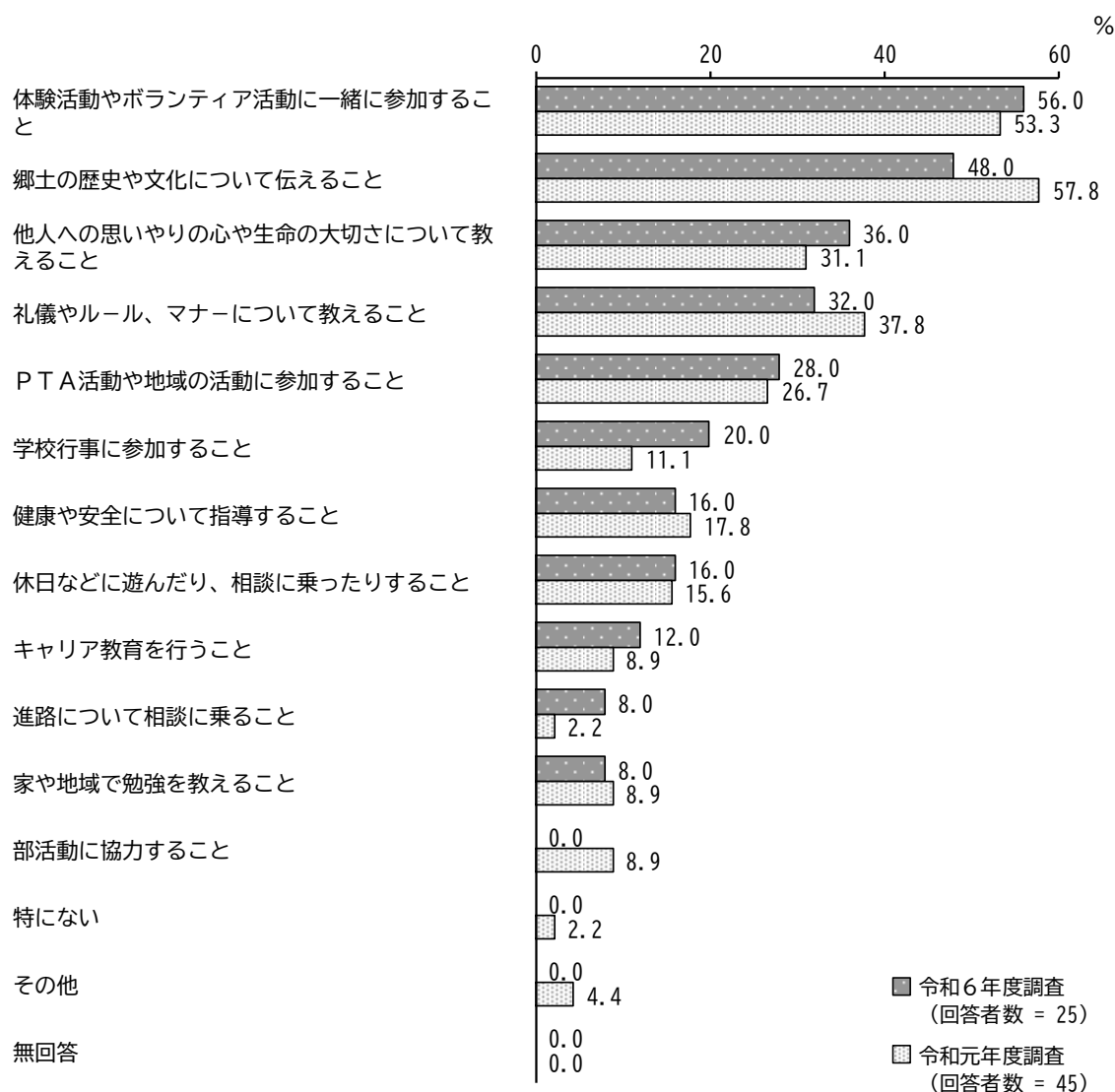
令和元年度調査と比較すると、「礼儀やルール、マナーについて教えること」「キャリア教育を行うこと」の割合が増加しています。一方、「健康や安全について指導すること」「進路について相談に乗ること」「休日などに遊んだり、相談に乗ったりすること」「部活動に協力すること」「学校行事に参加すること」の割合が減少しています。



地域の方

「体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること」の割合が56%と最も高く、次いで「郷土の歴史や文化について伝えること」の割合が48%、「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の割合が36%となっています。

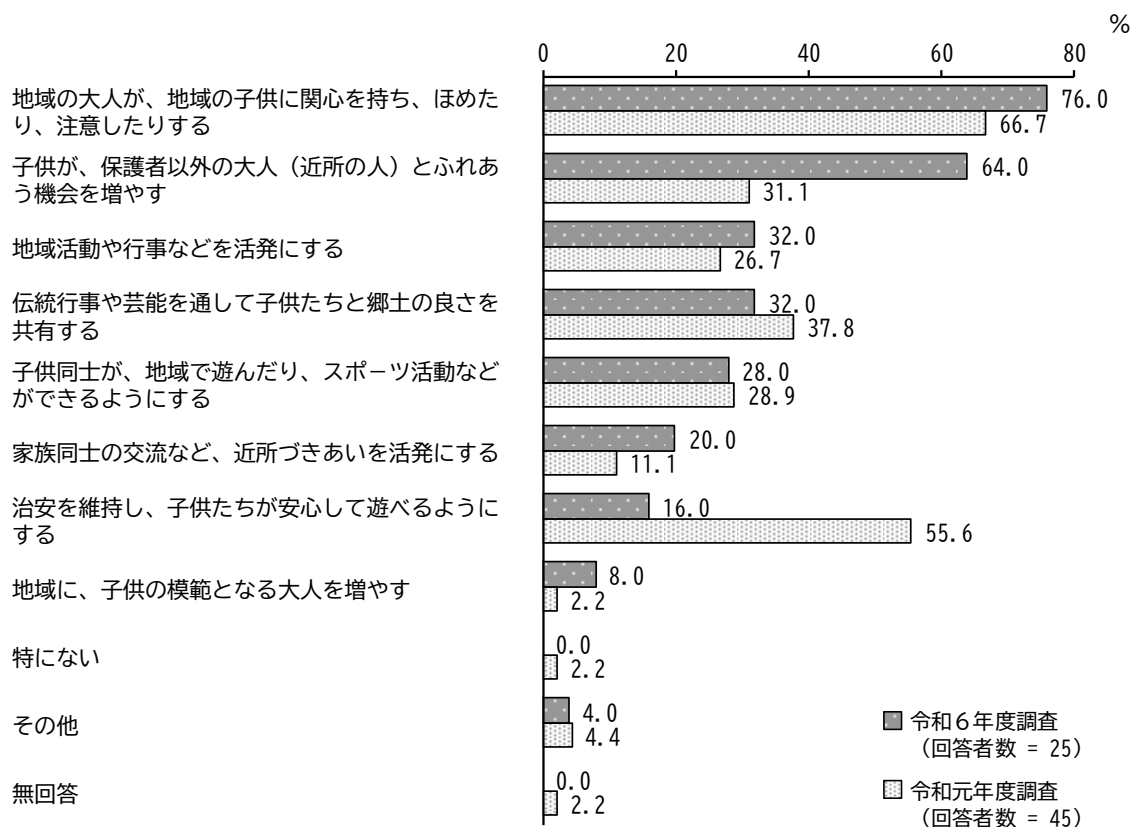
令和元年度調査と比較すると、「進路について相談に乗ること」「学校行事に参加すること」の割合が増加しています。一方、「礼儀やルール、マナーについて教えること」「部活動に協力すること」「郷土の歴史や文化について伝えること」の割合が減少しています。



問12 「地域の教育力」を高めるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。
(主なもの3つまで○)

「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」の割合が76%と最も高く、次いで「子供が、保護者以外の大人（近所の人）とふれあう機会を増やす」の割合が64%、「地域活動や行事などを活発にする」、「伝統行事や芸能を通して子供たちと郷土の良さを共有する」の割合が32%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「地域に、子供の模範となる大人を増やす」「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」「家族同士の交流など、近所づきあいを活発にする」「地域活動や行事などを活発にする」「子供が、保護者以外の大人（近所の人）とふれあう機会を増やす」の割合が増加しています。一方、「治安を維持し、子供たちが安心して遊べるようにする」「伝統行事や芸能を通して子供たちと郷土の良さを共有する」の割合が減少しています。



問13 その他、狭山市の教育・生涯学習に関してご意見などがございましたら、自由にご記入ください。

狭山市の教育・生涯学習に関するご意見について、以下の意見が挙げられました。

内容
来年度、学校単位の家庭教育学級が大きく変わるので、富士見集会所の人権セミナーも内容の見直しをしてほしい。参加者の状況を考えず、毎年同じことをしているのはいかなるものなのでしょうか？「参加者2名」文言は無くしてもらいたい。年に5日の負担は大きすぎます。
私達の活動は、お世話になる小学校との関係が良好の上に成り立っていると思います。放課後教室、体験教室も市よりの委託金をもとに遊具、備品、消耗品の購入しスタッフ謝金を支払い、運営されています。学校によっては、ボール貸していただけたら、教室の備品を置く場所を提供して下さるところと、校内のさまざまなスペースを提供して下さるところと対応はさまざまです。放課後の子どもの居場所として、より多くの児童が参加出来るようにするという基本方針があり地域の多くの方の協力を得て成り立っていますので、もっともっと教育委員会から放課後教室の活動に理解をもって協力していただけますよう、学校側に温度差がないようにお話しして下さるようお願いいたします。
地域団体等と連携、協働した活動といわれているのに、市側が市民に理解出来るようにアピールする必要がありますと思います。まだまだ学校教育等理解がなく、地域づくりには時間がかかるのではないのでしょうか。
小学校ではスマホを持たせない指導をしている様ですが、スマホトラブルも低年齢化しており、ネット社会で成長していくためには、正しい知識も必要です。家庭での教育には親の認識の違いにより差が生じてしまうので、ネットを上手に使う教育を取り入れてほしいです。
・教員の先生方が働きすぎでないか心配です。 ・通学班というシステムは保護者にとって負担が大きいのので一度考え直す機会を設けて頂きたいです。保護者が行っている活動(旗振りやウマ出し、見守りなど)を地域の方々と協力してできないかと考えています。
多くのセミナーなどを企画してくださっているが、市民が本当に興味を持てるテーマにした方が良いと思う。大人が学んでいなければ子供は進んで学ばないと思うので、大人が学びたいと思えるテーマ、開催日時、告知方法の見直しが必要だと考える。年代に合った今後生きていくために必要なスキルや考え方を身につけられるような、時代と世界情勢にフィットしたテーマであれば、意味のあるセミナーになると思う。告知も市民が取りにいかなければ目につかないのであれば、なかなか難しいと思う。勝手な意見ばかり申し上げて、大変恐縮ですが、大人(年配の方も含む)も子供も手軽に学び続けられる狭山市になるととても素敵だなあと考えます。
各地域の公民館をお年寄りだけではなく、子どもたちの体験、経験、遊び場として、もっともっと、色んな活動に取り組んでももらいたい。未来の狭山市のためにも。
ただやるだけの活動から、今の時代にあった参加対象者が求める活動の開催をしてほしい
少子化が進む中子どもたちをいかに 健全に育成して行くかは我々大人に責任がある。
・文科省の学校指導要綱だけに縛られることなく、個性を育むことができる教育の場を増やしてほしい。 ・マンモス都市ではない市内を行き来しやすい規模の市なので、学校の必須強化以外の専門指導者を部活動とは別に、市の非常勤講師として雇用して、交通の便が良い狭山市駅前の交流センターや狭山市 勤労者福祉サービスセンター、新狭山公民館や入曽地域交流センター、狭山市民大学等で、課外授業を行って欲しい。授業は継続できるものとして、スポーツ、芸術、英会話、第2外国語、IT、eスポーツなどを取り入れて、必須科目が苦手でも、これらの項目に個性を生かせる子供たちを育てて欲しい。場合によっては、駅前に教室を構える民間の学習塾や音楽教室の場所と講師を借りても良いと思う。
地域の伝統行事や郷土芸能等は、子供や大人にとってふるさとの意識づくりに大切なもの必要なものなので、これからも教育・文化行政の中で大事にしていきたい。
他の市が分からないので、比較ができませんが、いろいろな取り組みをして積極的な姿勢を感じます。取り入れて欲しい教育は、基本的なことですが①読む②書く③議論(話し合う)文化について再認識させて頂きたいと思います。最優先すべきは、「人を思う心(思いやり)」、「命の大切さ」、「考え方(物の受けとめ方)」です。よろしくお願いします。

狭山市全体で考えたら、狭山市の教育・生涯学習については、充分なのではないかと思っています。が、しかし、保護者の「受け入れる気力」が、昔とは大きく違う気がしています。私自身、今はPTA会長という立場にいてさまざまな情報が入るので、知り得ることができる環境ですが、一般保護者は自分から敏感にいろいろな情報を得ようとする人は少ないと思います。私の両親は（既に他界）戦争を体験している古い人間でしたので、躰も厳しく、窮屈に感じるが多かったのですが、それでも、親も学ばなければ子供に躰などできないというのを地で行く人で、生き字引みたいな人でした。何か疑問を投げ掛ければ即返ってくる。凄い人だなと思っていました。それを見ていた私なのでわが子が小さい内から、今では「虐待」と言われるほどの厳しい躰をしてきました。それが良かったのかは疑問ですが、今割としっかり子育てしているのを見るとホッとすることはあります。しかし、教育や生涯学習といった部分についてはほとんど興味を示さないのも事実です。今の保護者は、そんなわが子たちと同世代です。どうしても同じものを感じています。どんなに市がいろいろと手を尽くしても、受け取る側が受け入れる気力を高めてくれないとどうにもなりません。我々PTA会長たちが、それを周知していかなければいけない立場であり、まだまだ若い保護者たちを育てていかなければいけないのかもしれないかもしれません。

家庭の教育力が低下していて、学校に求められていることが多くなっている。“やってもらって当たり前”と思う保護者が多くなっている気がする。家庭で教えることと学校で教えることをもっと分けたほうがよいと思う。また、市内で楽しいイベントがたくさん開催されているが、同じような内容のものが別々に開催されていることもあり、子どもの取り扱いになっていると思う。イベントを市で集約して重なる内容のものは合同で開催するなどしたほうがよいと思う。イベントの開催が「市報」に載せると公民館だよりはに掲載できない等、周知に仕方が偏っていて知らない保護者も多いと思う。まとめて周知する方法を考えてほしい。よろしくお願いいたします。

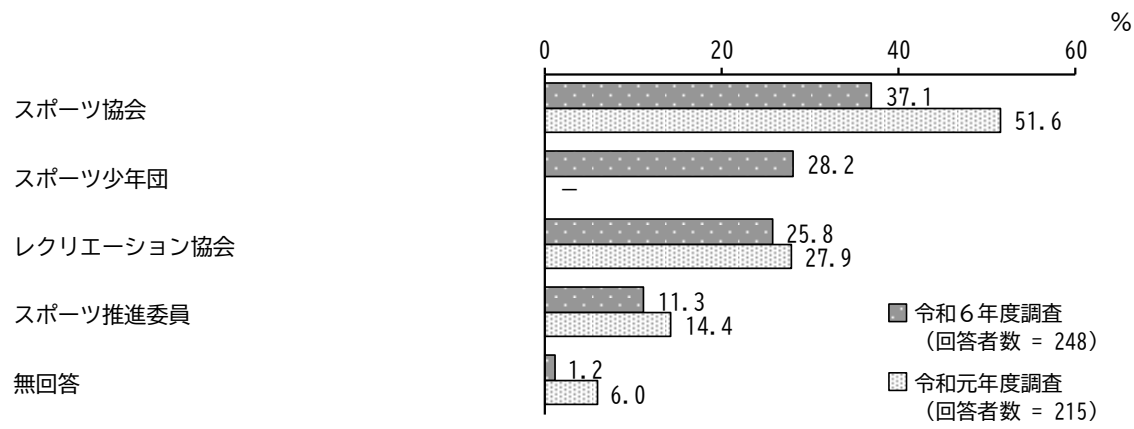
別にありません。

6 スポーツ関係団体

(1) 地域におけるスポーツ活動について

問1 あなたの所属は次のうちどれですか。(あてはまるものすべてに○)

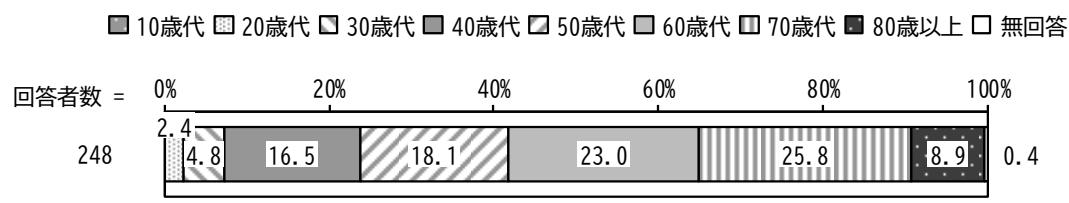
「スポーツ協会」の割合が37.1%と最も高く、次いで「スポーツ少年団」の割合が28.2%、「レクリエーション協会」の割合が25.8%となっています。
令和元年度調査と比較すると、「スポーツ協会」の割合が減少しています。



※前回調査では「スポーツ少年団」はありませんでした。

問2 あなたは何歳ですか。

「70歳代」の割合が25.8%と最も高く、次いで「60歳代」の割合が23.0%、「50歳代」の割合が18.1%となっています。



問3 現在活動している種目をお答えください。

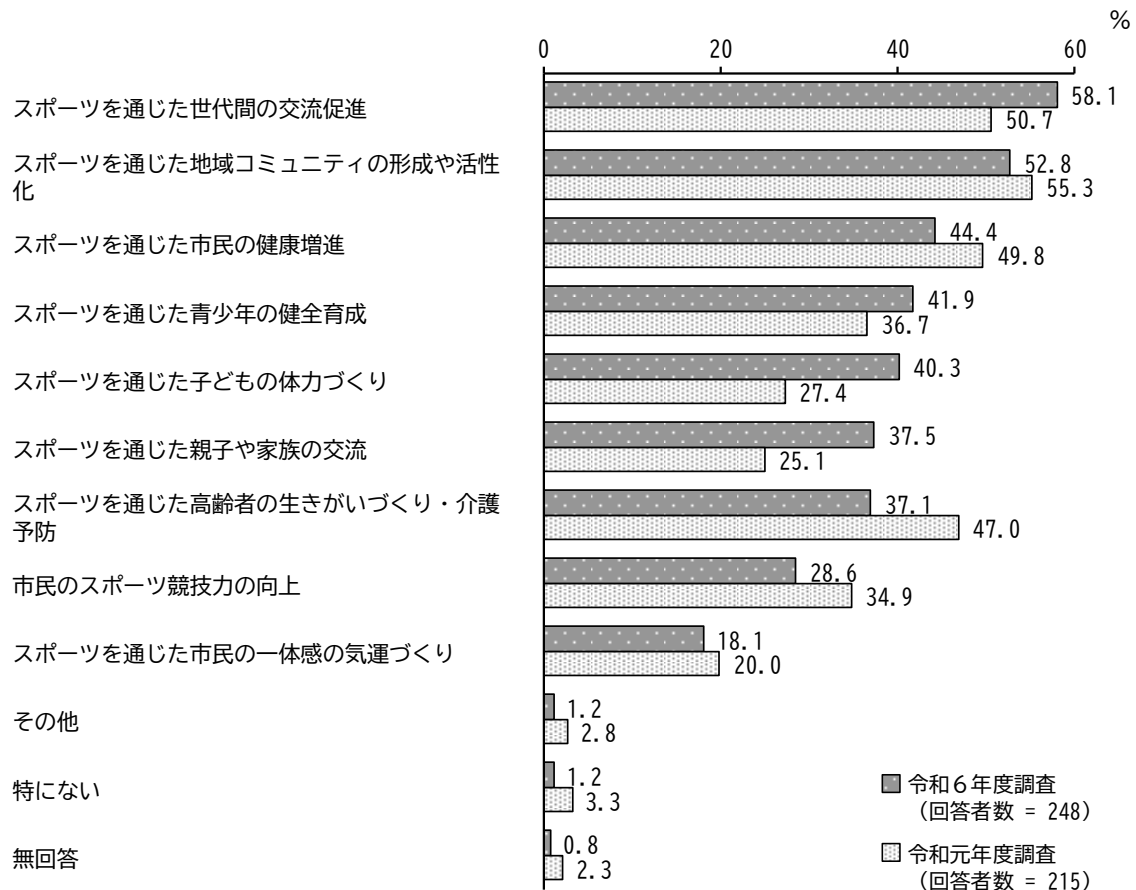
回答が多かった種目は以下のとおりです。なお、同種の内容はまとめて掲載しています（サッカーと少年サッカーなど）。

種目	件数
サッカー	23 件
野球・ソフトボール	31 件
バスケットボール	20 件
テニス	14 件
陸上	8 件

問4 地域におけるスポーツ振興に向け、活動をしながら日頃心がけていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「スポーツを通じた世代間の交流促進」の割合が58.1%と最も高く、次いで「スポーツを通じた地域コミュニティの形成や活性化」の割合が52.8%、「スポーツを通じた市民の健康増進」の割合が44.4%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「スポーツを通じた世代間の交流促進」「スポーツを通じた親子や家族の交流」「スポーツを通じた青少年の健全育成」「スポーツを通じた子どもの体力づくり」の割合が増加しています。一方、「スポーツを通じた高齢者の生きがいづくり・介護予防」「スポーツを通じた市民の健康増進」「市民のスポーツ競技力の向上」の割合が減少しています。



問5 あなたが所属する団体において、活動をするうえでの課題はありますか。

活動をするうえでの課題について、以下の意見が挙げられました。

1. 団員や会員の減少が深刻 (52 件)
・ 会員の高齢化により、会員の減少と会員の体力減退により活動に支障がきている。・ 会員の増員が難しい。
団員数の減少と指導員の資質。
団員不足。(1 チームで存続することが難しい) 指導者の人数不足。
子供の人口が減っているのもあり、チームの団員数も減少している。 また保護者の考え方や携わり方が前に比べ、変化していることもあり子供の関わり方よりも保護者への対応の方が頭を悩ませることが多い。
参加する人が少なく、メンバーも減っている。新しい参加者がいない。
継続的に活動できるように、団員の勧誘に試行錯誤している点
子供の人口が減っているのもあり、チームの団員数も減少している。 また保護者の考え方や携わり方が前に比べ、変化していることもあり子供の関わり方よりも保護者への対応の方が頭を悩ませることが多い。
活動場所の確保と団員（小学生女子）の確保
会員の少ないことで活動に制限がある。コロナの期間が活動の場の減少になり、現在も盛り上がるまでにはっていない。
若者が加入しない
2. 指導者の不足が課題
40 歳代の指導者の確保。
・ 高齢化。・ 後継者不足。
指導の難しさ、年々レベルが向上していくため。
人手不足
指導者の育成。
メンバーの高齢化と育成。
・ 若手の指導者のなり手が少ない。・ 指導者の大半が60代、70代で40～50代がいない。・ 運営能力に長けた「40～50代」がいない。・ 武道館を使用出来る回数があまりにも少ない。週3回は必要。
・ 小学生低学年から柔道を修行し6年生と終わると中学生で部活動がない為、他の競技へ移ってしまう（6年間の修行か?）。・ 指導者の高齢化で若い指導者を育成中です。
若手の指導員育成。利用時間の割り振り（武道館の利用制度、一団体単位の中で小学生と一般（中・高校生含む）を、安全面から同時に稽古できない）。
指導員の高齢化や、新規の指導員確保の問題
経験が少ない競技での指導を行うことがあり、うまく指導がおこなえない事がある。
指導者の不足
指導者の育成
子どもたちのスポーツ離れ(興味がない?) 指導者に対する登録費や資格更新料等の負担が多い
指導者不足。 団員不足。

さまざまな陸上競技を練習するにあたり環境面や指導者の不足が課題だと感じます。現状は小学校のグラウンドをお借りしていますが、実際の陸上競技場とは異なる土のグラウンドであること、1周あたりが200mなのでカーブのRがきつい、砂場で跳躍の練習をする場合でも踏切が老朽化している、ハードルの台数が足りない、など環境、設備面でより充実しないものかと感じます。また、ランだけでなく、投擲、跳躍はそれぞれ異なる競技ですが指導者がいません。
指導者の確保と育成
コーチの確保
指導者不足。保護者の方々における、指導者、団活動運営者のボランティア活動であるということの認識欠如
指導者の育成
新規会員の獲得、会員の高齢化、指導者不足、活動場所の問題。特に活動場所については、市民総合体育館、水富公民館の2箇所に弓道場があり大変ありがたいことですが、どちらも体配の練習が出来る造りにはなっていません。(入退場口がない) また、水富公民館は他のサークル等の利用者に配慮し駐車場の利用台数、利用時間を制限しています。公民館の利用が夕方終了している場合、夜はトイレの使用が出来ません。近隣に民家がありますので音や安全面も気になります。半分外ですので冬は防寒対策、夏は熱中症対策が必要ですが、基本個人での対策になっています。
3. 高齢化による活動の制約 (34 件)
高齢化
メンバーの高齢化、若年者の加入がほとんど無い。
高齢化が心配。
・会員の高齢化に伴い、安定した会場確保(会場の広さ、交通の便等を考慮)。
会員の高齢化。会員の減少に伴う団体活動費の減少と個人負担の増加。
高齢化していて、若い人の協力が少ない。
会員が年々高齢になり、減少傾向。
会員の高齢化による減少。・会員減少に伴い運営が困難。
会員の高齢化、及び会員の減少。
年齢が高くなり、体力もなくなり、スポーツが楽しめない。免許返納で移動がしにくくなった。
高齢になり、体力の減退や免許返納などによって、活動困難者が多くなった。会員の減少を止め、体力や活動費などの負担を少なくし、会員が楽しく参加できる運営をする。
高齢化により、参加数の減少。
・会員の高齢化及び会員の減少。・会員の減少に伴う団体活動費の減少、及び個人負担の増加。
会員の高齢化。
・会員が高齢になり退会者が多くなってきた事と、入会者、特に若い人が入ってこない。それに伴い運営が困難になってきている。
会員の増加がむずかしい。イベント開催時など、体力的にきびしい(会員の高齢化)。
高齢化、若い人が入りにくい。
高齢化により、ダンススポーツ人口が減少しています。
参加者及び運営側の高齢化が進んでおり、5年後、10年後を考えると現状の規模、回数での大会開催が厳しくなる。
活動者の固定化。役員の高齢化。新たな役員のなり手が無い。

高齢化による構成員減少。
高齢化しているので、いつまでできるかが心配。
高齢化による活動団体の減少。
公民館のホールを長い間使わせていただいていたのですが、場所取りもとれない時もあり、高齢者ですので場所が変わると迷う人もいるので、8区の自治会館に決めました。70代80代中心になりましたが、音楽にあわせて動く事により、脳の活性化が期待でき、健康増進に最適なスポーツ、レクリエーションです。狭山市フォークダンス連盟。
高齢化
高齢化と若い会員不足。
高齢化に伴う人材不足、活動性の低下。
役員関係者の高齢化と後継者不足 活動を提供する対象者の固定化（年齢層に幅広くアプローチできない）
1. 平日夜間での活動に対し出席率の低さと新規参入者の減少傾向。 2. 週末昼間の活動には高齢者が多く無理のないスケジュール管理と怪我等に配慮した活動に従事。
高齢化 少子化 多様化 運動人口が減少しているのに対し、多様化で分散し密度が薄くなっている。若い世代と高齢者が一緒にプレーをする中で年齢による動作の違いからお互いに楽しさの感じ方に不満感が表れるように見える事がある。
役員の高齢化及び固定化
地球温暖化に伴い、夏季の練習（稽古）が中止または制限され、練習（稽古）の継続性が維持できない。
高齢化
4. 活動場所の確保が難しい（17件）
会場確保
活動できる場所の確保。
・水富公民館弓道場は民家と隣接しているため、安全、騒音に配慮した施設にしてほしい。
活動場所の利用者数の制限に伴う会場確保。
活動場所の利用者数の制限に伴う会場の確保。
会場の確保。
活動場所。現在水富公民館と智光山体育館に弓道場があるが、どちらも正式な弓道場ではなく、練習できないものもある。正式な弓道場を作ってほしい。
・イベントを開催しようと思っても、会場の確保ができない。・予算のめどがたたない。
市内の体育館を毎週一度利用してますが駐車場の数が少なく前団体が帰宅するまで駐車場があかず活動が遅くなる 終了五分前には開けてほしい 体育館利用後モップ掛けをしているが前団体がワタボコリを確実にかたず帰っている後の団体が処理しなくてはならず余計な時間がかかってしまう確実にかたず帰ってほしい

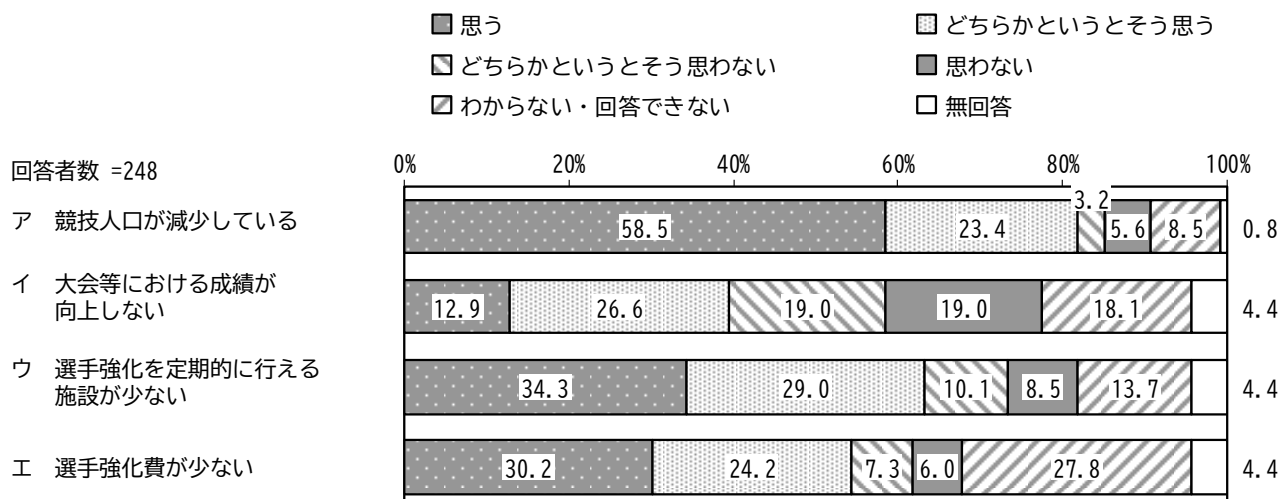
智光山体育館・水富公民館に弓道場があり、市内に2拠点構えているので非常にありがたいことと感謝しております。ただ、いずれも老朽化が進んでいますので手入れいただけると大変ありがたいと思います。また、せっかく手入れいただけるのであれば、単なる修繕ではなくレイアウト変更（智光山においては畳を廃し板の間を延長する等）を行い、本格的に体配（正しい所作）を行えるスペースを作っていただけると幸甚です。狭山市弓道連盟では、昨年度は史上初の女性錬士五段が誕生し、また今年度も史上初の教士七段が誕生予定と埼玉県中部支部内の連盟として一定の地歩を固めつつありますので、施設面でもアシストいただけると大変ありがたいです。
グラウンドがない 狭山市の小学校はスパイクが使えない。試合が出来ない 中学校を借りてもトイレを使わせてくれない。
活動場所の確保と整備
グラウンドです。他県や他市には天然芝や人工芝のグラウンドがあります。
練習や試合の場所と時間の確保
練習会場の確保
グラウンドの確保 活動費
活動場所の確保
5. 少子化の影響で子供が減少（12 件）
チーム数の減少（子どもの減少による、小学、中学、高校の選手減少）。
剣道人口が減少の一途にあり、青少年で剣道をやりたい者が大変少なくなっている。
少子化による子どもの不足。
子どもや若い人が少ない。
近年、少子化の影響により野球人口の減少からチーム作りに苦労している。
入団する児童が年々減っている。スポ少は大変だと思われる。保護者の共働きが多く、スポーツしたいけどできない子供も多い。
少子化に伴う新規団員の確保
野球をやる子供が少ない。一学年で9人揃わない。
少子化によるチーム維持
小学生低学年の団員数が少ない。入団希望者が居ない。
子供の人数が少なくなっている
学校からの協力体制が不十分であり、少年野球の認知が進まず、また勧誘もしづらい状況にある。そのため、団への加入する子供の数が減少していること。

(2) 狭山市のスポーツ施策について

問6 狭山市のスポーツ施策について日頃感じていることをお答えください。
(①～③の各項目について、それぞれひとつずつ○)

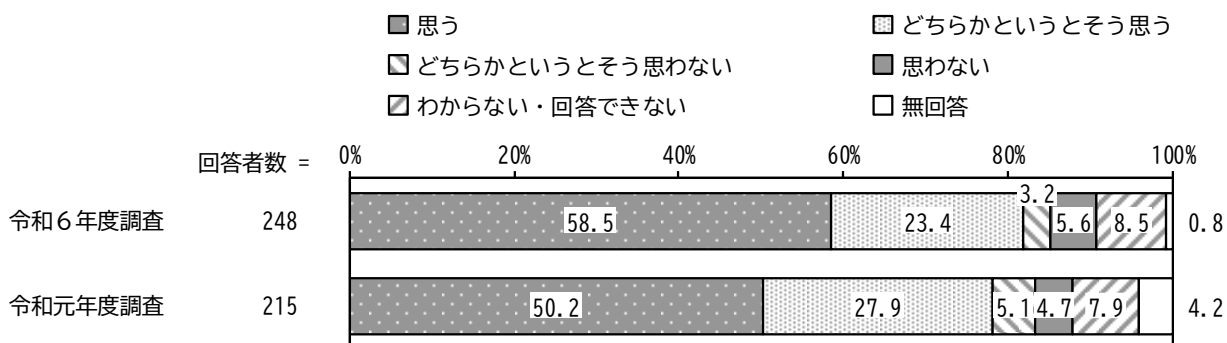
①競技人口・競技力について

『ア 競技人口が減少している』で「思う」「どちらかというと思う」を合わせた”思う”の割合が、『イ 大会等における成績が向上しない』で「どちらかというと思わない」「思わない」を合わせた”思わない”の割合が高くなっています。



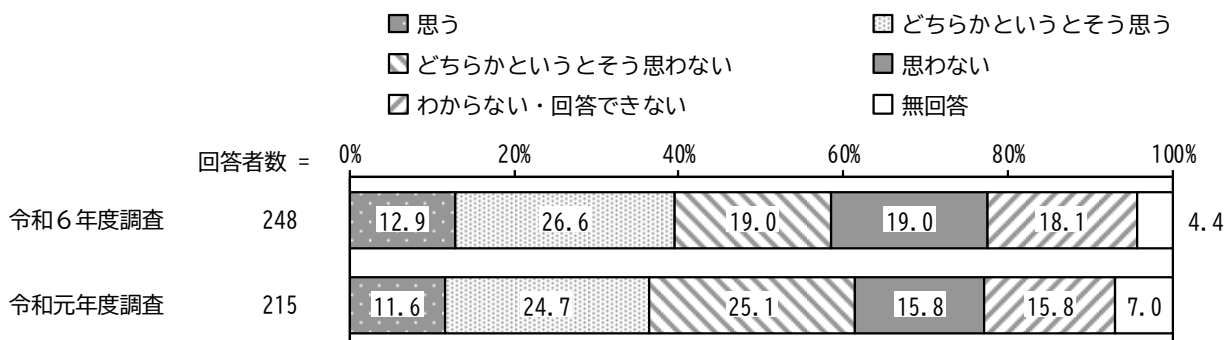
ア 競技人口が減少している

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。



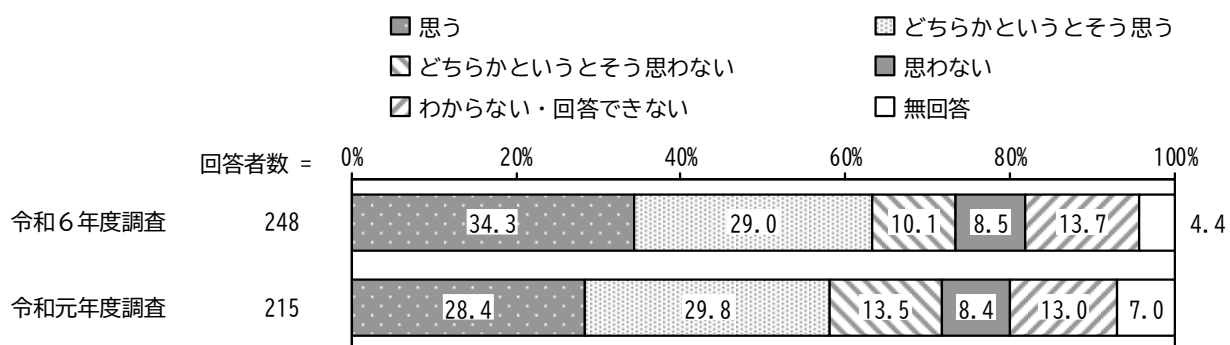
イ 大会等における成績が向上しない

令和元年度調査と比較すると、「どちらかというと思わない」の割合が減少しています。



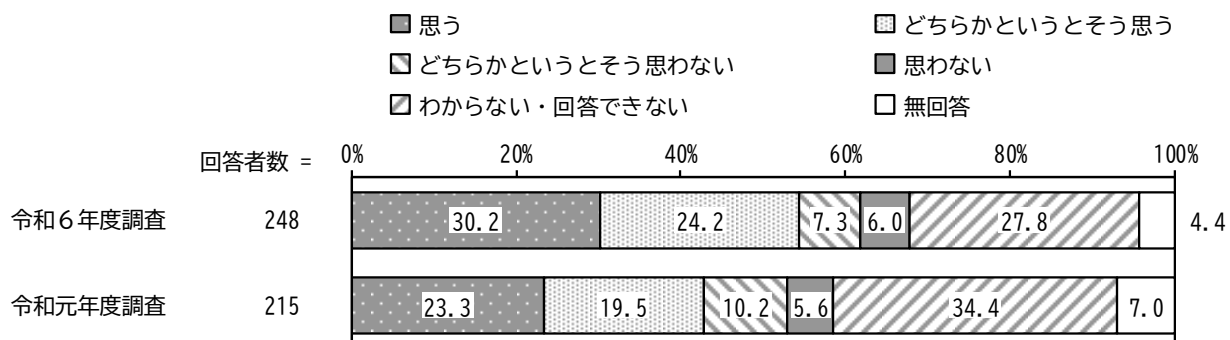
ウ 選手強化を定期的に行える施設が少ない

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。



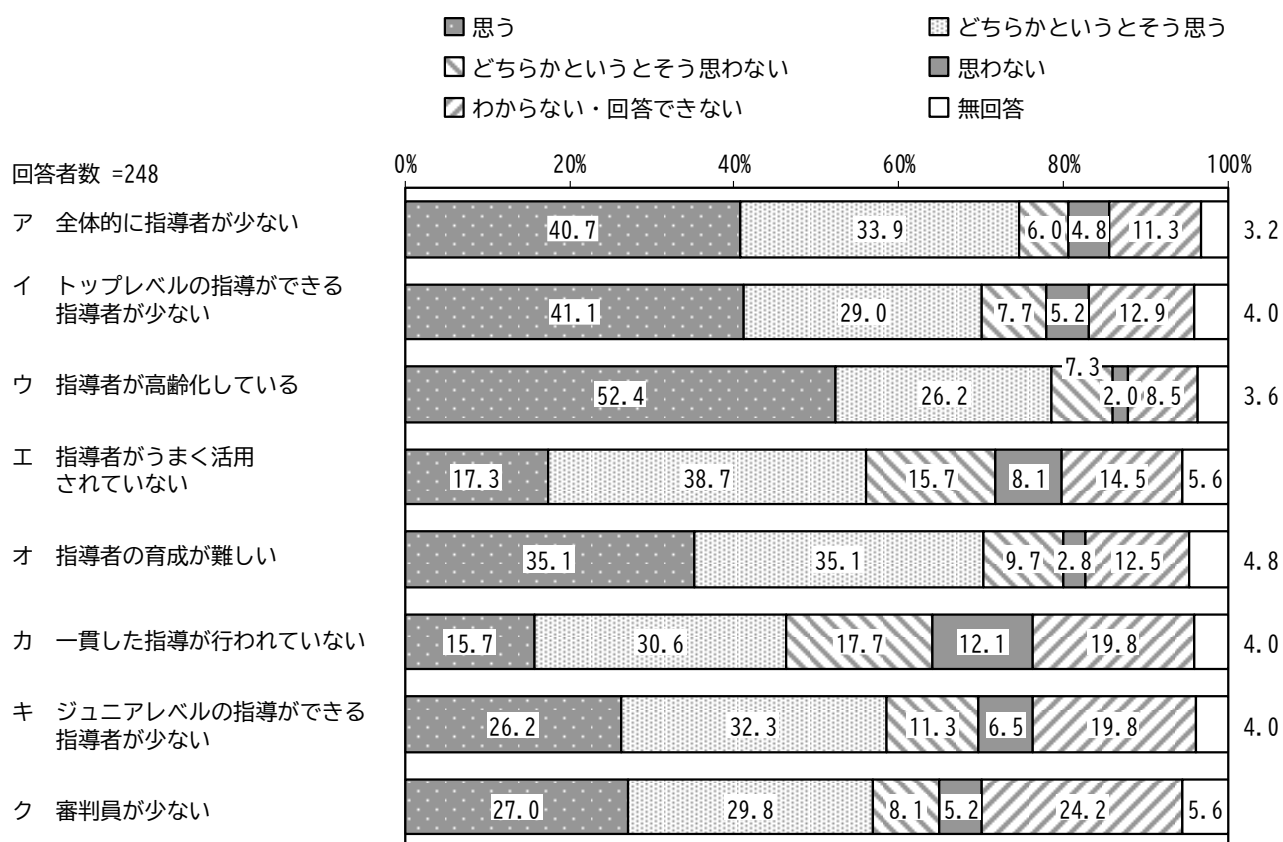
エ 選手強化費が少ない

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「わからない・回答できない」の割合が減少しています。



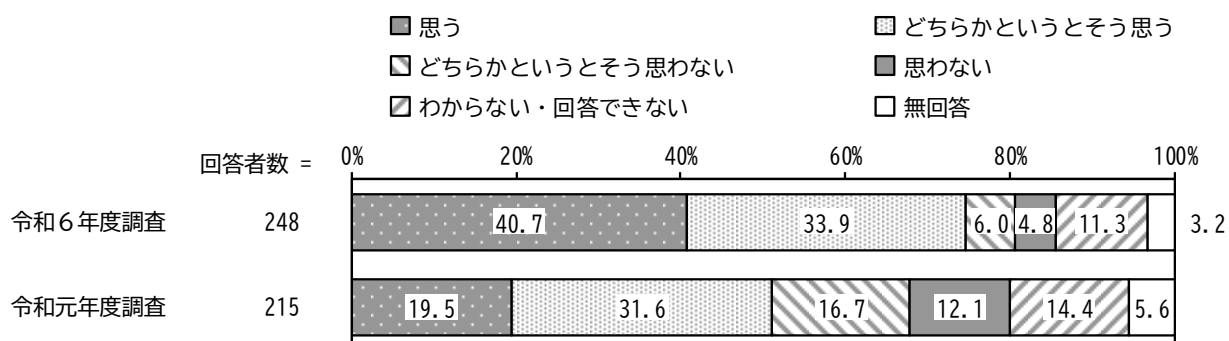
②指導者等について

『ウ 指導者が高齢化している』で「思う」「どちらかというと思う」を合わせた”思う”の割合が、『カ 一貫した指導が行われていない』で「どちらかというと思わない」「思わない」を合わせた”思わない”の割合が高くなっています。



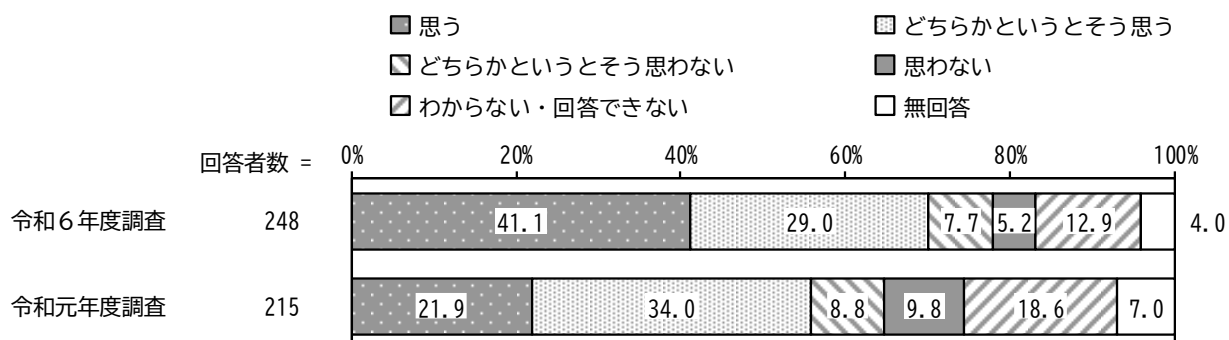
ア 全体的に指導者が少ない

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかというと思わない」「思わない」の割合が減少しています。



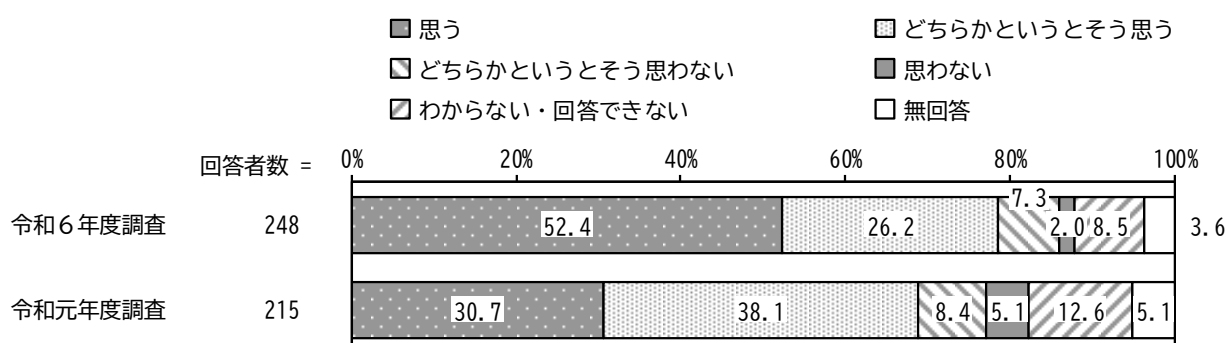
イ トップレベルの指導ができる指導者が少ない

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「わからない・回答できない」の割合が減少しています。



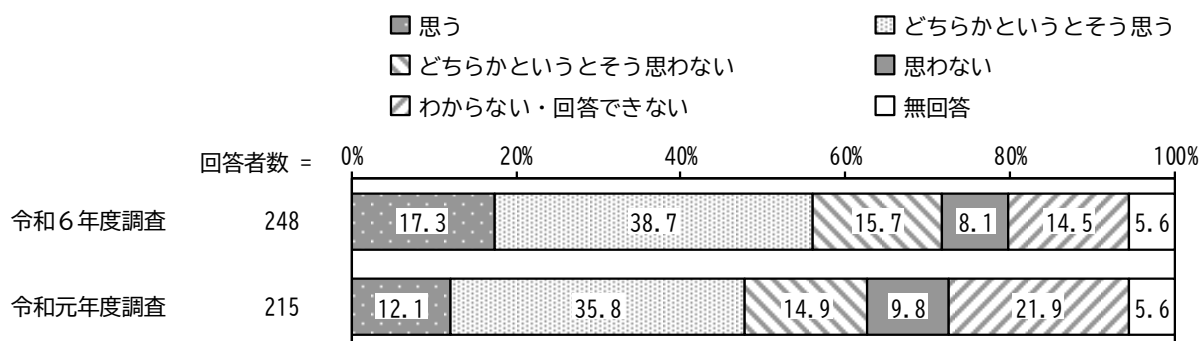
ウ 指導者が高齢化している

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかというと思う」の割合が減少しています。



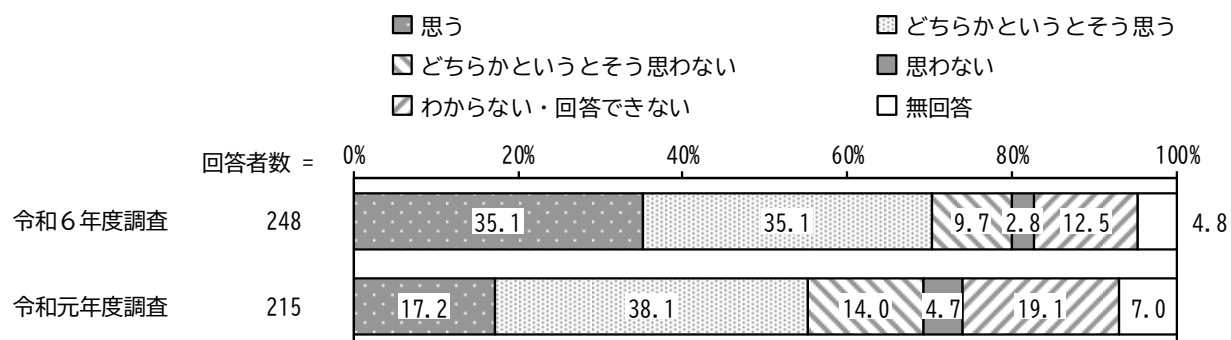
エ 指導者がうまく活用されていない

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「わからない・回答できない」の割合が減少しています。



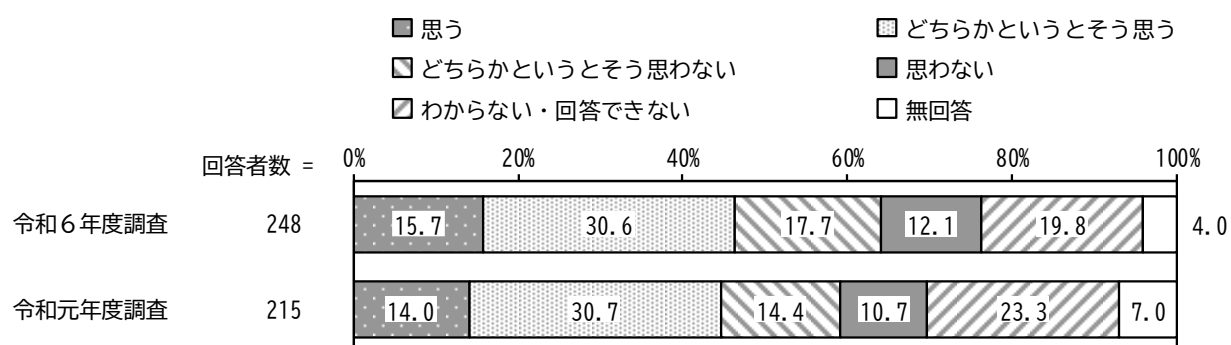
オ 指導者の育成が難しい

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「わからない・回答できない」の割合が減少しています。



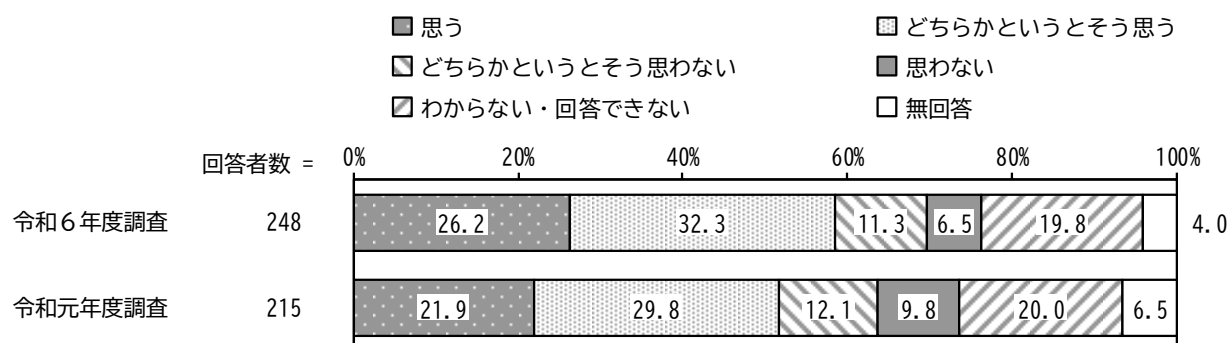
カ 一貫した指導が行われていない

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



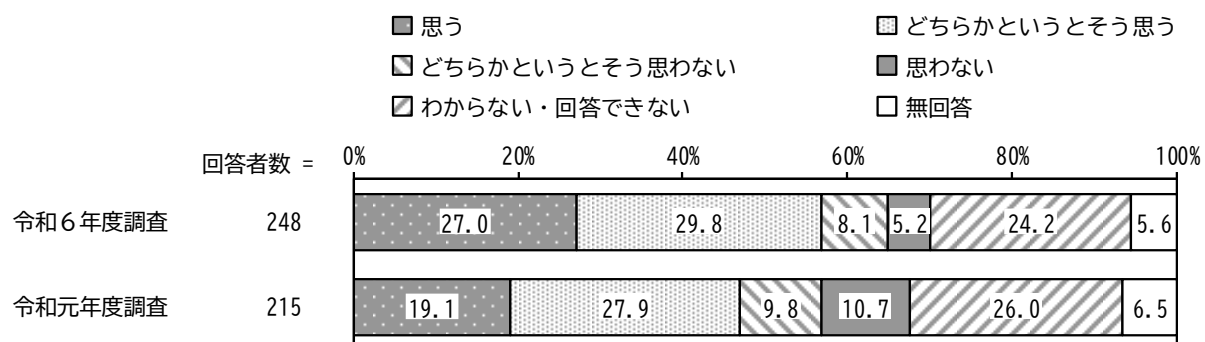
キ ジュニアレベルの指導ができる指導者が少ない

令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



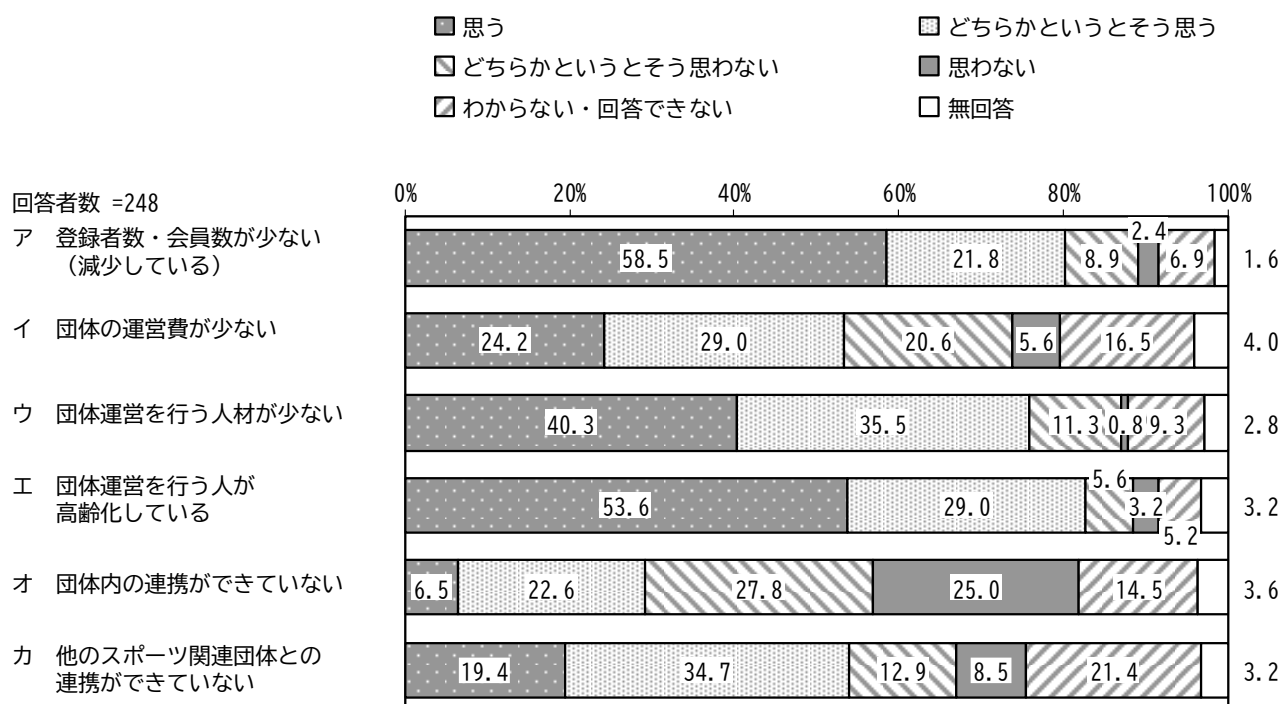
ク 審判員が少ない

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「思わない」の割合が減少しています。



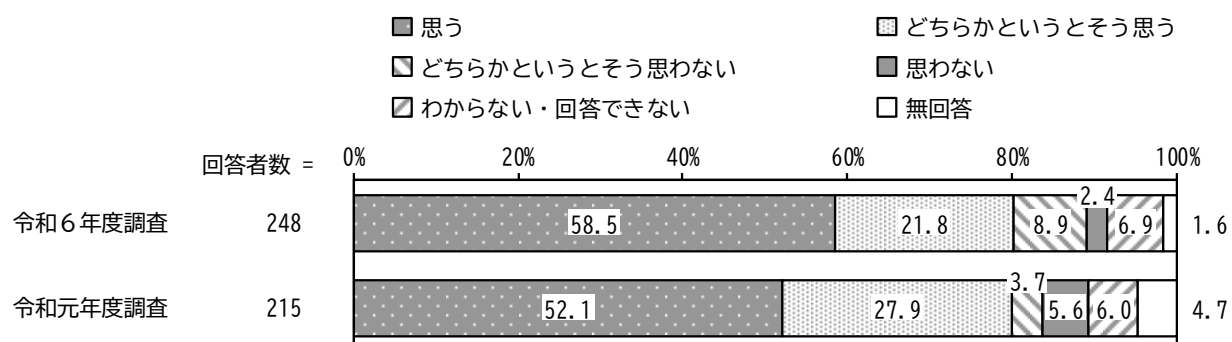
③団体の運営について

『ア 登録者数・会員数が少ない（減少している）』『エ 団体運営を行う人が高齢化している』で「思う」「どちらかというと思う」を合わせた”思う”の割合が、『オ 団体内の連携ができていない』で「どちらかというと思わない」「思わない」を合わせた”思わない”の割合が高くなっています。



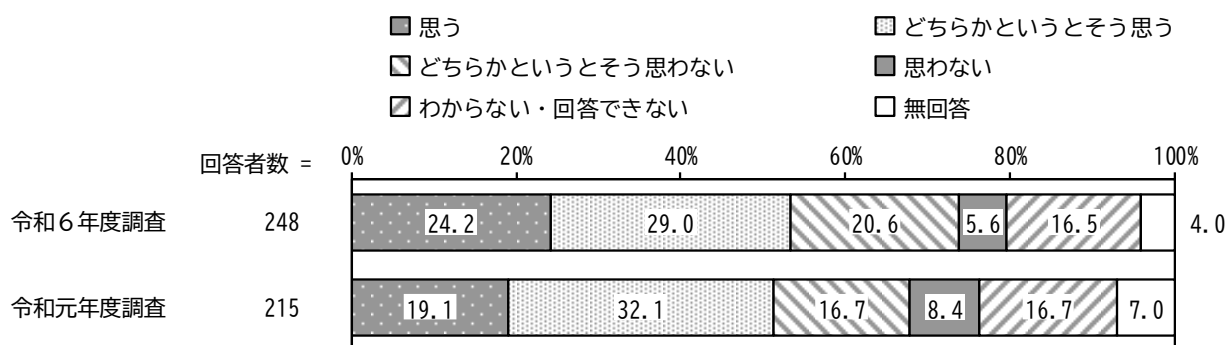
ア 登録者数・会員数が少ない（減少している）

令和元年度調査と比較すると、「思う」「どちらかというと思わない」の割合が増加しています。一方、「どちらかというと思う」の割合が減少しています。



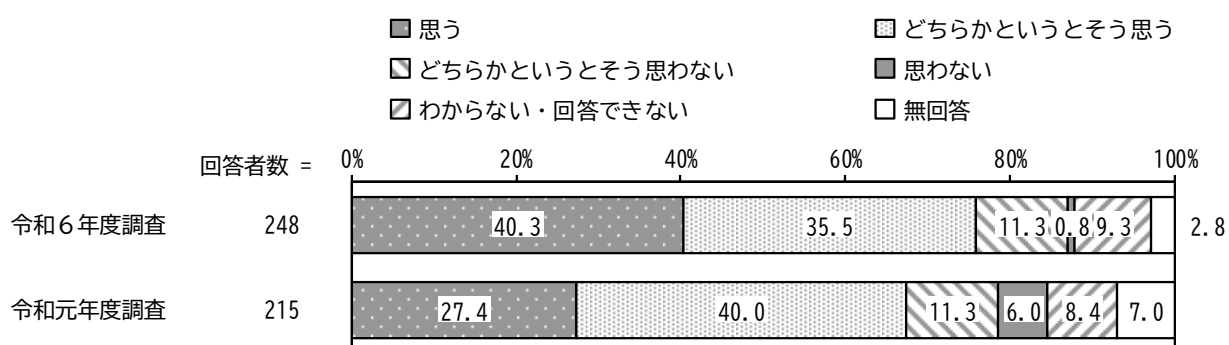
イ 団体の運営費が少ない

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。



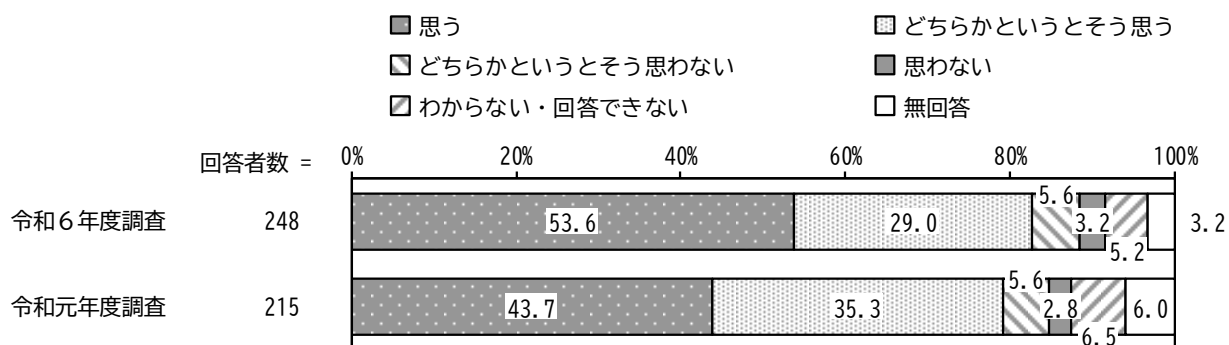
ウ 団体運営を行う人材が少ない

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「思わない」の割合が減少しています。



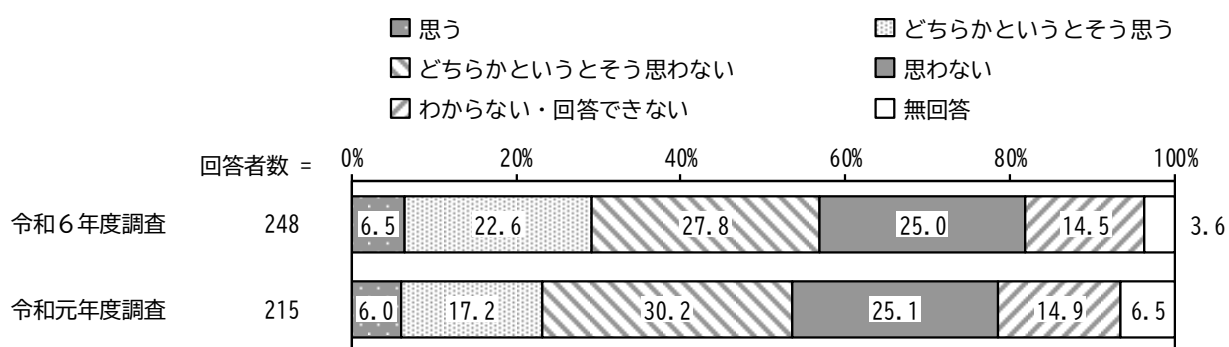
エ 団体運営を行う人が高齢化している

令和元年度調査と比較すると、「思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかというと思う」の割合が減少しています。



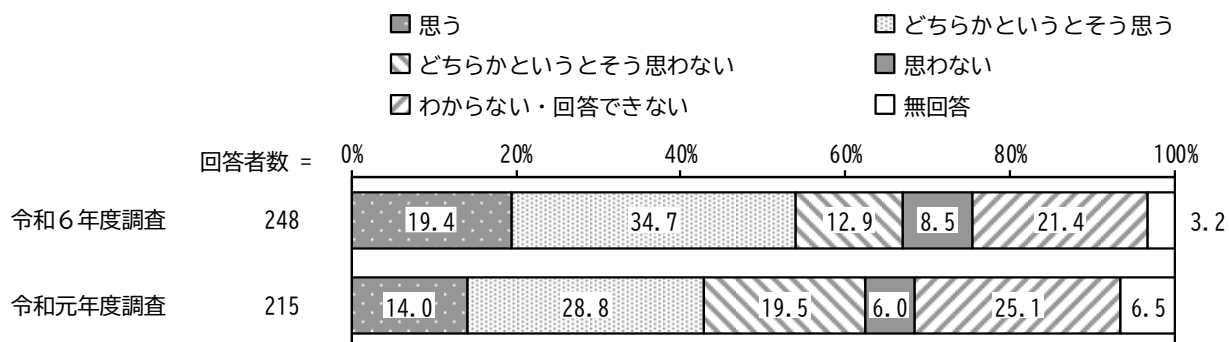
オ 団体内の連携ができていない

令和元年度調査と比較すると、「どちらかというと思う」の割合が増加しています。



カ 他のスポーツ関連団体との連携ができていない

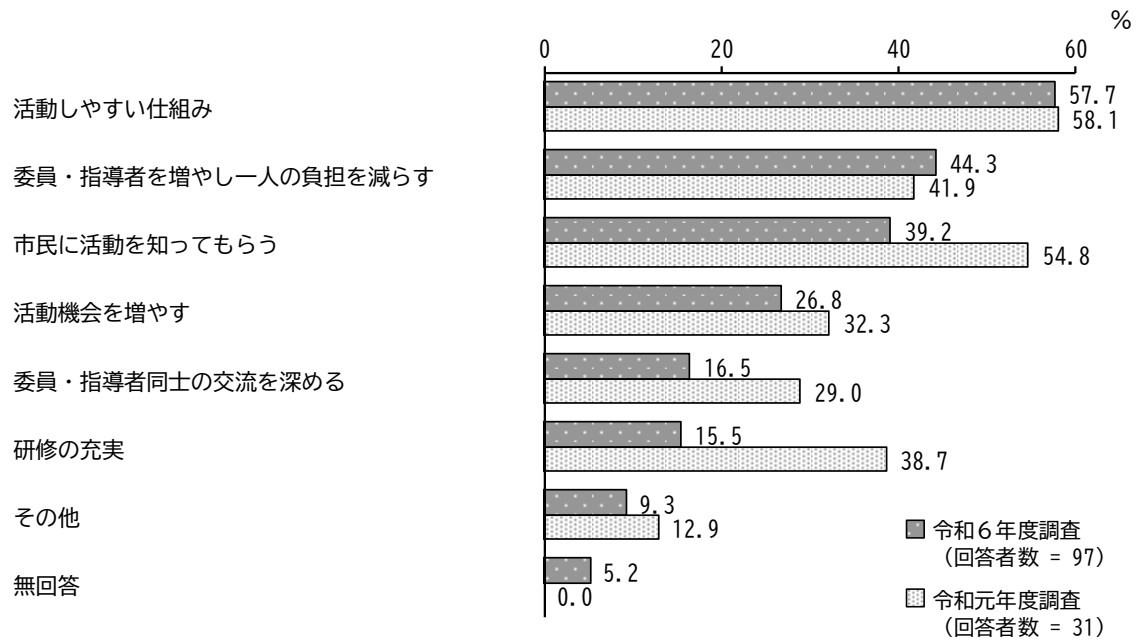
令和元年度調査と比較すると、「思う」「どちらかというと思う」の割合が増加しています。一方、「どちらかというと思わない」の割合が減少しています。



問7 スポーツ推進委員・スポーツ少年団の方にお聞きします。その活動をさらに充実していくために必要なことは何ですか。(主なもの3つまで○)

「活動しやすい仕組み」の割合が57.7%と最も高く、次いで「委員・指導者を増やし一人の負担を減らす」の割合が44.3%、「市民に活動を知ってもらう」の割合が39.2%となっています。

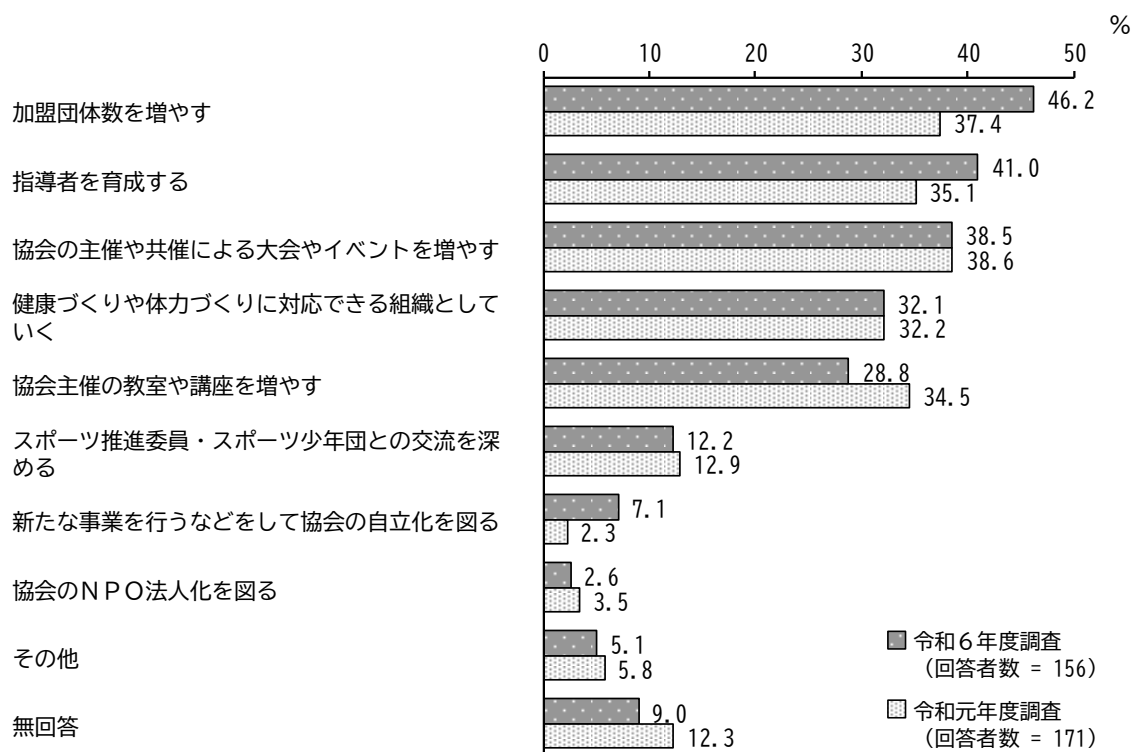
令和元年度調査と比較すると、「研修の充実」「活動機会を増やす」「委員・指導者同士の交流を深める」「市民に活動を知ってもらう」の割合が減少しています。



問8 スポーツ協会・レクリエーション協会の方にお聞きします。ご自身の所属する団体の活動をさらに充実して行くために必要なことは何ですか。(主なもの3つまで○)

「加盟団体数を増やす」の割合が46.2%と最も高く、次いで「指導者を育成する」の割合が41.0%、「協会の主催や共催による大会やイベントを増やす」の割合が38.5%となっています。

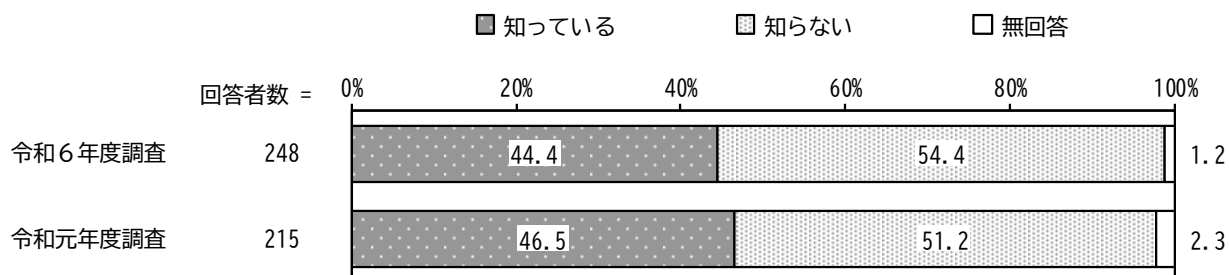
令和元年度調査と比較すると、「加盟団体数を増やす」「指導者を育成する」の割合が増加しています。一方、「協会主催の教室や講座を増やす」の割合が減少しています。



問9 狭山市のスポーツボランティア制度を知っていますか。

「知っている」の割合が44.4%、「知らない」の割合が54.4%となっています。

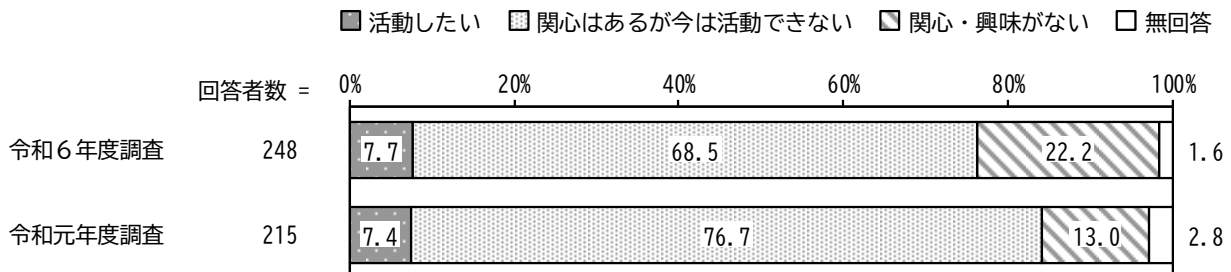
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問10 ご自分が、スポーツボランティアに登録して活動してみたいと思いますか。

「活動したい」の割合が7.7%、「関心はあるが今は活動できない」の割合が68.5%、「関心・興味がない」の割合が22.2%となっています。

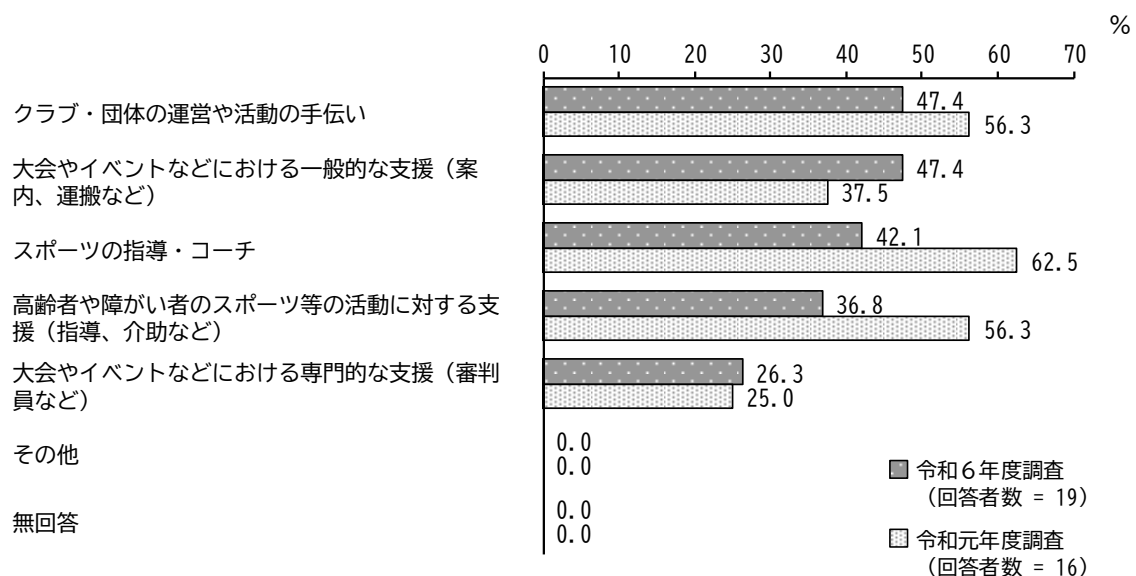
令和元年度調査と比較すると、「関心・興味がない」の割合が増加しています。一方、「関心はあるが今は活動できない」の割合が減少しています。



問11 問10で「1 活動したい」を選んだ方にお聞きします。今後、どのようなスポーツボランティアの活動してみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

「クラブ・団体の運営や活動の手伝い」、「大会やイベントなどにおける一般的な支援（案内、運搬など）」の割合が47.4%と最も高く、次いで「スポーツの指導・コーチ」の割合が42.1%となっています。

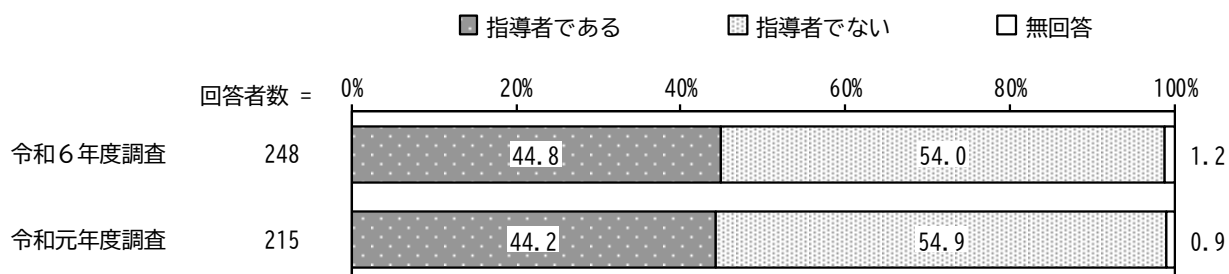
令和元年度調査と比較すると、「大会やイベントなどにおける一般的な支援（案内、運搬など）」の割合が増加しています。一方、「スポーツの指導・コーチ」「クラブ・団体の運営や活動の手伝い」「高齢者や障がい者のスポーツ等の活動に対する支援（指導、介助など）」の割合が減少しています。



(3) 指導について

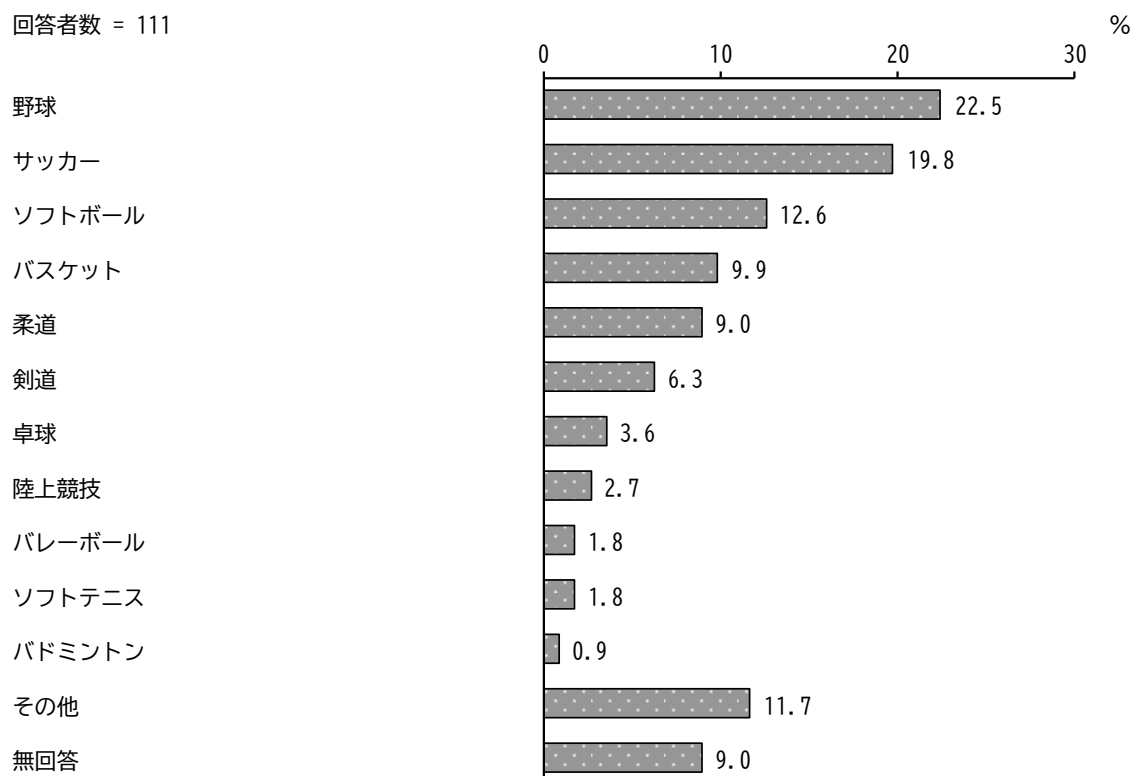
問12 あなたは、スポーツの指導者ですか。

「指導者である」の割合が44.8%、「指導者でない」の割合が54.0%となっています。
令和元年度調査と比較すると、大きな変化はみられません。



問13 問12で「1 指導者である」を選んだ方にお聞きします。あなたが指導できる種目は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

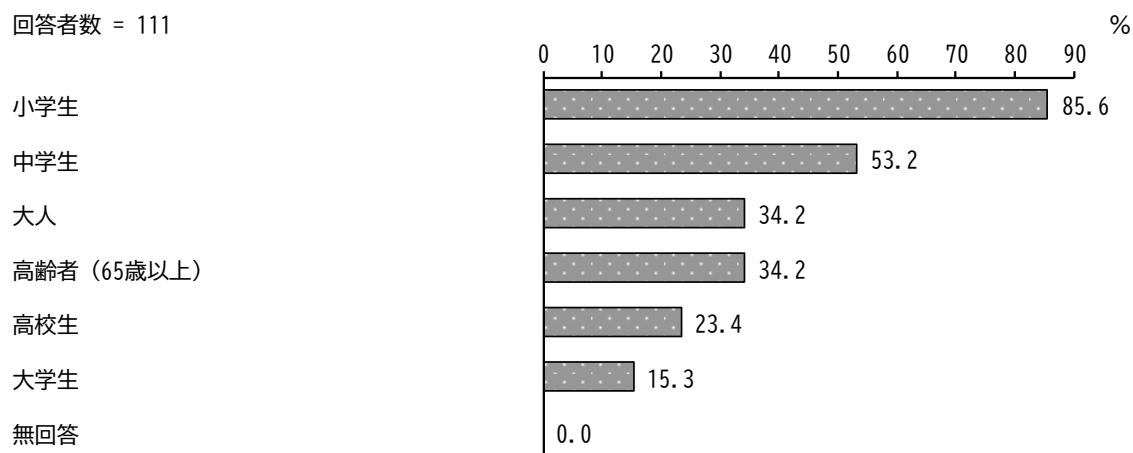
「野球」の割合が22.5%と最も高く、次いで「サッカー」の割合が19.8%、「ソフトボール」の割合が12.6%となっています。



問 14 問 12 で「1 指導者である」を選んだ方にお聞きします。あなたが指導できる世代を教えてください。（あてはまるものすべてに○）

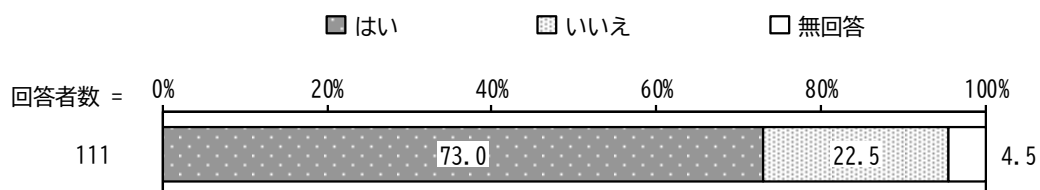
「小学生」の割合が 85.6%と最も高く、次いで「中学生」の割合が 53.2%、「大人」、「高齢者（65歳以上）」の割合が 34.2%となっています。

回答者数 = 111



問 15 問 12 で「1 指導者である」を選んだ方にお聞きします。あなたは指導者として地域で活動してみたいと思いますか。

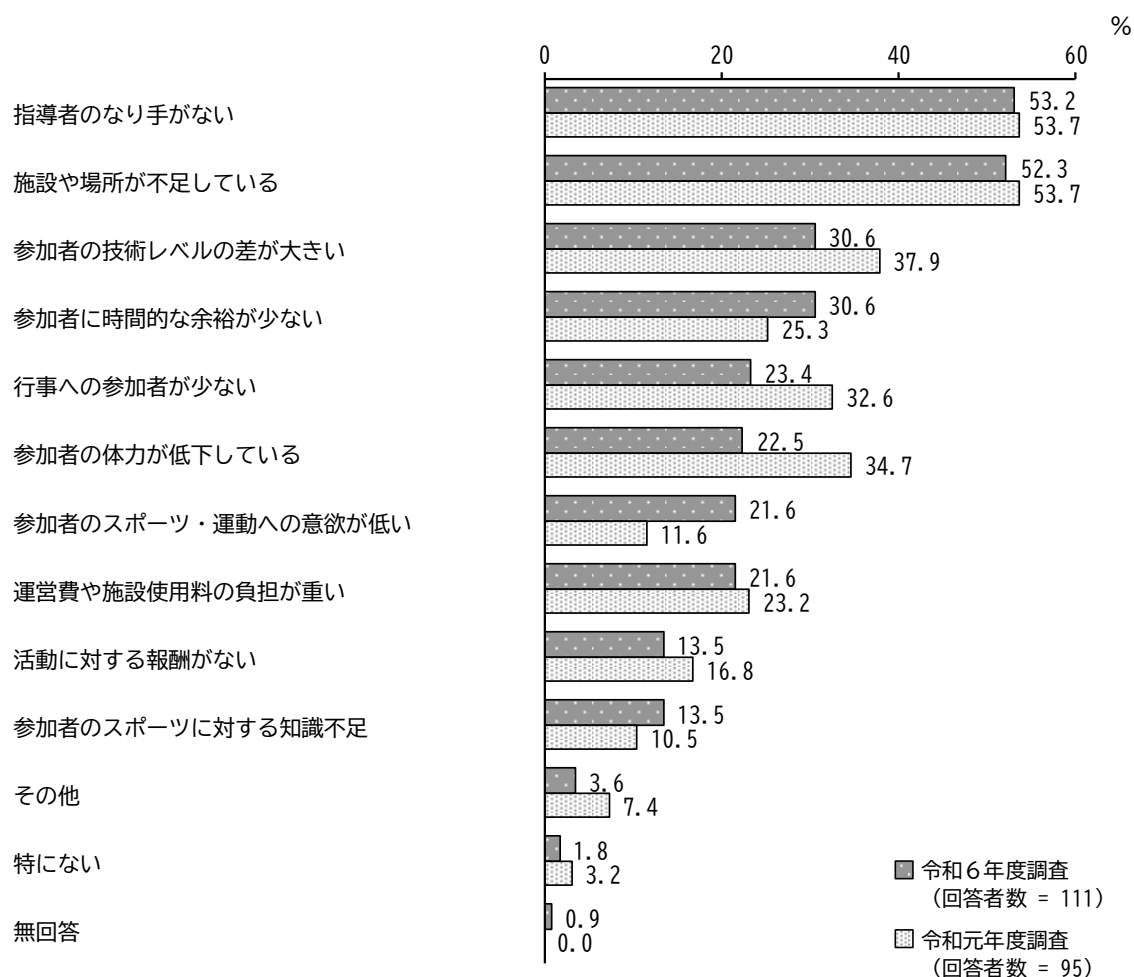
「はい」の割合が 73.0%、「いいえ」の割合が 22.5%となっています。



問16 問12で「1 指導者である」を選んだ方にお聞きします。スポーツ指導をする際に問題となっていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

「指導者のなり手がない」の割合が53.2%と最も高く、次いで「施設や場所が不足している」の割合が52.3%、「参加者の技術レベルの差が大きい」、「参加者に時間的な余裕が少ない」の割合が30.6%となっています。

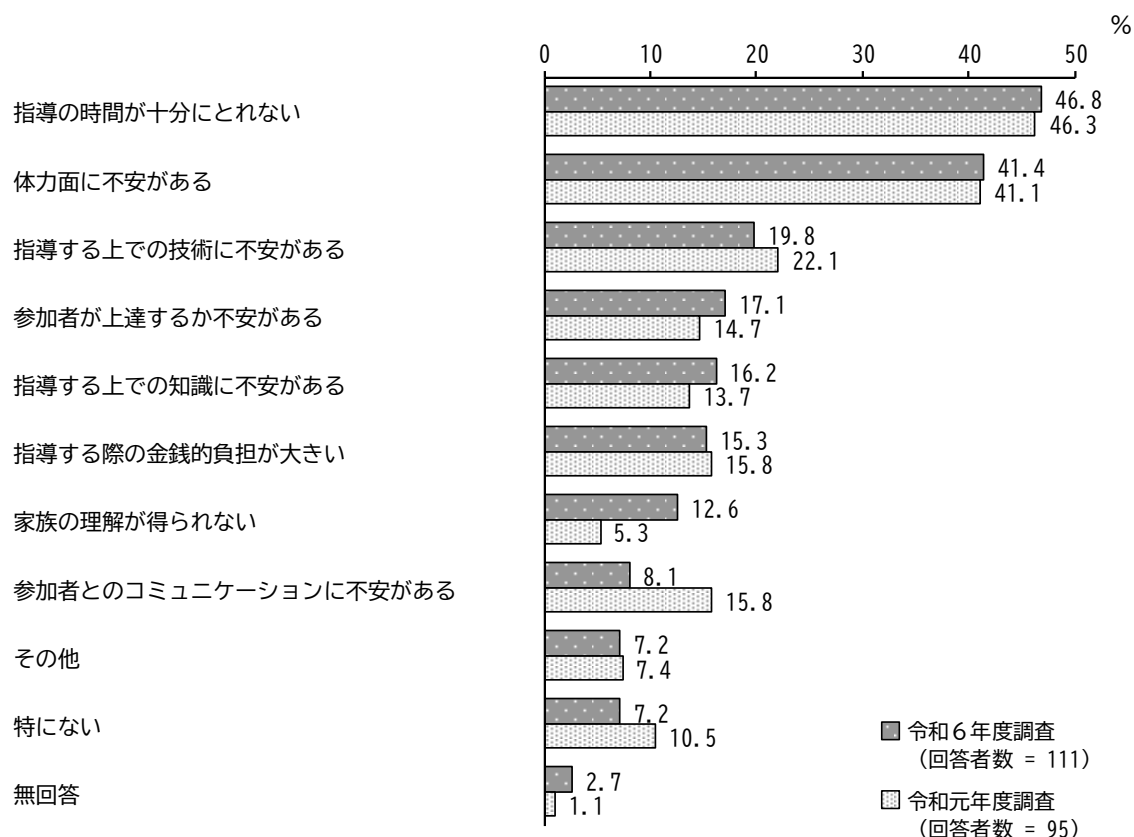
令和元年度調査と比較すると、「参加者に時間的な余裕が少ない」「参加者のスポーツ・運動への意欲が低い」の割合が増加しています。一方、「参加者の体力が低下している」「参加者の技術レベルの差が大きい」「行事への参加者が少ない」の割合が減少しています。



問17 問12で「1 指導者である」を選んだ方にお聞きします。スポーツ・運動を指導していく上で、自分自身に対して感じている課題はありますか。(あてはまるものすべてに○)

「指導の時間が十分にとれない」の割合が46.8%と最も高く、次いで「体力面に不安がある」の割合が41.4%、「指導する上での技術に不安がある」の割合が19.8%となっています。

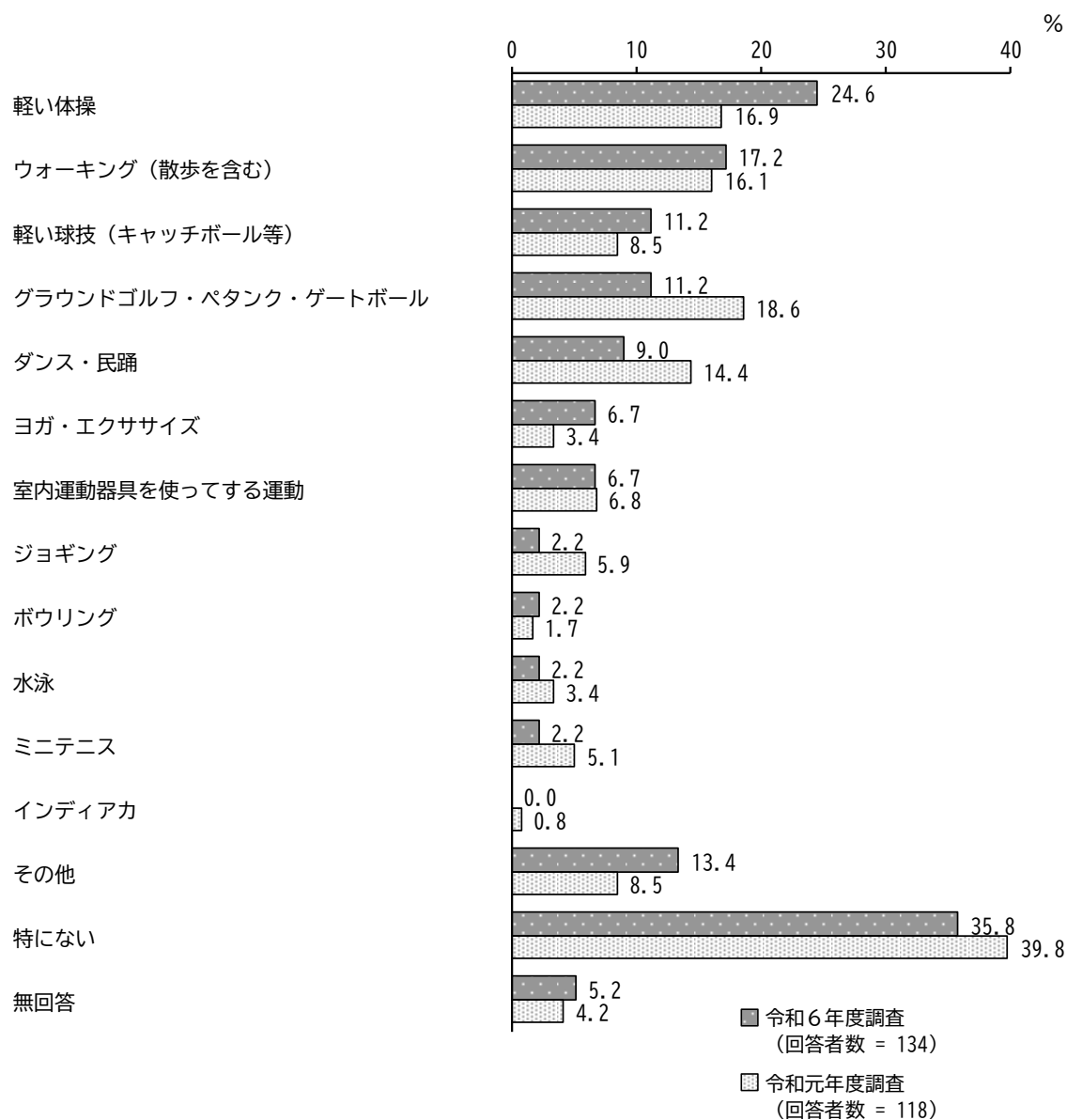
令和元年度調査と比較すると、「家族の理解が得られない」の割合が増加しています。一方、「参加者とのコミュニケーションに不安がある」の割合が減少しています。



問18 問12で「2 指導者でない」を選んだ方にお聞きします。今後、指導してみたいスポーツはありますか。(主なもの3つまで○)

「特にない」の割合が35.8%と最も高く、次いで「軽い体操」の割合が24.6%、「ウォーキング（散歩を含む）」の割合が17.2%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「軽い体操」の割合が増加しています。一方、「グラウンドゴルフ・パタンク・ゲートボール」「ダンス・民踊」の割合が減少しています。

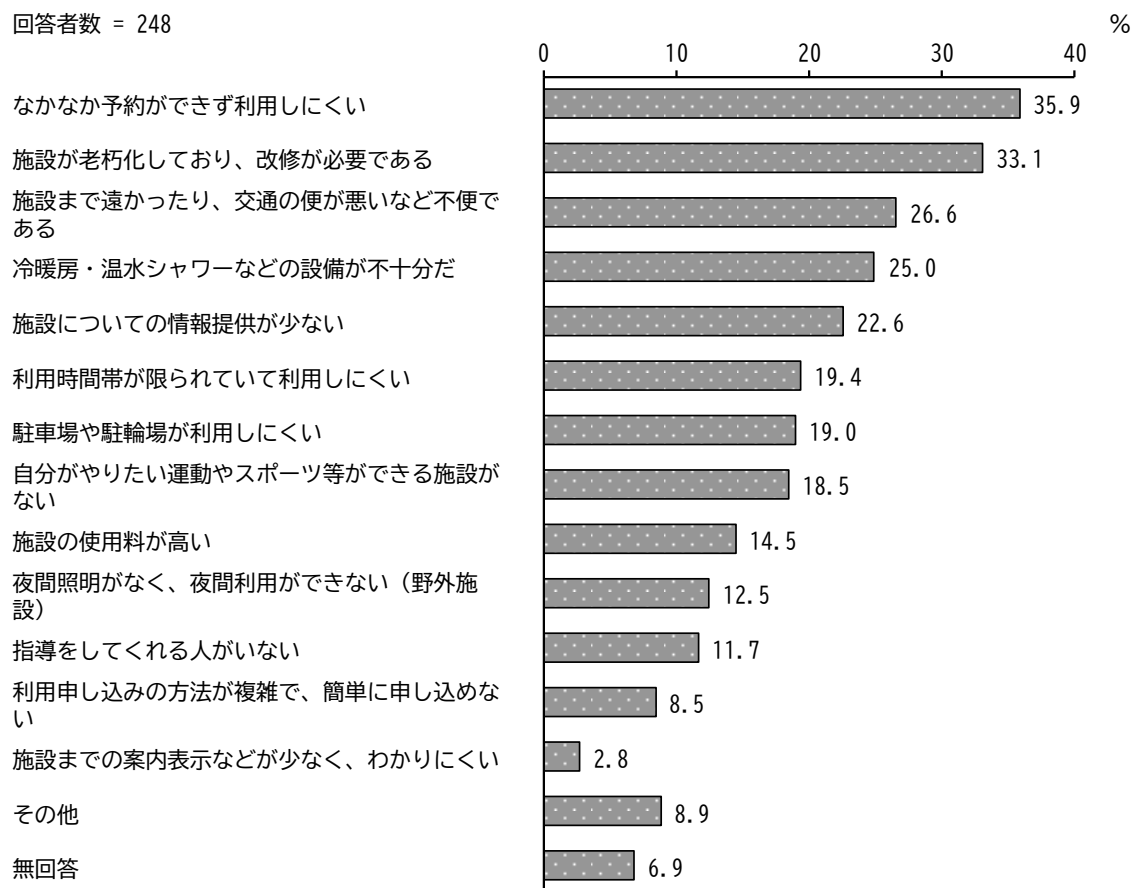


（４）市内のスポーツ施設について

問 19 狭山市のスポーツ施設について、お気付きの点や不満な点はありますか。
（あてはまるものすべてに○）

「なかなか予約ができず利用しにくい」の割合が35.9％と最も高く、次いで「施設が老朽化しており、改修が必要である」の割合が33.1％、「施設まで遠かったり、交通の便が悪いなど不便である」の割合が26.6％となっています。

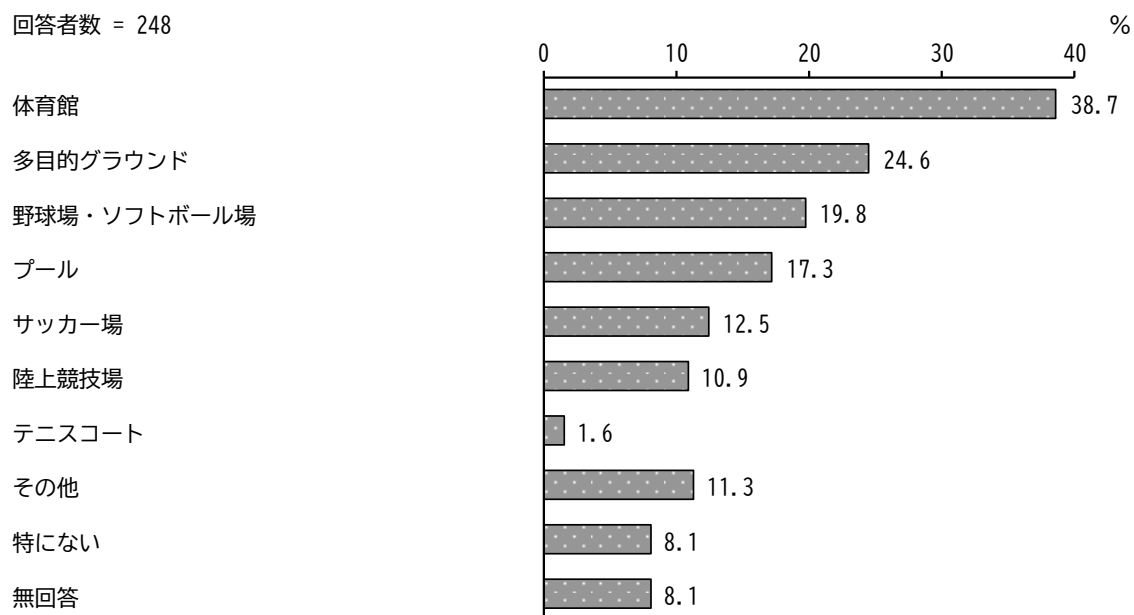
回答者数 = 248



問 20 今後、狭山市に整備してほしいスポーツ施設があればあげてください。
(主なもの3つまで○)

「体育館」の割合が38.7%と最も高く、次いで「多目的グラウンド」の割合が24.6%、「野球場・ソフトボール場」の割合が19.8%となっています。

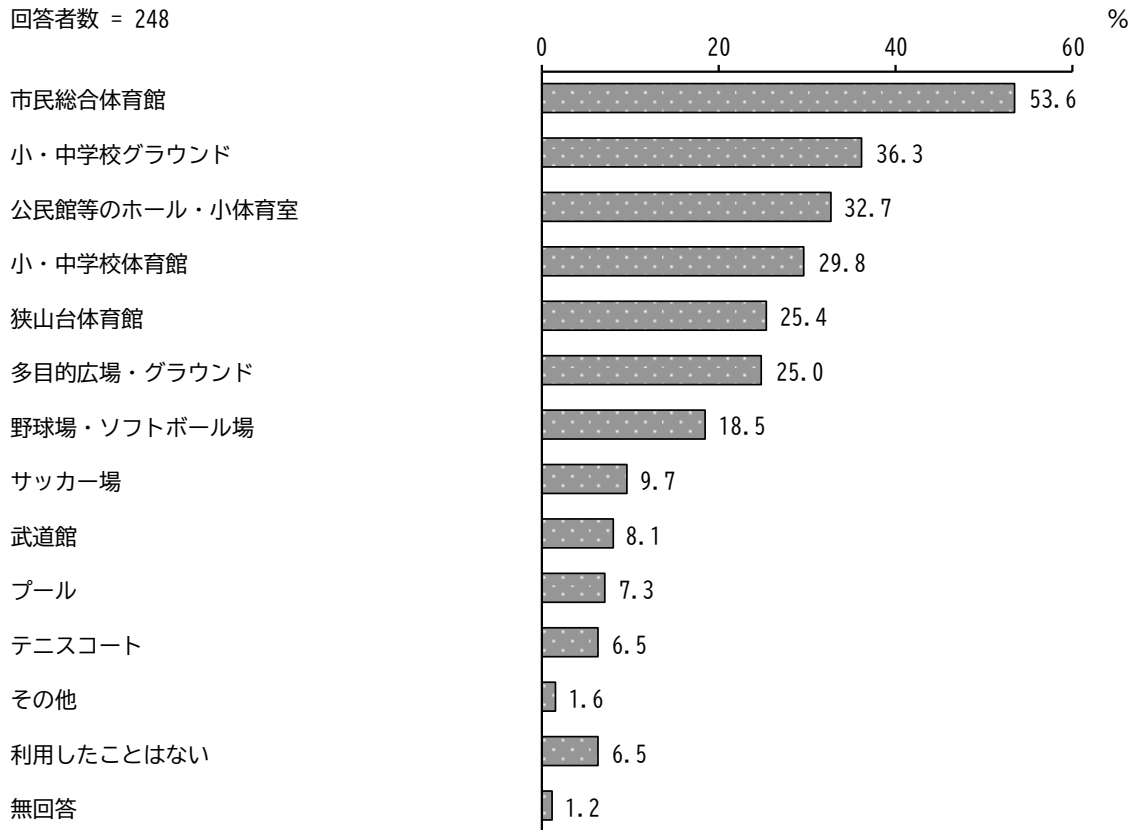
回答者数 = 248



問 21 この１年間で、スポーツをするために狭山市が設置しているスポーツ施設を利用したことがありますか。なお、スポーツ施設には学校のグラウンドや体育館も含みます。
(あてはまるものすべてに○)

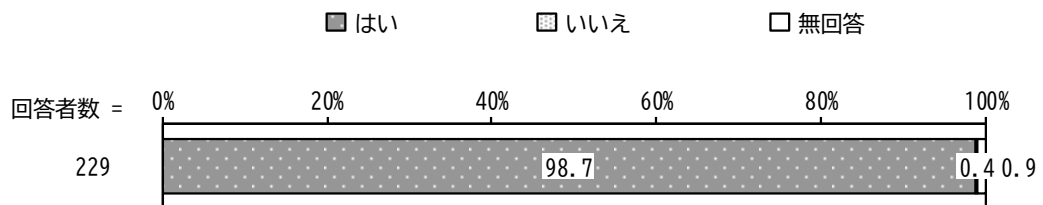
「市民総合体育館」の割合が５３．６％と最も高く、次いで「小・中学校グラウンド」の割合が３６．３％、「公民館等のホール・小体育室」の割合が３２．７％となっています。

回答者数 = 248



問 22 問 21 で利用した施設がある方にお聞きします。あなたは今後も継続して施設を利用しますか。

「はい」の割合が９８．７％、「いいえ」の割合が０．４％となっています。

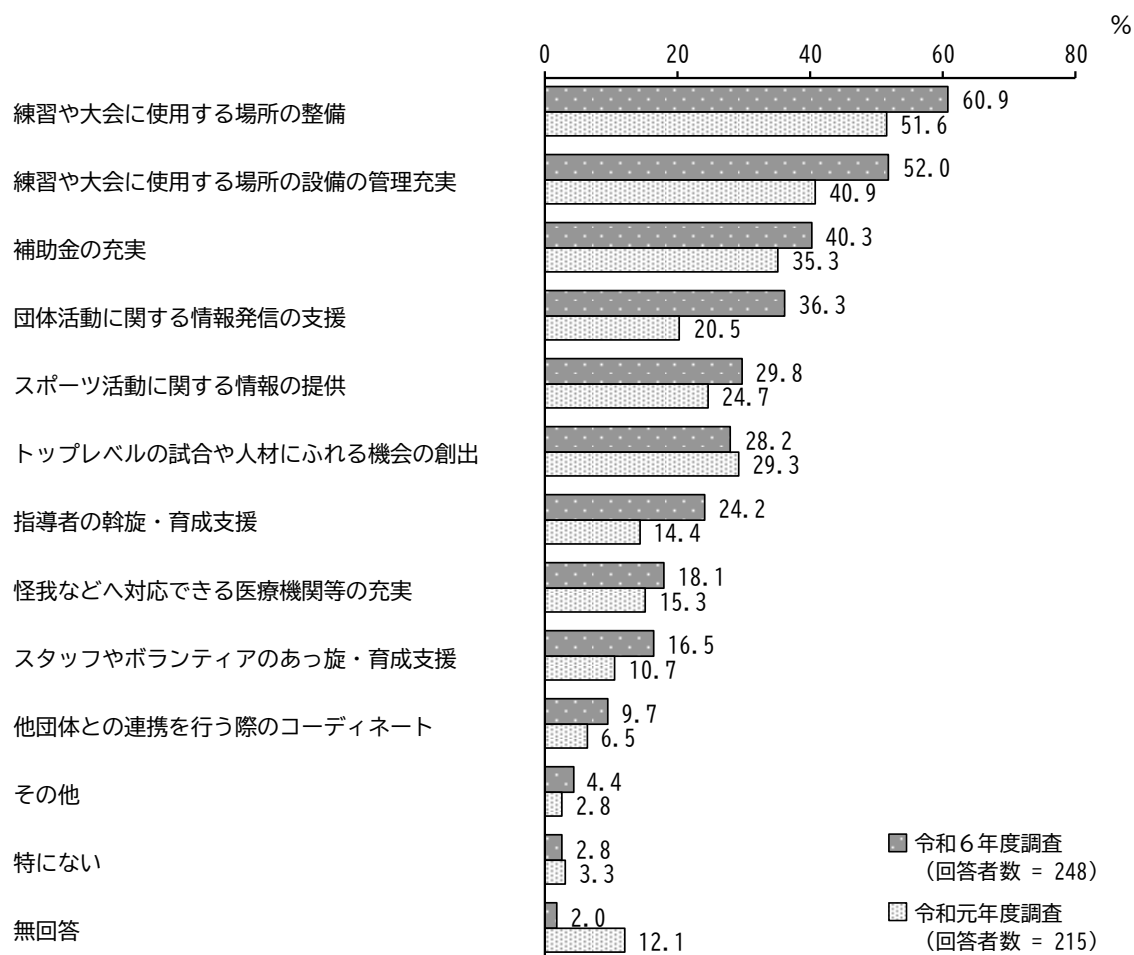


(5) 今後の取り組みについて

問 23 狭山市におけるスポーツ振興に向けて、市にどのような支援を期待しますか。
(あてはまるものすべてに○)

「練習や大会に使用する場所の整備」の割合が60.9%と最も高く、次いで「練習や大会に使用する場所の設備の管理充実」の割合が52.0%、「補助金の充実」の割合が40.3%となっています。

令和元年度調査と比較すると、「団体活動に関する情報発信の支援」「スポーツ活動に関する情報の提供」「練習や大会に使用する場所の整備」「練習や大会に使用する場所の設備の管理充実」「指導者の幹旋・育成支援」「スタッフやボランティアのあつ旋・育成支援」の割合が増加しています。



問 24 狭山市におけるスポーツ振興に向けて、市との協働や他団体との連携でできることはありますか。

市との協働や他団体との連携でできることについて、以下の意見が挙げられました。

1. 市民向けイベントの共同開催（22 件）
年 2 回の大会で狭山市と共催で行なっている（少年練成大会、狭山剣道大会）。
市民を対象とした事業を開催して、共に活動していきたい。
市民向けイベントの共同開催。スポ振課との共同開催。
市民向けイベントの共同開催。
・市民向けイベントの共同開催。・参加者の合流。・スポ振課との共催。
所属ごとに活動しているので、交流の場があるのもよい。市民参加型のイベントの開催。
市民向けイベントの共同開催。・スポーツ振興課との共催。
・市民向けイベントの共同開催。・参加者の合流。・スポーツ振興課との共催。
スポーツ振興課と共同で開催。
市民向けイベントの共同開催。参加者の合流。
2. スポーツ環境の充実と改善（21 件）
・他団体とのふれあいの場を大切にしたい。・野球場、サッカー場、陸上競技場等の施設の充実（所沢市、川越市には運動公園等あるが、狭山市には無い）。・青少年（小学生～高校生）のスポーツ人口の減少が目立つので、他団体と協力しスポーツ人口の増加を図る。例：他団体と協力し、各団体の P R する場を設け、狭山市の住民に実際に見て、聞いて、体験して趣味を持ってもらいたい。
メインの場所（埼玉県）にない競技場を時間をかけて検討し、完成を目指す。
近隣の市町村の団体を名古屋へ招き、親善大会を行っているが駐車場、弓道場が狭く不便をおかけしています。改修の程よろしく願います。
スポーツ振興課との協働開催。
子どもの基礎体力の向上に対する運動やゲーム的な遊び推進。市との共催事業など。
体育館のエアコン設置をお願いしたいと思います。振興の前に設備と備品がないと、どんな大会も成り立ちません。
高齢者を対象とした室内で行う軽スポーツ。
高齢者向けの野球、陸上競技、テニスなどアピールして欲しい。坂戸の野球は素晴らしいです（高齢者向き）。サイクリング（若い者向けに）狭山に来ていただく事。
スポーツ少年団では各競技団体が集まり春に運動会を実施して盛り上がりを見せている。大人の場合は自治会運動会があるが、各地区独自での実施を時には全体で出来たら様々なスポーツを紹介出来る裾野が広がることもあるかも。
地域スポーツの充実が重要かとおもってます。高齢化する地域では、アクティブシニアにはボランティアとしての活動の場を、スポーツできない年齢層には地域みんなが頑張っている姿を見せることが、地域の活性化になるのではと思います。各スポーツ団体がそれぞれの地域で中学生の部活指導を中心としてクラブチームを体系立てて作って欲しいです。
中学校の部活の地域移行
スポーツ団体に狭山市からの手厚い補助と施設の充実
スポーツに感心、興味を持たせる
市主催のスポーツ教室から継続的に入門者が生まれているので、大変ありがたく今後も協働できそうですと幸いです。
競技種を超えた枠組みでの異種混合での体験会（特に低年齢で）をもっと行うことで、特定の運動ではなく全体的な運動能力が向上できると思う。
11 の回答と同じ
スポーツ振興イベントがあれば、参加してスポーツのバリエーションを増やすのに役立てると思います。

スポーツ環境の充実、改善
小学校の体育館が使えない時の合同練習等。
体育館利用計画で希望の日程の調整。市民体育館を複数の団体で利用する時の臨時駐車場の早い時間に解放するよう共同で要望を出すこと。
3. 若者や高齢者との交流促進（10 件）
どこの団体も高齢化が進み、若者の参加が少なく解散など出ています。市、及び各団体協力して活動し、市民だけにこだわらず近くの市町村も巻き込むような活動をしなければ、先行きが見込めません。市が先頭に立って、各団体の協力を得るようにするのが良いかと。
・年に一度踊り、ダンス部門の交流会等を持つ。・他団体との交流の機会を多く持つ。
・子どもに向けた体力向上を目指した運動など、遊びを通してできるものを。・シニアも同じように、身体機能の保持につながるような教室の開催など。
若者たちと、交流できる機会を増やす。
合同練習や他の競技の方との交流
スポーツチームや選手等との交流を通して身近に感じてもらう
他の競技者と交流出来る場面を作る 交流から他の競技の発展・改善を行い 末長く健康維持が出来るようにする
プロチームによる大会の実施(会場)と交流
種目の異なるスポーツ団体との交流。
交流会など主催してもらえると助かります！
4. 指導者の育成と連携強化（10 件）
中学校のクラブ活動への連携協議。
指導者の育成について、具体的な方法や目標の設定等の連携が必要と思います。
市内にあるプロスポーツ団体との連携。市内には女子サッカーやラグビーチームがあるので、色々な交流ができればいい。
各医院、役員職をおりたのでわからないが、市（スポーツ振興課）が中心となり各協会、各委員が年度始まりと終わり頃に意見交換や振興計画、反省会等を行なう場を設ける事が必要と思う。
何かのスポーツとまで行かなくても子供や運動不足の大人などが気軽に親しめるかけっこやボール投げ、簡単な体操、木登りなど基礎体力、基礎運動能力を高め、運動の楽しさに触れる機会、施設などを設けてはいかがでしょうか。例えば、廃校の校庭を整備し、簡単な遊具や陸上トラックを備えた運動公園とし、無料かつ予約不要にて気軽に利用できるようにする。この施設を利用して指導者を呼んだイベントを行って親子の運動能力・技術を高めたり、運動に親しむ土壌を作ったりするのはいかがでしょうか。この施設は「市を挙げて子育て支援に取り組む街」として子育て支援の広告塔に使い、子育て世代の呼び込みにも活用できるのではないのでしょうか。現状として旧東中学校跡などは立地的にもいいような気がします。
野球について。現役プロ野球選手の野球教室が、他府県で行われている。狭山市も OB ではなく、現役プロ野球選手を連携してほしい。
子どもたちの健全育成を考えていない指導者もいるように思える。市を中心として各団体との情報共有や連携が可能になることを期待する。
どのような需要があるか不明。ボランティア団体であり、継続的に連携するには指導者が不足するという不安がある。
狭山市サッカー協会（少年部）では毎月理事会を開催しているので、地域指導の方向性や具体的な施策について意見交換する場として活用したい。
市の取りまとめによる、同競技内での他団体間の、施設 指導者の共有
5. 情報発信と広報活動の強化（8 件）
1. 各協会の取り組みなど紹介。2. 市報や新聞などメディアに大会情報や結果など掲載又は発信。
情報の提供。
基本的には協議団体ごとに活動場所や活動そのものが違うためなかなか難しい。そのため市が窓口になるわけだとは思いますが、スポーツ少年団の役員も高齢になり、若い方のなり手がいないのも実態。他協議団体の活動の成功事例や成績など他団体に伝えることで、狭山市のスポーツの実態は伝えられる。（他団体の状況はほぼわからないため）

小学校や幼稚園、保育園などにチームの情報を掲載してもらう。
団員の募集 学校への告知の協力依頼
市の体育館や学校で提供されている手頃で質の高いスポーツ講座があるにもかかわらず、その情報が十分に広がっていません。市民がこれらの情報を得られるよう、市も積極的に協力してほしいです。
各団体の事務局は連絡や情報発信などの運営事務に時間を要しています。 狭山市がスポーツ団体専用のポータルサイトを設置して市民や団体構成員がスポーツに関することはそれにアクセスすれば全ての情報が取得でき、参加申込や抽選会の事務及び運営スタッフのボランティア確保などの事務が可能になるようにと考えています。
イベントや大会の開催、情報の発信。 例えば武道デーのような様々な武道の体験が出来る日を作るなど。 その他の競技でも体験、発表会や試合の見学など気軽にその競技に触れられる機会の創設。学校の部活動への参加や見学等も含めて。

問 25 今後、狭山市はどのようなスポーツ施策に力を入れるべきだと思いますか。

狭山市が力を入れるべきスポーツ施策について、以下の意見が挙げられました。

1. スポーツ施設の充実と新設が必要（10 件）
全国規模の試合、大会が開催可能な施設の設置と、参加者を受け入れ可能な市の対策作りに力を入れてほしい。
施設の充実とスポーツ少年団の施設利用時の無料化。
プレーしたいと思う施設（場所）の充実。
場所がとれないことがあるので、できるだけみんなが利用できる施設があるといいと思う。
猛暑に備えた施設の設備充実。
全国で優秀な実績を残している市内の団体（実業団も含む）が活動しやすい並びに活躍が見やすい施設の充実。
子供から高齢者まで誰もが気軽に参加し楽しさを覚える事が出来る物。もちろん、施設の充実暑さ、寒さ等の対策。 色々なスポーツの基本的な要素を持っている物。本格的なスポーツ施設。
①スポーツ施設の充実・新設（野球場、陸上競技場など） ②市内スポーツ施設を狭山市住民を優先する仕組みを期待したい。（コンビネーショングラウンドなどは、川越市の少年団が使用している。）
スポーツ振興に伴う環境（グラウンドや施設）の改修や改善を計画的に行い どの種目でもよりスポーツに集中・楽しめる状況を作る
他市に比べて狭山市は体育館施設が少な過ぎる。 他市は公民館等にも体育館施設があり、スポーツの活動も出来るし、避難場所としても利用出来る。 もっと体育館施設を増やすべき。
2. 高齢者向けのスポーツ促進（19 件）
・高齢化する元気なシニアが参加しやすいレクリエーション種目のニュースポーツなどの奨励。・スポーツとレクリエーションを合体し「スポレク」として基本計画の中にたくさん使って欲しいと考える。
シニアに向けたニュースポーツなどの身体機能の保持などに係る教室やグループの育成。定期的に年八回位、各グループの交流や親睦を図る行事を開催していくといいと思います。
シニアに向けた健康増進。
子ども、高齢者に向けた身体機能の保持などに係る教室やグループの育成。
いろいろなスポーツに老若男女が参加しやすい体制。
シニアに向けた基礎体力の向上を目指した運動やゲームなど。
・高齢者の人が気軽に運動したり、コミュニケーションしたりできる施策。卓球、体操、太極拳、ダンス、将棋、囲碁、オセロ、喫茶室、図書室、美容院、とこや、クリーニングなど。・子どもたちが遊べる公園。
高齢者が気楽に参加できるスポーツ。①グラウンドゴルフ。②ゴルフ。③ゲートボール。
高齢者で家に閉じこもっている人達の健康づくりと、生きがいを推進してほしい。
高齢者対象に便利をはかって欲しい。

学生の部活の時だけにやるスポーツではなくその後も長く続けて行ける受け皿になる環境があれば、生涯スポーツとしても定着すると思うし、市民の方々の健康にもつながると思います。
家族やお年寄りが参加できるスポーツを企画できればと思う。
誰でも気軽に出来ウォーキングとかはどうでしょうか。
バスケット、バレー、テニスなど、大会があっても、若い人がメインになってしまうので、各スポーツ50歳以上の大会など、企画してもらえると良いと思う
健康寿命を延ばす。
高齢化に対応出来るスポーツの促進
年代に合わせたスポーツへの取り組み。子どもたちにはいろいろなプロ選手との交流や指導で興味を持ち好きなスポーツを見つけてほしい。シニアはいつからでもやってみたいと思えるスポーツの紹介と取り組み。交流もできて外に出る機会が必要。
部活動の縮小等言われるなか、各種目のジュニアチームや中学生等が学校外で活動しやすい環境作り（体育館等の会場を借りやすくする） 高齢化に向けて体力維持等の企画
スポーツの効果の発信と機会の拡大。 筋トレやウォーキングなど軽い運動の推奨による体力作り。高齢者の病気や怪我、認知症の予防→医療費の削減。メンタルの安定にも良いらしいので若者にも。元々、スポーツが得意でない人は1人では始めにくい。 参加出来ない人には皆で何かの競技を応援するなどスポーツを通じた健康増進、人口の増加に期待。
3. 子どもの基礎体力向上を推進（17件）
1.市職員自らクラブチームに所属し活動してほしい。2. 先ずは、小中学生がスポーツに興味を持つ環境整備が必要（重要、市-学校-保護者そして地域）。
子どもに向けた基礎体力の向上を目指した運動、ゲームなど。
・子どもに向けた基礎体力の向上を目指した運動、遊べるゲームなど。・シニアに向けたニュースポーツなどの、身体機能の保持などに係る教室やグループの育成。・規模を縮小した運動会のような交流、親睦的な行事。
子どもに向けた基礎体力の向上を推進する運動、遊べるゲームなど。
地域を生かした活動。子どもの頃からのスポーツに取り組む環境。指導する人を増やしていく講座の開催。
・誰でも参加できるニュースポーツ。・健康づくりとスポーツが結びついた取り組み。・子どもたちのスポーツへの関心を深める取り組み。
高齢者の生涯スポーツ。様々な活動をしている人に元気な方や長生きの方が多いため、単なる寿命ではなく、健康寿命を延ばすことが課題だと思う。座ったまま出来る運動やあまり足腰を使わないで済む運動なども取り入れていくと良いと思います。 また子供たちの基礎体力が年々低下しているように感じ、骨折を含め怪我をする子供が増えてきた。スポ少に加入している子供でもそういう現状なので、加入していない子供たちと体力向上にも力を入れて欲しい。
「スポーツ」というと敷居を高く感じてしまう高齢者などが気軽に取り入れられる運動や運動意識の向上に努めた施策をできないでしょうか。 また、高齢者への施策以上に子育て世代が「子供をのびのびと運動させられる環境」を整えることで高齢化に歯止めを打つことも必要だと思います。「子育て支援」に限らず施策は言葉にすることよりも「実行して、市民に実感できるものにする」ことが大事だと思います。 つまり、「この街は本当に子育てに意識を持っていて、予算を使うのだ」ということを示すこと。それがちゃんと伝われば今の時代はSNSなどでも広まります。 著名人を呼んだり、大きなイベントをやったり、新しい建築物を作ったりして目を引けるのは一瞬です。 予算をかけずにも市民が本当に利用しやすい施設を作ることはより強く市民の印象に残るはずです。
少年野球について。 走りの学校 という、外部コーチと連携して、狭山市の少年少女の基本走力の向上をしてほしい。
小・中学生のスポーツ
青少年の体力向上に期待できる運動全般
子供のスポーツへの取り組み拡大
スポーツをしない、興味を持たない、スポーツを観て感動しない、素晴らしいプレー憧れない子どもたちが増えてきているように感じています。 子どもたちが少しでも興味をもったスポーツに手軽に触れることができるようにして、ジュニアにスポーツの素晴らしさを感じてもらい大人になってもスポーツを愛する心を醸成して欲しいです。 いつもスポーツの話題で盛り上がる狭山市になれば嬉しいです。

小学生から気軽にスポーツを取り組める環境を作るため、学校にも協力してもらい、広報の活動をさせてもらいたい。
小・中学生の運動能力向上
小中学生の競技力の底上げのサポート
幼児のスポーツへの機会を増やし、スポーツ人口を増やすこと
4. 体育館の空調設備の整備が重要（8件）
小中学校体育館、総合体育館の冷暖房設備の設置。
環境かな。夏は体育館（小学校含む）が、かなり暑い。エアコンがほしい。
市内体育館の老朽化。今時冷房設備がないのは致命的である。冷風機では効果が少ない。
体育館に冷暖房。キレイなトイレ。
体育館にエアコン導入 学校のグラウンドを芝化
地球温暖化で猛暑の期間が延びているので、体育館の空調設備を整備して頂き、真夏でも体育館で運動できるようにして欲しい。
利用施設の整備。現時点で使用している設備（小学校体育館）についての利用継続。
地球温暖化に伴い、夏季の練習（稽古）が中止または制限せざるを得ない状況です。 体育館等への空調設備の導入を推進して頂きたい。
5. 地域スポーツ団体の交流促進（11件）
中学の部活が地域移行の方向であるが、毎年4月頃に地球スポーツ団体の活動時間を中学校でPRしてほしい。
規模を縮小した運動会のような交流、親睦事業など。
市民への情報発信は充実して頂きたいし、市が後援しているスポーツ団体の施設にはトップレベル選手も利用できる、利用してもらえるようにし、市民との交流出来る機会を増やしていく事も必要と思います。
・スポーツをする場の充実、必要な用具が古くなり、破損が多いが修復されていない事が多い。・スポーツ団体と行政、運営委託業者との意見交換の場を設けていただきたい。
上記の地域スポーツ施策
少年野球の団員不足から単独チームで活動ができないチームが多い状況であると思う。他市では市が市内のチームを統合しているところもあると聞いている。狭山市もそのような施策を考えなくてはならない時期になってきていると思う。
野球をやる子を増やすために、小学校の先生に、少年野球への斡旋をして頂けると助かります。
団員の確保。中学生のクラブチーム
市内には社会人チームで全国レベルの競技団体が複数有るのでこの競技にチカラを入れ狭山市から全国で活躍する子供達の育成に力を入れ狭山市を盛り上げてほしい
子供も、大人も気軽に一緒にスポーツを楽しめるイベントの企画やスポ少団体への補助金の支給等。
種目の異なるスポーツ団体との交流。

問 26 その他、狭山市のスポーツ振興に関してご意見などがございましたら、自由にご記入ください。

狭山市のスポーツ振興に関するご意見について、以下の意見が挙げられました。

1. スポーツ施設の整備 (19 件)
施設等の充実、指導者への予算等。
施設の管理や老朽化があり、改善の必要ある。安全を考えた施設の新設、改良すべき場所がある。
狭山市弓道連盟に所属していますが、智光山公園総合体育館4 F の弓道場が老朽化と通常道場に比べ狭く、試合や大会に使用する際に正式な作法や所作が出来ません。又、資格審査の為の練習も出来ない為、他の道場を借りて行う現状です。最低限度道場内の一部改修工事と矢道の人工芝の貼り替え等なら低い費用で改修出来ると思いますので、ご検討下さい。弓道の振興の為にはどうしても設備の改修が必要と考えます。
武道館は新設されましたが、弓道場はありません。正式な弓道場をお願いします。
・各種大会等へのAEDの貸出。・各協会連盟の加盟団体、加盟人数の減少に伴い、活動費の減少に対応した助成金等の増額。・屋外スポーツ施設の年間整備計画の策定をお願いしたい。日頃からのスポーツ振興に向けた各種施策対応に心から感謝申し上げます。いつもありがとうございます。
大きな大会を行なう総合体育館の冷暖房完備。夏は命にかかわると思います。
智光山体育館4 F 弓道場の施設についてお願いがあります。練習出来る弓道場があることは連盟の会員としては、たいへんありがたいのですが、他連盟の方が多く来られるイベントも年間通じてありますので、他弓道場と同じくフォーマルに開催出来るよう設備を整備していただきたいです。①体配が出来る動線・広さになっていないため、本来の作法とは異なる所作にせざるを得ない。②同じ理由から教育研修等を開講することが出来ない。③E L Vホールや観客席の天井が低く、弓を持ちながらの歩行が出来ない。④防矢の器具がなく、たたきのコンクリートやガラスのまま。⑤雨戸の武者窓を付けていただきたい、極寒・風雨の時でも練習が可。
スポーツ施設の冷房完備。
市民総合体育館に冷暖房の設備を入れてほしい。
・県、全国大会等招聘する為にも、先は会場の整備、設備の管理充実が大事。・特に狭山市民総合体育館の老朽化が一番の問題である。・スポーツ振興の活性化に向けて市民がスポーツに参加出来る環境整備の為にも、市民総合体育館の建て替えの検討を早急に対応をいただきたい。
スポーツ施設の充実して欲しい。特に野球球場、体育館
地球温暖化に対応してない。冷暖房は必須。他の地域の学校の体育館や市民体育館等の施設に行くと、狭山市は残念過ぎる…。子どもたちがかわいそう。
習い事が多様化している状況で、時間的にフレキシブルに活動ができるようにしたいが、その為の会場の確保が現在は困難である。民間施設は特定の団体に占められてしまうため、そのような団体が結果的には活動成績がよい事が多い。従って、夜間開放などで、サッカーができる環境を整備願いたい。また、屋外グラウンドについても、昔ながらの河川敷グラウンド(土埃だらけ)しかない(利用がほぼできない)が、近隣市のようなグラウンド整備を検討願いたい(川越:競技場、所沢:航空公園人工芝グラウンド、ふじみ野市:人工芝グラウンド etc) 児童の減少に伴い、相対的に団員が減少している現状を考慮すると、環境整備が必須だと感じる。少年団→習い事という考え方である現状では、やはり・指導体制・練習環境・親の関わり(がどれだけ少ないか)・金銭にプライオリティを置く親が多い。その中で、練習環境は団体単位での改善に限界がある為、ぜひともご検討頂きたい。最後に、市内の小学校のほとんどがスパイク使用を禁止していると思われるが、結果的に団員の体に負担を強いている。具体的には、本来グリップした状態でプレーしたいところが滑るように、又は滑らないようにして、足首、ひざ、腰に負担をかけてプレーしている為、競技性の向上は見込めなく、むしろ、怪我を誘発するような環境となっています。この点についても是非ご検討願いたい。・社会体育での体育館サッカー・グラウンド整備(人工芝や、天然芝グラウンド)・小学校グラウンドでのスパイク利用
芝生や人工芝のサッカーグラウンドを作っていただけるとありがたいです。
グラウンドのメンテナンスをもっとやって欲しい
人工芝及びナイター設備のあるサッカーグラウンドを希望します。体育館は夏場冷房環境を備えていただけると猛暑の夏場もトレーニング出来るので有難いです。

狭山市内の小中学校のグラウンドの整備を充実して欲しい。広さに差がでるのは仕方ないにしても、水捌けなどグラウンドの質には、学校ごとでかなりの差がある様に思います。
私は60代から 初心者講習を受け、現在、狭山弓道連盟に 所属し、練習しておりますが、水富も智光山も弓道場の老朽化が激しく 会員の皆さんで補修や工夫をして 使用しております。 昨今、若い方たちの弓道人口も 増えておりますので、市で整備を 進めていただける事を希望します。
体育館の用品、フェンスや道具などの修理
2. 情報提供の充実とスポーツ活動の支援（6件）
広報紙を活用して市民の意見をすいあげる。
狭山市のスポーツ振興内容がわからない。具体的に列挙して知らしめる必要があると思います（個々につとつと公報するのではなく）。
狭山市として開けた支援を考えていくなら、各協会主催事業等の情報等を各公民館が出している「～だより」同様、市広報紙に掲載するスペースを設けるなど、市民の目に触れる機会を増やして行き、一人でも多くの方に情報提供出来ればと思う。
イベント参加がもっと気軽にできるような案内、情報がほしい。いつまでも自分の事は自分でできる様でありたい。具体的な情報がほしい。
スポーツ推進委員というものが、どういう活動を行なっているのか、委員を増やすためにも、狭山市広報とかに載せてほしいです。
地域での会員募集はポータルサイトを利用するようになりましたが、以前の広報誌が各家に配られたのに比べると、多くの人に見られているかちょっと不安です。ポータルサイトをみんなで活用するようにして、スポーツ振興を図るようにできたらいいなあと思います。また、ポータルサイトの活用術も教えて貰えたらいいなあと思います。
3. スポーツ施設の有効利用（10件）
・市で運営しているスポーツ施設であれば、使用料の免除、貸出用具の無料化。・総合体育館と武道館の使用料金の違いがあり、料金の統一。・武道館のみ新年度の団体利用申請を提出しなければならないのはなぜなのか。廃止出来ないのか。以前に武道館を利用した事はあるが、新年度にスポーツ振興課に小学校体育館使用申請をしますが、スポーツ振興課で一括して武道館の団体使用申請も出来るようにして頂きたい。同じ市の施設であり、武道館だけ格別というのは、納得がいかない。
スポーツ振興に関してよくわからなく申し訳ありません。フォークダンスを踊っていますので、大勢で踊れる交通に便利できれいな体育館があればうれしいです。現在、狭山市民なのに所沢市民体育館を借りています。それに狭山市の交流センター一階にあるコミュニティホール、値段が高すぎますのでなかなか使えず残念です。
体育館の管理運営をする事業者には、利用者優先を指導願いたい。一番近い駐車場を職員用とし、大会等で物品の搬出入があっても使用出来ない。
各施設予約について、ですが！申し込みにあたり、不信に思うのですが、利用地域以外の団体の利用等があります。例：東京都練馬区のチーム、西東京多摩地区のチーム、いずれもそのチームに狭山市の選手1名のみいます。その選手がカードを利用して、会場確保しています。違反行為ではないでしょうか。利用後の整備もせず帰っていききました。団体チームの予約に対して検討して頂きたいです。問24の関連は必要です。
スポーツ施設使用料金を市外利用者と格差を拡大すべきと思う。
狭山市のグラウンドなのに、他の地域のチームが予約し、狭山市のチームが練習出来ない事があります狭山市のチームを優先的に予約が取れるシステムにしてほしい
市が運営するスポーツ施設はどんな施設でも有ればありがたいですが、財政面での課題が重くのしかかるので民間運営施設の誘致を推進して欲しいです。各団体からの施設改修や設置の要望や圧力もあると思いますが立派な施設が無くてもスポーツは愛せます。
冬休み、春休み等、小学校、中学校の体育館が、使えなくなり、体育館難民にどのチームも陥ります。休み期間中の小中学校の体育館の開放を強く希望します。
学校の体育館が年度末前後がほぼ使えなくなる時に他の体育館がもっと利用出来るようにして欲しい

問23の補足になりますが、 ◆体配の練習が出来る弓道場を作っていただきたいです。 更に国体が出来るとなると遠くまで備えた弓道場なら高校や大学の団体利用も含め県内の方の利用ももっと取り込めると思います。最新の設備なら審査会場としても使うかもしれませんし大会が増えれば人も流れて来るでしょう。 暑さ、寒さ対策には地下の利用もありだと思います。 ◆球場やテニスコートにスタンドがあると通りがかりに見やすいと感じます。 ◆さやマルシェの内容の充実。市内で活動しているサークルはもっとたくさんあると思います。 ◆市内に適当な団体が無い時は市で企画して講座を実施していただけたらととてもありがたいです。 ◆市民総合体育館他、高齢者から免許を取りあげる方向なら公民館行きのバスを増やすなども検討してほしいです。 ※本アンケートにパソコンで回答しようとしたのですがよくわかりませんでした。
4. スポーツ団体の活動の促進（9件）
レクリエーション活動としてニュースポーツを増やしていき、団体の活性化を図っていきたい。スポーツという名前と共にレクリエーションの考え方や言葉を使う機会を増やしていってほしい。
新武道館を作っていただき、ありがとうございました。冷暖房、駐車場もあり以前より使いやすそうです。各団体が団体としての道具がたくさんあると思います。置き場を利用させて頂ければありがたいと思うのですが。
いつも活動(狭山市サッカー協会少年部)に際し、ご理解ご協力ありがとうございます。施設の管理や備品補充など迅速な対応もありがとうございます。 またスポーツ推進委員の活動に対しても様々なサポートありがとうございます。 今後とも宜しくお願い致します。
スポーツ推進委員で依頼に応じてスポーツ指導しても一度限りでその後どうしているか、競技を続けているか、その先へ進んでいるかが分からずモヤモヤすることがある。時には大会等を開くなどしてはどうだろう。
ホンダ（自動車メーカー）さんが野球、陸上で、狭山市を盛り上げてくれたと思いますが、今後ホンダさんが撤退した後、かなりスポーツ後進市になってしまうと思います。やはりプロスポーツチームの誘致、プロスポーツの試合が身近で見れることが大きいと思います。
スポーツ少年団活動において、団員減少、チーム数減少のなかで、各種イベントへの協力依頼があっても対応が極めて難しい状況です。
スポ少55周年のメリットが全く感じられない。コロナ前から数えて何回会議に出るのか？記念誌作るお金があるなら選手募集のチラシとか作って小学校に配布するとか。女子のソフトボールに関しては絶滅危惧種なんですけど。
各団体の指導者が適切な指導を実施しているかの巡回。
とにかく狭山市から他市に流れる選手を無くしたい…狭山市に来るぐらいの盛り上がりをしたい
5. 誰もが気軽に楽しめるスポーツの普及
高齢の方や身体にハンディがある方々も参加しやすい環境作りをお願いします。
野球やサッカー、陸上など高齢者は観戦を楽しむことはできても、参加は出来ません。レクリエーション種目のニュースポーツ、公式輪投げ、ボッチャ、グランドバレーなどでシニア同志の交流を楽しみたいです。スポーツ（シニア向け）とレクリエーションを合体した「スポレク」を基本計画の中でたくさん使って欲しいです。
「スポレク」の言葉協調。
スポーツの言葉にレクリエーションを包含するのは一般的に理解がされにくいと思う。野球やサッカー、陸上など競技性のある運動種目は高齢化する元気なシニアにとっては、参加するなどは少し躊躇し参加しづらいと考えます。そこでレクリエーション種目のニュースポーツなどを奨励し、身体を動かしていくことを進めたいと考えます。そしてスポーツと共にレクリエーションの考え方や種目を推進して、スポーツとレクリエーションを合体し。表した「スポレク」の言葉を基本計画の中で多く使って欲しいと考えます。
スポレクの言葉が市民に理解できるように。
狭山市の目指しているスポーツ振興がわかりにくい。誰でも楽しく参加できるスポーツの考え方や狭山市はコレが得意種目というものを目指したい。元気と活気のあるさやまが必要。
スポーツの言葉にレクリエーションを包含するのは、一般的に理解がされにくいと思う。野球やサッカー、陸上など競技性のある運動種目は高齢化する元気なシニアにとっては参加を躊躇し、参加しづらいと考えます。そこでレクリエーション種目のニュースポーツなどを奨励し、身体を動かしていくことを進めたい。スポーツと共にレクリエーションの考え方や種目を推進して、スポーツとレクリエーションの考え方を推進し、合体させた「スポレク」の言葉を基本計画の中で多く使って欲しいと思います。

スポーツの言葉にレクリエーションを包含するのは、一般的に理解がされにくいと思う。野球やサッカー、陸上など競技性のある運動種目は高齢化する元気なシニアにとっては参加するなど少し躊躇し、参加しづらいと考えます。そこでレクリエーション種目のニュースポーツなどを奨励し、参加しづらいと考えます。そこでレクリエーション種目のニュースポーツとともにレクリエーションの考え方や種目を推進してスポーツとレクリエーションを合体し表した「スポレク」の言葉を基本計画の中で多く使って欲しいと考えます。
高齢者が生きがいになるようなスポーツの取り組みが必要だと思う。誰でも楽しいと思える、参加しなくなる計画をたててほしい。
スポーツの言葉にレクリエーションを包含するのは、一般的に理解がされにくいと思う。元気な高齢者の参加可能種目としてレクリエーション種目のニュースポーツなどを奨励し、身体を動かすシニアとの交流、或いは世代交流の機会を進めて欲しいです。スポーツとレクリエーションをかねた「スポレク」を基本計画の中でたくさん使って欲しいと思います。
狭山市は都心に通勤するには少し遠く、近郊の就業施設であったホンダを失い、「働くこと」に関しては少し弱くなってしまった都市だと思います。しかし、少し足を延ばせば飯能や秩父の山々、なだらかに流れる入間川の河川敷、緑あふれる市内、豊かな農地などを備えつつ、商業施設もそれなりにあり、安全・安心に過ごせる環境は魅力がある物のはずです。それらの環境は運動を取り入れることでより魅力的になるものだと思います。運動には怪我のリスクも伴うものですが、それも参加者・利用者が理解・納得していれば問題はないと思います。そのリスクを恐れず、危険性に対してはちゃんと提示しつつ、市民が運動に気軽に触れられる施策が増えるといいと思います。
競技的なものや、レクリエーション的なもの、1人でも出来るもの、多人数でやるもの色々な角度から始められる始めやすい環境づくりを作っていければ運動する人口が増えて行くのではないかな。
実際にやってみないと魅力が分からないニュースポーツが沢山あるので、事業を通して知ってもらい、楽しみながら健康への関心も深めてもらえるような取り組みがあると良い
稲荷山クロスカントリー大会はとても良いと思います。多種目においても、気軽に体験や見学ができるような機会を市で設けて頂けると子供たちが様々なスポーツにふれる事ができて良いと思います。
様々なスポーツにて、市民が気軽に参加出来る機会を作って欲しい。スポーツジャンル毎に、団体同士が共同でサッカースクールなどの開催で年齢関係なく参加できるような企画を定期的に行って欲しい
いつもご尽力ありがとうございます。今後ともスポーツの醍醐味や楽しさを市民の方々をはじめ、関わる方々に伝えてほしいです。
市民の健康促進、体力維持にも各種スポーツが凄く役立ちます。医療費の削減にも寄与するので幅広い年代が利用しやすい環境と設備が狭山市には準備されていることの周知を市長からも発信すると更にイメージアップにも繋がるはずです。
6. スポーツ全般（1件）
スポーツが何処でも出来る環境づくり 野球、サッカー、体育館等の環境整備 指導者の育成 メジャー大会の運営、実施する
7. 青少年の競技スポーツの普及（3件）
一流の選手やチームを招いた剣道公開授業（教室）を開催してもらいたい。
全国、関東大会出場に際しての補助金を出してほしい。
青少年層のスポーツ競技への継続支援（高校等卒業するとスポーツ団体への入会減）。小中学生への部活の支援強化。
8. 子供のスポーツの振興と学校体育の充実（15件）
・各競技のトップアスリートと子ども達の交流の場がほしいです。・市民総合体育館の冷暖房。
・子どもに向けた基礎体力向上を目指す運動や遊べるゲームを多く奨励して欲しいと考える。・高齢者の交流できる機会として、レクリエーション種目のニュースポーツの奨励を進めて、高齢者のひきこもりを防ぐ楽しい時間づくりを地域（地区）ごとに推進し、心身共に健康な高齢者が狭山を愛し、地域に和み支え支えられながら、楽しく過ごせるニュースポーツの高齢者まちづくりを推進して欲しいです。
環境・エアコン・大会、こどもから大人まで剣道人口増えるようになってくれたらうれしく思います。
若者からはサッカー場がとても良いと言われています。大会をしてアピールしてはどうですか。

中学校の部活動が地域移行になりますが、それによって中学校の教育環境（教員、生徒共）が、狭山市でどう変わっていくのか。又、行政内でスポーツ振興がどのように位置づけられ（担当課の位置を含め）施策に反映（まちづくりの一環として）させるのか？出来ることがあれば、柔道を通して協力したい。
子供たちが頑張っていて、それを支える指導者や保護者も頑張っています。壊れた施設があれば、早急に修繕していただきたいです。修理の目処がたっていない、というのは困ります。よろしくお願いします。
親の理解を深め子供達にスポーツの機会を増やすようにしていただきたい
スポーツを通じた子供たちの健全育成は、子供たちにとって仲間づくりや社会のルール・礼儀など将来社会人になっても役立つものである。是非とも、このような状況を理解していただき、市として支援していただきたい。（各団体への補助金の増額もお願いしたい。）
小学校の学校開放において、一日中使えるように検討して欲しい。
現状はスポーツ振興はボランティアに大きく依存しています。しかしボランティアに依存する活動には限界があります。スポーツである限り優秀な選手を育成して優秀な結果を生むことは最終目標であり、それを実現するためにスポーツの裾野を広げ、選手層を拡充してゆくことが重要ですが、それには長期の戦略的な取り組みが必要です。その長期の取り組みを支えるのが地方自治団体の役目だと思います。その為の方針と戦略の策定が望まれます。
中学の部活参加人数の減少対策
IT教育が進む一方、子供達の体力、集中力の低下が見られます。「健全な体に健全な精神が宿る」といいます。少子化の現状も考え、小学生、中学生の活動を地域全体で支える環境、体制を整備する。
近隣の市に比べると子どもたちの活動できる場がかなり少ない。長期休みや体育館が空いている時には使用させてほしい。冷暖房についてもかなり遅れをとっている。
中学の部活動の指導者の充実
中学生の部活動の低迷が著しいので 外部指導者含めた活動の理解や協力をもっと前面出して欲しいです。特に野球はかなり寂しい状況だと思います！他地域に比べても大会の試合レベルが低いです！

Ⅲ 調査対象間の比較

問 学校の先生について、どう思いますか。

「授業がわかりやすい」、「気軽に話ができる」など、「忙しそうである」を除き、すべての項目について、保護者調査に比べ、児童生徒調査において、「そう思う」の割合が高くなっており、その乖離が大きい状況です。しかし、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた「そう思う」の割合で見ると、すべての項目について、保護者調査、児童生徒調査ともに8割を超えています。

問 学校の授業をどのくらい理解していると思いますか。

児童生徒調査では、「ほとんど全部」の割合が32.4%と最も高くなっている一方で、保護者調査では、「ほとんど全部」の割合が17.3%、教職員調査では、「ほとんど全員」の割合が4.3%と低くなっています。保護者調査、教育職員調査ともに、「7～8割くらい」の割合が最も高くなっています。

問 各教科の学習活動以外に、今後特に重点的に取り組むべきものは何だと思いますか。

保護者調査、教職員調査とも、「コミュニケーション能力の育成」の割合が最も高く7割を超えています。保護者調査については、次いで「体験学習の充実」、「安全に関する指導」の割合が高くなっており、教職員調査では、次いで「情報教育やICT活用能力向上に向けた指導」、「体力向上に関する指導」の割合が高く傾向に違いがみられます。

問 どうしたらいじめを減らしたり、解決したりできると思いますか。

保護者調査では、「学校全体として、日頃から児童生徒の様子を注意深く観察する」の割合が最も高く5割を超えています。保護者調査については、次いで「保護者が自分の子に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」の割合が高くなっており、教職員調査では、次いで「教職員が児童生徒に対して、いじめをしてはいけないことをしっかりと教える」の割合が高く、それぞれ自らの立場が中心となっていくことに対応していく意思がみられます。

問 将来どのような人になってもらいたいと思いますか。

保護者調査では、「他人の立場を理解し、尊重できる人」の割合が63.4%と最も高く、次いで「健康で丈夫な人」の割合が58.3%、「ものごとの善悪を判断できる人」の割合が53.4%となっています。

また、教職員調査、一般市民調査ともに、「自分で考え、主体的に行動できる人」の割合が7割弱で最も高く、次いで「思いやりがあり、優しい人」、「多様な価値観（いろいろな考え方）を認めることができる人」の割合が高く、同様の傾向となっています。

関係団体調査では、「他人の立場を理解し、尊重できる人」の割合が最も高く、次いで「ものごとの善悪を判断できる人」、「礼儀正しく、年長者を大切に人」、「社会や他人の役に立つ人」の割合と続き、周りとの関係性を重要視していることがみられます。

問 狭山市では、子どもたちのより良い教育環境を目指して、適正な学校規模を小学校は1学年あたり2～4学級の12学級から24学級、中学校は1学年あたり4～6学級の12学級から18学級としています。学校の再編などを行う場合、学級数や定員数はどのくらいが適当だと思いますか。

○小学校1学年あたりの学級数・理想的な定員数

小学校1学年あたりの学級数について、保護者調査、一般市民調査、教職員調査ともに、「2～4学級」の割合が最も高く、保護者調査では90.8%、一般市民調査では77.9%、教職員調査では91.4%となっています。

小学校1学級あたりの理想的な定員数について、保護者調査、一般市民調査、教職員調査ともに、「21～30人」の割合が最も高く、保護者調査では73.0%、一般市民調査では58.9%、教職員調査では60.4%となっています。

○中学校1学年あたりの学級数・理想的な定員数

中学校1学年あたりの学級数について、保護者調査、一般市民調査、教職員調査ともに、「4～6学級」の割合が最も高く、保護者調査では64.4%、一般市民調査では59.1%、教職員調査では69.4%、となっています。

中学校1学級あたりの理想的な定員数について、保護者調査、一般市民調査、教職員調査ともに、「21～30人」の割合が最も高く、保護者調査では68.4%、一般市民調査では62.4%、教職員調査では73%となっています。

問 国においては、小学校までの通学時間（距離）の目安をおおむね1時間（4キロメートル）以内、中学校までの通学時間（距離）の目安をおおむね1時間（6キロメートル）以内としています。どの程度の時間が通学可能な範囲と考えますか。

小学生の保護者調査では、「30分以内」の割合が60.1%と最も高く、次いで「15分以内」の割合が25.7%、「45分以内」の割合が11.2%となっています。

中学生の保護者調査では、同様に「30分以内」の割合が57.8%と最も高くなっているが、次いで「45分以内」の割合が22.4%、「15分以内」の割合が12.7%となっています。

教職員調査では、『小学生』で「15分以内」「30分以内」の割合が、『中学生』で「45分以内」「60分以内」の割合が高く、若干、中学生の通学可能な範囲において、保護者調査と教職員調査に開きがみられます。

問4 あなたの通学時間はどのくらいですか。

小学生の児童生徒調査、中学生の児童生徒調査ともに、「15分以内」の割合が最も高く5割を超え最も高く、次いで「30分以内」、「45分以内」と続き同様の傾向です。

前設問の保護者と教職員調査の通学可能な範囲内であるものの、現状は、小学生と中学生の通学範囲には違いがみられませんでした。

問 学校の規模と配置の適正化を進めるうえで、配慮すべきだと思うことは何ですか。

保護者調査、一般市民調査ともに、「児童生徒の通学（距離・方法・時間）とその安全」の割合が最も高く7割を超え、次いで「適正な学級数の確保」、「校舎の施設・整備」となっています。

問 周辺の社会を見まわして、家庭の教育力、地域の教育力が機能していると思いますか。

○家庭の教育力

保護者調査、一般市民調査、関係団体調査ともに、「機能している」「ある程度は機能している」を合わせた「機能している」の割合が高くなっているものの、保護者調査では80.4%、一般市民調査では72.1%、関係団体調査では68.0%と割合が低くなっています。

○地域の教育力

保護者調査、一般市民調査、関係団体調査ともに、「機能している」「ある程度は機能している」を合わせた「機能している」の割合が高くなっているものの、保護者調査では57.8%、一般市民調査では51.5%、関係団体調査では56%となっており、家庭の教育力に対して、全体的に低いものの、それぞれの調査対象による傾向の違いは大きくみられません。

問 保護者や地域の方が主に担うべきだと考えることは何ですか。

○保護者

保護者調査、一般市民調査、関係団体調査ともに、「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が最も高く8割前後から約9割となっています。また、次いで「他人への思いやりの心や生命の大切さについて教えること」の割合について、すべて7割を超えて高くなっています。

○地域の方

保護者調査、関係者団体調査ともに、「体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること」の割合が最も高く4割から5割を超えており、次いで「郷土の歴史や文化について伝えること」の割合が4割前後となっています。

一方で、一般市民調査では、「礼儀やルール、マナーについて教えること」の割合が最も高く、次いで「郷土の歴史と文化について伝えること」、「体験活動やボランティア活動と一緒に参加すること」のつづき、傾向の違いがみられます。

問 「地域の教育力」を高めるためにどのような取り組みが必要だと思いますか。

保護者調査、一般市民調査ともに、「治安を維持し、子供たちが安心して遊べるようにする」の割合が最も高く、次いで「子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができたりするようにする」、「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」の割合が高く、同様の傾向となっています。

一方で、教職員調査、関係団体調査ともに、「地域の大人が、地域の子供に関心を持ち、ほめたり、注意したりする」の割合が最も高く、次いで「子供同士が、地域で遊んだり、スポーツ活動などができるようにしたりする」の割合が高く、同様の傾向となっています。

問 この１年間に、どのくらいの頻度でスポーツを行っていますか。ただし、学校の授業や職業として行ったものは除きます。

一般市民調査では、「まったくしなかった」の割合が３２．２％と最も高く、次いで「週に１～２日程度」の割合が２０．１％、「月に１～３日程度」の割合が１５．１％となっています。

児童生徒調査では、「週に３日以上」の割合が４５．７％と最も高く、次いで「週に１～２日程度」の割合が２９．３％、「月に１～３日程度」の割合が９．３％となっています。

狭山市の教育・生涯学習・スポーツに関する
アンケート調査

発行年日：令和7年3月

発 行：狭山市教育委員会
生涯学習部 教育総務課

〒350-1380

埼玉県狭山市入間川1丁目23番5号

電 話：04-2946-8472